SP-1001-1-1

授業科目名	**成蹊スポーツ基礎演習**				
担当教員名	中野（学部長）・コース教員				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、びわこ成蹊スポーツ大学の教育理念や目的、方針を理解し、びわこ成蹊スポーツ大学の学生としての自覚や誇りを持つこと（第１部）、そして６つのコースが取り組む教育研究にふれることを通して、スポーツ学の多様性と多元性を理解すること（第２部）をめざす。また、数理・データサイエンス・AIとスポーツとのかかわりについても学ぶ（第３部）。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP11.忠恕の心	びわこ成蹊スポーツ大学の教育理念、目的、方針	建学の精神「桃李不言下自成蹊」と行動指針「忠恕」の理念を基盤とした、本学の教育目的、方針を説明できる。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	びわこ成蹊スポーツ大学の学生としての自覚と誇り	大学での学びや生活上のルールを理解し、びわこ成蹊スポーツ大学の学生として、規律ある行動をとることができる。
3 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツ学の捉え方	本学の6つのコースが取り組む教育研究におけるスポーツの捉え方について説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業ごとの課題レポート 100%	：	授業ごとのレポート課題について、内容の妥当性と理論構成について5点満点で評価する。70点満点を100点満点に換算したものを得点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

びわこ成蹊スポーツ大学（編）『スポーツ学のすすめ』大修館書店、2008年。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと成蹊スポーツ基礎演習の学び方（学部長）** 成蹊スポーツ基礎演習で学習する全講義の概要と、受講上の留意点を確認する。	成蹊スポーツ基礎演習で学習する講義の概要と、受講上の留意点について、資料を精読する。	4時間

第2回	**びわこ成蹊スポーツ大学の建学の精神、行動指針、LCD教育プログラムとスポーツ（学長）** 大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」と行動指針「忠恕」の意味、LCD教育プログラムについて学ぶ。また、びわこ成蹊スポーツ大学がめざすスポーツの専門性と「人間力」の育成についての理解を深める。	建学の精神と行動指針の意味を復習し、びわこ成蹊スポーツ大学生としてめざす自分像と現在の自分について分析し、レポートにまとめる。	4時間
第3回	**スポーツと学業（学習支援室、学生相談室、夢翔会）** 「学習のつまずぎ」に関する知識を得るとともに、スポーツと学業を両立させるための本学の支援体制について知る。	「学習のつまずぎ」と本学の支援体制について復習し、学業面でとるべき行動について、レポートにまとめる。	4時間
第4回	**スポーツと健康（保健センター）** 本学が目標として掲げる『タバコの無いキャンパス』の意味を理解するとともに、薬物やアルコールの摂取による精神的・身体的影響の観点からスポーツと健康について学ぶ。	たばこ、薬物、アルコールの精神的・身体的影響について復習し、健康面でとるべき行動について、レポートにまとめる。	4時間
第5回	**スポーツと地域貢献（スポーツセンター）** スポーツを通じた地域貢献について、スポーツ開発支援センターが取り組む「びわスポキッズプログラム」や、公開講座として行っているスポーツプログラムについて学ぶ。	スポーツを通じた地域貢献の実践事例を復習し、地域貢献の観点でめざす行動について、レポートにまとめる。	4時間
第6回	**スポーツ学（学校スポーツ教育コース）** 学校教育現場の観点からスポーツ学を知る。	学校教育現場の観点からみたスポーツ学について、レポートにまとめる。	4時間
第7回	**スポーツ学（スポーツビジネスコース）** スポーツビジネスの観点からスポーツ学を知る。	ビジネスの観点からみたスポーツ学について、レポートにまとめる。	4時間
第8回	**スポーツ学（健康・トレーニング科学コース）** 健康・医療とトレーニングの観点からスポーツ学を知る。	健康・医療とトレーニングの観点からみたスポーツ学について、レポートにまとめる。	4時間
第9回	**スポーツ学（コーチングコース）①：理論と実践** コーチング（理論と実践）の観点からスポーツ学を知る。	コーチングコース（理論と実践）観点からみたスポーツ学について、レポートにまとめる。	4時間
第10回	**スポーツ学（コーチングコース）②：分析** コーチング（分析）の観点からスポーツ学を知る。	コーチングコース（分析）観点からみたスポーツ学について、レポートにまとめる。	4時間
第11回	**スポーツ学（野外・レクリエーションスポーツコース）** 野外スポーツの観点からスポーツ学を知る。	野外スポーツの観点からみたスポーツ学について、レポートにまとめる。	4時間
第12回	**スポーツ学（生涯スポーツコース）** 生涯スポーツの観点からスポーツ学を知る。	生涯スポーツの観点からみたスポーツ学について、レポートにまとめる。	4時間
第13回	**スポーツと数理・データサイエンス・AI ①** 数理・データサイエンス・AIに関して現在社会で起きている変化と、スポーツとのかかわりについて最新の動向について知る。	数理・データサイエンス・AIに関する社会変化とスポーツとの関係について、レポートにまとめる。	4時間
第14回	**スポーツと数理・データサイエンス・AI ②** スポーツにおけるデータ・AIの活用について知る。また、実際に個人でAIを利用することで活用の実際を体験する。	スポーツにおけるデータ・AIの活用について、レポートにまとめる。	4時間

SP-1002-1-1

授業科目名	フレッシュマンキャンプ演習（フレッシュマンキャンプ）				
担当教員名	学部長・井口・クラス担任				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本学に入学した学生全員が必修で受講する授業で、初年次教育として実施する。クラス集団を中心に自然環境の中（野性の森など）を活用し、大学生活の基礎となる人間関係を構築すること、自分とは異なる多様な立場・多元的な価値観に触れること、大学での学びに必要な情報を収集することを目的とする。今後の学生生活において、びわこ成蹊スポーツ大学の学生としてふさわしい態度や行動、常識（スチューデントスキル、ソーシャルスキル）を身につけて行くことにつなげる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	自己への挑戦、仲間との協力を目的としたクラス活動の実践	非日常生活の中で、自己理解や他者との関わりについて新たな価値を創造することができるようになる。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	集団生活を基盤とした、仲間との協力課題の実践	１人ではできない課題を通して仲間への思いやりの気持ちや感謝の気持ちが持てるようになる。
3 ．DP11.忠恕の心	全担任が積極的に関与する中での、クラス活動やチームビルディングを通した本学の建学の精神や忠恕の心の理解	びわこ成蹊スポーツ大学の学生としての自覚や誇りを持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	100%	： クラス別プログラムでの学生生活に係る事項に関するレポートを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

大学に入学して最初の授業を、新入生全員が全担任教員と共に実施します。比良の豊かな自然の中で一緒に新たな学生生活をスタートしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**大学での学び** ＜2022年度は感染対策から全クラスを2グループに分けて＞ クラス担任教員の紹介 授業のオリエンテーション 大学での学びの意義や大学での4年間の学び方について学修する	自分を中心としたこれからの人間関係を確認する	1時間
第2回	**大学での学びと大学での生活** ＜2022年度は感染対策から全クラスを2グループに分けて＞ 大学での学びについて教務委員長から4年間のカリキュラムや学びの仕組みについて知る。学生委員長から大学での生活についてガイダンスを受ける。LCD教育の中で「C：コンペテンシー」「D：ディグニティー」について知る。	大学での学びや大学での生活について確認する	1時間
第3回	**大学での学び（ICT導入教育）** ＜2022年度は感染対策から8クラス合同で＞ 大学での学びや生活全般でICTが活用されるのに伴い、それに必要な情報について学修し、身につける	大学で学ぶ意義や方法について確認する	4時間
第4回	**大学での学びの基礎** ＜クラス毎に＞ 大学での学びの基礎として非言語系、言語系のプレイスメントテストを受ける	大学入学までの非言語系、言語系リテラシー能力について確認する	4時間
第5回	**大学での学び（ICT教育の基礎）①** ＜2022年度は感染対策から8クラス合同で＞ 学生のPC必携に基づき、大学教育で活用されるICT教育に必要となる理解を深める	大学での学びについて再度確認する	4時間
第６回	**大学での学び（ICT教育の基礎）②** ＜クラスを中心に＞ 学生のPC必携に基づき、大学教育で活用されるICT教育に必要となる具体的な情報について理解を深め、身につける	大学で活用されるICT教育情報について再度確認する。	4時間
第7回	**クラス別プログラム** 第7回・第8回 ＜2クラス合同で＞ 大学生活の基礎となるクラスでの人間関係を構築するともに、大学での目標設定を分かち合うことで自分とは異なる多様な立場・多元的な価値観に触れる。 仲間を知る、教員を知る、自分を知ってもらう	クラス別プログラムで確認した各自の目標を確認する	4時間
第9回	**クラス別仲間づくりプログラム** 第9回～第12回 ＜クラス毎に＞ クラス担任のオリジナルプログラム(アクティブラーニング活動)クラスでの人間関係を深める。	仲間づくりウプログラムでの活動を各自振り返る	4時間
第13回	**まとめ** 第13回・第14回 大学での学びや生活について確認する。 個人面談を含め、自己評価、目標設定について確認する。	目標設定を確認する	4時間

SP-1003-1-1

授業科目名	スタディスキルⅠ				
担当教員名	奥村・城島・井口				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業の目的は、文章読解とレポート作成の基本事項を修得することである。
さらに、各種メディア（新聞・テレビ・インターネット・雑誌等）のニュース・情報との接し方、読み取り方についても学修する。
そのために、教科書（「はじめてのニュース・リテラシー」）をワークシートに基づいて読み進める。毎回の授業で、一章毎にワークシートに沿って読解し、一章毎の要約文を作成する。
授業の終盤では、各人の関心や課題意識に沿ってテーマを設定し、そのテーマの関連情報等を収集・分析した上で構想をまとめ、レポートを作成する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	文章読解力	評論調の文章を読み、論理的に理解することができる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	文献資料の内容整理	文献資料の要旨を把握し、分かり易く要約することができる。
3 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	情報収集	課題テーマについて、各種メディア、データベース等から適切な情報を収集できる。
4 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	説得力ある主張の提示	課題テーマについて、レポートを通して、論理的で説得力ある主張を提示することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

やむを得ず欠席した場合は、翌週までに欠席した週の課題に取り組んでおくこと。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りレポート	24%	： 各講義で学んだこと、疑問に思ったこと等が適切に記述できているかという観点で評価する。（3点×8回）
要約レポート	50%	： 教科書一章毎の要約。要旨を把握し、論理的に分かり易く記述できているかという観点で評価する。（10点×5回）
課題レポート①	6%	： 授業序盤で提出。自分の考えを整理し、論理的に分かり易く記述できているかという観点で評価する。（6点×1回）
課題レポート②	20%	： 授業終盤で提出。必要な情報を収集・分析し、説得力のある主張ができいるかという観点で評価する。（20点×1回）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
白戸圭一	はじめてのニュース・リテラシー	筑摩書房	2021年

参考文献等

適宜、資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**【ガイダンス】シラバスの理解・課題レポート作成** (1)本科目の目的 (2)授業の構成と進め方 (3)評価方法 (4)課題レポート①作成	復習：課題レポート①を作成する。	4時間
第2回	**【読解】はじめに・第１章の読解** (1)前回課題レポート①の振り返り。 (2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。	予習：教科書のはじめに・第１章を熟読しておく。	4時間
第3回	**【読解】はじめに・第１章の読解・要約レポート作成** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。 (4)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。 (5)要約レポートの作成。	復習：教科書のはじめに・第１章の要約レポートを作成する。	4時間
第4回	**【読解】第２章の読解** (1)前回要約レポートの振り返り。 (2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。	予習：教科書の第２章を熟読しておく。	4時間
第5回	**【読解】第２章の読解・要約レポート作成** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。 (4)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。 (5)要約レポートの作成。	復習：教科書の第２章の要約レポートを作成する。	4時間
第6回	**【読解】第３章の読解** (1)前回要約レポートの振り返り。 (2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。	予習：教科書の第３章を熟読しておく。	4時間
第7回	**【読解】第３章の読解・要約レポート作成** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。 (4)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。 (5)要約レポートの作成。	復習：教科書の第３章の要約レポートを作成する。	4時間
第8回	**【読解】第４章の読解** (1)前回要約レポートの振り返り。 (2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。	予習：教科書の第４章を熟読しておく。	4時間
第9回	**【読解】第４章の読解・要約レポート** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。 (4)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。 (5)要約レポートの作成。	復習：教科書の第４章の要約レポートを作成する。	4時間
第10回	**【読解】第５章・おわりにの読解** (1)前回要約レポートの振り返り。 (2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。	予習：教科書の第５章・おわりにを熟読しておく。	4時間
第11回	**【読解】第５章・おわりにの読解・要約レポート** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。 (4)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。 (5)要約レポートの作成。	復習：教科書の第５章・おわりにの要約レポートを作成する。	4時間

第12回	**【レポート作成】情報収集** (1)前回要約レポートの振り返り。 (2)情報収集の手法（図書館・各種データベース・インターネット等）の解説と実践 (3)レポート作成のルールと留意事項	予習：自分の興味・関心に基づいて課題レポート②のテーマを考えておく。	4時間
第13回	**【レポート作成】テーマ設定** (1)レポート作成のルールと留意事項 (2)課題レポート②のテーマを各自で設定する。 (3)課題レポート②の構成を検討する。（個人ワーク） (4)レポート作成に必要は情報を図書館・各種データベース・インターネット等で収集する。	復習：テーマに沿った情報を収集する。	4時間
第14回	**【レポート作成】構成の検討・完成** (1)課題レポート②の構成を検討する。（グループワーク） (2)課題レポート②の作成～完成	復習：課題レポート②を作成する。	4時間

SP-1004-1-1

授業科目名	スタディスキルⅡ				
担当教員名	奥村・城島・井口				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目の目的は、スポーツに関する社会課題をテーマとして、自分の考えを発表資料にまとめ、プレゼンテーション（大勢の聴衆に向けた意見発表）を行うためのスキルを修得することである。
さらに、他の受講生のプレゼンテーションに触れることで、自分とは異なる多様な考え方や価値観があることを理解する。
そのために、全員がスポーツに関する社会課題をテーマとして、発表資料を用いたプレゼンテーションを行う。
以下の流れで授業を進める。
①スポーツに関する社会課題の考察（教科書の読解）　②発表テーマの選定　③発表テーマ関する情報収集と分析　④発表プロットの考察　⑤発表資料作成　⑥プレゼンテーション実施

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	スポーツに関する社会課題の理解	スポーツに関する社会課題について情報収集を行い、独自の意見を主張することができる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	情報収集	特定のテーマについて、各種メディア、データベース等から適切な情報を収集できる。
3 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	効果的なプレゼンテーション資料の作成	自分の主張を効果的に伝えられるプレゼンテーション資料を作成できる。パワーポイントの諸機能を使いこなせる。
4 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	説得力あるプレゼンテーションの実施	自分の主張を説得力をもって聴衆に伝えられるスキルを修得する。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りレポート	27%	： 各講義で学んだこと、疑問に思ったこと等が適切に記述できてるかという観点で評価する。（3点×9回）
要約レポート	20%	： 授業前半で用いる教科書１冊分の要約。要旨を把握し、論理的に分かり易く記述できているかという観点で評価する。（20点）
発表テーマ・プロット	13%	： 発表テーマの独自性、そのテーマに対する意見の独自性を評価する。プロットについては、意見を効果的に伝えられるプロットであるかを評価する。（発表テーマ3点＋プロット10点）
発表資料	20%	： 自分の主張を効果的に伝えられるプレゼンテーション資料を作成できているかという観点で評価する。（20点）
プレゼンテーション	20%	： 自分の主張を説得力をもって聴衆に伝えられているかという観点で評価する。（20点）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
陣野俊史	サッカーと人種差別	文藝春秋	2014年

参考文献等

適宜、資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

(1)授業には、全学生がPCを持参すること。
(2)本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**【ガイダンス】シラバスの理解・スポーツに関する社会課題** (1)本科目の目的 (2)授業の構成と進め方 (3)評価方法 (4)スポーツに関する社会課題	予習：スポーツに関する社会課題について調べておく。	4時間
第2回	**【読解】はじめに・第１章の読解** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)記載されている事例について、学生相互の意見交換を行う。	予習：教科書の当該箇所を熟読しておく。	4時間
第3回	**【読解】第１章・第２章の読解** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)記載されている事例について、学生相互の意見交換を行う。	予習：教科書の当該箇所を熟読しておく。	4時間
第4回	**【読解】第２章・第３章の読解** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)記載されている事例について、学生相互の意見交換を行う。	予習：教科書の当該箇所を熟読しておく。	4時間
第5回	**【読解】第３章・第４章の読解** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)記載されている事例について、学生相互の意見交換を行う。	予習：教科書の当該箇所を熟読しておく。	4時間
第6回	**【読解】第４章・おわりにの読解** (1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。 (2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。 (3)記載されている事例について、学生相互の意見交換を行う。 (4)教科書１冊分の要約レポートを作成する。	課題：要約レポートを作成する。	4時間
第7回	**【資料作成】テーマ選定・プロット作成** (1)スポーツに関する課題の中から、発表テーマを選定する。 (2)テーマに対する自分の意見をまとめる。 (3)発表のプロットを作成する。	課題：テーマとプロットを提出する。	4時間
第8回	**【資料作成】効果的な資料とプレゼンテーション** (1)効果的な発表資料の作成手法について解説する。 (2)パワーポイントの各種機能と使用方法を修得する。 (3)効果的なプレゼンテーションの技法について解説する。 (4)発表資料を作成する。	予習：テーマに関する情報収集を行う。	4時間
第9回	**【資料作成】資料とプロットの改善** (1)発表資料を作成する。 (2)作成途上の資料について、学生相互の意見交換を行う。 (3)意見交換を基に、プロット・資料を改善する。	復習：意見交換を基に、プロット、資料を改善する。	4時間
第10回	**【資料作成】資料の完成** (1)発表資料を作成する。 (2)作成途上の資料について、学生相互の意見交換を行う。 (3)意見交換を基に、プロット・資料を改善する。 (4)発表資料を完成させる。	課題：発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第11回	**【プレゼンテーション】教室での実践** (1)パワーポイント資料を用いながら、教室（約50名）でプレゼンテーションを実施する。 (2)評価シートを基に学生間で評価し合い、フィードバックを行う。 (3)各人の発表に対し、講師が講評を加える。	予習：発表準備を行う。復習：フィードバックを基にプレゼンテーションを改善する。	4時間
第12回	**【プレゼンテーション】教室での実践** (1)パワーポイント資料を用いながら、教室（約50名）でプレゼンテーションを実施する。 (2)評価シートを基に学生間で評価し合い、フィードバックを行う。 (3)各人の発表に対し、講師が講評を加える。	予習：発表準備を行う。復習：フィードバックを基にプレゼンテーションを改善する。	4時間
第13回	**【プレゼンテーション】教室での実践** (1)パワーポイント資料を用いながら、教室（約50名）でプレゼンテーションを実施する。 (2)評価シートを基に学生間で評価し合い、フィードバックを行う。 (3)各人の発表に対し、講師が講評を加える。	予習：発表準備を行う。復習：フィードバックを基にプレゼンテーションを改善する。	4時間

第14回	**【プレゼンテーション】教室での実践・全体振り返り** (1)パワーポイント資料を用いながら、教室（約50名）でプレゼンテーションを実施する。 (2)評価シートを基に学生間で評価し合い、フィードバックを行う。 (3)各人の発表に対し、講師が講評を加える。 (4)授業全体の振り返りを行う。	予習：発表準備を行う。復習：フィードバックを基にプレゼンテーションを改善する。	4時間

SP-1005-1-1

授業科目名	**情報処理論（情報処理論）**				
担当教員名	北中　佑樹，松永　順子				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では，情報に接する上で基本となる知識や技術を身に着けることで，身の回りの情報をコンピュータにより処理し，適切に表現することで大学での学びに寄与することを目指す.
具体的には，文書作成ソフトによる文書表現の方法と表計算ソフトによるデータの整理と加工の方法を，演習を通して身につける.
また，情報を扱う上で必要なセキュリティや知的財産権についての知識を学ぶことで，安全にコンピュータを使用できるようになる.

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	情報を扱う上で知っておくべき，コンピュータについての知識、知的財産権やネットにおけるマナー	情報倫理の扱い方を習得し，コンピュータを安全に使うことができる.
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	文書作成ソフトを用いた演習による，文書作成ソフトの基本的な操作と文書表現の方法	文書作成ソフトを使用し，図や表を挿入した適切な書式の文書を作成できる.
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	表計算ソフトを用いた演習による，表計算ソフトの基本的な操作，参照計算，データの整理と加工方法	表計算ソフトを使用し，データを整理・加工することで，表やグラフといった形式でデータを適切に表現できる.

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
確認問題	70%	： 第1回から第14回の授業内容の理解度を各5点満点で評価する. 問題は各授業終了後に出題し，次回授業までにオンラインで提出するものとする.
期末レポート	30%	： 記述内容の妥当性と，文書処理の能力について，7段階で評価する.

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
富士通エフ・オー・エム	・ 情報リテラシー 入門編 Windows 10/Office 2019対応	・ FOM出版	・ 2020年

参考文献等

特になし．適宜資料を配布する.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる.
授業で学んだことは，授業外で繰り返し復習し確実に習得すること.
本科目では，各自のPCを使用するので，忘れず持参すること.（再履修は除く）
PCの操作が苦手な者は，授業外で日常的にコンピュータを使用し，慣れるようにすること.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は，メールにて受け付けます.
連絡先は第1回のガイダンス時に説明し，本授業のTeams内に掲載します.

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**授業ガイダンス・Teamsの使用方法** 授業の目標，学習内容，評価方法，受講に際しての諸注意を説明する．各自のPCで，Teamsの使用方法について学ぶ．	PCを使用し，Teams内の授業ページを確認する．PCを使用し，Teams内の確認問題に取り組む．	4時間
第2回	**ファイル操作・Teamsを中心とした学習環境・インターネットセキュリティ** PC内部とクラウドストレージ上でのファイルの扱い方について学ぶ．Teamsを始めとするWeb上のアプリケーションの使用方法やメールの送信方法について学ぶ．インターネットセキュリティについて学び，安全にインターネットを使用する方法を習得する．	フォルダーを使用して授業で使用したファイルを整理しておく．Teamsを適切に操作し，インターネットセキュリティについての確認問題に取り組む．	4時間
第3回	**文字の入力・Wordの基本操作** 効率的な文字の入力・編集方法について学ぶ．Wordを使用した文字の入力や簡単な書式変更など基本的な操作について学ぶ．	文字の入力方法について復習をしておく．Wordの様々な書式についての確認問題に取り組む．	4時間
第4回	**Wordを使用した文書作成** Wordを使用した文書作成の方法を学ぶ．文字に適切な書式を適用し，ビジネス文書を作成する演習課題に取り組む．文書をPDF形式で保存する方法について学ぶ．	文字や行に対する書式設定の方法について復習しておく．Wordでの文書作成についての確認問題に取り組む．	4時間
第5回	**文書の書式設定** インデントを活用し，規則的で読みやすい文書を作成する方法について学ぶ．ヘッダーとフッター領域の編集方法について学ぶ．	インデントやヘッダー，フッターの設定方法について復習しておく．インデント，ヘッダー，フッターを含んだ文書作成についての確認問題に取り組む．	4時間
第6回	**表の挿入** Wordを使用して，適切に表を作成する方法について学ぶ．	表の作成方法について復習しておく．Wordの表作成についての確認問題に取り組む．	4時間
第7回	**図の挿入・Word総合演習** Word文書への図の適切な挿入方法について学ぶ．様々な書式・表・図が含まれる総合的な演習を行う．	演習課題を完成させ，苦手だと感じた要素について復習をしておくこと．Wordを使用した文書作成についての確認問題に取り組む．Excelを実行し，簡単に操作を確認しておくこと．	4時間
第8回	**Excelの基本操作** Excelの基本的な操作について学び，セルを対象とした操作を習得する．罫線を引き，Excelで表を作成する方法について学ぶ．	セルに対する書式変更やオートフィルなどのExcelの基本的な操作について復習しておく．Excelの基本操作についての確認問題に取り組む．	4時間
第9回	**Excelでの計算方法** Excelを使用し計算を行う方法を学ぶ．数値の代わりセル座標を使用する参照計算について学ぶ．	Excelでの計算式の書き方について復習しておく．Excelの計算についての確認問題に取り組む．	4時間
第10回	**相対参照と絶対参照** 参照を使用した計算の方法を学ぶ．相対参照と絶対参照の違いを理解し，適切に使用できるようになる．	相対参照と絶対参照の使い方を復習しておく．相対参照と絶対参照を中心とした確認問題に取り組む．	4時間
第11回	**Excelの関数・著作権と引用** 関数を使用し，計算を行う．基本的な関数の使用方法を習得し，関数を使用する演習問題を完成させる．著作権と引用の正しい方法について学ぶ．	演習問題を完成させ，関数の使用方法を復習しておくこと．授業で扱う基本的な関数を覚えておくこと．Excelの関数と引用の実践についての確認問題に取り組む．	4時間
第12回	**グラフの作成・レポート課題説明** Excelを使用しグラフを作成する．また，グラフを構成する各部位の設定変更の方法について学び，グラフの作成についての演習問題を完成させる．レポート課題の内容や評価のポイントについて理解する．	演習問題を完成させ，グラフの作成方法を復習しておくこと．グラフの各部位と設定変更の方法を覚えておくこと．Excelのグラフについての確認問題に取り組む．	4時間
第13回	**並べ替えとフィルター** 表を適切に並べかえ，必要なデータをフィルターする方法について学び，並べ替えとフィルターについての演習問題を完成させる．	並べ替えとフィルターの操作を復習しておくこと．表から適切な情報をフィルターする方法について復習しておくこと．Excelの並べ替えとフィルターについての確認問題に取り組む．	4時間
第14回	**Excel総合演習** これまで学んできたExcelの各要素を確認する演習を行う．	これまで学んだ内容から，苦手な問題があれば再度取り組み，習得をしておくこと．	4時間

SP-1006-2-2

授業科目名	コンピューターリテラシーⅠ（コンピューターリテラシーⅠ）				
担当教員名	田中　優介				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

授業概要：表計算ソフトおよびワープロソフトは、あらゆる分野で利用されている。この科目ではそれらの代表的なソフトの一つであるMicrosoft-ExcelとMicrosoft-Wordを基礎から学習し、文章処理、表の作成と編集、データの統計処理、データベース機能の利用、各種の統計データの活用等を習熟する。
　あらゆるデータをMicrosoft-ExcelとMicrosoft-Wordを用いて処理し、分析し、レポートとしてまとめることにより、Microsoft-ExcelとMicrosoft-Wordを使いこなせるようになることを目標とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	コンピューターに関する基礎知識	収集したデータを分析・理解し、資料としてまとめることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
コンピュータ機器を扱うため講義室内での飲食は厳禁とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題提出	14%	： 第1回～第14回の講義内で行う課題等を提出することにより、各回1点×14回とする。
レポート	10%	： レポートは5点×2回とする。評価基準は指定した提出様式に則してレポート作成していれば5点。則していなければ、そこから減点とする。
小テスト	16%	： 与えられた問題に対しWordとExcelを用い、適切な機能を用いて処理を行えるのかを確認する。
試験	60%	： 与えられた問題に対しWordとExcelを用い、適切な機能を用いて処理を行えるのかを確認する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
基礎的な操作や機能の復習から入り、応用、実践と進んでいきます。今後の大学生活や社会生活においても必要な基礎知識となりますので、自信有無にかかわらず積極的に学んでいきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　講義後に教室にて対応します。

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**文章処理演習(1)　文章作成機能の基礎** 講義の概要説明と、Wordへの入力・変換・レイアウトを整えた文章作成等の基礎機能の確認。	ワード入力について、実際に操作し、復習を行う。	4時間
第2回	**文章処理演習(2)　グラフィック機能** 画像や図形などの挿入、ワードアートの利用による、より見やすい文章作成等のグラフィック機能の確認。	グラフィック機能について、実際に操作し、復習を行う。	4時間
第3回	**文章処理演習(2)　文章のレイアウト** 段組み、グラフ・表・数式の挿入を理解し、様々なレポート提出様式に対応した文章作成等のレイアウトを整えたレポートの作成。	文章作成について実際に操作し、復習を行う。	4時間
第4回	**表計算演習(1)　表計算機能の基礎** Excelへの入力、表の作成、簡単な表計算等の基礎機能の確認。	表作成について実際に操作し、復習を行う。	4時間
第5回	**表計算演習(2)　SUM関数等** 関数の活用（1） SUM関数、AVERAGE関数、STDEV関数などを理解。	関数計算を実際に行い、復習を行う。	4時間
第6回	**表計算演習(3)　IF関数等** 関数の活用（2） RANK関数、COUNT関数などを理解。	関数計算を実際に行い、復習を行う。	4時間
第7回	**表計算演習(4)　ネスト等** 関数の活用（3） COUNT関数、ネストなどを理解。	関数計算を実際に行い、復習を行う。	4時間
第8回	**表計算演習(5)　グラフの基礎** グラフの活用（1） 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散布図の作成。	グラフ作成を実際に行い、復習を行う。	4時間
第9回	**表計算演習(6)　ヒストグラム** グラフの活用（3） ヒストグラムの作成。	ヒストグラム作成を実際に行い、復習を行う。	4時間
第10回	**グラフの応用　散布図と回帰分析** グラフの活用（2） 散布図の作成、回帰直線と予測	データ予測を実際に行い、復習を行う。	4時間
第11回	**表計算演習(8)　相関係数** 分析ツールを用いて相関係数をもとめる。	相関係数を実査にもとめ、復習を行う。	4時間
第12回	**表計算演習(9) データベース2(統合機能等)** データベースの活用 集計機能、ピボットテーブルなどを理解。	集計機能を実際に操作し、復習を行う。	4時間
第13回	**表計算演習(10) データベース3(データの抽出・ピボットテーブル)** ブックとワークシートの活用 複数ブック間で集計と統合、複数のワークシートの同時編集。	ピボットテーブルを実際に操作し、復習を行う。	4時間
第14回	**プレゼンテーション演習 PowerPointの基礎確認** PowerPoint機能の基本操作 スライド作成からスライドショー開始までの基本操作を理解。	実際にスライドを作成し、復習を行う。	4時間

SP-1007-2-2

授業科目名	コンピューターリテラシーⅡ（コンピューターリテラシーⅡ）				
担当教員名	木村　聡				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学での学習・研究は、文書作成と同様に、表計算ソフトウェア他を使用しての、特性値の算出や各種統計的処理といった、基礎的なデータ処理を要求することがある。本講座では、実務で重宝される機能を多く持ち、実際に多方面で利用されている表計算ソフトウェアの、所謂「関数」を中心とした利用方法を考える。
また、充分とはとても言えないが、卒業論文作成を考慮して、各種の統計処理用関数や分析ツールの利用法についても扱う。なお、各統計手法の詳細については、概要のみにとどめる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	表計算ソフトウェアの利用。	関数を駆使した、効率的なスプレッドシートを作成するための知識を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	70%	： 主として、授業で取り扱った関数とその利用法、統計学の手法について問う。
講義時間内で指示する課題	30%	： 課題への取り組みを独自のルーブリックにより評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
飯田慈子、米沢雄介、岡本久仁子	30時間アカデミック　情報活用　Excel2016/2013	実教出版	2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

表計算ソフトウェアは、応用範囲の広い、有用なアプリケーションである。ユーザから見て、いかにもコンピューターを「使っている」と実感できもする。その分、「難しい」という印象を持ちやすいとも言えよう。確かに、「コンピュータの都合」を考慮せねばならないし、初歩的とはいえプログラミングの範疇とも言え、それなりに難しい部分があるのは事実である。しかし、本当に難しいのは、実は「コンピュータと表計算を使って解決しようとする問題」なのであって、表計算やコンピュータを使うことではないことも、珍しくない。本講座が、「解きたい問題を、どうすれば、コンピュータと表計算を使って解けるのか？」を考えるヒントになれば、幸いである。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　問わず

場所：　G-Mail

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**関数とは** 「関数」という言葉の意味、関数の形式、関数の入力方法などについて	関数の入力支援機能や[関数の挿入]ダイアログの使い方を確認	4時間
第2回	**集計と関数**	分散と標準偏差の関数について調べる	4時間

	合計、平均、最大、最小、順位の各関数 データの型とその判定		
第3回	**カウントと条件判断** 条件判断とは何を意味するか カウントする対象を選ぶことを考える	論理和、論理積の関数についても調べる	4時間
第4回	**文字列操作** 文字列の長さ 部分文字列の抽出 文字列の連結 数値から文字列への変換	文字列から数値への変換についても調べる	4時間
第5回	**数値を丸める、シリアル値** ROUND系の関数 日付時刻値の扱いとシリアル値	四捨五入にも種類があることについて調べる	4時間
第6回	**VLOOKUP関数** VLOOKUP関数とその使い方 検索方法の違いと特徴 MATCH関数	INDEX関数についても調べる	4時間
第7回	**その他の関数** SUBTOTAL関数 SUMPRODUCT関数 IFERROR関数 他	Excelでの表やグラフ、段組みの設定について調べる	4時間
第8回	**相関と関数** データの種別 単相関係数 クラメールの連関係数	相関比について調べる	4時間
第9回	**検定と関数 その1** 検定とは 独立性の検定(カイ2乗検定)と関数	統計学での「推定」の意味を調べる	4時間
第10回	**検定と関数 その2** z検定、t検定と関数	正規分布について調べる	4時間
第11回	**多重比較と分散分析** 3群以上での平均値の差の検定 分散分析	ボンフェローニの方法以外の多重比較の方法について調べる	4時間
第12回	**線形単回帰分析** 回帰分析とは 回帰直線を求めるExcelの機能 ・グラフから求める ・関数を使う	重回帰分析の概要を調べる	4時間
第13回	**因子分析** 因子分析とは 共通因子の意味づけ	SPSSでの処理方法を調べる	4時間
第14回	**レポート作成の指標を考える** レポートの書き方を考える ・考察が最重要であることを理解する ・図や表の「お約束」を知っておく	論文の体裁について調べる	4時間

SP-1008-1-1

授業科目名	**英語基礎**				
担当教員名	亀本、堀、寺村				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

基礎的な文法を復習し、発音とリスニングの基礎を学習しながら、リピーティング・オーバーラッピング・シャドウィング・レシテーションなどの練習を行い、自分の言いたいことを簡単な文法で表現できるようになることを目指す。同時に、スポーツに関連する語彙や表現の学習も行う。また、最新のニュース記事やウェブサイト、ICTツールを積極的に使用し、リーディング・ライティングを含めた４技能を高めながら、視野を広げ世界に向けて発信できる力をつける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	英語コミュニケーション能力	自分の言いたいことを基礎的な英文法を使って表現できる
２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	グローバル視点の醸成	視野を広げ、様々なことについて自分の意見を持つ事ができる

学外連携学修

無し

授業方法

・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業内での積極的な取り組みを高く評価します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中に提示する複数の課題 40%	：	授業内へのワークへの積極的参加と提出物の完成度における評価
スピーキング・プレゼンテーション 30%	：	プレゼンテーションの完成度、授業内で指摘した注意点に留意してスピーキングできているか、また積極的に発話できているか
確認テスト（筆記） 30%	：	授業中に扱った文法事項や語彙の定着度

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岩村圭南	1分間英語（イングリッシュ）グラマー[動詞表現]編	株式会社アルク	2018年

参考文献等

ジェミック今井『フォニックス＜発音＞トレーニングブック』明日香出版社 2005年
ジェミック今井『＜フォニックス＞できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社 2012年
日向清人『国際基準の英単語 初級』秀和システム 2018年
日向清人『クイズでマスターするGSL基本英単語2000』テイエス企画 2016年
学研教育出版編・山田暢彦監修『中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく』学研プラス 2011年
岩村圭南『1分間英語（イングリッシュ）スピーキング編』アルク 2016年
Raymond Murphy著『Basic Grammar in Use』Cambridge University Press 2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

・ノートパソコンを毎回の授業に必ず持参すること。
・受け身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Course Introduction / Self Introduction** ・授業概要、評価方法、使用テキストやアプリなどの説明 ・英語での自己紹介	英語での自己紹介を完成させ、練習する	4時間
第2回	**Lesson 001-005 ：調子はどう？** Lesson 001-005を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 001-005について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第3回	**Lesson 006-010：映画はどうだった？** Lesson 006-010を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 006-010について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第4回	**Lesson 011-015：今日は僕がランチをおごるよ** Lesson 011-015を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 011-015について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第5回	**esson 016-020：この歌を聞くと高校時代を思い出す** Lesson 016-020を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 016-020について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第6回	**Topic1:スポーツに関連したトピックについて学ぶ** スポーツに関連したトピックを取り上げ、様々なアクテビティを通じて知識を広げ、深める	授業中に指示された課題の作成	4時間
第7回	**Lesson 021-025：ずっとアメリカに留学したいと思っていたんです** Lesson 021-025を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 021-025について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第8回	**Lesson 026-030：彼は一日中オンラインでゲームしている** Lesson 026-030を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 026-030について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第9回	**Lesson 031-035：今日の午後までには荷造りは終わってるよ** Lesson 031-035を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 031-035について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第10回	**Topic 2: 文化に関連したトピックについて学ぶ** 世界の文化に関連したトピックを取り上げ、様々なアクテビティを通じて知識を広げ、深める	授業中に指示された課題の作成	4時間
第11回	**Lesson 036-040：ハリスさんは偉大なコーチとして尊敬されていた** Lesson 036-040を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 036-040について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第12回	**Lesson 041-045：あなたはベストを尽くすだけでいい** Lesson 041-045を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 041-045について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第13回	**Lesson 046-050：また会えてうれしいです** Lesson 046-050を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 046-050について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第14回	**確認テスト・最終Presentation** Lesson 001-050 確認テスト・Presentation	Presentationの準備	4時間

SP-1009-1-1

授業科目名	**英語表現**				
担当教員名	亀本、堀、寺村				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

[英語基礎]で学んだ内容をさらに進める。基礎的な文法を復習し、発音とリスニングの基礎を学習しながら、リピーティング、オーバーラッピング、シャドウィング、レシテーションなどの練習を行い、自分の言いたいことを簡単な文法で表現できるようになることを目指す。同時に、スポーツに関連する語彙や表現の学習も行う。また、最新のニュース記事やウェブサイト、ICTツールを積極的に使用し、リーディング・ライティングを含めた４技能を高めながら、視野を広げ世界に向けて発信できる力をつける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	英語コミュニケーション能力	自分の言いたいことを基礎的な英文法を使って表現できる
２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	グローバル視点の醸成	視野を広げ、様々なことについて自分の意見を持つ事ができる

学外連携学修

無し

授業方法

・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業内での積極的な取り組みを高く評価します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中に提示する複数の課題 40%	：	授業内へのワークへの積極的参加と提出物の完成度における評価
スピーキング・プレゼンテーション 30%	：	プレゼンテーションの完成度、授業内で指摘した注意点に留意してスピーキングができているか、また積極的に発話できているか
確認テスト（筆記） 30%	：	授業中に扱った文法事項や語彙の定着度

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岩村圭南	1分間英語（イングリッシュ）グラマー[動詞表現]編	株式会社アルク	2018年

参考文献等

ジェミック今井『フォニックス＜発音＞トレーニングブック』明日香出版社 2005年
ジェミック今井『＜フォニックス＞できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社 2012年
日向清人『国際基準の英単語 初級』秀和システム 2018年
日向清人『クイズでマスターするGSL基本英単語2000』テイエス企画 2016年
学研教育出版編・山田暢彦監修『中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく』学研プラス 2011年
岩村圭南『1分間英語（イングリッシュ）スピーキング編』アルク 2016年
Raymond Murphy著『Basic Grammar in Use』Cambridge University Press 2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

・ノートパソコンを毎回の授業に必ず持参すること。
・受け身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Course Introduction / Self Introduction** ・授業概要、評価方法、使用テキストやアプリなどの説明 ・英語での自己紹介	英語での自己紹介を完成させ、練習する。	4時間
第2回	**Lesson 051-055：お互いに信頼し合うことが僕たちには大切なんだ** Lesson 051-055を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 051-055について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第3回	**Lesson 056-060：その映画は退屈で僕は寝てしまった** Lesson 056-060を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 056-060について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第4回	**Lesson 061-065：正直言って、その映画は全然面白くなかった** Lesson 061-065を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 061-065について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第5回	**Lesson 066-070：みんなでサッカーの話をして楽しんだ** Lesson 066-070を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 066-070について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第6回	**Topic1:スポーツに関連したトピックについて学ぶ** スポーツに関連したトピックを取り上げ、様々なアクティビティを通じて知識の幅を広げ、深める	授業中に指示された課題の作成	4時間
第7回	**Lesson 071-075：やってしまったことを後悔しても無駄だ** Lesson 071-075を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 071-075について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第8回	**Lesson 076-080：週に１、２度ジョギングをしに行く** Lesson 076-080を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 076-080について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第9回	**Lesson 081-085：その角を曲がると、その車はスピードを上げた** Lesson 081-085を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 081-085について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第10回	**Topic 2: 文化に関連したトピックについて学ぶ** 世界の文化、国際関係に関するトピックを取り上げ、様々なアクティビティを通じて知識の幅を広げ、深める	授業中に指示された課題の作成	4時間
第11回	**Lesson 086-090：彼はまた寝坊したに違いない** Lesson 086-090を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 086-090について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第12回	**Lesson 091-095：もう少し背が高ければな** Lesson 091-095を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 091-095について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第13回	**Lesson 096-100：１週間休みなら、ハワイに行く** Lesson 096-100を使用し、 文法と発音の解説、音読練習、応用課題（英作文）を行う	Lesson 096-100について発音練習、文法の復習、テキストの音読と暗記、自作の英作文の音読	4時間
第14回	**確認テスト・最終Presentation** Lesson 051-100 確認テスト・Presentation	Presentationの準備	4時間

SP-1010-2-2

授業科目名	English Communication Ⅰ				
担当教員名	西条　正樹				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

英語基礎・表現で身につけた基本的な４技能（スピーキング・リーディング・ライティング・リスニング）をさらに伸ばすことを目指す。また、自分の趣味や好きなことについて、人前で英語で発表できるようになったり、他人の発表を理解し、質問をしたりする練習をする。
また、海外のスポーツ事情、宗教、戦争、AI社会などに関する様々な英文記事を読み、現在社会の流れを捉え、自分たちが学んでいるスポーツの役割をグローバルな視点から捉える力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	英語基礎力の養成	英文を読んだり聞いたりできる語彙力・文法力を身につけることができる。
２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	英語による自己発信力の向上	読んだり聞いたりした内容に対して自分の意見を口頭・文面で述べることができる。
３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	グローバル視点の醸成	現代社会の様々なトピックに関する英文記事を読み、見聞を広げることができる。
４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	キャリア選択次の視野の拡大	語学を身につけることで、幅広いキャリア選択ができることを知ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト（毎回）	10%	： オンライン教材に基づく小テストを行います.
スピーキング	10%	： プレゼンテーションや会話テストを行います.
オンライン学習	20%	： オンライン教材のEnglish Centralを用いて，スピーキングやリスニング練習をします.
まとめテスト	50%	： 授業中に習った英語表現のまとめテストを行います.
授業内課題	10%	： 授業中に配布するワークシートについて取り組みます

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松本恵美子	書いて覚える　英検３級合格ノート	高橋書店	2021年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
英語で自分のことについて発表する機会があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション / Introduction** 授業内容に関する説明	今後の課題の理解。学習の進め方に関して理解できるようにする。	4時間
第2回	**Lesson 1 授業アンケート** 英語科事前授業アンケート ライティング課題	授業で配布されたワークシートNo.1の授業内課題をする。	4時間
第3回	**Lesson 2 English structure ①** 英文の基本構造を理解する(Introduction) Introduction Paragraphのライティング	授業で配布されたワークシートNo.1の授業内課題後半部分をする。	4時間
第4回	**Lesson 3 English structure ②** 英文の基本構造を理解する(Body paragraph) Body Paragraphのライティング	授業で配布されたワークシートNo.2の授業内課題の前半部をする。	4時間
第5回	**Lesson 4 English structure ③** 英文の基本構造を理解する (Conclusion) Conclusionのライティング	授業で配布されたワークシートNo.2の授業内課題後半部をする。	4時間
第6回	**Review　1 (2～5回目の振り返り)** Lesson 1～4までの復習。 単元まとめテスト。	Lesson 1～4で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間
第7回	**Lesson 5 Reading skill ①（主題文とは）** リーディングの方法＆要約の仕方① 海外のスポーツ事情②	授業で配布されたワークシートNo.3の授業内課題前半部をする。	4時間
第8回	**Lesson 6 Reading skill ②（トピックセンテンスとは）** リーディングの方法＆要約の仕方① 海外のスポーツ事情②	授業で配布されたワークシートNo.3の授業内課題後半部をする。	4時間
第9回	**Lesson7 Reading skill ③（サポーティングセンテンスとは）** リーディングの方法＆要約の仕方② 海外のスポーツ事情③	授業で配布されたワークシートNo.5の授業内課題前半部をする。	4時間
第10回	**Lesson8 Reading skill ③（まとめ）** リーディングの方法＆要約の仕方③ 海外のスポーツ事情③	授業で配布されたワークシートNo.5の授業内課題後半部をする。	4時間
第11回	**Review 2 (7～10回目の振り返り)** Lesson 6～8の復習。 単元まとめテスト。	Lesson 5～8で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間
第12回	**Lesson9（英文の読み方～スキミング～）** プレゼンテーション（パワーポイントの使い方について） リーディング（スキミングで全体の趣旨をすばやく理解する技術を学ぶ）	授業で配布されたワークシートNo.5の授業内課題前半部をする。	4時間
第13回	**Lesson10（英文の読み方～接頭辞、接尾辞～）** プレゼンテーション（構成の仕方について） リーディング（接頭辞、接尾辞から単語の意味を推測する方法を学ぶ）	授業で配布されたワークシートNo. 6 の授業内課題前半部をする。	4時間
第14回	**Review3 (12～13の振り返り)** Lesson9～10の復習。 単元まとめテスト。	Lesson 9～10で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間

SP-1011-2-2

授業科目名	English CommunicationⅡ				
担当教員名	西条　正樹				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では，スポーツを通して英語を学ぶ．ネイティブスピーカーの外部講師と英語でスポーツを楽しんだり，学生自身も英語でアクティビティを行う．また、語学を生かして海外のスポーツ分野で活躍している日本人や，海外のスポーツのケーススタディも行う．この授業を通して，「英語を話すこと」への恐怖心を克服する．そのためには，今まで学んできた知識を使ってとにかく，英語を使う練習をすることです．その際に大切なことは，文法や発音を間違えてしまうことを気にしてはいけないということ．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	ICTツールを活用した日常英会話の練習や，スポーツ活動を通して養うアウトプット活動	英語のアウトプット活動への抵抗をなくす
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	アスリートやコーチがグローバルに活動する際に必要な語彙表現や姿勢を身につける	アスリートやコーチが海外で活動するために必要な基礎知識やコミュニケーションスキルを身につけ、実践することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

本授業では、電子版のテキストを使用します。初回の授業で購入方法を指示するので、事前に自分のスマートフォンなどにKindleをダウンロードしておいてください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト（毎回）	10%	： 毎回の授業内容が定着しているかを確認します
スポーツ英語実践	30%	： 習得した語彙表現を使いながら、実際にグラウンドに出て、英語による実技指導実践をしてもらいます。発音や文法を心配するよりも、自信を持って、堂々と取り組むことが大切です。
授業内課題	10%	： 授業内でのワークへの積極的参加と提出物の完成度における評価
英語表現テスト	30%	： 授業内容に基づく英語表現のまとめテスト
プレゼンテーション	20%	： オンラインによるスピーキング活動

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『サッカー海外組への道』（西条マサ，2019）タキビ出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（クラス内での自己紹介、今後の課題について等）** 教員の自己紹介および授業の進め方について　理解する. 英語学習の仕方について理解する.	クラス内での自己紹介。今後の課題の理解。学習の進め方に関して理解できるようにする。	4時間
第2回	**Sports English Communication ① / スポーツコーチング体験（屋外実習）** ・外部講師によるスポーツコーチング体験 ・オンライン英会話	屋外実習を受けて，自分の実技課題へのイメージを持つ.	4時間
第3回	**Sports English Communication ② / イントロダクション** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（「海外組」が増えている背景p12～28） ・オンライン英会話 ・授業内課題（コーチング英語とは）	屋外実習でのコーチの使っていた英語表現を覚える	4時間
第4回	**実技テスト1回目 / スポーツ英語実技の心構え** グループに分かれて実技テストを行います.	実技の準備をする.	4時間
第5回	**Sports English Communication ③ / 動作を表す表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（「海外組」が増えている背景p29～36） ・オンライン英会話 ・授業内課題（put）	授業内で紹介したコーチング英語の特徴を覚え、次回の確認テストの勉強をする。	4時間
第6回	**Sports English Communication ④ / 位置関係を表す表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（渡航前準備p37～43） ・オンライン英会話 ・授業内課題（前置詞）	授業内に配布したワークシートを復習し、次週の確認テストに備える。	4時間
第7回	**Sports English Communication ⑤ / 様々な動作動詞** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（海外のスポーツ事情p57～66） ・オンライン英会話 ・授業内課題（動作動詞）	授業内に配布したワークシートを復習し、次週の確認テストに備える。	4時間
第8回	**ケーススタディ** ・小テスト（前回の授業の復習） ・オンライン英会話 ・授業内課題（Q & A）	海外スポーツの話を聞いて，自分の意見をまとめる.	4時間
第9回	**Sports English Communication ⑥ / 鼓舞する表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（海外のスポーツ事情p67～77） ・オンライン英会話 ・授業内課題（エンカレッジメント）	前時に伝えた範囲のボキャブラリーを覚える	4時間
第10回	**Sports English Communication ⑦ / モダリティ表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（海外で求められるコミュニケーション能力とは p106～118） ・オンライン英会話 ・授業内課題（モダリティ）	授業内で紹介したコーチング英語の特徴を覚え、次回の確認テストの勉強をする。	4時間
第11回	**Sports English Communication ⑧ / モダリティ表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ(セカンドキャリア p121～136) ・オンライン英会話 ・授業内課題（モダリティ）	前時に伝えた範囲のボキャブラリーを覚える	4時間
第12回	**Sports English Communication ⑨ / 復文** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（セカンドキャリア p180～188） ・オンライン英会話 ・授業内課題（復文）	前時に伝えた範囲のボキャブラリーを覚える	4時間
第13回	**Sports English Communication ⑩ / 復文** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（セカンドキャリア p180～188） ・オンライン英会話 ・授業内課題（復文）	ワークシートの見直しをしましょう	4時間
第14回	**実技テスト2回目 / スポーツ英語実技の振り返り** グループに分かれて実技テストを行います.	実技に備えて、スピーキングの練習をしましょう	4時間

SP-1012-2-2

授業科目名	中国語（中国語）				
担当教員名	鄭　惠芳				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

初心者にとって、中国語の学習は、文法を理解した上で一字一字の発音を正確に練習し、工夫することによって、中国語の美しい音色を体得でき、コミュニケーションへの喜びを覚えるものである。まず身近にいる中国人留学生に声をかけてみてはどうだろうか。簡単な会話を身につけると中国語を学ぶ楽しさが増し、ことばを通じて互いを理解することが文化交流の第一歩となるである。
この授業は、はじめて中国語を学ぶには「分かりやすく覚えやすい」初級レベルの中国語会話を習得できる授業である。学習効果を高めるため事前予習する

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	語学力の向上	語学力を高めるにつれて、専門的知識について視野を広げることができる
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	各国の人々との交流と知識の獲得	語学力を高め、かつ各国の人々との交流できる
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	積極性および創造力の獲得	よりよい社会性とコミュニケーション力を持つことができる
4 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	何事も本気かつ誠実に取り組む力の養成	自信溢れる言動力、さらに公益的な思考をもつことができる
5 ．DP11.忠恕の心	自他の存在を認識しかつ尊重するこころの養成	日本にいる外国人とのコミュニケーションをとる前にまず相手を尊重し、敬意をはらうことができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

学習効果を高めるには、学生の興味をいかに引き出すことが先決と考える。
興味を感じさせるには、講義の解説以外にさまざまな授業形態で授業の内容をさらに鮮明で楽しいことが望ましい。
たとえ、たった一言の中国語を相手に伝えると、必ず答えが返ってくる。答えが返ってくると、自分の話した言葉は相手に通じたという大きな喜びと自信が得られる。
自信が得られると、また学習に意欲が増していく。このような実践的学習は、特に語学では、なくではならない学習方法である。しかしながら、実践するにはやはりしっかりとした課外の予習、復習が必要となる。
授業内では、ネイティブ講師のあとについて単語や会話を、声を出して繰り返し練習。そして、学生全員参加の文型の置き換え、リスニング、会話のロールプレイやテーマの発表などの学習方法で進行する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

本科目は試験の結果を重視する以外、受講者が学習に対する「本気さ」も評価のポイントと考える。
本気であれば授業への集中力はおのずから備わり、本気であればはじめてチャレンジするものにも真正面から向き合うことができるでしょう。そのうえ、常に話の相手を心から理解しよう、優しい心をもつことも評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度 30%	：	授業参加度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、５段階で評価する
授業内テストおよび課題の提出 35%	：	授業内テスト：毎回授業のあとに行う10問の小テスト。 課題の提出：指示された範囲の教科書内スキットの書き写す。
中間試験（２回）および期末試験 35%	：	中間試験：復習するために筆記試験（100点満点）＋自己紹介の発表 期末試験：所定した範囲の筆記試験（100点満点）＋各課本文の読み（発音なしで）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史・孟広学	中国語ポイント５５	白水社	2018年

参考文献等

授業中プリントを配布

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業の教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**中国語のアプローチ（概要）** 中国語を学ぶには、まず近代な中国の変化と発展を知る必要がある。 さらに、日本の漢字と違いわゆる「簡体字」は今、中国では一般的に使われていることや同じ漢字でも日本と意味がまったく違うことを勉強する。	授業した内容を復習する	4時間
第2回	**発音篇Ⅰ　母音の仕組み＆練習** 1.日本と違って漢字の一字一字には「抑揚頓挫」（高さ）がある。文章で読むと自然にイントネーションが作られて、まるでメロディーのように美しく感じられる。最初は少し不慣れかもしれないが、歌の練習のように回を重ねっていけば結構楽しいリズムが出てくる。 「何事も最初のひと踏ん張り！」が大事である。 2.授業内テスト	授業した内容を復習とCDを聞きながら声調の練習する	4時間
第3回	**発音篇Ⅱ　母音と声調組み合わせ** 1.　３７の母音を声調の高さをのせて発音練習しながら単独で使える母音の単語も一緒に練習。そのほか、発音に関するルールを紹介し、そのルールのもとに正しい発音を練習して覚える。 2.授業内テスト	授業した内容を復習と発音ルールを暗記する	4時間
第4回	**発音篇Ⅲ　子音の練習と母音との組み合わせ** 1. 中国語の発音の中、３７個の母音（単独に使える）と２１個の子音が存在する。 　子音は単独には使えないが、子音は必ず母音と一緒に組み合わせして文字になる。 　子音を紹介したあとは、繰り返し発音練習をする。また、第４課の鼻母音も一緒に紹介し、　数を数える練習をする。 2. 授業内テスト	次回の復習テストのために概要、発音ルールと子音一覧を暗記	4時間
第5回	**復習テスト＆第１課　名詞述語文** 1.復習テスト（テスト範囲：概要・発音ルール・家族表・子音一覧P.11～13） 2.発音ルールが覚えられなければ、正しく美しく中国語を発音できないので、必ず覚えよう。 　第1課P,14～15の名詞述語文の文型を解説しながら発音練習をする。	授業内容を復習してチャレンジ（P.16）を書く	4時間
第6回	**第１課　スキット「初めまして」** 1.名詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習。 2.会話文を練習 3.授業内テスト	次回提出筆記レポート（第１課P.14~17書き写す、練習問題の解答を書く）	4時間
第7回	**第2課　動詞述語文の解説** 1.ご飯を食べる、コーヒーを飲む・・動詞述語文 2.あれは辞書ではありません・・指示代名詞文 3.これは誰の本ですか？・・疑問詞文 4.これは父のメガネです・・所有を表す「的」を解説＆練習。 　初歩的中国語文法は案外と日本語に似ているが、発音は別だと実感！ 5.授業内テスト	授業内容を復習してチャレンジ１（P.20）を書く	4時間
第8回	**第２課　スキット「あなたは何がすきですか」** 1.動詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習する 2.会話文を練習 3.授業内テスト	筆記レポート提出（第2課P.18～21を書き写し）	4時間
第9回	**「自己紹介」の練習＆第3課　形容詞述語文** 1.自己紹介のモデル文章を学び、実際自分の自己紹介を講師と一緒に繰り返し練習する。 2.彼は忙しい、今日はたいへん暑いです・・形容詞述語文 3.彼は時間がない、私はパソコンを持っている・・所有の表現を解説＆練習 4.授業内テスト	次回に中間試験(1)のために所定範囲をテスト勉強	4時間
第10回	**中間試験(1)　筆記試験＋自己紹介の発表/ 第3課スキット「今日は忙しいですか」**	筆記レポート提出（第3課の書き写しP.22~25）	4時間

	1.中間試験(1)　筆記試験＋自己紹介の発表（範囲は第9回の授業内容に参照） 2.今まで学んだ中国語の様々な述語文やセンテンス内の構造助詞の仕組みの理解度をチェックしながら第3課の会話を練習		
第11回	**おさらい＆第4課　場所詞・さまざまな疑問詞** 1.今まで習ったところを見直す 2.第4課の文型を解説＆置き換え練習 3.授業内テスト	授業した内容を復習する＆P.28 チャレンジを書く	4時間
第12回	**第4課　スキット「あなたはどこに住んでいる」** 1.第4課スキットの会話を練習 2.第4課　授業内テスト 3.次回は中間試験(2)を行う。筆記試験＋リスニング ＊試験範囲は、授業内で指示する	筆記レポート提出（第4課P.26～29を書き写し）	4時間
第13回	**中間試験（2）筆記試験＋リスニング/ 第5課　助数詞と応用** 1.中間試験（筆記試験＋語句の聞き取り） 2.第5課　数の発音＆数える時の言い方、文型の置き換え練習 3.数量の疑問詞疑問文を練習	筆記レポート提出（P.32チャレンジを書く）	4時間
第14回	**第5課　スキット「電子辞書はいくらですか」/ 総復習** 1.第5課スキットの会話文を練習する。 2.中国語の基本文型（肯定文、否定文、形容詞、さまざまな疑問文など）を復習しながら置き換え練習。 3.リスニング練習	常に復習すること	4時間

SP-1013-2-2

授業科目名	韓国語（韓国語）				
担当教員名	魯　惠英				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

韓国語の初歩的・実用的な会話能力を、学生の視点で「身につける」ことを目指す。具体的には「ハングルが読める・書ける」、「韓国語の基本単語・基本文型を身につける」、「基本的・日常的なコミュニケーションができる」ことを目標とする。まず、韓国語の文字・発音を丁寧に学習した後、体が自然と覚えていくように「問いかけ―返事」の練習に時間をかけた演習形式で授業を行う。毎回の授業で、文字と発音の変化など韓国語学習の要になる項目を理解したうえで、基礎文法の学習へと進む。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP5.新しい価値を創造する能力	韓国語と韓国社会・文化に関する基礎知識	韓国語の基礎会話とともに韓国の社会と文化を知り、理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

1. 私語・携帯はほかの人に迷惑になるので禁止する。
2. 授業に積極的に参加すること。特に，声を出して読むことが大事である。
3. 課題，小テストの準備をした上で，授業に参加することを強く望む。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
参加度	30%	： 授業に積極的に参加しているかを評価する。
課題	10%	： 授業内容に関連した課題を課す。指定された期限までに提出しなければならない。
小テスト	30%	： 随時行い、授業の内容を理解しているかを評価する。
期末テスト	30%	： １４回目の授業で行い、授業の内容を全体的に理解しているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

NHKハングル講座（ラジオ・テレビどちらでも可）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： E-mail

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Introductionおよび韓国語の概要の説明**	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間

	1）韓国語・ハングルとは？ 2）ハングルの仕組み 3）簡単なフレーズ		
第2回	**母音** 1）前回学習内容の確認 2）基本母音字10個、陽母音と陰母音の習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第3回	**子音** 1）前回学習内容の確認 2）基本子音字14個、平音と激音の習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第4回	**合成母音（11個）** 1）前回学習内容の確認 2）合成母音字11個、変わる発音の習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第5回	**合成母音（5個、平音・激音・濃音）** 1）前回学習内容の確認 2）合成母音字5個、平音・激音・濃音の違いの習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第6回	**パッチム** 1）前回学習内容の確認 2）パッチムの仕組みの習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第7回	**発音の変化（連音化・激音化）** 1）前回学習内容の確認 2）連音化・激音化などの習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第8回	**発音の変化（濃音化・鼻音化）** 1）前回学習内容の確認 2）濃音化・鼻音化などの習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第9回	**用言の活用1（2パターンの紹介）** 1）前回学習内容の確認 2）活用2パターン表現の習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第10回	**用言の活用2（2パターンの活用）** 1）前回学習内容の確認 2）活用2パターン表現の習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第11回	**用言の活用3（3パターンの紹介）** 1）前回学習内容の確認 2）活用3パターン表現の習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第12回	**数字1（漢語数詞）** 1）前回学習内容の確認 2）漢語数詞の習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第13回	**数字2（固有語数詞）** 1）前回学習内容の確認 2）固有語数詞の習得 3）簡単なフレーズの習得	前回学習内容を復習してから授業に参加すること。	4時間
第14回	**総まとめ** 1）前回学習内容の確認 2）学期を通じた復習およびまとめをするとともに、韓国語の習得の達成度チェックを行う	前回学習内容を復習をしてから授業に参加すること。	4時間

SP-1014-2-2

授業科目名	スペイン語（スペイン語）				
担当教員名	大河　ジャッケリネ				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スペイン語会話の基礎を勉強する。日常生活で必要な挨拶、表現、語彙、基礎的な文法などを、会話練習をすることにより身につける。
また、言葉を学ぶことを通して、ラテンアメリカとスペインの社会や文化に親しんでもらうことも、この授業のねらいの一つである。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スペイン語による会話練習	スペイン語での簡単なコミュニケーションをとれるようになる。 スペイン語の言語習得だけではなく、ラテンアメリカとスペインの文化を学び、身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間試験	20%	： ８回目の講義において小テストを実施する
最終試験	80%	： 定期試験において、授業内容の理解度を測るテストを行う

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション、スペイン語のアルファベット** 基本的な挨拶、主語人称代名詞	スペイン語独特の発音を練習	4時間
第2回	**テキストの第１課（定冠詞・形容詞の性）** 自己紹介、国籍、職業や身分を言う 定冠詞・形容詞の性	男性名詞、女性名詞の区別を知る	4時間
第3回	**テキストの第２課（基礎単語・定冠詞）** ～が好きですか　？Le gusta～? 基礎単語・定冠詞の練習問題	サッカー用語など簡単な単語を覚える	4時間
第4回	**テキストの第３課（～ar動詞）** 職業　Profesiones ～ar動詞を習う	動詞の変化は複雑、しっかり覚える	4時間

第5回	**テキストの第４課（数字と色）** 数字と色　Numeros y colores	UNO(１)　DOS(２)・・　数字に強くなろう	4時間
第6回	**テキストの第５課（形容詞の性）** これは何ですか／これはどんな物ですか／形容詞の性 ？Que es esto?　？Como es esto?	旅行で大事な会話フレーズを覚える	4時間
第7回	**テキストの第６課（haber動詞）** ～があります　haber動詞 ～はいくつありますか　Cuantos～hay？	数字を覚えたらその応用をしっかり身につける	4時間
第8回	**まとめ、小テスト** 前半のまとめ、小テストを行う	前半の講義で学んだ内容を復習しておく	4時間
第9回	**テキストの第７課（tener動詞）** ～持っています　tener動詞　Julian tiene fax. ～持っていますか	大事な動詞をしっかり覚えてくる	4時間
第10回	**テキストの第８課（conocer動詞）** ～を知っている　conocer動詞 Conozco Madrid.	ER、IR動詞の不規則動詞を覚える	4時間
第11回	**テキストの第９課（querer動詞）** ～が欲しい　querer動詞 Quiero una cerveza.	会話で一番大事な動詞であるので、必ず復習すること。	4時間
第12回	**テキストの第１０課（hacer動詞）** スポーツをする　hacer動詞 Hacer deporte. スポーツについて話す。	この動詞の変化はよく使われるため、必ず復習すること。	4時間
第13回	**テキストの第１１課（?Donde?疑問詞）** ～はどこにあります　?Donde?疑問詞 ?Donde esta～?	居場所を言う大事なフレーズであるため、必ず復習すること。	4時間
第14回	**文化紹介、ラテンアメリカのお話をする。** みんなで簡単なスペイン語の会話をする。	ラテンアメリカ等について調べてくる	4時間

SP-1015-1-2

授業科目名	**栄養と健康（栄養と健康）**				
担当教員名	武田　哲子				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪、2021年東京五輪帯同）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

人の体は食べたものからできている。何を、どのように食べるかは健康的な生活を送るために重要な課題である。この授業では食事の働きについて理解し、健康的な生活を実践するために必要な知識を修得することを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	栄養・健康に関する基礎的な知識の習得	栄養・食生活に関する基礎知識を身につける
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	健康維持や運動実践に役立つ食生活の理解と実践のための知識の習得	健康管理や運動実践に必要な知識を身につけ，自身の食生活に実践できるようになる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間試験	30%	： 栄養素やその働き、食事や健康状態の評価について理解できているか30点満点で評価する
期末試験	30%	： 年代別の健康問題とそれに関わる栄養素等摂取の理解度について30点満点で評価する
レポート	40%	： 授業で扱った現代社会の栄養と健康の内容に関する知識を用い、指定の形式に沿って独自の意見を提示できているかという観点から評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日３限
場所： 研究棟２階Ｂ２１４

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスと食事と健康に関する概説** 授業の進め方，達成目標を確認する．	授業内容に関して配布された資料の復習を行う．次回のキーワード（エネルギー源）について調べノートに記述してくる．	4時間

第2回	**エネルギー源** エネルギー源になる栄養，食事，食生活の工夫を理解する．	エネルギー源に関する資料を復習する．次回のキーワード（身体づくり）について調べノートに記述してくる．	4時間
第3回	**身体づくり** 身体づくりの材料になる栄養，食事，食生活の工夫を理解する．	身体づくりに関する資料を復習する．次回のキーワード（身体機能の調節）について調べノートに記述してくる．	4時間
第4回	**身体の機能調節** 身体の機能調節を担う栄養，食事，食生活の工夫を理解する．	身体機能調節に関する資料を復習する．次回のキーワード（身体組成，エネルギー消費の測定）について調べノートに記述してくる．	4時間
第5回	**健康のための身体づくりの評価** 体格や生活活動の評価方法を理解する．	体格や生活活動の評価方法を復習し実践する．次回のキーワード（食事調査）について調べノートに記述してくる．	4時間
第6回	**食生活の把握** 食生活評価方法を学び，自分自身の食生活をふりかえる．	食生活評価方法を復習し実践する．	4時間
第7回	**前半授業と達成度チェック** 前半授業のまとめを行う．	次回のキーワード（成長期，身体的特徴）について調べノートに記述してくる．	4時間
第8回	**成長期の食事の課題（身体的特徴と食生活）** 体格の変化とそれに合わせた食事についてまとめる．	成長期の身体的特徴に関する資料を復習する．次回のキーワード（思春期，摂食障害）について調べノートに記述してくる．	4時間
第9回	**思春期の食事の課題** 思春期の体や心の成長の特徴と問題点について理解する．	思春期の体や心の成長に関する資料を復習する．次回のキーワード（食育）について調べノートに記述してくる．	4時間
第10回	**成長期や思春期における食育** 各年代の問題点を理解しどのように食生活を支えるべきか考察する．	食育についての資料を復習する．次回のキーワード（メタボリックシンドローム）について調べノートに記述してくる．	4時間
第11回	**成人期の食事の課題（肥満、メタボリックシンドローム）** 肥満、メタボリックシンドロームの予防についてまとめる．	メタボリックシンドロームとその予防・対策に関する資料を復習する．次回のキーワード（高齢期，骨粗鬆症，サルコペニア）について調べノートに記述してくる．	4時間
第12回	**高齢期の食事の課題（骨・筋の健康維持）** 高齢期の骨と筋肉の健康維持のための食生活についてまとめる．	高齢期の骨・筋の健康維持と食事に関する資料を復習する．次回のキーワード（栄養教育）について調べノートに記述してくる．	4時間
第13回	**栄養教育の概論** 栄養教育の方法論についてまとめる．	栄養教育に関する資料を復習する．	4時間
第14回	**栄養教育の実践方法** 栄養教育の実践方法について学び，これまで授業で扱った課題について栄養教育の実践案を考える．	栄養教育に関する資料を復習する．栄養教育の実践案を完成させる．	4時間

SP-1016-1-2

授業科目名	コミュニケーションと身体表現（コミュニケーションと身体表現				
担当教員名	光安　知佳子				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

我々のコミュニケーション活動は言語を中心に行われているが、同時に表情や姿勢などの非言語表現も大きな役割を担っている。そのため、人間関係づくりや円滑なコミュニケーションのためには、非言語表現に関する理解とコントロールが欠かせない。本講義は、受講生が、言語以外のコミュニケーション方法を知り、その応用能力を高めることにある。非言語コミュニケーション能力は、言語能力の及ばない海外生活で必須であり、また異文化間での相互理解や誤解の種でもある。そのことを認識し、国際人としての知見を獲得することが重要である。日常生活における非言語表現について、身体表現であるダンスの見地から学部。言語と非言語の関係性、役割の感知、そして場面に応じた振る舞いを探究の対象とする。身体の知覚を利用した表現というものを体験し、身体表現のコミュニケーションツールとしての価値はもとより、感覚に支えられた表現の可能性についても目を向けてみる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	コミュニケーションと身体表現であるダンスの種類や方法。考えをまとめる力	身体表現からコミュニケーションの方法を知り、自己表現の視野を広げる。
2 ．DP11.忠恕の心	自己を分析し自己理解する。他者を観察し理解する能力	自己理解と他者理解。他者の話を聞き相手の立場に立って物事を考えられる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業内容の課題レポート提出をおこなう。3分の1欠席した場合、評価の対象としない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各授業内容関する課題レポート 85%	：	課題レポートに授業内容の要点と自分の考えをまとめられていること。および文章構成、文字によって評価する。
最終授業課題レポート 15%	：	あらゆる方面からのコミュニケーションのとらえ方および、現在のコミュニケーション不足、今後のコミュニケーションのあり方についてまとめた内容によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

身体運動の表現学　山口恒夫　山口順子訳　泰流社舞踊と身体表現　日本学術会議文化人類学・民族学研究連絡委員会　財団法人　日本学術協力財団
高山　昇 『身体表現論～ Let's performance』 作品舎 2013年 第1版

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は授業内容により課題のレポート提出があるため、欠席することによりその授業の評価は０点となります。
３分の１以上欠席した場合、評価の対象としない。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、最終のレポート向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスとコミュニケーションと身体表現**	自分の長所、短所を知っておく	1時間

	コミュニケーションについて、授業の位置づけと授業の進め方、コミュニケーションと身体表現について達成目標の確認。		
第2回	**コミュニケーションとは身体表現とは** 人間は情報をどう受け取っているのか、知識とは何か、知識がいかにコミュニケーションに関係しているかについて理解を深める。	さまざまなコミュニケーションとは身体表現について把握しておく。	1時間
第3回	**リラックスボディの獲得～すべての運動の基本となるからだほぐし** 呼吸法。身体感覚の覚醒トレーニング。からだほぐしは毎回実践する。 感覚体で室内を散策した後に、アフォーダンスする身体による自己紹介。	さまざまな呼吸法について概要を把握しておく。	1時間
第4回	**ニュートラルな身体の認識～ボディマッピングとボディワーク** アレクサンダーテクニーク・フェルデンクライスメソード・野口体操などを利用して、力を抜いて動く方法を身につける。居場所や姿勢を変えてみて、刻々と変化する体の内外環境を感覚して動く。	さまざまなリラックス法について概要を把握しておく。	1時間
第5回	**ナチュラルな身体の認識～ボディイメージングとボディトレーニング** モダンダンス・コンテンポラリーダンスなどの基礎技術を利用して、呼吸や重力を意識して動く方法を身につける。 ダンスという身体表現について解説し、様々なダンスの映像鑑賞、講評と質疑応答。	モダンやコンテンポラリーの概念についてまとめてみる	1時間
第6回	**アーティフィシャルな身体の認識～制御された姿勢と動き** バレエの基礎技術を利用して、意識化される各部位の連関性で動く体験する。 軸・回転・跳躍 の身体性と表現について解説し、クラシックバレエとモダンバレエの映像鑑賞、講評と質疑応答。	バレエの概念についてまとめてみる。	1時間
第7回	**デフォルメされた身体の認識～独自性のある姿勢と動き** 身体の質感とイメージの力で動く例の紹介と実習。 舞踏に観られる地面や空気との接触、ならびにイマジネーションやトランスフォーメーションに導かれる身体感覚と動きを体験。 前衛芸術としての暗黒舞踏について解説し、様々な舞踏の映像鑑賞、講評と質疑応答。	舞踏の概念についてまとめてみる。	1時間
第8回	**文化と身体～コミュニケーションとしての身体表現** 自己表現としての身体表現・コミュニケーションツールとしての身体表現について解説と実習。 舞・踊をキーワードにして、文化との関わりが深い芸能（能・狂言・日本舞踊・歌舞伎）の映像鑑賞、講評と質疑応答。	さまざまな国の伝統舞踊と芸能について調べてみる。	1時間
第9回	**自己開示と自己呈示①** 自己呈示～意図的な自己表現で相手に伝える。	自分のスピーチを他人のスピーチを聞いて再考してみる。	1時間
第10回	**自己開示と自己呈示②** 自己呈示と羞恥～恥ずかしいという感情を解明する。	自己呈示と羞恥～恥ずかしいという感情について調べておく	1時間
第11回	**自己開示と自己呈示②** 言語と非言語～非言語が言語情報を誘導する。	言語と非言語～非言語が言語情報を誘導について調べておく	1時間
第12回	**非言語表現②** 顔と視線～表情によって印象が形成される。	顔と視線～表情によって印象が形成されることについて調べておく	1時間
第13回	**非言語表現③** 対人距離と身体～位置と動作が人間関係を構築する。	対人距離と身体～位置と動作が人間関係について調べておく	1時間
第14回	**身体表現について** 自身が身体で表現していることを探求する。コミュニケーションと身体表現の関連についてレポートを作成する。	全授業の整理をしておく今後、人とのコミュニケーションを取り豊かな日々になることを目標にする	1時間

SP-1017-1-2

授業科目名	**人間と教育**				
担当教員名	張　潔麗				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

人間は生きていくうえで教育という営みと無関係ではいられない。本講義では、人間は教育といかにかかわっていくのかを学ぶ。そのうえで、現代社会においていかに教育にかかわっているべきであるとされているのかを認識し、そうした観点について批判的に考える。ここでいう教育とは、必ずしも学校という空間で、教員という他者で、学齢期に教え込まれるという行為のみをささない。あらゆる時間・空間で行われ、人間が他者・自身に知識・技術を伝授する幅広い概念である。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	教育の基本的概念	教育の基本的概念について説明できる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	教育の理念と実際の教育現場との関係	教育の理念と実状との関係性について自らの意見を持ち、他者に説明できる。
3 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	教育とその影響要因との関係性及びあり方	教育の理念・概念の多様性及びその影響要因について、具体例を挙げて説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
最終レポート　58%	:
授業内の小レポート　42%	: 課題にきちんと答えられているかどうかとともに、授業への参加度の高さ、誤字脱字の有無という観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・安彦忠彦・藤井千春・田中博之編著『新版　よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房、2020年。
・杉本均・南部広孝編著『比較教育学原論』協同出版、2019年。
・広田照幸『ヒューマニティーズ　教育学』岩波書店、2009年。
その他、講義中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると各回4時間の授業外学習が求められる。授業外学修課題であげられる課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習を行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜3/4限
場所：　大講義室/第2ホール
備考・注意事項：　授業時間後

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション：「教育」とは何か** 「教育」の意味について考える。合わせて、大学における教養科目とは何か、講義の進め方及び評価方法について詳細を説明する。	「教育」と聞いてイメージすることを考える（例えば、ご自身の経験や、どの時代にもどの社会にも当てはまる普遍的なものなど）。	4時間
第2回	**「教育」という概念** 「教育」という概念について、見方を変えながら、学校教育、企業内教育、家庭教育、社会教育など、様々な形態の「教育」の存在を示す。	「教育」という概念について、他者に説明する際に必要となる考え方、定義、情報などを収集し整理する。	4時間
第3回	**「教育」の時間軸－１** 「教育」を異なる時間軸から考える。まずは学校にいる時間と授業時間外での教育について、関連理論を用いて確認する。	なぜすべての子どもが学校に通うようになったのかとともに、そのメリットとデメリットについて考える。	4時間
第4回	**「教育」の時間軸－２** 「教育」を異なる時間軸から考える。次は学齢期における「教育」とその後の教育について考察する。	生涯教育と生涯学習について調べ、双方の相違点をまとめる。	4時間
第5回	**「教育」の時間軸－３** 「教育」を異なる時間軸から考える。最後は昼における教育と夜に行われる教育について事例を通して扱う。	教育は何のためにあるものと考えられるのかについて、本回までの内容を踏まえて自らの教育観について考える。	4時間
第6回	**「教育」の空間－1** 「教育」を異なる空間軸より考察する。まずは学校とそうでない場所に分けて、近代以前の社会における教育のかたちを認識する。	徒弟方式と学校方式を通した教育について調べて、どんな学習内容がそれぞれの方式に適するのかを考える。	4時間
第7回	**「教育」の空間－２** 「教育」を異なる空間軸より考察する。次は地域社会に着目し、学校と地域社会との連携のもとで行われる教育について認識する。	地域との連携、協力において、教師はどのような役割を果たす必要があるかについて考える。	4時間
第8回	**「教育」の空間－３** 「教育」を異なる空間軸より考察する。最後は職場における教育、研修について、学校教育とのつながりを通して認識する。	就職・キャリア形成のために必要な知識・能力について考える。	4時間
第9回	**前半授業のまとめ** 前半授業のまとめを行い、「教育」を異なる時間軸・空間軸から考察し、その在り方とともに自身の経験を踏まえて、教育観を整理する。	前半授業の配布資料を用いて復習するため、事前に整理すること。	4時間
第10回	**「教育」の多様性** 後半授業では空間をより広くとり、日本国外における教育について、その概念、かたち等を確認する。まずは北アメリカである。	外国の「教育」を聞いてイメージすることを、文献資料等の根拠を調べたうえで考える。	4時間
第11回	**「教育」の多様性－１** 次は多様性の観点において、ヨーロッパの教育のうち、イギリスとオランダの教育についてみてみる。	オランダの教育・学校の特徴について調べる。	4時間
第12回	**「教育」の多様性－２** さらに東アジアの教育について、日本との共通点・相違点をめぐって整理する。	東アジア諸国の教育上の問題の共通点について自分の観点を整理する。	4時間
第13回	**「教育」の多様性－３** 最後は東南アジアの教育について、多文化の観点から教育の特徴について考察する。	東南アジアの地理・自然環境について、１か国を選んで調べる。	4時間
第14回	**後半授業のまとめ** 後半授業のまとめを行い、「教育」を異なる切り口から考察し、その在り方及び影響要因を認識し、そこに存在する多様性を整理する。	後半授業の配布資料を用いて復習するため、後半授業の資料を事前に整理すること。	4時間

SP-1018-2-2

授業科目名	ジェンダー論				
担当教員名	佐藤　馨				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ジェンダー論では、文化的・社会的性差であるジェンダーの視点を通じて、社会の様々な場面におけるジェンダーの課題を分析し、理解できるよう学習する。講義では、日常生活に遍在するジェンダーに関する諸課題を新たな視点から見直すため、社会、労働、政治、心理、文化等の諸側面から、これまで「常識」とされたイデオロギーや価値観を問い直す能力を養う。また、近代社会におけるジェンダーの変容について歴史的に学び、ジェンダーが社会との関わりの中で如何に変容したのか学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	ジェンダー論の意義	ジェンダーの基礎を習得し、ジェンダー論の意義を理解する。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	ジェンダーに関連するキーワードと社会との関わり	「社会」「労働」「政治」「心理」「文化」等をジェンダーとの関連から理解する。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	ジェンダーにおける多様な問題	ジェンダーにおける多様な問題をジェンダー論の視点から学習し、問題の本質を理解する。
4 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	ジェンダーにおける社会的、文化的、心理的視点における課題の理解	ジェンダーを社会的、文化的、心理的視点から理解する。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・その他(以下に概要を記述)
　優秀な提出課題については、講義中にコメントします。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業で学習した内容に沿った小レポート 5%	：	授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する。
本試験 95%	：	講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのかを65点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）
伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006年）
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修上の注意】
　本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
　本試験で全体評価の95%を占める。従って、普段の講義で重要と指摘された点は確実に覚えるだけでなく、内容も正確に理解しておく必要がある。

【メッセージ】
　ふだん、私たちが何気なく目にしたり、口にしたりする言葉や現象の中に、知らず知らずジェンダーに関連する問題が内包されていることが多い。そうした問題には、何かしら必ず理由がある。そうした理由等をジェンダー論を通じて理解できるようになる講義を目指す。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義前後

場所： 講義室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ジェンダー論：ガイダンスおよびジェンダー論の概説** ジェンダー論で学習する全講義の概要と受講上の留意点を確認する。	ジェンダー論で学習する講義の概要および受講上の留意点について資料を精読する	4時間
第2回	**ジェンダーとは何か** 改めてジェンダーの意味を理解し、現代におけるジェンダーの構造について学習する。	ジェンダーの視点から見た男女平等の社会についてまとめる。	4時間
第3回	**「男らしさ」と男性学からの視点** 男らしさは社会によってつくられることを知り、役割理論の視点から「男らしさ」を改めて学習する。	「男らしさ」はつくられるものであり、社会が変容すればそれとともに変化することについて精読する。	4時間
第4回	**「女らしさ」と女性学・フェミニズムとの関係** 男らしさと同様に女らしさもつくられることを理解する。また女性学やフェミニズムに対する偏見等も併せて学習することによって、「女らしさ」の捉え方について学習する。	「女らしさ」への抵抗として、女性学・フェミニズムは発展してきた。その歴史や経緯についてまとめる。	4時間
第5回	**教育とジェンダー①教科書のなかのジェンダーバイアス** 男女平等を謳う教育であるが、知らず知らずのうちに教科書には、ジェンダーバイアスに関連する事柄が点在することを理解し、学習する。	例えば家庭科の共修は始まったが、相変わらず家事を担う女性像が描かれていること、といった事例についてまとめる。	4時間
第6回	**教育とジェンダー②ジェンダー平等のためのエンパワメント** ジェンダー平等な社会、性別による差別や抑圧のない社会を形成するために、エンパワメント（「権限・権利の付与」）の視点が必要であることを学習する。	ジェンダー平等を達成するため、エンパワメント教育の必要性について精読する	4時間
第7回	**労働とジェンダー①歴史における労働とジェンダー** 「男は仕事、女は家庭」といった役割は、近代産業社会の産物としてつくられたことを知り、その役割が現代においても様々な弊害をもたらしていることを学ぶ。	「男は仕事、女は家庭」の役割が、どのような局面で問題視されいるのか、事例をあつめ、まとめる	4時間
第8回	**労働とジェンダー②男女雇用機会均等法は女性の社会参加を拡大したのか** 男女雇用機会均等法が制定されて約30年経過したが、女性の役職等の登用はまだ途上の段階であることを学習する。	女性の役職登用率が先進国でどの程度の位置にあるのか、調べ、まとめる	4時間
第9回	**グローバリゼーションとジェンダー** グローバリゼーション化が進む中、途上国において女性は見えない存在として扱われ、開発から取り残されている現状を理解する。	途上国における見えない存在としての女性とは、どのようなものであるのか調べる	4時間
第10回	**多様な性の世界** 現代社会においてセクシャリティは、ますます多様化していることを知る。またセクシャリティ、性的マイノリティ（LGBTQ）の現代的課題について学習する。	性的マイノリティがどのように多様であるのかを調べ、まとめる	4時間
第11回	**政治とジェンダー** OECDの調査によれば、政治における「ジェンダー・ギャップ」において日本は144位と先進国の中でも極めて低い位置にある。政治において女性登用が進まない実情と問題について学習する。	先進国各国におけるジェンダーギャップの順位や状況について調べる。	4時間
第12回	**ジェンダーにおける過去・現在・未来_フェミニズムの現在** フェミニズム内の対立から多様なフェミニズムが誕生した経緯について学ぶ。	フェミニズムにおける多様な学問領域についてまとめる	4時間
第13回	**文化とジェンダー** 雑誌、マンガ、映画等、常に私たちの傍にある文化には、すでにジェンダーが内包されていることを知り、そうした文化によって社会や個人のジェンダーは徐々に形成されていることを学習する。	自身が触れる文化について考え、そこに内包するジェンダーはどのようなものであるのか考え、まとめる	4時間
第14回	**近代社会におけるジェンダー** 「近代家族」と国家形成との関係性について理解し、近代家族の変容とその背景について学習する。	歴史的に家族がどのように変容したのか資料を検索し、まとめる	4時間

SP-1019-2-2

授業科目名	人間の心理と行動（人間の心理と行動）				
担当教員名	多賀谷　智子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校現場で保護者・担任への教育相談，発達障害児童生徒への支援等，人間の心理や行動に関する心理学の基礎知識を活用しての実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

心理学の基礎的知識の修得を通じて人間の心理や行動を理解するための手がかりを得ることを目的とする。できるだけ身近なテーマをとりあげて説明を加えることで，日常経験している出来事に対する認識を深めやすくする。また，体験的に理解を深めるために，簡単な心理検査やグループワークも実施する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	人間の心理や行動に関する心理学の基礎知識	人間の心理や行動に関する心理学の基礎知識を学習することで，新たな視点を獲得したりそれまでに獲得していた視点を深めることができる。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	心身の発達、主体的な行動を支えるための基盤となる考え方	心身の発達、主体的な行動を支えるための基盤となる考え方を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

理解を深めるために、毎回ワークを課す。ワークには積極的に参加すること。
ワークへの参加の意思がない場合、明らかなマナー違反があった場合には，欠席とみなすことがある。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート課題 30%	：	現状から①課題を分析し、②適切な目標を立てられているか、③適切に記録し、④結果から新たな課題を分析し、⑤目標を適切に修正できているかで評価する。
授業内小レポート 70%	：	各回5点で合計70点。課題内容を理解し、ワークに関する事項や考えを記述できているかで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

三田地真美・岡村章司『応用行動分析入門ハンドブック』（金剛出版，2019年）
小道モコ『あたし研究　自閉症スペクトラム～小道モコの場合』（クリエイツかもがわ，2009年）
粕井みづほ『ワークショップ　人間関係学』（久美株式会社，2008）
ニキ・リンコ，藤家寛子『自閉っ子、こういう風にできてます！』（花風社，2004年）
その他，講義中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**人はなぜだまされるのか（錯覚）** 視覚における錯覚（錯視），運動感覚に関する錯覚，触覚的錯覚について体験する。また，認知が記憶や経験などに影響されることについて学ぶ。	日常生活の錯覚について見つけ、学んだことと関連づける。	4時間
第2回	**出会いの心理学（印象の形成）** 人間関係は人との出会いから始まる。私たちは，初めて出会った人であっても短時間でその人への印象を形成し，その人の人となりなどを判断する。人はどのように他者への印象を形成し，どのように他者を認知するのかについて学ぶ。	日常生活の中で，自分が他者と出会ったときの印象の形成について思い出し、学んだことと関連づける。	4時間
第3回	**人を好きになる心理学（人の魅力）** 人はなぜ他者に惹かれるのか，好意をいだくようになるのだろうか。好意を抱きやすくさせる要因について学び，日常生活にどのように活かせばよいかについて考える。	人がお互いに好意を持って交友関係を築くためには，どのような工夫があるとよいのかまとめる。	4時間
第4回	**行動を科学する（強化の原理）** 行動が増加したり，減少したりするには，日々の経験が影響している。日常生活で起こっている現象を観察し，行動の増減に影響している要因を考える。 その原理を活用して，適応的な行動を増やす方法について学ぶ。	日常的な適応的な行動を増やす（不適応的な行動を減らす）ためにどうすればよいか考える。	4時間
第5回	**ストレスと人間関係の心理学（ストレス対処法）** ・ストレスがおきる仕組みを理解し、ストレス対処法を学ぶ。 ・リラクセーションの方法を体験し，日常生活への活用を考える。	日常生活を振り返り自身のストレスについて考え，自分に適したストレスマネジメントを考える。	4時間
第6回	**集団の心理学** 私たちの多くは何らかの集団（組織）に所属しており，人は集団になることで普段の自分とは異なる言動を取ることがある。集団からの影響，集団と集団の関係など，集団との関わりという側面から人間の行動や心理を考える。	集団の中で起こりやすい問題を想定し，そのような事態にはどのようなことに気をつければよいかをまとめる。	4時間
第7回	**対人コミュニケーショを円滑にする心理学** 私たちは，日々，他者と関わり合いをもち，お互いに影響を与え合いながら社会生活を営んでいる。そのような人間関係にはコミュニケーションを介して営まれている。対人コミュニケーションについての理解を深め，より良い人間関係を築き上げることについて考える。	より良い人間関係を築くための要因についてまとめる。	4時間
第8回	**自分自身を知る心理学** 「自分のことは自分が一番よくわかっている」と言われる反面，「わかるようで一番わからないのが自分」とも言われている。自分のことについて心理検査を活用して理解を深める。	講義で扱った心理検査の結果から，自分自身のパーソナリティについて見立てを行う。	4時間
第9回	**アンガーマネジメント** なぜ攻撃行動が生じるのかについて学び，怒りをコントロールする方法について学ぶ。	自分に適したアンガーマネジメントの方法をまとめる。	4時間
第10回	**援助行動** 人への援助を求められているときに，すぐに行動が生起するときもあれば，躊躇してなかなか踏み切れないときもある。この違いは何によるのだろうか。 援助行動に至る心的プロセスや援助行動を促進する要因・抑制する要因について学ぶ。	日常生活で援助行動を促進する要因・抑制する要因についてまとる。	4時間
第11回	**精神分析的心理療法の視点から考える人間の心理と行動** フロイトが提唱した精神分析の流れを組む精神分析的心理療法の中にはさまざまな心理学がある。「無意識」，「意識」，「防衛機制」などのメカニズムを知り，人間の心理と行動について学ぶ。	防衛機制の種類と実例を整理し，意識にのぼらない他のさまざまな心の働きについて調べる。	4時間
第12回	**人とかかわる心の芽生え** 人間は，生後まもない時期から他者を意識するようになる。「社会的微笑」，「ミラーニューロン仮説」，「指差し」，「ことばの発生」，「三項関係の成立」などの視点から，特に乳幼児期における人間の心理や行動を考える。	社会性の発達に関してまとめる。	4時間
第13回	**社会性やコミュニケーションに障害がある人の心理と行動** 近年，知的能力に問題がないにもかかわらず，先天的に社会性やコミュニケーションに障害がある人の存在が広く知られるようになってきた。それらの人々は，自閉スペクトラム症（ASD）と言われ，定型発達（偏りのない多数派の発達）の人とは異なる感じ方や考え方をしていることがわかってきている。ASDについて学び，人間の心理と行動を考える。	自閉スペクトラム症について特徴をまとめ、ともに生活するためのコツについて考える。	4時間
第14回	**生きがいと幸福感**	日常生活で起こりうる自分の言動や欲求について理論に照らして考える。	4時間

マズローの欲求階層説，エリクソンの心理・社会的発達理論について知る。これらの理論を総合的にとらえ，人間の言動を欲求や発達段階の視点から考える。そして，人としてどう生きるのか，自分の生きがいと幸福感について確認する。　講義全体を振り返りながら重要な考え方や用語を復習する。併せて，心理学の日常生活への活用を考える。		

SP-1020-1-2

授業科目名	**情報倫理（情報発信と情報倫理）**				
担当教員名	城島　充				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

情報の送り手として長く私たちの身近にあったマスメディアは、その役割を継続して果たしながらもかつてほどの影響力を持てなくなった。インターネットの普及によって新たなネットメディアが次々と誕生し、SNSの普及で大量の情報が様々な形で発信されるようになったからだ。情報発信の多様化は、情報倫理にどのような影響をもたらすのか。マスメディアが抱えてきた課題を検証しながら、新たな情報発信ツールが直面する課題との共通点や違いを考察、ネット社会を生き抜くうえで不可欠な情報との付き合い方を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	「スポーツと情報倫理」「スポーツ選手による情報発信」に関する具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、哲学的・倫理的なものの見方の習得。	他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	倫理、責任、他人（特に弱者）を思いやる心など、SNSなどを通じた情報発信がもたらしうる様々なインパクトやリスクについての考察。	情報発信がもたらしうる様々なインパクトやリスクについて様々な角度から考察し、現代社会を生き抜く知恵を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

＜提出課題およびレポートの評価基準＞
A評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
B評価：到達目標を十分に達成している。
C評価：到達目標を達成している。
D評価：到達目標を最低限達成している。
E評価：到達目標を達成していない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各授業時の提出課題 80%	：	毎回提示するテーマに対する小レポートで評価。
授業貢献 20%	：	授業時の質疑応答やケース討議での発言内容により授業貢献度を評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せず、毎回、授業資料（レジュメ）を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・規定の回数以上の授業を欠席した場合は、成績評価の対象外となる。やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・遅刻・途中退室・授業中の私語・携帯電話の使用など、他の受講生の迷惑となる行為を禁止する。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後の時間帯

場所：　授業教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ネットでの「炎上」騒動について考える。** 情報倫理について考える第一歩として、昨今の世間を騒がせている炎上騒ぎについて検証したい。実際にネット上で炎上した有名人のツイッターやインスタグラムでの発言をとりあげ、その原因を考えるとともに、ネット上で発信することのリスクについて考察する。	炎上するSNSの問題点について復習しておく。	4時間
第2回	**スクープとはなにか** 情報を発信するメディアに共通する目的はスクープである。新聞やテレビなどマスメディアにとってのスクープとはどんなものを意味するのか。ネットメディアにおけるスクープと対比させながら考察する。	新聞のスクープが社会に与えるインパクトについて考えをまとめておく。	4時間
第3回	**新聞における過去の誤報と捏造について** 過去に社会を騒がせた新聞メディアの誤報について検証する。記事はもちろん、写真報道をめぐる捏造案件についても考察する。	かつてどんな誤報と捏造があったのか、分野別に整理しておく。	4時間
第4回	**なぜ、誤報は生まれたのか** 教員が勤務した産経新聞沖縄総局の高速道路での事故をめぐる誤報について、その背景を検証する。	誤報が生じた最も大きな原因を考察し、解決策をまとめておく。	4時間
第5回	**メディアスクラムの危険性** 松本サリン事件で容疑者扱いされた無実の男性の言葉を振り返りながら、結果的に多くのメディアが誤報を重ねた背景を探る。	松本サリン事件の概要について復習し、メディアの問題点を把握しておく。	4時間
第6回	**雑誌ジャーナリズムの落とし穴** 有名人に関するスキャンダルを連発する週刊誌の存在価値と、問題点について検証する。	配布資料を精読し、週刊誌報道の最も大きな問題点を理解しておく。	4時間
第7回	**メディアの報道と名誉毀損** 報道による名誉毀損問題が法廷で問われたケースについて考える。法廷でなにが争われたのか、いくつかの判例を参照しながら検証したい。	配布資料を精読しながら、名誉毀損裁判の流れと判例を把握しておく。	4時間
第8回	**テレビジャーナリズムとやらせ問題** 報道だけではなく、バラエティ番組でもテレビの情報発信する姿勢が問われたケースは少なくない。テレビの演出はどこまで許されるのか、その境界線を探る。	配布資料を精読し、テレビジャーナリズムの問題点を整理しておく。	4時間
第9回	**ネットメディアの功罪** 新聞や雑誌の記事がインターネット配信されたことで生じた現場の問題点と、新しく生まれたネットに特化したメディアが抱える課題について考える。	ネット記事の長所と問題点について理解し、課題解決に向けたアイデアを考えておく。	4時間
第10回	**ヘイトスピーチについて考える** ヘイトスピーチが広がる背景で、インターネットはどのような役割を果たしたのか。教員の取材体験を通じ、ヘイトスピーチの現状と現場の声を検証する。	配布資料を精読し、ヘイトスピーチについての問題点を列挙しておく。	4時間
第11回	**ネット掲示板 匿名の誹謗中傷** ネット掲示板では、匿名による誹謗中傷や悪意に満ちた発言が後を絶たない。関西国際空港が孤立した台風19号で、事実無根のデマを信じた匿名のネットユーザーから誹謗中傷のコメントが殺到、自ら命を絶った台湾駐日大使のケースを検証するとともに、対策について考える。	匿名コメントがもたらす被害について自分の意見をまとめておく。	4時間
第12回	**実名報道と匿名報道** 京都アニメーション放火事件では、犠牲になった人たちの実名報道の是非が議論された。実名を報じることにどんな意味があるのか。過去に議論になったケースと重ねながら考証する。	配布資料を熟読し、スポーツジャーナリズムの変遷を理解しておく。	4時間
第13回	**ステルスマーケッティングの問題点** クライアントから報酬を受け取っている広告にも関わらず、有名人たちが個人のブログでその商品やイベントの魅力をアピールするステルスマーケティングの実例を学び、問題点について考える。	ステルスマーケティングの現状について把握し、それぞれの問題点を整理しておく。	4時間
第14回	**表現の自由とは** これまで学んできたことを振り返ったうえで、表現の自由について考える。伝える側と受けとる側がそれぞれ理解しておくべき情報の扱い方について議論する。	情報倫理と表現の自由に関して参考資料を熟読して考察しておく	4時間

SP-1021-1-2

授業科目名	法と生活（法と生活）				
担当教員名	梶居　佳広				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義は、法とは何か、それは私たちの生活とどのように関わり、そしていかなる意義を持つのかについて、日本国憲法を手がかりに考えることを目的としている。国家統治の基本を定めた法である憲法を学ぶことは、私たちの生活が依拠する「原則」を明らかにすることにもつながる。講義内容の理解を深める材料として関連の時事問題を適宜紹介する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	法・人権に関する知識	歴史的背景も踏まえたうえで法・人権の意義を理解することができる
２．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	日本国憲法に関する知識	日本国憲法の人権・統治規定の特徴を理解することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

1.最終試験の出来で評価する予定ですが、２，COVID-19感染拡大で試験が実施出来ない場合は最終レポートをメインに評価します。1. の場合は「成績評価の方法・評価の割合」の通りです。2の場合は毎回提出してもらうコメントの比重が高くなることを留意してください（最終レポート60%，日常点＝毎回のコメント40%の予定）。なお規定回数以上の提出がなければ「放棄」とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
最終試験	70%	： 授業内容を理解しているか、または授業を踏まえたうえで自己の見解をまとめられているか。
毎回のコメント	30%	： コメント提出をもって出席とみなします（毎回の講義終了後、提出してもらいます）。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

（重要）履修者全員に購入を義務付ける指定教科書はありませんが、高校時代の政治経済ないし現代社会の教科書を参照するといいと思います。仮に高校時代の教科書を持っていない場合、1.『もういちど読む山川政治経済（新版）』（山川出版社）、2.『高校から大学への憲法』（法律文化社）が有益でしょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室並びにメール

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、法、憲法とは何か**	①法と道徳の相違、憲法の定義についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べ自分の意見をまとめる。	4時間

	「法」と道徳の違いを学びながら法と日常生活の関わりを考える。また憲法の定義についても調査する		
第2回	**人権獲得・憲法の歴史（前編）** 人権獲得と近代憲法が成立した歴史を学ぶ。前編は市民革命を経て19世紀まで。	①人権獲得・憲法の歴史（前編）についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第3回	**人権獲得・憲法の歴史（後編）** 人権獲得と近代憲法が成立した歴史を学ぶ。後編は主として20世紀であるが、日本国憲法の制定にも触れる。	①人権獲得・憲法の歴史（後編）についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第4回	**国民主権と天皇制** 日本国憲法の3大原則の１つである国民主権について、天皇制の現状（天皇の地位）、国民の定義も併せて学ぶ。	①国民主権、天皇についての配布レジュメ･資料の見直し　②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第5回	**平和主義（前編）** 日本国憲法の３大原則の１つである平和主義（第９条）について、前編は歴史的経緯と９条の制定までについて学ぶ。	①平和主義全般、第９条制定についての配布レジュメ･資料の見直し　②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第6回	**平和主義（後編）** 第5回に引き続き、憲法の平和主義、特に憲法第９条の解釈、自衛隊・日米安全保障条約との関係について学ぶ。	①安全保障並びに憲法第9条の解釈についての配布レジュメ、資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第7回	**基本的人権・人権総論** 日本国憲法の３大原則である基本的人権について、まず人権の分類の他、「公共の福祉」、平等について学ぶ。	①人権全般、「公共の福祉」、平等についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第8回	**基本的人権・自由権** 「自由権」の性質や種類を踏まえて、主として精神的自由・身体的自由について判例を交えながら学ぶ。	①自由権（特に精神的自由）についての配布レジュメ･資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第9回	**基本的人権・社会権** 社会権が成立した時代背景を学ぶとともに、生存権や勤労権の意義について学ぶ。	①社会権（特に生存権、勤労権）の意義についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第10回	**国民の政治参加** 間接民主制、統治機構全体の特徴も踏まえつつ、憲法で規定されている国民の政治参加（国政選挙、地方自治）について学ぶ。	①国民の政治参加とその仕組みについての配布レジュメ･資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第11回	**権力分立：立法（国会）と行政（内閣）** 「権力分立」の原理を踏まえつつ、立法、行政双方の権能、並びに両者の関係について学ぶ。	①権力分立、特に立法と行政も関係についての配布レジュメ･資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第12回	**権力分立：司法** 立法権・行政権との違いを念頭に置きつつ司法権の意義と役割を学ぶ。	①司法権の意義と役割についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる	4時間
第13回	**基本的人権・新しい人権** 「新しい人権」について学んでいきます。また人権に関するポイントの再確認を行う。	①「新しい人権についての配布レジュメ･資料の見直し。　②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間
第14回	**憲法改正の動き並びにまとめ（法と生活をめぐる現代的課題）** 日本国憲法改正の動きをおさえることで，同時にこれまでの学習のまとめを行う。	①憲法改正についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。	4時間

SP-1022-1-2

授業科目名	産業と社会（産業と経済）				
担当教員名	児山　俊行				
学年・コース等	1～4	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

21世紀の世界はグローバル化が進み、ヒト・モノ・カネ・情報が地球上をダイナミックに動くようになっています。わが国・日本の産業社会も高度経済成長期から長い間にわたり発展してきましたが、「バブル経済」とその崩壊、さらには「100年に1度」と言われた金融危機、さらに毎年のように自然災害に見舞われさ、さらには世界的パンデミックがおさまらないなど、大きな曲がり角に来ています。このような現代の産業社会を、様々に行き交う情報に惑わされることなく、どのような「眼」で見ていけば良いのでしょうか。この授業では、その基本的な「視点」「視角」を養うことを目的とします。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP11.忠恕の心	経済・産業の様々な事例を通じて、貨幣・利益至上主義でなくステークホルダー重視の社会貢献行動が持続的発展につながることを学ぶ。	社会のための活動が自らの成長発展につながることを体得できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	10%	： 授業中での授業参加度や質疑応答への積極性で評価する。
授業ごとのレポート	60%	： 授業内容の理解度と論旨の明確さで評価する。
課題レポート	10%	： 課題の理解度と論旨の明確さで評価する。
最終レポート	20%	： 課題の理解度と論旨の明確さで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回の授業内容に関連したものをその都度紹介する（その文献についてレポートを自由に提出しても良い）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日昼休み

場所： 非常勤講師室

備考・注意事項： 質問は　koyama_t@osaka-seikei.ac.jp　まで。学籍番号、氏名、件名を忘れないこと。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**おカネと商品について** 現代の産業社会を支える貨幣・商品・利潤の意味内容について学ぶ	社会の中で「商品」であるものとないものを区別して調べ、その基準について考える。	4時間

第2回	**国の「豊かさ」とは** GDPとGNHの違いから国に豊かさについて考える。	ブータン王国のGNH指標とその政治機構について調べる。	4時間
第3回	**「働く」とは何か** 労働とは何かについて学ぶ。	リストラや長時間労働、ブラック企業について何が問題になっているかを調べる。	4時間
第4回	**産業や生活の「インフラ」の重要性** 産業社会を支えるインフラの重要性について学ぶ。	近年の水道管や橋脚などの事故を通してインフラの老朽化問題について調べる。	4時間
第5回	**「労使協調」と日本企業のイノベーション** 利潤の源泉である労働とそれを司る経営のあるべき関係について日本企業のイノベーションから見る	現在の有名な日本企業のルーツについて調べる。	4時間
第6回	**企業の社会的責任（CSR）** 企業不祥事を通じて基本的CSRについて学ぶ	最近の企業不祥事事例の全体像と原因について調べる。	4時間
第7回	**経営理念は必要か** 経営理念の有無と企業発展との関連	有名な日本企業の掲げる経営理念を調べ、それぞれを比較検討する。	4時間
第8回	**サステナビリティ経営** 地球環境や様々な利害関係者と調和する経営について学ぶ。	日本の大企業を一つ選び、その環境対策や福利厚生、株主対策、地域貢献などを調べる。	4時間
第9回	**日本製造業の危機？** 日本の家電メーカーの苦境の背景と要因について学ぶ。	日本の有名家電メーカーの主力商品の世界シェアの変遷を調べ、家電量販店での陳列や売れ行きについて店員より聞き取りを行う。	4時間
第10回	**現代のイノベーション～ジョブズに学ぶ** スティーブ・ジョブズを通じて、現代のイノベーションの特徴と社会文化への影響について、日本企業の製品開発と比較して学ぶ。	アップル社の歴史及びジョブズの行跡について調べる。	4時間
第11回	**新たなメーカーたちの登場** 新たなプレイヤーである海外の新興メーカーの台頭や社会現象となった個人の「メイカー」たちを通じて現代産業の変化について学ぶ。	日本市場で人気の海外メーカー製品について調べ、家電量販店での売れ筋とその要因をヒアリングする。	4時間
第12回	**メイド・イン・チャイナの衝撃** 21世紀となり、瞬く間に成長を遂げた中国企業の成長のプロセスと要因、支えている社会環境について学ぶ。	中国の世界シェアトップの企業を調べ、日本企業と比較する。	4時間
第13回	**意味のイノベーション～イタリアに学ぶ** メイド・イン・イタリーを通じて、意味のイノベーションの特徴と社会文化への影響について学び、日本企業への示唆を考える。	イタリア製のブランドについて種類とルーツを調べ、その魅力についてヒアリングする。	4時間
第14回	**ソーシャルビジネスと社会起業家** 様々な社会問題（スポーツ関連分野も含む）にアプローチする社会起業家を通じてソーシャルビジネスの特徴について学ぶ	ソーシャルビジネスと社会起業家について、日米での具体的事例をいくつか調べた上で、その基本的特性をおさえておく。	4時間

SP-1023-2-2

授業科目名	**職業としてのスポーツ**				
担当教員名	井口　徹郎				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	株式会社ベネッセコーポレーションに29年間勤務。ベネッセでは、高校・大学を対象とした教育事業や高齢者介護事業のエリア責任者等を経験。社員の採用や教育・研修等の業務も担当した。				

授業概要

この科目の目的は「スポーツを職業とする」場合のキャリア設計を考えることである。
そのために、スポーツ関連の職業に就いている社会人を外部講師として招き、講義を行う。
外部講師からは仕事の紹介と共に、仕事に関連した課題が出される。
その課題に対して、5名程度のグループ単位で検討し、検討結果を外部講師に対してプレゼンテーションを行うという流れで進行する。
自主的に情報収集し、積極的にグループワークに参加する姿勢が求められる。
授業は「職業としてのスポーツ①」「職業としてのスポーツ②」の2つに分け、別の曜日・時限で実施する。
①と②では外部講師が変わるので、時間割表等で外部講師の業種等を確認の上、科目登録を行うこと。
①と②の同時履修はできないので、注意すること。
履修定員は①②各50名とする。履修希望者が定員を超えた場合は抽選とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツに関連する職業観の確立	「スポーツを職業とする」場合のキャリア設計、人生設計のあり方について考え、自分の方向性を具体化できる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	社会で必要なチームワーク・リーダーシップの獲得	学生同士のグループワークや外部講師との意見交換等で課題解決策を検討することで、チームワークやリーダーシップの重要性を学ぶ。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	スポーツを軸としたキャリア設計力の修得	本科目を通して得たキャリア形成の実例や課題解決のグループワーク等から、現実的なキャリア設計ができる力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の授業レポート（全14回） 40%	：	授業での学びを、いかに自分の希望進路や将来設計と結び付けて振り返れているかを評価する。
課題レポート（全5回） 40%	：	テーマに対して、独自の観点から論じられているか、論理的に記述されているかを評価をする。
グループワーク、プレゼンテーションへの参加態度 20%	：	積極的に参加しているかを評価する。グループワークでの発言、資料作成・プレゼンテーションでの態度、授業中の質問・意見発表等を評価対象とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『スポーツを仕事にする！』（生島淳著、ちくまプリマー新書、2010年）

履修上の注意・備考・メッセージ

【科目登録に関する注意】
授業は「職業としてのスポーツ①」「職業としてのスポーツ②」の2つに分け、別の曜日・時限で実施する。
①と②では外部講師が変わるので、時間割表等で外部講師の業種等を確認の上、科目登録を行うこと。
①と②の同時履修はできないので、注意すること。
履修定員は①②各50名とする。履修希望者が定員を超えた場合は抽選とする。
【履修上の注意】
授業はグループワークを基本として進行する。
自主的に情報収集し、積極的にグループワークに参加する姿勢が必要である。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の目的（スポーツを職業にするということ）** (1)授業の目的と構成 (2)授業の進め方 (3)評価方法 (4)スポーツを職業にするということ（グループワーク）	復習：この授業で学びたいことを考えて授業レポートに記入する。	4時間
第2回	**課題解決策の検討Ⅰ（スポーツ関連の教育施設運営会社／プロスポーツチームの運営会社）** 【外部講師（１人目）による特別講義】 (1)仕事の特徴、業界・企業・業務内容等の説明 (2)キャリア形成の実例 (3)質疑応答 (4)外部講師からの課題提示 ■課題レポート①「課題に対する私の考え」（提示された課題に対する現時点での考え）	復習：課題レポート「課題に対する私の考え」を提出する。	4時間
第3回	**課題解決策の検討Ⅰ（情報収集・課題の検討）** (1)グループワークの進め方 (2)プレゼンテーション・スキル (3)課題に関する情報収集 (4)課題に対する検討	予習：外部講師の企業・業界について情報収集しておく。	4時間
第4回	**課題解決策の検討Ⅰ（課題の検討・課題解決策のまとめ）** (1)課題に対する検討 (2)課題解決策のまとめ (3)発表資料の作成	復習：グループの検討内容を整理して自分の結論を準備しておく。	4時間
第5回	**課題解決策の検討Ⅰ（課題解決策のまとめ・発表準備）** (1)課題解決策のまとめ (2)発表資料の完成 (3)発表準備	予習：プレゼンテーションの準備・練習を行っておく。	4時間
第６回	**課題解決策の検討Ⅰ（課題解決策の発表）** 【外部講師（１人目）に対するプレゼンテーション】 ①課題解決策の発表（各グループからプレゼンテーション） ②外部講師からの講評 ■課題レポート②「課題に取り組んで」（課題に取り組んで気づいたことや得たものなど）	復習：課題レポート「課題に取り組んで」を提出する。	4時間
第7回	**課題解決策の検討Ⅰ（振り返り）** (1)課題解決策の検討Ⅰの振り返り (2)業界・企業・職種の特徴	復習：将来の進路を自分の興味・関心と合わせて検討し、授業レポートに記入する。	4時間
第8回	**課題解決策の検討Ⅱ（市役所のスポーツ振興部門／身体機能回復を行う医療施設）** 【外部講師（２人目）による特別講義】 (1)仕事の特徴、団体・業務内容等の説明 (2)キャリア形成の実例 (3)質疑応答 (4)外部講師からの課題提示 ■課題レポート③「課題に対する私の考え」（提示された課題に対する現時点での考え）	復習：課題レポート「課題に対する私の考え」を提出する。	4時間
第9回	**課題解決策の検討Ⅱ（情報収集・課題の検討）** (1)課題に関する情報収集 (2)課題に対する検討	予習：外部講師の団体・業界について情報収集しておく。	4時間
第10回	**課題解決策の検討Ⅱ（課題の検討・課題解決策のまとめ）** (1)課題に対する検討 (2)課題解決策のまとめ (3)発表資料の作成	復習：グループの検討内容を整理して自分の結論を準備しておく。	4時間
第11回	**課題解決策の検討Ⅱ（課題解決策のまとめ・発表準備）** (1)課題解決策のまとめ (2)発表資料の完成 (3)発表準備	予習：プレゼンテーションの準備・練習を行っておく。	4時間
第12回	**課題解決策の検討Ⅱ（課題解決策の発表）** 【外部講師（２人目）に対するプレゼンテーション】 ①課題解決策の発表（各グループからプレゼンテーション） ②外部講師からの講評 ■課題レポート④「課題に取り組んで」（課題に取り組んで気づいたことや得たものなど）	復習：課題レポート「課題に取り組んで」を提出する。	4時間

第13回	**課題解決策の検討Ⅱ（振り返り）** (1)課題解決策の検討Ⅱの振り返り (2)公務員の仕事、公共的な仕事の特徴	復習：将来の進路を自分の興味・関心と合わせて検討し、授業レポートに記入する。	4時間
第14回	**全体振り返り** (1)全体の振り (2)返り新卒採用・キャリア採用 (3)就職活動 ■課題レポート⑤「将来を見つめて」（将来のキャリア設計・人生設計について、現在の考えを整理する）	課題レポート「将来を見つめて」を提出する。	4時間

SP-1024-1-2

授業科目名	地域福祉とボランティア（地域福祉とボランティア）				
担当教員名	齋藤　誠一				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害者の作業所で地域福祉に従事、障害者の地域生活支援、障害者の芸術活動支援、救護施設での支援等の実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

日本における「地域福祉」の理念を理解するとともに、ボランティア活動の意義を理解する。
地域社会の中で生きづらさを抱える人と地域社会との関係にある様々な「障害」について理解を深める。
先駆的な福祉実践や身近なボランティア活動について映像等を通して学びを深め、自身がかかわれるボランティア活動について検討するとともに実際に活動に参加する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	講義を通して、地域社会に現存する「障害」について理解する。	「障害」とは何か。「障害」について、自分はどう考え、何ができるのかを自身の言葉で語れるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

講義の期間中に、自身で選択したボランティア活動に参加し、その体験をレポート＆スピーチしてもらいます。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の講義後の小レポート 40%	：	講義で理解した内容、講義を受け考えた自身の意見等をきちんと述べられているか。
講義への参加態度 20%	：	集中して講義に取り組んでいるか。グループワークの議論に進んで参加しているか。
ボランティア体験に関するスピーチ（資料原稿） 40%	：	体験の概要及び体験の意義や自身の考えを伝える資料、口述となっているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

講師が、高齢者や障害者の直接支援者であるため、新型コロナウイルス感染症が終息していない場合は、遠隔授業の実施やボランティア体験を中止等、シラバスの変更もあり得ること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後
場所：　授業実施教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義１　オリエンテーション（福祉への関わりについて）**	講義の内容の振り返り、地域福祉や人権について調べる	4時間

	講義受講についての注意事項等を連絡 講師がこれまで関わってきた福祉活動の紹介を通じて、福祉への関わりのきっかけについて気づく。 支援を受けるだけの存在として認知されがちな障害のある人が持つ可能性について気付くことを目的に、障害者と芸術表現についてのビデオ視聴する。		
第2回	**講義２　人権と地域福祉** 日本における人権について、法や条例の条文から理解する。 地域福祉を理解するー地域とは何か。福祉とは何か。 地域福祉の概念、歴史などを理解する。	人権、地域福祉について復習するとともに糸賀一雄氏について調べる	4時間
第3回	**講義３　滋賀の障害福祉について** 障害者のへの支援に留まらず、共生社会を実現しようとした滋賀の障害福祉を理解する。 ビデオ視聴「この子らを世の光に」（ＮＨＫビデオアーカイブから）	滋賀の障害福祉について復習する	4時間
第4回	**講義４　ボランティア活動について** ボランティア活動を理解するーその歴史と現況。 ボランティアの概念や意義、多様なボランティア活動について理解する。 ボランティア活動の実践に向けて、グループワークを行う。	自身が取り組みたいボランティア活動について考え、参加の方法を調べる	4時間
第5回	**講義５　障害を理解する①　障害とは何か** 障害の概念、日本における障害者観の変遷について理解する。 現在の障害の定義（ICF国際生活機能分類）について理解する。	ＩＣＦ（国際生活機能分類）について復習し、さらに理解を深める	4時間
第6回	**講義６　障害を理解する　②障害の種類** 障害の種類（知的障害、精神障害、身体障害、高次脳機能障害、発達障害等）とその概要について理解する。 映像を視聴し、その事例をもとに、障害の捉え方、障害者へのかかわり方についてグループディスカッションする。	障害の種類と概要について復習し、さらに理解を深める	4時間
第7回	**講義７　見えにくい障害①（発達障害について）** 発達障害者福祉の現状、社会的課題について理解する。 外から見えにく障害ならではの生きづらさについて理解する	精神障害について復習するとともに発達障害に関することを調べる	4時間
第8回	**講義８　見えにくい障害②（高次脳機能障害について）** 近年、注目を集める高次脳機能障害の現状や社会的課題について理解する。 発達障害に並び見えにくい障害とされる高次脳機能障害の生きづらさについて 理解する。	発達障害に関して復習するとともに高齢者の福祉について調べる	4時間
第9回	**講義９　高齢者の福祉と認知症について** 高齢者福祉と認知症について 少子高齢社会における、高齢者のケアと地域福祉について考える。	高齢者福祉を振り返るとともに生活困窮者支援について調べる	4時間
第10回	**講義１０　生活困窮者支援について①** 身近であるはずなのに、見えにくい生きづらさを抱える 生活困窮者の福祉について、その現状と課題について理解する。 ホームレスのリアルを捉えたドキュメンタリー映像を一部視聴し、その理解を深める	これまでの講義の内容の復習及びボランティア活動への参加	4時間
第11回	**講義１１　ボランティア体験を語る（準備）** ボランティアへ参加した体験を1人3～5分程度スピーチを行うため、その準備および発表練習を行う。	ボランティアへの参加体験についてプレゼンする資料をまとめる	4時間
第12回	**講義１２　ボランティア体験を語る①** ボランティアへ参加した体験を1人3～5分程度スピーチを行い、質疑応答や他者の活動評価を行うことを通して、ボランティア活動の意義を再発見する。	授業の復習及び体験のプレゼン資料をまとめる	4時間
第13回	**講義１３　ボランティア体験を語る②** ボランティアへ参加した体験を1人3～5分程度スピーチを行い、質疑応答や他者の活動評価を行うことを通して、ボランティア活動の意義を再発見する。	これまでの資料を復習しておく	4時間
第14回	**講義１４　まとめの講義** 地域社会で生きづらさを抱える人と地域社会との関係の中にある「障害」について また、その「障害」を踏まえて、共生社会を実現するためのボランティア活動の意義について、講義や体験を振り返りながら改めて理解する。	講義全体を振り返る	4時間

SP-1025-2-2

授業科目名	**現代社会と政治**				
担当教員名	梶居　佳広				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、（歴史的背景も含めた）現代日本政治に関する教養科目であり、民主的な社会生活の維持・発展に果たす政治の役割を学び理解することを目的とします。具体的には日本政治の基本的な仕組みと運用について説明します。日本は現在,日本国憲法の下、デモクラシー（民主政治）を採用していますが、「国民の声が政治に反映されない」という不満、また国民の間で政治的無関心が増大しているといわれます。「よりよい政治」を実現するためどうすればいいか、いっしょに考えてみましょう。なお担当者が政治史・憲法史専攻であるため、やや「歴史」寄りの講義になることは了解してください。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	日本政治の歴史・制度・運用の理解	日本の政治をみる上で必要な知識（特徴と課題）を理解する。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	現実政治への接近・関与についての考察	規範的な視点から現実の政治事象について把握し判断を下せる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

1.最終試験の出来で評価する予定ですが、２，COVID-19感染拡大で試験が実施出来ない場合は最終レポートをメインに評価します。1. の場合は「成績評価の方法・評価の割合」の通りです。2の場合は毎回提出してもらうコメントの比重が高くなることを留意してください（最終レポート60%、日常点40%の予定）。なお規定回数以上の提出がなければ「放棄」とみなし成績評価を「不可」とします。また私語など明らかなマナー違反があった場合は，欠席とみなすことがあります。注意しましょう。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
最終試験（レポート） 70%	：	授業内容を理解しているか、または授業を踏まえたうえで自己の見解をまとめられているかを評価する。
毎回のコメント 30%	：	コメント提出をもって出席とみなします（毎回の講義終了後、提出してもらいます）。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

（重要）履修者全員に購入を義務付ける指定教科書はありませんが、高校時代の政治経済ないし現代社会の教科書を参照するといいと思います。仮に高校時代の教科書を持っていない場合、1.『もういちど読む山川政治経済（新版）』（山川出版社）がいいでしょう。もうすこし政治について調べたい方は、2.『ポリティカル・サイエンス入門」（法律文化社）、3.『18歳から考える日本の政治』（法律文化社）あたりが有益でしょう。さらに民主主義（デモクラシー）について考えたい方は宇野重規『民主主義とは何か』（講談社現代新書）がお勧めです。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。なお1回生配当の「法と生活（日本国憲法）」で得た知見も役に立つでしょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室　メール

備考・注意事項：　メールの場合、講義担当者が最も頻繁に閲覧・利用している
ykt21855@pl.ritsumei.ac.jp
に連絡するのが一番確実と思います。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション並びに「政治」とは？** 授業の概要、進め方、成績評価の基準を説明するとともに、政治（学）とは何かについても学びます。余力があれば「デモクラシー」についても説明する予定です。	①事前にシラバスをよく読んでおく　②政治、デモクラシーについての配布レジュメ・資料の見直し、③授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第2回	**戦後日本政治の歴史　その1** 戦後日本政治の歴史について、前半は占領から高度経済成長までの歩みを学んでいきます。具体的には、占領改革と冷戦・講和、「55年体制」と高度経済成長をおさえていきます。	①戦後日本政治史（前半）についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第3回	**戦後日本政治の歴史　その2** （第2回に引き続き）戦後日本政治の歴史について、後半は高度経済成長終焉以降を学んでいきます。具体的には、低成長期と新自由主義の台頭、冷戦の終焉（1989年）、「55年体制」の崩壊（1993年）と政治行政改革の展開をおさえていきます。	①戦後日本政治史（後半）についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第4回	**政治体制・制度** 第1～3回までの歴史的背景の説明を受け、政治体制・制度を整理していきます。具体的には民主主義体制と非民主主義体制、議院内閣制と大統領制についておさえていきます。余力があれば、日本における首相のありようについても学んでいきます。	①政治体制・制度についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。。	4時間
第5回	**選挙と政党（その1）** 主権行使・政治参加の手段である選挙、国家・社会と個人をつなぐパイプ役といえる政党について学んでいきます。前半は歴史的展開、選挙制度と政党システム（政党制）をおさえていきます。	①選挙と政党（その1）についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第6回	**選挙と政党（その2）** 第5回に引き続き、選挙と政党について学びます。後半は投票行動を押えた上で、日本の状況（小選挙区比例代表制並立型、一党優位など）を学んできます。（第13回でも触れますが）投票率の問題も紹介します。	①選挙と政党（その2）についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第7回	**議会（立法）** （日本においては主権を持つ国民の代表者からなる）議会の権能・歴史、日本における国会の特徴について学んでいきます。余力があれば二院制（の是非）についても考えていきます。	①議会・立法についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第8回	**行政・官僚制** 議会（政治家）が決定した事柄・政策を実際に執行する行政、官僚制について学んでいきます。その際、20世紀になって「立法から行政へ」政治の主導権が移ったことに注目し、政治と行政の関係も考えていきます。	①行政・官僚制についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第9回	**利益集団・圧力団体** 政治過程で活動している集団である利益集団（圧力団体）について学んでいきます。具体的には、組織化・活動の必要性、種類、活動内容と影響をおさえます。	①利益集団・圧力団体についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第10回	**マスメディアと政治** マスメディアの（政治的）役割と現実政治との関係について、歴史的な展開（新聞、テレビ、ネット）も重視しながら、学んでいきます。	①マスメディアと政治についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第11回	**地方政治** 地方政治の意義に言及した上で、日本の地方政治の特徴（地方自治の本旨、二元代表制、直接請求権）と課題について学んでいきます。	①地方政治についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第12回	**国際政治** 国際政治の特徴を簡単に学んでいきます。具体的には、国内政治との違い、平和維持の方法を中心に、歴史的展開もまじえつつ考えていきます。	①国際政治についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間
第13回	**政治参加** 選挙における低い投票率など、日本人は政治への関心が低いとされますが、これまでの授業も踏まえた上で、政治参加の方法・ありようについて考えていきます。	①政治参加についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間

第14回	**まとめ・日本政治の課題** これまでの13回の講義をうけて、日本政治の課題について改めて考えていきます、同時に今回の講義のまとめも行います。	①政治、デモクラシーについての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べて自分のコメントをまとめる。	4時間

SP-1026-2-2

授業科目名	**現代社会とジャーナリズム（現代社会とジャーナリズム）**				
担当教員名	城島　充				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

ジャーナリズムとは何か。誰もが日々を生きるうえで密接なつながりを持たざるをえないメディアの役割と歴史、現在におけるを学ぶ。新聞や雑誌などの活字ジャーナリズム、テレビなどの映像ジャーナリズム、そしてインターネットにおけるジャーナリズムを研究、それぞれの取材手法を学び、特徴や問題点について考える。そのときどきの話題になったニュースも取り上げ、ジャーナリズムの機能がどのように働いたか、具体的な記事や映像をテキストにして学びたい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツジャーナリズムに関する幅広い知識の習得。	新聞、テレビ、インターネットなどで報じられる日々のニュースを理解し、将来の目標設定につなげる。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	日々のニュースが取り上げる事象を深く考察し、その背後にある社会的な問題点や課題についての考察。	現代社会が抱えるさまざまな問題に対し、ジャーナリズムの存在価値、役割を理解しながら自らの視点で考察、現代社会を生き抜く知恵を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各授業時の提出課題	100%	： 講義内容の理解度について毎回小レポートを提出し、それぞれの講義テーマで、ジャーナリズムについての見識をどこまで深めたかを問う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

新聞や雑誌記事のコピー、テレビドキュメンタリーのDVDなどを活用する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業実施教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびジャーナリズムの概説** スケジュール、評価方法、講義の進め方などを説明し、新聞、雑誌、テレビ、インターネットで報じられるニュースについてそれぞれの特徴について解説、その違いを理解するとともにジャーナリズム全般に対する問題意識を持つ。	講義の内容をしっかりと復習しておく。	4時間
第2回	**新聞社の組織と時代の変化** 新聞社の組織や機能について学び、その変化と課題について学ぶ。	新聞社の機能、課題についてしっかりと復習しておく。	4時間

第3回	**新聞記者の取材手法を学ぶ** 事件記事や連載企画記事が紙面に掲載されるまでの準備や取材、執筆、校閲、レイアウトにいたるまでの実態と全体の流れを教員の体験から検証する。	配布資料を精読し、講義内容を復習しておく。	4時間
第4回	**雑誌ジャーナリズムについて学ぶ** 出版社や新聞社が発刊している週刊誌報道について考える。週刊誌に求められるものはなにか、実際にどんな過程で記事が完成していくのか、教員の取材、執筆体験を重ねながら検証する。	配布資料を精読し、講義内容を復習しておく。	4時間
第5回	**新聞と雑誌ジャーナリズムの違い** 同じ活字メディアでありながら、新聞と雑誌の役割、抱える問題点は違う。大相撲の八百長問題などを例にその違いを検証し、それぞれがあるべき姿を考察する。	配布資料を精読し、講義内容をしっかりと復習しておく	4時間
第6回	**報道写真について考える** 一枚の写真で社会を切り取る報道写真について考える。歴史に刻まれた写真を振り返りながら、デジタルカメラやスマートフォンのカメラ機能の充実で、報道写真にどんな変化が起きているのかを検証する。	配布資料を精読し、報道写真の価値について復習しておく	4時間
第7回	**テレビジャーナリズムについて考える** テレビ局の組織や報道、ドキュメンタリーを制作する流れを検証し、その歴史や変化を踏まえながら今後のあるべき姿を考察する。	配布資料を精読し、テレビの役割について復習しておく	4時間
第8回	**ネットジャーナリズムについて考える** インターネットの普及により、急速に発展してきたネットジャーナリズムについて検証する。旧来のジャーナリズムとの違い、その問題点について学びたい。	配布資料を精読し、ネットジャーナリズムについて復習しておく	4時間
第9回	**災害報道におけるジャーナリズム** 東日本大震災が発生したとき、ジャーナリズムはどんな役割を果たしたのか。阪神淡路大震災のときの報道を振り返りながら、当時の教訓が生かされているのかを検証、新聞、雑誌、テレビ、ネットジャーナリズムがそれぞれ取り組むべき災害報道について考察する。	配布資料を精読し、震災報道について復習しておく	4時間
第10回	**スポーツジャーナリズムについて考える** 新聞の運動面やスポーツ新聞、スポーツ雑誌、テレビやラジオ、ネットといったあらゆる媒体におけるスポーツ報道について検証する。	配布資料を精読し、スポーツ報道について復習しておく	4時間
第11回	**SNSの発達とジャーナリズム** 取材対象者や読者、視聴者たちが個人の意見を発信するSNSの発達が、既存のジャーナリズムに与えた影響について考える。	配布資料を精読し、SNSとジャーナリズムについて復習しておく	4時間
第12回	**地域ジャーナリズムの意義** 全国紙と呼ばれる新聞やキー局と呼ばれる東京のテレビ局とは違い、独自の報道を貫く地元紙やブロック紙、ローカル局の報道について検証する。	配布資料を精読し、地方ジャーナリズムについて復習しておく	4時間
第13回	**記者クラブ制度について考える** 世界でも他にはない日本の記者クラブ制度について、教員の体験をベースにしながら、実際にどんな形に運営され、各社の記者たちはどんなことをしているのかを検証、その功罪と、今後あるべき姿について考察する。	配布資料を読み込み、記者クラブ制度について復習しておく	4時間
第14回	**イデオロギーとジャーナリズム** 公正中立が大原則のジャーナリズムだが、その報道スタンスは各新聞社やテレビ局によって明らかに異なる。イデオロギーがジャーナリズムに与える影響について考察しながら、今まで学んできたジャーナリズムに関する理解を深めていく。	配布資料を精読し、イデオロギーとジャーナリズムについて復習しておく	4時間

SP-1027-1-2

授業科目名	滋賀の歴史と文化				
担当教員名	森　雄二郎				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

滋賀県は近畿・東海・北陸といった文化圏の中間に位置し、京都・大坂への物資や人材の供給源および中継地として、畿内と東国・北国とを結ぶ交通の要衝として日本史に度々登場する地域である。また、日本最大の淡水湖である琵琶湖を中心とした文化を育んできた。本授業では、このような様々な滋賀県が持つ独自の風土や歴史文化に関する理解を深めることを目的とする。また、それらを踏まえて、これからの滋賀県の未来像を政策的な視点からも考察する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	滋賀県という具体的な地域に関する知識と実践力	滋賀県に関する知識や情報を得て、地元あるいは関係している地域課題に主体的に関わろうとする意識を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)

・琵琶湖博物館をはじめとする滋賀県内の博物館や民俗資料館を訪問し、滋賀県の歴史文化に関するレポートを作成すること。（対象施設等の詳細は授業内で指示する）
・現地までの交通費、入館料などは自己負担とする。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として、講義（10回）に毎回出席した上で、フィールドワーク（４回分）に参加すること。あわせて規定回数以上の出席がなければ、成績評価を不可（不合格）とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の参加度	40%	： 授業および配信資料に対する取り組み状況を総合的に評価する。
授業内レポート	60%	： 講義終了後に授業内容に関する小レポートや授業外課題を課す(10%)。フィールドワーク終了後にその成果をまとめたレポートを課す(30%)。最終授業において、授業全体の理解度を確認する総括レポートを課す(20%)。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内において適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる（計60時間）。「授業外課題」に取り組むことに加え、毎回の復習と予習を行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　教室
備考・注意事項：　授業に関する質問等は、原則授業内か授業の前後に受け付ける。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・滋賀県に関するイメージの共有** 科目担当者の自己紹介と授業の進め方、評価方法などを説明する。 また、グループワークを通じて、受講生同士で受講動機や多文化共生に対するイメージなどの共有を図る。	シラバスを確認し、自らの受講動機、滋賀県に対するイメージなどを発表できるように準備しておくこと	4時間
第2回	**地域特性の把握①** 滋賀県の地理的特徴について解説する。	滋賀県の地理的特徴について調べておくこと	4時間
第3回	**地域特性の把握②** 滋賀県の歴史文化的特徴について解説する。	滋賀県の歴史文化的特徴について調べておくこと	4時間
第4回	**地域資源の活用①** 古民家や文化財を利活用した地域づくりの実践事例について解説する。	事前に紹介する地域づくりの事例について調べておくこと	4時間
第5回	**地域資源の活用②** 自然環境を利活用した地域づくりの実践事例について解説する。	事前に紹介する地域づくりの事例について調べておくこと	4時間
第6回	**琵琶湖の保存と活用①** 琵琶湖の成り立ちから変遷について解説する。	琵琶湖の成り立ちについて調べておくこと	4時間
第7回	**琵琶湖の保存と活用②** 琵琶湖の保全と活用について解説する。	琵琶湖の保全活動について調べておくこと	4時間
第8回	**滋賀県内歴史文化施設フィールドワーク** 滋賀県内歴史文化施設フィールドワーク	事前に配布する授業資料および参考資料をもとに滋賀県に関する基礎情報を調べておくこと	4時間
第9回	**滋賀県内歴史文化施設フィールドワーク** 滋賀県内歴史文化施設フィールドワーク	事前に配布する授業資料および参考資料をもとに滋賀県に関する基礎情報を調べておくこと	4時間
第10回	**滋賀県内歴史文化施設フィールドワーク** 滋賀県内歴史文化施設フィールドワーク	事前に配布する授業資料および参考資料をもとに滋賀県に関する基礎情報を調べておくこと	4時間
第11回	**滋賀県内歴史文化施設フィールドワーク** 滋賀県内歴史文化施設フィールドワーク	事前に配布する授業資料および参考資料をもとに滋賀県に関する基礎情報を調べておくこと	4時間
第12回	**滋賀県の政策的課題①** 滋賀県における行政や政策的課題（観光）について解説する。	滋賀県の観光業について調べておくこと	4時間
第13回	**滋賀県の政策的課題②** 滋賀県における政策的課題（移住支援）について解説する。	滋賀県の移住支援について調べておくこと	4時間
第14回	**まとめ「滋賀県の将来像について」** これまでの講義やフィールドワークの成果を踏まえて、滋賀県の展望について考察する。	これまでの授業資料や参考資料をもとに、これからの滋賀県の未来像について、具体的に言及できるようにしておくこと	4時間

SP-1028-1-2

授業科目名	スポーツ科学のための基礎自然科学（身近な自然科学）				
担当教員名	禰屋・秋武				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	禰屋：日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Sports Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事等の実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツ科学を学習するためには基礎的な生物学の知識が必要である。生物学の知識を基盤にヒトの身体構造や機能、またその応用となるスポーツパフォーマンスやトレーニングへの理解が深まる。
特に、細胞や遺伝子の働きに関する知識は中学校や高校の保健体育の授業の健康や感染症、生殖の分野と関連しています。これらの知識を習得することは中学生、高校生の保健体育の授業やスポーツ活動を指導する上で不可欠である。
この授業では前半期に主として生物学、後半期に物理学の概要を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ科学の理解を深めるために基盤となる生物学・物理学	生物学・物理学的観点からスポーツ科学を理解する際に必要な基礎的知識および保健・体育理論で扱う教材に応用できる
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	生物の一種としてのヒトを取り巻く環境に対する様々な生体反応	生物体としてのヒトの構造や機能、環境に対する反応を理解できる
3 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツとは身体の運動であり、生命体としてのヒトの身体の仕組みを学ぶ	生命科学の基礎的な知識を習得できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業内テスト、中間テストおよび学期末の試験により評価する

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回授業の理解度チェック（生物学） 30%	：	毎回授業の最後に実施する授業内理解度チェックを行う（30点）
中間テスト（生物学） 20%	：	授業で解説する生理学領域ごとに理解度を筆記試験で評価する（中間テスト20点）
期末テスト（物理学） 40%	：	物理学的観点からスポーツ科学を理解する際に必要な基礎的知識の理解度について筆記試験で評価する（40点）
期末レポート（物理学） 10%	：	物理学的観点からスポーツ科学についてレポートで評価する（10点）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「ワークブック　ヒトの生物学」八杉貞雄著　裳書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
前半期では授業内の課題はパソコンにより回答することを前提するため、パソコンを持参すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時
場所： 研究室

備考・注意事項： 初回講義時に説明します

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび生物学の概説** 授業の内容，進め方，予習・復習，評価方法などについて確認します．また、生物学とヒトとの関連および生物学の歴史についても学びます。	生物学とヒトとの関連や歴史について復習し、理解する	4時間
第2回	**生命とはなにか？生物とはどういうものか？** 生物の基本的な性質、階層性などについて学びます。	生物の基本的な性質なを復習し、理解する	4時間
第3回	**生物の基本構造である細胞** 細胞の構造、内部構造、骨格、分裂などについて学びます。	細胞の概要を復習し、理解する	4時間
第4回	**分子の構造と機能** 身体を構成する分子の構成やその要素となる水、アミノ酸などの役割について学びます。	分子の概要を復習し、理解する	4時間
第5回	**身体内での物質の変化** 身体内で栄養素などはどのように変化するかを酵素の機能などを含めて学びます。	体内での物質の変化を復習し、理解する	4時間
第6回	**遺伝子の働き** 遺伝子の働きを通して、遺伝とはどのような仕組みで生じるのかを学びます。	遺伝の仕組みを復習し、理解する	4時間
第7回	**ヒトの身体構造** ヒトの身体はどのような構造をしているのかを、細胞、組織の特徴とともに学びます。	ヒトの身体構造を復習し、理解する	4時間
第8回	**物理の基礎** 速度、加速度など、物理の基礎を学びます。	物理の基礎について学んだことを復習する	4時間
第9回	**変位・速度・加速度** 変位、速度、加速度について学びます。	変位・速度・加速度について復習し、理解する	4時間
第10回	**走動作の分析** 変位、速度、加速度を用いた短距離走、長距離走レースの分析について学びます。	走動作の分析について復習し、理解する	4時間
第11回	**跳躍動作の分析** 跳躍高やリバウンド指数について学びます。	跳躍動作の分析について復習し、理解する	4時間
第12回	**投擲動作の分析** 角度、速度などを用いて投擲動作について学びます。	投擲動作について復習し、理解する	4時間
第13回	**角運動の分析** 角速度などを用いて回転する動作について学びます。	回転する動作について復習し、理解する	4時間
第14回	**授業期間全体の内容のまとめ** 授業期間全体を通じて，特に重要な点について復習します．	物理学の概要について再度復習し、理解する	4時間

SP-1029-1-2

授業科目名	多文化共生社会（国際化と文化）				
担当教員名	森　雄二郎				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

世界中のヒトやモノ、情報がボーダレスに行き交い、地域社会においても多様な文化背景を持った人びとが増加する中で、異なる価値観や考え方を認め合いながらともに生きること（多文化共生）は望む望まないにかかわらず、我々に突きつけられている大きな課題と言える。そこで、本授業では我々が直面する多文化に関わる問題を取り上げ、これからの多文化共生社会のあり方について考察する。具体的には、南北問題や難民といったグローバルイシューから日本社会における外国人をめぐる問題などを取り上げる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	多文化共生社会に関する知識と実践する力	多様な価値観や考え方を認め合う多文化共生社会のあり方を理解した上で、その当事者として具体的な実践に移すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、成績評価を「不可」（不合格）とする。
また、本授業ではシュミレーション型学習を多用するため、授業（課題の取組み）への積極的な参加を求める。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の参加度	50%	： 授業および配信資料で出題される課題の取り組み状況を鑑みて、総合的に評価する。
授業内レポート	50%	： 毎回、授業内容に関する小レポートを課す。また、最終授業において、授業全体の習熟度を確認する総括レポートを課す。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

本授業で紹介する参考文献を中心として、授業内で適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる（計60時間）。
授業内で提示された「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 教室
備考・注意事項： 授業に関する質問等は、原則授業内か授業の前後に受け付ける。

授業計画

	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション&多文化共生に関するイメージの共有** 科目担当者の自己紹介と授業の進め方、評価方法などを説明する。 また、グループワークを通じて、受講生同士で受講動機や多文化共生に対するイメージなどの共有を図る。	予習：シラバスを確認し、自らの受講動機、多文化共生に対するイメージなどを発表できるように準備しておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、授業の趣旨や目的について理解を深めておくこと。	4時間
第2回	**文化について①　文化とは何か** 「文化」について、講義によって概念整理を行う。 さらに、課題を通じて各自のイメージや考え方を確認する。	予習：「文化」という言葉に関して調べておくこと。復習：銃町内に用いた資料等を参考にして、文化概念について理解を深めておくこと。	4時間
第3回	**文化について②　文化の多様性** 世界の様々な民族や文化様式の違いを知ることができる写真資料を用いて、文化の多様性を実感するとともに、自ら文化的アイデンティティやルーツを確認する。（アクティビティ「地球家族」）	予習：「自らが考える日本文化の特徴について」　グループ内で発表ができるように準備しておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、文化の多様性について理解を深めておくこと。	4時間
第4回	**共生について①　共生とは何か** 「共生」について、講義によって概念整理を行う。 さらに、課題を通じて各自のイメージや考え方を確認する。	予習：「共生」という言葉に関して調べておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、共生概念について理解を深めておくこと。	4時間
第5回	**共生について②　共生のためのコミュニケーション** 異なる価値観、考え方を持つ人びととの共生を実践する具体的なコミュニケーション方法に関して、異文化コミュニケーションの概念を用いて説明する。 単に外国人だけではなく、身近な隣人との良好な関係を築くことを目的としたコミュニケーションのあり方を考察する。 さらに、課題を通じて各自のコミュニケーションのあり方を再確認する。	予習：「コミュニケーション」と言う言葉に関して調べておくこと。また、「各自の異文化体験について」グループ内で発表できるように準備しておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、異文化コミュニケーションについて理解を深めておくこと。	4時間
第6回	**共生について③　社会的包摂としての多文化共生** 外国人に限らず、社会的マイノリティとの関わりを通して、共生の意義やあり方について考察する。 具体的には、「ろう（聾）者」をテーマとしたＶＴＲを視聴した上で、ディスカッションを行う。	予習：「社会的包摂」と言う言葉に関して調べておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、社会的包摂について理解を深めておくこと。	4時間
第7回	**多文化社会の実態（世界）①　グローバリゼーションの成り立ち** 世界規模で結びつきを強める国際社会の歴史的背景や現状について説明する。特に、その功罪についてそれぞれ言及する。	予習：「グローバリゼーション」という言葉に関して調べておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、グローバリゼーションについて理解を深めておくこと。	4時間
第8回	**多文化社会の実態（世界）②　難民** 事例として「パレスチナ難民」「シリア難民」を取り上げ、難民の背景や実態、日本の対応などを説明する。 また、映像資料等を通じて、難民の思いや課題などを確認する。	予習：「難民」に関して、調べておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、難民について理解を深めておくこと。	4時間
第9回	**多文化社会の実態（世界）③世界経済と南北問題** 世界経済の動向とそれに伴う格差の実態について説明する。 また、映像資料を通じて、世界における経済的な格差、日本の立ち位置などを確認する。	予習：「南北問題」に関して調べておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、南北問題の実態について理解を深めておくこと。	4時間
第10回	**多文化社会の実態（日本）①　在留外国人の変遷** 日本社会における「外国人」の位置づけ、歴史的背景などを統計データをもとに説明する。 戦前、戦中、戦後、現代にわたって外国人流入の契機となった事象を確認しつつ、現状を把握する。	予習：「在留外国人」に関して調べておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、在留外国人の実態について理解を深めておくこと。	4時間
第11回	**多文化社会の実態（日本）②　外国人施策の変遷** 日本における出入国管理や国際交流など、外国人を対象とした施策や取組みの動向を概観しながら、外国人の取り扱いや対応の変遷や現状を説明する。	日本の「出入国管理政策」「国際化政策」に関して調べておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、日本の外国人施策について理解を深めておくこと。	4時間
第12回	**多文化社会の実態（日本）③　外国にルーツを持つ子どもの教育問題**	「外国にルーツを持つ子どもをめぐる教育問題」について、どのような課題があるかを調べておくこと。授業内に用いた資料等を参考にして、外国にルーツを持つ子どもの教育問題について理解を深めておくこと。	4時間

	日本で暮らす外国人および外国にルーツを持つ子どもの教育に関する現状と課題を説明する。 特に、日本語が分からない児童生徒への対応、義務教育の取り扱い、進路選択などの問題を取り上げる。		
第13回	**多文化社会の実態④　外国人労働者の問題（日系人・技能実習生を中心にして）** 日本で働く外国人労働者について、特に日系人、技能実習生に着目して、その現状と課題を説明する。 特に、滋賀県においては日系ブラジル人の就労が多く、身近な問題として取り上げる。	「ブラジル移民」「技能実習制度」に関して調べておくこと。復習：授業内に用いた資料等を参考にして、外国人労働者の問題について理解を深めておくこと。	4時間
第14回	**まとめ　「多文化共生社会に向けて」** これまでの授業を振り返り、多文化共生社会の実現に向けて、どのような実践や取組みが必要であるかを議論する。 また、最終課題として、社会としての取組み、個人としての取組みの2つの視点から具体的なアクションプランを提案してもらう。	予習：これまでの授業内容を振り返り、社会と個人の両面から、どのような実践や取組みが必要であるか、具体的なアクションプランが発表できるように準備しておくこと。復習：これまでの授業で用いた資料等を参考にして、多文化共生社会について理解を深めておくこと。	4時間

SP-1030-2-2

授業科目名	琵琶湖の環境と科学（地球の歴史と琵琶湖）				
担当教員名	戸田　孝				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	滋賀県立琵琶湖博物館の学芸員を30年間務め、様々な専門分野の同僚と議論しながら、琵琶湖地域に関する多様な学術的知見を広く一般の人々を対象に伝え続けてきた。				

授業概要

琵琶湖は約400万年の歴史を持つ世界で３番目に古い古代湖であり、古くから人々の生活と密接につながってきました。琵琶湖地域の地形的特徴について、社会的政治的あるいは歴史的背景、環境問題等にも触れながら概説します。
滋賀県および琵琶湖という特徴的なフィールドを例にとって、どのような自然環境が存在し、どのような探求によってその自然環境の理解に至ることができ、それが人々の生活にどのように関わっているのかを考える。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	滋賀県という具体的な地域に関する知識と考え方	結論を知識として丸暗記するのではなく、どのような探究によってその結論が得られるのかを理解する

学外連携学修

無し

授業方法

・問答法・コメントを求める

基本的に教室内での講義によって進行する。
講義では事実の提示だけでなく、どのような探究活動によってその事実が知られるに至ったかを解説する。
講義中には可能な限り出席者への問いかけを行い、話題となっている事実についての考察を促す。
また、各講義の終了後には小レポートの提出を求めることを通して、話題となっている事実に関する自分なりの考察を深めることを促す。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

各講義において、前回講義での小レポートの傾向や特筆するべき考察例についてコメントする。

成績評価

注意事項等

授業の参加度は授業内レポートによって判断する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各講義の終了後に課す小レポート 60%	：	授業内レポートによって判断する。各講義の終了時に講義内容に対する自分なりの考えを5〜10分程度でまとめた小レポートの提出を求める。
全日程終了時に全体理解度を確認する総括レポート 40%	：	自分なりの考えに基づいて深く考察できているかどうかを重視する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「びわ湖を語る50章」サンライズ出版 ISBN4-88325-092-X
「びわ湖から学ぶ」大学教育出版 ISBN4-88730-310-6
「びわ湖を考える」新草出版 ISBN4-915652-17-3
「生命の湖琵琶湖をさぐる」文一総合出版 ISBN978-4-8299-1191-4
宗宮功「琵琶湖その環境と水質形成」技報堂出版 ISBN 4-7655-3170-8
岡本巌「びわこ調査ノート」人文書院 ISBN4-409-24036-6
「びわ湖ハンドブック」滋賀県

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 状況に応じて別の場所またはメール連絡先などを指定する場合がある

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**琵琶湖地域の「器」としての特徴** 琵琶湖地域の「器」としての特徴　琵琶湖地域の地形的特徴について、社会的政治的あるいは歴史的背景にも触れながら概説する。	小学校社会科から高等学校地歴科に至る流れを思い起こし、滋賀県や琵琶湖地域についての知見を再整理しておくこと。	4時間
第2回	**琵琶湖という「器」が作られた経緯** 琵琶湖地域の地形的特徴が地質学的な歴史の中でどのように形作られれてきたかを概説する。	琵琶湖地域の地質的時間スケールでの歴史的経緯についてよく知られている知見について整理しておくこと。	4時間
第3回	**琵琶湖地域の気象** 琵琶湖地域で見られる特徴的な気象現象について概説するとともに、それが生活文化にどのように影響しているかにも触れる。	身近な気象現象について思い起こし、どのような現象があるかを整理しておくこと。	4時間
第4回	**琵琶湖の水収支** 琵琶湖の水はどのように入ってきてどのように出て行くのか、それには自然条件や人為的操作がどのように関わっているのかを概説する。	流入流出河川や水位操作の設備など、琵琶湖の水収支に関わりがあると考えられる地理的条件について整理しておくこと。	4時間
第5回	**琵琶湖の水質** 琵琶湖の水質がどのような条件で定まり、どのように管理されているのかを、他の湖とも比較しながら論じる。	琵琶湖の水質に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。	4時間
第6回	**湖水の鉛直循環** 「深呼吸」と呼ばれる年周期のものを始めとする琵琶湖水の鉛直循環が、どのような原理で起こりどのような影響を及ぼすのかを概説する。	「水」という物質の性質（気化と凝結、凍結（凝固）、温度による密度変化など）について、小中学校理科レベルの知見を再確認しておくこと。	4時間
第7回	**湖水の水平流動** 「環流」と呼ばれる琵琶湖北湖全体を巡る大きな循環流を始めとする琵琶湖の水平流動について概観する。	琵琶湖盆という「器」の形状についてのイメージをつかんでおくこと。	4時間
第8回	**湖流と生物** 琵琶湖に棲む生物を例にとって、水中の生物が水の流れにどのように適応し生活しているかを概説する。	琵琶湖に棲む生物に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。	4時間
第9回	**琵琶湖の生物多様性** 生物環境を論じるうえで重要となる「多様性」の問題について、主に琵琶湖での事例を挙げて概説する。	「生物多様性」という話題に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。	4時間
第10回	**琵琶湖における生物利用** 漁業を始めとする琵琶湖での生物利用について概説する。	琵琶湖地域（滋賀県）における農林水産業の実態に関する情報を調べておくこと。	4時間
第11回	**琵琶湖の管理** 水質や水位などの琵琶湖の環境条件が治水や利水という立場でどのように管理されているかを概説する。	琵琶湖淀川水系の水利用に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。	4時間
第12回	**琵琶湖の自然環境が人間社会に及ぼす影響** 一連の講義で見てきた琵琶湖の自然環境条件が、現在の人間社会あるいは過去の人間の歴史にどのような影響を与えてきたかを概説する。	琵琶湖地域（滋賀県）を舞台とする歴史的事件や社会問題に関する情報を整理しておくこと。	4時間
第13回	**琵琶湖に「津波」や「潮汐」はあるか** 琵琶湖の自然環境について科学原理から論理的に考えていく実例として津波と潮汐の問題をとりあげて論じる。	「津波」「潮汐」をはじめとする湖沼や海洋における大きな水の動きに関して広く調べておくこと。	4時間
第14回	**「環境問題」にどう取り組むか** 講義全体のまとめとして「環境問題」というものについて考える。	「環境問題」という話題に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。	4時間

SP-1031-2-2

授業科目名	陶芸と地域伝統文化（陶芸と地域伝統文化）				
担当教員名	橘　功一郎				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

昨今スポーツ選手の間で、陶芸をオフシーズンのトレーニングに取り入れている人が増えています。
日本文化の一端を担うやきものの中から２つを学んでいただきます。
１つは立体表現素材の中で「最も簡単に、早く、身体を駆使して造形できる」
粘土を通して表現やコミュニケーションに興味を持っていただき、自身を改めて確認する機会を作ること。
もう１つは陶芸を通じて日本文化との関りや歴史、伝統と伝承の違い等を学んでいただき、自身の根幹を作る一助とすること。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	滋賀県を中心とした日本陶芸史と他地域との違い。粘土による立体的造形表現。抹茶碗制作を通して日本文化を知る。	一連の授業を通して周囲との関りや調和をはかりつつ、自身を深く理解し、活かしていく方法の一つにしていただく。

学外連携学修

有り　（連携先：陶芸の森（予定））

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
　授業終了前に時間を設けて全体・部分に対しコメントと質疑応答

成績評価

注意事項等

実習作品の達成度と期末レポート＋授業等の参加状況により行う。
全体の比率（下記成績評価の割合）に加え、当人の思考、向き合い方を重視する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習作品 50%	：	「当人なりの思考や工夫が反映されているか、課題に向き合えているか」等基準を設定して照らし合わせます。発言・文字・表現によるコミュニケーション度合 （やむを得ない不参加にはレポート等でカバー可能とする）
期末レポート 50%	：	課題の理解とそれに対する思考・意見

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「日本のやきもの史」監修/矢部良明（芸術出版社1998年）
「近江やきものがたり」編集者/滋賀県陶芸の森（京都新聞出版センター2007年）
その他「陶芸の森」学芸員や各窯元に直接話を聞いて情報を得る

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学習」は大学の求める分量を必要とする。予習の方法、方向性等は授業終了ごとにアドバイスする。
教材費（実習４回の材料、焼成費として合計7,000円程度必要）

教材費（立体制作費：900円＋練習制作費：1,800円　抹茶碗制作費：1,290円＋練習制作費：2,580円）
「目標到達のため、陶芸を通した文化の理解と当人の表現・コミュニケーション力に比重を置く
※立体、抹茶碗ともに練習制作時には「陶芸の森」と連携予定

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後
場所：　授業実施教室
備考・注意事項：　その他必要性があれば教務課に開示されるメールにて対応

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義内容の説明とやきものについて** 全14回の内容とやきものについての説明	やきものについての予習を行う	4時間
第2回	**粘土による立体造形制作（練習）** 個別対応にて協力型の制作、全員完成を目指す	制作物を調べ形態の工夫を考える	4時間
第3回	**粘土による立体造形制作（課題）** 前回をふまえて１人で制作、完成を目指す	前回で学んだことの復習をしておく	4時間
第4回	**日本のやきもの（前半）** 陶磁器の歴史について学習します	陶磁器の歴史を予習する	4時間
第5回	**日本のやきもの（後半）** 陶磁器の歴史について学習します	第４回、第５回の復習をしておく	4時間
第6回	**茶道を知り、茶碗を制作する（講義）** 茶道の概要を学び、次回茶碗制作のポイントを考える	茶道、茶碗について調べておく	4時間
第7回	**抹茶碗制作（練習）** 第２回と同様、個別対応で協力型完成を目指す	形状のデザインを考えておく	4時間
第8回	**抹茶茶碗制作（課題）** 第３回と同様、１人で制作し完成を目指す	前回で学んだことの復習をしておく	4時間
第9回	**絵付けを学ぶ（講義）** 絵や柄などを学び、次回の絵柄を考える	器の絵柄を調べておく	4時間
第10回	**絵付け実習（課題）** １人で絵付け、完成を目指す	器の絵柄を考えておく	4時間
第11回	**信楽焼（前半）** 信楽のやきものの歴史・特徴を学ぶ	信楽焼を調べておく	4時間
第12回	**信楽焼（後半）** 信楽のやきものの歴史、特徴を学ぶ	前回の復習と今回の予習をしておく	4時間
第13回	**合評会** 完成した作品を順に鑑賞し、意見を述べ合う	信楽焼を学び、自分はどう受け止めたか考えておく	4時間
第14回	**現代の陶芸** 現代の陶芸について学習します	陶芸の歴史について復習をしておく	4時間

SP-1032-1-1

授業科目名	自己理解とキャリアプランニング				
担当教員名	井口　徹郎				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	株式会社ベネッセコーポレーションに29年間勤務。ベネッセでは、高校・大学を対象とした教育事業や高齢者介護事業のエリア責任者等を経験。社員の採用や教育・研修等の業務も担当した。				

授業概要

本科目の目的は、自分の特性や強み、将来の夢を見つめ、それらを基にキャリアプランニング（職業を通じた人生設計）ができる力を修得することである。
そのために、自分自身を振り返る方法を学び、社会の仕組みや働き方、社会人に求められる様々な能力について理解する。また、そうした観点から、大学生活をどのように過ごすべきかについても考える機会となる。
授業では、グループでの話し合いや、教室内での意見交換を通じ、キャリアに関する多様な考え方や価値観があることを理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	独自の職業観の確立	キャリアに関する諸理論、自分の特性や将来の夢を実現する手順、職種や業界による働き方や使命の違い等を学ぶことで、仕事に対する視野を広げ、独自の職業観を創造する。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	社会で求められる人間性の獲得	他の受講生の意見や考え方に触れることで、社会には多様なキャリア観や職業観があることを理解する。他者の価値観を理解し、他者と協働できる能力を獲得する。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	キャリアプランニングができる力の修得	本科目を通して創造した独自の職業観に基づき、自律的に将来のキャリアプランを描き、それに向かって大学生活を送る力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回授業レポート（全14回）	50%	： 授業での学びを、いかに自分のこととして振り返れているかを評価する。
提出物（各種シート・全5回）	30%	： 「自分史シート」「将来の目標シート」「チャレンジシート(第1回目)」「模擬エントリーシート」「チャレンジシート(第2回目)」について、取り組みの度合いを評価する。
小テスト	20%	： 学修内容の理解度と知識の定着度を評価する。 授業第7回目と第13回目で実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『働くひとのためのキャリア・デザイン』（金井壽宏著、PHP新書、2002年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
本科目では、グループワーク（5名程度）による学生相互の意見交換と、教室全体での意見交換を、ほぼ毎回の授業で実施する。
グループワーク、教室全体での意見交換には積極的に参加し、発言すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**キャリアプランニング①（キャリアの定義）** (1)本科目の目的 (2)各回授業の構成と進め方 (3)評価方法 (4)「キャリア」の定義：多様な意味を持つ「キャリア」について、本科目における定義を考える。	予習：「キャリア」の意味と自分の希望進路を考え、事前アンケートに回答する。	4時間
第2回	**キャリアプランニング②（キャリアの理論）** (1)キャリアの理論：キャリア形成に関する諸理論について理解する。 (2)自分の今までを振り返る：自分の長所やこだわり、興味・関心等を振り返り、キャリア理論と関連づけて考える。 ■課題「自分史シート」：自分の今までを整理する。	課題：「自分史シート」を作成する。	4時間
第3回	**キャリアプランニング③（キャリアプランの立案）** (1)キャリアアンカー：自己集計テストを用いて自分のキャリアアンカー（自分の進路選択の軸）を知る。 (2)将来への道のり：自分の進路の方向性について、改めて考えてみる。 ■課題「将来の目標シート」：現時点でのキャリアプランニングに取り組む。	課題：「将来の目標シート」を作成する。	4時間
第4回	**キャリアプランニング④（大学時代の意義）** (1)目的達成のために：自分の将来の方向性と、それを実現するための課題を整理する。 (2)大学時代の目標：自分の強みを伸ばし、課題を克服するために、大学時代の過ごし方を考える。 ■課題「チャレンジシート(1回目)」：将来の目的と大学時代の目標を記入する。	課題：「チャレンジシート（1回目）」を作成する。	4時間
第5回	**自己理解①（能力・適性）** (1)能力・適性の要素：リテラシー・コンピテンシーの内容を知る。 (2)「能力・適性検査」の実施 ●プログテスト受験	復習：自分の長所・短所について身近な人にヒアリングを行う。	4時間
第6回	**社会環境①（働き方の課題）** (1)日本の雇用慣行：日本の雇用慣行を国際比較の中で理解する。 (2)働き方の課題：日本の雇用慣行に伴う働き方の課題を理解する。 (3)女性の働き方：女性の働き方に関する課題を考え、男女共同参画に関する各種の法制度を知る。	予習：「男女共同参画」に関する各種の取り組み事例について調べておく。	4時間
第7回	**社会環境②（職種・進路毎の特徴）** (1)職種ごとの特徴：職種ごとのキャリア形成や職務に応じた使命等について理解する。 (2)進路ごとの特徴：企業・公務員・教員等の進路ごとの違いを知る。 (3)インターンシップ：社会を知る各種の方法について学ぶ。 ▲小テスト(1回目)：出題範囲は第1回～第7回までの授業内容	復習：自分の身近な社会人にやりがいやキャリア形成についてヒアリングを行う。	4時間
第8回	**社会環境③（就職活動）** (1)企業等の組織：企業・公務員・教員等の組織構成を知り、採用の仕組みを理解する。 (2)日本の新卒採用：日本の大学生の就職活動、採用活動について、その特徴を知る。 (3)新しい採用の動き：社会情勢の変化、採用活動の変化について、最新の知識を得る。	復習：現在考えている就職先の採用試験について、配付資料を基に調べておく。	4時間
第9回	**自己理解②（自己分析）** (1)自己分析：「能力・適性検査」の結果を基に、自分の強みと課題について分析を行う。 (2)本学学生の傾向：本学学生の能力・適性に関する傾向を知る。 ●プログテスト結果返却	復習：現在の希望進路を、職種と自分の適性の観点から考えてみる。	4時間
第10回	**社会で求められる力①（コミュニケーション能力）** (1)社会で求められる力：各種調査結果等から、社会で求められる能力について理解する。 (2)コミュニケーション：コミュニケーション能力の構成要素を理解する。	復習：社会で求められる力と比較し、自分の長所・短所を振り返る。	4時間
第11回	**社会で求められる力②（文章による自己表現）** (1)文章による意思伝達：文章で自分を表現し、相手に伝える方法を学ぶ。 (2)エントリーシート：日本企業の多くが採用試験に導入しているエントリーシートの意義と内容について理解する。 ■課題「模擬エントリーシート」：文章による意思伝達の重要性を学ぶ。大学生活の重要性について実感を持つ。	課題：「模擬エントリーシート」を作成する。	4時間
第12回	**社会で求められる力③（キャリア形成の実例）** (1)ゲスト講師による特別講義を聴き、質疑応答を行う。 (2)キャリア形成の実例に触れる。 (3)自分の希望進路、大学生活の在り方を改めて考える機会とする。 ◆ゲスト講師による特別講義	復習：特別講義から得られたこと、気づいたこと振り返る。	4時間

第13回	**社会で求められる力④（社会人基礎力）** (1)模擬エントリーシートの振り返り：第11回の「模擬エントリーシート」を振り返り、相手により伝わりやすい文章のスキルについて学ぶ。 (2)社会人基礎力：社会で求められる力の一つとして、社会人基礎力の内容を知る。 ▲小テスト（2回目）：出題範囲は第1回～第13回までの授業内容	復習：「模擬エントリーシート」の書き直しを行う。	4時間
第14回	**キャリアプランニング⑤（大学時代の意義）** (1)大学時代の意義：改めて大学時代の意義について考える。大学時代に社会との接点を持ち、職業に対する視野を広げることの大切さを知る。 (2)授業の振り返り：全14回の振り返りを行い、学修内容を確認する。 ■課題「チャレンジシート(2回目)」：改めて、将来の目的と大学時代の目標をチャレンジシートに記入する。	復習：「チャレンジシート」の1回目と2回目の変化を確認し、その理由を考える。	4時間

SP-1033-2-1

授業科目名	キャリア形成と仕事理解				
担当教員名	井口　徹郎				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	株式会社ベネッセコーポレーションに29年間勤務。ベネッセでは、高校・大学を対象とした教育事業や高齢者介護事業のエリア責任者等を経験。社員の採用や教育・研修等の業務も担当した。				

授業概要

本科目の目的は、具体的な仕事の現場や実際のキャリア形成の在り方を理解し、自分自身の将来の方向性を考えられるようになることである。加えて、多様な職種・業種を知り、進路の選択肢を広げると共に、社会の仕組みを理解することも目的としている。
この目的達成のために、各界で活躍されている社会人外部講師を招き、企業・業界の情報、仕事のやりがいと厳しさ、学生時代の過ごし方などについて特別講義を実施する。特別講義の内容を基にグループワークを行い、他の受講生の意見も踏まえた上で、より理解を深める授業とする。
企業、競技継続、公務員、教員等について、キャリア形成の特徴、就職活動の手順、各職種の雇用慣行等についても解説を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	具体的な進路の方向性の確立	各職業現場での働き方の実際、多様なキャリア形成の在り方を理解することで、自分の将来の方向性を検討し、進路を具体化できる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	社会で必要なチームワーク・リーダーシップの修得	グループディスカッションを通じて意見をまとめ、プレゼンテーションを実施するスキルを養う。同時に仕事におけるチームワークやリーダーシップの実践力を身に付ける。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	進路実現のための行動力の獲得	自分の希望進路を実現するために、自律的に行動できる力を獲得する。インターンシップへの参加等、具体的な行動力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
コミュニケーションレポート（各回授業・全14回）	40%	： 授業での学びを、いかに自分の希望進路や将来設計と結び付けて振り返れているかを評価する。
キャリアレポート（各テーマ毎・全5回）	40%	： 5つのテーマ（企業人・起業家・アスリート・公務員・教員）が各々終了する時点で、レポートを課す。特別講義も踏まえ、気づいた点や得られたこと等を、いかに具体的に振り返れているかを評価する
基礎学力テスト	20%	： 社会人として必要となる基礎学力についてテストを受け、合格点に達するまで繰り返し学習する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
本科目では、グループワーク（5名程度）による学生相互の意見交換と、教室全体での意見交換を、ほぼ毎回の授業で実施する。
グループワーク、教室全体での意見交換には積極的に参加し、発言すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**社会で求められる力** (1)本科目の目的 (2)授業構成・評価方法 (3)社会で求められる力 (4)基礎学力の重要性 (5)学力確認テスト受験	復習：学力確認テストが目標得点に達するまで繰り返し学習する。	4時間
第2回	**企業人のキャリア形成①（キャリア形成の特徴）** (1)業界（業界・企業の種別） (2)職種（総合職・一般職） (3)キャリア形成の特徴 (4)採用試験	復習：関心のある業界の特徴をまとめ、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間
第3回	**企業人のキャリア形成②（スポーツ系企業の具体例）** (1)スポーツ系企業のキャリア形成（外部講師による特別講義） ・仕事の紹介、学生時代の紹介 ・仕事のやりがい、厳しさ ・職場の特徴、職種の特徴 ・求められる人材像、求められる能力 ・学生時代に行っておくべきこと (2)質疑応答	予習：特別講義への質問事項を検討し、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間
第4回	**企業人のキャリア形成③（一般企業の具体例）** (1)一般企業のキャリア形成（外部講師による特別講義） ・仕事の紹介、学生時代の紹介 ・仕事のやりがい、厳しさ ・職場の特徴、職種の特徴 ・求められる人材像、求められる能力 ・学生時代に行っておくべきこと (2)質疑応答	予習：特別講義への質問事項を検討し、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間
第5回	**企業人のキャリア形成④（振り返り）、 起業家のキャリア形成①（キャリア形成の特徴）** ■企業人のキャリア形成④ (1)必要な能力 (2)日本型経営の特徴 ■起業家のキャリア形成① (1)起業家のキャリア形成の特徴 (2)イノベーション ?課題：キャリアレポート（企業人編）	課題：キャリアレポート（企業人編）を提出する。	4時間
第6回	**起業家のキャリア形成②（キャリア形成の具体例）** (1)起業家のキャリア形成（外部講師による特別講義） ・仕事の紹介、学生時代の紹介 ・仕事のやりがい、厳しさ ・職場の特徴、職種の特徴 ・求められる人材像、求められる能力 ・学生時代に行っておくべきこと (2)質疑応答	予習：特別講義への質問事項を検討し、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間
第7回	**起業家のキャリア形成③（振り返り）、アスリートのキャリア形成①（キャリア形成の特徴）** ■起業家のキャリア形成③ (1)新規事業と組織 (2)事業運営と資金調達 ■アスリートのキャリア形成① (1)アスリートのキャリア形成の特徴 (2)セカンドキャリア・デュアルキャリア ?課題：キャリアレポート（起業家編）	課題：キャリアレポート（起業家編）を提出する。	4時間
第8回	**アスリートのキャリア形成②（キャリア形成の具体例）** (1)プロアスリートのキャリア形成（外部講師による特別講義） ・仕事の紹介、学生時代の紹介 ・仕事のやりがい、厳しさ ・職場の特徴、職種の特徴 ・求められる人材像、求められる能力 ・学生時代に行っておくべきこと (2)質疑応答	予習：特別講義への質問事項を検討し、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間
第9回	**アスリートのキャリア形成③（振り返り）、 公務員のキャリア形成①（キャリア形成の特徴）** ■アスリートのキャリア形成③ (1)アスリートのキャリア形成の実際 (2)セカンドキャリア・デュアルキャリア (3)多様な競技継続の方法、進路の具体事例 ■公務員のキャリア形成① (1)公務員と企業との違い (2)公務員の種別（国家・地方、行政職・公安職） (3)公務員のキャリア形成の特徴 ?課題：キャリアレポート（アスリート編）	課題：キャリアレポート（アスリート編）を提出する。	4時間
第10回	**公務員のキャリア形成②（公安系公務員の具体例）** (1)公安系公務員のキャリア形成（外部講師による特別講義） ・仕事の紹介、学生時代の紹介 ・仕事のやりがい、厳しさ ・職場の特徴、職種の特徴 ・求められる人材像、求められる能力 ・学生時代に行っておくべきこと (2)質疑応答	予習：特別講義への質問事項を検討し、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間

第11回	**公務員のキャリア形成③（振り返り）、 教員のキャリア形成①（キャリア形成の特徴）** ■公務員のキャリア形成③ (1)必要な能力 (2)公務員の特徴（国・都道府県・市町村、組織、人事異動） (3)採用試験 ■教員のキャリア形成① (1)キャリア形成の特徴 (2)採用試験 ?課題：キャリアレポート（公務員編）	課題：キャリアレポート（公務員編）を提出する。	4時間
第12回	**教員のキャリア形成②（キャリア形成の具体例）** (1)教員のキャリア形成（外部講師による特別講義） ・仕事の紹介、学生時代の紹介 ・仕事のやりがい、厳しさ ・職場の特徴、職種の特徴 ・求められる人材像、求められる能力 ・学生時代に行っておくべきこと (2)質疑応答	予習：特別講義への質問事項を検討し、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間
第13回	**教員のキャリア形成③（振り返り）、準公務員** ■教員のキャリア形成③ (1)必要な能力 (2)学生時代に行っておくべきこと ■準公務員 (1)公務員の事業目的 (2)公共サービスを中心とした企業・団体 ?課題：キャリアレポート（教員編）	課題：キャリアレポート（教員編）を提出する。	4時間
第14回	**将来の方向性** (1)キャリア・アンカー (2)キャリアの理論 (3)就職活動（インターンシップ） (4)将来の方向性	復習：自分の方向性について検討し、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間

SP-1034-3-1

授業科目名	**仕事とキャリア演習**				
担当教員名	井口　徹郎				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	株式会社ベネッセコーポレーションに29年間勤務。ベネッセでは、高校・大学を対象とした教育事業や高齢者介護事業のエリア責任者等を経験。社員の採用や教育・研修等の業務も担当した。				

授業概要

本科目の第１の目的は、受講生一人ひとりが納得度の高い職業選択ができるようになることである。第２の目的は、選んだ職業に向けて自律的に就職活動を続けられる実践力を養うことである。
第１の目的については、職種・業界・職業分野について幅広い知識を修得するために、業界・企業研究に加えて、演習として学外でのインターンシップや学内の業界研究セミナーに参加する。さらに、自分の志向や適性を知るために、適性検査の結果を基にした自己分析を行う。
第２の目的については、まず日本の雇用慣行や就職活動の手順を理解する。その上でエントリーシートや面接、グループディスカッション等に対応できるよう、自己表現や意見発表の実践方法を学ぶ。
なお、受講生相互の意見交換を通じて職業に関する理解を深めるために、ほぼ毎回の授業でグループワークを実施する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	自分の志向・適性と合致する進路の具体化	自己分析を行うことで自分の志向や適性を知り、それに合う職業分野を特定する。業界・企業研究から希望する職業を選定し、その職業に向けた就職活動の計画が立てられる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	社会で必要なチームワーク・リーダーシップの修得	インターンシップや業界研究セミナーへの参加を通じ、多様な他者とのチームワークやリーダシップの在り方を学び、それらを発揮できる力を修得する。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	進路実現に向けた自律性・自主性の獲得	自分の希望進路を実現するために、自律的に行動できる力を獲得する。就職活動を実践するための自主性と行動力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク

授業日程は、前期に講義を9回、夏期休暇中にインターンシップ演習、後期に講義を2回実施する。
授業日程の詳細は、第1回目の授業で告知する。
成績は学年末の3月に発表する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
講義レポート（前期講義9回・後期講義2回）	30%	： 各回の講義内容をいかに自分に引き付けて振り返れているかを評価する。各回毎に設定する課題に対しては、自分の過去の経験や希望進路等を踏まえて、独自の考えを述べられているかを評価する。
模擬エントリーシート（1回）	10%	： 自分の強み、学生時代に力を入れたこと等、具体的に伝わりやすく記述できているかを評価する。
インターンシップ演習・事前レポート（1回）	15%	： インターンシップ演習全体を通しての目的を、自己分析に照らして具体的に設定できているかを評価する。
インターンシップ演習・参加レポート（4回）	30%	： インターンシップ演習の1企業・団体につき1つのレポートを作成。各インターンシップで得た知見や気づきを、個別に振り返れているかを評価する。
インターンシップ演習・事後レポート（1回）	15%	： インターンシップ演習全体を通して、事前に設定した目的と照合して振り返れているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
本科目では、グループワーク（5名程度）による学生相互の意見交換と、教室全体での意見交換を、ほぼ毎回の授業で実施する。
グループワーク、教室全体での意見交換には積極的に参加し、発言すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**職業選択（4月）** (1)授業の目的 (2)職種 (3)業界・企業 (4)進路研究の方法	予習：現在の自分の希望進路について検討し、事前アンケートに回答する。	4時間
第2回	**自己分析①（コンピテンシー・リテラシー）（4月）** (1)コンピテンシー・リテラシー (2)適性検査の受験	復習：自分のコンピテンシー・リテラシーの特徴についてコミュニケーションレポートに記入する。	4時間
第3回	**自己分析②（自分の強み・弱み）（5月）** (1)適性検査の結果確認 (2)自己分析（個人ワーク） (3)自分の強み・弱み	復習：自分の強み・弱みを振り返り、コミュニケーションレポートに記入する。	4時間
第4回	**インターンシップ①（インターンシップの意義）（5月）** (1)インターンシップの意義 (2)インターンシップの種別 (3)インターンシップを実施する企業等の探索手法（ナビサイトの活用） (4)就職活動の進め方	復習：ナビサイトを通じて関心のある企業のインターンシップ日程を調べる。	4時間
第5回	**インターンシップ②（業界・企業研究）（5月）** (1)就職活動の進め方 (2)業界研究 (3)企業研究 (4)インターンシップ参加にあたっての留意事項	復習：インターンシップ演習の実施計画を立案する。	4時間
第6回	**インターンシップ③（情報探索・参加申請）（6月）** (1)企業等の情報探索 (2)インターンシップの参加申請	復習：関心のある企業等にインターンシップの参加申請を行う。	4時間
第7回	**エントリーシート（6月）** (1)社会で求められる力 (2)エントリーシートの目的 (3)文章による自己表現の手法 (4)模擬エントリーシートの作成	復習：模擬エントリーシートを作成する。	4時間
第8回	**グループディスカッション（7月）** (1)グループディスカッションの目的 (2)グループディスカッション進行の手順 (3)模擬グループディスカッション	復習：関心のある企業について業務内容・業績・事業場の課題を調べる。	4時間
第9回	**面接（7月）** (1)面接の目的 (2)面接の種別 (3)言語による自己表現の手法	予習：学生時代の活動履歴を検討し、文章化しておく。	4時間
第10回	**インターンシップ演習（夏季休暇中・8月～9月）** (1)インターンシップ演習として4社に参加（以下のものから4社を選択参加） ・短期型インターンシップ：企業等が公募する短期型（1日型）のインターンシップ ・業界研究セミナー：学内で実施される業界研究セミナー（9月実施予定） (2)レポート作成 ・参加目的 ・参加後の気づき、得られたこと	課題：事前・参加・事後レポートを作成する。	4時間
第11回	**インターンシップ演習（夏季休暇中・8月～9月）** 第10回と同様	課題：事前・参加・事後レポートを作成する。	4時間
第12回	**インターンシップ演習（夏季休暇中・8月～9月）** 第10回と同様	課題：事前・参加・事後レポートを作成する。	4時間
第13回	**インターンシップ④（演習の振り返り）（10月）** (1)インターンシップ演習の振り返り (2)進路実現のために	復習：卒業後の進路実現のむけた今後の行動計画をまとめる。	4時間
第14回	**進路検討（進路別）（11月）**	復習：就職活動の今後の進め方について行動計画をまとめる。	4時間

(1)進路別に実施（企業、公務員、教員、競技継続） (2)就職活動、採用試験準備の進め方 (3)大学内、大学外の各種就職支援策		

SP-2001-1-1

授業科目名	**スポーツ学入門**				
担当教員名	学部長他				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	各コースから代表的な研究課題について教員から解説がなされるため、その中には、複数の実務経験のある教員が含まれ、実務経験を講義内容に結び付けている。				

授業概要

本講義は、学部専門科目の専門基礎科目として位置付けられている専門科目の入門的な授業である。
スポーツ学部での体系的な学びの柱である「スポーツ学」について、その考え方や歴史について理解する。また、全６コースの教員の専門的立場からスポーツ学の学術的意義やスポーツ実践・社会貢献について学ぶ。スポーツ学の観点からのスポーツ各領域の課題や現代的動向・トピックなどがテーマとなる。
学生は、スポーツ学の全領域を幅広く学び、今後の進路コースの明確化を図る糸口を得る。
また、スポーツに関わる様々なデータに関わる現場を知り、フィールドでのデータ分析の価値を理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツ学の学問領域、コースの特徴的なスポーツの課題等	スポーツ学と各コースの特徴を理解することができる
２．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツ各領域の課題、今日的動向	スポーツ各領域をスポーツ学の観点から広く理解することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業ごとの課題レポート 100%	：	内容の妥当性と論理性について、独自のルーブリックに基づいて評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツ学のすすめ　大修館書店

履修上の注意・備考・メッセージ

この授業の成績は、3年次から所属するコース選択のためにとても重要です。
現在興味が無い分野でも、毎時登壇される教員の専門分野にも目を向け、スポーツ分野の視点を広げ、自身が専門として学ぶ領域や学際的領域について理解を深めましょう。
本講義の単位の修得が出来なければ、3年次からのコース展開科目の履修が認められなくなります。
本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学部・コースガイダンス　学部長、教務担当者** 総論：各コースの特徴を概説し次回からの各論の展開に向け、概念の理解と相互の関連について解説する。また次回からの担当者とスケジュールについて告知する。	スポーツに関する自己の志向性とその理由についてまとめる	4時間

第2回	**教育現場における運動指導とは** 各論：学校スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（学校教育における運動指導）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第3回	**保健体育教員と学校における役割** 各論：学校スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（保健体育科教員の任務）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第4回	**運動学と体操競技** 各論：学校スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（運動学の動向）について、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第5回	**保健の授業づくり** 各論：学校スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（保健の授業案）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第6回	**体育の授業づくり** 各論：小学校から高等学校で展開されている体育授業について、系統的な学習の見地から,研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（体育授業案）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第7回	**スポーツマーケティング** 各論：スポーツをサービスとして捉え、スポーツイベントの集客やプロダクトの販売促進といった売れる仕組みや仕掛けについて理解できる。	授業時に提示されたキーワード（消費者行動、顧客満足、ブランディング）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第8回	**スポーツとまちづくり** 各論：地域における社会課題の解決に有効なスポーツを活用したコンテンツや方法論を共に考えることによって都市計画におけるスポーツの価値を理解できる。	授業時に提示されたキーワード（社会課題、スポーツが有する価値、ソーシャル・キャピタル）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第9回	**スポーツジャーナリズム** 各論：スポーツジャーナリズムの現場を検証しながら、実際に報じられたインタビュー記事について考察、アスリートの言葉を文章で表現することを学ぶ。	授業時に提示されたキーワード（スポーツジャーナリズムの機能）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第10回	**スポーツ財の需要供給，スポーツ市場，スポーツ消費者行動** するスポーツ，見るスポーツの需要変動・市場・消費者行動をマクロ的な観点から理解できる	授業時に提示されたキーワード（スポーツ財の需要供給，スポーツ市場，スポーツ消費者行動）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第11回	**健康づくりのトレーニング** 各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（トレーニングの必要性）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第12回	**アスリート支援におけるトレーニングと医科学の役割** 各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（トレーニングに果たす医科学）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第13回	**食事から始まるアスリートの体作り** 各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（アスリートを支える食事・栄養）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第14回	**運動ストレスとリカバリー** 各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（運動ストレスからの脱却）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第15回	**スポーツバイオメカニクスを用いた情報分析** 各論：スポーツバイオメカニクスの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（スポーツバイオメカニクス）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第16回	**スポーツにおけるコーチングとは** 各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（コーチの役割）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第17回	**コーチングの理論** 各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（コーチの手法）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間

第18回	**コーチングの実際** 各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（コーチと競技）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第19回	**アスリートのコーチング** 各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（アスリートの指導）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第20回	**スポーツにおけるコーチングの現状と課題** 各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。	授業時に提示されたキーワード（コーチングの課題）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第21回	**野外スポーツの考え方と可能性** 各論：自然の中での体験活動を概観しながら、野外スポーツの考え方について理解するとともに、野外スポーツを教育手段として捉え活動を紹介し、野外スポーツの広がりと可能性について理解を深める。	授業時に提示されたキーワード（自然体験活動、野外スポーツ、野外教育）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第22回	**野外スポーツを体験する** 各論：多様な野外スポーツに関するアクティビティの実践例を提示し、対象に合わせた自然の中での体験活動の目的やねらいについて取り上げ、その意義や効果についての理解を深める。	授業時に提示されたキーワード（アクティビティ、実践、経験、体験学習）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第23回	**自然環境と人とのつながり** 各論：野外レクリエーション活動、野外スポーツ活動が展開される自然環境と人とのつながりについて教育キャンプや環境教育プログラムの効果との関連から理解を深める。	授業時に提示されたキーワード（自然環境、環境教育、野外レクリエーション）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第24回	**野外スポーツにおける学び** 各論：冒険教育・環境教育に代表される野外教育や野外スポーツの多様な体験からどのような学習が得られるのか理解し、自然や人との関わり方について考える。	授業時に提示されたキーワード（冒険教育、体験学習）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第25回	**人はなぜスポーツに取り組むのか、生涯スポーツの考え方** 各論：生涯スポーツの見知から、人はなぜスポーツに取り組むのかを生涯スポーツの観点から概説し、スポーツ現場で活用できる最新の知見を提案する。	授業時に提示されたキーワード（生涯スポーツ）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第26回	**障がい、性別、年齢に応じたスポーツ** 各論：生涯スポーツの見知から障害、性別、年齢に応じたスポーツを概説し、スポーツ現場で活用できる最新の知見を提案する。	授業時に提示されたキーワード（障害，性別，年齢，生涯スポーツ）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第27回	**健康とスポーツ** 各論：生涯スポーツの見知から、健康とスポーツについて概説し、スポーツ現場で活用できる最新の知見を提案する。	授業時に提示されたキーワード（健康，生涯スポーツ）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する	4時間
第28回	**スポーツにおけるデータサイエンスの理解と実際** スポーツに関わる様々なデータに関わる現場を知り、フィールドでのデータ分析の価値を理解する。	指定の書式に従って授業内容を総括してレポートを作成する	4時間

SP-2002-1-1

授業科目名	**オリンピック・パラリンピック教育**				
担当教員名	黒須　朱莉・中道　莉央				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業は2部構成で展開する。第一部では、オリンピックの理念やパラリンピックの意義など、オリンピック・パラリンピックそのものについての理解を深める。第二部では、オリンピック・パラリンピックを通して、社会におけるスポーツの意味／意義や位置づけ、そしてその可能性について考察する。これらの学びを通じて、オリンピック・パラリンピックの精神である多様な価値観を尊重し、世界平和や共生社会に向けて活躍できる態度を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	オリンピックムーブメント・パラリンピックムーブメント	オリンピックの3つの価値、パラリンピックの4つの価値等を理解できる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	オリピアン・パラリンピアンを支える環境	コーチング、トレーニング、サポート（心理学的、科学的、栄養学的）、報道、経済の視点から、選手を支える環境の現状と課題等を理解できる。
3 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	スポーツの公平性、高潔性（インテグリティ）	公正に競技を遂行するための規則やオリピアン・パラリンピアンの不断の努力から、スポーツの公平性、高潔性（インテグリティ）を理解できる。
4 ．DP11.忠恕の心	ボランティアマインド	スポーツをする、見る、支える、知る、創るといったスポーツへの多様なかかわり方を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・その他(以下に概要を記述)

第二部「オリンピック・パラリンピックを通して学ぶ」では、取り上げる各テーマを専門とする専門家（本学教員）および外部講師により展開する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

双方向のやり取りができるよう、授業内に取り組む課題の内容をフィードバックし、受講生の質問や意見に対してコメントする。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	45%	： 授業後に提出する小レポート課題において、オリンピック・パラリンピックの価値や意義／選手を支える環境の現状と課題等に対する自身の考えを論理的に述べることができているか評価する。
確認テスト	25%	： オリンピックの3つの価値、パラリンピックの4つの価値等を理解できているか評価する。
期末レポート	30%	： スポーツをする、見る、支える、知る、創るといったスポーツへの多様なかかわり方からオリンピック・パラリンピックについて考察することができているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業資料のなかで参考文献を紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： メールにて

備考・注意事項： 大人数講義のため、授業前後の時間では対応できないことがある。質問等あれば、基本的には事前にメールで連絡すること（黒須 kurosu@bss.ac.jp　または　中道 nakamichi-r@bss.ac.jp）。
メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」「所属コース」「学籍番号」を明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリンピック・パラリンピック教育とは** シラバスに即して、授業目的およびオリンピック・パラリンピック教育を学ぶ意義をスポーツの価値という視点から理解する。	オリンピックとパラリンピックに関するニュースを検索し記事を印刷してくること。その際、オリパラに対して自身の興味の対象がどのような分野に関わる内容なのか、確認しておくこと。	4時間
第2回	**授業ガイダンス／オリンピック・パラリンピックに関わる基本知識** 授業概要や授業計画について再度確認する。オリンピック・パラリンピックに関わる基本的な用語、知識について確認し、自身の各大会に対するイメージや意識について明確にする。	日本オリンピック委員会のＨＰに掲載されている「オリンピズムってなんだろう？」の記事内容を閲覧し、要点をまとめてくること。	4時間
第3回	**オリンピックの誕生と理念** オリンピックの祖、教育者ピエール・ド・クーベルタンが何故近代にオリンピックを「復興」させようとしたのか？クーベルタンの生い立ちと思想、そして彼の生きた時代背景を踏まえて理解する。また、近代オリンピックの理念であるオリンピズムとオリンピック・ムーブメントの中身について理解する。	オリンピック休戦に関する最新のニュース記事を読み、今後期待することについて自分の考えをまとめてくること。	4時間
第4回	**オリンピックと平和** オリンピック憲章の規則を取り上げ、なぜそのような規則が明文化され続けているのか？その理由をオリンピックの歴史を通して理解する。また、オリンピックが「平和の祭典」と言われる根拠と、オリンピックの理念と現実との乖離、それを埋めていくための取り組み事例について理解する。	日本障がい者スポーツ協会ＨＰに掲載されている「障がい者スポーツの歴史と現状」の該当ページを読み込み、歴史に関わる重要な点をまとめておく。	4時間
第5回	**パラリンピックの誕生と理念** パラリンピックの始まりについて、パラリンピックの父と称されるルードウィッヒ・グットマンの生い立ちや思想から、ストークマンデビル病院でのリハビリテーションから、競技スポーツとしてパラリンピックに結実されるまでの流れを理解する。また、パラリンピックの究極の目標やシンボルマーク、４つの価値などからパラリンピックの理念や意義を理解する。	障がいの種類や程度の異なる選手が公平に競技するために必要なことは何か、自分なりの考えを整理しておくこと。	4時間
第6回	**障がい者スポーツと公平性** 1960年の第1回パラリンピック（ローマ）から2020年の第16回パラリンピック（東京）までの参加国・地域、実施種目、対象障がい種の広がりを整理し、今日にみる隆盛の現状とこれにともなう課題、とりわけ2008年の第13回パラリンピック（北京）以降にみられるドーピング、テクノロジーの進化、障がい偽装、クラス分け、国際政治の問題などについて理解する。	オリンピアンのコーチに必要なことは何か？自身の考えと、疑問点を小レポートにまとめてくること。	4時間
第7回	**オリンピアンとコーチング** オリンピアンを育てるために、またオリンピアンを指導するために必要なコーチングの考えや選手との関わり方について、実際の事例を通して理解する。	自分の専門とする競技種目、または経験のある競技種目の最新のトレーニング方法について調べ、小レポートにまとめてくること。	4時間
第8回	**オリンピアンとトレーニング** オリンピアンをトレーニングという立場からサポートする際に必要な考え方や、トレーニング技術の指導方法や選手との関わり方について、実際の事例を通して理解する。	「スポーツ選手」と「メンタル」「心理」「サポート」をキーワードに、ニュース記事を検索し、実際の選手の事例として報道されている内容を小レポートにまとめておくこと。	4時間
第9回	**オリンピックと心理学的サポート** オリンピアンを心理学の立場からサポートする際に必要な考え方や、サポートの具体的な方法及び選手との関わり方について、実際の事例を通して理解する。	「障がい者スポーツ」「テクノロジー」のキーワードでニュース記事を検索し、最新の記事の中から自身が興味をもった事例について小レポートにまとめてくること。	4時間
第10回	**パラリンピックと科学的サポート** パラリンピックの競技化・高度化と密接な関係にあるテクノロジーの進化や科学的サポートの最前線について、実際の事例を通して理解する。	日本車いすバスケットボール連盟ＨＰなどを参考に、車いすバスケットボールのルールや持ち点制度について理解しておく。また、脊髄損傷者の障がい特徴について、自分なりに調べたことをまとめておく。	4時間

第11回	**オリンピアン・パラリンピアンと栄養学的サポート** 身体を資本とするオリンピアン、パラリンピアンに対する栄養学的サポートの最前線について、実際の事例を通して理解する。	スポーツと栄養の関係について、自分なりに調べたことをまとめておく。	4時間
第12回	**ノンフィクションから描くオリンピアンとパラリンピアンの物語** オリンピアン、パラリンピアンを対象としたノンフィクション作品をもとに、大舞台に立つまでの選手たちの「挫折」と「歓喜」に触れ、アスリートとして求められるメンタリティについて考察する。	オリンピアンまたはパラリンピアンを対象としたインタビュー記事や出版物を読み、その内容の要約と感想をまとめておく。	4時間
第13回	**オリンピックと環境問題（外部講師）** オリンピックは開催都市に何をもたらしてきたのか、オリンピックを開催することは、開催都市にとってどのようなメリットとデメリットがあるのか？環境という観点から冬季大会を中心に考察する。	環境問題が深刻になることによって、あなたが好きなスポーツにはどのような影響があると思いますか？具体的なスポーツ種目を取り上げ、考えをまとめること。	4時間
第14回	**授業のまとめ／期末レポートに向けて** 授業内容や評価に関する振り返りと期末レポート課題について確認する。	授業全体の内容を復習し、期末レポートの作成に取り組む。	4時間

SP-2003-2-1

授業科目名	スポーツ学研究法Ⅰ（スポーツ学研究法）				
担当教員名	学部長、山田、吉倉、コース教員				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	各コースから代表的な研究課題について教員から解説がなされるため、その中には、複数の実務経験のある教員が含まれ、実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

スポーツを対象とした多様な研究方法を包括的に学ぶ。
具体的には、スポーツ学に関連する実際的な研究や各コースの卒業研究に触れ、自らがスポーツ学についてまとめていく卒業研究を実践して行く上での方法論について学ぶ。特に、それぞれのスポーツ学の分野で実践されている研究事例を踏まえながら、実践的な研究方法についての学びを通じて、卒業研究の足がかりとなるよう実践方法を学ぶ。
どのような「研究の問い」を設定するのか、その問いを明らかにするためにどんな方法があるのか、どんなデータなど研究方法の学修を通じて、全6コースの研究の実際に触れる。
研究法Ⅰでは、研究の基礎、研究方法や手法の基礎について学び、各コースの卒業研究を概観する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ学研究が実際にどのように運営されているのかについて学修する	スポーツ学研究の進め方について知り、説明できる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	様々なスポーツ領域の問題や課題を知り、研究につなげる方法を学習する	スポーツ学研究の報告書の作成の方法を知り、説明できる
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ領域に関連する素朴な疑問や今日的な課題を探索する 研究において量的データを取り扱う際の手順や方法について学修する	スポーツ学研究の企画の方法を知り、説明できる 量的データを取り扱う際の具体的な方法について説明できる
4 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツデータの種類を学習し，データに応じた分析方法を学習する	スポーツデータの収集方法とデータの種類に応じた分析方法を実践できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート課題	：	授業担当者から提示される小レポート課題を評価する。 授業の内容を踏まえた論述が出来ている場合は満点とし、重大な誤りや不足がある場合は減点対象とする。 全課題をまとめて100点満点とする。
100%		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各時間に必要な資料等を準備し、配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具体的にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　担当者の時間を確認すること
場所：　各担当者の研究室
備考・注意事項：　予めアポイントをとってから、各担当者の研究室に訪問すること。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**研究法Ｉのオリエンテーション 研究の基礎①（調べるということ、研究方法）** 研究とは調べることに他ならない。特に、調べることで何を目指すのかは、研究を進めていく上で、とても重要になる。本授業では、研究とはについて、研究の種類、そこで取り扱われているデーターの種類等について学ぶ。	研究の種類について復習し、実際の研究について、図書館で調べる。	4時間
第２回	**研究の基礎②文献や資料を調べる、研究倫理** 先行研究を概観することで、スポーツにおける様々な問題や課題を検討することができる一方、スポーツの今日的な問題や課題を導き出すこともできる。文献や資料を調べることによって研究をどのように進めていくのかについて学ぶ。また、研究に関わる倫理的な問題について理解する。	図書館などを利用し、具体的な卒業研究について興味のあるテーマを論文検索サイトで検索してみる。	4時間
第３回	**スポーツ学における量的研究，分析の基礎（データの種類と分析）** スポーツ学の各領域を概観し，数量データを活用した量的研究がおこなわれている分野を理解する．また，得られるデータの種類と分析の方法について分類し学習する．	スポーツ現場で用いられているデータについて調査する	4時間
第4回	**スポーツデータの統計①基本統計量（平均値，中央値，標準偏差）** 集団の分布特性を示す平均値、標準偏差、最大値、最小値などの基本統計量について解説する。平均値の示す意味、平均値と中央値の違い、などについて学習する。	スポーツ関連サイトを検索し、平均値が用いられているスポーツデータを調査する	4時間
第5回	**スポーツデータの統計②相関（散布図，相関係数，回帰分析）** 散布図を用いて２つの変数の関連性について学習しながら、関連性の指標である相関係数について解説する。スポーツデータから相関係数を求める方法を学習する。	スポーツデータの中でも散布図を用いている分析を検索し調査する	4時間
第6回	**スポーツデータの統計③差の検定（t検定）** ２つのグループ間に平均値の差があるかを検定する「t検定」を学習する。グループ間で対象の異なる「対応のないt検定」，対象が同一である「対応のないt検定」を学習する。	t検定が用いられている研究論文を検索し読む	4時間
第7回	**スポーツデータの統計④名義尺度データ（度数分布表，ヒストグラム，クロス集計表）** 名義尺度のデータを対象に，度数、期待値、残差，クロス集計表の作成手順について学ぶ。さらに，度数の差があるかを検定するχ二乗（カイジジョウ）検定についても紹介する。	身近にある名義尺度のデータを調べてまとめる	4時間
第８回	**学校スポーツ教育コースにおける研究法** 日本における教育法規や学習指導要領をもとに、コースでの学びや研究方法を説明する。過去の卒業研究の内容など、具体的な事例を紹介する。それらを理解した上で、受講生が小・中・高校で受けた保健体育授業の内容を振り返る。	受講生が小・中・高校で受けた保健体育授業の内容（種目）を、図書館やインタ ーネットを活用して、各領域ごとに調べる。	4時間
第9回	**スポーツビジネスコースにおける卒業研究の取り組み** スポーツビジネスコースにおける卒業研究の概観ならびに研究方法について理解する。	卒業研究における調査手法や分析方法について、授業資料をもとに復習する。	4時間
第10回	**健康・トレーニング科学コースにおける卒業研究の取り組み** 健康・トレーニング科学領域における研究には、どのような内容や社会課題、スポーツ課題を扱ったものがあるのか、またどのような研究形態があるのか、過去の卒業研究の事例を参考にしながら健康・トレーニング科学に関する研究の実際を概観する。	卒業研究抄録集を活用し、過去の健康・トレーニング科学領域における卒業研究について調べる。	4時間
第11回	**コーチング領域における研究の実際（事例研究、実践研究の理解）** コーチング領域における研究には、どのような内容や社会課題、スポーツ課題を扱ったものがあるのか、またどのような研究形態があるのか、過去の卒業研究の事例を参考にしながらコーチングに関する研究の実際を概観する。	卒業研究抄録集を活用し、過去のコーチング領域における卒業研究について調べる。	4時間
第12回	**野外スポーツ領域における研究の実際（事例研究、実践研究の理解）** 野外スポーツ領域における研究には、どのような内容や社会課題、スポーツ課題を扱ったものがあるのか、またどのような研究形態があるのか、過去の卒業研究の事例を参考にしながら野外スポーツに関する研究の実際を概観する。	卒業研究抄録集を活用し、過去の野外スポーツ領域における卒業研究について調べる。	4時間
第13回	**生涯スポーツコースの研究対象と方法／「スポーツ文化論」的アプローチとその事例** 前半は、生涯スポーツコースが対象とする豊かな研究対象やアプローチを概観し、その探求内容の全体像を理解する。後半は、アプローチの一つである「スポーツ文化論」的視点から深める研究事例と、方法論的特徴(主に資料調査）について理解する。	スポーツと聞いて思い浮かぶキーワードを何点か挙げ、そのキーワードが「スポーツ文化」体系のどの領域に当てはまるのか考えてみる。そしてそのキーワードをどのように深めると、体系図の他領域に影響を与えることになるのか考察する。	4時間
第14回	**スポーツについて調べ、学びを深める。マインドマップを活用して** 本授業では、受講生がこれまで学んだ各研究法を再度確認する。そして、それらの特徴や自身の研究課題に応じて、マインドマップの形式にまとめる。	これまで学んだ各研究領域の資料を再度確認する。	4時間

SP-2004-2-1

授業科目名	**スポーツ学研究法Ⅱ**				
担当教員名	学部長、山田、コース教員				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	各コースから代表的な研究課題について教員から解説がなされるため、その中には、複数の実務経験のある教員が含まれ、実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

スポーツを対象とした多様な研究方法を包括的に学ぶ。
具体的には、スポーツ学に関連する実際的な研究や各コースの卒業研究に触れ、自らがスポーツ学についてまとめていく卒業研究を実践して行く上での方法論について学ぶ。特に、それぞれのスポーツ学の分野で実践されている研究事例を踏まえながら、実践的な研究方法についての学びを通じて、卒業研究の足がかりとなるよう実践方法を学ぶ。
どのような「研究の問い」を設定するのか、その問いを明らかにするためにどんな方法があるのか、どんなデータなど研究方法の学修を通じて、全6コースの研究の実際に触れる。
研究法Ⅱでは、各コースの具体的な卒業研究事例から研究手法や方法論について学ぶ。また、スポーツ現場や研究で用いられるデータ収集と分析を例示し，スポーツデータサイエンスを概観する

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ学研究は実際にどのように運営されているのかについて学習する	スポーツ学研究の進め方について知り、説明できる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	卒業研究を進めていくにあたっての計画や作成手順について具体的な内容を学習する	卒業研究作成に向けて、計画案を作成
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ学各領域の様々な研究やその研究方法を具体的に学習する	スポーツ学各領域の研究方法を説明できる
4 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツデータの種類を学習し、その収集、分析について学習する	スポーツ場面でのスポーツデータの取集方法とデータの種類に応じた分析方法を説明できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
小レポート課題 100%	： 担当者から提示される小レポート課題を評価する。授業の内容を踏まえた論述が出来ている場合は満点とし，重大な誤りや不足がある場合は減点とする．全課題をまとめて100点満点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各時間に必要な資料等を準備し、配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間程度の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具体的にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に，予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくとよい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　担当者の時間を確認すること
場所：　各担当者の研究室
備考・注意事項：　予めアポイントをとってから、各担当者の研究室に訪問すること。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究法Ⅱのオリエンテーション（研究法Ⅰの振り返り）** 授業の進め方について理解する。特に各コースで10月に実施される卒業研究中間発表に参加し、実際の卒業研究の進め方に触れる。	興味あるコース(2コース)の中間発表会に参加し、感想をまとめる	4時間
第2回	**学校スポーツ領域における運動学的研究法について** 保健体育で取り扱われるスポーツにおける運動の覚え方・教え方に関する運動学的研究法を学習する。	小・中・高等学校で学習してきた体育実技の内容・または各々の専門スポーツの技のコツについてまとめておく	4時間
第3回	**健康教育・学校保健における研究法** 児童生徒における健康課題を問いの出発点として、その問いに答えるための研究手法について概観する。場面は、保健教育のみならず、保健管理も視野に入れる。	健康教育や学校保健をキーワードに論文を検索し読む。	4時間
第4回	**調査研究を通じたスポーツ産業の発展** プロスポーツクラブで実施されている実際の調査結果データをもとにこれまでのスポーツ産業の発展について理解する。	授業での解説を通じて、問題点とその解決方法について自身なりの見解をまとめる。	4時間
第5回	**データを用いたスポーツ消費者の理解** スポーツビジネスコースにて実施している研究調査を解説しながら、スポーツ消費者とはどのような人物なのか理解する。	授業での解説を通じて、問題点とその解決方法について自身なりの見解をまとめる。	4時間
第6回	**健康・トレーニング科学領域の研究の理解①** 健康・トレーニング科学領域における量的データの取り扱い方法とそれを用いた研究の実際	論文検索サイトを活用し、複数の学術雑誌の中から、量的データを用いた健康・トレーニング科学領域の研究について調べる。	4時間
第7回	**健康・トレーニング科学領域の研究の理解②** 健康・トレーニング科学領域における各種の調査データの取り扱い方法とそれを用いた研究の実際	論文検索サイトを活用し、複数の学術雑誌の中から、各種の調査データを用いた健康・トレーニング科学領域の研究について調べる	4時間
第8回	**コーチング領域における事例研究・実践研究の理解** コーチング領域における量的データの取り扱い方法とそれを用いた研究の実際	論文検索サイトを活用し、学術雑誌「コーチング学研究」の中から、量的データを用いたコーチング領域の研究について調べる。	4時間
第9回	**コーチング領域研究における取り扱うデータの種類** コーチング領域における質的データの取り扱い方法とそれを用いた研究の実際	論文検索サイトを活用し、学術雑誌「コーチング学研究」の中から、質的データを用いたコーチング領域の研究について調べる。	4時間
第10回	**野外教育に関する多様な対象者の量的データを用いた研究の実際** 野外教育領域に関する研究について特に社会的課題に対して取り組んだ研究の実際について学習する	論文検索サイトを活用し、学術雑誌「野外教育研究」の中から、研究について調べる	4時間
第11回	**自然・人・スポーツの関係性についての研究の実際** 自然と人との関係性や自然の中で行うスポーツの影響や効果についての研究の実際について学習する	野外スポーツに関する論文検索サイト「ROP」を活用し、研究について調べる	4時間
第12回	**中高齢者の健康に関連した量的研究手法の理解・生活習慣に関連した量的研究手法の理解** （藤松）中高齢者の健康のための運動を、理論的に推奨できるような研究の実践的な研究を紹介し、卒業研究につなげるための理解を深める。特に有酸素運動に着目する。 （入谷）睡眠や飲酒や生活習慣と集中力や競技レベルの相違などを検討した卒業研究、労働者の健康づくりや腰痛対策における効果などの自分の研究を解説し、卒業研究の理解を深める。	(藤松）健康の維持、向上ために必要な運動についてあらかじめ調べておく。（入谷)授業の内容を踏まえて、量的研究法に関して復習しておく。また、生活習慣に関わる量的研究法に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。	4時間
第13回	**生涯スポーツにおける社会学・社会心理学的研究を読み解く・障がい者スポーツ領域における質的研究** （佐藤）スポーツを対象とした社会学・社会心理学的研究について、中でも生涯スポーツに関連する研究について紹介し、生涯スポーツにおける社会学・社会心理学的課題や問題について解説する。さらに、受講者が考える生涯スポーツの社会学・社会心理学的課題や問題とは何か各自で思案し、それについてまとめる。 （中道）当事者研究の視点から障がい者スポーツにかかわる当事者（選手、指導者等）を対象にしたインタビュー（質的研究）を手がかりに、障がいのある人のスポーツ・イン・ライフ実現に資する研究のあり方を理解する。	(佐藤)講義中に紹介した生涯スポーツにおける社会学・社会心理学的研究で指摘される課題や問題点を参考に、さらに受講生各自で同領域の研究を探索する。また、探索した研究で指摘される課題や問題点をまとめ、それらを解決するための方策を考案する。（中道)障がいのある人がスポーツを行う際にどのような困りごとがあるかを調べたり、障がい者スポーツを対象とした先行研究を概観したりして、障がい者スポーツの現状と課題をあらかじめ自分なりに理解しておく。	4時間
第14回	**スポーツのデータサイエンスとAI・ビッグデータ**	スポーツやゲームに用いられているAIやビッグデータの分析について調査する	4時間

スポーツ現場や研究で用いられるデータ収集と分析を例示し，スポーツデータサイエンスを概観する．また，スポーツ場面でのAI採用場面を例示し，AI（人工知能）や機械学習の基礎を学習して今後のスポーツ現場での活用方法について議論する．		

SP-2005-1-2

授業科目名	アウトドアキャンプ				
担当教員名	野外スポーツコース教員				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	野外教育・スポーツ関連実務経験・資格のある野外スポーツ教員が担当する				

授業概要

大学が立地する恵まれた環境を活用した３泊４日のキャンプ実践を行う。琵琶湖岸でのテント生活や野外炊事、仲間づくりアクティビティや冒険教育プログラムとしての登山、環境教育プログラムなどの活動に主体的に取り組み、野外活動を安全に楽しむための基本的スキルを身に着けるとともに、大学周辺の自然環境の理解や、非日常的なシンプルな環境で課題やリスクを共有する活動を通して、新たな自己に気づき、他者や集団との関わり方を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	琵琶湖岸、比良山系におけるキャンプ活動の実践	自然環境を生かした野外活動を通して、自然や人との関わりについて理解できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	非日常的なキャンプ生活の中での、個人や集団としての課題への取り組み	非日常的な簡素な生活の中で、自己や他者、自然との関わりについての新たな発見や価値を見出すことができる。
3 ．DP11.忠恕の心	不便さやリスクを伴う自然環境の中でのキャンプ活動の実践	誰にとっても平等な自然環境の中で、不安やリスクを共有しながら課題達成することから、思いやりの心を育むことができる。
4 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教員や先輩と、恵まれた自然環境を共に享受できるキャンプ活動の実践	びわこ成蹊スポーツ大学の学生としての自覚や誇りを持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前学習・準備 10%	：	キャンプに必要な基礎知識を身に着け、主体的な準備への取り組みを評価する。
実習プログラム内における実技課題達成度 70%	：	３泊４日の実習についての取り組みおよび課題に対する達成度を評価する。
実習後レポート 20%	：	体験をふりかえって作成したレポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

大学名にも入っている琵琶湖（びわこ）のほとりでキャンプを行い、自然と人とどっぷりかかわる活動です。心を開いて新たな体験に挑戦し、新たな自分や人・自然との関わりを追及しましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： 研究室 or　メール

備考・注意事項： チームスによる連絡を随時確認してください。
質問等はメールにて：hayashi-ay@g.bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**事前オリエンテーション** キャンプの目的や日程、必要装備についてのオリエンテーションを行う。実践を効果的に進めるためのグループ作り、グループワークを実践し、キャンプの準備をすすめる。	自然を活用したプログラムに対する目的への理解を深める	1時間
第2回	**琵琶湖周辺・比良山系の歴史と文化** 実習場所である琵琶湖や比良山系について、歴史的文化的側面の理解を深める。	周辺環境の歴史や文化、人々の関わりについて理解を深める。	1時間
第3回	**キャンプ実践（３泊４日）** キャンプ実践 １日目：集合・オリエンテーション テント設営・キャンプ環境整備・野外炊事実践・係別ミーティング ２日目：仲間づくり・自然環境の理解 チームビルディングアクティビティ・自然散策 ３日目：冒険教育アクティビティ 登山実践・温泉入浴 ４日目：環境教育アクティビティ 環境教育プログラムの実践・ふりかえり活動・キャンプ撤収	各自準備をして取り組む。	1時間
第4回	**実習を通した学びの評価** キャンプ体験を通した学びについて目標達成度を評価するとともに、今後の学びへの活用方法について理解を深める。	キャンプ体験をふりかえり、レポートにまとめる。	1時間

SP-2006-1-2

授業科目名	マリンスポーツ（水辺実習）				
担当教員名	野外スポーツコース教員				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	野外教育・スポーツ関連実務経験・資格のある野外スポーツ教員が担当する				

授業概要

大学が立地する恵まれた環境としての琵琶湖を用いたマリンスポーツを展開する。具体的な種目としてカヤックおよびウィンドサーフィンを取り上げ、活動を安全に楽しむための基本的スキルを身につけ、課題達成することの喜びを仲間と共有する体験を通して、自己の新たな気づきや、他者との関わり方を学ぶ。特に、用いる自然環境としての水辺環境はリスクを伴う活動であることからも、実際に体験することで、自然環境に対する理解を深め、安全に楽しむための知識についても学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	琵琶湖岸におけるキャンプ活動の実践	琵琶湖でのマリンスポーツを通して、自然や人との関わりについて理解できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	非日常的な活動の中での、個人や集団としての課題への取り組み	非日常的な活動の中で、自己や他者、自然との関わりについての新たな発見や価値を見出すことができる。
3 ．DP11.忠恕の心	水辺環境というリスクを伴う中でのマリンスポーツ活動の実践	水辺環境という不安やリスクを共有しながら課題達成することから、思いやりの心を育むことができる。
4 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教員や先輩と、恵まれた自然環境を共に享受できるマリンスポーツの実践	びわこ成蹊スポーツ大学の学生としての自覚や誇りを持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前学習	10%	： マリンスポーツ実践のための基礎知識を身に着け、主体的な準備への取り組みを評価する。
実習プログラム内における実技課題達成度	70%	： ２日間にわたる実習についての取り組みおよび課題に対する達成度を評価する。
事後学習	20%	： 体験をふりかえって作成したレポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

大学が立地する琵琶湖を用いたマリンスポーツとして、カヤックとウィンドサーフィンを２日間にわたり体験します。水上を自由にカヤックやウィンドサーフィンで仲間と駆け巡ると新たな発見や学びがたくさんあります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**事前オリエンテーション** マリンスポーツの目的や日程、準備する装備や服装に関するオリエンテーションを行う。	自然を活用したプログラムに対する目的への理解を深める	4時間
第２回	**琵琶湖の特性** 実習場所としての琵琶湖について、歴史や文化に触れながら理解を深める。	琵琶湖の歴史や文化、人々の関わりについて理解を深める。	4時間
第３回	**マリンスポーツ種目について** 選択することになるカヤック、ウィンドサーフィンの特性について理解を深める。	各種目の都癖について理解を深める。	4時間
第４回	**マリンスポーツ実践（2日間）** マリンスポーツ実践 ＜カヤック＞ １日目：集合・オリエンテーション パドル操作・カヤックポロ ２日目：集合・オリエンテーション グループレスキュー・ショートツアー・カヤックレース ＜ウィンドサーフィン＞ 1日目：集合・オリエンテーション 風を読む・セイルアップニュートラルポジション・デッドゾーン・方向転換 2日目：集合・オリエンテーション タック、ジャイブ、ランニング・実習のまとめ	準備して実習に取り組む。	4時間
第５回	**実習を通した学びの評価** マリンスポーツを通した学びについて目標達成度を評価するとともに、今後の学びへの活用方法について理解を深める。	キャンプ活動の展開について理解を深める。	4時間

SP-2007-1-2

授業科目名	スノースポーツ（雪上実習）				
担当教員名	野外スポーツコース教員				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

冬の特有の環境で実施されるスノースポーツを取り上げる。そのなかでも特に、「アルペンスキー」を実施する。アルペンスキーのスキル獲得や技術向上の過程から、自然環境に対する理解、リスクマネジメント、雪上（ゲレンデ）でのルールやマナー、冬季のアウトドアスポーツの楽しさや魅力について学ぶ。また、仲間との集団生活を通して協調性や社会性を身につけ、日常生活では得ることのできない集団での振る舞いや態度を身に付ける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	冬期野外スポーツであるアルペンスキーや雪上活動の実践	自然環境を生かしたスポーツ活動を通して、自然や人の関わりについて理解できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	自然環境の中で、自己の可能性を見いだしたり、仲間を理解することを目的とした宿泊実習の実践	非日常生活の中で、自己理解や他者との関わりについて新たな価値を創造する力を育むことができる。
3 ．DP11.忠恕の心	班単位でのスキー講習や、宿舎内における集団生活を通した実習の実践	共に目標達成への努力を重ねながら活動する仲間への思いやりの心を育むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習プログラム内における実技課題達成度 70%	：	実習についての取り組み度を評価する。
実習後レポート 20%	：	体験をふりかえって作成したレポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。
事前授業における理解と準備への取組 10%	：	スノースポーツに必要な基礎知識の理解度と実習に対する取り組みを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

野外・レクリエーションスポーツコース教員によって独自に作成したテキストを配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

大学から遠く離れた環境での実習です。心身の準備をしっかり行い、万全のコンディションで実習に挑みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前オリエンテーション** スノースポーツ実習の概要説明と個人調査票の記入、技術レベル確認アンケートを行い、冬の自然環境、アルペンスキーの技術について理解を深める。	テキストやその他資料を活用し、実習を行う場所について、アルペンスキーについてある程度の知識を持って実習に臨む。	1時間
第2回	**冬の気候と雪** 冬季野外スポーツにおけるフィールドを活用するための、冬の気候の特徴や雪の特性についての知識・理解を深める。	日本各地域の気候についての特徴を調べる。	1時間
第3回	**スキーの歴史と文化** スキーについての歴史について学習する。また、実習地である新潟・赤倉温泉の歴史や文化について理解を深める。	スキーの歴史や文化について整理する。	1時間
第4回	**スノースポーツのリスクマネジメント** 雪山の自然環境や、スノースポーツに内在する危険（リスク）ついて理解を深める。	リスクに対してどのように向き合うのか、心構えや対策を調べる。	1時間
第5回	**雪上実習** 日程：2021年2月中旬（予定）　現地3泊4日 場所：新潟県妙高市赤倉温泉スキー場、赤倉観光リゾートスキー場 宿舎：赤倉温泉スキー場周辺ホテル　等 実習プログラム １日目　集合・バスにて移動・宿舎入館、実習諸注意　等 ＜アルペンスキー講習①＞足慣らし・足並みチェック（班分け） 夜プログラム：講義（冬季野外スポーツの理論と実際） ２日目　午前・午後　＜アルペンスキー講習②③＞ 夜プログラム：班別ミーティング ３日目　午前・午後　＜アルペンスキー講習④⑤＞ 夜プログラム：ナイタースキー、ゲレンデパーティ ４日目　午前　＜アルペンスキー講習⑥⑦＞閉講式 午後 バスにて移動・解散	毎日の実習日誌に、その日の技術的学習内容、講義やミーティングでの学習内容、集団生活からの学びなどふりかえり、記録を付ける。	4時間
第6回	**実習を通した学びの評価** スノースポーツ実習を通した学びについて目標達成度を評価するとともに、今後の学びへの活用方法について理解を深める。	自然を活用した実習特有の学びについて理解を深める。	4時間

SP-2008-1-2

授業科目名	**琵琶湖遠泳**				
担当教員名	村瀬・工藤・川合				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学が立地する恵まれた環境を活用し、琵琶湖にて遠泳を行う。事前学習としてオリエンテーション及び講義を実施する。遠泳の成り立ちなど歴史的背景、現在の実施状況、技術的な理論などについて理解できるようになる。さらに安全管理について基礎的な内容を理解する。琵琶湖では基礎的な技術の確認、隊列泳の練習と本番としての本遠泳に取り組む。本科目を通して、自身が遠泳を体験し泳力を高めるだけではなく、将来の指導者としての心構え、遠泳の計画・実施の実際についても理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	琵琶湖での遠泳の実施	自然環境を生かした遠泳を通して、自然や人との関わりについて理解する。
2 ．DP11.忠恕の心	リスクを伴う環境における遠泳の実施	リスクを伴う環境で、助け合い、励まし合いながら課題達成することから、忠恕の心を育むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習プログラム内における実技課題達成度 80%	：	実習についての取り組み度を評価する。
実習後レポート 20%	：	レポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義内で紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

大学名にある琵琶湖での遠泳の実施という本学ならではの取り組みです。新たな体験・発見へ心を開いて挑戦しましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前オリエンテーションおよび講義** コースの概要説明とコース説明をした後，活用する琵琶湖について理解をする	琵琶湖についての理解を深める	4時間
第2回	**遠泳**	要項を活用し、毎日の実習における技術的な学習内容、自然環境に関する学び、他者との関わり、安全管理などについて振り返り記録を取る。	4時間

１日目　泳力チェック ２日目　隊列泳練習 ３日目　本遠泳		

SP-2009-1-1

授業科目名	**水中運動法（水中運動法）**				
担当教員名	工藤・村瀬・川合				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業の講義では水中環境の基本的特性や水泳・水中運動のバイオメカニクス・生理学を理解し、水中運動・水泳の応用について考える。実技では競泳4泳法を身につけるとともに、競技会運営を実践的に学ぶ。また自然水域での自己保全能力を向上とした浮身の基礎技術を着衣泳、立ち泳ぎの練習を通して身につける。さらに自己保全能力を高めるため、水中での高度な身体操作獲得を目的とし水球の基礎を学ぶ。加えて学校における水泳指導のため、学習指導要領に基づいた指導方法・指導計画について理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	水中運動や水泳運動さらには水泳の応用知識・水中環境における安全管理についての知識	講義の聴講ならびに文献からの情報収集により課題を作成することができる。
2 ．DP4.高度なスポーツ技能	水泳基礎4泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）	ルールに基づいた泳法を習得する。
3 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	水泳の指導方法	水泳ならびに各泳法の技術習得段階を理解し、安全に指導することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加態度	25%	：授業内での課題に対する取組み姿勢を評価する。
実技の達成度	25%	：・50mクロールと50m平泳ぎの泳法習熟度ならびにタイム ・10分間泳距離
小レポート	50%	：授業内での小レポート課題を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「水泳コーチ教本」（財）日本水泳連盟（大修館書店），「安全水泳」（財）日本水泳連盟（大修館書店），「スイミング・ファステスト」E・マグリシオ（ベースボールマガジン社），「スイミング・イーブン・ファースター」E・マグリシオ（ベースボールマガジン社），「新水中健康術」野村武男（善本社）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

水中運動法は水中での安全管理の内容も含まれます。命の危険を扱う授業として捉え、集中して取り組むこと。
泳力が低い受講生は試験に向けて自主練習を実施する必要がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業実施場所

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、講義① 水泳の基礎知識** 【ガイダンス】 授業に必要な水着、キャップなど準備物について説明する。また授業予定、評価方法について説明する。 【講義】 水の特性（4要素）について深く理解し、水中環境が身体に与える影響をバイオメカニクス的側面ならびに生理学的側面から理解する。また４泳法の基礎技術について理解する。保健体育の水泳で求められる技能、態度、知識、思考・判断について理解する。	配布資料を確認し、講義内容「水の特性、水中のバイオメカニクス・運動生理学」を復習した上で、レポートを作成する。	8時間
第2回	**クロールの基礎技術と指導方法** クロールの理論と実践、クロールの泳ぎ方の理解（呼吸法含む） クロールの推進原理について理解し、クロールのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。各動作を統合し、クロールの泳ぎ方を習得する。また、クロールの指導方法について理解する。	講義①で解説したクロールの基礎技術について復習する。	4時間
第3回	**背泳ぎの基礎技術と指導方法** 背泳ぎの理論と実践、背泳ぎの泳ぎ方の理解（呼吸法含む） 背泳ぎの推進原理について理解し、背泳ぎのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。各動作を統合し、背泳ぎの泳ぎ方を習得する。また、背泳ぎの指導方法について理解する。	講義①で解説した背泳ぎの基礎技術について復習する。	4時間
第4回	**平泳ぎの基礎技術と指導方法** 平泳ぎの理論と実践、平泳ぎの泳ぎ方の理解（呼吸法含む） 平泳ぎの推進原理について理解し、平泳ぎのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。各動作を統合し、平泳ぎの泳ぎ方を習得する。また、平泳ぎの指導方法について理解する。	講義①で解説した平泳ぎの基礎技術について復習する。	4時間
第5回	**バタフライの基礎技術と指導方法** バタフライの理論と実践、バタフライの泳ぎ方の理解（呼吸法含む） バタフライの推進原理について理解し、バタフライのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。各動作を統合し、バタフライの泳ぎ方を習得する。また、バタフライの指導方法について理解する。	講義①で解説したバタフライの基礎技術について復習する。	4時間
第6回	**各種泳法の練習方法・泳力評価** これまで基礎技術を学んだ4泳法についてさらなる上達のための練習方法を学ぶ。またこれまでの到達度を評価するため100m個人メドレーの測定を行う。	これまで学んだ4泳法についてプール内で復習をする。	4時間
第7回	**講義② 競泳競技会の運営方法** 競泳競技の運営方法について学ぶ。 またグループを作成し、ストップウォッチの使用方法など練習をする。 さらに出場種目の決定、スタートリストの作成を行う。	運営方法についてグループで当日の役割を確認する。	4時間
第8回	**競泳競技会** 競泳競技会を前回の決定事項に基づき実施する。	なし	0時間
第9回	**講義③ 水難事故の実際と安全対策** 水難事故の実際について学ぶ。また安全対策について学ぶ。	水難事故の実際と安全対策についてレポートを作成する。	4時間
第10回	**スカーリング、横泳ぎ** 水中での自己保全能力向上を目的とし、スカーリング技術、横泳ぎを習得する。	講義③で解説したスカーリング、横泳ぎについて復習する。	4時間
第11回	**立ち泳ぎ、着衣泳** 水中での自己保全能力向上を目的とし、立ち泳ぎを習得する。 着衣状態での浮身技術を習得する。 スカーリング、立ち泳ぎなどを応用することで長時間浮身の状態を保持できるようにする。 また平泳ぎ、横泳ぎなどをすることで着衣状態での移動に限界があることを学ぶ。	講義③で解説した立ち泳ぎ、着衣泳について復習する。	4時間
第12回	**中間実技技能評価** これまでの学習成果を実技試験により評価する。 実技結果を踏まえ、これまでの学習内容と自身の技能の関係について気づきをレポートにまとめる。	4泳法を中心にこれまでの学習を振り返る。	4時間
第13回	**基礎的技能の復習①クロール・平泳ぎ** クロール・平泳ぎの基礎的な技能について第12回でのレポートをもとに未習得の技能練習に取り組む。 第12回の技能評価で標準的な技能を身に着けていると評価されたものは発展学習として水球競技の基礎技術について学ぶ。	クロール・平泳ぎの練習方法について復習をする。	4時間
第14回	**基礎的技能の復習②背泳ぎ・バタフライ** 背泳ぎ・バタフライの基礎的な技能について第12回でのレポートをもとに未習得の技能練習に取り組む。 第12回の技能評価で標準的な技能を身に着けていると評価されたものは発展学習として水球競技の簡易ゲームを実施する。	背泳ぎ・バタフライの練習方法について復習をする。	4時間

SP-2010-1-2

授業科目名	**陸上競技(陸上競技)**				
担当教員名	**渋谷・岡部**				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	渋谷：日本スポーツ協会上級コーチ、実業団チームにおける選手・コーチ・監督としての活動経験、日本陸上競技連盟強化委員会委員としての指導経験等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

陸上競技は、各種スポーツ・運動の基本的な要素である「走・跳・投」の技能で構成されている。学習指導要領「陸上競技」の領域に明記されている「走・跳・投」に関する各種目の目標や内容を理解し、自分自身が適切に実施できるようになるとともに、教材や指導法について学び、終盤では授業内容を踏まえた指導計画・指導案をグループで作成し、実践する。また、運動技能の向上過程を通した課題発見・解決能力や、自己の意見を他人に伝えるなどの思考・判断・表現力を養うと同時に、ルール・審判方法・安全管理についても学習することで様々なスポーツ指導・運営に必要な資質・能力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	「走・跳・投」運動に含まれる運動技能の理解と適切な実技遂行能力の習得。	教員採用試験の陸上競技実技試験に合格できるレベルの実技技能（記録）を習得（達成）する。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	陸上競技の専門技術、技術評価の観察点、指導法およびルールの理解。	陸上競技の基礎的なルールを理解して審判できるようになるとともに、他人の技能を評価して自他にフィードバックできる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	自己や仲間の技能習得状況を適切に観察して、学習した内容に基き改善策を立案する能力の習得。	「走・跳・投」の技能に関する観察点を理解して、課題を導き出し、その段階的な改善策を提案して指導計画・指導案を作成し、実践できる。
4 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	「走・跳・投」運動に含まれる運動構造の理解と段階的な課題設定および指導方法の習得。	学習指導要領の目標・内容を理解しながら、「走・跳・投」の技能向上に必要な課題を理解して、示範を用いた指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

十分に身体を動かすことができるウェア・シューズを準備・着用すること。気象状況（気温等）を事前に確認し、ドリンクを持参するなど、熱中症等の対策を行う事。また、日常から体調管理に留意しておくこと。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題種目における記録の設定記録に対する達成度 60%	：	60点：目標記録を大幅に突破して、特に優れた記録を達成している。 50点：目標記録を突破して、優れた記録を達成している。 40点：目標記録を突破している。
課題レポート・遠隔授業レポート 30%	：	30点：期限内に課題が提出され、内容が特に優れている。 20点：期限内に課題が提出され、内容が優れている。 10点：課題が提出され、内容が基準を満たしている。 5点：学習計画に不足がある。
期末レポート 10%	：	10点：各種目の特性や技術、ルールを理解した上で、記録向上のポイントとその指導方法が記述されている。 5点：各種目の特性や技術、ルールを理解した上で、自身の課題や改善点とその解決策が記述されている。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「陸上競技ルールブック」日本陸上競技連盟（あい出版）
「陸上運動・競技の指導を考える基礎的研究」岡野　進（創文企画）
「スポーツ動作と身体のしくみ」長谷川　裕（ナツメ社）
その他随時紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　陸上フィールド・担当教員研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび陸上競技の特性と必要な専門体力のテスト方法の理解と実践** 授業の進め方および、陸上競技の特性について解説する。 中学・高等学校学習指導要領の「陸上競技」領域の目標・内容について理解する。 また、陸上競技に要求される専門的な技能（疾走能力・跳躍能力・投擲能力）を評価するテストを実施して、実践できるようになる。	陸上競技の起源、トレーニング方法、中学・高等学校の学習指導要領について調査する。	1時間
第2回	**100m走：短距離走の特性の理解、習得、指導法の確認** 短距離走の基礎的技能とその理論を学習し、100m走の目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導法についても確認する。	100m走のパフォーマンス構造（スタート・加速・速度維持局面）を調査する。クラウチングスタートの種類と技術ポイントを調査する。	1時間
第3回	**100m走：100m走の記録測定、競技会運営方法・審判方法の確認** 実際の競技会形式で100m走の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。	陸上競技短距離種目の記録測定に必要な機器や施設を調査する。不正スタートに関するルールとその変遷を調査する。	1時間
第4回	**ハードル走：ハードル走の特性の理解、修得** ハードル走の基礎的技能とその理論を学習し、目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導方法についても確認する。	ハードル走のパフォーマンス構造（踏切動作、ディップ動作、リードレッグ、抜き脚）について説明できるように調査する。	1時間
第5回	**ハードル走：ハードル走の記録測定、競技会運営方法・審判方法の確認** 実際の競技会形式で60mハードル走の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。	ハードル種目のルールを確認するとともに、無効試技の条件について調査する。	1時間
第6回	**走幅跳：種目特性の理解** 走幅跳の踏切動作について基礎的技能とその理論、跳躍運動と助走との関係性を学習し、目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導方法についても確認する。	助走速度を利用して遠くに跳ぶための方略について調査するとともに、トレーニング方法を考案する。	1時間
第7回	**走幅跳：専門技術の理解** 走幅跳の助走に関する基礎的実能と踏切動作との関連を学習し、目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導方法についても確認する。	走幅跳の踏切を行うために必要な要因（踏切動作）について調査する。	1時間
第8回	**走幅跳：走幅跳の記録測定、競技会運営方法・審判方法の確認** 実際の競技会形式で走幅跳の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。	跳躍種目のルールを確認するとともに、無効試技の条件について調査する。	1時間
第9回	**ジャベリックスロー：種目特性の理解** ジャベリックスローの助走に関する基礎的技能とその理論、投擲動作と連続性について学習し、目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導方法についても確認する。	陸上競技投てき種目の種類と相違（回転と助走、PutとThrowの違い）について調査する。	1時間
第10回	**ジャベリックスロー：助走と投擲をつなぐ技術の理解・習得、指導法の確認** ジャベリックスローの助走に関する基礎的技能とその理論、投擲動作と連続性について学習する。	利用して投てき距離を伸ばすための方略について調査するとともに、トレーニング方法を考案する。	1時間
第11回	**ジャベリックスロー：ジャベリックスローの記録測定、競技会運営方法・審判方法の確認** 実際の競技会形式でジャベリックスローの記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。	投てき種目のルールを確認するとともに、無効試技の条件について調査する。	1時間
第12回	**陸上競技の指導法・指導計画の立案** 学習指導要領に基づき、「陸上競技」領域の単元計画や授業計画を検討する。 計画をもとに指導案を構成し、指導できる準備を行う。	指導案の作成と授業のシミュレーションを行う。	1時間

第13回	**陸上競技指導法の実践** 小グループに分かれて、立案した指導案に基づく指導を実践する。 指導内容評価シートに基づく指導内容の修正を行う。	指導内容評価シートに基づく、改善した指導案を作成する。	1時間
第14回	**達成度チェックおよびまとめ** 各種目の達成度チェックを含め、競技会運営方法・審判方法の確認、および本授業の総括を行う。	授業開始前後のパフォーマンスや動作の変化について客観的・主観的に観察して理解するとともに、その要因についてレポートにまとめる。	1時間

SP-2011-1-2

授業科目名	**器械運動（器械運動）**				
担当教員名	髙松　靖				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は，小・中・高等学校学習指導要領に記載されている器械運動の技を修得することによって，技の構造やつまずき、さらには安全に実施するための配慮などを学ぶことを目的とします。特に、器械運動のマット運動・とび箱運動・鉄棒運動の技の指導法を、自らの身体で経験することで，指導する際の留意点やポイントを理解できるようになることを目指します。また、自らが経験し、出来るようになった「コツ」や「カン」を表現し、仲間と共感しあい、「教えること」への実践力を養うことができます。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	器械運動の技の実践	器械運動の技を習得し、実践することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	器械運動の指導法やコツの記述	器械運動の技の構造や、指導法を理解することができる。
3 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	器械運動の技の理解，実践	器械運動の技の学習理論を理解し，学習を工夫することができる。
4 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	技のコツの相互教授	自身の経験を頼りに仲間と技について語ることができる。
5 ．DP11.忠恕の心	活動中の仲間への配慮、器具などの準備	仲間と連携・協働し活動を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎授業の小レポート	40%	： 授業のテーマに沿った技の構造と技術の理解度を評価します。
実技課題技能チェックテスト	60%	： 学習指導要領に記載されている内容を理解し、「マット運動」「とび箱運動」「鉄棒運動」「倒立」の技の習得度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

金子明友（1982）教師のための器械運動指導法シリーズ　マット運動（大修館書店）
金子明友（1987）教師のための器械運動指導法シリーズ　とび箱・平均台運動（大修館書店）
金子明友（1986）教師のための器械運動指導法シリーズ　鉄棒運動（大修館書店）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
本科目履修にあたって以下の注意事項を守ること
①逆さや回転などの運動を行うので、長髪の者はゴムなどで髪を縛り、運動の妨げにならないようにすること。
②他者と補助しあい、練習を行うこともあるので接触事故などを防ぐために腕時計、貴金属等は授業前に外しておくこと。
器械運動の授業を通して、新しい運動をどうやって覚えていくのか、運動学習ができる場になると思います。「新しい運動が出来るようになった喜び」を感じられる場になると思います。仲間同士で「こうやったらできるようになった」などと情報を共有しながら参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜：2限（10：50-12：30）
場所：　髙松研究室（B205）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**マット運動　「倒立」および「前転」とその発展技の学習法・指導法について** マット運動の「倒立」の予備的課題についての学習法・指導法，および「前転」とその発展技の技術について理解を深め，その学習法・指導法を学習し，グループで実践する．	授業内で理解した「倒立」や「前転」のポイントやコツを忘れないよう書き留めておくこと	1時間
第2回	**マット運動　「後転」とその発展技の学習法・指導法について** 「後転」とその発展技の技術について理解を深め，その学習法と指導法を学習し，グループで実践する．	授業内で理解した「後転」のポイントやコツを忘れないよう書き留めておくこと	1時間
第3回	**マット運動　「倒立回転技」の学習方法と指導法について** 様々な倒立回転系の技の技術について理解を深め，その学習法と指導法を学習し，グループで実践する．	授業内で理解した「倒立回転」のポイントやコツを忘れないよう書き留めておくこと	1時間
第4回	**マット運動　「倒立回転跳び技」の学習方法と指導法について** 「倒立回転跳び技」の技術について理解を深め，その学習法と指導法を学習し，グループで実践する．	授業内で理解した「倒立回転跳び技」のポイントやコツを忘れないよう書き留めておくこと	1時間
第5回	**マット運動　演技の構成法・学習方法・指導法について** マット運動における演技の組み立て方やその学習法と指導法について学習し，グループで実践する．	授業内で理解した演技の学習のポイントを忘れないよう書き留めておくこと	1時間
第6回	**マット運動　マット運動の練習法・指導法のまとめ及び演技発表会** マット運動の学習法や指導法を振り返り，理解を深めるとともに，一人ずつ演技を行い，技能の達成度と理解度を図る．	授業内だけで課題を達成できなかった場合は，相談に来る等し，課題を達成すること	1時間
第7回	**とび箱運動　きり返し跳び系の技の学習法・指導法について** 開脚とびやかかえこみ跳びなどきり返し跳び系の技の構造を理解し，その学習法・指導法について学習し，グループで実践する．	授業内で理解した「きり返し跳び」系の技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと	1時間
第8回	**とび箱運動　回転跳び系の技の学習法・指導法について** 台上前転や頭はね跳び，前方倒立回転跳びなどの回転跳び系の技の構造を理解し，その学習法・指導法について学習し，グループで実践する．	授業内で理解した「回転跳び」系の技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと	1時間
第9回	**とび箱運動　とび箱運動の学習法・指導法のまとめ及び実技技能チェック** とび箱運動の学習法・指導法を振り返り，理解を深めるとともに，一人ずつきり返し跳びと回転跳びの跳躍を実践し，その達成度と理解度を図る．	授業内だけでは課題が達成できない場合は相談に来る等し，達成すること	1時間
第10回	**鉄棒運動　鉄棒に親しむための教材及び下り技の学習法・指導法について** 鉄棒に親しむための様々な教材を学習し，グループで実践する．また，鉄棒における下り技について，その構造を理解し，学習法・指導法を学習し，グループで実践する．	授業内で理解した下り技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと	1時間
第11回	**鉄棒運動　支持回転技の学習法・指導法について** 前方及び後方の支持回転，さらにそれに似た技の構造を理解し，学習法・指導法について学習し，グループで実践する．	授業内で理解した支持回転技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと	1時間
第12回	**鉄棒運動　上がり技の学習法・指導法について** 逆上がりやけ上がりなどの上がり技についての構造を理解し，学習法・指導法について学習し，グループで実践する．	授業内で理解した上がり技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと	1時間
第13回	**鉄棒運動　鉄棒運動の演技の構成法・学習法・指導法について** 鉄棒運動の演技について理解を深め，その構成法や学習法・指導法について学習し，グループで実践する．	授業内で理解した演技構成のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと	1時間
第14回	**鉄棒運動　鉄棒運動の学習法・指導法のまとめ及び演技発表会** 鉄棒運動の学習法や指導法を振り返り，理解を深めるとともに，一人ずつ演技を発表し，その達成度と理解度を図る．	授業時間内だけで鉄棒運動の課題が達成できない場合には，相談に来る等し，課題を達成すること	1時間

SP-2012-1-2

授業科目名	バレーボール（バレーボール）				
担当教員名	竹川　智樹・三好　豪				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2015年～2020年：U21,U23日本代表コーチ、2015年～2021年：日本オリンピック委員会強化スタッフ、2018年：アジア競技大会スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

バレーボールの実践を通して、個々の体力の維持、増進、および技術の向上をはかりメンバーシップやリーダーシップと言うような社会性を養うとともに科学的理論に基づいた体力づくりの方法、技術、ルール等を理解する。そして、バレーボールの個人技能を用いて、6人制バレーボールのルールに従いゲームを運営し、バレーボールの初歩的な技能について初心者に指導できることをねらいとしている。また、学校におけるバレーボール指導のため、学習指導要領に基づいた指導方法・指導計画についての理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	バレーボールの個人技能（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブ・スパイク等）を用い、6人制バレーボールを理解しつつルール則ったゲーム	バレーボールの個人技能を用いて、6人制バレーボールを理解しつつルールに則りゲームができる。また学習指導要領の目標・内容を理解できる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	バレーボールの初歩的な技能について理解し、初心者に指導できる能力	バレーボールの初歩的な技能について初心者に指導ができ、さらに教材となる技能や指導法を身に付ける。
3 ．DP11.忠恕の心	チームスポーツである事を考慮し、仲間への思いやりやコミュニケーションを計れる実践力	思いやりを持って授業に参加しコミュニケーションを計りながら、指導計画を作成し実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業における実践の評価
学期末に行われる実技テストを含む実技の評価
授業中の態度およびレポート課題（努力、積極性、協調性、責任度、服装、提出物など）の評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業における実践 40%	：	授業における実践力（実践や取り組み、思考力や判断力）
学期末に行われる実技テストを含む実技 40%	：	学期末の実技テストを含む実技の評価（技術や技能）
授業中の取り組み方およびレポート課題 20%	：	授業中の努力、積極性、協調性、責任度、服装など（関心や意欲）、レポート点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

バレーボールの学習指導と教材研究「不昧堂出版」
バレーボールに関する図書全般
シューズ・運動の出来る服装

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー

場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびバレーボールの特性の理解** ガイダンスおよび競技特性の理解 学習指導要領における目標・内容の理解 評価の方法、諸注意等	シラバスを読み、本授業の要点をまとめる	1時間
第2回	**運動と安全管理** ストレッチ、ウォーミングアップ、クーリングダウン等 用具の準備、片付け方とその安全管理	インターネットの動画サイトでバレーボールの試合を視聴する	1時間
第3回	**個人技能－１（パスの理解）** パスの意味と方法、ボールをプレーするための面作りの考え方 体育授業におけるパスの指導（学習）計画についての理解と実践	インターネットの動画サイトでバレーボールの試合を視聴する	1時間
第4回	**個人技能－２（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）** パスの基本的な考え方と練習方法、オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの練習方法 体育授業におけるオーバーハンドパス・アンダーハンドパスの指導（学習）計画についての理解と実践	図書資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きを確認する	1時間
第5回	**個人技能－３（サーブ・レセプション）** サーブとレセプションのの基本的な考え方と練習方法 体育授業におけるサーブとレセプションの指導（学習）計画についての理解と実践 簡易ゲーム１	図書資料やインターネットの動画サイトでオーバーハンドパス・アンダーハンドパスの動きを確認する	1時間
第6回	**個人技能－４（スパイク・ブロック）** スパイクとブロックの基本的な考え方と練習方法 体育授業におけるスパイクとブロックの指導（学習）計画についての理解と実践 簡易ゲーム２	図書資料やインターネットの動画サイトでオーバーハンドパス・アンダーハンドパスの動きを確認する	1時間
第7回	**集団技能－１（ローテーションとレセプションフォーメーション）** ローテーションの理解（体育授業における指導計画の作成と実施を含む） レセプションにおけるフォーションの基本的な考え方と練習方法 レセプションにおけるフォーションを考えたミニゲーム	図書資料やインターネットの動画サイトでサーブとレセプションについてプレーや動きを確認する	1時間
第8回	**集団技能－２（ブロックとディグフォーメーション）** ブロックとディグの基本的な考え方と練習方法 体育授業におけるディグフォーメーションの指導法についての理解 ブロックとディグフォーメーション考えたミニゲーム	図書資料やインターネットの動画サイトでスパイクとブロックについてプレーや動きを確認する	1時間
第9回	**集団技能－３（バックアップ・フォローアップ）** バックアップ、フォローアップの基本的な考え方とそのための準備と練習方法 バックアップ、フォローアップを考えたミニゲーム	図書資料やインターネットの動画サイトでレセプションについてプレーや動きを確認する	1時間
第10回	**集団技能－４（ゲーム形式の練習法）** ゲームについての技術と練習方法について学ぶ これまで紹介した教材や指導法についての振り返り ミニゲーム	図書資料やインターネットの動画サイトでブロックとディグについてプレーや動きを確認する	1時間
第11回	**ゲーム－１（ゲームの進行、ルールと審判法）** ゲームの進め方と準備、主な内容の説明、ルールと審判法 体育授業におけるゲーム運営方法についての理解 6人制バレーボールのルールに従いゲームを実施する	図書資料やインターネットの動画サイトでバックアップ、フォローアップについてプレーや動きを確認する	1時間
第12回	**ゲーム－２（戦術の理解）** ゲームに関するルール、戦術、作戦等を確認する 体育授業における戦術の指導法についての理解 6人制バレーボールのルールに従いゲームを実施する	図書資料やインターネットの動画サイトでゲーム形式の練習法について確認する	1時間
第13回	**ゲーム－３（大会の運営）、技能テスト１** 大会と運営について理解する 6人制バレーボールのルールに従いゲームを実施する 技能テスト１	図書資料などを用いルールと審判法について確認する	1時間
第14回	**まとめ、技能テスト２** バレーボールの特性、ルールに技術等についての確認とまとめ 体育授業における技能テスト方法についての理解 技能テスト２	テレビやインターネットの動画サイトなどでバレーボールのゲームを視聴する	1時間

SP-2013-1-2

授業科目名	テニス（テニス）				
担当教員名	北村　哲				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）				

授業概要

テニスをプレーする上での基本技術習得、ルール、審判法などの知識を身につけ、テニスを楽しみを理解してプレーする資質を育む。その際、テニスの時事ネタも含めテニスの情報にも触れ、テニスに対しての興味を深める。また、学生同士のグループ学習により初心者指導法を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	世界的メジャースポーツであるテニスについて、楽しさ、奥深さを体現できる技能	はじめてテニスラケットを握る学生が多い中で、ボールを打つというシンプルな楽しさから心理戦溢れるゲームを楽しむまでの、様々な楽しさを感じながらプレーでき、かつそれらについて説明することができる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	テニスプレーヤーとしてのマナーや振舞	個人スポーツであるテニスのプレーに全力に取り組みながらも、周囲（審判や環境）への敬意や尊敬の念を持てる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	周囲と協同する実践力	周囲と協同して目的を達成するためのコミュニケーション等を実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	25%	：期末レポートを課し、授業理解度を評価する。
毎回の授業振り返りシート	60%	：授業時毎回の振り返りシート（14回分）により、授業内容の理解や実践の達成具合について評価する。
授業への取り組み方・振舞	15%	：授業展開への積極的取り組みについて、スポーツマンシップや周囲との協同との観点から評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
梅林薫他	・教師を目指す学生のためのテニス初心者指導	・大修館書店	・2018年

参考文献等

授業内にて適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： 担当教員へメールで質問を送ってください（送り先北村哲：kitamura@bss.ac.jp）／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**テニスの理解** 授業の進め方およびテニス競技について説明する。	テニスの一般的イメージについて調査する。	1時間
第2回	**テニス基礎技術（ラケッティング）** ラケットとボールを持っての遊び、また簡易ゲームを通して、ラケット操作の能力を高める。	テニスの初心者に対する指導法について各自調査する。	1時間
第3回	**フォアハンドグラウンドストロークの動きの理解** ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、フォアハンドストロークの練習と簡易ゲームを通して、フォアハンドグラウンドストロークの運動構造について理解する。	フォアハンドストロークのメカニズムおよび指導法について各自調査する。	1時間
第4回	**フォアハンドグラウンドストロークのスキル向上** ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、フォアハンドストローク練習と簡易ゲームを通して、フォアハンドグラウンドストロークによりボールコントロール能力の向上を図る。	フォアハンドストロークの応用的スキルおよび指導法について各自調査する。	1時間
第5回	**バックハンドグラウンドストロークの動きの理解** ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、バックハンドストローク練習と簡易ゲームを通して、バックハンドグラウンドストロークの運動構造について理解する。	バックハンドストロークのメカニズムおよび指導法について各自調査する。	1時間
第6回	**バックハンドグラウンドストロークのスキル向上** ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、バックハンドストローク練習と簡易ゲームを通して、バックハンドグラウンドストロークのボールコントロール能力の向上を図る。	フォアハンドストロークの応用的スキルおよび指導法について各自調査する。	1時間
第7回	**ボレー＆ネットプレーの理解とスキル向上** ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、ボレー練習とスマッシュ練習および簡易ゲームを通して、ボレーストロークとネットプレーについて理解し、スキル向上を図る。	ボレーのメカニズムおよび指導法について各自調査する。	1時間
第8回	**サービス＆リターンの理解とスキル向上** サービス練習とリターン練習および簡易ゲームを通して、サービスとサービスレシーブ（リターン）について理解し、スキル向上を図る。	サービスのメカニズムおよび指導法について各自調査する。	1時間
第9回	**シングルスの試合形式での練習によるゲーム特性の理解** グループ毎に練習を実践し、その後シングルス形式の簡易ゲームを行い、シングルスのゲーム特性について理解する。	シングルスのゲームの仕方およびルールについて調査する。	1時間
第10回	**シングルスの試合によるゲームスキルの向上** グループ毎に練習を実践し、その後シングルス形式のゲームを行い、シングルスのゲームスキル向上を図る。	シングルスの効果的な戦術について調査する。	1時間
第11回	**実践的練習Ⅰ　グラウンドストロークからネットプレーへの移行の理解とスキル向上** グループによる指導実践（教え合い）を通して、グラウンドストロークからネットプレーへの移行について理解し、簡易ゲームを通して、スキルの向上を図る。	ネットプレーを含んだ戦術について調査する。	1時間
第12回	**ダブルスの試合形式での練習によるゲーム特性の理解** グループ毎に練習を実践し、その後ダブルス形式の簡易ゲームを行い、ダブルスのゲーム特性について理解する。	ダブルスの試合の仕方およびルールについて調査する。	1時間
第13回	**ダブルスの試合によるゲームスキルの向上およびゲーム運営の理解** グループ毎に練習を実践し、その後ダブルス形式のゲームを行い、ダブルスのゲームスキル向上を図る。また、審判、ボールパーソンの実践を通して、テニスのゲーム運営について理解する。	ダブルスの試合の仕方およびルールについて調査する。	1時間
第14回	**テニスの面白さ・楽しさについての考察** テニスにおける各スキルや戦術、またテニスのゲームの面白さ・楽しさについて振り返り、整理する。	これまでの授業内容について復習する。	1時間

SP-2014-1-2

授業科目名	バスケットボール（バスケットボール）				
担当教員名	吉川・玉城				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

バスケットボールは、我が国の学校体育における一領域としての球技に位置づけられている。序盤は、学習指導要領に明記されている球技（ゴール型）の目標や内容の理解を図るとともに、ボール操作やアウトサイドシュート等の基本技能の質的向上を図りながら、バスケットボール競技の教材や指導法について学ぶ。終盤は、グループでゲーム実践に向けた指導計画（学習指導案）を立て、ゲームを実践する。実技の実践を通して、技能の熟達過程に関する実践知の獲得を図るとともに、ゲーム運営の仕方や他者との関わりついても学びを深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	ゲーム形式の対人プレイで発揮することが求められる攻守の個人技能及び集団戦術行動	球技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できるようにする。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	バスケットボール競技とその指導法の理解	現在のルール、技術の構造及び技能の高め方、技術分析、指導法、審判法、ゲーム運営の仕方等を理解できる。学習指導要領の目標・内容を理解できる。
3 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	スポーツ学の知見を踏まえた実践力、応用力	技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的に実践を通して、自己の課題を解決できる。
4 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	バスケットボール競技に求められる個人技能と基本的な集団戦術行動	ルールに則って攻守に取り組み、競技性を楽しむことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
基本技能に関する実技試験 40%	：	ゴール下におけるシュート技能10%、パス＆キャッチ＆フットワークの複合技能10%、ドリブル技能10%、アウトサイドシュート技能20%、レイアップシュート技能20%から構成される。
実技及び指導にかかるパフォーマンス評価 30%	：	ルールを踏まえ、他者を尊重し、チームメイトと協調・協力しながら技能や戦術行動の質的向上を図るとともに、指導法を学ぶ授業参加度を、独自のルーブリックに基づいて質的に評価する。
ゲームパフォーマンス評価 30%	：	バスケットボール競技の特性とルールに対する理解、及びゲームパフォーマンス、ひいては関心・意欲・態度について、独自のルーブリックに基づいて30%で総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「バスケットボール指導教本」日本バスケットボール協会編　大修館書店（2002）。その他各時間に必要な資料を準備し、配布する。また、必要に応じてビデオ教材を準備する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： 急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業のガイダンスと基本技能の実践** バスケットボールの競技特性を概観し、授業計画、到達目標を知る。学習指導要領の球技「（ゴール型）バスケットボール」の目標・内容を理解する。授業に参加する上での注意事項を理解する。ボール操作に関する基本的な技能について導入する。具体的には、トリプルスレッドポジション（ボール保持の基本姿勢）を知るとともに、ボールハンドリング、ドリブル、シュートの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。	ルールの変遷を含め、バスケットボール競技の歴史について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第2回	**シュートの調整法の基礎** ゴール下におけるジャンプシュートのドリルを中心に、シュートの調整法を実践する。技術や技能の上達過程に関する運動学習・制御分野における知見を学ぶ。 フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。加えて、ボールを用いたコーディネーショントレーニングを実践する。	運動連鎖という概念について文献調査を行ない、重要事項や関連事項についてまとめる。	1時間
第3回	**ゴール下におけるジャンプシュート** ゴール下においてボールにミートし、フットワークを駆使しながらジャンプシュートを行なうドリルを中心に、シュートの調整法を実践する。効率的に反復練習を繰り返すことができるドリルの種類とその運営の仕方を知る。 フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの反復練習に加え、ボールミート時のフットワーク技能の修得に資するドリルを実践する。	アウトサイドシュート時の運動連鎖に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項についてまとめる。	1時間
第4回	**ドリル実践と実技試験：　ゴール下シュート** ゴール下シュートの調整法について学び得たドリルを各グループで組織化し、実践する。ゴール下におけるジャンプシュートの実技試験を行う。ディフェンスが対峙したときのシュート機会を含め、様々な状況判断が求められる対人プレイを経験する。個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団で仲間と連携し勝敗を競い合う対人プレイのなかで必要とされる技能や戦術、体力について理解を深める。	バスケットボールの競技特性について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第5回	**ワンハンドシュートの調整法①** 1）ボールの持ち方、2）スピンのかけ方、3）シューティングライン、4）ワンハンドシューティングを中心に、ワンハンドシュートの基本を学ぶ。 フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。	ワンハンドシュート動作について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第6回	**ワンハンドシュートの調整法②と個人戦術行動の基礎** 前回の復習を行い、5）キャッチからのシュート、6）ジャンピングシュートの練習を行う。シュートの距離を伸ばしていくことを目的に、7）１ステップシュートを行う。また、リングに正対することを目的に、8）2人組正対シュートを行う。 ハーフコートにおける1on1の対人プレイをとおして、ディフェンスの状況に応じた個人技能を試行する。	ワンハンドシュートの調整方法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第7回	**ワンハンドシュートの調整法③とグループ戦術行動の基礎** 動きながらボールをレシーブしてシュートすることを目的に、9）セルフトスからのミートシュートを行う。10）2人組でのシュートドリルを行う。11）ストップ様式別ミートシュートドリルを行う。 ハーフコートにおける3on3の対人プレイをとおして、個人技能の発揮に加え、個人戦術行動、グループ戦術行動を試行する。攻守において空間に走り込む動きについて理解を深める。	ツーハンズシュートの動作について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第8回	**ワンハンドシュートの調整法④とグループ戦術のドリル実践** 12）ペイントエリアの頂点を用いて、3人組でのミートシュートの練習（エルボーシュート）を行う。13）2人組でのストップ様式別ミートシュートドリルを行う。エルボーシュートに加え、14）スイングの動きからのシュートを行う。15）ジグザグドリブルシュート、16）１ドリブルからのシュートを行う。パス・キャッチ・フットワークの技能修得に資するドリルを実践する。ハーフコートにおける3on3の対人プレイをとおして、個人技能の発揮に加え、攻守において空間に走り込む動きを含め、個人戦術行動、グループ戦術行動を試行する。	球技（ゴール型バスケットボール）の単元計画や授業計画を調査し、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第9回	**ドリル実践と実技試験：　ドリブル及びパス・キャッチ・フットワーク複合**	球技（ゴール型バスケットボール）の単元計画を立案する。	1時間

	ドリブル及びパス・キャッチ・フットワークに関して学び得たドリルをグループごとに組織化し、実践する。ドリブル技能及びパス・キャッチ・フットワーク複合技能の到達度を測る実技試験を行う。ディフェンスが対峙したときのシュート機会を含め、様々な状況判断が求められる対人プレイの実践を経験する。個人やチームの能力に応じた作戦を立て、個人対個人、集団対集団で仲間と連携し勝敗を競い合い、それらのできばえを振り返る。		
第10回	**ワンハンドシュートの調整法⑤と集団戦術行動の基礎** 前回までの復習を行い、シュートドリルの実践を行なう。レイアップシュートの技能を知り、ドリルを実践する。シュートの構えからの攻撃のバリエーションについて知る。17）ボールレシーブ及びシュートフェイクから1ドリブルシュート、18）ボールレシーブ及びシュートフェイクから2ドリブルシュートを行う。球技（ゴール型バスケットボール）の単元計画や授業計画をグループで検討する。オールコートにおける対人プレイを実践する。	レイアップシュートの動作及びその習得法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第11回	**練習の組織化とドリルのグループ実践** グループで策定してきた球技（ゴール型バスケットボール）の単元計画や授業計画をグループで実践し、その取り組みを振り返る。	バスケットボール競技の基本技能とドリルに関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第12回	**練習の組織化についての振り返りと集団戦術行動の応用** 集団戦術行動を実践する応用の機会や場面を見据えて、基本技能、グループ戦術行動を発揮することが求められるドリルを各グループで構成し、実践する。	審判法及びゲームの運営、管理の仕方や留意点についてポイントをまとめる。	1時間
第13回	**ドリル実践と実技試験：　アウトサイドシュート及びレイアップシュート** シュートの調整法について各自で学び得たドリルを組織化し、実践する。アウトサイドシュート技能及びレイアップシュート技能の到達度を測る実技試験を行う。	バスケットボールのパフォーマンス指標及び基準値について重要事項や関連事項をまとめる。	1時間
第14回	**まとめの試合・全体の振り返り** チーム分けを行い、バスケットボールの試合を行う。バスケットボール競技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できるようにする。	バスケットボール競技におけるオフェンスの集団戦術について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	1時間

SP-2015-1-2

授業科目名	サッカー（サッカー）				
担当教員名	望月・坂尾				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2005年からJFA日本サッカー協会指導者養成インストラクター。2014年からユニバーシアード日本女子サッカー代表監督等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

学習指導要領に明記されている、サッカーの専門的な技術はもとより、クラブチームや学校の指導者として必要なプレゼンテーション能力やトレーニング法、コーチング法を修得し、チームワークや基本戦術などを学ぶ。またいかに楽しくトレーニングをして、うまくさせるかにポイントを置き、ゲームにその成果が出せる、試合⇒練習⇒試合(M-T-M)・指導法のシステムで、指導計画を立て誰もが更にレベルを上げてサッカーが楽しめるようにすることを目標とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	サッカー競技の原理・原則	サッカー競技の特性や本質について理解できる。
2 ．DP4.高度なスポーツ技能	基本的スキルの質の向上、知識とテクニック	実践力ある選手について理解を深め、実践力・指導法を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

指導実践において、指導計画案作成など、準備を重要視します。講義では積極的な意見交換(質問や発問)をして下さい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
指導実践 40%	：	①テーマに焦点をあてたコーチング(10%) ②テーマにあったトレーニングメニュー(10%) ③成功と失敗の原因、解決法が分かり、伝わるコーチング(20%)
実技力 30%	：	①選手としての実技力(15%) ②失敗を恐れない積極性あるプレー(15%)
指導実践・実技・講義でのディスカッション 30%	：	①発問や質問に対しての意見交換(15%) ②コーチとして意見を引き出す言語スキル(15%)

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

DVD「インテリジェンスを育てる」サッカートレーニング(JLCジャパンライム)
21世紀のサッカー選手育成法　　ゲロ・ビザンツ著　田島幸三監訳　大修館書店
小学校体育 全学年対応 サッカー指導の教科書　日本サッカー協会著　東洋館出版社
講義ノートとして，A4ノートを1冊用意すること.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・実技が安全にできるよう、服装とともに、ネックレス・ブレスレット・ピアス等は外して受講するようにして下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびアイスブレイク、ミニゲーム** ガイダンス，チーム分け，アイスブレイク，ミニゲームを通して、全体の流れを理解する。またサッカー競技の楽しさを実感し、今後の授業に活かす。学習指導要領における目標内容を理解する。	サッカー競技の文献、試合映像を見て、特性を掴んでおく。	1時間
第2回	**テクニック①ボールフィーリング（ボールに慣れる）** チーム修正，リフティング，ドリブルの習得と指導方法の検討、ミニゲーム，振り返りミーティング	実際にサッカーボールに触れておき、足で扱う難しさを体験しておく。	1時間
第3回	**テクニック②パス＆コントロール** パス＆コントロール（対面パス，ボール回し）の習得と指導方法の検討，ミニゲーム，振り返りミーティング	サッカー競技の試合映像を見て、パスとコントロールの必要性を理解しておく。	1時間
第4回	**個人戦術①パスをつなぐ（ボールポゼッション）** ボール回し，4vs4+ターゲット，ミニゲーム，ボールポゼッションの動きに関する指導方法の検討、振り返りミーティング	試合映像を見て、ボールポゼッションとはどのようなことか、理解しておく。	1時間
第5回	**テクニック③ドリブル** ドリブル突破，ミニゲーム，振り返りミーティング	実際に左右の足を使い、ドリブル練習をして難しさを体験しておく。	1時間
第6回	**テクニック④ゴールキーパー（GK）の基礎** ＧＫの基礎（キャッチング，スローイング，ダイビング），ミニゲーム，振り返りミーティング	試合映像を見て、ゴールキーパーの役割について、理解しておく。	1時間
第7回	**個人戦術①パスを受ける（オフ・ザ・ボールの動き）** 対面パス，１ｖｓ1+2サーバーミニゲーム，振り返りミーティング	ボールを受ける前の動きとは何か、試合映像から分析しておく。	1時間
第8回	**個人戦術②フィニッシュ（シュート）** シュート，2対1，ミニゲーム，振り返りミーティング	ゴールシーンの映像から、シュートまでの動きやテクニックなど、分析しておく。	1時間
第9回	**チーム戦術（攻撃）①ゴールを奪う** チーム分け，トレーニング（突破、フィニッシュ），5vs5，チームミーテイング	ゴールシーンの映像から、コンビネーションからうまれるシュートについて、分析しておく。	1時間
第10回	**チーム別で戦術を考える（攻撃）②コンビネーション** コーチプレゼンテーション(選手が納得いく説明力)，トレーニング（コンビネーション），5vs5，チームミーテイング	コーチに必要なコミュニケーション能力について、考え整理しておく。	1時間
第11回	**チーム戦術（守備）①組織的守備** コーチプレゼンテーション，トレーニング（守備のバランス），5vs5，チームミーテイング	組織的守備とはどのような守備なのか。調べて整理しておく。	1時間
第12回	**チーム別で戦術を考える（攻から守）①素早いプレス** コーチプレゼンテーション，トレーニング（プレッシング），7vs7，チームミーテイング	「攻撃から守備の切り替えの速さ」の重要性について分析しておく。	1時間
第13回	**チーム別で戦術を考える（守から攻）①速攻** コーチプレゼンテーション，トレーニング（切り替え），8vs8，チームミーテイング	「攻撃から守備の切り替えの速さ」の重要性について分析しておく。	1時間
第14回	**チーム別で戦術仕上げ　攻撃と守備とセットプレー** コーチプレゼンテーション，トレーニング（速攻），11vs11，チームミーテイング	「試合中に起こるセットプレーとは」重要性や注意点等考えておく。	1時間

SP-2016-1-2

授業科目名	**ハンドボール**				
担当教員名	池本　聡				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1990年～2007年・2013年～2015年日本リーグ（ジャスコ・三重バイオレット）監督、1996年～1999年全日本U－２０コーチ、1995年～日本ハンドボール協会強化委員、及び小学生から社会人の指導経験を踏まえた展開を講義に反映している。				

授業概要

ハンドボールは、我が国の学校体育における一領域としての球技に位置づけられている。ハンドボールの歴史と変遷を理解し、ハンドボール競技に必要な個人技能・小集団技能・集団技能への考え方、必要な個人スキル・集団スキルを習得理解する。あわせて、ルールの理解を深めるためにレフェリーの判定基準を学び、体験する。また、学びをより深めるために、グループミーティングを行う。さらに、より発展性を創造する将来指導に携わるときに有意義な講義を実施する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	・	・

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題レポート	50%	： 課題に対する情報収集及び考察が十分に行われている。50点満点で評価する
実技試験	50%	： 最終実技試験及び授業内審判により評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 受業前後
場所： 体育館

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義概要とハンドボール競技の概説** 講義内容の説明と進め方 ハンドボール競技の歴史と変遷。 ボール遊びを兼ねた個人技能ボールコントロール	11人制・7人制ハンドボールの歴史と変遷についてまとめる	1時間
第2回	**ハンドボール競技の形成（個人技能）**	・	1時間

	ハンドボール競技に必要な技能 ボディーコントロール・ボールコントロールの実践と理解 狭域コートでの1対1 パスバリエーションの応用と実践。		
第3回	**ハンドボール競技の形成（小集団技能）** ハンドボール競技に必要な技能 ボディーコントロール・ボールコントロールの実践と理解 狭域コートでの1対1 シュート・ＤＦを用いた簡易な攻防	・	1時間
第4回	**ハンドボール競技の形成（小集団技能）** ２～３人の集団技能 パスの多様性と有効な使い方の実践。 ２対２・３対３における攻防の理解と実践。状況に応じた選択肢の対応。 ミニゲーム。	・	1時間
第5回	**ハンドボール競技の形成（小集団技能）** 小集団での攻防の理解 攻撃バリエーションの理解と実践 防御システムの理解と実践 ミニゲーム	・	1時間
第6回	**ハンドボール競技の形成（小集団技能②）** 小集団技能の技能の理解 小集団におけるオフェンス技術の連携・応用と実践。 小集団の於けるディフェンス技術の連携・応用と実践。	・	1時間
第7回	**ハンドボール競技の形成（小集団技能③）** 小集団技能の理解 小集団におけるオフェンス技術の連携・応用と実践。 小集団の於けるディフェンス技術の連携・応用と実践。 オフェンスファールとディフェンスファウルの定義と段階的罰則の適用。	罰則の種類と適応基準について。	1時間
第8回	**ハンドボール競技の形成（小集団技能④）** 小集団技能の理解 ディフェンスシステムに応じた攻撃の有効性の考察と理解。 オフェンスシステムに応じたディフェンスの有効性と考察 ミニゲームによる実践。	・	1時間
第9回	**集団技能の理解（攻撃編）** ６－０ディフェンスの攻撃システムの実践トレーニング ディフェンスに対する攻撃方法の考察（グループミーティング） 検討内容の実践 レフリーの判定基準（攻撃側が犯しやすい反則に特化） ショートゲーム	・	1時間
第10回	**集団技能の理解（防御編）** ６－０ディフェンスの防御システムの実践トレーニング 攻撃に対する防御方法の考察（グループミーティング） 検討内容の実践 レフリーの判定基準（防御側が犯しやすい反則に特化） ショートゲーム	・	1時間
第11回	**ゲームを通じた集団技能の実践及び判定の実施** グループ単位のゲームを実施 ゲーム終了時グループミーティング レフェリー体験	・	1時間
第12回	**ゲームを通じた集団技能の実践及び判定の実施②** ディフェンスシステムの変化と攻撃システムの対応。 ５－１ディフェンス、４－２ディフェンス、３－３ディフェンス、マンツーマン等のシステムの実践と攻撃方法の考察。 グループミーティング。 ミニゲームの実施とレフリーの体験	・	1時間
第13回	**ゲームを通じた集団技能の実践及び判定の実施③** グループ単位のゲームを実施（グループ別にディフェンス、オフェンスを選択） ゲーム終了時グループミーティング レフェリー体験	・	1時間
第14回	**講義内容を集成した試合実施とレフリング** グループ単位のゲーム レフリーの担当 実技試験（ボールコントロール的あて）	・	1時間

SP-2017-1-2

授業科目名	テーピング・ストレッチ				
担当教員名	田中・片淵・森				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

テーピングやストレッチなどの実技を通して，スポーツ活動を継続する上で必要なコンディショニングの手法を習得することを目的とする．ストレッチはセルフやペアで行い，柔軟性の変化を体感する．継続することで，身体をケアすることの重要性を学ぶ．テーピングでは，スポーツに関連した外傷として多くみられる足関節内反捻挫を再発予防するための方法を習得する．練習を重ねることで，解剖学的知識を応用し，しわなくテーピングが巻けるようになる．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	部位に合わせたストレッチとテーピングの実践力	適切なストレッチができ，テーピング（足関節内反捻挫再発予防）を巻くことができる．
2 ．DP11.忠恕の心	相手を気遣うコミュニケーション力	常に相手とコミュニケーションをとり，適切な手技ができる．

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
テーピング実技試験	70%	： 足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングを，所定の時間内に正しく巻くことが出来るかどうかについて評価する．
ストレッチ実技試験	20%	： 各筋に対応するストレッチ方法を理解して実践できるかどうかについて評価する．
授業参加度	10%	： 積極的に実習を行っているかについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業に必要な物（タオルや半パンツ，テーピング等）は必ず各自で準備をする．忘れた場合は，実習に参加できなくなるため確認をして参加すること．

また，授業で使用するテーピングは，別途自費（¥2,000プラス必要に応じて）で購入する．実技試験では，テーピングの種類で評価に差が出ないよう，授業で指定したテーピングを使用すること．購入の時期および方法は，授業内およびポータルを用いて通達する．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**ガイダンスと柔軟性評価** 授業の進め方と到達目標および成績評価を確認する． ケガの予防やパフォーマンスと関連のある部位の柔軟性を評価する．	評価結果を見て，セルフケアの方法を予習する．	1時間
第2回	**下肢のストレッチとケア** 下肢の柔軟性評価を確認する．セルフおよびペアストレッチ，道具を用いたケアを行い，再び評価する．下肢のストレッチとケアを行う．	下肢のストレッチとケアを復習する．	1時間
第3回	**体幹部と上肢のストレッチとケア** 体幹部と上肢の柔軟性評価を確認する．セルフおよびペアストレッチ，道具を用いたケアを行い，再び評価する．体幹部と上肢のストレッチとケアを行う．	体幹部と上肢のストレッチとケアを復習する．	1時間
第4回	**ストレッチのまとめと実技試験** 筋肉のカードを引き、適切なストレッチを実践する。	各筋で適切なストレッチができるかどうか確認する。	1時間
第5回	**テーピングの講義** テーピングの目的や効果について学ぶ。テーピングは¥2,000で購入する。	テーピングの目的は効果を復習する。	1時間
第6回	**アンダーラップの導入** アンダーラップの持ち方、当て方、手順を学ぶ。	アンダーラップの持ち方、当て方、手順を確認する。	1時間
第7回	**アンダーラップの完成** 皮膚に直接テーピングがかからないように保護する役割であるアンダーラップの巻き方を習得する．薄く，しわなく，たるみなく，隙間なく巻くことを目指し，足関節内反捻挫の再発を予防するアンダーラップを巻けるようにする。	正確にアンダーラップが巻ける様に，手順を繰り返し練習する．	1時間
第8回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（手順前半）** 足関節内反捻挫で損傷されることが多い靭帯の名称と場所を確認する．最初にアンダーラップを巻いた後，コットンテープを用いて，足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングを行う．相手の姿勢に注意し，しわなく，たるみなく，隙間なく巻くことと方向に注意する巻き方を学ぶ．それぞれの名称であるアンカーテープ，スターアップを学ぶ．	正確にアンダーラップが巻ける様にし，授業で行ったコットンテープの順序を復習する．	1時間
第9回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（手順後半）** アンダーラップおよび前回に巻いたテーピングを復習し，ホースシューをプラスする．ホースシューをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために必要な解剖学的な要因を理解し，練習する．	正確にアンダーラップが巻ける様にし，授業で行ったコットンテープの順序と方向を復習する．	1時間
第10回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（完成）** アンダーラップおよび前回に巻いたテーピングを復習し，フィギュアエイトをプラスする．フィギュアエイトをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために必要な解剖学的な要因を理解し，練習する．	正確にアンダーラップおよびコットンテープが巻けるよう復習する．	1時間
第11回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（完成）** アンダーラップおよび前回に巻いたテーピングを復習し，フィギュアエイトをプラスする．フィギュアエイトは方向に注意して、しわなく，たるみなく，隙間なく巻くために必要な解剖学的な要因を理解し，練習する．	正確にアンダーラップおよびコットンテープが巻けるよう復習する．	1時間
第12回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（予行）** アンダーラップおよびテーピングをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために練習する．スターアップとフィギュアエイトは方向に注意する．時間内にアンダーラップおよびテーピングをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために練習する．実技試験のポイントについて解説する．	時間内に正確にアンダーラップおよびコットンテープが巻けるよう復習する．	1時間
第13回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングのまとめと実技試験** 足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングの実技試験を行う．	試験での完成度を自己評価し，良かった点および不足していた点を振り返る．	1時間
第14回	**その他のテーピング** 手関節の背屈制限、アーチ保持、打撲や肉離れ、足関節内反捻挫再発予防のテーピングにヒールロックをプラスする、など、さまざまなテーピングを実践する。	実践したテーピングを復習し、その他のテーピングについても学ぶ。	1時間

SP-2018-2-2

授業科目名	ソフトボール（ソフトボール）				
担当教員名	高橋・山手				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	硬式野球の競技歴12年、指導歴15年、学生国際大会のコーチ等の実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

本授業では、学習指導要領に明記されたソフトボールの競技特性や楽しさ、ルールなどを理解し、中学・高校でのソフトボールの授業を円滑に行うことができる技能を身につける。前半（第1～7回）では中学・高校での授業を円滑に行うために必要なスロービッチ投法やウインドミル投法、ゴロ・フライのキャッチ、バッティングやノックなどの練習を行うとともに、その指導法を学修する。中盤から後半（第8～13回）では、リーグ戦を行い、チームの課題を明確にして、練習を行うことを繰り返す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	ソフトボールの授業に必要な技能の習得	ソフトボールの授業に必要となる基礎技能をはじめ、ノックなど指導に必要な技能および指導法を習得する。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	リーグ戦を通してのスポーツマンシップの醸成	リーグ戦の準備や円滑な運営、セルフジャッジなどを通して、スポーツマンシップを醸成する。
3 ．DP11.忠恕の心	チームメイトや相手チームへの忠恕の心の醸成	特別ルールの設定やセルフジャッジなどを通して、忠恕の心を醸成する。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として、毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況 15%	：	授業でのルールを遵守し、積極的に授業に臨み活動できたかを評価する。自己評価カードを用いて行う。
授業内での修得状況 30%	：	自己の課題設定ができ、基本プレイやルールが身についたかを評価する。自己評価カードを用いて行う。
確認テスト（ルール） 10%	：	競技を安全に楽しくするうえでのルールが身についたかをペーパーテストにより評価する。（10点）
毎週の課題提出 45%	：	毎週提示する課題を提出し、内容が優れているかどうか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

・運動のできる服装・靴で来ること。（ジーパンやサンダルは不可。着帽が望ましい。）
・毎回の授業内容を丁寧に復習し、ソフトボールを学ぶ姿勢で参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の場所（教室・グランド）

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**基礎技術1：キャッチボール（オーバー、アンダー、ウインドミル）** ソフトボールの基礎となるボールの投げ方や捕球の仕方を身につける。また、ソフトボール独特の投法であるウインドミル投法を身につける。そして、これらの技能に関する指導法を検討する。 ※オンデマンド講義の場合があるため、その際は、投げ方についての動画を見て、レポートを提出し、各自で練習しておく。	様々な投げ方についての理解を深めるよう、動画などを検索して見る。	1時間
第2回	**基礎技術2：投げ方の練習** オンデマンド講義の場合には、以下の流れで行う。対面の際は、この内容を対面で指導する。 1. まず、室内でいいので、タオルかなにかを持って、それを投げるまね（シャドーピッチング）をし、その動きを動画で撮影する 2. 次に、以下の動画を見て、投げる動作の練習をする https://youtu.be/kXPgJGdNqqY 3. もう一度、タオルかなにかを持って、シャドーピッチングを行い、動画を撮影する 4. 動作や自分の感覚が変化したか、どのように変化したかを、詳細にレポートにまとめる（提出はフォームから）	次回の授業までに、タオルでも何でもいいので、投げる練習をしておく。	1時間
第3回	**基礎技術3：打ち方の練習** オンデマンド講義の場合には、以下の流れで行う。対面の際は、この内容を対面で指導する。 1. まず、もし家にバットがあればバットを、なければ80cmくらいの棒や傘をバットの代わりにし、その動きを動画で撮影する 2. 次に、以下の動画を見て、バットスイング動作の練習をする https://youtu.be/zLdgELN1bQ4 3. もう一度、バットスイング動作を行い、動画を撮影する 4. 動作や自分の感覚が変化したか、どのように変化したかを、詳細にレポートにまとめる（提出はフォームから）	次回の授業までに、バットや棒を用いて、素振りをしておく。	1時間
第4回	**基礎技術4：ゴロとフライの捕球** オンデマンド講義の場合には、以下の流れで行う。対面の際は、この内容を対面で指導する。 1. 以下の動画を見て、「捕球」について学ぶ https://youtu.be/Xkc0Lyng9iE 2. 次に、指定する動画を見て、ゴロやフライをプロ野球選手がどのように捕球しているかを確認する （動画URLは都度指定する） 3. ゴロやフライの捕球の注意点をふまえ、プロ野球選手がどのように捕球しているかをまとめる（提出はフォームから）	次回の授業までに、ゴロやフライの捕球について、タオルなどを用いてよいので、練習しておく。	1時間
第5回	**基礎技術5：ルールの確認** オンデマンド講義の場合には、以下の流れで行う。対面の際は、この内容を対面で指導する。 1. 動画を見て、「ルール」について学ぶ。 https://youtu.be/7a1_DKqxXEs 2. Googleフォームでテストをする。	次回の授業までに、ルールについて確認しておく。	1時間
第6回	**基礎技術５：フリー打撃** 打撃練習としてよく用いられる、フリー打撃の仕方を身につける。また、これらの技能に関する指導法を検討する。	次回の授業までに、シートノックの流れを確認し、次回以降試合前に行うシートノックを全員が円滑に行うことができるよう準備しておく。	1時間
第7回	**基礎技術６：シートノック、ケースノック** 守備練習の基礎となるシートノックの仕方を身につける。また、走者をつけた状態でのノック（ケースノック）を行い、守備の送球や走者の走塁の判断の練習を行う。また、これらの技能に関する指導法を検討する。	ケースノックで表出した課題や、仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。	1時間
第8回	**リーグ戦１：フライは即アウト** リーグ戦を行う。特別ルールで、【フライが上がったときは即打者アウト】とする（プレーは継続）。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。	フライを打つことの問題点や課題についてチームで話し合い、練習をしておく。	1時間
第9回	**リーグ戦２：引っ張る方向の打球は即アウト**	流し打ち方向の打撃に関する課題についてチームで話し合い、練習をしておく。	1時間

	リーグ戦を行う。特別ルールで、【引っ張る方向（右打者が三塁方向、左打者が一塁方向）に打ったときは即打者アウト】とする（プレーは継続）。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。		
第10回	**リーグ戦３：流し打ち方向の打球は即アウト** リーグ戦を行う。特別ルールで、【流し打ち方向（右打者が一塁方向、左打者が三塁方向）に打ったときは即打者アウト】とする（プレーは継続）。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。	引っ張る方向の打撃に関する課題についてチームで話し合い、練習をしておく。	1時間
第11回	**リーグ戦４：状況に応じたバッティングを意識して（ケース攻撃）** リーグ戦を行う。これまでの３試合から、走者の位置に応じてどのような打球を打てばよいかを考えながら攻撃する。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。	その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。	1時間
第12回	**リーグ戦５：走塁を意識して** リーグ戦を行う。走塁でのミスがないよう、しっかり判断しながら走塁できているかどうかを確認する。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。	その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。	1時間
第13回	**リーグ戦８：試合の総括** リーグ戦を行う。最終戦として、これまでの成果が出ているかを確認しながら試合を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。	その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。	1時間
第14回	**達成度チェックおよび総評** 実技のテストやルールテストを通して、ソフトボールの競技特性や楽しさ、ルールなどを理解し、中学・高校でのソフトボールの授業を円滑に行うことができる技能を身につけることができたかを振り返る。	これまでの授業内容について復習する。	1時間

SP-2019-2-2

授業科目名	柔道（柔道）				
担当教員名	林　弘典				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005年～現在）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

武道（柔道）は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、中学校第1学年及び第2学年で必修とされている。本授業では、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことを学ぶ。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようになることを学ぶ。さらに、学習指導要領の武道の目標・内容を理解し、教材や指導法、指導計画（学習指導案）を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	受け身	後ろ受け身、横受け身、前受け身ができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	柔道の概要	創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓を正しく書いて暗唱できる。
3 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	前回り受け身	前回り受け身ができる。
4 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	礼法	立礼と座礼ができる。
5 ．DP11.忠恕の心	礼の意味	礼の意味を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表	30%	： 第1回～第14回の授業において、1人に対して5回の質問を行い、発表内容の妥当性を5段階で評価する。
レポート	30%	： 第10回の授業において、柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）の名称と意味を正しく書いたレポートを提出・暗唱を行い、その完成度を5段階で評価する。
パフォーマンス評価	40%	： 第14回の授業において、礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）の完成度を5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

１．実践柔道論（小俣幸嗣、メディアパル）
２．一本をとる！柔道上達BOOK（小俣幸嗣、成美堂出版）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学習が求められる。以下に主な注意点を記す。

１．事故防止や学習効果を高めるために、適切なサイズの柔道衣（ゼッケン付き）の着用を義務づける。
２．柔道衣を持っている者は2回目の授業までサイズチェックを受けることができる。サイズが適切だった場合、ゼッケンだけを購入する。不適切な場合、適切なサイズの柔道衣（ゼッケン付き）を購入する。
３．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は外す。
４．長髪の者はゴムで髪を束ね（ピンは使用しない）。
５．柔道衣の下には、男子は何も着用せず、女子はTシャツ等ボタンやファスナーのない衣類を着用する。
６．感染症防止のために、柔道衣の貸し借りをせず、使用した柔道衣はすぐに洗濯する。
７．体調を整えて参加する。
８．怪我防止のために、早めに柔道場に来てウォーミングアップをする。
９．各自で貴重品を管理する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、柔道衣の採寸、中学校学習指導要領の武道（柔道）の目標・内容、武術・武道・スポーツの目的、柔道の概要** 本授業の目的・計画、柔道衣の適切なサイズ、中学校学習指導要領の武道（柔道）の目標・内容、武術・武道・スポーツの目的、柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について学習する。	シラバスを熟読する。柔道衣の適切なサイズ、中学校学習指導要領の武道（柔道）の目標・内容、武術・武道・スポーツの目的、柔道の概要について調べる。実践柔道論（小俣幸嗣、メディアパル）pp.84-86.を熟読する。	1時間
第2回	**礼法（立礼、座礼）、後ろ受け身** 礼の意味、礼法（立礼、座礼）受け身の目的、後ろ受け身について学習する。また、その指導法について学習する。	礼の意味、礼法（立礼、座礼）、後ろ受け身について調べる。	1時間
第3回	**段位制度、横受け身、前受け身、前回り受け身（立たない）** 段位制度、横受け身、前受け身、前回り受け身（立たない）について学習する。また、その指導法について学習する。	横受け身、前受け身、前回り受け身（立たない）について調べる。	1時間
第4回	**柔道衣の着方、前回り受け身、抑え技の3つの条件、横四方固め** 柔道衣の着方、前回り受け身、抑え技の3つの条件、横四方固めについて学習する。また、その指導法について学習する。	柔道衣の着方、前回り受け身、抑え技の3つの条件、横四方固めについて調べる。	1時間
第5回	**上四方固め、組み方（柔道衣の握り方）、八方（はっぽう）の崩し、膝車** 上四方固め、組み方（柔道衣の握り方）、八方の崩し、膝車について学習する。また、その指導法について学習する。	上四方固め、組み方（柔道衣の握り方）、八方の崩し、膝車について調べる。	1時間
第6回	**袈裟固め、抑え技のポイント、支え釣り込み足** 袈裟固め、抑え技のポイント、支え釣り込み足について学習する。また、その指導法について学習する。	袈裟固め、抑え技のポイント、支え釣り込み足について調べる。	1時間
第7回	**絞め技の条件、裸絞め、出足払い** 絞め技の条件、裸絞め、出足払いについて学習する。また、その指導法について学習する。	絞め技の条件、裸絞め、出足払いについて調べる。	1時間
第8回	**送り襟絞め、燕返し** 送り襟絞め、燕返しについて学習する。また、その指導法について学習する。	送り襟絞め、燕返しについて調べる。	1時間
第9回	**三角絞め、大外落とし（大外刈り）** 三角絞め、大外落とし（大外刈り）を学習する。また、その指導法について学習する。	三角絞め、大外落とし（大外刈り）について調べる。	1時間
第10回	**柔道の概要のレポートチェック** 柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）を正しく書いたレポートを作成・暗唱する。	柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について暗唱できるようにする。	1時間
第11回	**関節技の条件、腕挫十字固め、大内刈り** 関節技の条件、腕挫十字固め、大内刈りを学習する。また、その指導法について学習する。	関節技の条件、腕挫十字固め、大内刈りについて調べる。	1時間
第12回	**体落とし、武道（柔道）の単元計画・授業計画** 体落としを学習する。また、その指導法について学習する。さらに、武道（柔道）の単元計画・授業計画について学習する。	体落とし、武道（柔道）の単元計画・授業計画について調べる。	1時間
第13回	**審判法（ルール）、試合、武道（柔道）のモデルとなる授業** 審判法（ルール）や試合の仕方を理解し、試合をする。武道（柔道）の単元計画・授業計画について学習する。また、武道（柔道）のモデルとなる授業をグループで検討する。	審判法（ルール）、試合、武道（柔道）のモデルとなる授業について調べる。	1時間
第14回	**パフォーマンス評価、まとめ** 礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）を演技する。また、今までの授業内容を振り返り、まとめをする。	礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）について復習する。	1時間

SP-2020-2-2

授業科目名	ダンス（ダンス）				
担当教員名	大西　祐司				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校体育専科講師として勤務し、小学校1年生から6年生までの全領域の体育授業を担当した。				

授業概要

ダンスは、我が国の学校体育の一領域として位置づけられており、中学校第1学年及び第2学年では必修の領域となっている。まずは受講生自身がダンスの魅力に触れながら、序盤では、学習指導要領に明記されている創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンス（民踊を含む）の目標・内容を理解しながら、教材や指導法について実践的に学ぶ。終盤では、これまで学んだことを踏まえ、グループでダンスを制作するための指導計画（学習指導案）を立て、発表会の行い方についても理解し実施する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	日常的な動きの振り付け、現代的なリズムのダンス、フォークダンス	一連の踊りを覚えて踊ることができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	現代的なリズムのダンス、フォークダンス	学習指導要領に示された目標や内容を踏まえ、ダンスの文化や歴史を知り、動きとのつながりを理解できる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	創作ダンス	仲間の意見に傾聴しつつ、積極的に意見を述べ、建設的かつ肯定的に仲間と関わり、指導計画を立てて活動できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
　毎回のダンスパフォーマンスを映像で記録することでポートフォリオを作成し、自身の振り返りの手立てや評価のための資料とする。

成績評価

注意事項等

グループ作品の発表を実施できなかった場合は、成績評価の対象としない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	45%	：毎時のパフォーマンスもしくは学習シートの到達度と課題への取り組みを45点満点で評価する。
作品発表	35%	：グループで制作したダンス作品を評価シートに沿って35点満点で評価する。
筆記テスト	20%	：授業内課題と合わせて説明するダンスの文化や歴史、指導方法について20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（文部科学省，2018）。ネットからもダウンロード可。その他の参考文献及び映像については適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本講座は最終の作品発表に向けて内容を積み重ねるように構成されています。また後半ではそれらの積み重ねを踏まえ、グループでダンスの作品を制作します。そのため、欠席は自身の学習のみならず、グループの仲間の学習を妨げることにもなります。心して取り組んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限

場所：　大西研究室（B206）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ダンスの学び方** 授業計画、到達目標を知る。 学習指導要領における目標・内容を理解する。	ダンスの動画を視聴し、イメージを持つ	1時間
第2回	**日常的な動きによる振り付け** 日常的な動きによる一連の振り付けを覚えて踊る。	ウォーミングアップやストレッチの正しい行い方を習得する	1時間
第3回	**現代的なリズムのダンス①（ヒップホップ導入編）** ヒップホップを教材に型のある動きをリズムに乗って行う。	ヒップホップの動画を視聴し、イメージを持つ	1時間
第4回	**現代的なリズムのダンス②（ヒップホップ理論編）** ヒップホップの文化的、歴史的な背景を知る。 ヒップホップを教材に型のある動きをリズムに乗って行う。	ヒップホップのジャンルについて調べる	1時間
第5回	**フォークダンス①（外国の踊り）** アメリカ、イスラエルの代表的なフォークダンスを踊る。 諸外国のダンスの文化的、歴史的な背景を知る。	これまで経験したフォークダンスを振り返る	1時間
第6回	**フォークダンス②（民踊）** 南中ソーラン節を踊る。 日本のダンスの文化的、歴史的な背景を知る。	これまで経験した民踊を振り返る	1時間
第7回	**創作ダンス①（ステップ）** ケンパの動きの組み合わせに空間や時間の要素を加え、振り付けを行う。	さまざまなステップの動画を視聴し、イメージを持つ	1時間
第8回	**創作ダンス②（コンタクト）** 2人以上が直接的、間接的に関わる振り付けを行う。	2人以上が関与している振り付けを見つけてくる	1時間
第9回	**創作ダンス③（小道具）** ポンポンなどの教具を用いて振り付け考え踊る。	小道具を用いているダンスを視聴し、イメージを持つ	1時間
第10回	**作品制作①（動き）** グループに分かれて、指導（学習）計画を立て実施する。 振り付けのための動きづくりを行う。	踊りたい動きや音楽をみつけておく	1時間
第11回	**作品制作②（構成）** 踊りを踊る位置や隊形を決める。 作品に「はじめ-なか-おわり」をつける。	ダンスの映像からさまざまな構成を調べておく	1時間
第12回	**プレ作品発表会** 作品の発表及び鑑賞の仕方を知る。 グループごとに作品の振り返りを行う。	発表に向けて練習を行う	1時間
第13回	**作品の修正** 映像や評価シートを観ながら、自分たちの作品を修正する。	自分たちの作品を視聴する	1時間
第14回	**作品発表** グループの作品鑑賞と評価を行う。	評価の観点をおさらいする	1時間

SP-2021-2-2

授業科目名	剣道（剣道）				
担当教員名	坪内　伸司				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。
また、わが国固有の伝統文化を継承している面を持つ、この点で他のスポーツには見られない特有な運動である。
実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基づく「技」の学習を通じて相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得する。また、学校体育における学習指導の立場からは、効果的な授業の展開ができる指導力をを習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	充実した気勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく、残心ある打突ができる	授業内実技を通して剣道の基本技術を習得する
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	日本の伝統的な行動、礼儀作法を理解し、基本動作ができる	剣道に関わる日本の文化について知識を習得する

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

・授業中の課題、技術の習得度、レポートにより総合的に評価する

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の参加度 50%	：	・毎時のパフォーマンスと課題に取り組む姿勢
技術の習得度 40%	：	・課題の達成度を評価する
授業内レポート 10%	：	・レポートによる理解度を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・全日本剣道連盟『剣道指導要領』（全日本剣道連盟）
・全日本剣道連盟『剣道授業の展開』（全日本剣道連盟）
・全日本剣道連盟『審判規則と試合規則』（全日本剣道連盟）
・全日本剣道連盟『審判試合・審判・運営要領手引き』（全日本剣道連盟）
・日本武道学会編『剣道を知る辞典』（東京堂出版）

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること
・手足のツメは必ず短く切っておいてください

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業の教室

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション、剣道の歴史的背景** ・剣道の概要説明 ・授業全体の流れ、評価方法について説明 ・剣道着、袴の装着方法、剣道具の説明と着脱方法について説明・理解 ・剣道場内における諸注意	配布資料を確認して理解すること	1時間
第2回	**竹刀の名称、使用方法と礼法について** ・竹刀の名称、使用方法について説明・理解 ・礼法について、「立礼と座礼」の所作の説明・理解	礼法、所作を理解し、習得すること	1時間
第3回	**竹刀の持ち方、構え方、足さばき、竹刀の振り方** ・持ち方：右手、左手の持つ位置および握り方の説明・理解 ・構え方：「五行の構え」上段、中段、下段、脇構え、八相について説明・理解 ・足さばき：歩み足、送り足、開き足について説明・理解 ・振り方：竹刀の振り方の説明・理解	正しい竹刀の持ち方、構え、振りの稽古をすること	1時間
第4回	**打突の基本１：面、小手、胴** ・有効打突となる部位の説明・理解 「気剣体の一致」と発声について説明・理解 「物打ち」について説明・理解 ・実際の打突を行う 手、足の移動および足の引きつけについて説明・理解	打突部位を想定し、稽古すること	1時間
第5回	**打突の基本２：切り返し** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・切り返しの説明・理解	切り返しについて稽古すること	1時間
第6回	**打突の基本３：連続技** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・二段打、三段打の連続技の説明・理解 ・手、足の移動および足の引きつけについて説明・理解	連続技について稽古すること	1時間
第7回	**打突の基本４：しかけ技** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・技の説明「しかけ技」について説明・理解 ・しかけ技：自分から打ち込んで行く技	しかけ技について稽古すること	1時間
第8回	**打突の基本５：応じ技、互格稽古** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・技の説明「応じ技」について説明・理解 ・応じ技：相手の打ち込んで来る技に対応して行く技 ・互いに技を出し合い稽古する	応じ技について稽古すること	1時間
第9回	**打突の基本６：引き技、互格稽古** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・技の説明「引き技」について説明・理解 ・引き技：鍔迫り合いから後方へ打ちさがって行く技 ・互いに技を出し合い稽古する	引き技について稽古すること	1時間
第10回	**打突の基本７：打ち込み稽古、互格稽古** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・身体の使い方・移動、打力、正確に打突部位を捉える	身体の使い方等について、イメージトレーニングをすること	1時間
第11回	**教員採用試験課題、互格稽古** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・教員採用試験課題について説明	教員採用試験課題について理解すること	1時間
第12回	**審判規則と試合規則，試合（簡易試合）** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・審判規則と試合規則について説明・理解 ・試合（個人戦・団体戦）の仕方について説明・理解	試合、審判法について要点を理解すること	1時間
第13回	**審判規則と試合規則，試合（簡易試合）** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・試合、審判が出来ること	試合、審判について振り返ること	1時間
第14回	**まとめ：演武** ・前回の学習を復習し打突が出来ること ・演武：切り返し	本授業全体を振り返ること	1時間

SP-2022-2-2

授業科目名	体つくり運動・健康体操（体づくり運動・健康体操）				
担当教員名	大松　敬子				
学年・コース等	2	開講時期	＊前期・後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高校体育教諭として勤務し、体つくり運動・体操の授業に取り組み、また、Stott　Pilatesのインストラクターとしてトレーニング講座を多数開催した実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

「体つくり運動」では、「体力を高める運動」と「体ほぐしの運動」で構成され、健康を維持増進させる様々な運動の理論と実践を身につける。身体の様々な動きから手具を使った運動までの合理的、効果的な運動のしかたを理解する。さらに、生涯スポーツとして「健康体操」を実施する幅広い年齢層に対して、民間スポーツクラブや公共の総合型スポーツクラブ、教育機関で指導できる実践力の修得を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	「体つくり運動」・「健康体操」を実践する民間スポーツクラブや公共の総合型スポーツクラブ、教育機関に応じた体操の構築。	様々な対象や狙いに応じた運動を構築し、指導することができる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	「体力を高める運動」・「体ほぐしの運動」に必要とされる動きの特性と効果	基本の運動から手具を用いた運動を合理的、効果的に考案し実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。また実技の考案と発表を2～3回行います。実技の採点を行いますので発表の資料と出席は必須です。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技課題に関する小テスト	40%	： 実技課題のテストを行う。対象や狙いに応じた運動を構築できているか、わかりやすく解説し見本となる運動が正確にできているかどうか等を5段階で評価する。
授業ワークシート	30%	： 自己評価や、他の学生の作品についての相互評価等の内容について評価する。
授業参加度	30%	： 教員との授業中のやり取り、作品つくりの姿勢、学習時の関わり具合等を独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省　学校体育実技指導資料集第７集　体つくり運動　－授業の考え方と進め方－　（改訂版）　２０１３年５月
文部科学省　中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　保健体育編　平成２９年７月

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日　授業前後

場所：　体育館

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、「体つくり運動」についての紹介・説明、姿勢チェックを行い、自己の体のゆがみを知る** 本授業の内容紹介、方針、成績評価の説明。 「準備体操」を考える。	各自が体験した体操の紹介を行う。	1時間
第2回	**姿勢チェックと改善法** クライムラインを使用した姿勢チェックと簡単な動作の姿勢チェック法を実施し、自己の身体のゆがみを知り、改善方法を実施する。	姿勢を通して正しい動き方の基本を考える。	1時間
第3回	**ストレッチとリラクゼーション・ピラティスのウォーミングアップを知る。** 運動を効果的に行うため、また疲労回復のためのストレッチ各種とリラクゼーションの実践。 各自の専門種目に関するストレッチを考える。 まあt、ピラティスの５原則とウォーミングアップを実践する。	運動前後に行う各自の専門種目に即したストレッチを考察する。	1時間
第4回	**ミニボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践①** ミニボールの基本の動きを学ぶ。 バミニボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学ぶ。	各自の姿勢を自覚し、ミニボールを使用して正していくことを考える。	1時間
第5回	**ミニボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践②** ミニボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学び、関節の可動範囲を広げるとともに、筋力トレーニングを行う。	ボールを用いて体幹部の安定と強化を図る。	1時間
第6回	**バンドを使用した「体づくり運動」の紹介と実践①** バンドの基本の動きを学ぶ。 バンドを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格と筋力）のバランスを整える運動の基本を学ぶ。	バンドを用いた上肢・下肢・体幹のトレーニングを実践する。	1時間
第7回	**バンドを使用した「体づくり運動」の紹介と実践②** バンドを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学び、関節の可動範囲を広げるとともに、筋力トレーニングを行う。	バンドを用いて体幹部の安定と強化を図る	1時間
第8回	**バランスボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践①** バランスボールの基本の動きを学ぶ。 バランスボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格と筋力）のバランスを整える運動の基本を学ぶ。	バランスボールの基本の使用方法と実践	1時間
第9回	**バランスボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践②** バランスボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学び、関節の可動範囲を広げるとともに、筋力トレーニングを行う。	バランスボールを用いて体幹部の安定と強化を図る	1時間
第10回	**バランスボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践②** バランスボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学び、関節の可動範囲を広げるとともに、よりバランス調整力を必要とする筋力トレーニングを行う。	自己の専門種目に関するエクササイズの考案と実践。	1時間
第11回	**前回とは違う手具を使用した専門種目に関するエクササイズを考え、実践する。①** 3種の手具のうち前回と違う手具を選び、目的とする運動種目の特性を踏まえて4種目のエクササイズを考案し実践する。 また、受講生に考案したエクササイズを紹介する。	目的とする運動種目の特性を踏まえて運動を選択する。	1時間
第12回	**3種類目の手具を使用した専門種目に関するエクササイズを考え、実践する。②** 3種の手具のうち残りの手具を選び、目的とする運動種目の特性を踏まえて4種目のエクササイズを考案し実践する。 また、受講生に考案したエクササイズを紹介する。	目的とする運動種目の特性を踏まえて運動を選択する。	1時間
第13回	**3種類目の手具を使用した専門種目に関するエクササイズを考え、実践する。③** 3種の手具のうち残りの手具を選び、目的とする運動種目の特性を踏まえて4種目のエクササイズを考案し実践する。 また、受講生に考案したエクササイズを紹介する。	目的とする運動種目の特性を踏まえて運動を選択する。	1時間
第14回	**多様な対象者や狙いに応じた運動の指導方法** 3種の手具やピラティスのエクササイズの復習と実践。多様なニーズに応じたエクササイズを実践する。 授業ノートの確認と単元のまとめを記入し、提出する。	これまでの実践を振り返り、授業ノートにまとめる。	1時間

SP-2023-2-2

授業科目名	障がい者スポーツ（障害者スポーツ）				
担当教員名	中道　莉央				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で実施されている競技の実技を通し、基礎的な技能の習得と基本的なルールの理解を目的とする。また、授業の中では障がいのある方との交流機会も設けており、障がいのある人への理解も深める。さらに、障がい者スポーツでは心身機能の障がいを補うために仲間とのコミュニケーションが重要であることから、受講者同士の協同性、アダプテッド・スポーツの考え方をもとにしてルールや用具を工夫する柔軟な思考力も身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	パラリンピックと全国障害者スポーツ大会	視覚が遮断された状態や身体機能に制限がある状態等で身体を動かす感覚を体感しながら、パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で実施されている種目の基本的な技能を身につける。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	障がい種類や程度に応じたルールや用具の工夫	アダプテッド・スポーツの考え方を理解し、これをもとにした多様な人々にスポーツを提供する柔軟な発想力と実践力を身につける。
3 ．DP11.忠恕の心	障がい理解と障がい者スポーツ理解	障がいのある人を含む多様な人々に身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の授業への取り組み状況	60%	： 自他の安全に配慮しながら実技に参加していれば3点とし、積極的に参加していれば4点、重大な不足があれば0点とする。
中間レポート	15%	： 与えられたテーマに対し、概要を適切に要約しながら自分の意見を主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の3観点から評価する。
最終レポート	25%	： 与えられたテーマに対し、授業内容を踏まえながら自分の意見が主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の3観点から総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

(公財)日本障がい者スポーツ協会編　『障がいのある人のスポーツ指導教本：2020年改訂カリキュラム対応』　ぎょうせい．2016
(公財)日本障がい者スポーツ協会編　『全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』　日本障がい者スポーツ協会．　2017

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・ゴールボール、車いすバスケットボールの授業では、障がいのある当事者の方に指導に来ていただくことを予定している。
・なお、本科目は、(公財)日本障がい者スポーツ協会「初級・中級障がい者スポーツ指導員」の資格取得には必須の授業である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： いつでも

場所： メールで

備考・注意事項： 質問等があれば、＜件名＞に【障がい者スポーツ（●限）】と明記した上で、＜本文＞に【学籍番号と氏名】を記述し、メール（nakamichi-r@bss.ac.jp）で問い合わせること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス／全国障害者スポーツ大会の概要** 全国障害者スポーツ大会の歴史を振り返り、大会の目的や意義の理解を深める。	全体の授業の流れを適切に把握しておく。全国障害者スポーツ大会の実施競技・種目について調べ、理解しておく。	1時間
第2回	**全国障害者スポーツ大会選手団の編成** 全国障害者スポーツ大会における選手団構成の人数と出場資格、選手選考の方法について理解する。	全国障害者スポーツ大会競技規則集に記載されている開催基準要綱の内容を理解しておく。	1時間
第3回	**障がいに応じたスポーツの工夫・実施（移動支援体験・ブラインドサッカー）** ・移動支援体験して、次の①と②のペア学習を行い、視覚情報が遮断された状態でも、適切な支援があれば移動や運動が可能であることを理解する。（①アイマスクを着用して視覚情報が遮断された者／② ①を手引きする者） ・ブラインドサッカーの基本的な操作を確認した上で、ブラインドサッカーにおけるパス・シュートの基本練習とミニゲームを行う。	ブラインドサッカーの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。	1時間
第4回	**障がいのある人との交流（ゴールボール）※外部講師** ゴールボールの基本的動作を確認した上で、障がい当事者（視覚障がい）とゴールボールを通じた交流を行う。	視覚障がい者や視覚障がい者のスポーツを理解するとともに、ゴールボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。	1時間
第5回	**障がいに応じたスポーツの工夫・実施（陸上競技）** 車いすスラロームやアイマスクを着用した走幅跳等、競走競技と跳躍競技の基本練習とミニレースを行う。	障がい者スポーツとしての陸上競技の種目とそれらの基本的なルールについて調べ、理解しておく。	1時間
第6回	**全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（陸上競技・競走／跳躍）** 全国障害者スポーツ大会における陸上競技（競走／跳躍）の競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した競走および跳躍の基本的な指導法を体得する。	全国障害者スポーツ大会における陸上競技（競走／跳躍）の競技規則について調べ、理解しておく。	1時間
第7回	**障がいに応じたスポーツの工夫・実施（シッティングバレーボール）** 座位姿勢で運動する感覚を体感し、シッティングバレーボールのレシーブ・トス・アタックの基本練習とミニゲームを行う。	シッティングバレーボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。	1時間
第8回	**全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（バレーボール）** 全国障害者スポーツ大会におけるバレーボールの競技規則を確認した上で、障がいの特性に応じた基本的な指導法を体得する。	全国障害者スポーツ大会におけるバレーボールの競技規則について調べ、理解しておく。	1時間
第9回	**障がいのある人との交流（車いすバスケットボール）※外部講師** 競技用車いすバスケットボールの基本操作を確認した上で、障がい当事者（肢体不自由）と車いすバスケットボールを通じた交流を行う。	肢体不自由者や肢体不自由者のスポーツを理解するとともに、車いすバスケットボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。	1時間
第10回	**全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（車いすバスケットボール）** 全国障害者スポーツ大会における車いすバスケットボールの競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した基本的な指導法を体得する。	全国障害者スポーツ大会における車いすバスケットボールの競技規則について調べ、理解しておく。	1時間
第11回	**全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（フライングディスク）** フライングディスク（アキュラシー・ディスタンス）の基本的なディスクの投げ方を理解し、基本練習とミニゲームを行う。また、競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した基本的な指導法を体得する。	アキュラシー・ディスタンスの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。また、全国障害者スポーツ大会におけるフライングディスク（アキュラシー・ディスタンス）の競技規則について調べ、理解しておく。	1時間
第12回	**最重度障がい者のスポーツの実際（ボッチャ）** 身体機能に重い制限がある状態で運動することを疑似的に体感し、ボッチャの基本的練習とミニゲームを行う。	ボッチャの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。	1時間

第13回	**最重度障がい者のスポーツの実際（ボッチャランプ使用）** 身体機能に重い制限がある状態で運動することを疑似的に体感し、ランプやヘッドポインター等の補助具を用いてミニゲームを行う。	パラリンピック等においてボッチャを競技している人はどのような障がいを有しているのか、ランプやヘッドポインターを用いる時に介助者にはどのようなことが求められるかについて調べ、理解しておく。	1時間
第14回	**障がい者スポーツ指導者制度の理解（まとめ）** 障がい者スポーツ指導員制度における資格の種類と役割を理解する。また、これまでの授業内容を踏まえ、障がい者スポーツの特徴や魅力とは何かを理解する。	障がい者スポーツ指導員制度について、日本障がい者スポーツ協会等のＨＰを参照しながら概要を調べ、理解しておく。また、これまでの授業内容を踏まえ、障がい者スポーツの特徴や魅力とは何かを整理しておく。	1時間

SP-2024-2-2

授業科目名	レクリエーションスポーツ（レクリエーションスポーツ）				
担当教員名	橋本　和俊				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

近年、競技性の高いスポーツ種目に加え「レクリエーションスポーツ」が行われている。レクリエーションスポーツとは、これまで競技としてのスポーツに親しんできた者だけでなく、「いつでも・どこでも・誰でも、そしていつまでも」をキーワードに生涯スポーツの一環として普及されてきている。授業では様々なスポーツ種目（5種程度）を取り上げ、その歴史やルールを学習し、テクニックの獲得を目指す。さらには新スポーツの企画や運営、指導についても実践を通して学修する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツの価値の再考	様々なニュースポーツの実技からスポーツの多様性を理解できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	レクリエーションの定義に関する知識とスポーツの再創造	遊びの持つ特性や楽しさの要素をもとに多様なスポーツを生み出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	50%	：ニュースポーツの各種目（5種目）の種目特性や自身の考えによる理解度を、スポーツ種目終了後にレポートを設け、評価する（5種目×10点＝50点）。
新スポーツ企画案の作成	10%	：ニュースポーツ体験後に独自のスポーツ種目の企画案を作成し、その企画書の構成・内容・わかりやすさ・工夫点等の観点から評価する。
小レポート（授業理解）	40%	：授業中に課す小レポートの内容について思考・表現力、具体性、体験の意味づけ等を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびレクリエーションスポーツへの概念の理解** レクリエーションスポーツについての概念・理念や、授業概要について学習する。	レクリエーションスポーツに関する様々な競技について調べる。	1時間

第2回	**ディスクゴルフの歴史と基礎スキル** ディスクゴルフの歴史やルール、基礎的な技術などの基本動作を習得する。	ディスクゴルフの歴史や発展について調べる。	1時間
第3回	**ディスクゴルフの実践と応用** ディスクゴルフのコース設定や独自のルールの設定など、ディスクゴルフを応用した実践を行う。	ディスクゴルフの独自のコースやルールの設定により、新たな観点からレクリエーションの要素を用いた実践について自身の考えをまとめる。	1時間
第4回	**アルティメットの歴史と基礎スキル** アルティメットの歴史や基礎的な技術などの基本動作を習得する。	アルティメットの歴史や発展、現状について調べる。	1時間
第5回	**アルティメットの戦術やルール理解** アルティメットの競技特性や戦術、ルールを理解する。	アルティメットのルールや特徴についてレポートにまとめる。	1時間
第6回	**アルティメットの実践と応用** チーム対抗のゲーム形式によるアルティメットの実践を行う。学生相互の「セルフジャッチ」を主体としたゲーム展開について学ぶ。	競技スポーツとレクリエーションスポーツとの違いについて自身のアルティメットの体験を踏まえレポートにまとめる。	1時間
第7回	**ペタンクの実践と応用** ペタンクについて歴史やルールについて学習し、実践する。	ペタンクの歴史やルール、実践の応用、種目特性について調べる。	1時間
第8回	**キンボールの歴史と基礎スキル** キンボールの歴史やルール、技術などの基本動作を習得する。	キンボールの歴史やルール、実践の応用、種目特性について調べる。	1時間
第9回	**キンボールの戦術やルールの理解** キンボールの競技特性や戦術、ルールを理解する。	キンボールのルールや特徴についてレポートにまとめる。	1時間
第10回	**キンボールの実践と応用** グループによるゲームから、キンボールの種目特性や戦術について学習する。とくに「３チームで競う」観点からどのような運営や勝敗のつけ方を行うとよいかを学ぶ。	キンボールの種目特性からレクリエーションスポーツの競技性についてレポートにまとめる。	1時間
第11回	**インディアカの歴史と基礎スキル** インディアカの歴史や基礎的な技術などの基本動作を習得する。	インディアカに関連するスポーツやその歴史やルールについて調べる。	1時間
第12回	**インディアカの戦術やルールの理解** インディアカの競技特性や、そのルールを理解する。	インディアカのルールや特徴についてレポートにまとめる。	1時間
第13回	**インディアカの実践と応用** インディアカについて試合形式にて実践し、楽しさや戦術理解を身に付ける。	インディアカの種目特性についての自身体験から考えをレポートにまとめる。	1時間
第14回	**達成度チェックおよびまとめ** 各種目での達成度チェックを含めレクリエーションスポーツの企画や運営方法、競技特性の活用など本授業の総括を行う。	レクリエーションスポーツやその指導に関するレポート課題に取り組む。	1時間

SP-2025-2-2

授業科目名	エアロビックダンス（エアロビックダンスⅠ）				
担当教員名	藤松　典子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	健康運動指導士養成講習会（エアロビックダンス）講師の実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

エアロビックダンスエクサイズをトレーニング理論に基づきながら、特性、効果を理解し、安全に運動をおこなう。音楽に合わせ大筋群をリズミカルに動かしながらトレーニングする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	有酸素運動の特性、効果の理解と安全な運動。	基本的なエアロビックダンスのプログラム構成を理解プログラミングできる能力を養う
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	プレゼンテーション実技。	正しい姿勢を身につけ、明確な動きを体得し、作成したプログラムの指導ができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間発表	30%	： 中間発表として筋の強化、ストレッチのプログラム発表でで評価する
学期末発表	50%	： 学期末としてプログラムの作成、指導能力を50点で評価する
レポート作成物	20%	： プログラム、コリオグラフィーの作成、提出物で評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「エアロビックダンスの実技指導」　（社）日本エアロビックフィットネス協会「最新　フィットネス基礎理論」　（社）日本エアロビックフィットネス協会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**フィットネス概論、エアロビクス理論・からだ慣らし**	現代の日本人の健康問題、五大疾病について調べ、生活習慣病について知るとともに予防方法を上げまとめてくる。	1時間

	日本人の健康問題、生活習慣病予防のための有酸素運動の効果を理解する。 簡単なステップのプログラムで、エアロビックダンスを体験する。		
第2回	**基本ステップ（ローインパクトステップを中心に）** エアロビックダンスの各パートの目的について学習し、エアロビックダンスにおける基本ステップ（特にローインパクトステップ）を体得する。	基本ステップの名称、運動強度について学習した内容を整理してまとめる。	1時間
第3回	**ローインパクトステップとハイインパクトステップの組み合わせ** エアロビックダンスにおける基本ステップ（特にハイインパクトステップ）を体得する。 ローインパクトとハイインパクトの配分について学習する。	ハイインパクトステップは運動強度が高いので日ごろよりトレーニングをしておく。	1時間
第4回	**基本のプログラム** エアロビックダンスの基本プログラムである、ウォーミングアップ、メインエクササイズ、筋の強化、クールダウンの各パートの目的を理解しながら体験する。	指導対象者を設定し、各パートの目的を整理しておく。	1時間
第5回	**運動強度コントロールの方法** 運動強度の変化の仕方、させ方を体験する。 エアロビックダンスの特性のひとつとして、参加者に合わせて強度を変化させられることを理解し運動強度の調整手法を学ぶ。	運動強度を変化させる要因の整理と具体例をまとめてくる。	1時間
第6回	**基本姿勢を学ぶ** 各種ステップを正しいアライメントで実施できるよう、理論と実技を行う。 日ごろの自分の癖が出たり、自分では気づかない姿勢に気づく場とする。	姿勢について、特に自分の興味のあるスポーツの効率の良い姿勢を調べてまとめてくる	1時間
第7回	**コンビネーションの組立て方と中間発表** ハイインパクトステップを中心にステップの組み合わせ方の基本を理解する。 前半は教員の作成したプログラムを受講してきたが、これまでの基本ステップが正しい姿勢で動けているのか、ステップの名称が理解できているか、の観点から中間発表を実施する。	これまでの復習および課題のコンビネーションを十分練習しておく。	1時間
第8回	**筋の強化プログラム** 主な大筋群を正しい姿勢により自体重で強化する。 重力を考慮し、1つの筋に対して何種類かの方法を学習する。	筋の名称と部位、働きについて復習しておく。	1時間
第9回	**クールダウンプログラム** ストレッチを中心にしたプログラムで運動前に近い状態に戻し、気持ちよく運動を終了させるためのストレッチとリラクゼーション、呼吸法を理解する。 また、1つの筋に対して何種類かの方法を学習する。	骨の名称と部位、骨の形状等を復習しておく。	1時間
第10回	**ウォーミングアッププログラム** ウォーミングアップの目的を理解する。筋温、体温を徐々に上昇させ、心拍数を上げていくため、大筋群をリズミカルに動かす方法を習得する。	いくつかのパターンのウォーミングアップのプログラムを作成する。	1時間
第11回	**メインエクササイズプログラミング** エアロビックダンスのメインプログラムである有酸素運動パートです。足を止めることなく運動を持続する方法を学習する。徐々に心拍数を上昇させ、目標心拍数に到達したら運動を継続させる方法の理解を深める。	学期末発表のための3分間のプログラムを完成させる。	1時間
第12回	**コリオグラフィーの組み立て方** エアロビックダンスのメインプログラムである有酸素運動、足を止めることなく運動を持続するプログラムの作成をするに当たり、振り付けを考えつなぎ合わせていく。徐々に心拍数を上げていく3分間のメインパートのプログラムを作成、指導実習を行う。	学期末発表のための3分間のプログラムを完成させる。	1時間
第13回	**プログラムの指導法** 作成したプログラムを指導する方法を学習する。 明確でタイミングの良いキューイング、指導者である本人の正しい動き方と見せ方、正しい姿勢を意識する。受講生同士で実施する。受講者の立場で分りやすい指導の方法を学習する。	キューイングのタイミングを習熟し、暗記する。	1時間
第14回	**指導実習・発表** 作成したプログラムを指導する方法を習熟する。ナンバーキューや方向キューなどのビジュアルキューイングと言葉がけのバーバルキューイングを適切に使い分け、プログラミング、指導、本人の動きが評価のポイントとなる。 指導者として明るく元気に明確な動きと声出しで指導できるよう技能を体得する。	キューイングのタイミングを習熟し、観察、修正、賞賛ができるようにする	1時間

SP-2026-1-2

授業科目名	スポーツ哲学概論（スポーツ哲学概論）				
担当教員名	黒須　朱莉				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

体育・スポーツとは何か？体育・スポーツの問題点や可能性とは何か？といった問いを基点としながら、スポーツ哲学や体育原理で扱われてきた概念及び体育とスポーツに対する哲学的／倫理学な見方・考え方、そしてスポーツにおける重要人物の思想を学ぶ。これらの学びを土台として、体育とスポーツに関する原理的知識について理解するとともに、スポーツの問題と可能性を主体的に考えていく態度を養う。また、あわせて学習指導要領における「体育理論」領域にの目標・内容及び教材についての理解を深めることも目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツ哲学の知識	体育・スポーツに関する重要な概念について説明できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツ哲学の視点	スポーツを哲学的・倫理学的に考え、その考えを論理的に文章化できる。また、自身のスポーツ経験を振り返りながら受講生自身の「スポーツ思想」を明確にすることができる。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	学習指導要領における「体育理論」領域に関する基礎的知識	体育・スポーツ、またオリンピックに関する重要な概念について説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
確認テスト	80%	： 体育とスポーツの概念、運動部活動の問題点、ドーピングの問題点と哲学的問い、フェアプレイの考え方、体罰のメカニズム、著名なスポーツ人の思想の要点を理解できているかを評価する。
レポート	20%	： 「自分にとってのスポーツとは？」という問いに対し、①これまでの経験を振り返りながら、②論理的に答を述べることができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

久保正秋『体育・スポーツの哲学的見方』東海大学出版会、2010年。
友添秀則・岡出美則 編著『教養としての体育原理』大修館書店、2016年。
友添秀則編『よくわかるスポーツ倫理学』ミネルヴァ書房、2017年。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
スポーツに関する事象について「なぜ？」と問いかける癖をつけること。それが、哲学的思考の第一歩になる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： メールでも受け付ける（kurosu@bss.ac.jp）。
メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」「所属コース」「学籍番号」を明記すること。

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**ガイダンス・スポーツ哲学を学ぶ意義** 授業全体の概要と、スポーツ哲学を学ぶ意義について理解する。	評価項目やルールについて確認する。スポーツにおける問題や規範について整理する。	4時間
第2回	**体育・スポーツとは（①スポーツとは？）** スポーツの概念を歴史的な視点を踏まえて理解する。「プレイ論」の考えを理解する。	授業の復習をする。日本における体育とスポーツの混合の事例について調べる。	4時間
第3回	**体育・スポーツとは（②体育とは？）** 体育の概念について理解する。前回のスポーツと体育の概念を踏まえて、学習指導要領の「体育理論」の目標・内容について理解する。	3回までの授業の内容を復習し、体育とスポーツの概念について説明できるようにする。	4時間
第4回	**体育・スポーツとは（③運動部活動における指導者―教師／コーチ論を問う―）** 運動部活動の指導者における問題と過熱する部活動のメカニズムをスポーツ哲学の知見を通して理解する。	第1回から4回までの講義資料をもとに自身の内容の理解度を把握してくる。	4時間
第5回	**第1回から4回までの授業内容の振り返りと確認** 第1回から4回までの講義内容と要点を正確に理解しているか確認する。	スポーツにおける問題としてドーピングに関する近年のニュースを調査し、整理する。	4時間
第6回	**スポーツにおける問題と規範を考える①（ドーピングについて知る）** ドーピングの語源、スポーツにおけるドーピング問題の歴史、アンチ・ドーピング活動について理解する。	授業の復習を行うとともに、JADAのHPを閲覧し取り組みの全体像を把握する。	4時間
第7回	**スポーツにおける問題と規範を考える②（ドーピングについて考える）** 近年の遺伝子ドーピングの事例と、スポーツ倫理学におけるドーピングを対象とした学術的な議論（セルフ・ドーピング）について理解する。	ドーピング擁護論の主張について内容を整理し、復習をする。	4時間
第8回	**スポーツにおける問題と規範を考える③（フェアプレイについて考える）** フェアプレイに関するスポーツ倫理学における見方を学び、実際のスポーツ現場における事例を考察する。	授業内で取り上げた事例以外を取り上げ、学んだ視点で考察する。	4時間
第9回	**スポーツにおける問題と規範を考える④（体罰について考える）** スポーツ哲学における体罰に関する研究成果を学び、実際の体罰の事例について考察する。	第9回までの授業の復習をする。	4時間
第10回	**第6回から9回までの授業内容の振り返りと確認** 第6回から9回までの講義内容と要点を正確に理解しているか確認する。	JOCのHPを閲覧し、オリンピックの歴史と創始者について調べる。	4時間
第11回	**スポーツの思想を学ぶ（①ピエール・ド・クーベルタン）** ピエール・ド・クーベルタンの思想を理解するために、教育、平和、無知の克服というキーワードをもとに解説する。次に、その内容をもとに、学習指導要領の「体育理論」領域におけるオリンピックを教材とした授業を検討する。	自身のスポーツ活動及び日常生活にオリンピズムはどのように活かすことが可能か？各自考えをまとめる。授業案の作成。	4時間
第12回	**スポーツの思想を学ぶ（②嘉納治五郎）** 嘉納治五郎の思想を理解するために、道、精力善用、自他共栄というキーワードをもとに解説する。	精力善用、自他共栄の精神を今後自身の生活にどのように活かしていきたいと思うか、その考えをまとめる。	4時間
第13回	**身近な人のスポーツ思想を知る** 身近な人のスポーツ思想として、本学教員のスポーツに対する考えを紹介する。	第13回の授業内容を参考に自分の「スポーツ思想」をレポートにまとめる。	4時間
第14回	**授業内容の総括** 講義内容の総復習を行い、全体の内容の要点を理解する。	授業全体の内容を復習し、期末試験の準備に取り掛かること。	4時間

SP-2027-1-2

授業科目名	スポーツ心理学概論（スポーツ心理学概論）				
担当教員名	豊田・玉城・工藤				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ心理学は、スポーツに関わる心理的側面を研究するために生まれた。スポーツメンタルサポート（スポーツメンタルトレーニングを含む）は、スポーツ領域において、既に周知の科学的アプローチであり、大事な本番での実力発揮に向けては不可避な取り組みとなっており、スポーツ心理学は、その学術的背景を理解する上で、有益な学問であるといえる。本講義では、スポーツの実践や指導場面に役立つような、スポーツ心理学の有益な知見を広く学ぶ。また、心身の機能の発達と心の健康にも詳しく触れ、授業ができる指導力を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ心理学の近隣の学問領域の特徴	スポーツ心理学について広く知識を深めることができる
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	大事な場面での実力発揮に向けての科学的アプローチ	アスリートの心理面への介入、スポーツ指導における心理面への配慮等、具体的な介入方略について知識を得ることができる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	実力発揮するために取り組むべきメンタル課題	スポーツ心理学に関する最新のトピックに触れ、理解を深めることができる
4 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	学習指導要領の目標や内容の理解および教材や指導法	体育理論における指導計画（学習指導案）を作成し、実践できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

本授業は、遠隔授業として開講されるため、①G-Mail（@g.bss.ac.jp）、②Google Chrome（ブラウザ）、③Google Classroom、④Google Form、⑤Googleドキュメント（MS-Wordファイルを開くのに最適なアプリケーション）、⑥Google スプレッドシート（MS-Excelファイルを開くのに最適なアプリケーション）、⑦Googleスライド（MS-Power Pointファイルを開くのに最適なアプリケーション）、⑧Acrobat Reader（PDFを閲覧するのに最適なアプリケーション）、などが活用できるように、通信環境を整備に努めてもらいたい。

課題や取組に対する評価・振り返り

・その他(以下に概要を記述)

・Google Classroom による遠隔授業（下記の４点を含む）
(1) 教科書（高見和至(編) 2016 スポーツ・運動・パフォーマンスの心理学. 化学同人. 京都.）
(2) TOYODA Report ： 一部、教科書の内容を含む
(3) 資料パネル： 一部、教科書の内容を含む
(4) 追加資料など（必要に応じて提供する）
・Google Form によるレポート課題研究の提出（「復習トレーニング」と「学んだこと」を含む）

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題研究（復習トレーニング） 25%	：	スポーツ心理学における基本的知識のみならず、アスリートやスポーツ指導者への心理的支援や具体的方略について修得できているか評価する。
レポート課題研究（授業で学んだこと） 25%	：	授業内容を踏まえた論述ができていれば５点（満点）とし、段階的に評価する。ただし、重大な誤りや不足があれば１点とする。未提出は0点扱い。
期末テスト 50%	：	100点満点のマークシート形式の記述テストを実施する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高見和至ほか	・ スポーツ・運動・パフォーマンスの心理学	・ 化学同人	・ 2016年

参考文献等

１）よくわかるスポーツ心理学（中込ほか編著　ミネルヴァ書房）
２）生涯スポーツの心理学　（杉原隆編著　福村出版）
３）スポーツ心理学事典　（日本スポーツ心理学会編　大修館書店）
４）スポーツ心理学大事典　（シンガーほか著　西村書店）
その他、必要な資料・文献等を印刷し、配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： 担当者のそれぞれの研究室

備考・注意事項： まずは、アポイントをとりたい場合は、toyoda-n@g.bss.ac.jp宛てに送信すること。
特に、E-Mailの「件名」には「学籍番号」と「氏名」を記入し、「本文」の一行目には「本授業名」を、二行目以降には「問合せ事項」を簡潔に記入すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**『スポーツ心理学への招待』（スポーツ心理学の歴史と研究課題の変遷）** スポーツ心理学の歴史と研究課題の変遷について学修する。 特に、スポーツ心理学研究の基礎的なエッセンスにも触れ、受講意欲を高める。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、スポーツ心理学の歴史等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第2回	**『動機づけの世界』** 目標設定は、人のやる気を活気する。このような達成動機づけの効果を期待するために、基礎的理論について学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、動機づけ等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第3回	**『スポーツとパーソナリティ』** スポーツへ取り組みは、多くの精神的エネルギーを傾注する場合、その人の人格発達にも大きく影響を与えることが想定されることから、詳しく学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、パーソナリティ理論等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第4回	**『スポーツの教育的効果』** スポーツの教育的効果については、これまでにも様々な側面から検討されてきており、そのことについて詳しく学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、スポーツの教育的効果等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第5回	**『アスリートの青年心理』** スポーツの教育的効果については、これまでにも様々な側面から検討されてきており、そのことについて詳しく学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、バーンアウト等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第6回	**『イップスという心の病』** 心因性動作失調と呼ばれる症状を詳しく学び、最近注目されているイップスの発症メカニズムや対処方法、予防について学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、心因性動作失調等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第7回	**『運動嫌いは、いてはイケナイ』** 運動嫌いについて学修する。ここでは、運動好きと対比しながら運動嫌いのメカニズムを学ぶことは、スポーツ指導における根幹に触れることになる。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、改めて動機づけ理論等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第8回	**『あがってしまうと普段の実力が発揮できない』** あがりは過度の緊張状態から不適切な運動制御に至る症状を指し、このことにより大切な本番において実力が発揮できなくなる。そのメカニズムについて学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、あがりやさがり等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第9回	**『運動とメンタルヘルス』** 運動と精神的健康は切っても切れない関係にある。運動処方が一般的な健康改善の手法として定着している今メンタルヘルスについて学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、運動とメンタルヘルスについてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第10回	**『運動の行動理論』** 特に、中年期の働き世代に運動を喚起させることは並大抵の尽力では実現しない。ここでは、その対象者に運動行動を喚起させる理論と実践について学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、運動の行動理論等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間

第11回	**競技力向上を心理面からサポートする』** メンタルトレーニングを通じて競技力を向上させるメソッドは、今日、スポーツフィールドにおいて一般的になっており、ここでは、その実情を学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、競技力向上の心理等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第12回	**『心理的コンディショニング』** 一般的に身体的コンディショニングについて、これまでにも議論されてきている。ここでは、心理面からのアプローチについて学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、心理的コンディション等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第13回	**『チームビルディング』** 強いチームづくりは、昨今、注目されており、ここでは、それに貢献するコーチング心理学や認知科学の側面からのアプローチについて学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、チームビルディング等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間
第14回	**『スポーツ・インテグリティに潜む影』および『本授業のまとめ』　スポーツ心理学をスポーツフィールドに活用しよう** ここでは、スポーツ・インテグリティについて学修する。特に、暴力指導（体罰）の撲滅に向けて、昨今の取り組みについて学修する。また、スポーツフィールドへの心理学的貢献について学修する。	教科書や配信された資料の内容を踏まえ、暴力指導の現状等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。	4時間

SP-2028-1-2

授業科目名	スポーツ社会学概論（スポーツ社会学概論）				
担当教員名	佐藤　馨				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ社会学では、スポーツの場面での人の行為や行動、スポーツに関わる組織やスポーツを通じて起こる社会現象や変動を学習する。講義では、スポーツに関連する事象を「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」のテーマからスポーツに包含される課題を学ぶ。特にドーピングについては、学習指導要領「スポーツの歴史・文化的特徴と現代的特徴」において、それがスポーツの文化的価値を失わせる行為であることを過去の事例から理解し、その指導方法や授業計画の立て方について検討する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツ社会学の意義	スポーツ社会学の基礎を習得し、スポーツ社会学の意義を理解する。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	社会学的キーワードとスポーツとの関わり	「人種」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「政治」等をスポーツとの関連から理解する。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツにおける多様な問題	スポーツにおける多様な問題を社会学的に学習し、問題の本質を理解する。
4 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	スポーツの文化的、社会的視点における課題の理解	スポーツの文化的、社会的背景等の幅広い視点からスポーツを理解するとともに学習指導要領に基づく指導が展開できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・その他(以下に概要を記述)

優秀な提出課題については、講義中に全体に対してコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業で学習した内容に沿った小レポート	5%	： 授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する。
授業中盤に実施する確認テスト	30%	： 講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているのか30点満点で評価する。
本試験	65%	： 講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのかを65点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『Sport in Society 7th Ed』Coakley, J.J., Boston; MacGraw-Hill, 2001
『スポーツの社会学』池田勝,守能信次編　杏林書院　1998
『現代スポーツの社会学-課題と共生への道のり-』,J.コークリー,P.ドネリー著、前田和司,大沼義彦,村松和則　共編訳,南窓社,2011

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修上の注意】
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本試験だけでなく、講義中盤で実施する確認テストも全体評価の30%を占める。従って、普段の講義で重要と指摘された点は確実に覚えるだけでなく、内容も正確に理解しておく必要がある。

【メッセージ】
普段目にしたり、行なっているスポーツの場面で起こっている事象や問題には、何かしら必ず理由や理屈がある。そうした理由等をスポーツ社会学を通じて理解できるようになる講義を目指す。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義前後

場所： 講義室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ社会学概論：ガイダンスおよびスポーツ社会学の概説** スポーツ社会学で学習する全講義の概要と受講上の留意点を確認する。	スポーツ社会学で学習する講義の概要および受講上の留意点ににについて資料を精読する	4時間
第2回	**社会学とスポーツ　スポーツにおける社会学の位置づけ** スポーツ社会学は学問的にどこに位置するのか、現代社会におけるスポーツ社会学の意義とは何かを学ぶ。	スポーツ社会学的な視点で見ることの意味を理解する	4時間
第3回	**社会学とスポーツ　スポーツをする行為と社会による影響** スポーツをする行為は、必ず他者や社会から影響を受けていることを理解し、一方でスポーツを通じた行為が社会に何らかの影響を与えていることも同時に理解する。	スポーツにおける社会化とその周辺概念についてまとめる	4時間
第4回	**人種・民族とスポーツ　人種・民族とスポーツとの関わり** 人種・民族がスポーツとどう関わるのか学習する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの歴史・文化的特性と現代的特徴」にあるオリンピック憲章、すなわち、いかなる差別をも伴わず、友情、連帯、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界をつくることに貢献するとは何かを、人種・民族の視点から理解する。	人種や民族が問題となった社会的事象を調べる。調べて得た知見を次の授業で発表する。	4時間
第5回	**人種・民族とスポーツ　歴史的にみたスポーツにおける人種・民族問題** スポーツにおける人種・民族問題の歴史的背景の概観を学ぶ。	スポーツにおける人種や民族について調べ、まとめる	4時間
第6回	**ジェンダーとスポーツ　ジェンダーとは何か** 「ジェンダー」はスポーツにどのような影響を及ぼしているのかを学習する。	ジェンダーとスポーツの関係について調べる。調べた内容を次の授業で発表する。	4時間
第7回	**ジェンダーとスポーツ　らしさとスポーツ** 「女性らしさ」や「男性らしさ」におけるスポーツへの影響を理解する。	スポーツとジェンダーにおける自分の経験をまとめる	4時間
第8回	**ドーピングとスポーツ** 学習指導要領のスポーツ概要「スポーツの歴史・文化的特徴と現代的特徴」にある、ドーピングはフェアプレイ精神に反すること、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であることを理解し、指導における基礎知識を身につける。	なぜスポーツにおいてドーピングが問題視されるのか、その功罪についてまとめる	4時間
第9回	**スポーツとメディア　メディアがスポーツに与える影響** メディアとスポーツとの関連、特にばオリンピック等のスポーツイベントを事例として用い、学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの歴史・文化的特徴と現代的特徴」にある現代スポーツが経済的波及効果があることを理解し、メディアもその波及効果の一端を担っていることも併せて学ぶ。	メディアがスポーツに与える影響について具体例をまとめる	4時間
第10回	**スポーツとメディア　スポーツの「見せ方」「あつかい方」** メディアにおけるスポーツの「見せ方」「あつかい方」の差異と矛盾について理解し、そのことによって見る側の意識の変化を理解する。	メディアによるスポーツに見せ方とあつかい方の差異と矛盾について具体例をまとめる	4時間
第11回	**スポーツとガバナンス** なぜスポーツ組織においてガバナンスが必要であるのか、近年スポーツ界で起こる事例を用いてその実情と課題を学ぶ。	スポーツにおけるガバナンスの必要性についてまとめる	4時間
第12回	**スポーツとハラスメント** 「セクシャルハラスメント」を取り上げ、それが生起する社会的構造について説明する。	スポーツにおけるセクシャルハラスメントについてこれまでにメディア等で報道された具体例について調べる	4時間
第13回	**スポーツと政治　スポーツと政治との結びつき** スポーツと政治（政府）の結びつきはどのようなものであるかを学習する。	スポーツと政治が結びつくことのメリット、デメリットについてまとめる	4時間
第14回	**スポーツと政治　スポーツにおけるテロリズム** 歴史的変遷から見るスポーツイベントにおけるテロリズムの意味を学習する。	過去にあったスポーツにおけるテロリズムについて調べ、まとめる。調査の結果を次の授業で発表する。	4時間

SP-2029-1-2

授業科目名	スポーツマネジメント学概論（スポーツマネジメント概論）				
担当教員名	石井　智				
学年・コース等	1	開講時期	＊後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツマネジメントとは、スポーツ組織が、組織目標の達成や持続可能な発展を志向するために、人材などの資源を効果的に配分、管理することである。本講義では、マネジメントのみならず、学習指導要領に明記されている、スポーツの多様な価値を学ぶこと、またスポーツを社会で活かすなどの目標・内容を理解することを目指す。さらには課題を発見し、その課題の解決を目指すための教材・指導法も併せて学習し、指導計画（学習指導案）を立てられるスキルの獲得を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツが生活において多様なシーンで活用されている実態についての把握	スポーツの社会的意義について理解し、スポーツが社会課題の解決に役立つことを理解できる
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	マネジメントにおけるスポーツ界のみならず、実業界におけるリーダーシップについての知識獲得	学習指導要領の目標・内容を理解できる。真のリーダーシップについて理解ディナー招待きる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツが社会課題の解決に活用されている実態について学習し、スポーツの今日的価値についての学習	スポーツをカルチベイト（深く耕す）することは社会の発展に大きく貢献できるということを実感できる
4 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツを効果的に実施するための、多様な機能を備えた施設を創るための資金調達や運営方法などの学習	スポーツの諸機能を活性化させる施設運営方法や資金調達の方法論を学ぶ。教材や指導法を身につけることができる
5 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツマーケティング（スポーツ関連の商品はどのようにして消費、販売されるのか）理解	スポーツはどのような形にすれば経済的価値（売れる）を有するのかについて理解できる。また指導計画（学習指導案）を作成し実施できる。

学外連携学修

有り　（連携先：一般社団法人アスリートネットワーク　三谷様）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート（毎講義後提出。中間テスト含む）45%	：	授業内容に関する理解度を確認するため、授業の最初と最後にテーマを提示してそれに対する自分の意見を記述してもらう。それを3段階で評価する
期末テスト（もしくはレポート）55%	：	授業で取り上げた専門的知識の理解度や、問題に対し論理的に答えられているか（自分の意見、結論は何か、その結論に至った経緯＝ストーリーがわかる内容であるかどうか）を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツの組織文化と産業（横山勝彦、八木匡、松野光範編著　晃洋書房）2012年
スポーツ・マネジメント理論と実務（廣瀬一郎　東洋経済新報社）2009年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
受講生は、毎授業後、与えられたテーマについて講義の内容を踏まえて小レポートを提出ください。また、中間試験と期末試験に備え、毎時間の配布資料の復習を行うなど、授業の予習と復習を行ってください。
スポーツをさらに面白くする、楽しくする、魅力的に見せるためには、スポーツビジネスのマネジメントが欠かせません。また、マネジメントを学ぶことはスポーツにとどまらず、社会にでて活躍できるスキルの獲得にもつながります。そういう意味でも、人々が求める新しいスポーツの楽しみ方を提供するにはどうしたら良いのか、という課題について一緒に考えましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日の2限

場所： 研究室

備考・注意事項： 事前に必ずアポイントメントが必要です。satoshi238@gmail.comまで連絡ください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび、スポーツマネジメントの概説** スポーツ組織のマネジメントの学びを通じて、自らが企業組織や学級のマネジメントについて考えるきっかけをつくることができる。また、スポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景について学習して。授業計画、到達目標の作成の仕方を知ることによって学習指導要領における目標・内容を理解することができる。	授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで、自身がキーワードと考える言葉を調べてノートに書くなどして理解を深める	4時間
第2回	**スポーツマネジメントの対象分野** スポーツに関するマネジメントの領域、たとえば学校におけるスポーツ教育の現場やスポーツ産業、スポーツ市場、個別産業領域を知ることができる。	授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読むことと、身近に起こったマネジメントについてノートに書いておく	4時間
第3回	**プロスポーツのマネジメント** 国内外のプロスポーツ組織を題材に、スポーツの価値を向上させるためには、顧客（消費者）＝ファンにどのようなベネフィット（便益）を提供するのかについて学習する。特にJリーグの理念の学習を通じて、スポーツが文化として社会に定着させることが真のプロスポーツのミッションであることを理解することができる。	プロスポーツのマネジメントについて復習しておくことと授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めること、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第4回	**スポーツ施設のマネジメント** スポーツの価値を享受するにはやはり適切な「場」が必要で、その場＝施設をつくるためには資金が必要である。「場」すなわち施設を作るための方法論（資金調達や運営方法）や「場」の価値を高める代表的な施設の運営事例であるスポーツスタジアムの指定管理者制度などを学ぶことによってスポーツ環境の創造や整備、さらには持続可能性を高める方法論を学ぶことができる。	マーケティングやスポーツプロダクトについて復習しておくことと、授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第5回	**スポーツマーケティング** マーケティングの本質である顧客の創造はマネジメントの本質でもある。このことを理解するため、スポーツプロダクト、消費者ニーズ、スポーツ消費者行動を学び、実感として理解できるようになる。また、学校においてもマーケティングの考え方は、児童・生徒のニーズを感じ取るためにも大事であることを理解できる。マーケティングを考えるうえで大事な、４P(製品、価格、流通、販売促進）の学習を通じて経済におけるマネジメントの本質について知ることができるとともに、スポーツを文化として社会に根付かせるためには、スポーツの経済的価値を高めることも大事であるということも理解することができる。	スポーツイベントや施設の経済効果について復習しておくことと、授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第6回	**スポーツブランドマネジメント** ブランドとは商品の差別化による競争優位を生み出すなど企業と顧客との信頼関係であるといえる。それはどのようにすれば実現するのか？企業のブランディング戦略やその歴史を学びながら、「ブランド価値」についての理解を深めることができる。	授業後にスポーツマーケティングミックスについて自分なりに調べることと、配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第7回	**スポーツスポンサーシップ** マーケティング戦略のひとつであるスポンサーシップの本質について、広告との比較などから学ぶことができる。また、企業はなぜスポーツにスポンサードするのかを考察することを通じて、企業におけるスポーツ価値についての理解を深めることができる。	授業後に配布資料をよく読み、コアプロダクトとカスタマーサービスについて復習しておくこと	4時間
第8回	**学校スポーツのマネジメント** 学校体育のカリキュラム・マネジメントや運動部活動のマネジメントなど、学習指導要領のエッセンスを踏まえながら、いかにスポーツ指導を通じて生徒の人間形成に寄与するのかという課題を、部活動における外部講師問題などの事例を通じて学ぶことができる。また日本版NCAAと言われ検討が進められているUNIVASの現状と課題を学習し、これからの大学スポーツのマネジメントんじょあり方についての理解も深めることができる。	授業後にスポーツプロダクトのブランディングについて自分でも調べること、また、授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、そしえ身近なマネジメントを探してみる	4時間
第9回	**地域スポーツのマネジメント**	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップについて復習しておくこと	4時間

	地域コミュニティの再生の核となる地域スポーツクラブの歴史と現状を知ることができる。また、今後少子高齢化・人口減少が進む地域社会においてスポーツ界や企業・自治体はどう連携して課題解決に進めばよいのかを検討することによって、地域社会におけるスポーツの価値と可能性について理解することができる。		
第10回	**メディアスポーツのマネジメント** PRとは企業と顧客とのコミュニケーションである。ステイクホルダー（利害関係者）ごとの関係性をいかに構築するのか、そのための広報はどうするのかなどについて学ぶことができる。またメディアスポーツの視点から課題を明らかにすることによって、マスメディア企業のマネジメントも理解することができる。	授業前に配布され授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、身近なマネジメントを探してみる	4時間
第11回	**スポーツ組織論：計画と組織化** スポーツ組織を活性化するための計画策定する能力を学び、それは自身を成長させるためのセルフ・マネジメントにつながることが理解できる。	授業後に配布資料をよく読み、計画と組織化について復習しておくこと	4時間
第12回	**スポーツ組織論：実行と評価** スポーツ組織を活性化するための計画をどのように実行すると効果的であるのか、またどのように評価する必要があるのかを学ぶ。それは自身を成長させるためのセルフ・マネジメントを顧みる際に必要であることを学ぶことができる。	スポーツチームや組織がどうすれば望ましいパフォーマンスを創造することができるのかを考えるとともに、授業前に配布し授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んでヒントを得ること、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第13回	**スポーツの経済学** スポーツの経験価値を醸成する場としての「スタジアム」や「アリーナ」を建設するための資金調達方法を学ぶ。このことは、一般的な経済活動にも活用できることを理解するとともに自身の経済観念を考えるきかっけづくりとすることができる。行動経済学におけるアノマリーとナッジを学び、経済行動とスポーツの関連性、あるいは、税金、需要と供給などの知識も併せて学ぶことができる。	スポーツにおける財源の確保について、授業前に配布し、授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、身近なマネジメントを探してみる	4時間
第14回	**まとめと総評** 13回それぞれのトピックスをダイジェストで説明することにより、スポーツビジネスマネジメントの基礎の復習ができる。また、期末試験の目的を加えることによってこの講義の狙いがさらに理解できるようになる。	これまでの配布資料および読み物を整理し、期末試験に備え、事前に質問を準備する	4時間

SP-2030-1-2

授業科目名	健康教育・管理論（健康教育・管理論）				
担当教員名	股村　美里				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

健康および安全についての理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、社会・環境を改善していくことの必要性について学習する。さらに、様々な環境において生きる人々が共に生きることにつながる健康教育について目標および（個人および集団を対象にした）健康教育、健康管理の方法を考える。特に、健康上好ましくない（非健康行動）を好ましい行動に変容させるためには、どのようにしたらよいか健康行動理論を通じて理解する。本講座で身に付ける力は、学習指導要領の「保健領域」を指導する力としても身につく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	健康教育あるいは健康管理を実践するために必要な知識理解	個人のみならず学校・施設・地域など様々な場面・集団を対象とした健康教育や管理の担い手となるために必要な知識について説明できる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	健康と教育の意味の再確認	様々な健康教育の手法について理解し、健康であることの意味や健康であるよう支援することを提案することができる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	健康危険行動の回避と保健行動の実施	健康上好ましいとされる行動や健康を害する行動を回避するのに必要な情報の収集とそれを行動に移すことができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内レポート	45%	： 授業内レポートを14回実施する。講義内容の理解と個人の見解を論理的にまとめていることを評価する。
最終レポート	20%	： レポートの体裁が整っているか、授業の内容を正確に理解しているか、自身の考えを論理的に述べることができているかを評価する
期末テスト	35%	： 試験範囲は、講義内容全範囲とする

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義内に適宜、関連する書籍、映画、ホームページ等を紹介する。積極的に関連教材に触れ、理解を深めるようにすること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。講義を受講するにあたり重要な課題を設けているので、怠りなく進めること。また本科目では、実際の臨床の現場で生かせるような知識と技能を身につけることを目的とする。そのため、自らの体験や考えなどを出発点として講義形式だけでなく、ペアワークやグループワークを取り入れ、授業への主体的かつ積極的な聴講の姿勢を求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　股村研究室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**健康教育の目標　健康教育および健康管理における目標とは** 健康教育・管理論で学ぶ内容全体の概要を俯瞰する。また、健康教育における目標であるヘルスプロモーションの考え方について理解する。	自分の身近なところにある健康問題について、情報収集をし、次回の授業に備えること。	4時間
第2回	**健康教育の実施方法　個人を対象とした方法の工夫①** 健康教育および健康管理において必要な身振り手振りの位置づけについて体験する	グループワークを通じて感じ考えたことについて、実際の生活で活用する。	4時間
第3回	**健康教育の実施方法　個人を対象とした方法の工夫②** 健康教育および健康管理において必要な距離感や立ち位置など体系的に整理する。	個人を対象とした健康教育で工夫できる点について説明できるようになる。	4時間
第4回	**健康教育の実施方法　集団を対象とした方法の工夫** 集団を対象とした健康教育において必要な方法について、個人を対象とした健康教育とは異なる点を視聴覚教材から理解する。	個人を対象とした健康教育との違いを理解し、説明できるようになる。これまで自分が受けてきた健康教育や指導について振り返り、これからの健康教育・管理への応用について考える。	4時間
第5回	**健康を支援する立場とは** 健康教育や健康管理をする上で、感情労働や社会的役割が重要な役割を担っていることを理解する。	乳幼児期から学童期、思春期に至る子どもの発達課題について、ワークシートに列挙する。	4時間
第6回	**各発達段階の健康課題の違いについて（育つこと）** 育つ過程における健康課題とその解決のための健康教育・健康管理について理解する。	乳幼児期から学童期、思春期に至る子どもの発達課題について、ワークシートに列挙する。	4時間
第7回	**各発達段階の健康課題の違いについて（老い・障害①）加齢と老化** 老い、あるいは障害・疾病とともに生きる上での健康課題と健康教育・管理の上で必要な点について理解する。	老いおよび障害・疾病とともに生きる当事者の声について、視聴覚教材から考えた自らの考えをまとめる。	4時間
第8回	**各発達段階の健康課題の違いについて（老い・障害②）認知症** 老い、あるいは障害・疾病とともに生きる上での健康課題を横断的な視点と縦断的な視点で理解する。	老いを単なる喪失ととらえるのではなく、生涯発達の観点からとらえなおせるようになる。	4時間
第9回	**健康教育の理論①　ストレスとコーピング理論** ストレスが単なる心身の健康問題につながるだけでなく、健康行動に関連することを理解する。	自らの生活を振り返り、ストレスがかかったときの対処行動について健康行動理論を用いて考察する。	4時間
第10回	**健康教育の理論②　健康信念モデルと自己効力感** 健康情報番組の構成要素について、健康信念モデルを基に理解する。また、単なる自信ではなく、健康行動につながる自己効力感を身に着けるためにはどんな情報源が有効か理解する。	健康教育・健康管理を担うものとして、身近な情報番組がどのような枠組みで作られているかを理解する。	4時間
第11回	**健康行動理論③　トランスセオレティカルモデル** 対象者の興味関心の状態に応じた支援が重要であることを学ぶ。	行動変容が起こり習慣化されるまでの過程について理解する。	4時間
第12回	**健康教育・健康管理の具体例　①感染症の流行とその予防　②STD、HIVを具体例として** 感染症の流行とその予防についての健康教育の教材例について紹介する。	感染症の流行のメカニズムや現在問題となっている感染症について情報収集をし、次回の講義に備える。	4時間
第13回	**健康教育・健康管理の具体例　③こころの健康** 心の健康（メンタルヘルス）に関わる現代の課題や解決方法、メンタルヘルスリテラシーについて紹介する	心の健康にかかわる新聞記事や書物にあたり、理解を深めること	4時間
第14回	**総括―健康教育・健康管理とは** 健康教育における目標、方法、理論、そして具体例について振り返る。	自らの興味関心のあるトピックに基づいた、健康教育の実施例についてまとめる。	4時間

SP-2031-2-2

授業科目名	学校保健（学校保健）				
担当教員名	入谷　智子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	養護教諭を要請する看護大学の学校保健実習の教育及び実習指導				

授業概要

児童生徒の心身の健康を守り、育てるための基本的な知識を習得することをねらいとする。内容としては学習指導要領に明記されている健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、子どもの健康実態，学校保健の考え方、健康診断の内容とあり方、子どもの身体発育・発達やかかりやすい病気の知識、それを守り育てるための学校の仕組みや学校環境・組織の目標・内容を理解しながら、教材や指導法について学ぶ。またこれまで学んだことを踏まえ指導計画（学習指導案）を作成し、児童生徒の知識が向上できるような効果的に授業を進める方法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	学校保健に関する知識理解	児童生徒の健康問題に関する知識とそれを保持増進するために実施されている学校保健の機能について説明できる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	現代社会における学校保健の抱えている問題と改善策の検討	現代社会における児童生徒の健康問題とそれを解決するための学校保健のありかたについて、考察することができる
3 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	児童生徒における健康に関する状況を整理、アセスメントし、予防改善の指導方法	学校保健に関わる児童生徒を考慮した指導計画（学習指導案）が作成できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
課題レポートを提出していただきます。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	65%	： 課題レポートは、講義内容の理解と個人の見解を論理的にまとめていることを評価する（13回×5点＝65点）。
最終課題レポート	35%	： 範囲は、講義内容全範囲とする（35点）。授業内容の理解度の確認。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教員養成系大学保健協議会（2009）：〔第5次改訂〕学校保健ハンドブック．ぎょうせい．
日本学校保健会（2013）：学校保健の動向．日本学校保健会出版部．
中学校学習指導要領（平成29年告示）保健体育編：文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
本講義は、実際の臨床の現場で生かせるような知識と技能を身につけることを目的とする。授業への主体的かつ積極的な聴講の姿勢を求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　入谷研究室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校保健における目標と課題①　学校保健概論** 学校保健の全体の内容を俯瞰し、保健体育科教員としての職務とその役割の重要性について理解する。学校保健安全法について学ぶ。	学校保健安全法について調べる	4時間
第2回	**学習指導要領に基づく保健の指導** 学習指導要領における目標・内容を理解する。また学習指導要領と学校保健の関連について知る。 教育基本法、学校安全衛生法、学習指導要領（保健）に関する関連性を学ぶ。	学習指導要領について調べる	4時間
第3回	**性教育** 人の性機能と役割及び性に関連する課題について知る。教員としての性教育や性感染症の基礎知識を学ぶ。	性に関連する課題について理解を深め、児童生徒への学びに活かす方法を検討する。	4時間
第4回	**喫煙・飲酒・薬物乱用教育** 現代社会における児童生徒の抱える健康問題である喫煙・飲酒・薬物乱用について理解し、その対応について知る。また発生予防に関わる教育について学ぶ。	喫煙・飲酒・薬物乱用に関連する課題について理解を深め、児童生徒への学びに活かす方法を検討する。	4時間
第5回	**食に関する課題、学校給食** 児童生徒の食に関する課題、食育の重要性、学校給食について知る。 食に関する法律や食事などのアレルギーの対応方法を学ぶ。	学校給食法について調べる	4時間
第6回	**発育発達、運動習慣の現状、生徒にみられる主な疾患** 日本の児童生徒の発育発達について、また児童生徒にみられる疾患とその対応方法を知る。 健診や体力テストの結果を基に児童生徒の発育発達の状況を学ぶ。	発育発達、児童生徒にみられる疾患に対して学校現場でも活用できるように理解を深める	4時間
第7回	**学校で注意すべく感染症** 学校の中で注意する感染症の種類や症状、学校保健安全法との関連などを知る。また感染症発生時の対応や予防方法について学ぶ。	学校における感染症対策や対応について知識を深める	4時間
第8回	**ストレス関連、自殺、いじめ、不登校について** ストレスによる様々な兆候。学校におけるストレスの対応や予防方法について学ぶ。 自殺、いじめ、不登校の現状および学校及び教員としての対応方法について学ぶ。	学校現場で活かすストレス疾患自殺、いじめ、不登校に対応できるよう知識を深める	4時間
第9回	**健康状態の把握と指導** 毎日の健康観察及び健康診断について理解する。健康観察の実施方法や異常時の対応方法を学ぶ。 健診項目・健診の必要性・事後措置などを学ぶ。法的根拠を知る。	学校健康診断の項目の変遷やその意義について学ぶ。　またそこから得られる情報が児童生徒の健康管理にどのように生かされているのか理解する。	4時間
第10回	**特別支援教育の現状と課題** 特別支援教育の現状とその対応について知る発達障害についての基礎知識及び対応方法を学ぶ。	学校現場で活かせるために、疾患の対応について理解を深める。	4時間
第11回	**学校環境生衛生** 学校の環境（水道水、プールの水、明るさ、空気）について適切とされる状態について把握し、点検などについて学ぶ。	学校環境衛生基準について調べまとめる。	4時間
第12回	**学校安全** 学校管理下における事故や災害の発生機序とその防止方法について学ぶ。	学校管理下の概念について理解するとともに、事故とは予防可能なものであることを理解する。	4時間
第13回	**応急手当** 学校下で多い傷病に対する応急手当や学校内での組織的活動と教員としての対応を学ぶ。	応急手当が速やかにできるように知識を向上する。	4時間
第14回	**授業の振り返りとまとめ　確認テスト** 授業のまとめ　確認テスト 1～14回の授業のまとめと授業内容の最重要項目ポイントを振り返り、知識の定着を図る。さらに授業の知識の確認テストを行う。これまで紹介した教材や指導法について振り返り、指導（学習）計画を立て実施する。	1～14回の授業の復習を行う	4時間

SP-2032-2-2

授業科目名	スポーツ法学（スポーツ法学）				
担当教員名	新井　喜代加				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、スポーツ事故の法的責任に関わる基本的課題からスポーツ振興をはじめスポーツ団体、ドーピング、ジェンダー・セクシュアリティなどに関わる現代的課題まで、スポーツと法に関するテーマを取り上げて検討します。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	体育及びスポーツに関する法的知識	スポーツに関する事案・現象を法的側面から捉えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・課題解決学習(PBL)
　2月に集中講義として実施する予定です。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
　可能な限り全体的な傾向についてコメントすることを心がけますが、集中講義をオンディマンド形式で実施した場合は難しくなります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
映画鑑賞レポート	10%	：スポーツ事故（脳震盪）に関する映画と女性の身体とジェンダーに関する映画を鑑賞し、意見・主張を述べてもらいます。主張を明確にし、その主張の裏付けがなされているか5段階で評価します。テスト範囲となります。
中間テスト	40%	：授業の理解度を確認するために実施します。
期末テスト	50%	：授業の理解度を確認するために実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

小笠原正（監修）『導入対話によるスポーツ法学　第2版』不磨書房、2007年
菅原哲朗他（監修）『スポーツの法律相談』青林書院、2017年
白井久明・片岡理恵子・高松正裕・宮田義晃『Q&A学校部活動・体育活動の法律相談―事故予防・部活動の運営方法・注意義務・監督者責任・損害賠償請求―』日本加除出版、2017年
石堂典秀・建石真公子（編）『スポーツ法へのファーストステップ』法律文化社、2018年
スポーツーツ法学会（監修）『標準テキストスポーツ法学第3版』エーデル研究所、2020年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後
場所：　授業を実施する教室
備考・注意事項：　対面授業の場合には授業を実施する教室にて対応します。オンディマンド形式の場合にはメールやチャットにて対応します。

授業計画　　**授業外学修課題にかかる目安の時間**

第1回	**ガイダンス及びスポーツ法の体系** ガイダンスでは、授業のねらい、授業内容、評価方法、留意点等について説明する。また、スポーツ法の体系では、スポーツ国家法、スポーツ固有法、スポーツ国際法について解説する。	事前にシラバスを読む。また、スポーツに関する決まり・規範に関連する新聞記事等を読む。／事後に本授業のルールと配布資料を復習する。	4時間
第2回	**スポーツ権と法** 国際憲章、国内のスポーツ権論について解説します。	事前にスポーツと人権に関連する新聞記事等を読む。／事後に配布資料を復習する。	4時間
第3回	**スポーツ振興と法** スポーツ振興法、スポーツ基本法、諸外国のスポーツ振興に関する法について解説します。	事前にスポーツの普及・振興に関連する新聞記事等を読む。／事後に配布資料を復習する。	4時間
第4回	**スポーツ団体と法** 団体自治の原則、罪刑法定主義、処分・制裁・救済について解説します。	事前にスポーツ関係組織に関する新聞記事等を読む。／事後に配布資料を復習する。	4時間
第5回	**ドーピングと法** 反ドーピング活動に関わる法について解説します。	事前にドーピングに関連する新聞記事等を読む。／事後に配布資料を復習する。	4時間
第6回	**ドーピングと法―ワークシートの作成―** ドーピングに関する判例を精読し、ワークシートを作成する。	事前にドーピングに関連する新聞記事等を読む。／事後に判例に出てくる専門用語の意味を確認する。	4時間
第7回	**中間テスト（解答解説を含む）** 第1～6回の授業の理解度を確認する。また、テストの解説を通して理解を深める。	事前に第1～7回の講義の配布資料等を復習する。／事後にテストを振り返り、復習する。	4時間
第8回	**障がい者とスポーツ法** 障がい者に関わるスポーツ国際法、スポーツ国家法及び、スポーツ固有法について解説します。	事前に障がい者スポーツに関連する新聞記事等を読む。／事後に配布資料を復習する。	4時間
第9回	**ジェンダーとスポーツ法1** ジェンダーに関するスポーツ国際法、スポーツ国家法及び、スポーツ固有法について解説します。	事前にスポーツとジェンダーに関連する新聞記事等を読む。／事後に配布資料を復習する。	4時間
第10回	**ジェンダーとスポーツ法2** セクシャリティに関するスポーツ国際法、スポーツ国家法及び、スポーツ固有法について解説します。	事前にスポーツとセクシャリティに関連する新聞記事等を読む。／事後に配布資料を復習する。	4時間
第11回	**ジェンダーとスポーツ法3** 女性の身体とジェンダーに関する映画を鑑賞し、何が問題であるかをレポートする。	事前に女性器切除について調べておく。／事後に意見・主張を明確にし、レポートする。	4時間
第12回	**スポーツ事故と法的責任1** スポーツにおける脳震盪に関する映画を鑑賞し、何が問題であるかをレポートする。	事前に脳震盪について調べておく。／事後に意見・主張を明確にし、レポートする。	4時間
第13回	**スポーツ事故と法的責任2** スポーツ活動中の脳震盪による事故の法的責任について解説する。	事前に脳震盪に関連する新聞記事等を読む。／事後に配布資料を復習する。	4時間
第14回	**期末テスト（解答解説を含む）** 第1～6及び、第8～13回の授業の理解度を確認する。また、テストの解説を通して理解を深める。	事前に全講義の配布資料等を復習する。／事後にテストを振り返り、復習する。	4時間

SP-2033-2-2

授業科目名	障がい者スポーツ概論（障害者スポーツ概論）				
担当教員名	中道　莉央				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

障がい者スポーツの定義・意義に関する知識を学び、障がいのある人を含む多様な人々を対象とした「スポーツの指導者・支援者」として活動する際に必要な基礎的知識について学ぶ。これを達成するために、①障がいの定義や障がい者スポーツの意義の理解、②アダプテッド・スポーツ科学に関する知識の理解、③多様な人々を対象とした「する・みる・ささえる」スポーツ振興に求められる柔軟な思考力、④多様な人々に身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度、以上の4つの力を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	障がい者スポーツの意義と理念	障がいの定義や障がい者スポーツの意義が理解できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	アダプテッド・スポーツとＩＣＦ	アダプテッド・スポーツやＩＣＦの考え方を理解し、これをもとにした多様な人々のスポーツのあり方を自分なりの言葉で説明できる。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	３障がいの特徴とスポーツの効用	医科学的な知見からみた３障がいの特徴とスポーツの効用を理解する。
4 ．DP11.忠恕の心	障がい理解と地域におけるスポーツ振興	障がいのある人を含む多様な人々に身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の授業内ミニレポート	60%	： 授業内容を踏まえた論述ができていれば3点とし、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば4点、重大な誤りや不足があれば2点とする。これを全15回実施する。
初回レポート	5%	： 与えられたテーマに対し、自分の意見が主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の3観点から総合的に評価する。
中間テスト	10%	： 与えられたテーマに対し、障がい者スポーツに関する基礎知識を用いて自分の意見が主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の3観点から総合的に評価する。
最終レポート	25%	： 与えられたテーマに対し、障がい者スポーツに関する専門知識を用いて自分の意見が主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の3観点から総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

(公財)日本障がい者スポーツ協会編（2020）障がいのある人のスポーツ指導教本：2020年改訂カリキュラム対応．ぎょうせい.

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・本科目は、(公財)日本障がい者スポーツ協会「初級・中級障がい者スポーツ指導員」の資格取得には必須の授業である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　いつでも

場所：　メールで

備考・注意事項：　質問等があれば、＜件名＞に【障がい者スポーツ概論】と明記した上で、＜本文＞に【学籍番号と氏名】を記述し、メール（nakamichi-r@bss.ac.jp）で問い合わせること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス／障がい者スポーツの理念** 障がい者スポーツの理念をパラリンピック・デブリンピック・スペシャルオリンピックス等の各種国際大会が掲げる理念や日本障がい者スポーツ協会が掲げるビジョンから理解する。	これまでの障がいのある人や障がい者スポーツとの関わりを見返り、 無意識のうちに作り上げている「障がい」「障がい者」や「障がい者スポーツ」に対するイメージを意識化し、まとめておく。	4時間
第2回	**障がい者福祉施策の変遷** ICIDHやICF等の障がいモデルから多様な障がい観について考え、国内の3障がい(身体・知的・精神)に関わる福祉施策の変遷を理解する。	ICIDHの特徴と問題点、ICFの特徴をおさえ、歴史的・社会的な視点からとらえた障がいのある人の生活実態と福祉施策との関係を整理しておく。	4時間
第3回	**障がい者福祉施策と地域における障がい者スポーツの振興** 3障がい(身体・知的・精神)に関わる福祉施策と障がい者スポーツ振興の関係性、一般（健常者）のスポーツと障がい者スポーツの所管の違いについて理解する。また地域における障がい者スポーツの振興において、関連する諸団体に求められる連携の重要性についても理解する。	スポーツ基本法が施行されてから、スポーツ政策としての障がい者スポーツの普及・推進施策・事業等について調べ、理解しておく。また、地域の障がい者スポーツ関連団体について、調べておく。	4時間
第4回	**障がい理解とスポーツ（身体障がい）** 身体障がいの種類・特徴の概要を学び、身体障がいのある人にとってのスポーツの効用について理解する。	身体障がいの具体的な障がい名と主な特徴、障がいの原因となる主たる疾患例について理解しておく。	4時間
第5回	**障がいの理解とスポーツ（知的障がい）** 知的障がいの分類・特徴の概要を学び、知的障がいのある人にとってのスポーツの効用について理解する。	知的障がいの障がい程度による判定区分、知的障がいのある人の自己決定のあり方について、考えをまとめておく。	4時間
第6回	**障がいの理解とスポーツ（精神障がい）** 精神障がいの種類・特徴の概要を学び、精神障がいのある人にとってのスポーツの効用について理解する。	精神障がいの具体的な疾患名と主な特徴、スポーツによる治療効果について理解しておく。	4時間
第7回	**障がい各論（視覚障がい）** 医科学的な知見から視覚障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。	眼の構造と名称、視覚障がいをきたす疾患例を理解しておく。	4時間
第8回	**障がい各論（聴覚障がい）** 医科学的な知見から聴覚・音声言語障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。	耳の構造、音の伝わり方や難聴の種類、聴力レベルと障がい等級について理解しておく。	4時間
第9回	**障がい各論(内部障がい)** 医科学的な知見から内部障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。	心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓、免疫の各機能障がいの特徴や原因となる疾患例について理解しておく。	4時間
第10回	**障がい各論（知的障がい）** 医科学的な知見から知的障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。	知的障がいの診断基準と診断における適応機能の重要性を理解しておく。	4時間
第11回	**障がい各論（発達障がい）** 医科学的な知見から発達障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。	発達障がいの特徴を整理しておく。	4時間
第12回	**障がい各論（精神障がい）** 医科学的な知見から精神障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。	統合失調症や気分障がいの原因・誘因を理解しておく。	4時間
第13回	**補装具の種類、特徴** 補装具の種類とそれらが備えるべき条件を理解する。また、補装具の適合や補装具が身体やパフォーマンスに与える影響について理解する。	義肢・装具・車いす・杖の特性と競技前後における点検時の留意点、および、補装具の適合3条件（身体への適合、環境への適合、目的への適合）について整理しておく。	4時間

第14回	**障がい者スポーツの意義（まとめ）** 障がいのある人にとってのスポーツの意義を総合的に理解する。特に、地域において行われている大会や教室・イベントの現状と課題を把握し、地域における障がい者スポーツ振興に求められていることは何かを理解する。	障がいのある人にとってのスポーツの意義をについて、これまでの授業内容を踏まえ、①障がいのある個人に対して、②スポーツ界に対して、③社会一般に対して、の3つの観点から自分の考えをまとめておく。	4時間

SP-2034-2-2

授業科目名	**運動学概論（運動学概論）**				
担当教員名	髙松　靖				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

保健体育教員や指導者を目指す場合，運動をどのようにして出来るようになるのか，またどのようにして人を出来るようにさせるのかということが問題になる．運動指導現場で我々は「運動を身体で理解する」ことの重要性を感じる．スポーツ運動を身体で理解し，感じることができ，更に伝えることができるというのは運動指導に関わる者として必須の能力である．学習指導要領に記載されている体育理論の運動やスポーツの学び方，あるいは体育実技を指導できるようになるための運動学的な基礎知識及び指導法の理解が目的となる．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	運動学習における運動発生論の考え方の理解	運動場面を想起しながら、コツやカンという動感身体知を理解することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	運動発生論的立場での運動学習・指導場面の想起	運動学習・指導場面において運動発生論的な考え方や指導法を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小レポート	50%	： 提示された課題について小レポートにて評価します. 授業内容やこれまでの運動経験を踏まえて独自の視点で論述できているかが評価の観点となります。
最終レポート	50%	： 求められている論述課題に対してのレポートを評価します. 学習した内容や自己の経験を踏まえ、独自の視点で論述されているかが評価の観点となります。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

マイネルスポーツ運動学　K.マイネル　金子明友　訳　大修館書店
教師のための運動学　金子明友監修　大修館書店
身体知の形成　上・下　金子明友著　明和出版
身体知の構造　金子明友著　明和出版
動きの感じを描く　森直幹著　明和出版
スポーツ運動学　金子明友著　明和出版
わざ伝承の道しるべ　金子明友著　明和出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
保健体育の教員免許状を取得希望する人には必修の科目です。スポーツ指導者の資格取得にも必修ですので、資格取得を目指す学生は、必ず履修してください。
本講義は、頭だけで考えていてもなかなか理解できないと思います。始めの２～３回はなじみのない内容なので戸惑うと思いますが、自分のこれまでの運動経験をしっかりと思い出しながら、今にも体を動かしたくなるような、そんな気持ちで講義に臨んでもらいたいと思います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日２限(10:50-12:30)

場所： 髙松研究室(B205)

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**運動学を学ぶ必要性について** 「運動学を学ぶ必要性」というテーマの下，講義を行う．その中でスポーツを学ぶ者・スポーツに携わる者にとっての運動学の必要性について理解を深める．	自らのスポーツライフに運動学が関係しているのかをまとめておくこと	4時間
第2回	**運動学で学ぶことについて** 「運動学で学ぶこと」というテーマの下，講義を行う．その中で運動学ではどのようなことを学ぶのかについて理解を深める．	運動学が自らの実践の場で活用されているか考え，まとめておくこと	4時間
第3回	**様々な運動分析の方法について** 「様々な運動分析の方法について」というテーマの下，講義を行う．その中で運動学のこれまでの発展と，運動を分析する様々な学問について基礎的な理解を深める．	人間学的運動分析と自然科学的運動分析の違いをまとめておくこと	4時間
第4回	**身体知を伝え，発生させるということについて** 「身体知を伝えて，発生させるということ」というテーマの下，講義を行う．その中で運動発生現象を伝承することについての基礎的な理解を深める．	運動の発生現象について自らの事例をまとめておくこと	4時間
第5回	**「コツ」と「カン」の基礎理解について** 「「コツ」と「カン」の基礎理解について」というテーマの下，講義を行う．その中で人間の運動発生現象と「コツ」と「カン」の関係性について基礎的な理解を深める．	「コツ」と「カン」について関連する自らの事例をまとめておくこと	4時間
第6回	**運動の発生に関する基礎理解について** 「運動の発生に関する基礎理解について」というテーマの下，講義を行う．その中で人間の運動発生における学習位相について触れるとともに，学習指導要領に記載されているスポーツの技能の上達過程について理解を深める．	運動発生の学習位相について，自らの事例をまとめておくこと	4時間
第7回	**「からだで覚える」ということについて** 「「からだで覚える」ということについて」というテーマの下，講義を行う．その中で人間の運動発生に関わる「動き方をからだで覚える」ということについて基礎的な理解を深める．	自らが夢中になって覚えた（からだで覚えた）運動について事例をまとめておくこと	4時間
第8回	**研究的視点から創発活動を考える** 「研究的視点から創発活動を考える」というテーマの下，講義を行う．その中で創発活動が運動実践現場と運動学的研究にどのように関係しているか理解を深める．	創発活動について自らの事例をまとめておくこと	4時間
第9回	**研究的視点から促発活動を考える** 「研究的視点から促発かつどうを考える」というテーマの下，講義を行う．その中で促発活動が運動実践現場と運動学的研究にどのように関係しているか理解を深める．	促発活動について自らの事例をまとめておくこと	4時間
第10回	**運動課題と運動技術について** 「運動課題と運動技術について」というテーマの下，講義を行う．その中で運動発生の基盤を創る運動課題と運動技術の関係性について触れるとともに，学習指導要領に記載されている運動やスポーツの技術について理解を深める．	自らに関連してくる運動（技）の運動課題と技術についてまとめておくこと	4時間
第11回	**運動学を学校体育に活かすために** 「運動学を学校体育に活かすために」というテーマの下，講義を行う．その中で体育授業における運動発生での「なじみの形成」の重要性について理解を深める．	自らに関連する運動（技）の「なじみの形成」について事例をまとめておくこと	4時間
第12回	**運動学を競技スポーツに活かすために** 「運動学を競技スポーツに活かすために」というテーマの下，講義を行う．その中で，運動学を競技スポーツに活かす場面での最高化志向について理解を深める．	自らに関連する運動（技）の最高化志向について事例をまとめておくこと	4時間
第13回	**運動学の今後の発展に向けて** 「運動学の今後の発展に向けて」というテーマの下，講義を行う．その中で運動学という学問の今後の発展について，理解を深める．	運動学の今後の発展を理解し，自らの課題についてまとめておくこと	4時間
第14回	**運動学について振り返りとまとめ** 本講義で扱ってきた運動学という学問と，自分たちの周りの運動学習場面を関連させながら振り返りを行う．	これまでに学習した内容を振り返り，自らの事例とともにまとめておくこと	4時間

SP-2035-2-2

授業科目名	スポーツマーケティング論（スポーツマーケティング）				
担当教員名	山本　達三				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「するスポーツ」・「みるスポーツ」のスポーツ財・スポーツサービス財の消費・満足・再購入・ロイヤルティ形成に欠かせないマーケティングの基本的な考え方・活動について理解することを主目的とする。具体的には，スポーツ独自のニーズやウォンツ特性を踏まえたスポーツ市場の環境分析、マーケティングミックス戦略（７P）スポンサーシップなどについて学び、発展著しいスポーツ市場やスポーツビジネスを取り巻く問題や課題について理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツマーケティングの基本的な考え方に関する知識の獲得・理解.	スポーツ関連組織等のマーケティング計画・戦略（市場・環境・製品・価格・プロモーション・流通戦略、人事戦略、プロセス戦略、Physical Evidennce戦略）
２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	スポーツを通したマーケティングについての知識の獲得・理解	スポーツスポンサーシップについて理解できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
　自主学習支援のため，授業内容は，Teamsに事前にアップロードする.

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

小テスト，期末テスト，いずれも持ち込み不可．また，評価にあたっては，以下のような独自のルーブリックを用いて評価する【基礎的な知識・技能の習得(70%)，思考力・判断力・表現力(30%)】

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30%	： 毎授業内容について授業最後に理解度テストを実施する.
ビジネスコース卒論発表会	10%	： ビジネスコース卒論発表会を聴講して，（１）興味深かった点，（２）疑問点，（３）上記以外の感想をまとめる
定期テスト	60%	： 持ち込み不可の定期テストを実施する.

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞，吉田政幸編著）2017年，ミネルヴァ書房：京都

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「スポーツマネジメント概論」を単位取得済みの学生のみ履修可能である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日3限
場所：　研究棟B311

備考・注意事項： 事前に下記のメールにてアポイントを取ること.
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびスポーツマーケティングのコンセプト・概念の紹介** 授業の進め方、履修条件、評価基準などを解説後、スポーツマーケティングのコンセプトや概念を講義する。	授業後、初回の配布資料をよく読み、スポーツマーケティングのコンセプト・概念について復習し，翌週の小テストに備えること.	4時間
第2回	**スポーツマーケティングとは** スポーツマーケティングの役割や機能について学ぶ	スポーツマーケティングの役割や機能の理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第3回	**スポーツ市場とスポーツマーケティング** スポーツビジネス市場の市場規模や近年の趨勢について学ぶ	我が国のスポーツビジネス市場規模や趨勢の理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第4回	**スポーツ市場の細分化（マーケットセグメンテーション）** スポーツ市場の細分化・プロダクトライフサイクルについて学ぶ	スポーツ市場の細分化について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第5回	**スポーツマーケティング戦略（市場機会の発見）** マーケティング環境のマクロ分析（SWOT分析・PEST分析）について学習する	プロダクトライフサイクル，マーケティング環境のマクロ分析（SWOT分析・PEST分析）について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第6回	**スポーツマーケティングミックス** スポーツ消費者・スポーツマーケティングの7Pモデル（Product・Price・Place・Promotion・People・Process・Physical Evidence）について学習する。	授業後に配布資料をよく読み、マーケティングミックスについて理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第7回	**スポーツマーケティング戦略（製品戦略）** スポーツ用品，フィットネスクラブ，Jリーグやプロ野球を例にした，プロダクト（製品）戦略について学習する	授業後に配布資料をよく読み、プロダクト（製品）戦略について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第8回	**スポーツマーケティング戦略（価格戦略）** 観戦スポーツなどを事例にした，価格戦略・価格形成のメカニズムについて学習する	授業後に配布資料をよく読み、価格戦略について復習するとともに，4回から6回までの授業ノートを完成させておくこと.	4時間
第9回	**スポーツマーケティング戦略（プロモーション戦略）** AIDA，AIDMA，AISAS，などの消費行動プロセスとナイキを事例としたプロモーション戦略について学習する	授業後に配布資料をよく読み、プロモーション戦略について理解を深め、翌週の小テストに備えておくこと.	4時間
第10回	**スポーツマーケティング戦略（流通・販売・立地戦略）** 製品やブランド価値を向上させるための流通・販売・立地戦略について学習する	授業後に配布資料をよく読み、流通・販売・立地戦略について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと.	4時間
第11回	**スポーツマーケティング戦略（人・要員戦略）** スポーツ組織の人事戦略（スタッフ教育・ES）、顧客戦略（CS）について学習する	スポーツ組織の人事戦略・顧客戦略への理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第12回	**スポーツマーケティング戦略（プロセス戦略）** スポーツ組織の顧客に対する、サービス（業務・販売・CRMの改善効率化）プロセスについて学習する	スポーツ組織の顧客に対する、サービス（業務・販売・CRMの改善効率化）プロセスについて理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第13回	**スポーツマーケティング戦略（Physical Evidence）** スポーツ施設の設計、工夫、安心、安全など、顧客の不安を取り去り、スポーツ施設への愛着や滞在時間を増やすサービスの提供について学ぶ	スポーツマーケティング戦略（Physical Evidence）への理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第14回	**スポーツスポンサーシップ** スポーツ組織と企業のスポンサーシップ・スポンサーメリット・スポンサーシップ評価について学習する	授業後に配布資料をよく読み、スポーツスポンサーシップについて理解を深め、翌週の小テストに備えておくこと	4時間

SP-2036-2-2

授業科目名	レジャー・レクリエーション論（レジャー・レクリエーション論				
担当教員名	佐藤　馨				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本では経済活動だけでなく生活や人生を豊かにするレジャーやレクリエーション活動に目を向け、その重要性を再認識する時期と言える。本講義は、日常生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解するとともに、レクリエーション支援者として必要な基礎知識を習得する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にある、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツの楽しみ方を理解し、指導時に活用できる知識を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	レジャー・レクリエーションの意義と価値	時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値について理解する。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	レジャー・レクリエーションの変遷	個人のライフスタイルの変化とその時々のレジャー・レクリエーションの意味を理解する。
3 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	レジャーレクリエーションの普及	他者にレジャー・レクリエーションの重要性を説明する力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　優秀な提出課題については、講義中に全体に向けて内容をコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内容に関するレポート課題 35%	：	授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する
講義中盤に実施する確認テスト 15%	：	講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているのか30点満点で評価する
本試験 50%	：	講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのか50点満点で評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『現代人とレジャー・レクリエーション』余暇問題研究所編著　不昧堂　1997
『レクリエーション・マネジメント』（財）日本レクリエーション協会編　大修館書店　1994
『レクリエーション活動援助法』吉田圭一,茅野宏明編　ミネルヴァ書房　2007
『レクリエーション援助』千葉和夫編　メヂカルフレンド社　1997
『余暇学を学ぶ人のために』日本余暇学会監修　世界思想社　2004
『地域福祉論』市川一宏,牧里毎治編著　ミネルヴァ書房　2007

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修上の注意】
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本試験だけでなく、内容も正確に理解しておく必要がある。従って普段の授業で重要と指摘された点は確実に覚えること。
【メッセージ】
レジャー、レクリエーションという言葉は、実はとても奥深いものである。そうした奥深さを理解出来るよう講義する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　講義前後

場所：　講義室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**レジャー・レクリエーション論：ガイダンスおよびレジャー・レクリエーション論の概説** レジャー・レクリエーション論で学習する全講義の概要と受講上の留意点について確認する。	授業計画、留意点等について資料を精読し、理解する	4時間
第2回	**レジャー・レクリエーションの考え方①レジャー・レクリエーションとは何か** レジャー･レクリエーションの歴史的変遷における位置づけを学習する。	レジャー、レクリエーションの語源について調べる	4時間
第3回	**レジャー・レクリエーションの考え方②現代社会において、なぜレジャー・レクリエーションは必要か** 現代社会におけるレジャー･レクリエーションは必要性および重要性を解説する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にある各ライフステージやライフスタイルを考慮したスポーツライフの設計を、レジャー・レクリエーションとしてのスポーツの視点から理解する。	人間にとって、なぜレジャーやレクリエーションが必要であるのか自分自身の意見をまとめる	4時間
第4回	**日本人の余暇生活** 日本人の余暇に対する考え方について戦後の変遷について学習する。	自分自身が考える日本人の余暇観についてまとめる	4時間
第5回	**諸外国における余暇生活** 余暇に対する考え方の諸外国と日本人との違いを理解し、各国の余暇の位置づけを学習する事により、学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にある個人のスポーツに対する欲求の違いによって「楽しさ」にもそれぞれ違いがあることを併せて学習する。	日本人と諸外国との余暇の捉え方の違いについてまとめる	4時間
第6回	**前半までの授業のまとめと確認** 前半までの講義について特に重要と指摘した内容を正確に理解しているか確認する。	前半の講義において重要な内容を理解し、まとめる	4時間
第7回	**社会福祉とレクリエーション①福祉におけるレクリエーションの意味** 福祉におけるレクリエーションの意味とその必要性を学ぶ。さらに学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にあるスポーツを行なうための持続可能な社会の実現を社会福祉の視点から学習する。	福祉の場面におけるレクリエーションの必要性について理解し，まとめる	4時間
第8回	**社会福祉とレクリエーション②セラピューティックレクリエーションの意味** 福祉現場におけるレクリエーションの位置づけとして、セラピューティックレクリエーションという概念があり、その語の意味と必要性について学ぶ。	セラピューティックレクリエーションの意味についてまとめる	4時間
第9回	**セラピューティックレクリエーションの視点からみたサービスモデルの活用①余暇活用モデル、健康維持・増進モデル** セラピューティックレクリエーションの概念を用いた代表的なサービスモデルがあり、講義ではそのモデルの意義について学習する。	各種モデルを用いたレクリエーションの活用について理解し、まとめる	4時間
第10回	**セラピューティックレクリエーションの視点からみたレクリエーションサービスモデルの活用②楽しさ向上モデル、TRサービスモデル** セラピューティックレクリエーションのサービスモデルを福祉現場で用いる際の手続きを学習する。	各種モデルを用いたレクリエーションの活用事例について調べる	4時間
第11回	**レクリエーションによる対人関係能力向上モデルの活用①レクリエーション活用事例** セラピューティックレクリエーションのサービスモデルを使った実例を知り、実際の福祉現場での活用方法を理解する。	モデルを用いた福祉現場におけるレクリエーションの活用事例についてまとめる	4時間
第12回	**レクリエーションによる対人関係能力向上モデルの活用②プログラムの作成方法** 対人関係能力向上モデルを用いて、実際のレクリエーションプログラムを組み立てる方法を学習する。	モデルを用いてレクリエーションプログラムの作成方法を理解し，まとめる	4時間
第13回	**現場におけるセラピューティックレクリエーションの活用** 外部講師によるセラピューティックレクリエーションの実際の活用方法を、実践的に学習する。	福祉の実際の現場で活用されるモデルの実践例について理解し、まとめる	4時間
第14回	**レジャー・レクリエーションとスポーツと健康の関わり②21世紀のレジャー・レクリエーション** 21世紀におけるレジャー・レクリエーションの意義と可能性について理解し、学習する。	これからのレジャー、レクリエーションのあり方について自分の意見をまとめる	4時間

SP-2037-1-2

授業科目名	身体構造と機能（身体構造と機能）				
担当教員名	小松・田中				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小松猛：スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者としての実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

人体の構造と機能について，運動器と呼ばれる骨・関節・筋肉の領域での具体的な組成内容や動き，中枢・末梢を含めた神経組織の役割と人体に対する影響，循環器・呼吸器・消化器などの各臓器の領域が生きていく上で果たす具体的な役割について，それぞれの領域での身体各部の名称も含めて学習ぶ．これらの知識を得ることで，人体が様々な状況で対応している機能を理解し，スポーツ動作やトレーニングまたケガの予防や対処法を正確に行うことが出来るようになる．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	運動器，神経系，各臓器に関する解剖学的名称とその具体的な機能	身体の構造と機能を，部位別・臓器別に説明できる
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	人間が生きていく上で必要な活動（運動，呼吸，消化など）に関する様々な状況での各機能	実際の人体に関わる様々な動きや現象に当てはめて，身体の機能を理解できる
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	運動器や各臓器の機能から考えられる，スポーツに活かす身体の使い方	身体の働きを理解して、スポーツ中に起こる事象に対して対応ができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業課題	20%	： 授業内もしくはレポート課題にて、講義内容の理解度を評価する．
定期テスト	80%	： 定期試験にて、運動器や各臓器など「身体の構造と機能」全般に関する理解度を評価する．

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
齋藤健治（編）	はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ1　解剖学	化学同人	2020年

参考文献等

美田誠二（編著）　からだのしくみが目で見てわかる　得意になる解剖整理　照林社
その他授業で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**骨・関節の種類と構造および動き（運動）（第1～7回、田中担当）**	ヒトはいつまで身長が伸びるのか，理由を含めて考える．	4時間

	骨と関節の分類，構造，機能，運動を学ぶ．また，３つの運動軸を理解し，運動に負荷をかけることで筋が鍛えられ，対の方向に動かすことでストレッチングができることを理解する．		
第2回	**運動器のしくみ：上肢の関節・靭帯・筋肉（肩）** 鎖骨・肩甲骨を含む上肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち肩に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．	鎖骨・肩甲骨を含む上肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち肩に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．	4時間
第3回	**運動器のしくみ：上肢の関節・靭帯・筋肉（肘・手関節）** 上肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち肘・手関節に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．	上肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち肘・手関節に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．	4時間
第4回	**運動器のしくみ：下肢の関節・靭帯・筋肉（骨盤・股関節）** 骨盤を含む下肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち，骨盤及び股関節に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．	骨盤を含む下肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち，骨盤及び股関節に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．	4時間
第5回	**運動器のしくみ：下肢の関節・靭帯・筋肉（膝関節）** 膝関節に関係する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．	膝関節に関係する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．	4時間
第6回	**運動器のしくみ：下肢の関節・靭帯・筋肉（下腿・足関節）** 下腿・足関節に関係する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．	下腿・足関節に関係する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．	4時間
第7回	**運動器の仕組み：体幹の関節・靭帯・筋肉** 脊柱を含む体幹を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．	体幹を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．	4時間
第8回	**神経の構造と機能：総論と中枢神経（第8～14回、小松担当）** 神経組織の構造と伝達機能の機序、脳・脊髄といった中枢神経の構造と機能、名称を学習する。	神経組織の名称と機能、中枢神経系の構造と役割について再確認する	4時間
第9回	**神経の構造と機能：末梢神経と自律神経** 末梢神経、自律神経の役割と機能について学習する。	末梢神経の名称とその支配領域、自律神経の機能について復習する	4時間
第10回	**人体における恒常性と血液の組成、血液感染について** 恒常性の維持と血液の構成と役割、血液感染の内容と対処法を学習する。	恒常性（ホメオスターシス）の意味とその維持のために人体で行われていること、血液の成分とその役割について理解する	4時間
第11回	**人体における免疫・アレルギー、呼吸器の構造と機能について** 生きていくために必要な免疫機能と、過剰な免疫反応であるアレルギーについて学習し、酸素を取り込んで二酸化炭素を排出するというはたらきをする呼吸器系の構造と機能を学ぶ	免疫・アレルギーが起こるしくみ、呼吸器系の組織が果たしている役割を理解する	4時間
第12回	**心血管系の構造と機能** 心臓血管系の構造と血液循環経路を学習する。	人体の心臓の構造と役割を深く理解し、循環器系について復習する	4時間
第13回	**消化器系および腎・尿路系の構造と機能について** 摂取した栄養を消化・吸収・代謝をする消化器系のそれぞれの臓器とその役割、そして体内の老廃物を排泄するために必要な腎臓やその他の尿路系の器官について学習する。	体内への吸収を担う消化器系、体外への排泄を担う腎・尿路系の具体的な働きについて再確認する	4時間
第14回	**生殖器の構造と機能** 生殖器の構造を理解し、機能するために必要なホルモンのはたらきについても学ぶ	男女の生殖器系の解剖について復習し、機能の重要性について理解を深める	4時間

SP-2038-1-2

授業科目名	スポーツ生理学概論（スポーツ生理学概論）				
担当教員名	禰屋　光男				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Sports Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事等の実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツ生理学・運動生理学は、人体の機能を探求する学問である生理学の中で、スポーツという観点で学ぶ学問領域である。このスポーツ生理学を学ぶことで、各自のスポーツの競技力向上やトレーニングに役立てることができる。特に、骨格筋やエネルギー供給系の知識は中学校や高校の保健体育の授業においても取り上げられる。これらの知識を習得することは中学校、高校の保健体育の授業やスポーツ活動を指導する上で不可欠である。（学習指導要領における「体育理論」領域）

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ活動時に生じる運動生理学的反応	運動生理学的観点からパフォーマンス分析を行う際に必要な基礎的知識および学習指導要領における「体育理論」分野で扱う教材を理解できる
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	生涯にわたり健康な生活を実施戦するための基礎的な科学的知識	運動に伴う生理学的反応を学び、生涯にわたる健康増進の実践に応用できる
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	常に進歩する健康増進の方法などについて運動生理学的にその効果を検討する	運動生理学的な知識に基づいて、様々なトレーニング方法や健康増進策の効果を評価できる

学外連携学修

無し

授業方法

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業内テスト、中間テストおよび学期末の試験により評価する

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間テスト 50%	：	授業で解説する生理学領域ごとに理解度を筆記試験で評価する（中間テスト（50点）
期末テスト 50%	：	運動生理学的観点からパフォーマンス分析を行う際に必要な基礎的知識の理解度について筆記試験で評価する（50点）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識」村岡功編著　市村出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業の資料配布や試験は全て電子的に行い、紙媒体の資料配布・試験実施は行わないため、パソコンの持参またはスマートホンを持参すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： 研究室

備考・注意事項： 初回講義時に説明します

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびスポーツ生理学の概説** 授業の内容，進め方，予習・復習，評価方法などについて確認します．（学習指導要領の確認）	運動生理学の概要を復習する	4時間
第2回	**身体組成，骨格筋の構造** スポーツ生理学を学ぶのに必要な身体の構造（身体組成，骨格筋の仕組み）について学びます．また，体育理論の中の「体力トレーニング」の単元に含まれる筋線維の特徴について学びます．	身体組成、骨格筋の仕組みを復習し、理解する	4時間
第3回	**骨格筋の微細構造と神経支配** 骨格筋の微細構造と骨格筋を構成する要素，収縮のための神経の支配の仕組みや骨格筋の微細構造と神経支配に関する教材を学びます．また，体育理論の中の「効果的な動きのメカニズム」の単元に含まれる動きのコントロールの仕組みについて学びます．	骨格筋の微細構造、神経支配による収縮の仕組みを復習し、理解する	4時間
第4回	**骨格筋収縮のメカニズム** 運動単位や興奮収縮連関について学びます．また、骨格筋収縮のメカニズムに関する教材を学びます．	運動単位、興奮収縮連関について復習し、理解する	4時間
第5回	**筋活動のためのエネルギー供給系** 筋活動に必要なエネルギー供給系とその基質について学びます．また、筋活動のためのエネルギー供給系に関する教材を学びます．また，体育理論の中の「効果的な動きのメカニズム」の単元に含まれるATP供給の仕組みについて学びます．	3つのエネルギー供給系の特徴を復習し、理解する	4時間
第6回	**筋線維タイプの特性** エネルギー供給系と筋収縮特性からみた筋線維タイプの特性を学びます．	筋線維タイプとエネルギー供給系の関係を復習し、理解する	4時間
第7回	**筋の力発揮特性** 筋の横断面積と固有筋力，関節角度の影響などについて学びます．	筋断面積、関節角度と発揮張力について復習し、理解する	4時間
第8回	**筋活動の種類と特性** 静的収縮と動的収縮について学びます．	静的収縮、動的収縮の特徴について復習し、理解する	4時間
第9回	**骨格筋の加齢による変化と性差** 骨格筋の発育，老化による変化および性差について学びます．	骨格筋の発育、老化、性差の特徴について復習し、理解する	4時間
第10回	**運動を制御する神経系の構造** 筋の活動に影響を及ぼす神経系の構造と働きを学びます．	神経系の構造を復習し、理解する	4時間
第11回	**運動・トレーニングと神経系の機能** 運動時の神経系の機能の機序および各種トレーニングによる神経系機能の応答について学びます．	トレーニングによる神経系機能の変化について復習し、理解する	4時間
第12回	**運動を制御する内分泌系の機能の概要** 運動に関係する各種ホルモンの特性と機能について学びます．	各種ホルモンの運動に対する影響を復習し、理解する	4時間
第13回	**運動と免疫系の関係の概要** 運動に関係する免疫系の特性について学びます．	運動時の免疫系の機能を復習し、理解する	4時間
第14回	**運動と呼吸循環系機能の概要** 運動に関係する呼吸循環系機能の概要について学びます．	運動時の呼吸循環系の機能を復習し、理解する	4時間

SP-2039-1-2

授業科目名	**救急処置法（救急処置法）**				
担当教員名	**佃・田中忍・小松・渡邊**				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	佃、小松、田中：JOC強化スタッフトレーナー（ソフトボール_佃、スピードスケート_佃、水泳、バレーボール_小松）、滋賀県の医科学専門スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全9回）				

授業概要

スポーツ現場での基本的な救急処置の理解と実践力の修得を授業のねらいとする。
救急処置の第一次処置であるBasic-Life-Supportの原則について学び、次にスポーツや教育現場で多い疾病と外傷障害発生時の二次的処置について学習する。学習指導要領に明記されている救急処置法の目標と内容、教材や指導法について学び、指導計画を立てる。実践力に結び付けるために、スポーツや教育現場で多い救急シーンを想定し、他者との協力によって適切な応急処置ができるようにシュミレーションを行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	ガイドライン2015に従ったスポーツや教育現場での救急処置	スポーツ現場でけがや急病等が発生したときに、必要な基礎的応急処置や初期行動を理解し実践できる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	スポーツや教育現場での救急処置の指導計画	スポーツ現場で怪我が発生したことを想定し、救急処置の基本的事項を指導することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)

一部の授業では、授業前半は前授業の課題についてプレゼンテーションやディスカッションに取り組む予定である。授業の後半は計画表の授業内容の基礎知識を学習する予定である。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業の総まとめとして、実技動画の提出（第13回）およびスポーツ活動時の救急処置の原則についての理解度課題の提出（第14回）に成績評価を重点配分している。この二つの課題が適切に期日までに提出されなかった場合は、授業時に課される確認テストの得点にかかわらず、評価をF（不合格）とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業時に課される確認テスト 60%	：	救急処置に関する理論と、救急処置が必要となるスポーツ現場におこりやすい外傷や疾病についての理解度を評価する。
実技試験及び救急処置の原則についての理解度テスト 40%	：	実際の救急処置の初動と基本実技の正確性、およびスポーツ活動を想定した救急処置手順についての理解について、課題毎に定めたルーブリックに従って評価を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修、救急蘇生法の指針、へるす出版、2016年
市民用日本赤十字社救急法講習教本、日本赤十字社編

履修上の注意・備考・メッセージ

授業には一部に、実習や演習を含む。その時に必要な物品を授業時に指定するので各自で売店などで購入すること（500円程度）。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**救急法　イントロダクション（スポーツ活動と救急法）** 授業計画と授業の到達目標を理解する。 スポーツの現場での事故や傷害の発生率などを概説し、スポーツ活動に関わる全ての者が、救急の知識と基本的な対応力を身につけることの必要性について学習する。 学習指導要領における目標と内容を理解する。	救急処置の基本的理論と手技、救命の連鎖の重要性について復習する	4時間
第2回	**Basic life support 基礎実技(心肺蘇生法:発見から胸骨 圧迫まで)** 心肺蘇生の手順と基本動作について学ぶ。	心肺蘇生の手順を整理し、正しい手技を復習する	4時間
第3回	**Basic life support 基礎実技(心肺蘇生法:呼気吹き込みとAED、他者の協力体制)** 救急処置の際に、他者への協力の呼びかけと救命行動の際の協働について学ぶ。さらにAEDの使用手順と基本操作を学ぶ。	心肺蘇生の手順を整理し、AEDの使用方法を復習する	4時間
第4回	**Basic life support 基礎実技(心肺蘇生法:体位の変換と移動、複数傷病者の対応)** 傷病者の状況に応じて必要な体位変換や移動方法とリスクマネジメントを学ぶ。	一次救命時の傷病者の体位変換や移動の際の注意点を復習する	4時間
第5回	**コミュニティでのスポーツ活動と安全(心疾患、突然死、 除細動を含む)** コミュニティでのスポーツ活動と安全(心疾患、突然死、除細動を含む)について学ぶ これまで学んだ教材と他者と情報共有するための指導法についてまとめ、グループごとに模擬的な指導を行い、重要なポイントを整理する	年代別の突然死の種類と対応方法を復習する	4時間
第6回	**コミュニティでのスポーツ活動と安全（脱水、熱中症など）** コミュニティでのスポーツ活動と安全（脱水、熱中症など）について学ぶ	予習：これまでのスポーツ現場でのライス処置について疑問点などをリストアップしてくる　復習：効果的なライス処置を自身の四肢に行ってみる	4時間
第7回	**Basic life support　RICE処置の理論と実際** スポーツ現場で一般的に用いられるRICE処置の理論と実際を学ぶ	RICE処置の原則と禁忌を復習する	4時間
第8回	**一般外傷(手当ての基本　傷と止血)について** 一般外傷の具体的な手当の手順と特に感染防御等のリスク管理を学ぶ 三角巾などを使って止血と固定のための具体的方法を学修する	感染のリスクを復習し、身近なスポーツ現場での救急処置の際の感染のリスクについてまとめる	4時間
第9回	**一般外傷(手当ての基本と　捻挫、骨折、脱臼時の固定)について** 捻挫、骨折、脱臼について、スポーツ現場で好発する外傷の重症度と救急搬送のための固定について学ぶ	自身の下肢に学んだ手技を実施してみる。正確に素早くできるように復習する	4時間
第10回	**Basic life support 基礎実技と救急処置理論のまとめ** スポーツ現場で発生するスポーツ外傷・障害、および一般外傷や疾病に対しての救急処置について、これまで学んだ教材と他者と情報共有するための指導法についてまとめ、模擬的な指導を想定して、重要なポイントを整理する	身近なスポーツ現場での外傷発生とその対応に備えて、救急処置に必要な物品の調達などを確認する	4時間
第11回	**Basic life support 基礎実技（一次救命とAED）** AEDを用いた一次救命行動を実習する	手技や一連の行動に課題があれば、苦手な課題を改善できるまで練習する	4時間
第12回	**Basic life support 基礎実技（シミュレーションワーク1）** 1.マラソン心停止、2.柔道中熱中症、3.遠泳時の落雷（なお種目と外傷・障害・疾病の組み合わせは変更することがある）4.ラグビー脳振盪、5.バスケットボール肩脱臼、6.バレーボール足関節捻挫（なお種目と外傷・障害・疾病の組み合わせは変更することがある）等のスポーツの現場で好発するスポーツ外傷・疾病について、これまで学んだ救急処置を応用し、手順の原則や優先的に行う手順について思考・判断する	シミュレーションワーク課題について改善策を提案しまとめる	4時間
第13回	**Basic life support 基礎実技（シミュレーションワーク2）** 前回の授業課題について概説し、救急処置の基本的手順と優先事項を整理してまとめる。その後再度同じ問題に取り組み、救急処置の原則と応用についてより深い思考と判断を行う。総括として課題を提出する。	シミュレーションワーク課題の改善策を再度シミュレーションで解決できたか確認する	4時間
第14回	**Basic life support 基礎実技（課題動画の練習と作成、提出）** 救急処置法の初動から胸骨圧迫までを救急処置のアルゴリズムに従って行い繰り返しトレーニングする。課題として指示に従って、可能な限り精度の高い手順で行った動画を提出する。	復習：講評動画を確認し自己の提出動画を振り返り改善点を述べる	4時間

SP-2040-1-2

授業科目名	体力トレーニング概論（体力トレーニング法）				
担当教員名	佃　文子				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。				

授業概要

この科目では、スポーツに取り組んだことのある人なら、ほとんどの者が経験したことのある体力トレーニングについて、その意義と基礎を学ぶことを目的とする。主にレジスタンストレーニングについての講義を通して、トレーニングに対する適応を学修し、次に身体部位毎に代表的なトレーニング方法を学ぶ。またトレーニングの方法ごとに使用される筋や運動器にかかる負荷の種類、トレーニング時の安全管理のポイントを学ぶ。授業の後半には体力トレーニングの原理・原則等の計画的な体力トレーニングの基本な知識を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	トレーニングによる適応、原理原則に関する知識	トレーニング理論を理解することが出来る
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	トレーニングの基本動作及び関連する体表解剖学や運動学的知識	主要なトレーニング方法を理解し、運動学の視点から身体にかかる負荷と安全に実施するための注意事項を理解することが出来る

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のミニ課題	100%	： 講義内容に基づくトレーニングによる身体の適応やトレーニング理論と方法論についての知識と理解度を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・よくわかる筋の機能解剖　Kingston, B.著（足立和隆訳）
・競技スポーツのためのウエイトトレーニング　有賀誠司著

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の後
場所：　授業教室
備考・注意事項：　急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション及びトレーニング時の安全管理** 授業の概要とスケジュール、および評価方法を確認する。 授業時の注意事項とトレーニングルーム利用方法を学び、トレーニング時の安全管理への理解を深める。	安全なトレーニングルーム利用のポイントを復習する。授業時間外にトレーニングルームに行って体験利用する。	4時間

第2回	**体力の分類と評価** 体力の分類を概説し、それぞれの項目に対する評価方法について学ぶ。	各種の体力測定項目と体力要素の関係について理解する。	4時間
第3回	**トレーニング理論①　レジスタンストレーニングの基礎** レジスタンストレーニングの意義を理解する。 下肢の主な筋肉の働きを理解する。	スクワット時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動 作を復習する。 トレーニングルームに行って授業時のポイントをもとにスクワット を実践してみる。	4時間
第4回	**トレーニング理論②　スクワットトレーニングの基礎** スクワットの基本テクニックと補助法、スクワットの種類と負荷について理解する。	トレーニングルームに行って授業時のポイントをもとに、 スクワット動作を正しく行えるように練習する	4時間
第5回	**トレーニング理論③　ベンチプレストレーニングの基礎** ベンチプレス動作、基本テクニック、補助法、ベンチプレスの種類と負荷について理解する。 上肢の主な筋肉の働きを理解する。	ベンチプレス時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動作を復習 する。 ベンチプレスの手の位置の違いによって負荷のかかる部位を理解する。	4時間
第6回	**トレーニング理論④　デットリフトの基礎、クイックリフト** デットリフトの基本、ハイクリーンの基本､体幹を支える筋肉の種類と働きを理解する。	デッドリフトトレーニング時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動作を復習する。	4時間
第7回	**トレーニング理論⑤　最大筋力の推定** 最大筋力の推定方法を理解する。	推定最大筋力の算出について予習復習する。トレーニングルームに行って安全に配慮して推定最大筋力の測定を 行う。	4時間
第8回	**前半授業のまとめと達成評価** 前半の授業を振り返り、重要なポイントの理解度について確認する。	理解度が不十分なポイントは、復習しまとめなおす。	4時間
第9回	**トレーニング理論⑥　上肢のマシントレーニング** 上肢マシントレーニングの種類や特徴、動作時の注意点について理解する。	上肢マシントレーニング時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動作を復習する。 可能な限り、トレーニングルームに行って授業時のポイントをもと に、マシントレーニングを正しく行えるように練習する。	4時間
第10回	**トレーニング理論⑦　下肢のマシントレーニング** 下肢マシントレーニングの種類や特徴、動作時の注意点について理解する。	下肢マシントレーニング時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動作を復習する。 可能な限り、トレーニングルームに行って授業時のポイントをもとに、マシントレーニングを正しく行えるように練習する。	4時間
第11回	**トレーニング理論⑧　ストレッチング** 筋や腱が伸張され関節可動域が拡大する現象について理論を学ぶ。	ストレッチングの理論的背景についてまとめる	4時間
第12回	**トレーニング理論⑨　ストレッチショートニングサイクル他** プライオメトリクストレーニングの基本的な知識を学ぶ。	プライオメトリクスのトレーニング方法と注意事項を予習復習する。	4時間
第13回	**体力の分類とトレーニングの原則** トレーニング計画の立案に向けて、体力の定義や分類とトレーニングの原則を学習する。	トレーニングの原則を復習する。	4時間
第14回	**トレーニングプログラム作成の基礎知識と長期トレーニング計画** トレーニング計画を立案するための具体的なポイントと安全に配慮すべき事項を学ぶ｡1年間のトレーニング計画を立案する手順を概説し、これまで学んだ知識を活用して自己のトレーニング計画を試作する。	課題　自己の体力的特徴と自己のト レーニング課題を分析し、1年間のトレーニング計画を完成させ、レポートを作成する。	4時間

SP-2041-1-2

授業科目名	スポーツ指導論（スポーツ指導論）				
担当教員名	コーチングコース教員				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）、2018年度日本テニス協会S級エリートコーチ養成講習会講師				

授業概要

スポーツ指導者としての役割や心得について理解するとともに、スポーツ指導の際に必要となる基本的理論について学ぶ。
主には、「スポーツ技術」「運動観察」「運動学習」「スポーツ戦術」「トレーニング計画の原理と方法」「スポーツ実施者の心理」「指導哲学」等であり、これらの基本的理論について理解するとともに、自身のスポーツ活動を振り返りながらレポート作成することでスポーツ指導の実践に役立てられる知見を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ指導者としての重要な知識とスポーツ指導の実践に役立てられる知見	国内におけるスポーツ指導者の在り方や各指導者の役割や心得について理解し、スポーツ指導の際に必要な基本的理論について解説できる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	理想的なスポーツ指導の在り方	自身のこれまでのスポーツ活動における経験と授業内容を関連づけて、自身が考える理想的な指導のあり方について説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト	60%	： 授業で取り上げた専門的知識の理解度についてテストし、評価する。
中間レポート	40%	： 運動観察に関するレポート（20点）とスポーツ指導に関する中間レポート（20点）を課し、実践的な授業内容の理解度および応用度（独自の意見をまとめられているか）について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本スポーツ編『リファレンスブック』
関岡康雄著『コーチと教師のためのスポーツ論』、道和書院、2006年
レイナー・マートン著『スポーツ・コーチング学―指導理念からフィジカルトレーニングまで』、大修館書店、1999年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　担当教員へメールで質問を送ってください（北村哲：kitamura@bss.ac.jp）／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**スポーツ指導とは** 本授業におけるスポーツ指導論の外観、位置づけについて理解し、スポーツ指導のイメージを明確にする。	体育とスポーツの違いについて調査しまとめる。	4時間
第2回	**スポーツの指導に必要な観念** スポーツ指導、コーチング、ティーチングの概念、スポーツ指導の歴史的変遷および形態、指導者の役割・関わり方（クラブのコーチ、課外活動の顧問、学校における保健体育の授業時におけるスポーツ指導等）について理解する。	自身が受けた指導の中で各概念に当たるトピックについて振り返り各種まとめる。	4時間
第3回	**スポーツの技術の理解　技術の構造** スポーツ技術、運動技術について、その構造や特徴について理解する。	自身の専門種目から一つ技術を取り上げ、その技術について詳細に文章で記述しまとめる。	4時間
第4回	**スポーツの技術の理解　技術の目的・課題** スポーツ技術、運動技術について、運動技術、動作が持つ課題（戦術課題、目標課題等）の側面から理解する。	自身の専門種目から一つ技術を取り上げ、その技術課題について詳細に文章で記述しまとめる。	4時間
第5回	**スポーツパフォーマンスの改善** スポーツパフォーマンス改善の流れ、技術トレーニングの原理や段階的指導法など指導方法について理解する。	自身の技術向上の過程について振り返りまとめる。	4時間
第6回	**スポーツにおける運動、技術の観察評価について　運動学的視点から** スポーツにおける運動や技術を観察し評価するための基礎的知見について運動学的視点から理解する。	自身が取り上げた技術について運動学的視点から整理しまとめ、現在の問題点について明らかにする。	4時間
第7回	**練習プログラムの検討・運動学習について** スポーツにおける運動や技術の学習について、学習形態や学習方法、学習のプロセスや効果について理解する。	これまで自身が経験した運動学習の過程について振り返りまとめる。	4時間
第8回	**スポーツにおける運動、技術の観察評価について　機能解剖、体力学の視点から** スポーツにおける運動や技術を観察し評価するための基礎的知見について機能解剖、体力学の視点から理解する。	自身が取り上げた技術について体力学的視点から整理しまとめ、現在の問題点について明らかにする。	4時間
第9回	**スポーツ戦術の指導について** スポーツ競技における戦術・戦略についての基礎知識の理解、またその指導法について理解する	自身の専門種目のルールを再度見直し、戦術の考案を試みる。自身が取り上げた技術について体力学的視点から整理しまとめ、現在の問題点について明らかにする。	4時間
第10回	**指導対象者の心理について** 指導対象である学習者の心理について、性格や言語、認知といった個人差について理解するとともに	自身の経験から、どのような心理状態の際にどのような対処が望ましかったか振り返りまとめる。	4時間
第11回	**指導者の指導哲学について** 競技スポーツ、レクリエーションスポーツといった各スポーツ観にけおける指導のあり方について、指導対象者の年代、また、人間教育（マナー、モラル、人格）を考慮しながら理解する。	著名な指導者の自伝を1冊以上読む。	4時間
第12回	**スポーツ指導におけるトレーニング計画について（短期・中期計画）** トレーニング計画の原理と方法について理解し、実際に自身のスポーツ種目における計画を立案する。	自身の経験しているトレーニングの計画内容について分析する。	4時間
第13回	**スポーツ指導におけるトレーニング計画について（長期計画・発育発達）** 長期的視点から、豊かなスポーツキャリア構築のためのトレーニングキャリアについて、発育発達の観点から理解し、実際に自身のスポーツ種目における計画を立案する。	自身の経験してきたトレーニングキャリアの内容について分析する。	4時間
第14回	**理想のスポーツ指導とは** スポーツ指導についての考え方、実践方法について総括し、期末試験のレビューを行うとともに、自身の理想とするスポーツ指導の在り方について考える。	中学・高校の部活動についての資料を読み、部活動のあり方について整理する。	4時間

SP-2042-2-2

授業科目名	スポーツ栄養学概論（スポーツ栄養学概論）				
担当教員名	武田　哲子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪帯同、2021年東京五輪帯同）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

アスリートの競技力向上にはトレーニングだけでなく適切な栄養管理も重要である。この講義では、競技パフォーマンスやコンディション調整と関連した栄養素の機能・代謝などの基礎的な理論を解説し、アスリートの競技力向上を目指した栄養管理法などについて考える。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	スポーツ活動を効果的に行うことができるための栄養・運動・食事調整の知識の習得	スポーツ活動時の生理的変化の理解と栄養素等摂取の関わりを理解する
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	パフォーマンス発揮のための運動トレーニングおよび栄養素等摂取の知識の習得	より効果的なスポーツ活動の実施および体づくりが実践できるために栄養を評価・実践できるようになる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間試験	30%	： スポーツ活動時の生理的変化やそれに関わる栄養素等摂取について理解できているかを30点満点で評価する
期末試験	30%	： パフォーマンス向上のための運動トレーニングおよび体づくりに必要な栄養素等摂取とその具体的な方法について理解できているかを30点満点で評価する
振り返りシートおよびレポート	40%	： 毎回の講義内容に対する理解，関心度およびスポーツと栄養に関する知識を用い，指定の形式に沿って独自の意見を提示できているかという観点から評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」田口素子・樋口満編著（市村出版）
「スポーツ栄養学」寺田新（東京大学出版会）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限
場所： 研究室（B214）
備考・注意事項： 事前にアポイントをとるようにしてください（takeda-s@bss.ac.jp）。

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**ガイダンスとスポーツ栄養に関する概説** 授業の進め方，達成目標を確認する．	次回キーワード（エネルギー代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第2回	**エネルギー産生のための食事** 運動時におけるエネルギー代謝について理解し，運動特性に応じた糖質および脂質摂取方法について学ぶ．	次回キーワード（タンパク質代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第3回	**身体づくりのための食事** 運動時におけるタンパク質代謝について理解し，身体づくりに必要なタンパク質摂取方法について学ぶ．	次回キーワード（水分補給）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第4回	**スポーツと水分補給** 運動時の水分の役割，水分出納について理解し，環境に適した水分補給について学ぶ．	次回キーワード（骨，カルシウム代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第5回	**骨づくりとカルシウム摂取** アスリートにおける骨の健康問題および骨代謝について理解し，効果的なカルシウムの摂取について学ぶ．	次回キーワード（スポーツ貧血）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第6回	**スポーツ貧血** アスリートにおける貧血の問題について理解し，貧血予防の食事について学ぶ．	前半授業の内容をまとめ，理解を深める	4時間
第7回	**前半授業の達成度チェック** 前半授業のまとめとして達成度をチェックする．	次回キーワード（食事調査）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第8回	**食事量の評価方法** 競技や体格に応じたエネルギー消費量の推定について理解し，実践に向けた知識を習得する．	次回キーワード（体組成）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第9回	**体格の評価方法** 身体組成の計測方法とその意義について理解し，競技特性に合った体格について学ぶ．	次回キーワード（アスリートの減量）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第10回	**アスリートの減量** アスリートにとっての減量の目的を理解し，その手法について学ぶ．	次回キーワード（アスリートの増量）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第11回	**アスリートの増量** アスリートにとっての増量の目的を理解し，その手法について学ぶ．	次回キーワード（コンディショニング）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第12回	**試合時の食事調整とコンディショニング** 試合期に向けたコンディショニングにおける食事調整の必要性を理解し，実践に向けた知識を習得する．	次回キーワード（栄養指導、栄養サポート）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく．	4時間
第13回	**スポーツ現場における栄養指導** ジュニア～トップまで様々な対象に対する栄養指導や栄養サポートの方法や実践に向けた知識を習得する．	スポーツ現場における栄養摂取の課題を整理する．	4時間
第14回	**トップアスリートから学ぶ** トップアスリートの経験から，競技のための生活に必要な知識，心構えを学ぶ．	トップアスリートから学んだことをこれまでの知識と合わせて整理し，スポーツ現場における食生活の課題や指導について考察する．	4時間

SP-2043-2-2

授業科目名	スポーツ医学概論（スポーツ医学概論）				
担当教員名	小松　猛				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者の実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツを効果的かつ安全に行うためには、スポーツによって起こる骨や関節、筋や腱、靭帯など運動器の外傷（急性に起こる怪我、捻挫や骨折など）や障害（慢性に起こる故障、疲労骨折や原因不明の腰痛症など）に関する知識は不可欠である。この授業では、身体構造を学びながら、スポーツによる外傷や障害がどのような状況で起こるのか，どのように傷害を診断して治療をするのかを学び、さらに、どうすれば予防できるかについても考える。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	総論としてスポーツ外傷・障害の原因や機序、各論として各部位によく起こる外傷・障害に対する具体的な対処方法や予防方法。	スポーツ外傷・障害の病態を理解し、スポーツ復帰への過程における知識を修得できる。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ外傷・障害を理解するために必要な身体解剖と機能、そして運動器に異常が起こった場合に出てくる症状。	身体解剖とその機能を理解し、異常を来たすメカニズムと出てくる症状に関する知識を習得できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	20%	： スポーツ医学に関する理解を確認するため、授業後に出した課題について評価する。
定期テスト	80%	： 全授業を通して学習したスポーツ外傷・障害について、十分に理解できているかをテスト形式で行い評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤本繁夫　大久保衛（編）	新・スポーツ医学［改訂新版］（やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 4)	嵯峨野書院	2020年

参考文献等

現場で役立つスポーツ損傷ガイド　－診断、治療、復帰までー　鳥居　俊（監訳）　「NAP limited」
筋肉と関節のしくみがわかる事典　竹井　仁（監修）　「西東社」

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**総論①　スポーツ医学の役割と健康管理に必要な知識**	スポーツ医学に関する様々な情報を集めて理解する	4時間

	「スポーツ医学とは？」をテーマに、スポーツ医学に関わる職種の役割、スポーツを行う上で必要な健康に関する知識について学ぶ。		
第2回	**総論②　スポーツ現場で発生するケガとその対応について** スポーツ現場で起こるスポーツ外傷や障害の事例、その際に必要な救急対応も含めた対処方法について理解を深める。	スポーツ外傷と障害に関する病態と処置の理解を深める	4時間
第3回	**総論③　スポーツ現場で発生する外傷・障害の病態と、その適切な評価の方法** スポーツ外傷・障害の定義、病態について、そして具体的な症例を示しながら、適切な評価の手順について理解を深めていく。	スポーツ外傷・障害の知識の整理とスポーツ現場で知っておくべき評価について理解する	4時間
第4回	**各論①　上肢のスポーツ外傷・障害ー肩関節** 肩関節の解剖を再確認して、実際によくみられるスポーツ外傷・障害について理解する。	肩関節の解剖、傷害の原因、対処方法について理解を深める	4時間
第5回	**各論②　上肢のスポーツ外傷・障害ー上腕および肘関節** 上腕から肘にかけてのスポーツ外傷・障害の病態を知り、解剖についても再確認する。	スポーツの種目によって起こりやすい上腕から肘にかけての外傷・障害について復習する	4時間
第6回	**各論③　上肢のスポーツ外傷・障害ー手関節・手の外傷・障害** 手関節・手のスポーツ外傷・障害（突き指，骨折など）についての理解と、その対策について学ぶ。	手関節・手の外傷・障害の特徴と正しい対処方法を調べて理解する	4時間
第7回	**各論④　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害ー頭部外傷** 頭部のスポーツ外傷で、「頭をうったら何を考え、どうすべきか？」ということについて、解剖と考えられる病態を理解し、正しい対処方法を学ぶ。	頭部外傷に関する授業内容を復習する	4時間
第8回	**各論⑤　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害ー頚部と胸背部の外傷・障害** 頚椎と胸背部のスポーツ外傷・障害について、病態の重症度の評価方法と対処方法を正しく理解する。	神経症状を伴う頚椎のスポーツ傷害の再確認をする	4時間
第9回	**各論⑥　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害ー腰部の外傷・障害** 腰部のスポーツ外傷・障害について　腰の痛みの考え方，腰椎分離症や椎間板ヘルニアなど、腰部のスポーツ障害の病態と対策について理解を深める。	腰部の代表的スポーツ傷害と腰痛予防について理解を深める	4時間
第10回	**各論⑦　下肢のスポーツ外傷・障害ー股関節・大腿** スポーツ現場でたびたび遭遇する股関節・大腿部のスポーツ外傷・障害（股関節痛を来す外傷・障害や大腿部筋損傷など）について、解剖を再確認して病態について理解する。	授業で行った股関節・大腿部の外傷・障害の知識を整理する	4時間
第11回	**各論⑧　下肢のスポーツ外傷・障害ー膝関節** 膝関節の解剖について再確認し、代表的なスポーツ外傷である前十字靭帯損傷，半月板損傷などの病態と対策を理解する。また、同じく代表的な障害であるジャンパー膝、変形性関節症などについても病態と対策について理解を深める。	授業で行った股関節・大腿部の外傷・障害の知識を整理する	4時間
第12回	**各論⑨　下肢のスポーツ外傷・障害ー下腿** 下腿で知っておくべきスポーツ外傷・障害であるシンスプリント、疲労骨折、コンパートメント症候群など、その病態と対策について理解を深める。	下腿に起こる外傷・障害の病態と対策について復習する	4時間
第13回	**各論⑩　下肢のスポーツ外傷・障害ー足関節・足** 足関節・足部のスポーツ外傷・障害について、特に捻挫の処置と対策、スポーツに多い疲労骨折について理解を深める。	足関節・足部の外傷と障害の内容について再確認する	4時間
第14回	**総まとめと達成度チェック** この授業で何を学び、何を考えたか。知識の整理と確認。具体的には、スポーツ医学に関する設問形式の課題を行い知識を整理する。	授業内容全般の復習	4時間

SP-2044-2-2

授業科目名	スポーツと安全管理（スポーツと安全管理）				
担当教員名	佃　文子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。（全14回）				

授業概要

健康づくりや競技力の向上、趣味や生きがいなどスポーツを行う理由は何であっても、スポーツを行う上で「安全であること」は絶対条件の一つである。救急処置法の授業では万一の際の実際の行動を学んだが、その次の段階として、いかにリスクを予知し、その対応策を準備できるか否かが重要となる。この授業では生涯スポーツの環境管理体系・スキル及び予防・安全対策、健康づくりのための安全な運動プログラム、教育活動の中でのスポーツと安全管理、競技スポーツにおける安全管理体制について概説する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	運動に伴う危険・リスク	環境・安全管理の手法・スキルが理解でき、体育館・プール・野外施設・登山などの野外・冒険教育のシチュエーションで、リスクを列挙できる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	健康づくりのための安全な運動プログラムとスポーツ活動に伴う安全管理体制	事故発生の3要因を理解し、主要な予防対策を説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎授業の課題取り組みが、全体の2/3回分以上提出されていなければ単位の修得はできない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業ごとの課題レポート 80%	：	各授業内容を踏まえて、健康づくりやレジャーを含む生涯スポーツと競技スポーツの安全管理と、事故の発生予防や安全のための基準・組織的取り組みについて、基本的な知識と理解度について確認テストを用いて評価する
重点配分レポート 20%	：	運動負荷の算出、暑熱環境に関するワークシート、緊急時対応計画についての課題は各5点ずつ追加配点して完成度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

厚生労働省安全衛生部編：衛生管理、中央防止協会
厚生労働省ホームページ

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
履修にあたっては、原則として救急処置法の単位を履修済みであること。
第5回、第6回の高温環境を取り扱う授業では一部PCを用いた演習を行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業後

場所： 授業教室、研究室

備考・注意事項： 急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生涯スポーツの必要性とそのリスク** 厚生労働省ホームページ「健康づくりのための身体活動基準2013」をもとに、生涯スポーツの必要性とそのリスクについて理解する。	健康づくりのための身体活動基準2013を復習する。	4時間
第2回	**運動不足のリスクと生活習慣病** 運動の効果について、運動不足がからだに与える影響について理解する。	予習：生活習慣病の原因について予習する。復習：運動不足は身体にどのような影響を及ぼすのか身体的影響と心理的影響についてまとめる。	4時間
第3回	**運動の質とエネルギー代謝** 運動の質（有酸素及び無酸素運動）と運動中のエネルギー代謝について理解する。	予習：有酸素運動と無酸素運動の特徴とエネルギー代謝について予習する。復習：運動の効果について、エネルギー代謝の側面から復習する。	4時間
第4回	**中・高齢者と運動** 中・高齢者におけるスポーツの有用性とそのリスクについて理解する。	予習：中高齢者の運動のリスクについて列挙する。復習：中高齢者の運動のリスクに対する予防方策をまとめる。	4時間
第5回	**高温環境と運動** 高温環境と運動について基本を学ぶ。温度の測定方法、評価方法を理解する。	予習：環境温度の計測方法について可能な限り予習する。復習：環境温度と運動限界をまとめる。	4時間
第6回	**水分補給の原則　熱中症の発生機序・予防** 水分補給の原則　熱中症の発生機序・予防方策を理解する。	予習：脱水のリスクについて予習する。復習：熱中症の分類と症状について復習する。	4時間
第7回	**特殊環境と運動** 水中、高所、低温など特殊環境と運動について理解する。	特殊環境の運動効果についてまとめる。	4時間
第8回	**環境管理（プール管理）** プール管理のリスクマネジメントについて理解する。	予習：水泳の運動特性について予習する。復習：プールの衛生管理と水泳の運動時のリスクについて復習する。	4時間
第9回	**スポーツと内科的障害** スポーツを行う上で注意すべき疾患やスポーツで誘発されうる病態について、気をつけるべき事項を理解する。	予習：貧血、過換気症候群、ぜん息、オーバートレーニングの症状について予習する。復習：スポーツ時に誘発される内科的疾患について、対応法と予防法を復習する。	4時間
第10回	**スポーツと外傷** 頭部打撲、脳振盪など、リスクの高い外傷について理解する。	予習：映画「concussion」を可能な限り視聴してくる。 復習：脳振盪などスポーツにおける外傷についてまとめる。	4時間
第11回	**スポーツとメディカルチェック** メディカルチェックの目的と意義、運動を制限すべき状態にはどのようなものがあるかについて理解する。	予習：これまで自身が受けたことのある健康診断またはスポーツに関係するメディカルチェック項目を書き出してくる。復習：自分の競技に必要なメディカルチェック項目をまとめる。	4時間
第12回	**大会救護計画と安全管理** スポーツ大会で必要となる救護体制、及び実際に必要な救急計画について理解する。	予習：これまで自身が関係した事のあるスポーツの競技会の安全管理に体制についてわかる範囲で書き出してくる。復習：自分の競技に必要で理想的な安全管理体制を検討し、救護マニュアルとして作成してみる。	4時間
第13回	**スポーツやマスゲームイベントにおける感染症対策** スポーツ現場での感染症リスクと対策について理解する。	予習：血液感染のリスクと対処法について復習する。復習：血液以外の感染のリスクをまとめる。	4時間
第14回	**危機管理・アンチドーピングの基礎** どのような方法、物質、行為がドーピングとなるのか理解する。アスリートをドーピングから守るための教育や啓蒙活動について理解する。	予習：JADAのHP　https://www.playtruejapan.org/code/を可能な限り予習してくる。復習：ドーピングと判定される方法、物質、行為についてまとめる。	4時間

SP-2045-2-2

授業科目名	衛生・公衆衛生学（衛生・公衆衛生学）				
担当教員名	入谷　智子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産業保健活動の実務。看護大学での保健師養成課程の地域保健実習の教育。				

授業概要

本講座では、学習指導要領に含まれている衛生学（環境医学）と公衆衛生学（予防医学・疫学）について目標・内容を理解しながら、教材や指導法について学習する。
学生自身が、ライフコースごとの日本の健康に関する状況を統計で学び、世界的な問題となっている環境問題や疫学的知識を得るだけでなく、いわゆる生活習慣病の予防についての知識も獲得できることを目的とする。また日本の人口動態や出生率、罹患率などの統計についても、各資料を読み取り、その内容を把握・理解し指導できることを目標とする。またこれまで学んだことを踏まえ指導計画（学習指導案）を作成し、児童生徒の知識が向上できるような効果的に授業を進める方法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	環境因子により発症リスクの上がる疾患について理解	環境因子がいかに生活習慣病や健康に影響を及ぼすか理解する
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	疫学を用いた衛生教育の方法の習得	疾病構造を理解し改善策を創造する力を身に着け実際に指導できる
3 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	母子・学校・産業・高齢者に適した統計資料の内容の習得	母子・学校・産業・高齢者に適した統計を選択し、情報整理アアセスメントした結果を発表し、教材や指導法を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

指定教科書を使用して授業を行います。課題レポートなど提出していただきます。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題レポート	65%	： 授業内容の積極性や修得状況、理解度をはかる。13回×5点=65点
確認テスト	35%	： 授業で解説した基礎知識の理解度をはかる

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
栗岡住子ほか	わかりやすい公衆衛生学入門	株式会社ERP	2022年

参考文献等

「シンプル衛生公衆衛生学」著者：辻一郎、小山洋、出版社：南江堂
「国民衛生の動向」出版社厚生労働統計協会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
日本の社会的な状況を日ごろから情報収集し、本科目に結び付けてほしい。
積極的に理解しようと努めることを望む。指定教科書の購入を必須といたします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**受講についてのガイダンス　公衆衛生の概念、健康について** 授業内容を確認する。公衆衛生の概念について学ぶ。 健康とは何か、健康についての国際的取り組みを学ぶ。 衛生・公衆衛生に関連する学習指導要領における目標・内容を理解する。	健康について調べる	4時間
第2回	**保健統計** 日本の公衆衛生の状況について学ぶ。 統計（平均寿命・死亡率、出生率）を通して、日本の健康状態を客観的に把握する方法を学ぶ。 日本の健康課題を学ぶ。	統計を通して日本の健康の課題を説明できるようにする	4時間
第3回	**疫学** 疫学について、疫学の特徴について学ぶ。	疫学とは何かを調べてくる	4時間
第4回	**疾病予防と健康管理** 疾病の予防（1次・2次・3次予防）について、疾病予防に関わる日本の施策を学ぶ。	1次・2次・3次予防とは何かを調べてくる	4時間
第5回	**主な疾病の予防** 生活習慣病とは何か、生活習慣病（高血圧・脂質異常・糖尿病）の機序、予防方法を学ぶ。	生活習慣病とは何かを調べる	4時間
第6回	**環境保健** 健康と環境についてや日本の過去の健康被害の事例を通して健康被害を学ぶ。環境保健の対策を知る。	過去の環境による健康被害を調べる	4時間
第7回	**地域保健と保健行政** 地域保健とは何か、保健行政における法律、施策を学ぶ。	保健行政における法律を調べてくる	4時間
第8回	**母子保健** 日本における母子保健統計、法律、施策を学ぶ。	現状の母子保健活動を調べる	4時間
第9回	**学校保健** 日本における学校保健統計、法律、施策を学ぶ。	現状の学校保健活動を調べる	4時間
第10回	**産業保健** 日本における産業保健統計、法律、施策を学ぶ。	現状の産業保健活動を調べる	4時間
第11回	**高齢者の保健** 日本における高齢者の保健統計、法律、施策を学ぶ。	現状の高齢者保健活動を調べる	4時間
第12回	**精神保健** 日本における精神保健統計、法律、施策を学ぶ。	現状の高齢者保健活動を調べる	4時間
第13回	**国際保健** 国際保健統計と施策、日本の保健医療の国際協力を学ぶ。	日本が実施している国際協力について調べる	4時間
第14回	**授業のまとめとポイントの整理及び確認テスト** 1～13回の授業のまとめと授業内容のポイントを復習するまた知識の定着の確認のためテストを実施する。衛生・公衆衛生に関連する教材や指導法について振り返り、指導（学習）計画を立て実施する。	1～13回の授業の復習を行う	4時間

SP-2046-2-2

授業科目名	自然環境と野外スポーツ（野外スポーツ理論と実践）				
担当教員名	黒澤毅・林綾子				
学年・コース等	2	開講時期	前後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ庁は、世界に誇る日本の恵まれた自然環境を活用でき、多くの人が楽しく実践しやすいアウトドアスポーツを推進していくことで、スポーツの枠を超えて人々や社会に様々な好影響をあたえるとして、「アウトドアスポーツ推進宣言」を発信しています。また、文部科学省は、自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が充実しており、野外スポーツ・野外教育の重要性を説いています。本授業では、野外スポーツ・教育を行うフィールドとしての自然環境について、SDGsやスポーツ、教育といった多様な視点から理解すること、また野外スポーツの多様性についての理解を目指します。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	スポーツのフィールドとしての自然環境についての知識	自然環境をスポーツフィールドとして理解することができる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	野外スポーツ活動に必要な基礎的な知識・スキルの獲得	多様な野外スポーツ活動実践のための基礎的な知識とスキルを習得することができる。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	自然に配慮した野外活動をする上で重要な「野外倫理」と実践のための知識とスキル	「野外倫理」を理解し、高め、実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小レポート	30%	： 毎回の授業をふりかえり、理解を評価します。
実践課題	30%	： 実技体験をふりかえり、取り組みや理解を評価します。
理論理解	40%	： レポートや試験から、理論的な理解について評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツ学のすすめ（びわこ成蹊スポーツ大学編）
野外教育の理論と実践（杏林書院）

履修上の注意・備考・メッセージ

１年次に体験した様々な野外スポーツ活動を基礎に、その理論を学びます。また、実際に体験を行い、体験のふりかえりと理論的な学びを結び付け、基礎となる実践力を養います。自然環境の特性を野外活動のスキルや知識を用いて楽しみながら学んでいきましょう。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると、毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日３限

場所：　A402

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび導入** 授業の概要を説明し、野外スポーツを行うフィールドとしての多様な自然環境について、その多様性や特徴・リスクを理解する。	多様な野外スポーツの種類を調べてみる。	4時間
第2回	**身近な自然環境** 身近な自然環境に目を向けるためのアクティビティを行う。心惹かれる自然環境について、その特徴や心惹かれる理由、その環境に潜むリスクや安全な活動方法について考える。	自然環境に出かけ、発見・気づきをまとめる。	4時間
第3回	**自然環境と人との関わり** 前回の課題にて実際に自然環境に出て発見したこと、気付いたことをを共有し、人と自然との関わりに重要な体験や五感、感性について理解する。	他者の発見・気づきに対して、体験や五感に着目して共有し、理解をまとめる。	4時間
第4回	**自然と人の共存を考える①** 人と自然との関係の変遷について教材より学び、背景となっている歴史を含めて理解する。	教材に対しての自分自身の考えをまとめる。	4時間
第5回	**自然と人の共存を考える②** 引き続き教材から学び、いかに自然と人とが共存し、よりよい関係を築いていくか考える。	人と自然との共存について自分の考えを明確にする。	4時間
第6回	**イニシアティブゲームの実践** 自然環境を活用した仲間づくりの活動であるイニシアティブゲームについて実践から学ぶ。	体験内容をふりかえり、学びをまとめる。	4時間
第7回	**イニシアティブゲームの理解** イニシアティブゲームについての理論的背景を理解し、そのリスクマネジメントや指導方法について学ぶ。	自分の関わるスポーツ現場での実践を考える。	4時間
第8回	**アウトドアスキル①** アウトドアでの活動で基本的なスキルとして、テントやタープといった住環境を整えるスキルを実践を通して身に付ける。	実践からの理解を整理する。	4時間
第9回	**アウトドアスキル②** アウトドアの活動で重要である、ロープワークについて、実践を通して身に付ける。	学んだロープワークを練習し、習得する。	4時間
第10回	**ナビゲーションスキル①＜読図＞** 野外活動での必須スキルである地図を読むための知識を学び、実践に必要な情報を読み取り、活用できるようになる。	読図課題に取り組む。	4時間
第11回	**ナビゲーションスキル②＜コンパス＞** 読図に加え、コンパスの使い方を学び、地図とコンパスを用いたナビゲーションスキルを身に付ける。	ナビゲーション課題に取り組む。	4時間
第12回	**野外スポーツとリスク** 多様な自然環境に潜在するリスクや、自然環境で行うスポーツのリスクを理解し、リスクマネジメントについて学ぶ。	授業の復習と課題に取り組む。	4時間
第13回	**野外スポーツ・野外教育理論** これまで学習した自然環境や人との関わりから、野外スポーツ・野外教育についての基礎理論を学ぶ。	具体的な環境教育プログラムを取り上げ、学んだ理論と照らし合わせ、理解を深める。	4時間
第14回	**野外倫理：環境に配慮した野外活動** 自然環境における活動を行うことは、自然環境へダメージを与えることにつながります。自然に配慮した活動を行うための指針を学び、各自の倫理観「野外倫理」を高めます。	自身の野外倫理についてふりかえり、より望ましい活動についての課題に取り組む。	4時間

SP-2047-2-2

授業科目名	スポーツバイオメカニクス（スポーツバイオメカニクス）				
担当教員名	高橋　佳三				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツバイオメカニクスとは、「スポーツにおける運動、ヒト、用具、施設のふるまいを力学的観点から研究するスポーツ科学の基礎的領域の一つ」である。この講義では、様々なスポーツの動作について「動作をバイオメカニクス的に考える」ことを学び、スポーツの動作についてより深く観察、考察できるようになることを目的とする。基礎的な力学的計算ができ、動作の力学的な原理・原則を理解できるようになることで、スポーツの動作を力学的な視点で観察し、考察できるようになる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツバイオメカニクスに関する知識	スポーツにおける運動、ヒト、用具、施設のふるまいをバイオメカニクス的視点から分析できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	バイオメカニクス的原則に則った運動の実践または指導	授業内で学んだバイオメカニクス的原則を、実際のスポーツフィールドで実践または指導できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小テストの提出 10%	：	毎回4問の小テストを課し、提出の有無とその点数で評価する
期末試験 90%	：	期末試験の点数で評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツバイオメカニクス」深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良　編著、朝倉書店
「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良、藤井範久　著、朝倉書店
「バイオメカニクスで読み解く　スポーツ動作の科学」深代千之、川本竜史、石毛勇介、若山章信　著、東京大学出版会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツバイオメカニクスとは？（イントロダクション）**	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第一回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第二回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間

	スポーツバイオメカニクスとはどのような学問かについて、実例（映像）をみながら理解する。 キーワード：スポーツ技術の最適化ループ		
第2回	**スポーツ技術とはなにか？** 「スポーツ技術」と「局面構造」についての理解する。 キーワード：スポーツ技術、局面構造	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第二回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第三回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第3回	**速度、ピッチ、ストライド** 変位と移動距離、瞬間速度と平均速度、ピッチとストライドの関係などについて理解する。 キーワード：変位、移動距離、瞬間速度、平均速度、ピッチ、ストライド	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第三回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第四回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第4回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（1）：重心** 「重心」という考え方と、その計算方法について理解する。 キーワード：重力、重心、基底面	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第四回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第五回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第5回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（2）：運動と力** 運動（加減速）は力が加わることで生じることを理解し、運動方程式を用いて力を算出できるようになる。 キーワード：慣性の法則、運動方程式	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第五回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第六回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第6回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（3）：運動量と力積（Ⅰ）** 運動量と力積の関係について理解する。 キーワード：運動量、力積	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第六回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第七回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第7回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（4）：運動量と力積（Ⅱ）** 運動量を変化させる要因について理解し、運動との関係を考える。 キーワード：力積、質量、タイミング	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第七回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第八回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第8回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（5）：仕事と力学的エネルギー** 仕事と力学的エネルギーとの関係について理解する。 キーワード：仕事、位置エネルギー、運動エネルギー	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第八回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第九回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第9回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（6）：回転運動と慣性モーメント** 回転運動や慣性モーメントについて理解する。 キーワード：回転軸、回転半径、慣性モーメント	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第九回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第10回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（7）：回転運動と角運動量** 回転運動のおける角運動量について理解する。 キーワード：慣性モーメント、角速度、角運動量	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第十回」に保存された資料に目を通し、理解できない内容について参考図書などを用いて調べておく。理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十一回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第11回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（8）：流体力1（空気の流れと物体の形状、ボールの回転）** ボールの回転と空気の流れにより発生する力について理解を深める。 キーワード：空気抵抗、気圧、ベルヌーイの定理、回転、空気抵抗、マグヌス力	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第十一回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十二回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間

第12回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（9）：流体力2（水の流れと物体の動き）** 水中での運動における身体の動きと水の抵抗および推進力の関係について理解を深める。 キーワード：姿勢、浮心、水の抵抗	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第十二回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十三回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。	4時間
第13回	**スポーツバイオメカニクスの基礎（10）：良い動きのバイオメカニクス的原則** 良い動きのバイオメカニクス的原則について理解を深める。 キーワード：反動動作、振り込み動作、運動依存力	Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第十三回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、第一～七回の授業資料と小テストについて復習し、次週の総合解説の準備を行う。	4時間
第14回	**まとめ：授業の総合解説** 授業ごとの小テストの正解率が低かった項目などについて解説を行い、知識の定着を図るとともに、スポーツバイオメカニクスについての理解を深める。	全ての授業資料と小テストに目を通し、この授業で学んだ内容を復習する。	4時間

SP-2048-2-2

授業科目名	スポーツボランティア実習（スポーツボランティア実習）				
担当教員名	学部長				
学年・コース等	2・3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

様々なスポーツ現場においてニーズの高い「スポーツボランティア」として、スポーツ指導やスポーツイベント運営などスポーツを「支える」のに必要な個々の能力の向上をねらいとし、実習形式で行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツを「支える」ことの意味の理解	スポーツを「支える」ことの意味をスポーツ現場にボランティアとして参加することでスポーツを「支える」ことの意味について理解し、説明することができる
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	スポーツ現場に参入する際の心構え	事前指導により、スポーツ現場に参入する前の心構えを身につける
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	スポーツボランティア経験の日常生活へ汎化	事後指導により、スポーツボランティア経験を日常生活へ汎化することでスポーツボランティアとしての自覚を高める

学外連携学修

無し

授業方法

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

実習に際しては、事前および事後指導に必ず参加すること。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題：事前指導	20%	： 事前指導において提示される課題を評価する。指導の内容を踏まえて論述できているようであれば10点、自身の考えや主張を記述できていれば10点を加算し、重大な誤りや不足を生じた場合は5点とする。
課題：現場実習	60%	： 実習時間内のことを振り返り、詳細なる実習日誌を記述でき、尚且つ、現場での実習指導担当者の所見の内容を加味して60点満点で評価する。
課題：事後指導	20%	： 実習後に授業担当者の確認を受け、実習報告を提出する。ボランティア活動の振り返りと、ボランティア活動から学んだことについてのレポートを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、実習に取り組んだ内容を丁寧に復習すること。
特に、事前および事後指導において、ボランティア現場でのルールやマナーを重要視し、社会の一員としてボランティアに参加することの意識を強めておく必要がある。

スポーツボランティア実習のガイドライン、オリエンテーションの内容を確認の上、履修、ならびに実習活動に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前研修①：オリエンテーション（スポーツボランティア手続きの説明）** スポーツボランティアの手続きを中心に解説し、スポーツボランティアの種類、ボランティアに求められる心構えについて理解を深める。	スポーツボランティアについて、また手続きについて理解する。	1時間
第2回	**事前研修②：ボランティアに求められるもの** ボランティアが現場で活動するために求められることを体系的に整理し、解説する。	スポーツボランティア現場で、どのような学びを得たいのかについて整理する	1時間
第3回	**第3回～第13回　スポーツ現場での実習** 申請されたスポーツ団体等で計30時間の実習を行う スポーツボランティア実習先での活動	ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。	1時間
第14回	**まとめ** スポーツボランティア実習で何を学んだのかについて活動成果報告書をまとめる。 授業のまとめとして、今後のスポーツボランティア活動の課題を整理し、発展継承可能な課題をまとめる。	本実習の振り返りと、今後の課題についてまとめておく。	1時間

SP-2049-2-2

授業科目名	海外研修実習（海外研修実習）				
担当教員名	学部長				
学年・コース等	2・3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大学が展開するグローバルアクティブラーニングプログラムを対象とする。
海外におけるスポーツ全般、スポーツビジネスおよびスポーツマネジメント等に関する実情について実地研修を展開する。スポーツビジネス等における海外事情に実際に触れ、計画的なフィールドワークを通じて、その問題点や課題を議論する。海外渡航に向けて計画的に準備を進めるため、事前研修、実地研修、事後研修から学習を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	海外におけるスポーツ全般、スポーツビジネスおよびスポーツマネジメント等に関する実情についての知識	海外でのスポーツ体験を通じて、そのスポーツを取り巻く現状を説明できる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツにおける海外事情に触れることで養われる国際感覚	計画的なフィールドワークから多様な文化、民族に触れることで、国際感覚を養う
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	日本のスポーツ文化と比較できるとで国際的な視野	海外渡航に向けて計画的に準備を進めるため事前研修、実地研修、事後研修の中でスポーツにおける海外事情に実際に触れ、計画的なフィールドワークを体験する

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前研修	20%	： 事前研修において提示される課題について評価する
実地研修	60%	： 実習中の課題の達成度、振り返り、詳細な実習記録等について評価する
事後研修	20%	： 事後研修において提示される課題について評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各実習で提示します

履修上の注意・備考・メッセージ

実習の詳細については事前のオリエンテーションで説明します。
オリエンテーションの日時については、掲示板等で連絡します。

グローバルアクティブラーニングプログラムを対象とする授業科目です。
個人で参加した海外研修等は対象としないので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前研修①** 海外研修実習についてのオリエンテーション 実習の目的、ねらいについて理解する	興味関心のある国について調べる	1時間
第2回	**事前研修②（国別のオリエンテーション）** 行き先の別、具体的な実習内容・研修内容について理解する	興味関心のある国のスポーツについて調べてみる	1時間
第3回	**事前研修③** 行き先国について、スポーツについて調べた内容について発表する	事前研修報告書としてまとめる	1時間
第4回	**実地研修（4-12回）** 実地研修先で事前に計画した実習内容・研修内容を実施する。	詳細な実習日誌を作成する	1時間
第5回	**事後研修①** 実地研修中の詳細な実習日誌をもとに、報告書を作成する	実地研修中の実習日誌を整理しておく	1時間
第6回	**事後研修②** 実習の内容について、体験内容や学んだこと等について発表する	作成した報告書をもとに、発表練習を積んでおく	1時間

SP-3101-3-1

授業科目名	**学校基礎演習Ⅰ**				
担当教員名	川合・黒澤・山手・大西・高松・股村				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	川合：高等学校教諭・校長としての経験を授業内の指導に活かしている。 山手：小学校教諭・副校長としての経験を授業内の指導に活かしている。 黒澤：高等学校教諭としての経験を授業内の指導に活かしている。				

授業概要

本科目では、2年次までに習得した体育・スポーツに関する基礎知識を活用して、学校スポーツ教育に関する知識、理論、指導方法について習得することを目的としている。具体的には、小学校、中学校、高等学校における保健体育授業、特別活動（健康安全・体育的行事）、運動部活動の指導に関する内容である。コース教員が専門とする各運動領域の指導理論や指導方法を中心に、グループ活動や発表などを通じて実践的な知識と技能を身に付けることを目指している。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	学習指導要領に示されている各領域の運動特性	学習指導要領の各領域に関する内容を理解する。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	学習指導要領に示されている各領域の指導法	学習指導要領の各領域の指導方法を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回取り組みと小レポート	90%	： 各回の取り組みと小レポートの内容について評価する。
まとめの課題レポート	10%	： 全14回を通じて、身に付けたことを課題レポートにまとめる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「中学校学習指導要領解説　保健体育編」
「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」

その他、必要な資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は、学校スポーツ教育コースの基礎演習科目である。将来、各自が学校教育に関わることを念頭において、責任と自覚を持って真剣に取り組むこと。また、課題の提出については期限を厳守すること。実習を伴う授業については、トレーニングウエア・体育館シューズなどが必要である。授業内で、パソコンやタブレット端末を使用することがあるので、担当者の指示に従うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー
場所： 黒澤寛己研究室
備考・注意事項： 質問に来る際には、事前に連絡をすること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、学校スポーツの現状と課題**	学校スポーツの現状と課題に関する資料を収集し、各自でまとめる。	4時間

	本授業の内容や計画について理解する。その後、学校スポーツや保健体育科の現状と課題について、資料や具体的な事例に基づいて検討する。		
第2回	**保健体育科教員としての資質・能力** 保健体育科教員になるための資質・能力について理解する。 生徒を指導する際に必要な理論や知識について検討する。	各都道府県の教員採用試験要項を調べる。	4時間
第3回	**体育授業における、集団行動の指導法** 中学校・高等学校の体育授業で行う「集団行動」の実技指導について理解する。 実際にアリーナでグループに分かれて、集合、整列、行進など技能を身に付ける。	集団行動の指導法に関する資料を理解する。	4時間
第4回	**中学校・高等学校における「武道」領域の指導** 中学校・高等学校で指導されている「武道」領域の内容を学習指導要領に基づいて理解する。柔道における安全で効果的な指導法について検討する。	武道に関する資料を収集し、その内容をまとめる。	4時間
第5回	**中学校・高等学校における「部活動」の指導** 学習指導要領における、部活動の取り扱いについて理解する。 部活動の現状と課題について理解する。	部活動に関する資料を収集し、その内容をまとめる。	4時間
第6回	**小学校における生徒指導・学級経営** 小学校における生徒指導について、具体的な事例をもとに理解する。 小学校における学級経営について、具体的な事例をもとに理解する。	小学校における生徒指導の課題についてまとめる。	4時間
第7回	**小学校における体育・保健指導** 小学校における体育・保健指導について、具体的な事例をもとに理解する。	小学校の学習指導要領の内容を調べる。	4時間
第8回	**授業を分析評価する意義と方法** 保健体育の授業を分析評価する意義と方法について、具体的な事例をもとに理解する。	授業の評価方法について、まとめる。	4時間
第9回	**模擬授業と授業研究の実態** 模擬授業と授業研究の実態について、具体的な事例をもとに理解する。	模擬授業と授業研究の実態について、まとめる。	4時間
第10回	**体育授業における教師の観察力について** 体育授業における教師の観察力について、実際の授業事例を通して理解する。	教師の授業観察力に関する資料をまとめる。	4時間
第11回	**体育授業における動きのコツの表現について** 体育授業における動きのコツの表現についてに、器械運動の授業を通して理解する。	器械運動の動きのコツについて、資料をまとめる。	4時間
第12回	**保健の授業で形成する能力について** 保健の授業で形成する能力について、学習指導要領や教科書の内容をもとに理解する。	学習指導要領の保健分野の内容をまとめる。	4時間
第13回	**保健科教育の実践力を再確認する** 前時で学んだ内容をもとに、実際の保健授業を通じて保健科教育の実践力を再確認する。	保健科教育の関連資料をまとめる。	4時間
第14回	**学校スポーツの課題と対策について** 本授業（全14回）を通して学んだ、学校スポーツの課題について、自身が興味関心を持った内容を取り上げて、その対策や解決策について記述する。	学校体育・スポーツの課題について調べる。	4時間

SP-3103-3-1

授業科目名	学校スポーツ教育専門実習Ⅰ（学校スポーツ専門実習Ⅰ）				
担当教員名	川合・黒澤・山手・大西・高松・股村				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校にて保健体育科教諭として勤務した教員の実践経験を講義内容に結びつけている（全14回）				

授業概要

模擬授業は、教師役にとって実際に教師行動（説明や声かけなど）の実践を積むことができ、生徒役や観察役にとっても、「体育授業を学ぶ」という意味で価値が認められている。学校体育の実技領域を対象に、グループで模擬授業を計画し実施する。その際、組織的観察法を用いて客観的に評価し、授業後には協同的な省察を行う。このPDCAサイクルを繰り返すことで、受講生が保健体育授業に関する専門的知識や実践的指導力を向上させるとともに、反省的実践家としての資質能力を高めることをねらいとしている。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	模擬授業の計画	授業を構想し、指導案を正しく書くことができる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	模擬授業の実施	計画した指導案に沿って授業を展開することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	模擬授業の振り返り（協同的な省察）	客観的な事実に基づき、批判的かつ建設的に授業を振り返ることができる。
4 ．DP11.忠恕の心	模擬授業に関わる活動	仲間と協同して活動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	60%	： 授業内の課題または模擬授業のリフレクションシートを60点満点で評価する。
模擬授業の計画と実施	25%	： 計画した指導案とその授業実践を25点満点で評価する。
模擬授業の振り返り	15%	： 模擬授業の反省と改善策をレポートにまとめたものを15点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
文部科学省（2018）高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育科編（東山書房）
その他、教材づくりに必要な関連書籍

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

模擬授業の指導案を作成する際は，各自もしくはグループでPCを持ち込んで活動します。

学校スポーツコース3年次生の必須科目です。この科目を履修済みでないと、専門実習Ⅱには参加できません。
本科目は、模擬授業を二箇所で同時に展開します。したがって、第5回～第8回と第10回～第13回では、領域・種目を入れ替えて行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限

場所：　大西研究室（B206）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**模擬授業を実施する意義と実施方法** 模擬授業を実施する意義について学修する。	模擬授業の意義について調べてくる。	4時間
第2回	**授業分析の方法** 授業を観察評価するための期間記録と相互作用について学ぶ。	過去の模擬授業の動画を視聴する。	4時間
第3回	**授業省察の意義** 過去の模擬授業の映像を分析し、省察する意義について学ぶ。	過去の模擬授業の動画を視聴する。	4時間
第4回	**模擬授業の進め方と計画** 模擬授業の進め方と計画（グループ、種目、教材）を確認しグループで活動する。	指導案の大枠を書き記す。	4時間
第5回	**指導案の立案** グループで指導案を立案する。	指導案を一通り完成させる。	4時間
第6回	**模擬授業の試し** グループで試しの模擬授業を実施し、指導計画を検討する。	指導案の修正事項を整理する。	4時間
第7回	**指導案の修正** 試しの模擬授業を踏まえ、指導計画を修正する。	指導案を完成させる。	4時間
第8回	**模擬授業（1）球技** 模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。	授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。	4時間
第9回	**模擬授業（2）体つくり運動** 模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。	授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。	4時間
第10回	**模擬授業（3）陸上競技** 模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。	授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。	4時間
第11回	**模擬授業（4）武道** 模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。	授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。	4時間
第12回	**模擬授業（5）器械運動** 模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。	授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。	4時間
第13回	**模擬授業（6）水泳** 模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。	授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。	4時間
第14回	**振り返りとまとめ** ダイジェスト映像を用いて教材及び教師行動について協同的に省察し、学びを共有する。	指導案やリフレクションシートを整理する。	4時間

SP-3104-3-1

授業科目名	学校スポーツ教育専門実習Ⅱ（学校スポーツ専門実習Ⅱ）				
担当教員名	川合・黒澤・山手・大西・高松・股村				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校にて保健体育科教諭として勤務した教員の実践経験を講義内容に結びつけている（全14回）				

授業概要

模擬授業を中核とした集中授業である。専門実習Ⅰからの発展として、体育実技だけでなく保健や体育理論の座学の模擬授業にも取り組む。集中授業による実習になるため、各グループでの資料作成、授業作り等に継続して取り組むことが目指される。保健体育授業（保健・体育理論・体育実技）に関する専門的知識、実践的な指導力を向上させる。多角的な視点から授業を検討し、授業を作る力、授業を観る力、授業を改善する力等を向上させる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	模擬授業の計画	保健・体育理論・体育実技の授業を計画でき、正しく指導案を書くことができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	模擬授業の振り返り	客観的な事実に基づいて授業を振り返り評価し、改善することができる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	模擬授業の実践	計画した指導案に沿った授業を展開することができる。
4 ．DP11.忠恕の心	模擬授業に関わる活動	仲間と連携・協働して活動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業における振り返りシート 30%	：	模擬授業を通し，授業に対して適切な評価とリフレクションをするためのリフレクションシートを評価します.
模擬授業の計画と実施 40%	：	授業が綿密に計画され、確実に実施され、実態に応じて臨機応変に対応できているものを評価します。
最終レポート 30%	：	一貫した単元計画と詳細な毎時の指導案が作成でき，授業実践を通して，自己の課題を見つけ，振り返りができているものを評価します.

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高橋健夫　編著　「体育授業を観察評価する」（明和出版）
文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説　体育編（東山書房）
文部科学省（2018）中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
文部科学省（2019）高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育科編（東山書房）

指導計画、指導資料に関わる文献・資料については、適宜相談に応じる。

履修上の注意・備考・メッセージ

1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
学校スポーツコース３年次生の必須科目です。本科目を受講するためには専門実習Ｉを修得していることが前提である。
保健体育科教員に必要な実践的力量としての知識や技能について検討し、体験し、修得することを目指した授業で、学修模擬授業実践前のゼミ学生による授業以外の時間での話し合いや模擬模擬授業、リフレクションと内容検討が大切な学修になる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各ゼミの教員指定の時間

場所： 各ゼミの研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業展開の検討** 授業会場における、細部にわたる授業展開の検討を行う。	授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第2回	**体育実技授業の展開（ダンス）** 体育実技のダンス領域の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実施者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	ダンスの授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第3回	**体育実技授業の展開（器械運動）** 体育実技の器械運動の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実施者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	器械運動の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第4回	**体育実技授業の検討（ダンスおよび器械運動）** 体育実技のダンスと器械運動領域のデータから授業実践者は自己評価を行う。また、相互評価や指導者評価を行う。 体つくり運動や器械運動に関わる総括的な討議を行う。	討議結果のまとめ	1時間
第5回	**保健授業の展開（健康な生活と疾病の予防）** 保健分野における「健康な生活と疾病の予防」の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	健康な生活と疾病の予防の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第6回	**保健授業の展開（心身の機能の発達と心の健康）** 保健分野における心身の機能の発達と心の健康の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	心身の機能の発達と心の健康の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第7回	**保健授業の展開（障害の防止）** 保健分野における傷害の防止の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	傷害の防止の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第8回	**保健授業の展開（健康と環境）** 保健分野における健康と環境の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	健康と環境の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第9回	**保健授業の検討** 保健授業のデータから授業実践者は自己評価を行う。また、相互評価や指導者評価を行う。 保健授業に関わる総括的な討議を行う。	討議結果のまとめ	1時間
第10回	**体育理論授業の展開（運動やスポーツの多様性）** 体育理論における運動やスポーツの多様性の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	運動やスポーツの多様性の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第11回	**体育理論授業の展開（運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方）** 体育理論における運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第12回	**体育理論授業の展開（文化としてのスポーツの意義）** 体育理論における文化としてのスポーツの意義の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。 また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。	文化としてのスポーツの意義の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成	1時間
第13回	**体育理論授業の検討**	討議結果のまとめ	1時間

	体育理論授業のデータから授業実践者は自己評価を行う。また、相互評価や指導者評価を行う。 体育理論に関わる総括的な討議を行う。		
第14回	**実習の総括** 授業実践、授業参加、授業観察、授業分析の体験で得られた成果をレポートにまとめる。	実習全体の反省とリフレクションシートの作成	1時間

SP-3107-3-2

授業科目名	学校スポーツの理論と実際（学校スポーツの理論と実際）				
担当教員名	川合・黒澤				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	川合英之　高等学校教諭・校長として勤務した経験を各回の授業の指導実践で活用する。（全14回） 黒澤寛己　高等学校教諭として勤務した経験を各回の授業の指導実践で活用する。（全14回）				

授業概要

体育授業の計画、実践、振り返りという一連の流れを模擬授業形式で経験することを通して、授業づくり・授業運営に必要となる視点（授業の構成要素）を学ぶ。また、実習を通して授業を観察・分析する方法を体験し、反省的な授業実践の意義を検討する。
　保健体育科教育法で学んだ、指導案作成の知識を活かして実践的な指導案を作成する。その後、教師役と生徒役に別れて、指導案をもとに模擬授業を行い、各グループで評価し合う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	保健体育科授業の指導案作成。	学校現場で授業を展開するために必要な指導案作成の知識を身に付ける。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	安全で効果的な保健体育授業の実践	学校現場において、安全で効果的な授業が展開できる知識と技能を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業内の小レポート、模擬授業の指導案作成・実践・観察、レポートで評価する。それぞれの点数と基準は以下の通り。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小レポート 28%	：	２点×14回 ２点：授業内容や他者の意見を踏まえて独自の視点で書かれている １点：授業の内容を踏まえて書かれている
模擬授業の指導案作成・実践・観察 32%	：	32点：詳細に計画された指導案の作成、作成した指導案に沿った模擬授業の実施、20点：計画された指導案の作成、作成した指導案に留意した模擬授業の実施、10点：指導案の作成、模擬授業の実施
提出課題・レポート 40%	：	40点：指定の形式に沿って独自の視点で書かれている 30点：指定の形式に沿って書かれている

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・学習指導要領解説　保健体育編（小学校、中学校、高等学校）
・体育授業を観察評価する　　高橋　健夫　編著　（明和出版）
　他にも、適宜紹介する。多くの資料を配布するのでストックし活用すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本科目では、授業の準備、模擬授業・観察、振り返り等と、受講生には授業外においても相当な準備が必要である。明確な目的意識、教師を志望する自覚と責任を持って受講すること。

模擬授業で実技を伴う際には、必ずスポーツウエア類を着用し、アクセサリー類を身につけることは禁止する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー

場所：　黒澤寛己研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：　講義計画、グループ分け、課題選択** 授業計画の確認、グルーピング、模擬授業単元の決定を行う 学習課題：　各自が担当する模擬授業の構想を練る	小・中・高校いづれかの学習指導要領解説の体育編・保健体育編の目標と内容を読んでおくこと。	4時間
第2回	**指導計画および学習資料の作成** 授業計画の立て方と学習指導案の書き方を解説する 学習課題：　授業計画の立て方、学習指導案の書き方を理解し、学習指導案を作成する	小・中・高校いづれかの学習指導要領解説の体育編・保健体育編の指導計画の作成と内容の取扱いを読んでおくこと。	4時間
第3回	**授業観察法について** 授業観察法について、その内容を説明する 学習課題：　授業観察法を理解し、学習指導案を作成する	授業観察法について調べておく。	4時間
第4回	**グループ活動（指導案の作成）** 決定した単元の内容を説明し、指導案の作成方法を説明する 学習課題：　学習指導案の作成	学習指導案作成にあたって学習指導要領の内容の取扱いを確認しておく。	4時間
第5回	**作成した指導案の検討** 指導案をもとに実際の授業での実施について解説する。 学習課題：　学習指導案の修正、及び検討	作成した指導案で授業をシミュレーションしておく。	4時間
第6回	**形成的授業評価・リフレクションシートを利用した授業のふりかえりについて** 形成的授業評価の記入方法について説明する リフレクションシート記入の方法について説明する 学習課題：　形成的授業評価、リフレクションシート記入の方法について理解する	よい体育授業とはどのようなものか調べておく。	4時間
第7回	**模擬授業①：体育理論** 体育理論の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。 学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成	体育理論の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。	4時間
第8回	**模擬授業②：器械運動** 器械運動の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。 学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成	器械運動の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。	4時間
第9回	**模擬授業③：道徳（スポーツを題材とした教材）** 道徳の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。 学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成	道徳の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。	4時間
第10回	**模擬授業④：ダンス** ダンスの模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。 学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成	ダンスの指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。	4時間
第11回	**模擬授業⑤：陸上競技（フィールド）** 陸上競技の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。 学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成	陸上競技（フィールド）の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。	4時間
第12回	**模擬授業⑥：球技（ゴール型）** 球技の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。 学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成	球技（ゴール型）の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。	4時間
第13回	**模擬授業⑦：体つくり運動** 体つくり運動の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。 学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成	体つくり運動の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。	4時間
第14回	**模擬授業⑧：武道** 武道の擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。 学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成	武道の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。	4時間

SP-3108-3-2

授業科目名	保健体育科教育課程論（保健体育科教育課程論）				
担当教員名	川合　英之				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長までを歴任（12年）した実践経験を講義内容に結びつけている（全14回）				

授業概要

保健体育科授業を担当する授業者として小学校・中学校・高等学校学習指導要領に基づく教育課程の編成について理解する。学校全体の教育課程を概観しつつ保健体育科授業の年間計画を立てる際に工夫・配慮すべき項目や内容を検討し、各自で年間授業計画と授業内容一覧を作成する。
また、主体的・対話的で深い学びを志向する授業の在り方を考え、小学校から中学校・高等学校へと系統的に学習内容を深める教育課程の編成を試行する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	授業計画の作成	多角的な視点から保健体育科授業を検討し、校種や学年等に応じた授業計画を作成することができる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	体育実技、保健、体育理論で教えるべき内容の理解	保健体育科を教えるために、自然環境や人、スポーツに関して学ぶべき内容が非常に多いことを理解することができる。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	主体的・対話的で深い学びの学習概念の理解	学習指導要領に基づき保健体育科の授業計画や運営に必要なスポーツを教材化することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時のレポート	42%	： 課題について十分に理解し、明確かつ論理的に説明ができているか。 ３点満点×14回
最終課題レポート	28%	： 保健体育科の年間授業計画、学習内容一覧と指定種目の単元計画が、書けているか。 大変よくできている：25点以上、よくできている：20以上点、ある程度できている：15点以上、あまりできていない：14点以下
発表・プレゼンテーション	30%	： 課題についての発表が効果的に行えているか。 各グループの3回の発表10点×３回、大変よくできている：10点、よくできている：9,8点、ある程度できている：7,6点、あまりできていない：５点以下

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

体育科教育学入門　高橋健夫　編著（大修館書店）
保健体育科教育法　杉山重利・園山和夫　編著（大修館書店）
小学校、中学校、高等学校学習指導要領解説　文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことにより、発表・プレゼンテーションが充実するので積極的に行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限

場所：　川合研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学習指導要領に基づく教育課程の編成** 保健体育科教育課程論で何を学ぶのか。 教育課程（カリキュラム）について理解し、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領における教育課程の編成の要点を学修する。	保健体育の教育課程について様々な事例を集める	4時間
第2回	**学習指導要領に基づく体つくり運動、器械運動の系統的指導内容の発表** ・小学校低学年の体つくり運動遊びから中学校・高等学校の体つくり運動までの系統的指導内容について発表する。 ・小学校低学年の器械・器具を使っての遊びから中学校・高等学校の器械運動までの系統的指導内容について発表する。	体つくり運動、器械運動の系統的指導内容の発表準備を行う。	4時間
第3回	**学習指導要領に基づく陸上競技、水泳の系統的指導内容の発表** ・小学校低学年の走・跳の運動遊びから中学校・高等学校の陸上競技までの系統的指導内容について発表する。 ・小学校低学年の水遊びから中学校・高等学校の水泳までの系統的指導内容について発表する。	陸上競技、水泳の系統的指導内容の発表準備を行う。	4時間
第4回	**学習指導要領に基づく球技、武道・ダンスの系統的指導内容の発表** ・小学校低学年のゲームから中学校・高等学校の球技までの系統的指導内容について発表する。 ・小学校低学年の表現リズム遊びから中学校・高等学校のダンス及び中学校・高等学校の武道の系統的指導内容について発表する。	球技、武道・ダンスの系統的指導内容の発表準備を行う。	4時間
第5回	**学習指導要領に基づく体育理論、保健の系統的指導内容の発表** ・中学校・高等学校の体育理論の系統的指導内容について発表する。 ・小学校の体育科（保健）から中学校・高等学校の保健までの系統的指導内容について発表する。	体育理論、保健の系統的指導内容の発表準備を行う。	4時間
第6回	**年間授業計画編成の要点** 学習指導要領に基づく保健体育科の年間授業計画編成にかかる要点を学修する。	学習指導要領における年間授業計画の記述についてまとめておく。	4時間
第7回	**年間授業計画編成の実際** 高等学校における年間授業計画について、学校全体の授業計画、学校行事、施設、クラス編成等を想定した年間授業計画を作成する。	年間授業計画を検討する。	4時間
第8回	**年間授業計画の発表** 高等学校の年間計画について作成した年間計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。	作成した年間授業計画の発表準備を行う。	4時間
第9回	**「主体的・対話的で深い学び」の学習について** 学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」による学習について理解する。	「主体的・対話的で深い学び」による学習について学習指導要領における記述内容をまとめておく。	4時間
第10回	**「主体的・対話的で深い学び」の学習の実際** 各運動領域、体育理論、保健の単元の中で、「主体的・対話的で深い学び」の学習をどのように取り入れるか、その授業展開例を考え単元計画を作成する。	「主体的・対話的で深い学び」の学習の展開例を調べておく。	4時間
第11回	**体つくり運動・器械運動における「主体的・対話的で深い学び」の学習の単元計画発表** 体つくり運動・器械運動の単元の中で「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入れた単元計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。	体つくり運動・器械運動の中で単元計画を作成し発表準備を行う。	4時間
第12回	**陸上競技・水泳における「主体的・対話的で深い学び」の学習の単元計画発表** 陸上競技・水泳の単元の中で「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入れた単元計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。	陸上競技・水泳の中で単元計画を作成し発表準備を行う。	4時間
第13回	**球技、ダンス・武道における「主体的・対話的で深い学び」の学習の単元計画発表** 球技、ダンス・武道の単元の中で「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入れた単元計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。	球技、ダンス・武道の中で単元計画を作成し発表準備を行う。	4時間
第14回	**体育理論、保健における「主体的・対話的で深い学び」の学習の単元計画発表及びまとめ** ・体育理論、保健の単元の中で「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入れた単元計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。 ・年間授業計画の作成において、系統的学習内容や「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入ることができたか振り返る。	体育理論、保健の中で単元計画を作成し発表準備を行う。	4時間

SP-3109-3-2

授業科目名	教材開発演習Ⅰ（教材開発演習Ⅰ）				
担当教員名	山手　隆文				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校にて、1年生から6年生までの担任と体育授業を担当した実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

体育科の授業における既存の教材に触れ、その重要性を知る。次に、教材開発の視点や方法について理論的に学び、それらを踏まえ、典型教材やさまざまな実践を手がかりにグループに分かれて教材開発を行う。グループで作成した教材を発表し、その有効性を受講者間で振り返り、よりよい教材・教具について考える。また、各回の運動種目の教材の内容を理解し、よい体育授業について考える。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	体育科の授業における既存の教材の重要性や、教材開発の視点や方法に関する知識の習得	体育科の授業における教材開発の理論と意義、教材開発の視点及び方法を探究する。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	グループに分かれて教材を開発し、その有効な教材に関する実践力の向上	各領域において有効な教材を開発し、その有効性について議論を深める。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎時の課題・振り返り、グループの教材発表、課題レポートの合計100点満点で評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・振り返り	42%	： 毎回の課題・振り返りに対して、講義や演習の内容を十分理解して、適切な内容の文章が書けているかについて評価する。各回3点×14回
グループの教材発表	25%	： 教材開発の理論を踏まえ、教材が工夫された分かりやすい発表になっているかについて評価する。
最終課題レポート	33%	： 開発した教材に対し、理論を踏まえて批判的に検討し、これまでの学びが生かされているかについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

体育の教材を創る―運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて―　岩田靖（ 大修館書店）
新版　体育科教育学入門　高橋健夫編著（大修館書店）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画　　**授業外学修課題にかかる目安の時間**

第1回	**教材開発の重要性について** 本講義の進め方並びに教材・教具について考える。	教材・教具についての内容を理解する。	4時間
第2回	**スポーツテスト（体力・運動能力調査）について** 旧スポーツテストと新体力テストについて考える。	体力テストに関する資料を収集する。	4時間
第3回	**教材づくりの基本的視点** 教材づくりの内容的視点と方法的視点を考える。	よい授業とは何かを考える。	4時間
第4回	**教材づくり①（先行研究の調査）** 先行研究の資料を収集し、吟味する。	先行研究（実践事例）を調べる。	4時間
第5回	**教材づくり②（運動種目の特性）** 運動種目の特性について考える。	運動種目の特性を調べる。	4時間
第6回	**教材づくり③（グループごとに教材検討）** 発表に向けた役割分担・流れを確認する。	担当の運動種目の資料を作成する。	4時間
第7回	**教材の発表①（マット運動）** マット運動の教材を検討する。	マット運動の教材に関する資料を作成する。	4時間
第8回	**教材の発表②（跳び箱運動）** 跳び箱運動の教材を検討する。	跳び箱運動の教材に関する資料を作成する。	4時間
第9回	**教材の発表③（鉄棒運動）** 鉄棒運動の教材を検討する。	鉄棒運動の教材に関する資料を作成する。	4時間
第10回	**教材の発表④（短距離走、ハードル走）** 短距離走、ハードル走の教材を検討する。	短距離走、ハードル走の教材に関する資料を作成する。	4時間
第11回	**教材の発表⑤（走り幅跳び、走り高跳び）** 走り幅跳び、走り高跳びの教材を検討する。	走り幅跳び、走り高跳びの教材に関する資料を作成する。	4時間
第12回	**教材の発表⑥（柔道）** 柔道の教材を検討する。	柔道の教材に関する資料を作成する。	4時間
第13回	**教材の発表⑦（剣道）** 剣道の教材を検討する。	剣道の教材に関する資料を作成する。	4時間
第14回	**教材開発のまとめ** グループでの反省と全体総括をする。	これまでの学習資料の整理をし、最終課題レポートを提出する。	4時間

SP-3110-3-2

授業科目名	学校スポーツ指導法（団体種目）（学校スポーツ指導法Ⅰ）				
担当教員名	川合・山手				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	川合英之：高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長までを歴任（12年）した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） 山手隆文：小学校教員（29年）として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

体育の授業を進めるにあたって、ラジオ体操や集団行動の基本を習得し指導できるようになる。また、授業における基礎内容、特に集団種目（球技：ゴール型、ネット型、ベースボール型）における学習指導に関する要点を理解する。中学校や高等学校における集団種目の導入や単元の技能の習得、授業を進めるにあたっての指導ポイント（苦手な生徒への指導方法など）を考え、保健体育科の教員として体育の実技指導を効果的に行う実践力を習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	保健体育科教員としての体育実技指導の実践力の向上	体育の多様な単元の指導方法について、個人はもちろんグループ活動を通して深め合い、高めあう。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	児童生徒に向き合う資質の涵養	多様な児童生徒（配慮が必要な児童生徒）がいる学校における教科指導の在り方を理解する。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	保健体育科教員としての体育実技指導に関する知識・技能の修得	体育実技指導の手法・方略を修得し、それぞれの運動領域の特性を活かした指導の知識を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
集団行動やラジオ体操の指導力	10%	： 集団行動とラジオ体操の指導ができる：10点 集団行動とラジオ体操の指導がまずまずできる：8点 集団行動とラジオ体操の指導があまりできない：6点 集団行動とラジオ体操の指導ができない：５点以下
集団種目の授業の導入や進め方	20%	： 授業の導入や進め方がしっかりできる：20～16点 授業の導入や進め方がまずまずできる：15～11点 授業の導入や進め方があまりできない：10点以下 授業の導入や進め方ができない：6点 授業ができない：0点
レポート等の提出物	70%	： 各回（14回）のレポートがしっかりできている：5点 各回（14回）のレポートがまずまずできている：3点又は4点 各回（14回）のレポートがあまりできていない：2点 各回のレポートができていない：0点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ラジオ体操及び集団行動** ラジオ体操を教材として師範の方法を理解するとともに、集団行動の基礎を指導することができる。	生徒に向かって逆方向からの動きで指導できる。	4時間
第2回	**集団行動の実際** 集団行動における集合、方向変換、列の増減、歩行について、その方法を理解し実践する。	集団行動の基本的動作と号令のかけ方について調べておく。	4時間
第3回	**学習指導要領に基づく球技（ゴール型）の指導について理解する。** 球技（ゴール型）の特性を理解し、効果的な指導方法を学ぶ。	学習指導要領のゴール型の特性を調べておく。	4時間
第4回	**学習指導要領に基づ球技（ネット型）の指導について理解する。** 球技（ネット型）の特性を理解し、効果的な指導方法を学ぶ。	学習指導要領のネット型の特性を調べておく。	4時間
第5回	**学習指導要領に基づく球技（ベースボール型）の指導について理解する。** 球技（ベースボール型）の特性を理解し、効果的な指導方法を学ぶ。	学習指導要領のベースボール型の特性を調べておく。	4時間
第6回	**球技（ゴール型）について①（ねらい）** 中学校・高等学校の球技（ゴール型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。	球技（ゴール型）のねらいについて整理しておく。	4時間
第7回	**球技（ゴール型）について②（個人技能）** 球技（ゴール型）の個人技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。	学習指導要領に示される球技（ゴール型）個人技能について整理しておく。	4時間
第8回	**球技（ゴール型）について③（集団技能）** 球技（ゴール型）の集団技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。	学習指導要領に示される球技（ゴール型）集団技能について整理しておく。	4時間
第9回	**球技（ネット型）について①（ねらい）** 中学校・高等学校の球技（ネット型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。	球技（ネット型）のねらいについて整理しておく。	4時間
第10回	**球技（ネット型）について②（個人技能）** 球技（ネット型）の個人技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。	学習指導要領に示される球技（ネット型）個人技能について整理しておく。	4時間
第11回	**球技（ネット型）について③（集団技能）** 球技（ネット型）の集団技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。	学習指導要領に示される球技（ネット型）集団技能について整理しておく。	4時間
第12回	**球技（ベースボール型）について①（ねらい）** 中学校・高等学校の球技（ベースボール型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。	球技（ベースボール型）のねらいについて整理しておく。	4時間
第13回	**球技（ベースボール型）について②（個人技能）** 球技（ベースボール型）の個人技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。	学習指導要領に示される球技（ベースボール型）個人技能について整理しておく	4時間
第14回	**球技（ベースボール型）について③（集団技能）** 球技（ベースボール型）の集団技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。	学習指導要領に示される球技（ベースボール型）集団技能について整理しておく。	4時間

SP-3111-3-2

授業科目名	教材開発演習Ⅱ（教材開発演習Ⅱ）				
担当教員名	股村美里・黒澤　寛己				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛：高等学校において教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

中学校及び高等学校の保健領域と体育理論の授業計画や授業構成及びその中で扱うべき教材・教具や学習形態・方法に関する基本的な講義を行った後、全受講者が保健と体育理論の授業で扱うべき主要な単元内容や題材に関する具体的な教材づくりと授業計画の作成を行う。グループ単位で考えた教材や教具を活用した授業計画を10分程度のマイクロティーチング（模擬授業）で実践し、その後の検討会を通して問題点や改善すべき事を学び、授業改善に必要な考え方を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	保健と体育理論の授業を計画するために必要な考え方と教材に関する知識を身に付ける。	中学校および高等学校の保健領域と体育理論に関する授業計画と扱うべき教材について理解している。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	保健領域と体育理論の授業を計画する実践力を体験を通して身に付ける。	教材研究を基に教科書を用いた授業展開を指導案としてまとめることができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	保健と体育理論の授業を実践する力を身に付ける。	考案した授業計画を基に、模擬授業として展開することができる。またその実践を振り返り、改善を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

第1回目の授業で、模擬授業の担当の割り当てを行います。履修する学生は必ず出席すること。また欠席した場合は、第2回目の授業までに担当教員のところへ申し出て本演習の趣旨と模擬授業の担当についての指示を受けましょう。この指示を受けることができなかった場合、本演習の履修を認めないことがあります。本演習の円滑な運営に積極的に参加できることも評価の観点に含みます。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の小レポート	56%	： 授業内容を踏まえて、独自の見解や具体例等が示された論述ができているか。
担当授業後のリフレクション	14%	： 作成した教材と授業計画に対する授業実践の成果と反省および改善策等が具体的に述べられているか。
まとめのレポート	30%	： 授業を通して身につけた知識や経験を、今後の学習に具体的にどのように活かそうと考えているのか、反論を想定しながら自身の意見を提示できているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』
中学保健体育、高等学校保健体育の教科書は、図書館やラーニングコモンズ、さらには研究室等で所蔵しています。本演習では教科書を用いた授業づくりを重視しますが、学習の内容を深化・補充するための専門的な知識や統計データを授業資料として活用する姿勢を期待して授業を進めます。主体的な教材研究資料探しや参考文献探索を望みます。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすることとします。
様々な教具やICTを含む学習方法を活用した保健と体育理論の授業展開を目指して、グループで教材や教具の工夫や検討を行いながら、模擬授業（マイクロティーチング）を実践します。わかる・楽しい保健と体育理論の授業実践力を高めていきましょう。中学校や高等学校での学習だけでなく、小学校での学習も視野に入れて勉強しましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：保健および体育理論の授業で学ぶこととは** 授業全体の計画に触れ、保健と体育理論の模擬授業へ向けた意識を高める。 保健および体育理論の授業で身に着けさせる知識について学ぶ。 保健と体育理論の模擬授業を行うグループを決め、日程案を計画する。	授業全体の計画を把握し、保健と体育理論で興味ある題材について調べる。	4時間
第2回	**保健の学習指導案作成、保健の授業分析視点例** 各グループで、保健の具体的で共有化できる学習指導案を作成する。また、保健の授業分析視点例に触れ、実際の保健の模擬授業の工夫につなげる。	保健の具体的な学習指導案を作成し、保健授業の分析視点の例をまとめる。	4時間
第3回	**保健の模擬授業（中学校）ー心身の発達と心の健康ーとその検討** 中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、心身の発達と心の健康の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	中学生を対象とした心身の発達と心の健康の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第4回	**保健の模擬授業（中学校）ー傷害の防止ーとその検討** 中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、傷害の防止の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案についての評価・検討を行う。	中学生を対象とした傷害の防止の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第5回	**保健の模擬授業（中学校）ー健康な生活と病気の予防ーとその検討** 中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、健康な生活と病気の予防の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	中学生を対象とした健康な生活と病気の予防の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第6回	**保健の模擬授業（高等学校）ー現代社会と健康ーとその検討①** 高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	高校生を対象とした喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第7回	**保健の模擬授業（高等学校）ー現代社会と健康ーとその検討②** 高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	高校生を対象とした生活習慣病、感染症などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第8回	**保健の模擬授業（高等学校）ー生涯通じる健康ーとその検討** 高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、性教育に関わる生涯通じる健康の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	高校生を対象とした性教育関連の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第9回	**体育理論の模擬授業ー運動やスポーツの多様性ーとその検討** 中学生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「運動やスポーツの多様性」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。 模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	運動やスポーツの多様性の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。	4時間
第10回	**体育理論の模擬授業ー運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方ーとその検討** 中学生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。 模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。	4時間
第11回	**体育理論の模擬授業ー文化としてのスポーツの意義ーとその検討** 中学生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「文化としてのスポーツの意義」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。 模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	文化としてのスポーツの意義の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。	4時間
第12回	**体育理論の模擬授業ースポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展ーとその検討**	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。	4時間

	高校生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。 模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。		
第13回	**体育理論の模擬授業ー豊かなスポーツライフの設計の仕方ーとその検討** 高校生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「豊かなスポーツライフの設計の仕方」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。 模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	豊かなスポーツライフの設計の仕方の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。	4時間
第14回	**保健領域・体育理論の模擬授業のリフレクション　まとめ** 中学生、高校生を想定した体育理論の模擬授業全体を振り返り、形成的授業評価とリフレクションシートから得られた結果を参考に、教材の工夫や授業行動の改善の在り方について検討する。	中学生、高校生対象を想定した体育理論の模擬授業全体を振り返り、授業改善の方策を考える。	4時間

SP-3112-3-2

授業科目名	学校スポーツ指導法(個人種目)(学校スポーツ指導法Ⅱ)				
担当教員名	大西・髙松				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

小学校・中学校・高等学校での体育授業を指導するにあたって、保健体育の教員が身に付けていなければならない基本的な指導法の習得を目指す。器械運動や陸上競技などの個人種目や、体つくり運動領域で扱われる運動を中心に、比較的運動が苦手な子供を対象とした個別指導や段階的な指導方法、学習形態の工夫、補助の仕方、指導の導入から展開の仕方について学ぶ。
指導の方法を知識として学ぶだけでなく、実際に提示された教材を体験することで、指導法への理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 . DP8.スポーツ学に関する深い知識	毎授業後の小レポート	体育授業で指導する際の各種目における指導法を理解することができる。
2 . DP10.スポーツ学に関する実践力	実習に関わる活動	指導法の体験活動によるスポーツ技能の習得と指導法の意味について理解を深めることができる。
3 . DP11.忠恕の心	実習に関わる活動	仲間と連携・協働して活動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎授業後の小レポート 50%	:	最大50点満点で評価する。 各授業内で得た指導の仕方や方法、意義についての振り返りを行い、小レポートに記述する。
指導法の理解度 50%	:	領域ごと（器械運動、陸上競技、ダンス、体つくり運動）の指導法のまとめをレポートに記述し、50点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説　体育編（東山書房）
文部科学省（2018）中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
文部科学省（2019）　高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育科編（東山書房）

その他の資料は適宜配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
よい教員や指導者になるためには、「何を教えるか」だけでなく「どのように教えるか」、その方法を知っておく必要がある。本科目を受講する学生は、「将来子どもの前に立って指導をする」という自覚を持って、主体的に取り組むこと。学校スポーツ指導法Ⅰを受講しておくことが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 2時限

場所： 髙松研究室（B205）

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**指導法を学ぶことの重要性について** 本科目における指導法の位置付けと指導法を学ぶ重要性について理解する。	学習指導要領解説書の教科の目標及び内容を読む	4時間
第2回	**各領域における学びの内容について** 本科目で取り扱う器械運動・陸上運動、体つくり運動領域の、学校体育での学びの内容について理解する。	学習指導要領解説書の各領域の目標及び内容を読む	4時間
第3回	**器械運動の指導法について（倒立の指導法）** 器械運動領域における巧技系に位置づけられている技の指導法について理解し、実践する。	学習指導要領解説書の器械運動領域（巧技系）の目標及び内容を読む	4時間
第4回	**器械運動の指導法について（マット運動の指導法）** 器械運動領域におけるマット運動に位置づけられている技の指導法について理解し、実践する。	学習指導要領解説書の器械運動領域（マット運動）の目標及び内容を読む	4時間
第5回	**器械運動の指導法について（とび箱運動の指導法）** 器械運動領域におけるとび箱運動に位置づけられている技の指導法について理解し、実践する。	学習指導要領解説書の器械運動領域（とび箱運動）の目標及び内容を読む	4時間
第6回	**器械運動の指導法について（鉄棒運動の指導法）** 器械運動領域における鉄棒運動に位置づけられている技の指導法について理解し、実践する。	学習指導要領解説書の器械運動領域（鉄棒運動）の目標及び内容を読む	4時間
第7回	**器械運動の指導法について（平均台運動の指導法）** 器械運動領域における平均台運動に位置づけられている技の指導法について理解し、実践する。	学習指導要領解説書の器械運動領域（平均台運動）の目標及び内容を読む	4時間
第8回	**陸上運動（走り高跳び）の指導法について** 陸上運動領域における走り高跳びの、跳び方の種類や段階的な指導、運動局面に応じた助走、跳躍、着地の運動について理解し、実践する。	学習指導要領解説書の走り高跳び分野の目標及び内容を読む	4時間
第9回	**陸上運動（走り幅跳び）の指導法について** 陸上運動領域における走り幅跳びの、運動局面に応じた助走、跳躍、着地の運動について理解し実践する。	学習指導要領解説書の走り幅跳び分野の目標及び内容を読む	4時間
第10回	**陸上運動（ハードル走）の指導法について** 陸上運動領域におけるハードル走の、段階的指導や、運動局面に応じた助走、空中動作、インターバル走の指導について理解し、実践する。	学習指導要領解説書のハードル走分野の目標及び内容を読む	4時間
第11回	**体つくり運動（体ほぐし運動）の指導法について** 体つくり運動領域における体ほぐしの運動の指導について理解し、実践する。	学習指導要領解説書の体ほぐし運動分野の目標及び内容を読む	4時間
第12回	**体つくり運動（体の動きを高める運動）の指導法について** 体つくり運動領域における体の動きを高める運動の指導について理解し、実践する。	学習指導要領解説書の体の動きを高める運動分野の目標及び内容を読む	4時間
第13回	**運動遊びで培う基礎技能の指導法について** 器具を使った運動遊びで培われる基礎技能について理解し、実践する。	器械運動、陸上運動、体つくり運動領域などの個人種目における基礎技能について事前に調べておく	4時間
第14回	**各領域の指導法のまとめと振り返り及び総評** 本科目で扱った「器械運動」「陸上運動」「体つくり運動」についての指導法を振り返り，まとめを行う.	これまでに書いた振り返りシートを読み持参する。	4時間

SP-3113-3-2

授業科目名	**武道・舞踊論**				
担当教員名	林弘典・大西祐司				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	林弘典：地方青少年武道錬成大会中央講師（2005年～現在）の実践経験を講義内容に結びつけている。（1～7回）				

授業概要

武道は、武士道の伝統に由来する我が国で体系化された武技の修錬による心技一如の運動文化であり、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道を修錬して心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である。舞踊（ダンス）は、身体を媒介にした力動的時空間芸術である。民族性や地域性、時代性、個性などの多様な背景によって様式が確立されており、今もなお生成流動している文化である。
本授業では、武術、武道、スポーツ、舞踊の目的を比較することによって、「武道とは何か」「舞踊とは何か」について学ぶ。また、宗教と修行の関係から武道において自分と向き合うことや、舞踊と関連した文化を読み解くことで自身の価値観について再認識する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	千日回峰行（比叡山）	酒井雄哉氏の言動から武道の本質である「自分と向き合う」意味を理解できる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	剣道八段戦	神崎浩氏と有馬光男の言動から武道の目的を深く理解できる。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	武道憲章	武道が心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養うことを理解できる。
4 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	こども武道憲章	武術、武道、スポーツ、舞踊の目的を理解できる。
5 ．DP11.忠恕の心	武道の理念	武道が国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道であることを理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	60%	： 講義後に提出するレポートについて、内容の妥当性や論理的構成を5段階で評価する（4点×10回、5点×4回=60点）。
発表	21%	： 武道論：第1～7回の発表における分かりやすさ質疑応答の明確さを5段階で評価する（3点×7回=21点）。
最終レポート	19%	： 舞踊論：第8～14回に内容を踏まえて課される最終レポートを評価する（19点）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

武道を知る：田中　守・藤堂良明・東　憲一・村田直樹（不昧堂出版）
参考資料を授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限

場所： 大西研究室（B206）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、武道の種類や統括団体について** シラバスを確認しながら、授業の進め方や取り組み方について理解する。武道の種類や統括団体について学習する。	シラバスを熟読する。武道の種類や統括団体について調べる。	4時間
第2回	**武術、武道、スポーツの目的について** 武道の理念、武道憲章、こども武道憲章を通して、武術、武道、スポーツの目的について学習する。	武術、武道、スポーツの目的、武道の理念、武道憲章、こども武道憲章について調べる。	4時間
第3回	**スポーツの価値について** オトナの学校完全版　武井壮【オトナの！】を視聴し、スポーツの価値について学習する。	武井壮氏について調べる。	4時間
第4回	**武道の価値について** かんさい熱視線「極めて　なお磨く―剣道八段・最高峰の戦い―」を視聴し、武道の価値について学習する。	全日本剣道演武大会、剣道八段の神崎浩氏と有馬光男氏について調べる。	4時間
第5回	**スポーツと武道の価値についての発表・討論** スポーツと武道の価値に関するレポートを発表し、討論する。	スポーツと武道の価値の違いを調べる。	4時間
第6回	**武道と修行について** NHK特集「行　比叡山千日回峰」を視聴し、武道と修行の関係について学習する。	比叡山千日回峰行、酒井雄哉氏について調べる。	4時間
第7回	**武道と修行についての発表・討論** 武道と修行の関係に関するレポートを発表し、討論する。「自分と向き合う」について学習する。	武道と修行の関係、「自分と向き合う」について調べる。	4時間
第8回	**生活文化の中の舞踊** 普段の生活で目にするダンスから舞踊とは何か（意味と価値）について探る。	動画検索サイトなどでダンス動画を視聴する。	4時間
第9回	**舞踊の原初的形態** 舞踊の発生や原始的な目的、意味について理解する。	地域の民踊について調べる。	4時間
第10回	**バレエの発祥と発展** バレエの歴史的、社会的な変遷や特徴について理解する。	3大バレエの動画を視聴する。	4時間
第11回	**現代の舞踊（モダンダンス、コンテンポラリーダンス）の特徴と発展** 国内外のモダンダンスとコンテンポラリーダンスの発生と発展について学ぶ。	コンテンポラリーダンスの作品を視聴する。	4時間
第12回	**舞踊と音楽** 音楽（HipHop）の発生と発展からダンスやHipHop文化について理解する。	HipHopの音楽とダンスの事例を調べる。	4時間
第13回	**教育における舞踊** 日本の舞踊教育の変遷及び内容領域（創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンス）について学ぶ。	学習指導要領のダンス領域の内容を調べる。	4時間
第14回	**舞踊論のまとめ** これまでの舞踊の学び（視点）から自身を取り巻く環境について考える。	スポーツとダンスの同異点について整理する。	4時間

SP-3114-3-2

授業科目名	**学校ｽﾎﾟｰﾂの国際比較**				
担当教員名	＊				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

SP-3115-3-2

授業科目名	**部活動指導論**				
担当教員名	黒澤　寛己				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校教諭（部活動顧問）として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

学校現場（中学校・高等学校）における部活動に関する指導について理解を深めることを目的とする。具体的には、部活動の諸問題、発達段階に応じた指導法、学習指導要領に準じた運営について、現状の課題を理解し、教育的で効果のある指導法について検討する。また、学校現場での課題や実際の指導法について、事例研究を行う。そして、その結果についてグループディスカッションを行ったり、グループ発表を行うことによって知識及び技能の定着を図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	学校現場における部活動指導に関する知識	部活動指導に必要な知識を身に付ける。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	学習指導要領に準じた部活動の運営方法	学習指導要領に準じた適切な部活動の運営方法を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小レポート	60%	：毎回の授業の取り組みと小レポートの内容を評価する。
事例研究発表	20%	：部活動の事例発表について評価する。
課題レポート	20%	：部活動に関する課題レポートを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

学習内容について、適宜参考資料を配布する。また、発表に際しては部活動指導に関する書籍・資料を各自が収集する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は、将来教員や部活動指導員として、部活動の指導に関わることを想定した内容となっている。そのため、自身の目的や興味・関心に応じた自主的な取り組みが必要となる。具体的な指導事例に関する資料を積極的に収集する必要がある。また、授業の後半では事例発表を行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー
場所： 黒澤寛己研究室
備考・注意事項： 質問に来る際には、念のため事前に連絡すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**部活動の歴史**	学習指導要領に記載されている部活動の意義について調べる。	4時間

	部活動の歴史的背景について理解する。 部活動と学習指導要領の関係について理解する。		
第2回	**部活動の今日的課題** 部活動における体罰や暴力的な指導、顧問教員の過重労働など、今日的な課題について理解する。	部活動の今日的な課題について、事例を調べる。	4時間
第3回	**部活動のマネジメント** 高校の野球部などを事例として、部活動のマネジメントや運営方法について理解する。	部活動のマネジメントに関する事例を調べる。	4時間
第4回	**部活動と生徒指導** 部活動が生徒指導に果たす機能について理解する。 部活動を生徒指導に活用した事例について検討する。	部活動を生徒指導に活用した事例を調べる。	4時間
第5回	**部活動と教師教育** 部活動が教師教育に果たす役割について理解する。 部活動を教師教育・教師の指導力向上に活用した事例について検討する。	部活動を教師教育・教師の指導力向上に活用した事例を調べる。	4時間
第6回	**勝利至上主義と部活動** 勝利至上主義による部活動への影響について理解する。 資料史至上主義による、行き過ぎた指導事例について検討する。	勝利至上主義による部活動指導の事例を調べる。	4時間
第7回	**地域活性化と部活動** 部活動による地域活性化について理解する。 部活動によって、地域活性化に取り組んだ事例について検討する。	部活動による地域活性化事例を調べる。	4時間
第8回	**教員の勤務実態と部活動** 教員の勤務実態や過重労働と部活動指導との関係について理解する。 部活動指導による、教員の過重労働問題について検討する。	部活動指導による、教員の過重労働の事例を調べる。	4時間
第9回	**文武両道と部活動** 学校現場における、勉強と部活動の取り組みについて理解する。 勉強と部活動の両立に取り組んでいる事例について検討する。	文武両道に取り組んでいる学校の事例について調べる。	4時間
第10回	**部活動におけるスポーツ事故** 部活動中における、スポーツ事故について理解する。 部活動中のスポーツ事故の防止方法や対応について検討する。	部活動中のスポーツ事故の事例を調べる。	4時間
第11回	**オリンピックと部活動** オリンピックに参加する選手強化と部活動の機能について理解する。 海外の部活動とオリンピックの関係について、事例をもとに検討する。	オリンピックと部活動が関係する事例を調べる。	4時間
第12回	**大学の体育会運動部活動** 大学の体育会運動部の現状について理解する。 UNIVASなどの取り組みについて、検討する。	大学運動部の取り組みについて、調べる。	4時間
第13回	**部活動運営の事例研究（運営面について）** 優れた運動部活動の運営について、事例研究を行う。 部活動の運営方法について検討し発表する。	優れた運動部活動の事例について調べる。	4時間
第14回	**部活動指導の事例研究（指導面について）** 優れた部活動指導について事例研究を行う。 部活動の指導方法について検討し発表する。	優れた部活動指導について調べる。	4時間

SP-3116-3-2

授業科目名	保健体育授業分析評価法（保健体育授業分析評価法）				
担当教員名	大西　祐司				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

昨今の教育情勢を踏まえれば、授業のアカウンタビリティ（説明責任）を果たすべく、エビデンス（学習成果）をもってそれに応えていくことが求められている。本講座では、学校スポーツ教育コースの専門実習Ⅰの模擬授業の映像やデータを取り上げながら、教師や児童生徒の行動、授業評価、並びに学習成果などを分析評価する方法について学ぶ。それらを用いて量的・質的なデータを算出し授業を省察することで、効果的な授業実践に向けた改善策を検討する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	教師行動、授業評価、並びにパフォーマンスの分析評価	さまざまな分析評価法を駆使して、客観的なデータを示すことができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	よい体育授業を成立させる条件	得られたデータから授業の具体的な改善策を見出すことができる。
3 ．DP11.忠恕の心	授業の分析評価、改善策の提示	主体的かつ協働的に仲間と活動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	70%	： 毎時間、授業内で課す課題を70点満点で評価する。
最終レポート	30%	： 授業で学んだ分析評価法を用いて映像を分析し、その結果をもとに改善策を見出す課題を30点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高橋健夫　編著	・ 体育授業を観察評価する　授業改善のためのオーセンティック・アセスメント	・ 明和出版	・ 年

参考文献等

授業内容に応じて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学校スポーツ専門実習Ⅰを履修していることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限
場所：　大西研究室（B206）

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**保健体育授業を分析評価するとは** 本講義の進め方並びに留意事項を確認する 体育授業を分析評価する意義を学ぶ	これまで経験した授業を振り返る	4時間
第2回	**よい体育の授業とは** 授業の内容的条件、基礎的条件を知る	よい体育の授業について自身の経験から考えてくる	4時間
第3回	**授業場面の期間記録法と記述分析** 運動学習場面、認知学習場面、インストラクション場面、マネジメント場面を分析する方法を知る	期間記録法の概要を調べてくる	4時間
第4回	**教師の相互作用行動の観察法** 相互作用（フォードバック、励まし）を分析する方法を知る	相互作用行動の観察法の概要を調べてくる	4時間
第5回	**組織的観察法の応用** 教師の言葉かけの記録、マネジメント時間の記録の応用された方法について知る	組織的観察法の現場での活用の仕方を考えてくる	4時間
第6回	**教師行動に関する授業の改善策** 四大教師行動（直接指導、巡視、相互作用、マネジメント）から授業の改善策を考える	四大教師行動について調べてくる	4時間
第7回	**運動有能感** 運動有能感を調査する意義と方法について知る	運動が得意・苦手だと感じる理由を考えてくる	4時間
第8回	**体育授業と学級集団意識** 学級集団意識を調査する意義と方法について知る	体育授業が学級に及ぼす影響を考えてくる	4時間
第9回	**学習従事率** オフタスクや観察カテゴリーに応じてGTS法を用いて学習従事率を算出する	ALT-PE法の概要を調べてくる	4時間
第10回	**ゲーム分析** 心電図型とGPAIによるゲーム分析を行う	球技のよい授業について自身の考えをまとめてくる	4時間
第11回	**戦術の理解度テスト** 画像や質問紙による理解度テストを開発する	よい球技の授業について自身の考えをまとめてくる	4時間
第12回	**質問紙調査（体育）** 仲間づくりの形成的評価票、観察者チェックリストについて知る	質問紙調査の例を調べてくる	4時間
第13回	**質問紙調査（保健）** 診断的、形成的、総括的授業評価について知る	よい保健の授業について自身の経験を振り返る	4時間
第14回	**全体のまとめおよび総評** 保健体育授業を分析評価する方法を整理して理解する	これまでの講義の疑問点等をまとめてくる	4時間

SP-3201-3-1

授業科目名	ビジネス基礎演習Ⅰ				
担当教員名	石井・城島・山本・吉倉				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	石井：大阪ガス株式会社でのトップアスリートのマネジメント及びスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者など 城島：プロのスポーツライターとして（トップアスリートやスポーツに関する著作多数）の実践経験を講義内				

授業概要

本演習では、スポーツビジネスの現場で起こっているさまざまな事象を知り、それらを専門的に学ぶために必要な基礎的スキルを身につけることを目的とする。

到達目標
・スポーツビジネスに関する文献、資料、データを検索し、それを読んで理解する。ブランドイメージ，ロイヤルティに関するアンケート調査を実施し，まとめて報告する（前期）。
・スポーツ参加、観戦（メディアを含む）、用品、ファッションへの消費者関与に関するデータを収集、分析し、考察して発表する（後期）。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツをビジネスの一分野ととらえ、スポーツ産業やプロスポーツ組織の経営に対しての先行研究を元にした深い洞察、統計スキルを駆使した研究仮説に対する省察と発表.	問題意識やそれを解決するための仮説づくりやそれを統計的に実証するスキルを身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

授業の内容は，Teams上に事前にアップロードする．また社会情勢を考慮して，zoomによるオンライン授業と，対面授業のハイブリッド形式など，臨機応変に授業形態を変更する．

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
データ収集	10%	： 集めたデータの理解度を踏まえて評価する
プレゼンテーション	30%	： データを理解して報告しているかを評価する
調査票の作成	30%	： 授業内容を踏まえて申し分なく作成されているかを評価する
統計分析レポート	30%	： 収集したデータを分析、考察して報告しているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツ産業論・第7版（原田宗彦編著　杏林書院）
よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞・吉田政幸編著，ミネルヴァ書房）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

備考・注意事項： 事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください．
yamamoto-tatsu@bss.ac.jp
yoshikura@bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびスポーツビジネスの概説** 前期の概要およびグループ学習の説明。	配布資料を確認して、基礎演習の目的、内容構成などを理解すること。	4時間
第2回	**スポーツビジネス現場の事例を知る：スポーツと企業戦略** プロスポーツチームの企業としての成長戦略のみならず、スポンサードする企業の目的や戦略などを学び、スポーツビジネス発展の方法論を検討する （担当：石井）	配布資料をよく読み、について復習すること。	4時間
第3回	**スポーツビジネス現場の事例を知る：卓球プロリーグ『Ｔリーグ』発足 までの道のり** Ｔリーグチェアマンを務める松下浩二はなぜ、日本に卓球のプロリーグを作ろうとしたのか。着想からリーグ発足まで30年にわたる挑戦を振り返りながら、スポンサー獲得や放映権をめぐる曲折、彼が頭の中で描いているＴリーグの未来図について学ぶ。（担当：城島）	配布資料をよく読み、個人の強い思いがリーグマネジメントとして形 になっていく過程について理解を深めること。	4時間
第4回	**スポーツビジネス現場の事例を知る：スポーツ需要** 北米プロスポーツリーグ（NFL,MLB,NBA,MLS）などの戦力均衡策と人件費抑制策などについて，レベニューシェアリング，ドラフト制度，サラリーキャップ，ラグジュアリータックス，シングルエンティティ，フリーエージェントなどを学ぶ。（担当：山本）	配布資料を復習し、スポーツ需要について理解を深めること。	4時間
第5回	**スポーツビジネス現場の事例を知る：スポーツマネジメント** サッカーのプロクラブチームやNPB球団などの組織（企業）における経営管理について学ぶ。（担当：吉倉）	配布資料をもとに、国内プロスポーツ現場にて発生している問題点について、理解と考察に努めること。	4時間
第6回	**スポーツメーカーのブランドイメージ，ブランドロイヤルティに関するアンケート調査の説明** 学内で実施する，スポーツメーカーのブランド調査の概要，調査項目，調査方法，入力規則などを学ぶ。（担当：吉倉・山本）	スポーツメーカーのブランド調査を実施する。	4時間
第7回	**スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（データ入力:エクセル）** 各種調査にて得られた回答をデータ化するために、エクセルを用いた処理方法について学ぶ。（担当：吉倉・山本）	エクセルを用いたデータ処理の適切な方法についてマスターすること。	4時間
第8回	**スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（基礎集計：度数分布および平均値，中央値）** 統計処理ソフトを用いて、度数分布や平均値，中央値といった基礎集計に関する処理方法について学ぶ。	統計処理ソフトを用いた基礎集計方法を理解すること。	4時間
第9回	**スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（χ二乗検定，平均値の検定，相関分析）** 統計処理ソフトを用いて、χ二乗検定，平均値の検定，相関分析などの処理方法について学ぶ。	統計処理ソフトを用いた基礎解析方法を理解すること。	4時間
第10回	**スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（基礎集計：グラフの作成）** 統計処理ソフトを用いて算出した統計量をもとに、エクセルを用いてグラフを作成する方法を学ぶ。	統計処理ソフトを用いた基礎集計について、グラフを用いて報告できるようにすること。	4時間
第11回	**スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（学術論文の読み方）** 卒業論文における研究の目的、問題の所在、学術的貢献、データ収集、データ分析、主な結果、結論などを読み取れるように、それぞれの特徴について学習する。	スポーツビジネス研究領域における学術論文について理解し、また熟読できるようにすること。	4時間
第12回	**スポーツビジネスに関する情報をまとめる（スライドの作成方法）** グラフおよび表にまとめた分析結果を、パワーポイントスライドに落とし込み、プレゼンテーション資料の作成方法について学習する。	スポーツビジネスに関する現状について、二次情報をパワーポイントに落とし込み、適切な表現が出来るように努めること。	4時間
第13回	**スポーツビジネスに関する情報をまとめる（プレゼンテーションの方法）** スライド作成時の構成内容，論旨展開，図表の効果的な使い方，図表の体裁などを学ぶ。	スポーツビジネスに関する現状について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの理解に努めること。	4時間
第14回	**スポーツビジネスに関する情報を報告する** グループでまとめた情報をプレゼンする。	各グループにおけるプレゼンテーションに対する自身の考察をまとめること。	4時間

SP-3203-3-1

授業科目名	スポーツビジネス専門実習Ⅰ（スポーツビジネス専門実習Ⅰ）				
担当教員名	山本・吉倉				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

4名～6名程度のグループ単位で学外の「プロスポーツクラブ」，「スポーツ施設」，「スポーツクラブ」「スポーツ小売店」を利用する消費者や職員・スタッフを対象としたインタビュー調査を中心に行って，スポーツビジネスを取り巻く研究課題を理解するとともに，スポーツマネジメント・マーケティングにおける専門的な知識，技能を身につけ，研究仮説に基づくアンケート調査の作成をグループで作成できるようになることを目的とする．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツマネジメントやスポーツマーケティングの先行研究を調べ，先行研究でなされてきた理論や仮説の学習と理解応用.	自分たちでスポーツマネジメント，スポーツマーケティングに関する研究仮説を立てられるようになる.
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツクラブのなどに対する，質的調査（イオンタビュー）および，量的な調査に必要なアンケート調査の基礎と，統計学に関する基礎知識の学習と理解応用.	スポーツビジネスに関する調査票を自分たちで作成できるようになる.

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

自主学習支援のため，授業の内容は，google classroom上に事前にアップロードする．またコロナ禍を考慮して，zoomによるオンライン授業と，対面授業のハイブリッド形式など，臨機応変に授業形態を変更する．

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

インタビュー調査項目，アンケート調査項目の抄録・プレゼンテーションにコメントする．.

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
研究課題・研究目的・研究仮説の発表 30%	：	学外のスポーツ組織（プロスポーツクラブ，フィットネスクラブ，スポーツショップ）を利用するスポーツ消費者・観戦者に対して，先行研究に基づいた研究課題・研究目的・研究仮説を設定し，発表する.
インタビュー調査項目 20%	：	先行研究に基づいた研究課題・研究目的・研究仮説に関して，調査対象にインタビュー調査項目を作成する．文書体裁，独自の視点などにより加点する.
アンケート調査票作成 50%	：	質的調査及び先行研究を踏まえたアンケート調査票を作成する．調査票の完成度を基に評価を行う.

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で適宜紹介する.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため，平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日2限

場所： 研究棟　B311

備考・注意事項： 事前に下記のメールにてアポイントを取ってください．
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp
yoshikura@bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**前期オリエンテーションおよびスポーツビジネス分野の研究事例に紹介** 第1回テーマ：年間スケジュール説明，　興味の有る研究テーマによるグループ分け． 具体的な研究対象とするスポーツ組織や消費者は，Jリーグクラブ観戦者，Bリーグクラブ観戦者，プロ野球チーム観戦者，独立リーグ観戦者，自転車レース参加者・マラソン大会参加者・草テニストーナメント参加者や，自発的な運動実施者（ビワイチサイクリスト，バスフィッシャー）などである．	配布物をよく読んで翌週の研究の種類・研究デザインを予習しておく．	1時間
第2回	**研究の種類，研究デザインを学習する** 第2回テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，研究の種類，研究デザインに関して復習しておくとともに，先行研究の中から興味のある研究を検索して精読しておく．	1時間
第3回	**尺度について学ぶ** 第3回テーマ：名義尺度，順序尺度，間隔尺度，比例尺度，スケールについて学ぶ． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，尺度に関して復習しておくとともに，先行研究をJstageで検索し，どんな尺度が用いられているか調べる．	1時間
第4回	**消費者心理・消費者行動変数を学ぶ** 第4回テーマ：消費者心理の測定（観測変数と潜在変数），概念の定義，変数の処理，調査項目への変換，標本抽出，サンプル数について学ぶ． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，消費者心理・消費者行動変数に関して復習しておくとともに，先行研究をJstageで検索し，変数の測定や概念定義，変数の処理，標本抽出の観点から先行研究を精読する．	1時間
第5回	**調査における注意事項** 第5回テーマ：個人情報，研究倫理，依頼文，お礼状などを学ぶ． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，個人情報，研究倫理に関して復習しておく．	1時間
第6回	**研究課題の発表** 第6回テーマ：先行研究に基づき各グループ毎にディスカッションし研究仮説を作成して発表する（1）． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	配布資料を読み返し，研究課題に関する探索を行う．	1時間
第7回	**研究目的・研究仮説の発表** 第7回テーマ：先行研究に基づき各グループ毎にディスカッションし研究仮説を作成して研究目的を発表する（2）． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	配布資料を読み返し，研究目的に関する探索を行う．	1時間
第8回	**調査対象へのインタビューおよび調査内容の精査** 第8回テーマ：先行研究や研究課題・目的・仮説に基づいた調査対象へのインタビューおよび調査内容の精査を行う． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	調査対象者へのインタビュー調査票を完成させておく．	1時間
第9回	**インタビュー調査内容の完成** 第9回テーマ：先行研究や研究課題・目的・仮説に基づいた調査対象へのインタビュー内容の調整およびインタビューの完成． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	調査対象者へのインタビュー内容の書き起こしをし，発表準備を整えておく．	1時間
第10回	**グループ毎にインタビュー内容発表** 第10回テーマ：各グループごとにインタビュー内容の発表をおこなう．	先行研究・インタビュー報告をもとに調査票作りを開始しておく．	1時間
第11回	**調査票の作成(1)** 第11回テーマ：先行研究・インタビュー内容を元にグループ毎にアンケート調査票を作成する（1）． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．	今までの配布資料を参考に，アンケート調査票の作成準備を行う．	1時間
第12回	**調査票の作成(2)**	今までの配布資料を参考に，アンケート調査票を完成させる．	1時間

	第12回テーマ：先行研究・インタビューを元にグループ毎にアンケート調査票を作成する（2）． 継続テーマ：スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．		
第13回	**アンケート調査票と研究仮説の発表** 第13回テーマ：アンケート調査項目最終調整および調査内容発表．	アンケート調査項目，個人情報，研究倫理，依頼状に不備がないか確認する．	1時間
第14回	**アンケート調査票と研究仮説の発表** 第14回テーマ：アンケート調査項目最終調整および調査内容発表．16回目の夏期休暇明けまでにアンケート調査を終了しておく．	夏期休業期間終了までにアンケート調査を実施しておく．	1時間

SP-3204-3-1

授業科目名	スポーツビジネス専門実習Ⅱ（スポーツビジネス専門実習Ⅱ）				
担当教員名	山本・吉倉				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

4名～6名程度のグループ単位で学外の「プロスポーツクラブ」，「スポーツ施設」，「スポーツクラブ」，「スポーツ小売」を利用する消費者を対象とした，アンケート調査を行って，スポーツビジネスを取り巻く課題を把握する．さらに，現場へのフィードバックや課題解決（PBL）を意図したスポーツマネジメント，スポーツマーケティングに関する研究仮説を統計的に検証するための実践的な知識，技能，実践力を養うことで，スポーツビジネス分野で活躍できる専門的な人材育成を行う．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツマネジメント・スポーツマーケティングの先行研究の知見と自分たちで実施した調査結果で得られた知見との相違点・共通点の学習と理解応用.	スポーツマネジメント・スポーツマーケティングの先行研究と対比して，自分たちの調査結果との相違点・共通点を自分たちで導き出せる.
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	夏期中に行ったプロスポーツクラブやスポーツ消費者の調査データを用いて，統計的基礎知識の学習と，SPSSを駆使して調査データの解析方法，統計結果の解釈に関する学習と考察.	スポーツビジネスデータに対して，SPSSを駆使した統計的検定，因果関係などの分析ができるようになる.

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

自主学習支援のため，授業の板書は，HP上に事前にアップロードする予定である．

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
インタビュー内容実施報告	30%	： 夏期休暇中におこなったインタビュー内容の実施報告に対して評価を行う.
調査研究プレゼンテーション	40%	： グループ単位で調査研究に関する発表を行う．研究目的・研究仮説と研究方法・研究結果・考察の一貫性や妥当性を評価する.
調査研究に関する抄録	30%	： 調査研究に関する抄録を発表時に提出する．研究の背景・目的・方法・結果・考察の一貫性・ストーリー性・妥当性を評価する.

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で適宜紹介する.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限

場所： 研究棟　B311

備考・注意事項： 事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください．
yamamoto-tatsu@bss.ac.jp
yoshikura@bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびSPSSへのデータの入力** 後期の授業スケジュールとSPSSへのデータの入力 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	配布資料を参考に，調査データをSPSSファイルに入力しておく.	1時間
第2回	**SPSSへのデータの入力** SPSSへのデータの入力，ラベル作成，値の入力，欠損値，尺度の設定 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	配布資料を参考に，調査データをSPSSファイルに入力しておく.	1時間
第3回	**統計解析　カテゴリーデータの分析・相関分析** χ２乗検定，残差分析，相関分析，偏相関分析 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，χ２乗検定，残差分析，相関分析，偏相関分析に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第4回	**統計解析　因子分析** 因子分析，信頼性分析，項目分析 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，因子分析，信頼性分析，項目分析に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第5回	**統計解析　正規性の検定，適切なサンプルサイズ** コルゴモロフ・スミルノフ検定，効果量，検定力，有意水準，等分散を学ぶ. 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，コルゴモロフ・スミルノフ検定，効果量，検定力，有意水準，等分散に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第6回	**統計解析　2群間の平均値の差の検定** t検定，マン・ホイットニーのU検定を学ぶ. 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，t検定，マン・ホイットニーのU検定に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第7回	**統計解析　3群間以上の平均値の差の検定（1）** 一元配置分散分析，二元配置分散分析，多重比較検定，交互作用を学ぶ. 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，一元配置分散分析，二元配置分散分析，多重比較検定，交互作用に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第8回	**統計解析　3群間以上の平均値の差の検定（２）** クラスカル・ウォリス順位和検定，中央値検定，信頼区間の推定を学ぶ. 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，クラスカル・ウォリス順位和検定，中央値検定，信頼区間の推定に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第9回	**統計解析　重回帰分析** ステップワイズ法，強制投入法，最低サンプル数について学ぶ. 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，重回帰分析（ステップワイズ法，強制投入，最低サンプル数）に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第10回	**統計解析　重回帰分析** 多重共線性，パス解析を学ぶ. 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，重回帰分析の多重共線性，パス解析に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第11回	**分析結果の考察：効果的な図表の作成** 図表の正しい記述と統計結果の読み取り（第１種の過誤，第２種の過誤）を学ぶ. 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，第１種の過誤，第２種の過誤に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間

第12回	**分析結果の考察：統計図表の解釈** 統計結果の書き方，形式，図表のまとめ方，引用参考文献に関するルールを学ぶ. 継続テーマ：スポーツビジネスの先行研究でどんなことがわかるのか？統計の解釈.	前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，統計図表の解釈に関して復習しておくとともに，SPSSの分析手順に習熟しておく.	1時間
第13回	**調査研究プレゼンテーション（1）** 各グループの調査結果を発表する（1）	他グループの抄録内容に目を通し，他グループに質問できるようにしておく.	1時間
第14回	**調査研究プレゼンテーション（2）** 各グループの調査結果を発表する（2）	他グループの抄録内容に目を通し，他グループに質問できるようにしておく.	1時間

SP-3207-3-2

授業科目名	スポーツ産業論（スポーツ産業論）				
担当教員名	吉倉　秀和				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス情報産業、スポーツ施設空間産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。これらのセグメントの代表的な事象を取り上げながら、これまでのスポーツ産業の成長過程と現在の市場規模を把握し、今後の課題や将来性について考察する。また、スポーツ産業と地域との関連性についても解説し、スポーツを通じた地域活性化の可能性についても検討する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ産業に関する理解	スポーツ産業について説明することが出来、現状について自身の見解を明らかにすることができる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツ産業の将来に関する提案	スポーツ産業における成長戦略について、自身の意見を具体的に述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小レポート	20%	：講義内容を踏まえ、自身の考えや意見について論じることができているか。
中間試験	40%	：講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に記述されているか。
期末試験	40%	：講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に記述されているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツ産業論」原田宗彦編著，杏林書院

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ産業の全体像把握**	スポーツ産業の全体像を把握できるように復習すること。	4時間

	スポーツ産業の全体像について、これまでの発展過程をもとに解説する。		
第2回	**スポーツ産業の現状①（スポーツ産業とは）** スポーツ産業とは何か？定義付けを中心に解説する。	定義付けされた用語について、復習しながら完全理解に努めること。	4時間
第3回	**スポーツ産業の現状②（スポーツ用品）** スポーツ用品産業を歴史的背景から解説する。	歴史的背景を鑑みながら、自身の考えを将来展望すること。	4時間
第4回	**スポーツ産業の現状③（プロおよびトップスポーツビジネス）** プロおよびトップスポーツビジネスについて経営規模別に解説する。	配布資料をもとに自身の見解をまとめること。	4時間
第5回	**スポーツ産業の現状④（スポーツ施設）** スポーツ施設の現状について、「見る」「する」「支える」の観点から解説する。	配布資料をもとに、スポーツ施設に関する問題点について、理解と考察に努めること。	4時間
第6回	**スポーツ産業の現状⑤（スポーツサービス）** スポーツ産業におけるサービスとは何か？を解説する。	サービスとは何か、スポーツサービスとは何かを配布資料をもとに復習しておくこと。	4時間
第7回	**スポーツ消費者を知る①（参加者）** スポーツ消費者における参加者について、イベント規模別に解説する。	スポーツ参加者のニーズとウォンツについて、配布資料をもとに復習しておくこと。	4時間
第8回	**スポーツ消費者を知る②（観戦者）** スポーツ消費者における観戦者について、イベント規模別に解説する。	観戦者はなぜスポーツを見に来るのか？について、自身の考えをレポートすること。	4時間
第9回	**スポーツ消費者を知る③（まとめ）** スポーツ消費者拡大にむけたさまざまな取り組みについて解説する。	スポーツ消費者を増やす方策について、自身の考えをレポートすること。	4時間
第10回	**スポーツをマネジメントする①（施設）** 施設マネジメントにおける重要な制度設計について解説する。	制度設計に関するメリット・デメリットを配布資料を参考に完全理解しておくこと。	4時間
第11回	**スポーツをマネジメントする②（クラブチーム）** クラブチームマネジメントについて、特に損益の観点から解説する。	クラブチームが抱える問題点を整理しながら、規模の違いによる問題点などを復習すること。	4時間
第12回	**スポーツをマネジメントする③（イベント）** イベントマネジメントの重要性をいくつかの事例をもとに解説する。	イベントマネジメントに求められる要因について、配布資料を参考にまとめておくこと。	4時間
第13回	**スポーツ産業の将来** スポーツ産業の10年後について、ディスカッションを行う。	スポーツ産業の将来予測をレポートすること。	4時間
第14回	**まとめ及び総評** スポーツ産業における全体像について、再度確認を行う。	スポーツ産業の今後について、自身の考察をしておくこと。	4時間

SP-3208-3-2

授業科目名	スポーツ・メディア論（スポーツ・メディア論）				
担当教員名	城島　充				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

スポーツの文化的価値を高めるために、メディアが果たすべき役割は極めて大きい。記録性や情報発信という意味でスポーツ文化の発展に欠かせないものだからだ。本講義ではそうしたスポーツメディアの最前線で取材、執筆活動を続けてきた教員が、スポーツメディアの過去と現在の変遷を検証する材料を提供し、あるべきスポーツメディアの形を提案していく。リアルタイムで話題になったスポーツやアスリート、大会についても、メデイアがどのような役割を果たしているのか、考察の対象としたい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツとメディアの関連性についての考察。	スポーツ事象をもとに、スポーツとメディアの関わりを理解できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツの魅力、あるいは問題点を報じるさまざまな視点に関する情報収集と理解。	自らの視点で、スポーツの断面を切り取り、表現する力をつける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	100%	： 講義内容の理解度について問題意識をしっかりと持てているかどうかがを重視し、100点満点で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマに沿って教員が発表したノンフィクション作品を中心に必要なテキストをコピーして配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。
スポーツの魅力や問題点を伝えるのがメディアの役割ですが、その切り口は多岐にわたります。伝え方よりもまず重要なのは、その視点です。視点を変えることによってスポーツの魅力はいろんな形で伝えられることを、スポーツというのはそれだけ魅力的なものだという意識をみんなで共有できるような講義にしたいと思っています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業実施教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびスポーツ・メディア論の概説** 本講義のスケジュール、達成目標などを伝える。スポーツメディアにはどのような形態があり、それぞれがどのような特色があるのか、その歴史的な背景も含めて説明する。授業内に小レポートを提出する。	スポーツメディアの現状について復習し、講義内で配布した資料を読み込んでおくこと	4時間
第2回	**スポーツと活字メディアの歴史**	Number創刊号、江夏の21球をしっかりと読み込んでおく。	4時間

	日本初のスポーツ総合誌『Number』（文藝春秋）が誕生した背景を振り返る。創刊スタッフたちが提示したスポーツのドラマを切り取る視点や、スポーツノンフィクションの金字塔的作品『江夏の２１球』が生まれた背景などについて検証。創刊800号を超えた現在の誌面との比較を同誌で多くの作品を発表してきた教員の体験とともに検証、編集者の役割も含め、活字ジャーナリズムの変遷をたどる。授業内に小レポートを提出する。		
第3回	**スポーツと新聞報道** 新聞メディアによるスポーツ報道の歴史と、現状について検証する。スポーツ紙と一般紙の報道の違い、番記者と呼ばれる担当記者たちが実際にどのように取材、報道しているのかを学ぶ。阪神タイガースを担当するスポーツ紙の『トラ番』を例に、記者クラブ制度や組織ジャーナリズムの問題点にも切りこみたい。授業内に小レポートを提出する。	新聞によるスポーツ報道について復習し、授業後に発行された新聞、スポーツ紙によく目を通しておくこと	4時間
第4回	**スポーツと競技専門誌** 一つの競技に特化したスポーツ専門誌の役割について考える。教員が多くの原稿を執筆した『ボクシングマガジン』（ベースボールマガジン社）などの誌面の作り方や読者のニーズに焦点をあてる一方、半世紀近く続いた『卓球レポート』（タマス社）が一昨年に休刊した理由について検証、専門誌の存在価値の変化について考察する。授業内に小レポートを提出する。	スポーツ専門誌の役割について復習し、自らが体験したスポーツの専門誌について調べる	4時間
第5回	**スポーツと放送メディア** テレビやラジオは、スポーツをどんな形で報じてきたのか。朝日放送『熱闘甲子園』の製作スタッフの証言や、教員自身のラジオ・テレビへの出演体験をベースに、専門チャンネルの存在意義や、ここ数年、スポーツメディアの世界を席巻しつつある『DAZN』など、新たな放送メディアの誕生と時代の流れを検証する。授業内に小レポートを提出する。	放送メディアによるスポーツ報道について復習し、自らの日常のスポーツ情報の収集の仕方を整理しておく。	4時間
第6回	**スポーツとネットメディア** かつて活字に依存していた出版社や新聞の多くが、ネット配信サイトを開設するようになったことは、ここ10年間のスポーツメディアに起きた革命的な出来事である。教員が執筆するNumberやスポルティーバ（集英社）のWEB版の取材と執筆過程を活字媒体の過程と比較しながら、その功罪について考察する。授業内に小レポートを提出する。	ネットによるスポーツ報道について復習し、気になるテーマをネットで検索、どんな記事が出てくるかを調べておく。	4時間
第7回	**アスリートのSNS発信と新しいメディアの登場** 最近はアスリートが自らのSNSでコメントを発表したり、近況を報告するようになった。また、そうした発言をすぐにアップする卓球専門サイト『RallyS』のような、出版社や新聞社を母体としない、これまでになかったネットメディアも多くのアクセス数を獲得している。こうした新たな流れのなかで生じてきたアスリートとメディアの関係性の変化について検証する。授業内に小レポートを提出する。	新しいメディアの動きについて復習し、気になるアスリートのSNSをチェックしておく。	4時間
第8回	**スポーツの魅力を切り取る視点～ピンポン外交官・荻村伊智朗の生涯から** スポーツの魅力を伝えるさまざまな視点について学ぶ。教員が『ピンポンさん』という作品で描いた「ピンポン外交官」荻村伊智朗の生涯に焦点をあて、どんな切り口でどんな物語が構成できるのかを多面的に検証する。先人たちの功績を今に伝える意義についても考察を深めたい。授業内に小レポートを提出する。	荻村伊智朗が遺したスポーツの魅力にふれた言葉について復習しておくこと。	4時間
第9回	**それぞれのアスリートが活躍した時代を描く** アスリートの生涯を描くことで、その時代を活写することもスポーツメディアの大きな役割である。教員が『拳の漂流』で描いたフィリピン人ボクサーで、戦後のボクシング界で〝神様〟と呼ばれたベビー・ゴステロ、戦後まもないころに世界新記録を連発して〝フジヤマのトビウオ〟と呼ばれ、国民を勇気づけた競泳の古橋広之進らの物語を検証する。授業内に小レポートを提出する。	アスリートと時代性についてしっかりと復習しておくこと。	4時間
第10回	**パイオニアとしての矜持を伝える** その競技のパイオニアとして活躍したアスリートを取り上げることで見えてくるものはなにか。日本の女子プロゴルファーとして初めてアメリカのプロツアーに挑戦した樋口久子、戦後の日本のフィギュアスケート界で活躍し、浅田真央のコーチとして知られる佐藤信夫、日本人の卓球選手として初めてプロ宣言したTリーグチェアマンの松下浩二らの歩んできた道のりが後のスポーツ界に与えた影響をメディアによる報道から検証したい。授業内に小レポートを提出する。	パイオニアと呼ばれたアスリートの功績について復習、配布した資料を熟読しておくこと。	4時間
第11回	**トップアスリートの言葉から学ぶ** トップアスリートの言葉を聞き取ることによって、どのような物語が構成できるのか。教員の取材ノートに刻まれた言葉から、プロボクシングの具志堅用高、卓球の福原愛たちのケースで検証しながら、メディアがひきだすスポーツの多面的な魅力について学びたい。授業内に小レポートを提出する。	アスリートの言葉について復習し、配布した資料を熟読しておくこと。	4時間
第12回	**「異端」と呼ばれたアスリートの物語**	スポーツにおける異端という定義について復習し、教員が配布した資料を熟読しておくこと。	4時間

	スポーツにおける「異端」について考える。常識を覆すボクシングスタイルで頂点に登り詰め、「悪魔王子」と呼ばれたイエメン移民のナジーム・ハメド、モンゴル人初の横綱として一時代を築きながら、最後は傷害事件で引退を余儀なくされた朝青龍たちのストーリーをメディアはどう報じたのか。教員の作品をベースに、異端と呼ばれたアスリートたちの正体をジャーナリスティックな視点から考えていきたい。授業内に小レポートを提出する。		
第13回	**スポーツノンフィクション実習** 受講生それぞれのスポーツ体験から印象に残ったシーン、出会い、指導者やチームメイトとの言葉のやりとりなどを検証、その中から書くべきテーマを一つに絞り、レポートではなく、ジャーナリスティックな作品として執筆してもらう。講義のあった週末を締め切りに作品を提出する。	一つのテーマに絞った内容の原稿を書き上げる。	4時間
第14回	**作品批評とまとめ・グループディスカッション** 前回課題の提出作品について、班ごとに編集者的な目線で批評しあう。班ごとに代表作品を決め、発表してもらう。教員が全作品を添削するので、それぞれの作品の良いところや修正すべきポイントを受講生全員で共有したい。	自分の作品についての批評をしっかりと受け止め、さしかえるべき点を考えておく。	4時間

SP-3209-3-2

授業科目名	スポーツ政策論（スポーツ政策論）				
担当教員名	石井　智				
学年・コース等	2、3	開講時期	＊前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツ政策を時系列的に概観し、スポーツが社会課題の解決にどのように活用されてきたのか、また、行政や企業がスポーツと関わりを持ちながらそれぞれの課題の解決にスポーツを活用しているのかを学ぶ。そして、今後、少子高齢化や人口減少などの社会課題解決にスポーツはどう貢献できるのかを受講者とともに考えていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	我が国のスポーツ政策は何のために策定されたのか、その問題の本質をつきとめる学びおよび、スポーツを巡る現代社会の課題検討	我が国におけるスポーツ政策の現状を理解するとともに、政策科学の本質である問題意識や問題の本質をつきとめる技能を身に付けることができる
2 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツ政策の策定に必要なスポーツが有する価値を理解および、解決すべき課題の問題の本質にアプローチすることが肝要であることの理解	問題の本質は「なぜ」を繰り返すことによって明らかになること、そしてその問題の解決はスポーツのどの機能、価値を活かせば実現するのかを考えることがスポーツ政策の本質であることが理解できる
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	日々生起する社会課題は、スポーツの従来の価値だけでは解決不能であることから今後どのようにして新たな価値を生むのかを考える力の養成	スポーツにおける新たな価値創造には、社会課題やスポーツにおける深い知識が必要であると同時に新たな発想が必要である。それを受講者が、スポーツを学ぶ者にとって必要な資質であるということを理解することができ

学外連携学修

有り　（連携先：一般社団法人アスリートネットワーク）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題レポート	30%	： 毎授業後、小レポートを課し、①テーマの重要性を理解しているか、②テーマに対する自身の考えを簡潔に述べているかの観点で評価する（3点）、その得点を合計とする
期末課題レポート	55%	： 期末レポート（考課）基準 55点：提示されたテーマについて、適切なキーワードを使用して自身の考えや新たな視点による意見が明確かつ論理的に書かれている 40点：一般的な問題定義や課題に対する説明がなさ
スポーツ政策アイデア発表	15%	： 講義のまとめとして、任意のまちを想定したスポーツ政策を立案し、発表する。 15点　よく現状調査され、５Ｗ２Ｈが明確である 12点　概ね調査されており、内容が理解できる 10点　調査は不十分だが内容は理解できる

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

八木匡、横山勝彦、石井智他「スポーツの組織文化と産業」晃洋書房（2012年）
太田進一、石井智他「ビジネスモデルと企業政策」晃洋書房（2006）
横山勝彦、鳥羽賢二他「スポーツの経済と政策」晃洋書房（2011）
他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本講義を受講することにより、日本のスポーツを取り巻く状況への理解が深められます。
今後のスポーツ文化の在り方についての課題発見力、創造力、論理的思考力を身につけられる講義にしようと思います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義のガイダンスおよびスポーツ政策の概要** 講義内容の紹介、進め方の説明 政策とは何か、なぜ必要なのか、現在行われている国内のスポーツ政策について概要を理解できる	政策論についての文献を購読し予習する	4時間
第2回	**日本のスポーツをめぐる政策の動向** 日本において、なぜスポーツが政策に取り入れられたのか、またそれは日本にどのようなメリット・デメリットをもたらしたのか、さらにはスポーツの伝播と現代的課題の整理を通じてスポーツ政策の意義について考えることによってその重要性を理解できる。	我が国のスポーツ政策とその成果について、事例をひとつ調べる	4時間
第3回	**現代社会におけるスポーツの役割** スポーツの社会的価値とは何かを学ぶことができる。たとえば、2019年日本で開催されたラグビーワールドカップは何をもたらしたのか、また2020年開催の東京オリパラはどんな価値を創り出すべきなのかを考えてみること、またスポーツの価値を向上させるためにはどのような政策が必要なのかについて考えることによって、スポーツ政策の必要性を理解できる。	ゴールデンスポーツイヤーズ（2019ラグビーワールドカップ、2020東京オリパラ、2021関西ワールドマスターズについて概要を調べて、その社会的価値について考察する	4時間
第4回	**スポーツの関連法規** 「スポーツ振興法」、「スポーツ振興基本計画法」、「スポーツ立国戦略」、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」の一連の法律の施行について学ぶこと、またなぜこれらの法律や戦略が生まれたのかについて学ぶことによって法令の重要性について理解できる。	スポーツ法規を理解をするために、それらの要約をする	4時間
第5回	**スポーツ基本法とスポーツ基本計画** スポーツに関する法規を成立させた政府の目的や内容について、社会的背景とあわせて理解し、この法律から現在どのような政策が立案、実行されているのかを学ぶことができる。	スポーツ法規についてその成立とその前後の社会情勢を比べる	4時間
第6回	**スポーツの政策とその構造** スポーツ関係省庁はそれぞれの部署でどんな仕事をしているのか、その財源はどこから捻出されているのか、スポーツの財源（スポーツくじ・toto）はなぜ生まれたのかについて学び、財源の調達方法とその重要性について理解できる。	日本スポーツ振興センターのホームページにアクセスしtotoの財源の使途を調べる	4時間
第7回	**スポーツ法規と政策** スポーツ法規の整理と国内スポーツ政策の現代的課題について理解できる。	これまでの講義内容を整理し要点をまとめる	4時間
第8回	**国内スポーツ政策の実際** 総合型スポーツクラブ、生涯スポーツの施策、競技スポーツ、国際競技力向上の施策、競技統括団体の役割について学ぶことができる。またスポーツ団体のガバナンスの問題点の検討から、組織マネジメントの重要性を再度認識することができる。	スポーツ行政関連の文献を購読する	4時間
第9回	**滋賀県を事例とした地方自治行政のしくみとスポーツ政策** 地方行政組織におけるスポーツ政策の内容や意思決定のしくみについて学び、身近な事例を学ぶことで、スポーツ政策における興味を深めることができる。	出身地におけるスポーツ政策について調べ、今後どのようにすればその地域が発展するのかを考える	4時間
第10回	**滋賀県のスポーツ政策の実際** 地方行政組織におけるスポーツ政策の内容や意思決定のしくみについて学ぶことができる。特にその実行について、滋賀県のスポーツ振興策現状と国民体育大会・全国障害者スポーツ大会を何のために行うのか、どのように成功に導こうとしているのかについて理解することができる。地域社会におけるスポーツ政策は、スポーツが滋賀の歴史・文化、自然環境、食といった価値とどう融合するのかを考えることによってが重要であるということを学び、新しい滋賀の魅力をつくる文化・スポーツ戦略について知ることができる。	滋賀県のスポーツ振興策についてホームページで閲覧する	4時間
第11回	**スポーツと企業** 企業スポーツの目的や歴史、現在の概要について学び、CSR経営とスポーツの関わりなど企業の社会戦略について理解する事ができる。そして、スポーツの社会的価値は、企業の存在意義にも大きな影響を与えていることを理解することもできる。	滋賀県のスポーツ振興策についてホームページで閲覧する	4時間
第12回	**メガスポーツイベントの文化社会的意義まとめ**	東京オリパラ開催にまつわる課題の整理をする	4時間

	2019ラグビーワールドカップ日本開催がもたらした意義を検討し、2020東京オリンピック・パラリンピックはどんな社会的意義を生み出すべきか？そもそも東京オリパラは必要か？など自由にディスカッションを行い、メガスポーツイベントの光と影について学ぶことができる。 2020東京オリパラ以外にも多くの世界的なスポーツイベントが日本にやってくるが、それぞれのイベントの意義（例えば、ソーシャルキャピタル醸成など）について理解できる。 2021関西ワールドマスターズゲーム開催 2024滋賀国民体育大会開催 2025大阪万博		
第13回	**学生が考えるスポーツ政策（グループ討議の結果発表）** 5人ずつくらいのグループに分け、それぞれが行政の政策立案者であることを想定（市町村長、企画課長、スポーツ担当課長、財務課長など）して、任意の都市（市町村）の政策課題とそれを解決するためのスポーツ政策を立案し、発表する。それに対して質問や意見を述べることによって、理解を深めることができる。	発表されたグループの政策について再度グループで意見交換を行う	4時間
第14回	**まとめ　自らスポーツ政策を立案して、学習の理解度を確認する** 5人ずつくらいのグループに分け、それぞれが行政の政策立案者であることを想定（市町村長、企画課長、スポーツ担当課長、財務課長など）して、任意の都市（市町村）の政策課題とそれを解決するためのスポーツ政策を立案し、発表する。それに対して質問や意見を述べることによって、理解を深めることができる。	発表資料の作成を通じてグループで議論を深める	4時間

SP-3210-3-2

授業科目名	スポーツツーリズム論				
担当教員名	吉倉　秀和				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、スポーツツーリズムの基礎的知識や歴史的な拝見の理解に加え、実際における取り組みやビジネスモデルについて理解を深める。具体的には、競技者、参加者、支援者、イベント主催者など様々なヒトが関わりあうスポーツツーリズムの特有性を把握することを目標とする。また、スポーツツーリズムに関する学外授業に参加することで実状を認識するとともに、問題点に対するソリューションや新たな価値の提案などについて考察を行うことを本授業の目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	アウトドアスポーツに関する知識	スポーツツーリズムに関する基本的知識について理解できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツツーリズムに関する提案	魅力あるスポーツツーリズムに関する提案を発表することができる。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツツーリズムに関する理解	スポーツツーリズムにおける理論的解釈について、自身の見解を明らかにすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小レポート	20%	： 講義内容を踏まえ、自身の考えや意見について論じることができているか。
中間レポート	30%	： 学外授業の参加を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見や提案などが明確かつ論理的に記述されているか。
期末レポート	50%	： 講義内容や学外授業の参加を踏まえ、自身の考えやソリューションや新たなプロモーションの提案など明確かつ論理的に記述されているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツツーリズム入門」ジェームス・ハイアム、トム・ヒンチ著、伊藤央二、山口志郎訳
「スポーツツーリズム・ハンドブック」日本スポーツツーリズム推進機構編

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

また、本授業は学外授業を実施するため、それに係る実習費の負担を了承した上で履修登録すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツツーリズムとは** スポーツツーリズムの全体像について、歴史的背景をもとに解説する。	スポーツツーリズムの全体像を把握できるように復習すること。	4時間
第2回	**スポーツツーリズム市場** スポーツツーリズムにおける現状について、これまでの先行研究やデータを用いた市場の発展をもとに解説する。	様々な用語など復習しながら理解に努めること。	4時間
第3回	**スポーツツーリズムの理解①（空間、場所、文化）** スポーツツーリズムの発展について、空間や場所といった地理的要因や当該地域における文化といった歴史的要因をキーワードに解説をおこなう。	スポーツ産業の発展とともに拡大しているツーリズムの現状についてレポートをすること。	4時間
第4回	**スポーツツーリズムの理解②（ディスティネーション、ブランディング、環境問題）** スポーツツーリズムにおける参加者が抱く心理的な事象について、ディスティネーションイメージやアイデンティティ、ブランディングなどの観点から解説を行う。	スポーツ参加者の心理的特性について理解を深める復習に取り組むこと。	4時間
第5回	**学外授業　※5月下旬　場所：滋賀県** スポーツツーリズム関連施設への視察を通じて、現状把握をおこなう。また、マイクロツーリズムの観点からも考察をおこなう。	スポーツツーリズム関連施設の経営状況とその問題点について、レポートすること。	4時間
第6回	**スポーツツーリズムの理解③（観光経験、関与）** スポーツツーリズムにおける観光経験や関与がもたらす消費者行動について解説する。	参加者の経験から派生する行動について復習しておくこと。	4時間
第7回	**スポーツツーリズムの理解④（マーケティング、プロモーション）** 旅行行動を喚起させるための取り組みについて、マーケティングやプロモーションの観点から実際にどのような取り組み事例を紹介しながら、その効果や意義について解説する。	理想的なマーケティング手法とは何か？考察を深めレポートをすること。	4時間
第8回	**学外授業　※期間：7月上旬　場所：徳島県** プログラム 1日目：スポーツツーリズムの現状に関するレクチャーを受ける。 2日目：吉野川におけるラフティング体験を通じて、ツーリズムの理解を深める。 3日目：四国におけるスポーツツーリズムについて理解を深める。	グループワークなどを通じて、スポーツツーリズムの実際について議論を深める。	4時間
第9回	**振り返りとフィードバック** 学外授業での振り返りとフィードバックを実施する。	自身の考えやソリューションについてレポートにまとめる。	4時間

SP-3211-3-2

授業科目名	スポーツビジネス実践論				
担当教員名	石井　智				
学年・コース等	3	開講時期	＊後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツビジネスの理論的な学びに加え、スポーツビジネスの現場で実際にマネジメントに携わっているゲストスピーカーを招き、実践論について講義を受ける。また、受講者が自らスポーツビジネスのマネジメント層になったつもりで実践計画を策定、発表し、講師やフロアから様々な指摘を受けることで実践的なマネジメント力が身につくとともに、プレゼン能力の向上も期待でき、将来スポーツ企業のみならず、一般企業でのキャリア形成にもつながることが可能になる講義を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP4.高度なスポーツ技能	スポーツビジネスにおける実践的なマネジメント理論を学べる	スポーツビジネスの発展を可能する実践的なマネジメント能力が身につく
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	実践的マネジメントを日々行っておられるゲストスピーカーから、多くの経験をお聞きし、マネジメントの肝を学ぶ	実践的マネジメントを日々行っておられるゲストスピーカーから、経験知を暗黙的に獲得する

学外連携学修

有り　（連携先：一般社団法人アスリートネットワーク　事業部長　高井様）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート（毎講義後提出） 30%	：	授業内容に関する理解度を確認するため、授業の最初と最後にテーマを提示してそれに対する自分の意見を記述してもらう。それを3段階で評価する
期末テスト 30%	：	授業で取り上げた専門的知識の理解度や、問題に対し論理的に答えられているか（自分の意見、結論は何か、その結論に至った経緯＝ストーリーがわかる内容であるかどうか）を評価する
スポーツビジネスマネジメント実践案プレゼン 40%	：	講義から得た知見をもとに、自分がスポーツビジネス企業のトップにたったらどんな戦略、実践計画を立てるかを考え、プレゼンしていただきます。（ゲストスピーカーからコメントをいただく予定）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツの組織文化と産業（横山勝彦、八木匡、松野光範編著　晃洋書房）2012年
スポーツ・マネジメント理論と実務（廣瀬一郎　東洋経済新報社）2009年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
受講生は、毎授業後、与えられたテーマについて講義の内容を踏まえて小レポートを提出ください。また、中間試験と期末試験に備え、毎時間の配布資料の復習を行うなど、授業の予習と復習を行ってください。
観るスポーツ、すなわちプロスポーツや実業団スポーツをさらに面白くする、楽しくする、魅力的に見せるためには、スポーツビジネスのマネジメントが欠かせません。講義では実際にスポーツビジネスの現場、高いレベルのスポーツチームのマネジメントを行っている方々に登壇いただき、実践的なマネジメントについてお話をうかがう授業も展開したいと考えています。マネジメントを学ぶことはスポーツにとどまらず、社会にでて活躍できるスキルの獲得にもつながります。そういう意味でも、人々が求める新しいスポーツの楽しみ方を提供するにはどうしたら良いのか、という課題について一緒に考えましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日の2限

場所：　研究室

備考・注意事項：　事前に必ずアポイントメントが必要です。satoshi238@gmail.comまで連絡ください。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび、スポーツビジネスの実践的活動の概説** スポーツビジネスやマネジメントについての復習と、スポーツビジネスの実践における要点について整理し、次回からの講義やゲストスピーカーから何を学ぶのかにつてい解説する	授業後に配布及び授業を通じて作成した資料をよく読んで、自身がキーワードと考える言葉を調べてノートに書くなどして理解を深める	4時間
第2回	**スポーツビジネスとは何か、実践的なマネジメントと何か** スポーツビジネスとは何かについて、定義から多様な実践についての理論的な解説を行う	授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読むことと、身近に起こったマネジメントについてノートに書いておく	4時間
第3回	**プロスポーツリーグのマネジメントにおける実践論１** 日本初のプロスポーツリーグといわれたJリーグのリーグのマネジメント、ビジョンや戦略、組織マネジメントについて、本学の学長で前のJリーグ理事を務められたことがある大河学長へのインタビューを交えながら明らかにすることによって、実践的なマネジメントが学ぶことができる。	プロスポーツのマネジメントについて復習しておくことと授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めること、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第4回	**スポーツアスリートのマネジメント実践論** プロスポーツアスリートをマネジメントする組織やその実践を題材に、スポーツやアスリートの価値を向上させるためには、顧客（消費者）＝ファンにどのようなベネフィット（便益）を提供するのか、その結果アスリート自身の価値の向上にどうつなげていくのかについて学習する。（ゲストスピーカー予定）	トップアスリートのマネジメントを行っている企業を調べ、活動内容を把握しておく	4時間
第5回	**プロ野球のマネジメント実践論** プロ野球（NPB)における某チームのビジネスモデルやマネジメントを概観しながら、新人の獲得、育成・強化、チームマネジメント・プロモーションを理解できる（ゲストスピーカー予定）	スポーツイベントや施設の経済効果について復習しておくことと、授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第6回	**スポーツ用品ビジネスのマネジメント実践論** ブランドとは商品の差別化による競争優位を生み出すなど企業と顧客との信頼関係であるといえる。それはどのようにすれば実現するのか？実際のスポーツ用品産業企業のブランディング戦略やその歴史を学びながら、「ブランド価値」についての理解を深めることができる。（ゲストスピーカー予定）	授業後にスポーツマーケティングミックスについて自分なりに調べることと、配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第7回	**プロスポーツチームのスポンサー企業のマネジメント実践論** マーケティング戦略のひとつであるスポンサーシップの本質について、広告との比較などから学ぶことができる。また、企業はなぜスポーツにスポンサードするのかを考察することを通じて、企業におけるスポーツ価値についての理解を深めることができる。（ゲストスピーカー予定）	授業後に配布資料をよく読み、コアプロダクトとカスタマーサービスについて復習しておくこと	4時間
第8回	**オリンピックにおける競技強化のマネジメント実践論** オリンピックや国際大会を戦う「ナショナルチーム」はいかにしてマネジメントすることがチームを強くすると同時に、国民の共感を得ることができるのか、という課題について、本学の元副学長で東京オリパラ2021のバレーボール強化委員長を務められた鳥羽先生のお話から課題解決の方法論が理解できる。	授業後にスポーツプロダクトのブランディングについて自分でも調べること、また、授業後に配布及び授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、そしえ身近なマネジメントを探してみる	4時間
第9回	**プロスポーツリーグのマネジメント実践論２** 日本におけるバスケットボールのプロリーグ、Bリーグのリーグのマネジメント、ビジョンや戦略、組織マネジメントについて、本学の学長で前のBリーグチェアマンの大河学長へのインタビューを交えながら明らかにすることによって、実践的なマネジメントが学ぶことができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップについて復習しておくこと	4時間
第10回	**スポーツチームの法的実践論** 現代社会のみならず、スポーツの世界において、コンプライアンスやハラスメントはスポーツチームの存続やアスリートの活動継続について大きなリスクといえる。法的な知識を得ること、法的リスクに対応できる仕組みを作ることはチームやリーグの最大のリスクヘッジとなると考えられる。その方法論について理解することができる。（ゲストスピーカー予定）	授業前に配布され授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んで理解を深めることと、身近なマネジメントを探してみる	4時間
第11回	**スポーツビジネス・マネジメント実践案のプレゼン１**	授業後に配布資料をよく読み、計画と組織化について復習しておくこと	4時間

	いままでの講義における学びから、受講者が自らプロスポーツチームなどのスポーツビジネス実践者となった場合、自チーム、組織、アスリートの価値を向上させ、組織の持続可能な発展を実現するようなアイデアを資料にまとめプレゼンしてもらう。それに対して、講師やフロアの受講生が意見交換を行い、学びのさらなる定着を目指す（アクティブラーニング）		
第12回	**スポーツビジネス・マネジメント実践案のプレゼン２** 11回目と同様、講義における学びから、受講者が自らプロスポーツチームなどのスポーツビジネス実践者となった場合、自チーム、組織、アスリートの価値を向上させ、組織の持続可能な発展を実現するようなアイデアを資料にまとめプレゼンしてもらう。それに対して、講師やフロアの受講生が意見交換を行い、学びのさらなる定着を目指す（アクティブラーニング）	スポーツチームや組織がどうすれば望ましいパフォーマンスを創造することができるのかを考えるとともに、授業前に配布し授業を通じて作成したしたワークシートをよく読んでヒントを得ること、そして身近なマネジメントを探してみる	4時間
第13回	**スポーツビジネス・マネジメント実践案のプレゼン３** 12回目と同様、講義における学びから、受講者が自らプロスポーツチームなどのスポーツビジネス実践者となった場合、自チーム、組織、アスリートの価値を向上させ、組織の持続可能な発展を実現するようなアイデアを資料にまとめプレゼンしてもらう。それに対して、講師やフロアの受講生が意見交換を行い、学びのさらなる定着を目指す（アクティブラーニング）	自分以外の受講生の発表から、自分のアイデアに取り込みたいアイデアについてそれはなぜかを考えてみる	4時間
第14回	**まとめと総評** 13回それぞれのトピックスをダイジェストで説明することにより、スポーツビジネスやマネジメントを実践する際のポイントなどができる。また、期末試験の目的を加えることによってこの講義の狙いがさらに理解できるようになる。	これまでの配布資料および読み物を整理し、期末試験に備え、事前に質問を準備する	4時間

SP-3212-3-2

授業科目名	**スポーツ消費者行動論**				
担当教員名	山本　達三				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

人々の運動やスポーツへの関わり方は、個々人のライフスタイル、価値観、体力・技術レベル、家計状況、社会的環境等によって異なり、多様である。人々のスポーツ消費行動に影響する要因（個人的・社会的要因）や消費行動パターンとそれらの関係・関連について理解しておくことは、スポーツの普及振興・健康増進運動の推進・スポーツサービスのマネジメント・スポーツサービスのマーケティングにとって必要不可欠である。本講では、スポーツ消費者の意思決定過程における心理と行動について、社会科学的・行動科学的・心理学的な立場からの理論を学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ消費者の意思決定過程の心理と行動に関する理論の理解	スポーツ消費者行動に影響を与える，事前期待，知覚期待・知覚価値，消費者満足、動機付け理論、エクイティ，消費者関与，ロイヤルティの理論と測定方法を理解できるようになる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	スポーツ消費者行動の実際の測定方法と統計解析法の理解	スポーツ消費者行動の実際の測定方法と研究における解析方法を理解できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・eラーニング、反転授業

D201、D202などのパソコン教室で、スポーツ消費者の心理と行動に関する理論と実際の測定方法、統計解析方法などを網羅的に学習する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

小テスト，期末テスト，いずれも持ち込み不可．また，評価にあたっては，以下のような独自のルーブリックを用いて評価する【基礎的な知識・技能の習得(70%)，思考力・判断力・表現力(30%)】

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30%	： 毎授業内容について授業最後に理解度テストを実施する．
定期テスト	70%	： 持ち込み不可の定期テストを実施する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017年.
『消費者行動論』マーケティングとブランド構築への応用，青木幸弘など，有斐閣アルマ，2015年.
『新・消費者理解のための心理学』杉本徹雄，福村出版，2015年.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「スポーツマネジメント概論」「スポーツマーケティング論」を単位取得済みで、かつスポーツビジネスコースに所属している学生のみ履修可能である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3限

場所： B311

備考・注意事項： 事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください．
yamamoto-tatsu@bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツマーケティングとスポーツ消費者行動** スポーツマーケティングにおけるスポーツ消費者行動の枠組みを理解する	スポーツ消費者行動について理解を深め、翌週の小テストに備える	4時間
第2回	**スポーツ消費者の購買意思決定プロセスにおけるインターネットやSNSの影響と消費者行動の変化** スポーツ消費者の消費者の購買意思決定プロセスにおけるインターネットやSNSの影響や消費者行動の変化について学ぶ	スポーツ消費者に対するインターネットやSNSの影響による行動の変化の理解を深め、翌週の小テストに備える	4時間
第3回	**スポーツ消費者の情報処理の基本的なメカニズム** スポーツ消費者の情報処理の基本的なメカニズム、AIDA・AIDMA・AISASの理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	スポーツ消費者の情報処理の基本的なメカニズムについて理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第4回	**スポーツ消費者の購買意思決定プロセス** スポーツ消費の購買前情報処理、購買時の情報処理（購買意思決定関与）、購買後の情報処理（認知的不協和）について学ぶ	スポーツ消費者の購買意思決定プロセスについて理解を深め、翌週の小テストに備えること．	4時間
第5回	**スポーツ消費者の事前期待・事後評価** スポーツ消費者の消費行動に対する事前期待・事後評価の理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	スポーツ消費者の消費行動に対する事前期待・事後評価について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第6回	**スポーツ消費者の知覚品質・知覚価値・顧客満足** スポーツ消費者の知覚品質・知覚価値・顧客満足の理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	スポーツ消費者の知覚品質・知覚価値・顧客満足について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第7回	**スポーツ消費者とロイヤルティ・コミットメント** スポーツ消費者とロイヤルティ・コミットメントの理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	スポーツ消費者とロイヤルティ・コミットメントについて理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第8回	**スポーツ消費者とブランドエクイティ** スポーツ消費者とブランドエクイティの理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	スポーツ消費者とブランドエクイティについての理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第9回	**スポーツ消費者関与** するスポーツ・みるスポーツに関する消費者関与（IP,PII，PCM，製品関与，知覚リスク）理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	スポーツ消費者関与について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと	4時間
第10回	**スポーツ観戦者行動と観戦心理（１）** スポーツ観戦行動に関する変数（デモグラフィック変数・観戦行動変数（エスカレーターモデル，応援チーム，同伴者，移動手段，移動時間，交通費，チケット入手）に関する理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	スポーツ観戦者行動と観戦心理について理解を深め，翌週の小テストの準備をしておくこと．	4時間
第11回	**スポーツ観戦者行動と観戦心理（２）** 観戦動機・チームアイデンティフィケーション・チームレピュテーション・ファンコミュニティアイデンティティ・地域愛着・選手愛着・スタジアム愛着・試合満足・サービス満足・再観戦意図の理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	スポーツ観戦者行動と観戦心理について理解を深め、翌週の小テストに備えておくこと	4時間
第12回	**するスポーツの消費者行動と心理（１）** スポーツ参加における，サービス支出・財支出・実施頻度・支払意思額・スポーツサービス評価・満足度評価（ACSI・JCSI）・愛着・顧客価値，経験価値の理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	するスポーツの消費者行動と心理について理解を深め、翌週の小テストに備えておく	4時間
第13回	**するスポーツの消費者行動と心理（２）** スポーツ参加動機・動機づけ理論（内容理論・過程理論）・自己効力感・集団効力感・集団凝集性・パーソナリティ特性・ライフスタイル特性、理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ	するスポーツの消費者行動と心理について理解を深め、翌週の小テストに備えておく	4時間
第14回	**総括：スポーツ消費者行動モデルの実際の分析** スポーツ消費者行動モデルの実際の統計モデルでの分析と解釈	スポーツ消費者行動モデルの実際の統計モデルでの分析と解釈についての学びを深め、定期試験に備える	4時間

SP-3213-3-2

授業科目名	**スポーツビジネス広報論**				
担当教員名	城島　充				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

スポーツの魅力を伝えるのは、メディアだけの役割ではない。プロスポーツチームや社会人チームはもちろん、アマチュアのスポーツ団体、あるいはオリンピックのようなメガイベントでも、自分たちの活動をいろんな形で発信していく広報の枠割が重要視されている。本授業では、それぞれのケースに応じた広報の在り方について、過去のさまざまな事例や、そのときどきに注目されるスポーツシーンを通じて広報の役割を検証するとともに、SNSをはじめとする情報ツールの発達で今後の広報に求められる要素について学びたい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツの意義をどう社会に伝えるか。そのノウハウをさまざまな視点から習得する。	スポーツ広報の戦略について学び、未来にあるべき姿を提案していく。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各授業時の提出課題 100%	：	講義内容の理解度について毎回小レポートを提出し、それぞれの講義テーマで、スポーツ広報についての見識をどこまで深めたかを問う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

新聞や雑誌記事のコピー、記者会見の様子をおさめた映像などを活用する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。
『授業外学修課題』に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業実施教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび、スポーツ広報の役割について** スケジュールや評価方法、講義の進め方などを説明し、スポーツ広報がどのような形で新聞や雑誌記事、テレビのニュースで報じられていくのか。広報が持つ幅広い役割について問題意識を持つ。	講義の内容をしっかりと復習しておく。	4時間
第2回	**プレスリリースの作り方** 実際のスポーツ現場でどのような形で広報という仕事が行われているのか。プレスリリースされた資料をもとに学ぶ。	プレスリリースの役割についてしっかりと復習しておくこと	4時間
第3回	**プロスポーツチームの広報について** バスケットボールのプロチームであるレイクスターズの広報担当者をゲストスピーカーとして招き、実際にどのような広報活動をしているのか、その実践報告から学ぶ。	ゲストスピーカーの実践例を理解し、しっかりと復習しておくこと。	4時間

第4回	**企業スポーツの広報について** 陸上部や野球部が活躍している大阪ガスの広報担当者をゲストスピーカーとして招き、実際に企業スポーツをどのような形で広報しているのか、その実践報告から学ぶ。	ゲストスピーカーの実践例を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第5回	**スポーツ広報とマーケッティング戦略について** 広報活動の基盤となるマーケテイング戦略の重要性について学ぶ。	授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第6回	**スポーツチームのセルフメデイア化について** かつてはメディアに情報提供するのが広報の役割だったが、スポーツチームの広報がダイレクトにファンに情報提供する新しい広報戦略について学ぶ。	授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第7回	**アスリート自身による情報発信について** 所属するチームや団体とは別に、アスリート個人がSNSを通じて情報を発信する広報の形について検証、その利点や課題について学ぶ。	授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第8回	**プロスポーツチームが地域と連携するための広報戦略** 新たな本拠地でチームとしてのスタートを切ったプロ野球の日本ハムと楽天がどのような広報戦略で地域に根差していったのか、その具体的な広報手段について学ぶ。	授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第9回	**東京オリンピックを広報の視点から振り返る** 新型コロナウイルスの感染拡大で一年延期された末に開催された東京オリンピックを広報の視点から検証し、メガイベントを成功させるための広報について学ぶ。	授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第10回	**東京パラリンピックを広報の視点から振り返る** 新型コロナウイルスの感染拡大で一年延期された末に開催された東京パラリンピックを広報の視点から検証し、オリンピックとは違う理念をどう伝えたのか、歴史的な背景とともにその広報の在り方について学ぶ。	授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第11回	**地上波テレビのスポーツコンテンツに関する広報戦略** スポーツ中継の主軸だった地上波テレビが、どのようにそのコンテンツを広報してきたのか、具体的なイベントの広報戦略を検証しながら学ぶ。	授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第12回	**ネット配信メディアのスポーツコンテンツに関する広報戦略** ここ数年、様々なコンテンツを取り扱っているネット配信メディアの広報戦略について検証するとともに、従来の地上波テレビとの広報戦略の違いについて学ぶ。	授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第13回	**プレスリリースの作成** 実際のスポーツシーンをテキストに、そのチームの広報担当者としてどのような内容のプレスリリースを作成するべきなのか、実際にリリース内容を考える。	自らのアイデアで広報する感覚を理解し、しっかりと復習しておくこと	4時間
第14回	**スポーツ広報の未来図についての考察** スポーツを文化として根付かせるためには、どんな広報戦略が求められるのか。現状の課題をさまざまな視点から分析し、未来にあるべき広報戦略について学ぶ。	未来のスポーツ広報の在り方について考え、しっかりと復習しておくこと	4時間

SP-3214-3-2

授業科目名	スポーツスポンサーシップ（スポーツスポンサーシップ）				
担当教員名	石井　智				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツとスポンサーシップの密接な関係性の理解を深め、スポンサーシップの戦略的販売方法の理解と効果的なプレゼンスキルを身につけることを主な目的とする。扱うトピックスは、スポンサーシップの合理性、スポンサーシップによる戦略的コミュニケーション、スポンサーシップのパッケージ販売、そしてスポンサーシップの評価などである。さらに、学期末に予定されているスポンサーシップ・プロポーザルの作成および、発表を通して、スポーツ組織がスポンサーを獲得するプロセスについて実践的な理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	優良な企業に継続的なスポンサーになってもらうため、スポーツビジネスのスタッフとして必要な戦略策定からプレゼンまでのスキルの獲得	企業からスポンサーシップを獲得するために必要な戦略策定能力とプレゼン能力を身に付けることができる
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ団体や企業、行政が、それぞれの新たな価値創造を進めることが可能なスポンサーシップの理解	スポーツ組織（チーム）、企業、行政が今後創造すべき社会における価値を創造するスキルを身につけることができる。

学外連携学修

有り　（連携先：大阪ガス株式会社）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の講義の理解度をチェック	30%	： 毎回の講義の内容の理解度を、①テーマに沿ったキーワードを適切に使用しているか、②課題の解決策について、自身の意見をわかりやすく記載されているかという視点でレポートを作成する
期末レポート	30%	： この講義における理解度を、①テーマに沿ったキーワードを適切に使用しているか、②課題の解決策について、自身の意見をわかりやすく記載されているかという視点で、記述式テスト（30点満点）で評価する。
スポンサーシッププランの発表	40%	： 興味・関心のあるテーマについて発表した内容について、①テーマに沿ったキーワードを適切に使用しているか、②発表が聞き取りやすくストーリーがわかりやすいか、③独創的な提案がを40点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

「スポーツマネジメント概論」、「スポーツ産業論」、「スポーツマーケティング論」を履修していること。
世界全体のスポンサーシップ市場の約７０％がスポーツによって占められているといわれています。スポーツ関連のスポンサーシップ市場の成長は、企業がスポーツを通じたコミュニケーション戦略の効果を認めていることに他なりません。スポーツビジネスの独自性を語る上で欠かせないスポンサーシップを、是非この機会に学んでください。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびスポンサーシップの概説** 授業の目的や方法などを紹介し、スポンサーシップについて何を学ぶのか概略を理解できる。	授業後、初回の配布資料をよく読み、復習しておくとともに新聞などで「スポンサーシップ」に関連する記事を確認する	4時間
第2回	**スポンサーシップの基礎的理解** スポンサーシップの概要をはじめ、スポーツスポンサーシップ研究の範疇、定義、発展の背景など基礎的な理解を深めることができる。また、事例をもとにスポーツ界におけるスポンサーシップについて学ぶことができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップの基本的な仕組みについて復習する	4時間
第3回	**スポンサーシップを通じたマーケティング活動** マーケティング戦略の一環であるスポンサーシップ獲得戦略の概要や、スポーツ組織がスポンサーシップを通じてできるマーケティング活動について学習することができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップを通じたマーケティング活動について復習する	4時間
第4回	**「スポンサーシップ」対「広告」** 「スポンサーシップ」と「広告」の事例を比べることで、それぞれの目的の違いを理解することができる。また、企業としてその違いをどう認識し、使い分けているのかを理解し、スポーツ組織として企業のスポンサーシップ戦略を効果的に遂行するための方法論をどう考えていけば良いかを理解することができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップと広告の違いについて復習する	4時間
第5回	**スポンサーシップ・パートナーシップ** スポーツ組織にとって協賛企業は友好的で有益なパートナーであることは当然だが、協賛企業にとってもスポーツ組織が有益なパートナーシップを構築する存在でなければならない。そのための考え方と具体論について理解することができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップ・パートナーシップについて復習しておくこと	4時間
第6回	**スポンサーシップ・プロポーザル** スポンサーシップの企画書の核となるプロポーザルの効果的な構成について理解することができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップ・プロポーザルについて復習する	4時間
第7回	**スポンサーシップの販売戦略** スポンサーシップの販売戦略について、アメリカのメジャーリーグの事例を学習しながら理解を深めることができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップの販売戦略について復習する	4時間
第8回	**スポンサーシップの評価** スポンサーシッププランを実行した結果、企業はどのように結果になれば「評価」するか、という点について理解することができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップの評価について復習する	4時間
第9回	**スポンサーシップにおける留意点** スポンサーシッププランを立案し、販売し、実行し、評価する際の留意点について学習し、効果的なスポンサーシップ・プロポーザルのスキルを身に付けることができる。	授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシッププランにおける留意点について復習する	4時間
第10回	**アンブッシュ・マーケティング** スポンサー契約を結びスポーツに協賛する企業のスポンサー活動を妨害するアンブッシュ・マーケティングの存在について学習し、スポーツマネジメントにおけるコンプライアンスの重要性について理解することができる。	授業後に配布資料をよく読み、アンブッシュマーケティングについて復習する	4時間
第11回	**プロポーザルのプレゼンテーションの準備** グループに分かれて、それぞれ任意のスポーツ組織を想定しそれぞれにスポンサーシップ・プロポーザル資料を作成することができる。プロポーザルの手法を学ぶことによってグループごとにスポンサーシップ・プロポーザルのプレゼンテーションの準備を行うことができる。	グループメンバーと議論するとともに、協力してプロジェクトを進めることで、企画力に加え、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション能力を鍛えられるようになる	4時間
第12回	**スポンサーシップ・プロポーザルの発表：第一グループ** グループプロジェクトとしてスポンサーシップ・プロポーザルを発表する（１週目）。他のグループは企業スタッフとしてどのように評価するかを考え、プロポーザル後にディスカッションを行う。これによって、プレゼンの内容やスキルについての力を身につけることができる。	グループメンバーと議論するとともに、協力してプロジェクトを進めることで、企画力に加え、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション能力を鍛えられるようになる	4時間
第13回	**スポンサーシップ・プロポーザルの発表：第二グループ** グループプロジェクトとしてスポンサーシップ・プロポーザルを発表する（２週目）。他のグループは企業スタッフとしてどのように評価するかを考え、プロポーザル後にディスカッションを行う。これによって、プレゼンの内容やスキルについての力を身につけることができる。	グループプレゼンテーションに向け、発表内容だけでなく、適切なプレゼンテーション方法（言語、非言語コミュニケーション）およびグループワークについて実践的に学習すること	4時間
第14回	**まとめと総評**	グループプレゼンテーションに向け、発表内容だけでなく、適切なプレゼンテーション方法（言語、非言語コミュニケーション）およびグループワークについて実践的に学習すること	4時間

スポーツスポンサーシップを総括することによって、期末試験のレビューを行うことができる		

SP-3215-3-2

授業科目名	スポーツ施設イベントマネジメント（スポーツ施設イベントマネ				
担当教員名	吉倉　秀和				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、スポーツ施設の現状やマネジメント手法に加え、国内外におけるスポーツイベントの現状やそのビジネスモデルについて理解し、また、実際のスポーツイベントを視察することによって、参加者や観戦者が求めるスポーツイベントのあるべき姿について考察を行うことを本授業の目的とする。

スポーツ施設やスタジアムのマネジメントを中心に、スポーツイベントやトップスポーツチームによる興行と施設マネジメントとの関連に着目し、スポーツイベントに関する知識の集約や理解、マネジメント手法の学習をおこなう。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ施設マネジメントに関する知識	スポーツ施設運営に関する基本的知識について理解できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツイベントマネジメントに関する提案	魅力あるスポーツイベントに関する提案をプレゼンテーションを通じて発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小レポート	20%	： 講義内容を踏まえ、自身の考えや意見について論じることができているか。
中間レポート	40%	： 講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に記述されているか。
プレゼンテーション	40%	： 講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に構成されたプレゼンテーションが出来ているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「公共スポーツ施設のマネジメント」間野義之，体育施設出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

「スポーツマーケティング」「スポーツ産業論」を履修済（単位修得済）であること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**施設をマネジメントするとは？** この授業におけるミッションとビジョンについて解説する。	施設マネジメント概論について復習しておくこと。	4時間
第2回	**スポーツ施設の現状** スポーツ施設の現状を数量的データから明らかにする。	配布資料をもとに、現状に関する論点整理をしておくこと。	4時間
第3回	**スポーツチームとスポーツ施設** スポーツチームにおける施設利用について、プロチームとトップチームの比較を行い、解説する。	スポーツチームにおける施設利用に関する問題点を復習しておくこと。	4時間
第4回	**公共スポーツ施設整備の可能性①** 公共スポーツ施設における整備に関する法律や問題点について、施設管理制度の中から指定管理者制度、管理許可制度について解説する。	各制度に関する用語について、その意味も含めながら復習しておくこと。	4時間
第5回	**公共スポーツ施設整備の可能性②** 公共スポーツ施設における整備に関する法律や問題点について、施設管理制度の中からPFIについて解説する。	PFIに関する一連の流れについて、配布資料を参考にしながら復習しておくこと。	4時間
第6回	**プロおよびトップスポーツチームによる興行** スポーツ興行における施設利用について、特にチームと行政との連携の視点から解説する。	スポーツ興行における問題点について、再度整理しておくこと。	4時間
第7回	**公共スポーツ施設と地域との関係性** 地域における公共スポーツ施設の役割やその関係性について、総合型地域SCの利用やスポーツ施設の建設や改築が周辺地域に及ぼす地域イノベーションの観点から解説する。	地域イノベーションがもたらす効果について、配布資料をもとに復習しておくこと。	4時間
第8回	**スポーツ施設（スタジアム）と都市の関係性** スタジアムの隆盛が都市の発展に影響を及ぼすことについて、いくつかの事例を用いて解説する。また、施設における代表的な権利の一つであるネーミングライツについて、その定義と効果について解説する。	ネーミングライツに関する問題点と将来展望について、自身の考えをまとめておくこと。	4時間
第9回	**スポーツイベントの現状** スポーツイベントの現状について、資料をもとに解説する。	スポーツイベント概論について、キーワードの意味も踏まえながら復習しておくこと。	4時間
第10回	**スポーツイベントのミッション・ビジョン** スポーツイベントのミッション・ビジョンについて、資料をもとに解説する。	ミッション・ビジョンの定義について、配布資料をもとに理解しておくこと。	4時間
第11回	**スポーツイベントのビジネスモデル** スポーツイベントのビジネスモデルについて、全体像の把握、収入面、支出面から解説する。	ビジネスモデルを復習しながら、規模の違いによる問題点などを復習すること。	4時間
第12回	**スポーツイベントの集客戦略** スポーツイベントの集客戦略について、全体像の把握や様々なアイデアによる成功例を呈示し、その戦略について解説する。	集客戦略における効率性について、自身の見解をまとめること。	4時間
第13回	**継続的なスポーツイベントの開催の重要性** 求められるスポーツイベントの理想とは何かについて、ディスカッションを行う。	スポーツイベントの理想の現実のギャップについて、自身の考えをレポートすること。	4時間
第14回	**プレゼンテーション** これまでの授業内容を踏まえ、未来のスポーツ施設イベントマネジメントに関するプレゼンテーションを行う。	スポーツ施設とスポーツイベントの効果的な使い方について、配布資料をもとに、自身の考えをレポートすること。	4時間

SP-3216-3-2

授業科目名	スポーツマネジメント特別講義（スポーツマネジメント特別講義				
担当教員名	城島　充				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

トップアスリートやリーグ機構、チームに対し、どのようなマネジメントがなされているのか。その現状を過去の歴史と重ねて考察する。トップアスリートたちのマネジメントのほか、バスケットボールのＢリーグや卓球のＴリーグのリーグマネジメント、企業スポーツや障害者スポーツのマネジメントも取り上げ、スポーツの価値を高めるマネジメントのあり方について学ぶ。スポーツを取り巻く環境はあらゆる面で変化し続けており、オリンピックを含めてそのときどきにクローズアップされた話題についても、考察の対象としていきたい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	プロスポーツクラブのマネジメント，チームマネジメント，リーグのマネジメントに関する基礎的，専門的な知識の習得。	プロスポーツクラブのマネジメント，チームマネジメント，リーグのマネジメントに関する問題点や課題を理解出来る。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツのマネジメントをめぐる多様な活動の分析。	スポーツの価値を多面的に考えられる知識と感受性を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎授業時の小レポート	100%	： 授業のテーマにあわせた小レポートを提出してもらい、到達目標と関連させ、トータル100点満点で評価する.

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
マネジメントの観点から、スポーツの魅力、未来について考察を深めていきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及び特別講義の概説** スポーツマネジメントの概説および国内外のチームマネジメント・リーグマネジメント、アスリート個人に対するマネジメントの現状を理解する。授業内に小レポートを提出する。	配布資料を読み返し，国内外のチームマネジメント・リーグマネジメントの現状について復習しておく.	4時間

第2回	**アスリートの価値を高めるマネジメント** テニスの錦織圭選手や卓球の福原愛選手、水谷隼選手、車椅子テニスの国枝慎吾選手らトップアスリートたちはどんな形でマネジメントを受けているのか。教員の取材体験から検証するとともに、個人のアスリートの活動に対してマネジメントの概念がなかった時代との比較検証も行いたい。授業内に小レポートを提出する。	配布資料をよく読み返し，トップアスリートを取り巻くマネジメントの実態について復習しておく	4時間
第3回	**アスリートのマネジメントとメディアの関係** メディア対応の側面からマネジメントを考える。中田英寿や前園真聖のマネジメントに乗りだし、アスリートのマネジメントに新たな時代を切り開いたサニーサイドアップの次原悦子社長のアプローチがメディアに与えたインパクト、メディアとアスリートの関係性の具体的な変化について検証する。授業内に小レポートを提出する。	配布資料をよく読み返し，マネジメントのメディアの関係について復習しておく	4時間
第4回	**企業によるスポーツマネジメント** 日本のスポーツを長く支えてきた企業マネジメントについて検証する。冬季オリンピックに８大会連続で出場している〝レジェンド〟スキージャンプの葛西紀明選手が所属してきた企業を実例として研究したい。また、義足のパラ陸上選手の高桑早生ら障害者アスリートを積極的に雇用しているエイベックスのマネジメントについても考察する。授業内に小レポートを提出する。	配布資料をよく読み返し，企業スポーツの現状について復習しておく	4時間
第5回	**プロボクシング興行とマネジメント** 日本のスポーツ界のなかでも、マネジメントの問題が常に噴出しているプロボクシング界の現状を検証する。ジムの会長がボクシング興行のプロモーターを務める日本特有のジム制度の利点と弊害のほか、オリンピックの金メダリスト、村田諒太がもたらしたボクシング界では革命的なマネジメントについても考察していきたい。授業内に小レポートを提出する。	配布資料をよく読み返し，プロボクシング界のマネジメントについて復習しておく	4時間
第6回	**グループディスカッション～スポーツを発展させるマネジメントについて** これまでの授業で考察したアスリートのマネジメントや、企業マネジメント、ボクシング界の問題について、どうすればそれぞれの競技の発展につながるマネジメントができるのか。どれか一つに焦点を絞り、具体的なプランについてグループで議論する。その成果を全員がレポートとして授業内に提出する。	提出したレポートを教員が添削するので、指摘されたポイントをしっかり把握しておく	4時間
第7回	**卓球のプロリーグ『Ｔリーグ』のリーグマネジメントとチームマネジメント** 松下浩二・チェアマンがプロリーグ構想を思いついた発想の原点は、スウエーデンのファルケンベリという小さな卓球クラブである。なぜ、日本の卓球界にプロリーグが必要だったのか。どんな体制でリーグをマネジメントしていくのか。教員が松下チェアマンにインタビューした内容を軸に、Ｔリーグが発足するまでに日本の卓球界が向き合った課題や、リーグの構想を軸にした卓球界の未来について考える。また、リーグに加盟したチームはどんな形でマネジメントされているのか。ＴＴ彩玉の取り組みを題材に、チームマネジメントの現状について考察すする。授業内に小レポートを提出する。	配布資料をよく読み返し、Ｔリーグの成り立ちについて復習しておく	4時間
第8回	**卓球のプロリーグ『Ｔリーグ』の課題** 松下チェアマンに加え、水谷隼や張本智和、石川佳純、参戦しなかった伊藤美誠らの発言を検証しながら、東京五輪開幕を控え、2シーズン目に入ったＴリーグの課題を見つけていく。授業内に小レポートを提出する。	配布資料をよく読み返し，Ｔリーグに対する選手たちの反応について復習しておく．	4時間
第9回	**歴史を変えたアスリートのマネジメント** 日本人で初めてアメリカプロバスケットボールリーグ（ＮＢＡ）にドラフト指名された八村塁の活躍は、どんなマネジメントに支えられているのか。その存在がもたらす広告効果もふまえ、突出したアスリートを取り巻く環境を総合的な視点から検証する。	配布資料をよく読み返し，ＮＢＡのチームマネジメントや八村塁に対する報道について復習しておく．	4時間
第10回	**グループディスカッション～Ｔリーグを発展させるマネジメントについて考える** 卓球のTリーグを発展させていくのは、どのような形のマネジメントが望ましいのか。グループ別に議論してもらい、その成果を授業内にレポートとして提出する。	提出したレポートを教員が添削するので、指摘されたポイントをしっかり把握しておく	4時間
第11回	**地域に根ざしたプロチームのマネジメント** 東京の後楽園球場から札幌へ本拠地を移したプロ野球北海道日本ハムファイターズの取り組みを、当時の球団社長だった藤井純一氏やイベント担当者らのインタビューを軸に検証する。同じく北海道を拠点とするBリーグのレバンガ北海道のケースも、社長兼選手として活躍する折茂武彦氏の言葉から考察したい。授業内に小レポートを提出する。	配布資料をよく読み返し，北海道のプロスポーツチームのマネジメントについて復習しておく．	4時間
第12回	**障害者スポーツのマネジメント** 会社内に障害者陸上チーム「ワールドアスリートクラブ」を立ち上げた岡山の人材派遣会社の取り組みを検証する。同クラブに所属する車椅子陸上世界選手権金メダリストの佐藤友祈選手の活躍とチームのサポートを具体的に紹介、日本の障害者スポーツの歴史と重ねながら、2020年の東京パラリンピックに向けた課題について考察を深めたい。授業内に小レポートを提出する。	配布資料をよく読み返し，障害者スポーツのマネジメントについて復習しておく．	4時間
第13回	**地域のスポーツ文化を育てるマネジメント**	配布資料をよく読み返し，地域でプロスポーツチームを根付かせていくアプローチについて復習しておく。	4時間

	プロスポーツがなかった地域に、どうやってスポーツ文化を根付かせていくのか。サッカーJリーグの新潟アルビレックス、バスケットBリーグの滋賀レイクスターズを対象にその取り組みを調べ、研究する。授業内に小レポートを提出する。		
第14回	**総括。東京オリンピック・パラリンピックについて** 一年の延期が決まった東京オリンピック・パラリンピックの動きを追いながら、新型コロナウイルスを意識したスポーツマネジメントの在り方について考察する。授業内に小レポートを提出する。	提出したレポートを教員が添削するので、指摘されたポイントをしっかり把握しておく	4時間

SP-3301-3-1

授業科目名	健・トレ基礎演習Ⅰ				
担当教員名	佃・小松・高橋・禰屋・秋武・武田・田中・村瀬				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	整形外科医としての活動、JOC強化スタッフトレーナーとして活動、スポーツ科学者として日本とシンガポールのエリート競技サポート、日本セーリング連盟管理栄養士として2012年と2016年五輪の帯同などの実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

本科目では、健康・トレーニング科学で学ぶ基礎的知識や技能を習得することを目的とする。前半は、グループに分かれて所属教員それぞれより医学、運動生理学、栄養学、トレーニング学領域の知識や技能を習得する。後半は、卒業論文の作成に必要な学術論文の要約や代表的な統計処理の手法等を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	卒業論文の作成に向けた、課題設定やその解決方法を考えることができるための知識や技能を習得する	医学、運動生理学、栄養学、トレーニング学領域における基礎的な知識や技能を習得し、卒業論文のための課題設定ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
領域別の授業に対する取り組み 64%	：	各教員それぞれが２回の担当授業における成果を10点満点で評価（8点×8名）する。詳細は各担当者より授業内で伝達する。
ゼミ選択と自然科学系領域の課題の理解 12%	：	ゼミ選択に向けた自己理解とゼミ選択に向けた学習課題（6点×2回）。
ゼミナール形式の専門領域学習の取り組み 24%	：	ゼミ選択・専門領域における学習成果を24点満点で評価する。（6点×4回）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**健康とトレーニング科学の学問領域を理解し、自らの志向性と関連分野との関係性とそれらに必要な基礎的知識について理解を深める** 授業の進め方および到達目標や成績評価等について確認する．前半授業では，第2回目～9回目までは，8つのグループに分かれて，各教員の授業を受ける．翌週からのグループ分けと実施場所，準備物等を確認する．授業の進め方と到達目標および成績評価について確認する．特にレポート課題での評価の観点について理解する．	次週から始まる内容のうち，興味深いことについて予習をする．	4時間
第2回	**身体活動量の測定結果およびその解釈（秋武）** 身体活動量測定機器を用いて，座位行動，低強度身体活動，中高強度身体活動，歩数を計測する．正しい、身体活動量の測定方法を学ぶ．	身体活動量METsについて，学習しておく．	4時間
第3回	**関節可動域（ROM）の正確な計測と柔軟性の評価の実践（小松）** 角度計（ゴニオメーター）を用いて各関節の正確なROMの計測方法を学び，それを実践する．また筋タイトネス，関節弛緩性の正しい評価方法を学び実践する．それぞれの測定結果を記録し，計測手技の習得状況の確認を最終的に行う．	測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと．	4時間
第4回	**動作の撮影方法の習得（高橋）** 動作分析を行う上で欠かせない、動作の撮影方法を学修する。高速度カメラ、モーションキャプチャーシステムなどの使用方法、ならびに実験の際のキャリブレーション方法などを習得する。	撮影したい動作、およびどのようなパラメータを算出したいかを考えておく。	4時間
第5回	**アスリートの食事　食事調査について（武田）** 身体活動量，体格，競技特性を考慮した食事計画について学ぶ．実際の食事を評価するための手法について学び自身の食事調査を行う．	**	4時間
第6回	**姿勢と柔軟性：関節別アプローチ（田中）** 関節別アプローチの概念を理解する．	関節の形状、代表的な筋の名前について復習しておく	4時間
第7回	**さまざまな筋力の評価（佃）** 筋収縮の特性や関節の可動範囲における筋出力の特性について学ぶ．筋の張力を正確に測る方法があるのかや筋力測定方法における限界や注意事項を理解する．	関節の回転運動を用いた筋力測定について復習する．	4時間
第8回	**有酸素性運動と無酸素性運動の評価方法（霜屋）** 有酸素性運動中の酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度を測定し，有酸素運動時の運動強度評価の方法を学ぶ．無酸素性運動について，スプリントのパフォーマンス評価の方法を学ぶ．	取得したデータから酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度と運動負荷の関係を整理しておくこと．	4時間
第9回	**バイオマーカーの測定意義と評価（村瀬）** 生体試料についてその採取方法，測定方法を学ぶ．また測定結果をどのようにトレーニング計画に反映するか，その方法を学ぶ．	データセットの分析結果から、自身の体調に影響する要因についてレポートを作成する。	4時間
第10回	**教員によるゼミナール紹介** コース教員の取り扱いテーマを基に、自己の専門領域の関連性や具体的な研究課題について理解を深める． 他者やグループでのディスカッションにより、自己の興味のある専門領域と関連する領域における研究課題について思考を深める．	興味のある分野を考え，コース面談表を完成させる	4時間
第11回	**専門領域演習①** ゼミナール形式に分かれて、指導教員と研究領域についてのディスカッションを行う．	課題レポートを作成する	4時間
第12回	**専門領域演習②** ゼミナール形式に分かれて、指導教員と研究課題についてのディスカッションを行う．	課題レポートを作成する	4時間
第13回	**専門領域演習③** これまでのディスカッションから、後期に取り組む研究や実践的課題研究の計画を行う	講演内容を復習し，どのようにいかしていくか具体的に考える．	4時間
第14回	**専門領域演習④** これまでのディスカッションから、後期に取り組む研究や実践的課題研究の計画と倫理申請などの手続きを行う	研究計画書を作成し、必要な倫理申請書類を完成させる	4時間
第15回	** **	**	4時間
第回			4時間
第回			4時間
第回			4時間
第回			4時間
第回			4時間
第回			4時間
第回			4時間

第回		4時間
第回		4時間
第回		4時間
第回		4時間
第回 .		4時間

SP-3303-3-1

授業科目名	健康・トレーニング科学専門実習Ⅰ（身体開発専門実習Ⅰ）				
担当教員名	佃・小松・高橋・禰屋・秋武・武田・田中・村瀬				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当者は、整形外科医として医療行為を行い、スポーツ科学者として日本およびシンガポールのエリート競技者のサポートに従事し、日本セーリング連盟管理栄養士として2012年と2016年の五輪に帯同していた実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

運動やトレーニングによる生体への影響について，身体活動量、関節可動域評価、摂取エネルギー、姿勢と動作、筋力、運動エネルギー特性，バランス等のキーワードに関連した測定実習を行う．実習で取得したデータの整理，基本的な統計学的検定，レポートの作成，プレゼンテーションの作成の手順を学習する．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	トレーニング・健康に関する研究を実施するために必要な測定技術を学ぶ	取得したデータに基づいて、結果を整理し、考察を文章の作成やプレゼンテーションで表現できる
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	実際の運動による身体の反応を運動生理学、スポーツ栄養学、スポーツ医学、トレーニング科学などの知識を応用して総合的に理解する	身体運動が生理的、栄養学的、医学的、トレーニング科学に関連して成立していることを理解する

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業期間中の複数の実習ごとのレポートによる評価する

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各実習課題に関するレポート8種類 72%	：	データ取得時の状況，データの分析，考察の充実度について10点満点で評価する（7点×8課題、8点×2課題）
専門実習課題A、B 28%	：	データ取得の状況，データの分析，考察の内容について14点満点で評価する（14点×2課題）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること．

履修には「身体構造と機能」「体力トレーニング概論」「スポーツ栄養学概論」「スポーツ生理学概論」の単位を修得していることを推奨する

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**トレーニング科学・栄養学・医学・トレーニング科学の概説と研究倫理**	配布された資料の内容を確認し，今後の実習の計画と実習時の注意点を理解しておくこと．	1時間

	授業の内容，進め方について確認する． 実習時の安全管理のためのルールと注意事項を理解する 個人情報などデータの取り扱いに関する守秘義務や実験・各測定時の倫理的配慮について学び、必要な対応方法を学ぶ		
第2回	**身体活動量の測定（秋武）** 身体活動量測定機器を用いて，座位行動，低強度身体活動，中高強度身体活動，歩数を計測する．正しい、身体活動量の測定方法を学ぶ．	身体活動量METsについて，学習しておく．	1時間
第3回	**正確な筋力評価と徒手検査の実践（小松）** 徒手筋力テスト（MMT）による各筋肉の正確な計測方法を学び，それを実践する．また，代表的なスポーツ傷害の診断のために行う整形学的徒手検査についても実践する．測定結果を記録し，MMTおよび徒手検査手技の習得状況の確認を最終的に行う．	測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと．	1時間
第4回	**デジタイズ法の修得（高橋）** 撮影した映像から2次元および3次元の座標値を取得する、デジタイズおよび実長換算の概念と方法を学修する。	デジタイズを完了する	1時間
第5回	**アスリートの食事　身体組成とエネルギーバランスの評価（武田）** 身体活動量，体格，競技特性を考慮した食事計画について学ぶ．身体組成の測定を異なる機器を用いて行い評価する．また生活活動を記録し，エネルギー消費量を推定する．	指定された様式で食事の記録を準備する	1時間
第6回	**姿勢と柔軟性評価（田中）** 姿勢と代表的な上肢・下肢の柔軟性の測定評価を行い，各グループで向上のためのプログラムを立案する．	パフォーマンスやケガの予防と柔軟性の関係について調べておく	1時間
第7回	**立ち上がりテスト他の測定評価（佃）** 立ち上がりテスト等の筋力評価について測定方法を実習する	測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと．	1時間
第8回	**有酸素性運動と無酸素性運動の評価方法（霜屋）** 有酸素性運動中の酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度を測定し，有酸素運動時の運動強度評価の方法を学ぶ．無酸素性運動について，スプリントのパフォーマンス評価の方法を学ぶ．	取得したデータから酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度と運動負荷の関係を整理しておくこと．	1時間
第9回	**バイオマーカーの測定意義と評価（村瀬）** 唾液試料の採取方法，および試料中のバイオマーカーの測定方法について学ぶ．	取得したデータからデータセットを作成する。	1時間
第10回	**実習のまとめ** これまで作成したデータをまとめて	実習後レポートを作成する．	1時間
第11回	**骨密度の測定　秋武** 骨の発達状況を確認し、発育発達と骨密度の測定を実践する．	様々な骨密度を測定する方法を学修しておく．	1時間
第12回	**骨密度の評価　秋武** 骨密度の測定結果から，これまでの日常生活，運動，休養，栄養の観点から考察する．	基本運動の負荷の高いものと低いものを分類し、レポートを作成する	1時間
第13回	**スポーツリハビリテーションの基本　小松** スポーツ現場で行われているリハビリテーションについて負荷の高め方を理解する	基本運動の負荷の高いものと低いものを分類し、レポートを作成する	1時間
第14回	**スポーツリハビリテーションの実践　小松** 実際にスポーツ現場で行われているリハビリテーションやトレーニングについて，正しいフォームを学びながら実践する．	各グループで段階的リハビリテーションについての発表資料を準備し、発表後課題を整理する．	1時間
第15回	** **	**	1時間

SP-3304-3-1

授業科目名	健康・トレーニング科学専門実習Ⅱ（身体開発専門実習Ⅱ）				
担当教員名	佃・小松・高橋・禰屋・秋武・武田・田中・村瀬				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	滋賀県競技力向上対策本部医科学専門スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

体力要素のうち，特にトレーニングや健康分野において重要である項目について実習を通して学ぶ．身体組成の測定と評価，さまざまな筋力測定と評価，運動時の心拍数の動態把握と作図，筋の柔軟性評価を行う．３つのグループに分かれて実施するため，測定を実際に行うなど主体的に学ぶことができる．また，それぞれの項目でレポートを作成し，測定結果のまとめかたやグラフ作成および参考文献を用いた考察を行うことで，卒業論文作成に向けた準備とする．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	体力要素の測定評価	身体組成，筋力測定，心拍数測定，タイトネステストを測定し，結果を正しく評価することができる．
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	結果の視覚化（図表作成）	効果的な図表を用いて結果をまとめることができる．
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	トレーニング・健康コースでの特徴的な測定と評価	卒業論文を作成するための材料とすることができる．

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	84%	： データ取得の状況，データの分析，考察の内容について14点満点で評価する1（14点×6課題）
授業への取り組み状況	16%	： データ取得の状況，データの分析，考察の内容について8点満点で評価する（8点×2課題）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜紹介する．

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。欠席の場合は，所定の届を提出し，各自で課題を聞きに来ること．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**測定データの分析ａ** 相関係数の算出、各実習で得られるデータの視覚化について学ぶ	課題に基づき、各種のグラフ作成課題に取り組む	1時間
第2回	**キネマティクスデータ算出（高橋）** 二次元および三次元座標値を用いて、速度、角度、角速度などのキネマティクスデータを算出する。	指定された画像のデジタイズを終わらせておく	1時間
第3回	**データを元にした考察を組み立てる（高橋）** 算出されたキネマティクスデータを元に、考察を組み立て、文章化し、発表する。	発表した考察をブラッシュアップし、レポートにまとめて提出する	1時間
第4回	**アスリートの食事計画（武田）** 身体組成や活動量をもとにアスリートの食事計画を立案する.	理論に基づき次回調理実習のための準備を行う.	1時間
第5回	**調理実習（武田）** 計画された栄養評価に基づき，調理を実践する．調理の際に配慮すべき点などアスリートのための調理の工夫を学ぶ.	実習後レポートを作成する	1時間
第6回	**動作評価（田中）** パフォーマンスピラミッドの土台となる動きの質の評価をFMSの評価キットを用いて行う	関節別アプローチについて復習しておく	1時間
第7回	**動きの改善（田中）** FMSの評価から、改善が必要な項目について、修正する運動（コレクティブエクササイズ）を実践する	FMSの測定結果から、改善する優先順位を整理する	1時間
第8回	**筋力発揮の特性（佃）** 等速性筋力測定器を用いた測定データの解釈を中心に，筋力測定評価の再現性と標準化について学ぶ.	得られた測定データから、被検者の筋力特性についてレポートにまとめる	1時間
第9回	**アスリートの筋力評価（佃）** 推定挙上重量の評価を実践する。	実際に正しく測定できるように復習する	1時間
第10回	**パワーエクササイズの実践（霜屋）** スナッチ，クリーンなどのパワーエクササイズの正しいフォームを習得する.	正しいフォームを確認しておくこと.	1時間
第11回	**パワーエクササイズのパフォーマンス評価（霜屋）** 映像データによりスナッチやクリーンのフォームの評価を行う.	得られた評価結果から正しいフォームの習得の課題を整理すること	1時間
第12回	**実験器具の使用方法** ELISA法の際に使用する実験器具や試薬の取り扱い方法について学ぶ	実験器具の使用方法について復習をする	1時間
第13回	**ELISA法によるタンパク濃度測定（村瀬）** ELISA法により唾液中のタンパク質濃度の測定を行う	試料採取条件とタンパク質濃度の関係についてレポートを作成する。	1時間
第14回	**まとめ** これまでの測定と評価やレポート作成を振り返り，卒業論文の作成につなげる.	課題のレポートを作成する.	1時間
第15回	** **	**	4時間

SP-3307-3-2

授業科目名	実践スポーツ栄養学（実践スポーツ栄養学）				
担当教員名	武田　哲子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪、2021年東京五輪帯同に関する内容を授業で活用する）。（全14回）				

授業概要

スポーツ現場における栄養に関する課題を抽出し、それを解決するための方法を実践的に学ぶことを目的とする。そのため各自のスポーツ現場における課題を題材として実践的に学びを展開する。グループ別に討論を重ね、設定したテーマに適した食生活の実践について考える。アスリートや健康を目指す人のための食生活についてより深く考え実践する力を養うことを目標とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ活動を行う人の栄養・食生活のサポートができるための知識の習得	スポーツ活動に合わせた栄養の評価ができるようになる.
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	スポーツ活動を行う人の栄養・食生活のサポートができるための実践的なスキルの習得	スポーツ活動に合わせた食生活実践に向けてサポートができるような実践的なスキルを身につける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
グループによる制作物	40%	： 課題の意図の理解度，データ整理の適切さ，表現の正確さ，分かりやすさにより評価する.
資料にもとづくプレゼンテーション	40%	： 課題の意図の理解度，発表資料の表現の正確さ，分かりやすさにより評価する.
授業内のレポート	20%	： 課題を踏まえた論述ができているか，そこに独自の見解が含まれているかという観点から評価する.

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
プレゼンテーション等の資料作成にはPCを用います。自身のPCを授業で利用できるよう準備すること。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
受講には「スポーツ栄養学概論」、「スポーツ生理学Ⅰ」の単位を修得していることが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限

場所： 研究室（B214）

備考・注意事項： 事前にアポイントをとるようにしてください（takeda-s@bss.ac.jp）.

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ栄養学に関する課題の概説** 授業の進め方，達成目標を確認する． スポーツ栄養学に関する課題・栄養サポート方法について概説する．	スポーツ現場における栄養に関する課題についての情報を各自収集しておく．	4時間
第2回	**スポーツ現場における栄養に関する問題探索** 競技現場における栄養に関する問題を探索する（データ収集）ための知識を習得する．	各自割り当てた課題について必要な情報を収集しておく	4時間
第3回	**スポーツ現場における栄養に関する課題設定** 競技現場における課題の整理、収集したデータを分析する	分析したデータを整理しておく	4時間
第4回	**スポーツ現場における栄養の問題の事例紹介と改善方法の検討** 栄養指導や栄養サポートの方法について学ぶ	課題としたテーマについて復習し，さらに知識を深める．	4時間
第5回	**課題と栄養指導（サポート）計画のプレゼンテーション（準備）** プレゼンテーション方法について学ぶ	課題としたテーマについての資料作りに必要な情報収取をしておく	4時間
第6回	**改善に向けたアドバイス資料づくり** データをもとに改善点とその方法を検討し，アドバイスできるような資料を作成する．	資料を完成させ実践方法を考えておく．	4時間
第7回	**栄養指導の実践準備** 作成した資料をもとに指導実践の練習をする．	資料、指導方法の改善を検討する．	4時間
第8回	**栄養指導の実践** 作成した資料をもとに指導を実践する．	指導の成果を評価する方法について予習する．	4時間
第9回	**指導成果の評価方法** 栄養指導（サポート）の評価方法について学び、自身の指導成果の評価を準備する．	評価物（アンケート等）を完成させる．	4時間
第10回	**評価の実施** データを収集し、整理する．	分析方法の復習をしておく．	4時間
第11回	**評価の分析** 整理したデータの分析を行い，指導の成果について考察する．	これまで集めたデータや作成物について整理しておく	4時間
第12回	**実践活動の報告について** スポーツ現場における実践活動のレポートを読み、まとめ方について学ぶ．	報告書作成の下調べをしておく	4時間
第13回	**成果発表準備** これまでの授業内容を実践報告として文章にまとめる．	報告書を作成する	4時間
第14回	**成果発表** 実践計画、内容、成果のプレゼンテーションを行う．	授業内で共有したスポーツ現場の課題について考え，最終レポート作成の準備をする．	4時間

SP-3308-3-2

授業科目名	スポーツリハビリテーション（スポーツリハビリテーション）				
担当教員名	小松　猛				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者としての実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツ外傷・障害で損なわれやすい運動器を中心とする解剖学的構造物とその機能を理解し、機能回復するための様々なリハビリテーション方法を学ぶ。その上で、代表的なスポーツ外傷・障害を例に挙げながら、元のスポーツ活動に復帰するために、受傷した部位の解剖学的構造の回復とそれに合わせたリハビリテーション方法について、必要な知識や技術を学習する。また、中高年者や障害者におけるスポーツリハビリテーションについても学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ外傷・障害で損なわれる機能と、その機能を回復するために必要なリハビリテーション。	スポーツ選手・愛好家がスポーツ外傷・障害からスポーツ復帰するために必要な機能について具体的に説明できる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ外傷・障害に対する具体的なリハビリテーション。	代表的なスポーツ外傷・障害のリハビリテーションプログラムについて、概略と具体的な方法や注意点を説明できる。

学外連携学修

有り　（連携先：未定）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	70%	： 授業終了後の定期試験で授業の理解度を評価
授業内課題	30%	： スポーツリハビリテーション関して出題された課題を通して、授業の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤本繁夫　大久保衛（編）	新・スポーツ医学［改訂新版］(やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 4)	嵯峨野書院	2020年

参考文献等

アスレティックリハビリテーションガイド　福林　徹・武富修治（編集）　文光堂（2018）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**総論：スポーツリハビリテーションとは？**	スポーツリハビリテーションの果たす役割について情報を収集して理解する	4時間

	スポーツリハビリテーションとは？　スポーツ復帰のために必要とされるコンディショニングについて理解する		
第2回	**総論：リハビリテーションの評価、治療（運動療法以外）** リハビリテーションにおける評価と治療はどのように行なわれるか？具体的には、関節可動域の測定、筋力評価などを正しく理解できる。	関節の動き、筋肉の働きなどを再確認し、授業内容について理解を深める	4時間
第3回	**総論：リハビリテーショントレーニング法（運動療法を中心に）** 具体的なアスレティックリハビリテーションの手段と方法の理解をする。筋収縮の様々な方法、個々のトレーニングの方法と、そのメリット、デメリットを知る。	適切なリハビリテーションの方法を再確認する	4時間
第4回	**総論：リハビリテーショントレーニング法（最近のトピックを中心に）** 具体的なアスレティックリハビリテーション方法、スポーツ用装具やテーピングの目的について理解する。また、トピックとなってるトレーニングの効果と現状での評価についても知る。	授業で学習したトレーニング方法について、自分で情報収集して知識を整理する	4時間
第5回	**各論：足関節・足部外傷・障害のリハビリテーションに必要な解剖と病態** 足関節・足部の解剖と病態を理解することで、リハビリテーションのための基礎知識を学ぶ。	足関節・足部の構造と外傷・障害の原因を理解する	4時間
第6回	**各論：足関節靭帯損傷（捻挫）・足部疲労骨折のリハビリテーション** 足関節靭帯損傷（捻挫）や足部疲労骨折からの具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）を知る。受傷後の時期によって行うべきトレーニングと避けるべきトレーニングを理解する。	足関節靭帯損傷・足部疲労骨折のリハビリテーション方法、復帰のタイミングなどを復習する	4時間
第7回	**各論：頚部および腰部障害のリハビリテーションに必要な解剖と病態** 頚部と腰部の外傷・障害によるリハビリテーションを理解するために、必要な解剖と機能そして病態を理解する。	頚椎・腰椎の解剖とその周囲の筋肉の機能を再確認する	4時間
第8回	**各論：頚部および腰部障害のリハビリテーション** 頚部・腰部障害の具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）を知る。トレーニングの負荷をかけるタイミングと、その評価について理解を深める。	頚部から体幹にかけてのリハビリテーション方法について知識の整理をする	4時間
第9回	**各論：膝関節のリハビリテーションに必要な解剖、傷害** 膝関節の病態を理解するための解剖と機能を学ぶ。また、具体的なスポーツ外傷・障害別の特徴と合併しやすい傷害について理解をする。	膝関節の解剖とそれぞれの組織の役割について復習する	4時間
第10回	**各論：膝関節前十字靭帯損傷（再建術後）のリハビリテーション** 膝前十字靭帯再建術後の具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）を知る。手術の方法を動画を見ながら、手術後に行うリハビリテーションの目的を理解する。	膝関節前十字靭帯損傷の病態と、段階的に行うリハビリテーション方法について授業内容を再確認する	4時間
第11回	**各論：肩関節・肘関節のリハビリテーションに必要な解剖と病態について** 肩および肘関節の構造を理解し、スポーツ障害を起こす原因について理解する。	肩・肘関節を構成する骨の位置関係、筋肉の機能を復習する	4時間
第12回	**各論：投球障害による肩・肘関節障害のリハビリテーション** オーバーヘッドアスリートで起こる肩関節および肘関節障害に対する具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）を知る。リハビリテーションで改善するべき身体のコンディションを学び、投球フォームの問題についても知る。	投球動作によって起こる肩・肘関節障害の特徴を理解し、授業で学んだリハビリテーション方法を理解する	4時間
第13回	**各論：スポーツ外傷・障害予防のトレーニングとコンディショニングについて** スポーツ外傷・障害予防のための具体的なトレーニング方法とその目的。どのタイミングでどのような人に対して行う必要があるかということを理解する。また障害予防に必要なケアの方法についても学ぶ。	手技だけでなく、それが適応となる対象についても調べて知識を整理する	4時間
第14回	**各論：障がい者、中高年のリハビリテーション** 障がい者がパラスポーツを行う時に注意しておくべき点、中高年者に対して行うスポーツリハビリテーションの方法と注意点を知る。若年健常者に対するアスレティックリハビリテーションと比較して、どのようなことに注意しなければいけないかについて理解を深める。	障がい者、中高年の特性と具体的なリハビリテーション方法について復習する	4時間

SP-3309-3-2

授業科目名	身体発育発達論（身体発育発達論）				
担当教員名	秋武　寛				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

発育は組織・器官の増大と考えられ、発達は機能面からみた質的および量的成熟過程と考えられる。幼児期から高齢者までのライフステージにおける発育発達に関する経過を辿りながら、その特徴を学修する。特に幼児期から青年期までの時期においては、成長という因子を把握していない場合において、スポーツ障害を発生させる原因のひとつになるものと考えられる。各ライフステージにおける身体運動の最大の役割は、各諸器官の機能的向上と考えられる。これらのことから、加齢現象による健康・体力・スポーツとの関連性を学修する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	発育発達に関する知識	心身ともに健やかな成長を促すために、発育発達に関する基礎的な知識を習得することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	発育発達に関する生理学的な知識	特に、子どもの加齢にともなう発育発達について生理学的観点から説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	70%	：期末試験（持ち込みなし）
授業時間内課題レポート	20%	：授業時間内において発育・発達についてのレポート課題の内容を評価する（10×2）
授業時間外課題レポート	10%	：授業時間外において発育・発達についてのレポート課題の内容を評価する（10×1）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。外部講師の授業は、日時を変更する可能性があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、発育発達の概論** 講義目的と評価および授業の進め方について学修する。	発育発達の概念について復習する。	4時間

第2回	**幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容** 幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容について学修する。	幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容について復習する。	4時間
第3回	**健康とスキャモンの発育曲線** 健康とスキャモンの発育曲線について学修する。	健康とスキャモンの発育曲線について復習する。	4時間
第4回	**運動の発達** 各年代に合わせた運動発達について学修する。	各年代に合わせた運動発達について復習する。	4時間
第5回	**健康の要素及び身体の発育（機能的変化および形態的変化）** 健康の要素及び身体の発育（機能的変化および形態的変化）について学修する。	健康の要素及び身体の発育（機能的変化および形態的変化）について復習する。	4時間
第6回	**骨の発育発達** 骨の発育発達について学修する。	骨の発育発達について復習する。	4時間
第7回	**睡眠と成長ホルモン** 睡眠と成長ホルモンについて学修する。	ホルモンと発育発達について復習する。	4時間
第8回	**「子どもの体力・運動能力の低下について」のレポート** 「子どもの体力・運動能力の低下について」のレポートを作成する。令和元年度のスポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が公表された。その記事やデータを検索して、自学自習し、調べたことをまとめ（図表を含めて）、問題点、課題点を明らかにする。	子どもの体力・運動能力の低下について復習する。	4時間
第9回	**体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成** 体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成について学修する。	体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成について復習する。	4時間
第10回	**脳、身体の発育発達** 脳、身体の発育発達について学修する。	脳、身体の発育発達について復習する。	4時間
第11回	**幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイント** 幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイントについて学修する。	幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイントについて復習する。	4時間
第12回	**「幼児教育」および「幼児期の運動に関する取組実践事例」** 外部講師による「幼児教育」および「幼児期の運動に関する取組実践事例」について学修する。	幼児期の運動に関する取組実践事例について復習する。	4時間
第13回	**加齢にともなう運動動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）** 加齢にともなう運動動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について学修する。	加齢にともなう運動動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について復習する。	4時間
第14回	**まとめ** 振り返りを行い、半期間の学修内容を確認する。	半期間の授業の内容を復習する。	4時間

SP-3310-3-2

授業科目名	スポーツ生理学（スポーツ生理学Ⅰ）				
担当教員名	禰屋　光男				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Sports Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事等の実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

この授業は、スポーツ生理学概論の基礎編からより詳細で専門的な運動生理学の知識を学ぶ。運動に不可欠な骨格筋や、それに必要なエネルギー供給系やそれを支える呼吸循環系、内分泌系、などについても詳しく学ぶ。競技者に対するパフォーマンス評価やトレーニング処方の際に専門的な運動生理学的な知識は不可欠である。また、競技スポーツのコーチングや指導だけでなく、健康増進にかかわる生涯スポーツの推進においても生理学知識を基にして、処方を行えるような知識を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	健康やスポーツパフォーマンス向上のための身体活動を実施した場合に生じる身体の生理的反応	運動時の生理学的知識を理解できる
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング計画策定に必要な科学的情報	競技パフォーマンス向上につなげるトレーニング計画を生理学的知識に基づいて策定できる
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	常に進歩する健康増進の方法などについて運動生理学的にその効果を検討する	運動生理学的な知識に基づいて、様々なトレーニング方法や健康増進策の効果を評価できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

1回の中間テストおよび学期末の試験により評価する

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間期の理解度チェック 50%	：	授業内容の理解度について講義の終了した領域（全部で3領域）ごとに理解度を確認する(50点)
期末テスト 50%	：	運動時の生理学的知識の理解度について筆記試験により評価する(50点)

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識」村岡功編著　市村出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

履修には「スポーツ生理学概論」の単位を修得していることが必要となる。
授業の資料配布、試験は全て電子的に実施し、紙媒体の配布は行わない。そのため、パソコンまたはスマートホンを持参すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時
場所： 研究室
備考・注意事項： 初回講義時に説明します

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびスポーツ生理学の概説** 授業の内容，進め方，予習・復習、評価方法などについて確認します.	「スポーツ生理学概論」の内容を復習すること	4時間
第2回	**身体組成、骨格筋の構造** 運動生理学を学ぶのに必要な基本的な身体の構造（身体組成、骨格筋の仕組み）について学びます.	配布資料を基に、身体組成、骨格筋の構造を復習すること	4時間
第3回	**骨格筋の微細構造と神経支配** 骨格筋の微細構造を説明し、骨格筋を構成する要素と収縮のための神経の支配を学びます.	配布資料を基に、骨格筋の微細構造と神経支配を復習すること	4時間
第4回	**筋活動時のエネルギー供給** 骨格筋が運動するときのエネルギー供給について学びます.	配布資料を基に、筋活動時のエネルギー供給系、3系を復習すること	4時間
第5回	**筋線維タイプの特性** エネルギー供給系と筋収縮特性からみた筋線維タイプの特性を学びます.	配布資料を基に、筋線維タイプとエネルギー供給系の関係を復習すること	4時間
第6回	**内分泌系の生理学的基礎** 運動時に分泌されるホルモンの概要について学びます.	配布資料を基に、運動時の内分泌機能を復習すること	4時間
第7回	**各種ホルモンの生理作用** 運動時に分泌されるホルモンの分泌器官とその作用、運動との関係について学びます.	配布資料を基に、各種ホルモンの生理作用を復習すること	4時間
第8回	**筋活動の種類と特性** 静的収縮と動的収縮の特性について学びます.	配布資料を基に、筋活動の種類と特性、エネルギー供給系との関係を復習すること	4時間
第9回	**性ホルモンの分泌** 性ホルモンの分泌の機序と運動への影響について学びます.	配布資料を基に、性ホルモンの分泌の機序を復習すること	4時間
第10回	**免疫系の生理学的基礎** 免疫系の生理学的機序を学びます．また、特異免疫、非特異免疫の特徴について学びます.	配布資料を基に、免疫系の特徴を復習すること	4時間
第11回	**運動時の免疫系** 運動に関する免疫系の特徴について学びます.	配布資料を基に、運動時の免疫系の役割について復習すること	4時間
第12回	**運動時の呼吸循環系機能** 運動時の呼吸循環系機能について、呼吸系と循環系のそれぞれの特徴について学びます.	配布資料を基に、運動時の呼吸循環系の基本的機能を復習すること	4時間
第13回	**運動時の呼吸循環系の反応** 運動時の酸素摂取量の変化について学びます.	配布資料を基に、授業内容を復習すること	4時間
第14回	**トレーニングによる呼吸循環系応答の変化** トレーニングによって酸素摂取量など呼吸循環系機能がどのように変化するか学びます.	配布資料を基に、酸素摂取量とエネルギー供給系の関係を復習すること	4時間

SP-3311-3-2

授業科目名	**体力測定と評価（体力測定と評価）**				
担当教員名	山田　庸				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山田教授は2008年よりプロサッカークラブにてフィジカルコーチとして従事し、体力測定を実施した経験を有する。				

授業概要

健康運動やスポーツにおける体力領域に関する知識を学習した上で、さまざまな体力測定の実施方法と評価方法を学習する。測定の対象者であるスポーツ選手、子供、一般成人、高齢者の発育発達について学習する。また、測定目的別に、健康関連系，学校体育系，実験系，各種スポーツ競技系に分類し、具体的な体力測定方法について学習する。また、横断および縦断データを用いた体力の評価方法、グラフの活用方法、データの標準化について学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	体力と発育発達、体力測定、評価方法に関する具体的な知識と手法	各種体力測定を行うために必要な知識を習得する
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	体力測定を実践できる技能	文部科学省新体力テストや各種フィールドテストを実施できる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	対象者に応じた体力テストを選択し企画する実践力	対象者の発育発達段階と被験者特性に応じた体力テストを企画立案できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題 45%	：	各回のワークシートの充実度とグループワークの完成度を3点満点で評価する。充実した内容には3点、必要な要件を満たす内容は２点、内容に不足が見られる場合は1点とし、特に優れた内容には加点をあたえる。
期末レポート 55%	：	最低限必要な内容が記述されている場合を６割の33点とし、55点満点で採点する。具体的な記述や必要な要件が満たされない場合は減点する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

出席を重視する。またグループワークに積極的に参加することを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜４限
場所： B207
備考・注意事項： 事前にメールにてアポイントを取ることが望ましい

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、体力と運動能力**	これまで実施してきた体力テストを振り返り他にどのようなテストがあるのかを探索する	4時間

	１４回全体の展開、評価方法、授業実施形態、各回の概略を説明する。さらに、体力測定の目的と対象者について外観する。		
第2回	**体力とは** 体力・運動能力のさまざまな定義について解説し、体力の捉え方を学習する。定義される体力の種類と対応する体力テスト方法を解説する。	体力の定義について文献をもとに探索する	4時間
第3回	**身体、体力・運動能力の発育発達** 人間の成長。老化、性差に伴う身体機能の発育発達について学習する。特に、身長最高増加点（Peak Hight Velocity: PHV）を基準とした体力要素ごとに異なる発達パターンについて学習し、体力トレーニングについて検討する。	興味のある競技について育成年代に必要な体力トレーニングを調査する	4時間
第4回	**学校教育系の体力テスト―文部科学省新体力テスト―** 小中高と行われている文部科学省新体力テストについて、その方法と要件について学習する。	文部科学省HPを参考に新体力テストのデータや資料を調査する	4時間
第5回	**新体力テストの計画、評価** 新体力テストを中学校の授業内で実施することを想定し、体力テストの実施計画を立案する。また、新体力テストのモデルデータをもとに、評価表を作成し対象者を評価する。	新体力テストの評価基準を調査する	4時間
第6回	**スポーツ競技に専門的な体力テスト①個人種目** 陸上競技を題材に個人種目に必要な体力を学習する。また、トレーニングに沿ったコントロールテストについて解説し、各種個人種目のトレーニングにおけるコントロールテストを考察する。	コントロールテストに関して文献調査を行う	4時間
第7回	**スポーツ競技に専門的な体力テスト②ゴール型球技** 攻守の切り替えが発生するゴール型球技特にサッカーを題材として、競技に専門的な体力テストの方法を学習する。	サッカーの測定について文献を調査する	4時間
第8回	**スポーツ競技に専門的な体力テスト③ネット型球技** 敵と味方が分離しパワーやクイックネスが必要とされるネット型球技の特性について解説する。さらに、各種競技に専門的な体力テステストについて学習しグループワークにて体力テストの計画を検討する。	バレーボールやテニスなどのネット型競技の測定について文献を調査する	4時間
第9回	**スポーツ競技に専門的な体力テスト④その他の種目** 前回までに取り上げていないスポーツ種目を題材に、競技の特性と必要な体力要素を検討する。	ニュースポーツのルールや特性を調べ必要な体力について考察する	4時間
第10回	**高齢者の体力と体力テスト** 生活の質(Quality of life: QOL)を保ち健康寿命を伸ばすために必要な体力について学習し、日常生活活動動作を用いた高齢者を対象とした体力テストについて学習する	高齢者の健康増進について、国や自治体の施策を調査する	4時間
第11回	**高齢者の体力テストの計画、評価** 高齢者の体力テストについてグループワークを用いて計画を立案する。さらに、モデルデータを用いて高齢者体力テストの評価と運動処方について検討する。	高齢者の運動実践について調査する	4時間
第12回	**実験系の体力テスト** 全身持久性体力を測定する呼気ガス分析によるVO2max計測、最大無酸素性パワーを測定するウィンゲートテストの方法と評価方法について学習する	実験系の論文を調査しその方法と評価について調べる	4時間
第13回	**体力テストの評価方法①平均と標準化** 体力テストをわかりやすく即時にフィードバックするために必要な方法を解説する。特に、平均、標準偏差の算出と標準化や１０段階評価の作成方法について学習し、実践する。	標準化や標準得点が活用されている実例を調査する	4時間
第14回	**体力テストの評価方法②グラフの活用** 縦断的横断的といった測定のデザインや測定項目数や内容に応じたグラフ表示の方法を解説する。さらに、データ型に応じたグラフの選択と作図を実践し、グラフを読み取り考察を加える演習を行う。	世の中で見られるグラフの活用について探索する	4時間

SP-3312-3-2

授業科目名	**運動と免疫**				
担当教員名	村瀬　陽介				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、免疫についてこれまで学んだ基礎知識をさらに発展させ、運動が免疫機能に与える影響について広く述べられることを目標とする。免疫学の基礎についてこれまでの学習状況が学生間で大きく異なることを前提に授業を展開する。また、運動と免疫機能の関連について十分に理解した上で、アスリートにとって高いパフォーマンスを発揮するために免疫機能がいかに重要な役割を持つか、コンディションを整えるために注意すべき点について解説する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	運動が免疫機能に与える影響に関する知識	学生は、運動が免疫機能に与える影響について知識を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	40%	： 毎回の授業で授業内容について理解度を評価する
授業内テスト	30%	： 授業中の知識の習得度について評価する
学期末テスト	30%	： 授業内容の理解度、および運動が免疫機能に与える影響について述べられるかどうかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜レジュメで触れる。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
第1回のガイダンス時に、受講態度についての説明をするので、本科目のルールを理解した上で以降の授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限
場所： 研究室（B209）
備考・注意事項： 質問内容を整理して、具体的な質問を考えてから来室してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**運動と粘膜免疫** ウイルスなどの体への侵入を防いでくれる粘膜免疫の仕組みを理解する。また運動により粘膜免疫がどのような影響を受けるのかを理解する。	スポーツ生理学の内容のうち、免疫に関わる内容を復習する。	4時間
第2回	**運動と自然免疫**	スポーツ生理学の内容のうち、自然免疫に関わる内容を復習しておく	4時間

	体内へ侵入したウイルスなどを攻撃してくれる自然免疫系の働きについて理解する。また運動が自然免疫系にどのような影響を与えるのかを理解する。		
第3回	**運動と獲得免疫（細胞性免疫）** 獲得免疫系の細胞性免疫について、その働きを理解する。また運動が細胞性免疫にどのような影響を与えるのか理解する。	スポーツ生理学の内容のうち、細胞性免疫に関わる内容を復習しておく	4時間
第4回	**運動と獲得免疫（液性免疫）** 獲得免疫系の液性免疫について、その働きを理解する。また運動が液性免疫にどのような影響を与えるのか理解する。	スポーツ生理学の内容のうち、液性免疫に関わる内容を復習しておく	4時間
第5回	**運動と炎症** 炎症の仕組みとそこに関わるサイトカインなどの生理活性物質について知り、運動と炎症の関係について理解する。	炎症をキーワードに検索エンジンで検索し、炎症の概要について調べる。	4時間
第6回	**運動とがん** 免疫系のはたらきとがんの関係について理解する。また運動ががんにどの様な影響を与えるのかを理解する。	がんについて、厚生労働省のサイトを参考に基礎的な内容を学習しておく。	4時間
第7回	**中間テスト、振り返り** これまでの授業内容を振り返り、運動が免疫機能に与える影響についてまとめの資料を作成する。またこれまでの授業の理解度を確認するために、中間テストを実施する。	第1回から第6回までの授業内容を復習しておく	4時間
第8回	**運動と免疫（睡眠）** 運動と免疫機能、睡眠との関係について理解する。	スポーツ生理学の睡眠に関する内容を復習しておく	4時間
第9回	**運動と免疫（栄養）** 運動によるエネルギー代謝が免疫機能に与える影響を理解する。また食事や栄養がアスリートの免疫機能に与える影響を理解する。	スポーツ栄養学の内容を復習しておく	4時間
第10回	**運動と免疫（加齢）** 加齢による免疫機能の変化と運動との関係について理解する。	スポーツ生理学の加齢が身体に与える影響について復習する。	4時間
第11回	**運動と熱中症** 運動と熱中症の関係について理解する。また熱中症の重症化と免疫との関係について理解する。	熱中症の発生件数、発生状況について厚生労働省のサイトで調べる	4時間
第12回	**アスリートとプロバイオティクス** プロバイオティクスについて理解し、アスリートにおけるプロバイオティクスの重要性について理解する。	プロバイオティクスについて検索エンジンで検索し、基礎的内容に触れる	4時間
第13回	**アスリートとアレルギー** 運動とアレルギーの関係について理解し、アスリートのコンディショニングにおけるアレルギー対策の重要性を理解する。	アレルギーについて厚生労働省のサイトで調べる	4時間
第14回	**アスリートと感染症** 上気道感染症をはじめとした感染症と運動の関連について理解し、アスリートにおける感染症対策につて理解する。	感染症について厚生労働省のサイトで調べる	4時間

SP-3313-3-2

授業科目名	スポーツ動作分析法（スポーツ動作分析法）				
担当教員名	高橋　佳三				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、動作分析に用いられる機材（高速度VTRカメラ、地面反力計、筋電図）の使用方法やキネマティクス、キネティクス的データの算出方法などについて学ぶ。本授業を通して、学生は、動作分析のための実験計画の立案、実験方法の習得と実験の実施、得られた映像などからのデータ算出と考察、考察内容のプレゼンテーションの作成とプレゼンテーションの実施を行う。以上の内容を通して、卒業論文における動作分析の基礎的素養を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	動作分析の手法（撮影・分析方法）	動作分析の流れを理解し、機材の使用方法が理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	分析したデータの考察とプレゼンテーション	研究計画を立て、実験、データ算出、考察を行い、内容をプレゼンテーションできる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

レポートおよびプレゼンテーションを元に評価を行う。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート（2次元動作分析）50%	：	2次元動作分析を行い、それについて作成したレポートを評価する。
プレゼンテーション（2次元動作分析）50%	：	2次元動作分析を行った内容についてグループごとに行うプレゼンテーションを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツバイオメカニクス20講（阿江通良，藤井範久　著，朝倉書店）
スポーツバイオメカニクス（深代千之，桜井伸二，平野裕一，阿江通良　著，朝倉書店）
バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎（金子公宥，福永哲夫　著，杏林書院）
表面筋電図（バイオメカニズム・ライブラリー）（木塚朝博，木竜徹，増田正　著，東京電機大学出版局）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業に使用する機材の台数に限りがあるため、履修者が多いときには、「４年次に卒業論文で動作分析を行う可能性があるかどうか」を基準に履修制限をする可能性がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　作業時または授業前後

場所：　授業の教室、B306

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、動作分析の流れについての説明** 本授業の流れと、動作分析の流れについて把握し、今後どのように講義を進めていくかを確認する。	動作分析の大まかな流れを把握し、動作分析についての理解が深める。	4時間
第2回	**撮影のセッティングについて** 動作分析に欠かせない「動作の撮影」についての講義を行う。 カメラの設定や撮影範囲など、「撮影の設定」を行うことができることが、動作分析の第一歩となる。第3回で実際に撮影を行うので、そのためのセッティング方法について理解する。 グループ分けを行い、次週に行う実験試技を決める。	動作の撮影のためのセッティングについて、理解を深めるよう、実際に撮影してみるなどする	4時間
第3回	**撮影** 前週に学んだ知識を元に、実際に二次元動作分析用の動画を撮影する。	撮影した動画のチェックを行う。撮影ができていなければ、時間を見つけて再度撮影し直すなどする	4時間
第4回	**デジタイズについて** 撮影した映像から、2次元座標値をPCに取り込む作業が、デジタイズである。この作業ができないと、動作分析は行うことができない。 本講義でデジタイズの仕方を学び、次週から2週間でデジタイズを行う。	デジタイズの手法について理解できるよう、参考書などを読む。	4時間
第5回	**デジタイズ01　デジタイズ方法の確認** 第4回で学んだ方法を元に、デジタイズを行う。 キーの数が限られているため、班員で協力して、デジタイズをその確かさのチェックを同時に行う。	デジタイズが完了していない学生は、時間を見つけてデジタイズを行う。	4時間
第6回	**デジタイズ02　デジタイズ方法の習熟** 引き続き、デジタイズを行う。 班員で協力して、デジタイズをその確かさのチェックを同時に行う。	デジタイズが完了していない学生は、時間を見つけてデジタイズを行う。	4時間
第7回	**デジタイズ03　デジタイズのチェック** デジタイズした座標値を元に、身体セグメント長を算出し、セグメントが伸び縮みしていないかを確認する。 極端に伸び縮みの見られる部位について班員で確認を行い、必要に応じてデジタイズをやり直し、再度セグメント長を算出する。	デジタイズが完了していない学生は、時間を見つけてデジタイズを行う。	4時間
第8回	**実長換算、スティックピクチャー作成、平滑化** デジタイズした座標値を、実長換算によりXY座標系における座標値に変換する。 そのデータを元にスティックピクチャーを作成し、動作が適正に行われているように見えるかを確認する。行われていなければ、デジタイズのやり直しとなる。 適正に行われているデータについて、平滑化を行う。	スポーツバイオメカニクスの参考書を読み，実長換算、平滑化について理解する。	4時間
第9回	**変位、速度、加速度の算出** 平滑化されたデータから、Excelを用いて変位、速度、加速度を算出する。 変位、速度、加速度の意味と、算出の際に用いる微分について理解する。	スポーツバイオメカニクスの参考書を読み，変位、速度、加速度について理解する。	4時間
第10回	**ベクトル・角度・角速度算出** 二次元座標値からExcelを用いてベクトルを算出し、関節角度とセグメント角度を算出する。そして、一階微分により角速度を算出する。	スポーツバイオメカニクスの参考書を読み，三角関数について理解する。	4時間
第11回	**重心算出** 座標値と身体部分慣性係数から、身体重心の算出を行う。	スポーツバイオメカニクスの参考書を読み、重心算出について理解する。	4時間
第12回	**データの読み取り方** これまで算出してきた座標値、速度、角度、各速度、重心座標、重心速度の「グラフの読み取り方　考察の仕方」について講義する。 班員全員のデータをまとめ、それぞれの班でデータがどのように違うか、その違いにはどのような意味があるかを考える。 まとめた内容をPowerPointで発表用スライドにまとめる。	スポーツバイオメカニクスの参考書を読み、データの読み取り方について理解を深める。	4時間
第13回	**プレゼンテーション** 第12回でまとめたスライドを元に、班ごとにプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーション時間は各班5分、質疑応答を3分とする。 班員全員が必ず話し、質疑応答は学生同士で行う。	質問された内容について、班ごとに考え、レポートをまとめる。	4時間

第14回	**総まとめ** ここまで、 1. カメラの設置・設定方法 2. 実長換算・キャリブレーションの方法 3. デジタイズの方法 4. キネマティクス（速度、角度など）の算出方法 5. 実際の実験からの分析方法 について講義・実習してきた。 これまでの内容を通して、【動作分析を行うことの大変さと楽しさについて】レポートをまとめ、提出する。	レポートを提出する。	4時間

SP-3314-3-2

授業科目名	スポーツコンディショニング論（スポーツコンディショニング論				
担当教員名	田中　忍				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

一番強い姿で試合に臨むために必要なことを学ぶ．すなわち，コンディショニングの目的や要因を理解し，改善が必要な要因が何であるかについて根拠を持って説明をする．また，各要因の評価法およびそれぞれについて改善のためのトレーニング方法を学ぶ．着目すべきコンディショニングの要因をあげ，評価し，改善のための具体的なトレーニングプログラムを作成する．これにより，スポーツ実践者が，目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するために必要なことを見つけられるようにする．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	コンディショニングに関わるさまざまな要因の理解	コンディショニングの目的，要因を説明できる．
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	コンディショニング計画の立案と発表	着目した理由，用いた指標と評価，改善方法を簡潔にまとめて発表することができる．
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	コンディショニングに関わる要因の評価および改善	着目すべき要因の指標を用い，評価し改善法を計画できる．

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	70%	： コンディショニングの概要に関する講義後、記述または選択問題で理解度を評価する．
レポート	30%	： 着目すべき要因について、選出した理由・現状、用いた測定項目・指標・評価などを踏まえ、改善計画を立てる。内容の整合性，文末表現、日本語力、参考文献の記載、指定の分量により評価する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング』　財団法人日本体育協会
・財団法人日本体育協会指導者育成委員会アスレティックトレーナー部会　『予防とコンディショニング公認アスレティックトレーナ専門科目テキストワークブック』文光堂（2011年）
・小山貴之『アスレティックケア　リハビリテーションとコンディショニング』NAP Limited（2016）
・広瀬統一『アスレティックトレーニング学』文光堂（2019）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

受講の際は，次の全ての授業を履修済みであること．
「身体構造と機能」「体力トレーニング法」「スポーツ生理学概論」「スポーツ医学概論」「スポーツ栄養学概論」「テーピング・マッサージ法」「救急処置法」

日本体育協会公認アスレティックトレーナーの適応コース申請に必要な科目である．
参考図書（公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥）の購入希望者は，授業時に説明する．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスとコンディショニングの概説** 授業の進め方，到達目標および成績評価について確認する． コンディショニングの概念を学ぶ．	コンディショニングの概念を復習する．	4時間
第2回	**コンディショニングの要因** コンディショニングの身体的因子（代謝系，柔軟性，身体組成，免疫系，神経系，技術系，筋力系），環境的因子（シューズ，ウェア，用具），心因的因子について学ぶ．	コンディショニングの身体的因子，環境的因子，心因的因子について復習する．自分がこれまでに最も影響を受けている要因をエピソードを添えて考えてくる．	4時間
第3回	**着目する要因をみつける** 自分がこれまでに最も影響を受けている要因をエピソードと共にグループで発表しあう．また，グループでの発表や学んださまざまな要因を含め，改善が必要である因子とその理由を複数考え，グループで発表する．	改善が必要なコンディショニングの因子を複数考える．	4時間
第4回	**身体的因子のコンディション評価と指標** コンディション評価の必要性と身体的因子の評価指標および評価法を学ぶ．評価指標と評価法を選び，想定した対象に対して実践するために必要なものを考えグループで発表する．	身体的因子の評価指標および評価法を復習し，授業で取り上げなかった評価指標と評価法の必要なものを考える．	4時間
第5回	**環境的因子および心因的因子のコンディション評価と指標** 環境的および心因的因子の評価指標および評価法を学ぶ．評価指標と評価法を選び，想定した対象に対して実践するために必要なものを考えグループで発表する．	環境的および心因的因子の評価指標および評価法を復習し，授業で取り上げなかった評価指標と評価法の必要なものを考える．	4時間
第6回	**コンディションの改善** トレーニングを計画する際に必要な情報（トレーニングの基礎，原則，期分け，カテゴリー）について学ぶ．	トレーニング計画に必要なことを復習し，着目した要因にはどのようなトレーニングが必要かを考える．	4時間
第7回	**コンディションを改善するトレーニングプログラムの立案** トレーニングによってコンディションを改善するために必要なことを学ぶ．着目した要因の指標および評価を元に，改善のためのトレーニングプログラムを立案する．	着目した要因の指標および評価を元に，改善のためのトレーニングプログラムを立案する．	4時間
第8回	**目的別のコンディショニング（１）競技力向上** 競技力向上のためのコンディショニング方法を学ぶ．グループで実践する課題を考える．	競技力向上のためのコンディショニングを復習し，グループで考えた課題を実践する．	4時間
第9回	**目的別のコンディショニング（２）傷害予防** 傷害予防のためのコンディショニング方法を学ぶ．また，ウォーミングアップの目的，方法についても学ぶ．グループで実践する課題を考える．	傷害予防のコンディショニングを復習し，グループで考えた課題を実践する．	4時間
第10回	**目的別のコンディショニング（３）疲労回復** 疲労回復を目的としたコンディショニング方法を学ぶ．また，クーリングダウンの目的，方法についても学ぶ．	疲労回復のコンディショニングを復習し，グループで考えた課題を実践する．	4時間
第11回	**競技種目特性とコンディショニング（１）冬季競技，記録系競技，球技競技** 各種目の競技特性（ルール，傷害像，用具・道具，競技環境など）を学ぶ．	授業内で検討した以外の種目についても考える．	4時間
第12回	**競技種目特性とコンディショニング（２）採点系競技，格技系競技** 各種目の競技特性（ルール，傷害像，用具・道具，競技環境など）を学ぶ．	授業内で検討した以外の種目についても考える．	4時間
第13回	**コンディションを高める計画の発表** 着目した理由，用いる指標と評価，改善方法を簡潔にまとめて発表する．また互いに評価しあう．	最も簡潔にまとまっていた発表の課題を実践し，評価する．	4時間
第14回	**コンディション改善計画の振り返り** 実践してきた計画の内容について，実際に実践できる内容であるかを踏まえ，良かった点および改善が必要な点を振り返る．	改善が必要であった項目について，なぜそうなったのか原因を考える．	4時間

SP-3315-3-2

授業科目名	スポーツ医学特別講義（内科）（スポーツ生理学Ⅱ）				
担当教員名	守上　祐樹				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義は、十分な人体生理学・スポーツ生理学の基礎知識を得たうえで、最新の情報を身体機能向上・身体開発の場に実践的に応用・活用できるような学びを目指す。スポーツ生理学のトピックスを取り上げ、既知の知識を実践の場に活用できるように導いていく。また、世界的な問題となっているドーピング問題・アンチドーピングに関する学びを深め、今後のスポーツ人生に行かせるような学びを目指す。さらに、脳震盪を取り上げ、その機序と症状、対処法などについても学び実践へとつなげる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	ＷＡＤＡ／ＪＡＤＡの活動・世界的なアンチドーピング活動について学び理解できる	ドーピングについての正しい知識をえる
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	個々の属性により、身体的能力も変化することを理解し説明できる	個々の身体的特徴にあったトレーニングを目指す
3 ．DP4.高度なスポーツ技能	心拍トレーニング、高地トレーニングなど様々なトレーニング法を学び実践的な知識として活用できる	日々のトレーニングの選択と効果について正しい知識を獲得する

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

講義回数の３分の２以上出席した学生を評価対象とする

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
出席レポート	70%	： 毎回の講義で出席レポート課題を提出。（70点満点）で評価する
レポート提出	30%	： 重要項目についてのレポート課題を提出し理解度について評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

勝田茂・征矢英昭「運動生理学２０講－第3版」朝倉書店　2015年

履修上の注意・備考・メッセージ

【新カリ】「スポーツ医学特別講義（内科）」3・4年次
「AT特別講座」、「体力トレーニング概論」、「スポーツ生理学」、「スポーツ医学概論」、「救急処置法」、「身体構造と機能」、「スポーツ栄養学概論」、「テーピング・ストレッチ」の単位を履修していること

【旧カリ】「スポーツ生理学Ⅱ」3・4年次
「AT特別講座」、「体力トレーニング法」、「スポーツ生理学Ⅰ」、「スポーツ医学概論」、「救急処置法」、「運動処方と運動療法」、「身体構造と機能」、「スポーツ栄養学概論」、「テーピング・マッサージ法」の単位を履修していること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生理学とは、トレーナビリテイとは** 身体を理解するうえで重要な生理学について概要を学ぶ	履修するにあたり大まかな流れをシミュレーションする	4時間
第2回	**心機能を学ぶ** スポーツ心臓、心拍を用いたトレーニング方法を学ぶ	自分の心拍から運動強度計算ができるようにする	4時間
第3回	**筋肉を学ぶ** 筋肉分子構造を学び、最大限にトレーニング効果を上げる方法を学ぶ	鍛えたい筋肉とトレーニングをマッチできるようにする	4時間
第4回	**神経系を学ぶ** 神経反射の基礎を学ぶ 神経細胞と反射機構の作用について学ぶ、実践する	神経反射の基礎について予習してくる	4時間
第5回	**脳震盪** 脳震盪の機序・危険性について学ぶ	脳震盪について予習する	4時間
第6回	**呼吸器系を学ぶ** 呼吸器系を学び、最適なトレーニングを考える	呼吸器系について予習してくる	4時間
第7回	**内分泌代謝系を学ぶ** 内分泌代謝系を学び、最適なトレーニングを考える	内分泌代謝系について予習してくる	4時間
第8回	**前半のまとめ：人体生理学** これまで学んだ生理学の復習となる資料（DVD)を鑑賞しレポート課題を作成する	前半の内容を振り返る	4時間
第9回	**薬物・遺伝子を利用した身体開発** ドーピングコントロール、遺伝子ドーピングなど最新事情を含めて学ぶ	ドーピングコントロールについて復習する	4時間
第10回	**環境に適応した身体開発** 高地トレーニング、水中トレーニング、暑熱・寒冷環境でのトレーニングについて効果を理解する	環境に適応した身体開発について予習してくる	4時間
第11回	**睡眠を利用した身体開発** 睡眠の重要性について学ぶ	自分の睡眠時間、質を記録してみる	4時間
第12回	**ジュニアの身体開発** ジュニアの身体生理とその開発について学ぶ	ジュニア育成について考える	4時間
第13回	**女性のスポーツ生理学と身体開発** 女性特有のスポーツ生理学を学び、身体機能開発について考える	女性のスポーツ生理学について予習してくる	4時間
第14回	**中高年の身体変化とスポーツ生理学** 中高年の身体的変化とスポーツ生理学を学び、適したトレーニングを考える	中高年の身体変化について予習してくる	4時間

SP-3316-3-2

授業科目名	スポーツ医学特別講義（外科）（身体開発特別講義）				
担当教員名	小松　猛				
学年・コース等	3・4	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療に従事した実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

主に種目別で起こりやすいスポーツ外傷・障害に関する講義を行う。さらに、スポーツ外傷・障害の症例問題を通して、授業の中で医学的な考え方（診断、対応方法、予防、スポーツ復帰の判断など）について、自分達で情報を収集してレポートを作成する。さらに、テーマについて発表形式でディスカッションを行う。実際に起こりうる可能性の高い症例問題について考えて、その意見を発表し質疑応答を通して、スポーツ医学に必要な知識を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ外傷・障害のトピックスに関するディスカッション。	運動器の外傷・障害の発生機序、治療、リハビリテーションおよび予防に関して理解できる。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ種目別に起こりやすい外傷・障害についての検索と、その知識の整理。	スポーツ特有の動きと、それによって起こる運動器の外傷・障害発生の関係が理解できる。

学外連携学修

有り　（連携先：未定）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題 60%	：	内容の妥当性と、課題の指示に対して十分な記載ができているかを評価する。
授業内でのディスカッション、質疑応答 40%	：	テーマに対して資料を調査して、ディスカッションが十分可能な質疑応答ができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

新・スポーツ医学［改訂新版］(やさしいスチューデントトレーナーシリーズ④)　藤本繁夫　大久保衛　編　嵯峨野書院
アスレティックリハビリテーションガイド　福林徹・武富修治（編集）　文光堂
筋肉と関節のしくみがわかる事典　竹井　仁（監修）　「西東社」

履修上の注意・備考・メッセージ

履修するには、「スポーツ医学概論」または「スポーツリハビリテーション」の単位を修得していること。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**イントロダクション、スポーツ医学（整形外科学）のために必要な医学の知識と現場での活動内容について** 本講義の概要の説明、スポーツ現場で医学的知識をどのように活かすか、現場での活動状況を通して学ぶ。	自分が経験したスポーツ外傷について詳しく調べる	4時間
第2回	**オーバーヘッドアスリートに起こるスポーツ障害について** 野球等のオーバーヘッドスポーツの選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。	オーバーヘッドスポーツで起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する	4時間
第3回	**オーバーヘッドアスリートに起こるスポーツ障害の症例を通してのディスカッション** 症例提示をして、自分で情報収集して得られたオーバーヘッドアスリートの障害について質疑応答をすることで理解を深める。	デスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる	4時間
第4回	**フットボール選手に起こるスポーツ外傷・障害について** コンタクトスポーツの代表である、サッカー等のフットボールの選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。	フットボール選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する	4時間
第5回	**フットボール選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション** 症例提示をして、自分で情報収集して得られたコンタクトスポーツ（フットボール）の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。	デスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる	4時間
第6回	**陸上競技選手に起こるスポーツ外傷・障害について** 陸上競技選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。	陸上競技選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する	4時間
第7回	**陸上競技選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション** 症例提示をして、自分で情報収集して得られた陸上競技選手の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。	デスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる	4時間
第8回	**バスケットボール選手に起こるスポーツ外傷・障害について** ジャンプ系のコンタクトスポーツである、バスケットボール選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。	バスケットボール選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する	4時間
第9回	**バスケットボール選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション** 症例提示をして、自分で情報収集して得られたバスケットボール選手の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。	デスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる	4時間
第10回	**バレーボール選手に起こるスポーツ外傷・障害について** ジャンプ系のノンコンタクトスポーツである、バレーボール選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。	バレーボール選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する	4時間
第11回	**バレーボール選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション** 症例提示をして、自分で情報収集して得られたバレーボール選手の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。	デスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる	4時間
第12回	**水泳競技選手に起こるスポーツ外傷・障害について** 水泳競技選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。	水泳競技選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する	4時間
第13回	**水泳競技選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション** 症例提示をして、自分で情報収集して得られた水泳競技選手の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。	デスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる	4時間
第14回	**スポーツ医学全体に関わるテーマを通してディスカッション** 第1-13回まで学んだ内容も含めて、スポーツ医学に関わるスタッフ（メディカルスタッフ）はスポーツ現場で何が求められ、どう対応すればベストなのかをディスカッションを通して理解する。	デスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる	4時間

SP-3317-3-2

授業科目名	**運動処方と運動療法（運動処方と運動療法）**				
担当教員名	守上　祐樹				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、運動処方・運動療法とは何かを知り、処方の構成項目・指導内容・適応などについて学ぶ。特に、内科系疾患を中心に、運動療法が有効な疾患について学ぶ。生活習慣病、呼吸器疾患、脳血管障害、心筋梗塞、うつ病などに有効的な運動療法についても各論で学ぶ。さらにはケーススタデイにより、実際に運動処方によるプログラム作成ができるように学びを深める。そして運動を始めるやる気スイッチの入れ方についての基本を学び実践できるように導く。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	各疾患に対する運動の効果を学ぶ	運動することが人体にどのような影響を及ぼすかを知り説明できる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	運動療法のみならず、あらゆるシーンで重要となる行動変容についての知識と理解を得る	実際の生活の中で、実践できるだけの知識を身に着けることができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業回数の3分の2以上出席した学生を評価対象とする

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ミニテスト	50%	： 授業ごとに前回の授業内容の重要項目の確認テストを行い理解度をはかる
最終レポート作成	25%	： 授業内で重要であった項目についてレポート作成する
中間テスト	25%	： 授業内容の理解度を筆記テストで評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

健康・運動の科学（介護と生活習慣病予防のための運動処方）田口貞善監修、

履修上の注意・備考・メッセージ

【新カリ】「運動処方と運動療法」3・4年次
①、②のどちらかの条件に適合すること
①「スポーツ生理学概論」、「衛生・公衆衛生学」、「スポーツと安全管理」、「体力トレーニング概論」、「スポーツ医学概論」、「救急処置法」の単位を取得していること
②「AT特別講座」、「体力トレーニング概論」、「スポーツ生理学」、「スポーツ医学概論」、「救急処置法」、「身体構造と機能」、「スポーツ栄養学概論」、「テーピング・ストレッチ」の単位を履修していること

【旧カリ】「運動処方と運動療法」2・3・4年次
①、②のどちらかの条件に適合し、「アスレティックトレーナー」・「健康運動実践指導者」・「健康運動指導士」のいずれかの資格取得を希望していること
①「スポーツ生理学概論」、「栄養と健康」、「体力トレーニング法」、「救急処置法」、「テーピング・マッサージ法」の単位を取得していること
②「体力トレーニング法」、「スポーツ生理学概論」、「身体構造と機能」、「テーピング・マッサージ法」、「救急処置法」の単位を取得していること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**運動療法・運動処方とは？** 運動療法とは何か、そもそも処方とはという基礎的知識をまとめる	運動処方について理解する	4時間
第2回	**運動療法を始める前に** 運動処方が出される過程、処方内容など基本事項をまとめる	処方箋といわれるものの種類や意味、目的などを調べ学習しておく	4時間
第3回	**行動変容をおこすために** キーワードは行動変容。行動変容の詳細と、スムーズにステージを進むにあたり重要度が高い認知行動療法について理解する	認知行動療法についてしらべ理解する努力をする	4時間
第4回	**ケーススタディ・リスク層別化①** 運動処方に至るまでの対象者ごとのリスク層別化について理解し、実際にケーススタディし習得する	ケーススタディについて必要な知識を調べておく	4時間
第5回	**ケーススタディ・リスク層別化②** 運動処方に至るまでの対象者ごとのリスク層別化について理解し、実際にケーススタディし習得する	ケーススタディについて必要な知識を調べておく	4時間
第6回	**基本原則：新しい指標①** 運動強度を決定するうえで指標となる「酸素摂取量予備能」について学び理解する	運動療法の指標について自分で調べておく	4時間
第7回	**基本原則：新しい指標②自己設定能力** 運動強度を決定するうえで指標となる「酸素摂取量予備能」について学び理解する さらにケースごとに設定する能力を身に着ける	運動療法の指標について自分で調べておく	4時間
第8回	**中間テストおよび前半振り返り** 前半講義で習得した重要事項について振り返り、確認テストを行う	前半授業を振り返り、知識の整理を行っておく	4時間
第9回	**代謝方程式** 運動療法における目標設定に欠かせない、運動ごとの代謝を推定する数式とその意味を理解する。さらに数式を使って自分で運動を設定できるまでになる	代謝について調べておく	4時間
第10回	**肥満への運動療法** 減量のための運動療法・運動処方箋について考える	高度肥満に起こりうるリスクについて学んでおく	4時間
第11回	**循環器疾患への運動療法** 運動療法が適応になる循環器疾患について学び、実際に処方できるまで習得する	循環器疾患における身体状態について調べておく	4時間
第12回	**呼吸器疾患：COPDへの運動療法** 呼吸器疾患、とくにQOLを確実に下げ、健康寿命を短縮させるCOPDについて学び、どのような運動療法が効果的か学ぶ	COPDが世界的に問題となっている現状について調べておく	4時間
第13回	**心臓疾患への運動療法** 日本人に多くみられる心臓疾患、冠動脈疾患について学び、運動がどのように効果があるのかを学ぶ	冠動脈疾患について学んでおく	4時間
第14回	**悪性腫瘍への運動療法** 悪性腫瘍に対して運動療法が果たしてどのような効果を出すのかについて学ぶ	日本人に多い悪性腫瘍について学んでおく	4時間

SP-3318-3-2

授業科目名	身体開発システム論（身体開発システム論）				
担当教員名	禰屋　光男				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Sports Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事した実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

スポーツ生理学などをもとに、運動パフォーマンス向上につながる身体の開発を「リカバリー」の観点から学習する。近年、運動パフォーマンスの向上はトレーニングと合わせてリカバリーが大きな要素となっており、リカバリーの知識を習得することでほかのトレーニングに関する知識と合わせて運動パフォーマンスの向上につなげることが可能になる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	生理学的側面から運動後のコンディショニングの各処方とその効果	コンディショニングの各処方の効果について生理学的側面から評価できる
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	トレーニングと対をなすリカバリーのさまざまな手法に関する生理学的考察	生理学的な知識に基づき、それぞれのリカバリー方法の効果を評価できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業期間中の中間テストおよび学期末試験により評価する

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間期の理解度チェック	60%	： 領域（2領域）ごとの理解度確認する（30点/回×2回）
期末テスト	40%	： 生理学的側面からコンディショニングやリカバリーの処方の効果についての理解度について筆記試験により評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「リカバリーの科学 ―スポーツパフォーマンス向上のための最新情報」長谷川博監訳　NAP社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること.

受講には「スポーツ生理学概論」，「スポーツ生理学Ｉ」の単位を修得していることが必要となる.
授業に関する資料の配布、試験は全て電子的に実施し、紙媒体の配布は行わない。そのため、パソコンまたはスマートホンを持参すること.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： 研究室

備考・注意事項： 初回講義時に説明します

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび運動生理学におけるリカバリーとは？** 授業の内容，進め方，予習・復習、評価方法などについて確認します.	配布する資料の内容を復習すること	4時間

第2回	**疲労とリカバリーの基礎について** 過負荷の原則やトレーニングの影響について学びます.	配布する資料をもとに、過負荷の原則やリカバリーの基礎について復習すること	4時間
第3回	**オーバートレーニング症候群** 連続した疲労によるオーバートレーニングの機序について学びます.	配布する資料をもとに、オーバートレーニングの特徴を復習すること	4時間
第4回	**ピリオダイゼーションによるオーバートレーニング症候群の予防** ピリオダイゼーションのモデルと疲労に及ぼす影響について学びます.	配布する資料をもとに、ピリオダイゼーションの特徴を復習すること	4時間
第5回	**アクティブリカバリーの効果** アクティブリカバリーによるパフォーマンスの影響について学びます.	配布する資料をもとに、アクティブリカバリーの特徴を復習すること	4時間
第6回	**リカバリーの心理的効果** モチベーションやバーンアウトについて学びます.	配布する資料をもとに、リカバリーが心理的反応に及ぼす影響について復習すること	4時間
第7回	**水分補給** 運動中の適切な水分補給について学びます.	配布する資料をもとに、水分補給の重要点を復習すること	4時間
第8回	**栄養補給** リカバリーとしての栄養補給の有効性について学びます.	配布する資料をもとに、リカバリー時の栄養補給の重要点を復習すること	4時間
第9回	**睡眠のリカバリーとして効果** リカバリーのひとつとしての睡眠の効果や睡眠の機序について学びます.	配布する資料をもとに、睡眠のリカバリーとしての効果を復習すること	4時間
第10回	**コンプレッション衣類のリカバリー効果** コンプレッションガーメント（着圧衣類）のリカバリー効果について学びます.	配布する資料をもとに、コンプレッション衣類の機能について復習すること	4時間
第11回	**局所的な温熱および冷却によるリカバリー効果** アイシングなど、局所の温度変化によるリカバリー処方について学びます.	配布する資料をもとに、局所的な温熱および冷却リカバリーの効果について復習すること	4時間
第12回	**全身的な温熱および冷却によるリカバリー効果** サウナやアイスバスなど全身的な温度変化によるリカバリー処方について学びます.	配布する資料をもとに、全身的な温熱および冷却リカバリーの効果について復習すること	4時間
第13回	**リカバリー処方における考慮すべき課題　１．性差** リカバリー処方を実施する際、身体特性の性差について考慮するべき点を学びます.	配布する資料をもとに、リカバリー実施時の性差に関する特徴を復習すること	4時間
第14回	**リカバリー処方における考慮すべき課題　２．温度と気候** リカバリー処方を実施する際、温度と気候について考慮するべき点を学びます.	配布する資料をもとに、リカバリー実施時の温度や天候の影響を復習すること	4時間

SP-3319-3-2

授業科目名	スポーツコンディショニング特別講義（スポーツコンディショニ				
担当教員名	佃　文子				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。（全14回）。				

授業概要

アスリートに起こるさまざまなコンディション変化への具体的な対応法について学ぶ。ストレッチングやトレーニングなどコンディショニングの具体的な効果について学習する。また運動をストレスととらえ、人のホメオスターシスへの影響について学習し理解を深める。さらにアンチドーピングの仕組みについて学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	アスリートに起こるさまざまなコンディション変化への具体的な対応法	運動をストレスととらえ、ホメオスターシスへの影響と効果的な対応策について説明できる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツコンディショニング方法論の科学的根拠に基づく実践活用法	研究知見を基に提案するコンディショニングを説明できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業ごとのミニ課題 80%	：	各種のコンディショニング方法論に関して、基本的知識と現場応用の適応範囲の妥当性や限界について、授業後の理解度を小テストで確認し得点化する。
指定された課題のプレゼンテーション 20%	：	授業内で指定されたテーマの実践応用に関する課題についてグループで調べた成果を発表する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、4巻健康管理とスポーツ医学　￥2,900円、6巻予防とコンディショニング￥3,000円、第8巻救急処置￥3,000円』を公益財団法人日本スポーツ協会から各自で購入します。購入方法は、授業開始時にお知らせします。

履修上の注意・備考・メッセージ

履修は、救急処置法、スポーツリハビリテーション論を履修済みであること。またスポーツと安全管理、スポーツコンディショニング論の単位を修得済みであることが望ましい。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業教室
備考・注意事項： 急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**運動と疲労** 運動をストレスととらえ、人のホメオスターシスに与える影響について学ぶ	ホメオスターシスを支える神経系・内分泌系・免疫系の仕組みについて予習する　復習： ホメオスターシスに係わる神経系と免疫系、内分泌系の調節のしくみを予習する　慢性疲労に至る過程を復習する	4時間
第2回	**運動と免疫系機構** 運動によるストレス反応と人の免疫機構の関係について詳しく学ぶ 特にアスリートが陥りやすい、オーバートレーニング症候について学ぶ	細胞性免疫、体液性免疫について予習する　慢性的なストレスとホメオスターシスの破たんについてまとめる	4時間
第3回	**運動ストレスとその他の内科的疾患** アスリートが陥りやすいその他の内科的疾患について学ぶ また海外遠征など時差対策や睡眠に関する対応策についても学ぶ	予習：一般的な時差対策を調べてくる　復習：講義内容をもとに身近な競技現場へフィードバックするためのポスターを作成する	4時間
第4回	**ストレッチングの種類と効果** ストレッチングの目的、生理学的効果について学習する	反射の神経生理学を予習する　復習：ストレッチングの種類と運動絵hの影響についてまとめる	4時間
第5回	**種目特性とストレッチング** 種目特性を鑑みて必要なストレッチング部位と方法について討議する	授業を通じて得られたストレッチング方法を、身近な競技現場で導入するためのプレゼンテーション資料をまとめる	4時間
第6回	**冷却理論** アイシングやクーリングによる生理学的反応について学習する	復習：経験的に理解しているアイシングの効果について身体内の現象と照らし合わせてまとめる。	4時間
第7回	**運動連鎖と運動の介入** 下肢の運動を中心に運動学的な身体活動のエネルギー移動と関節機能との関係について理解する。 さらに各関節運動の連鎖に影響を与える身体機能やトレーニング、各種のドリルについてグループワークによる他者観察の結果を討議する	予習： 下肢の関節運動と運動連鎖について予習する　復習： 運動の観察結果をまとめる	4時間
第8回	**補装具などによる運動連鎖への影響** サポーターやインソール、テーピングによる、アライメントへの影響や運動連鎖への影響を実際に観察し理解する	足部、足関節、膝関節などに対する基本的なテーピング は予習しておくこと	4時間
第9回	**女性アスリートの安全を守る** 女性アスリートを指導する上で必要な女性アスリートの特徴について、女性アスリートの三主徴、月経とアスリートのコンディション、女性アスリートのフィジカルトレーニングに関するリスク管理について学ぶ	女性アスリートへのコンディション特性をまとめる	4時間
第10回	**スポーツにおける重傷事故** 頭部外傷や脊椎損傷など、重傷事故につながりやすい外傷について学ぶ	人の生命にかかわるスポーツによる外傷についてまとめる	4時間
第11回	**競技会における安全対策** スポーツ現場での安全対策について、緊急時対応計画やスポーつ外傷や障害を防ぐための組織的な働きかけについて学ぶ	授業で学んだことをもとに、身近な競技現場の安全対策を検討しレポートにまとめる	4時間
第12回	**アンチ・ドーピング** ドーピングの定義と方法を理解する また国内外におけるドーピングコントロールの組織的取組について学ぶ	予習：これまでの身近なスポーツ活動でアンチドーピング規定に抵触する行為がなかったか振り返り調べてくる　アンチドーピング機構、世界アンチドーピング機構 について復習する	4時間
第13回	**アンチ・ドーピング活動とトレーナーの役割** 競技外検査、競技内検査の具体的な実施方法を学び、トレーナーとしてドーピングから選手を守る方法と役割を理解する。また競技現場におけるアンチドーピングのための教育啓蒙活動について理解する	予習：アンチドーピングにかかるトレーナーの役割を考える　復習：トレーナーが陥りやすいアンチドーピングに反する行為をまとめる	4時間
第14回	**外部講師特別講義** 外部講師による講義を受け、アスレティックトレーナーの活動時のポイントやリスクマネジメント、科学的根拠と実践的指導の融合について理解を深める	復習：講義の内容をレポートにまとめる	4時間

SP-3401-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅰ**				
担当教員名	望月・渋谷・豊田・林・山田・北村・竹川・吉川・岡部・坂尾・佐藤・玉城				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

コース教員それぞれより、コーチングコースにおける専門領域（競技力向上、コーチング、科学的支援（情報によるスポーツ支援））に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動および教員の指導・支援の実践ポリシー（方針・哲学）についての授業を行い、コーチングについての実践的理解を深める。また、スポーツ現場を分析・議論するための各知識と言語力の向上（読解力、分析力、言語技術、ディスカッション、コーチング、心理、測定評価、パフォーマンス分析、ゲーム分析）を目指す。そして、3年次の専門実習と4年次の演習および卒業研究のための基礎力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	競技力向上、コーチングおよび情報による指導支援についての基礎	コーチングコースで行われている学問内容について、理解することができる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	各教員の実践ポリシー（方針・哲学）	各教員の実践ポリシー（方針・哲学）を傾聴し、「私が考えるコーチング、情報による指導支援」について述べることができる。
3 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	スポーツ現場を深く分析し、議論するための言語力	スポーツ現場の分析と議論のための、言語技術（読解力、分析力等）についての基本的手法について理解し、実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	40%	：それぞれの授業回担当者が提示する課題レポート（第1から7回、13回の計8回分）を評価します。①授業内容の理解度、②自身の経験や考えを明確に示せているかから評価します
領域別学習の成果（レポートおよびプレゼン等）	30%	：①領域学習の成果について、理解度および分析力の観点から評価します。
技術言語実践	10%	：実践を通して、①言語技術の理解度と②学習した内容の実践意欲について評価します。
最終課題レポート	20%	：学んだ基礎的知識を用いて、専攻する領域について、今後の実践課題と計画について簡潔に述べるものとします。①授業内容の理解度、②自身の経験や考えを明確に示せているかについて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に使用しないが、各回において参考図書を設定している。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各担当教員オフィスアワー

場所： 各担当教員研究室

備考・注意事項： 各担当教員のオフィスアワー参照

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、　望月聡・北村哲の実践キャリアとポリシー** 本授業のオリエンテーションを行うとともに、望月聡・北村哲の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。	望月聡・北村哲の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。	4時間
第2回	**豊田則成・岡田優真の実践キャリアとポリシー** 豊田則成・岡部優真の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。	豊田則成・岡部優真の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。	4時間
第3回	**渋谷俊浩・坂尾美穂の実践キャリアとポリシー** 渋谷俊浩・坂尾美穂の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。	渋谷俊浩・坂尾美穂の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。	4時間
第4回	**林弘典・玉城耕二の実践キャリアとポリシー** 林弘典・玉城耕二の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。	林弘典・玉城耕二の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。	4時間
第5回	**吉川文人・竹川智樹の実践キャリアとポリシー** 吉川文人・竹川智樹の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。	吉川文人・竹川智樹の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。	4時間
第6回	**山田庸・工藤慈士の実践キャリアとポリシー** 山田庸・工藤慈士の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。また前半6回の振り返りを行うとともに、ゼミ選択を実施する。	山田庸・工藤慈士の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。	4時間
第7回	**言語技術の学習（外部講師）** 外部講師による言語力向上（読解力、分析力）のための講義を受講し、言語技術の概要について学習するとともに、対話手法やテクストやイラスト分析を実践する。	学習した言語技術の概要について復習する	4時間
第8回	**言語技術の実践** 前回学習した内容について、グループに分かれ実践する。	実践内容についてグループでの振り返りを行う	4時間
第9回	**領域別演習（コーチング）①指導者としての基礎的スキル（対自己力）の学習** ①競技力向上、②コーチング、③情報によるスポーツ支援の3つのグループに分かれ、今後6回の講義、実習内容についてのガイダンスを行うとともに、各グループにおける基礎的知識について学習する。 学び続けられるコーチの土台なる「対自己の知識（自己理解、内省力」について学習するとともに、マインドマップ等のワークに取り組み、自己認識の力を養う。	学んだ内省方法をほかのテーマでも実践する	4時間
第10回	**領域別演習（コーチング）②指導者としての基礎的スキル（対自己力、対他者力）のグループ学習** ①競技力向上、②コーチング、③情報によるスポーツ支援の3つのグループ別に実施。 実習小グループを構成し、前前回の学習内容を活用し、グループワークを通して「対自己の知識（自己理解、内省力」についてさらに学びを深める。また対他者の知識についても学び、グループワークにて他者理解の力を養う。	他者がその考えに至った文脈・背景について考える	4時間
第11回	**領域別演習（競技力向上）①競技力向上方策の検討** 競技力向上のメカニズム（特にトレーニング）・それに関わるコーチの役割について理解し、自身または専門競技の競技力向上方策を検討する。	自身のトレーニングの現状を精査し、ノートにまとめておく（トレーニング日誌等）	4時間
第12回	**領域別演習（競技力向上）②競技力向上方策の策定** 自身で検討した競技力向上方策を、実際の競技活動で活用できるよう策定（トレーニング計画等）する。	多様な競技の強化方策（トレーニング計画等）を調査し、その概要をノートにまとめておく	4時間

第13回	**領域別演習（科学的支援）①情報の収集** スポーツに関する情報収集について整理し、自身の競技において得られうる情報を検討する。具体的に、ゲームのスタッツ、体力テスト、ハイライト映像、バイメカニクスによる動作分析について検討する。	グループ実習の発表資料の充実、発表練習をする	4時間
第14回	**領域別演習（科学的支援）②情報の見える化** スポーツに関する情報収集について整理し、情報を見やすくまとめ、見えるかする方法について検討する。特に、スタッツや動作解析のグラフ化、ハイライト及び動作映像の加工について検討する。	各グループの発表内容についてまとめ、復習する	4時間

SP-3403-3-1

授業科目名	**コーチング専門実習Ⅰ（コーチング専門実習Ⅰ）**				
担当教員名	望月・渋谷・豊田・林・山田・北村・竹川・吉川・岡部・坂尾・佐藤・玉城				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

コーチングコースにおける専門領域（競技力向上、コーチング、科学的支援（情報によるスポーツ支援））に関するスポーツ現場での実践的理解を深めるために必要な基礎的知識や実践力を学修する。内容としては、競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法および科学的指導支援の手がかりについて概観するとともに、競技スポーツ組織の運営において重要な実践知を概観するために、学内における個別スポーツ競技の現場の視察実習とその事前事後のディスカッションから、コーチングの役割やコーチング行動をはじめ、コーチングやチームマネジメントに求められる実践的な知識やスキルについて学ぶとともに、専門領域の実践的理解を深めるために、競技力向上、コーチング、科学的支援の内容についての実習を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	コーチングにおける様々な実践的活動	コーチングの実践的活動の大枠とその内容について理解する。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	コーチング行動に対する観察力、洞察力、分析力	自らのコーチングに活用できる分析力を獲得し、分析レポートを作成することができる。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	コーチングを取り巻く問題や課題に対する分析力、発想力	実態の把握を踏まえ、望ましい実践のあり方について自らの考えをのべることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
視察実習レポート 40%	：	それぞれの授業回担当者が提示する課題レポート（第1から6回分）を評価します。①授業内容の理解度、②自身の経験や考えを明確に示せているかから評価します.
領域別実習の成果（レポートおよびプレゼン等） 60%	：	①領域学習の成果について、各実践的知識の理解度、実践的スキルの理解度の観点から評価します。(20%×3領域)

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に使用しないが、各回において参考図書を設定している。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
また、コーチング専門実習Ⅱとの連結についても配慮しなければならない。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。
授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各担当教員オフィスアワー

場所： 各担当教員研究室

備考・注意事項： 各担当教員のオフィスアワー参照

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびコーチングの現状と実践知** 授業の進め方や内容について把握する。また、これまでの競技スポーツ活動についてプレーヤー、コーチ、支援者のそれぞれの視点から振り返り、競技スポーツ活動の現状について整理するとともに今後の実践的な学習の内容と方法について理解する。	コーチングの現状認識と本実習に期待する学習内容についてノートにまとめる。	1時間
第2回	**コーチングの諸問題とコーチングの基礎的事項の概要** 競技スポーツにおけるコーチングの課題について概観する。競技スポーツを志向する組織におけるプレーヤー観や行動、規律とコーチに関してその役割とコーチング行動、組織を運営する上で把握しておくべき実践知のほか、各競技活動の支援する上で把握しておく実践知について、ブレインストーミングとディスカッションを行い、競技スポーツに必要な諸課題について考察する。	興味・関心のあるスポーツ競技において一般的に求められる基本的なコーチングの知識についてノートにまとめる。	1時間
第3回	**競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習の事前指導** 視察実習のための準備を行う。内容としては、グループ分けの後、視察競技種目や指導者のイメージのすり合わせ、また観察の観点と記録法や評価法の手法などについてディスカッションし、各グループオリジナルのスカウティングシートを作成し、次回からの視察実習に備える。	学内のスポーツ活動特徴を事前調査する。	1時間
第4回	**競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習①** 学内におけるスポーツ現場の視察を通して、プレーヤ活動、コーチングの役割やコーチング行動、支援の様子をはじめ、充実した競技スポーツの活動の運営に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。	実習のポイントについてノートにまとめる。	1時間
第5回	**競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習②** 学内におけるスポーツ現場の視察を通して、プレーヤ活動、コーチングの役割やコーチング行動、支援の様子をはじめ、充実した競技スポーツの活動の運営に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。	前回の実習内容を整理する。	1時間
第6回	**競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習③** 学内におけるスポーツ現場の視察を通して、プレーヤ活動、コーチングの役割やコーチング行動、支援の様子をはじめ、充実した競技スポーツの活動の運営に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。	前回の実習内容を整理する。	1時間
第7回	**競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習の振り返り** 学内におけるスポーツ現場の視察を通して、学び得た内容や想起された問題点、疑問点について発表とディスカッションを行う。実習を振り返り、学習のポイントを整理するとともに、コーチング実践についての理解を深める。	教員及び他の専門家からのアドバイス・意見を踏まえて、今後の競技活動に本実習を活かせるようにポイントをノートにまとめる。	1時間
第8回	**領域別実習（コーチング）①省察スキルの実践** 視察実習の内容から自身が注目した事項について、マインドマップ等のワークに取り組み、省察スキルを養う。	学んだ内省方法をほかのテーマでも実践する。	1時間
第9回	**領域別実習（コーチング）②他者理解・ファシリテーションスキルの実践** 前回の学習内容を活用し、グループワークを通して、他者の考えの理解また、引き出すスキルを養う。	他者の考えに至った文脈・背景について考える。	1時間
第10回	**領域別実習（競技力向上）①競技力向上につながるフィジカルの理論** 競技力向上のメカニズム、特にフィジカル理論について理解する。	競技力向上におけるフィジカルの重要性について検討する。	1時間
第11回	**領域別実習（競技力向上）②競技力向上につながるフィジカルテストの実践** 競技力向上におけるフィジカルテストを実施し測定評価する。	自身の競技におけるフィジカルテストについてまとめておく。	1時間
第12回	**領域別実習（科学的支援）①スポーツ情報の収集について** スポーツ情報の収集について、どのような情報が収集できるかを各種スポーツで検討する。また、情報を収集するためのツール（道具・機材）にはどのようなものがあるかを検討する。さらに、スポーツ情報の見える化について、見やすいフィードバック方法を検討する。	スポーツの結果速報を検索し，どのようにスタッツ情報がまとめられているか調査する．	1時間
第13回	**領域別実習（科学的支援）①スポーツ情報収集の実践** スポーツに関する情報を収集実践する。ゲームパフォーマンス分析を用いてゲーム映像からスタッツを収集し、特徴をグラフで示しみえる化する。	個別スポーツ競技③現場の観察レポートを作成する。	1時間

第14回	**まとめ（領域別）** 全14回の学習を振り返り、今後のコースでの学びの方向性や内容について具体化を図る。	前回までの授業内容を整理する。	1時間

SP-3404-3-1

授業科目名	**コーチング専門実習Ⅱ（コーチング専門実習Ⅱ）**				
担当教員名	望月・渋谷・豊田・林・山田・北村・竹川・吉川・岡部・坂尾・佐藤・玉城				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

コーチングコースにおける専門領域（競技力向上、コーチング、科学的支援）別に展開し、より専門的に実践的な学習をする。授業では、専門領域の理解をさらに深められるよう、それに必要な基礎的知識や実践力を学修するために、スポーツ現場に散在する様々なデータの収集と加工の仕方、データ分析の方法の理解と習得、スポーツ現場へのフィードバックの方法などの理解と習得を目指す。そして、４年次の卒業研究を遂行するための基礎力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP8.スポーツ学に関する深い知識	競技力向上、コーチングおよび科学的支援の領域における基礎的知識の学習	コーチングコースで行われている専門領域を構成する学問内容について、理解することができる。
２．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツ現場への有意義なフィードバック法	スポーツ現場に散在する様々なデータを分析また理解し、有意義にフィードバックする手法を理解し、実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

レポート提出が成績評価につながるので、実習先での学びを詳細にノートに書き記しておくこと。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	80%	：①授業で取り上げた知識や手法について十分に理解しているか、②データの収集、分析、加工は適切に行われているか、③現場に有用なフィードバックとなりえているかの3つの観点から評価します。
成果プレゼン	20%	：①基本的なプレゼンスキルを発揮できているか、②スポーツ現場への還元を意識したプレゼンであるかの観点から評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜紹介する。また、プリント等の資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各担当教員オフィスアワー

場所： 各担当教員研究室

備考・注意事項： 各担当教員のオフィスアワー参照

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびこれからの学びについての整理** 授業の進め方や内容について把握する。また、これまでの学修（コーチング基礎演習Ⅰ、コーチング専門実習Ⅰ）を振り返りながら、コーチングコースの各専門領域において実践的な学習方法について理解する。	各自の学びの観点を整理する。	1時間
第2回	**各専門領域における実践を深めるための基礎的知識①** 競技力向上領域：コーチング現場の現状を踏まえ、コーチに求められる知識やスキルについて学び、コーチング実践に繋げていく。 コーチング領域：コーチの資質や素養に関する知見について学習する。 科学的支援領域：現場で活用できるフィードバック手法について概観する（体力、心理、ゲーム、動作）	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第3回	**各専門領域における実践を深めるための基礎的知識②** 向上領域：アスリートの競技力向上を「支える」コーチの役割と機能を理解し、競技力向上のための学びを広げ、深める。 コーチング領域：指導対象の心理的な特性についての知見ついて学習する。 科学的支援領域：データの扱い方の学習①エクセルの使用方法の学習を通して、フィードバックで用いられる集計方法や、グラフ作成ついて学習する。	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第4回	**各専門領域における実践を深めるための基礎的知識③** 競技力向上領域：組織運営に求められる知識とスキルを概観する（特定競技の年間スケジュールや競技スポーツのマネジメントについて情報収集し、求められる知識とスキルについて理解を深める）。 コーチング領域：指導対象者とコーチ、またアントラージュとの関わりで起きる諸問題に関する知見ついて学習する。 科学的支援領域：データの扱い方の学習②フィードバックで用いられる統計的手法（平均値、合成得点、因子得点）などについて学習する。	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第5回	**各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査①** 競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査の事前準備① コーチング領域：グループ活動を通じてスポーツ現場における諸問題について調査テーマを設定する。 科学的支援領域：心理アンケートのフィードバック用紙の作成の実践してみる。	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第6回	**各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査②** 競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査の事前準備② コーチング領域：グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を企画する。 科学的支援領域：体力テストを実施し、測定結果からフィードバック用紙作成を実践する。	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第7回	**各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査③** 競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査①：集中授業 コーチング領域：グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を遂行する。 科学的支援領域：記述的ゲーム分析法について、学び、実践する（スポーツコードとコーダを用いたゲームパフォーマンス分析の実践）。	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第8回	**各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査④** 競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査②：集中授業 コーチング領域：グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を遂行し、必要であれば、方法の改善などの軌道修正を行う。 科学的支援領域：映像によるゲーム分析を学び、実践する（タグ付けソフトウェアによりシュートシーンなどのハイライトを抽出し，ハイライト動画を編集する）。	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第9回	**各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査⑤** 競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査結果の分析とまとめ（分析とフィードバック）①：集中授業 コーチング領域：得られたデータを分析／解析するための方法論を駆使し、分析結果を有益な情報へと加工し、グループ内外での意見交換を行い、改善をはかる。 科学的支援領域：バイオメカニクス測定を実践する。	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第10回	**各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査⑥**	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間

	競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査結果の分析とまとめ（分析とフィードバック）②：集中授業 コーチング領域：スポーツ現場への提言を行うため、分析結果を発表し、質疑応答を展開する。 科学的支援領域：バイオメカニクスのデータ集計を実践する（バイオメカニクスデータを抽出し，それぞれの角速度，速度などのデータをグラフに見える化）。		
第11回	**各専門領域における学術研究・実践研究の概観** 各専門領域より事後学習および事前学習について指示する。	各専門領域より事後学習および事前学習について指示	1時間
第12回	**各専門領域における実践に活用できる研究資料の作成** 自身の卒業研究に活用できる研究資料（論文・文献要約集等）を作成する。	プレゼン資料の作成	1時間
第13回	**研究活動計画の策定** 自身の研究テーマおよび研究活動計画を報告（発表）し、ディスカッション等を経たうえで卒業研究に着手する。	ディスカッション内容を踏まえての整理	1時間
第14回	**まとめ（領域別）** 本授業で取り組んだ調査活動とフィードバック資料の作成などから、学んだことについてさらに理解を深める。	研究活動計画の修正	1時間

SP-3407-3-2

授業科目名	**コーチング理論（コーチング理論Ⅰ）**				
担当教員名	渋谷・林・坂尾				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全14回：渋谷俊浩（1-6回）、林弘典（7－9階）、坂尾美穂（10-14回）：日本スポーツ協会公認コーチ等				

授業概要

近年、スポーツ界ではハラスメント等のさまざまな問題・課題が散見され、スポーツの現場では優れた指導者（コーチ等）の養成、加えてその指導者の資質向上が急務であるとされている。では、実際のスポーツ現場で求められているコーチ・コーチングとはどのようなものなのか？受講生がスポーツ大学においてこれまでに学修してきた内容（概論・基礎理論・実技など）をベースとして、諸種のコーチング理論を現場で実践する力を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	コーチングの基礎理論の理解。	関連分野の理論をふまえ、コーチングの基礎理論を理解する。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	コーチングの実践力の養成。	コーチングの基礎理論を活用し、スポーツの現場で実践できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポートⅠ	45%	： 与えられた課題について、授業内容を正確に理解し、かつ具体的な事例を挙げて自身の考えを論理的に述べることができているかを評価します。
課題レポートⅡ	25%	： 与えられた課題について、授業内容を正確に理解し、かつ具体的な事例を挙げて自身の考えを論理的に述べることができているかを評価します。
課題レポートⅢ	30%	： 与えられた課題について、授業内容を正確に理解し、かつ具体的な事例を挙げて自身の考えを論理的に述べることができているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツ・コーチ学」嶋田出雲著（不昧堂出版），「選手が育つポジティブ・コーチング」レイモンド.M.ナカムラ著（サイエンティスト社），「知的コーチングのすすめ」河野一郎監・勝田隆著（大修館書店），「コーチング学への招待」日本コーチング学会編（大修館書店），「スポーツ・コーチング学」レイナー・マートン著（西村書店），「コーチングマニュアル」S.ソープ&J.クリフォード著（ディスカヴァー），「コーチング5つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

履修条件
「スポーツ指導論」の単位を取得していること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第　1回	**ガイダンス・コーチングの理論と実践：コーチ・コーチングとは1（坂尾美穂）** コーチングの意味を深く考え、コーチングによってもたらされる成果、コーチングの持つ役割、そしてコーチングの根本的な機能についての知識を獲得する。また、コーチングを実践していく上で必要となるコーチングの原則を担当教員の実践例を通して理解する。その際、エリートコーチの仕事と能力についても理解を深める。	「これまで受けてきたコーチング」について整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間
第2回	**コーチングの理論と実践：コーチングの人間関係（坂尾美穂）** コーチングを実践する上で重要な「人間関係」について理解を深める。「人間関係」を構築する上で必要な要素についての知識を獲得し、コーチとして必要な素養を獲得する。	授業内容（コーチングの人間関係）を整理し、参考図書「コーチング5つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）を熟読し、理解を深める。	4時間
第3回	**コーチングの理論と実践：コーチングの開始（坂尾美穂）** コーチングが開始される「きっかけ」や「状況」について理解を深める。コーチング現場におけるコーチング機能や人間の本質を観察し、コーチングが開始される「きっかけ」や「状況」を見逃さない能力を身につける。また、実践現場でコーチが直面することの多いチームワークについて、その機能するための要因について学ぶ。	授業内容を整理し、自身のスポーツ活動の現場にて実践する。	4時間
第4回	**コーチングの理論と実践：コーチング事例（坂尾美穂）** 競技スポーツにおけるコーチング事例を「方法」と「視点」に着目し紹介することで、実践的なコーチングに関する理解を深める。コーチング対象者は多様な特徴を持っていることを理解する。また多様な特徴を持った対象者に効果的なコーチングを実践するために、何を観察・分析するのか、コーチングの視点を学び、自身のコーチング能力を磨くためのヒントを得る。	授業内容を整理し、自身のこれまでのスポーツ活動を振り返りノートにまとめておく。また、現在のスポーツ活動の現場にて実践する。	4時間
第5回	**コーチングの理論と実践：まとめ・理解度確認（坂尾美穂）** 第1-4回の授業内容を復習し、記述式課題への取り組みを通じて理解度を深める。 コーチングにおけるキーワードを理解し、事例を通して自身のコーチングについて論述する。	学修した諸種の理論を、自身のスポーツ現場で実践する。	4時間
第6回	**コーチングの理論と実践：コーチ・コーチングとは2（林弘典）** コーチングの意味を深く考え、コーチングによってもたらされる成果、コーチングの持つ役割、そしてコーチングの根本的な機能についての知識を獲得する。また、コーチングを実践していく上で必要となるコーチングの原則を担当教員の実践例を通して理解する。その際、エリートコーチの仕事と能力についても理解を深める。	第1回から第5回の授業内容（特に「これまで受けてきたコーチング」）について整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間
第7回	**コーチングの理論と実践：コーチングの基本原則（林弘典）** コーチングに欠かすことのできない3つの要素についての知識を獲得し、成功するコーチングの本質を理解する。また、コーチングを実践していくうえで必要な、「伝え方」が複数あることを理解し、その方法を知識として獲得する。	授業内容（コーチングの基本原則）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間
第8回	**コーチングの理論と実践：コーチングの核となる価値観と信念（林弘典）** コーチングを実践していく上で、コーチ自身が持つ価値観と信念は非常に重要な要素となる。競技スポーツに取り組む対象者をコーチングしていく上でポイントとなる価値観と信念について理解を深める。また、価値観と信念に関連付けて、目標設定についても理解する。	自身のコーチングポリシーを具体的に言語化し、まとめておく。	4時間
第9回	**これまで受けてきたコーチングについての振り返り（渋谷俊浩）** 第1-8回の授業内容・展開について、今後の自身のスポーツ活動スケジュールと併せて理解する。 自身のスポーツ活動において、これまでに受けてきたコーチングを再度振り返り、整理する。	授業内容（これまで受けてきたコーチング）について整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間
第10回	**コーチングの理論と実践：競技スポーツとは、コーチ・コーチングとは3（渋谷俊浩）** これまでに受けてきた授業（スポーツ学入門、成蹊スポーツ基礎演習、スポーツ指導論等）および前回の「これまで受けてきたコーチングについての振り返り」を踏まえ、競技スポーツおよびコーチングの基礎的理論を確認する。 「競技スポーツとは」「コーチ・コーチングとは」について、担当教員の実践例を通して理解する。	授業内容（競技スポーツとは、コーチ・コーチングとは）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間
第11回	**コーチングの理論と実践：コーチング哲学とは（渋谷俊浩）** コーチは「哲学」を持ってコーチングすることが重要だとされている。では、なぜ「哲学を持つ事」が重要なのか、またそもそも「コーチング哲学」とは何か、これまでに自身が受けてきたコーチング（実際例）を振り返り、ディスカッションを通じて理解する。	授業内容（コーチング哲学）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間
第12回	**コーチングの理論と実践：コーチの使命・役割（渋谷俊浩）** これまでに自身が受けてきたコーチングを振り返り、コーチの使命・役割について、実際例を通して理解する。	授業内容（コーチの使命・役割）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間

第13回	**コーチングの理論と実践：コーチングスタイル（渋谷俊浩）** これまでに自身が受けてきたコーチングを振り返り、いくつかのコーチングスタイルと、それらコーチングスタイルの差異がアスリートへ与える影響にについて、実際例を通して理解する。また、それらを踏まえて今後自身がコーチになった時にどのようなコーチングを行うのかを模索する。	授業内容（コーチングスタイル）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間
第14回	**コーチングの理論と実践：コーチングの実践・ディスカッション（渋谷俊浩）** コーチングの現状と課題を理解したうえで、これまで学修した内容をもとに、競技スポーツの現場で求められているコーチ・コーチング＝これから（未来）のコーチングについて自身の見解をまとめる。さらに、小グループでディスカッションし、他者の示唆を受けながら自身のコーチングポリシーを構築していく。	授業内容（これからのコーチング）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。	4時間

SP-3408-3-2

授業科目名	パフォーマンス分析論（パフォーマンス分析論）				
担当教員名	山田，岡部				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

より良いスポーツパフォーマンスを発揮するためには、スポーツのパフォーマンス構造を理解して、運動を力学や運動学的な観点で捉えることが必要不可欠である。また、スポーツ場面から得られる情報を収集、整理、分析するシステムを理解・活用し競技現場に対して有益な情報を提供する必要がある。
スポーツパフォーマンスの構成要因や各要因相互の関係などの科学的知見から、スポーツパフォーマンスを分析してトレーニングに必要な課題を導き出す方法、選手に対する戦術的アドバイス等を適切に導き出し、提供する方法を学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	パフォーマンスを科学的な視点から分析・評価うる方法の習得。	自身の経験してきたスポーツや現在指導しているスポーツのパフォーマンスを分析して、トレーニングを計画・実践・評価・再考できるようになる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	映像を加工・分析して動作を客観と主観に分類して把握する方法の習得。	パフォーマンスを客観的に捉えながら、主観と客観の相違を理解できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回の講義では、学習内容に関するレポート課題の提出を求める。
やむなく講義を欠席する際には、レポート課題の内容を自主的に調査して提出すること。
授業の復習・予習を目的とした自宅学習課題の提出を求めることから、自宅での学習・調査が必須となる。
プレゼンテーションやグループ課題の準備のために、授業時間外での学習・調査・発表準備が必要となる。

-評価の基準-
適切であり優れている：5点、適切である：4点、一部適切である：3点、適切でない：2点、不足している：1点
課題などの提出遅れは10～20%を減点する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各講義におけるレポート課題	50%	： 到達目標を達成している：評価の基準×5点（25点満点） 個人やグループの意見が述べられているか？：評価の基準×4点（20点満点） 自身の活動への応用内容が述べられているか？：評価の基準×1点（5満点）
授業内プレゼンテーション	40%	： プレゼンテーション作成と発表への貢献・参加度：評価の基準×4点（20点満点） 到達目標を達成している：評価の基準×3点（15点満点） 個人やグループの意見が述べられているか？：評価の基準×1点（5点満点）
予習・復習課題	10%	： 全ての課題が提出されおり、全ての回答が適切になされている：評価の基準×2点（10点満点）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツパフォーマンス分析入門（大修館書店）
ハイパフォーマンスの科学（ナップ）
スポーツ・バイオメカニクス入門（杏林書院）
走る科学（大修館書店）
跳ぶ科学（大修館書店）
投げる科学（大修館書店）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本講義を受講するに際して、スポーツバイオメカニクス、運動学概論、スポーツ生理学Ⅰ、スポーツ指導論を履修していることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業終了後など

場所：　講義場所、B211研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：スポーツパフォーマンス分析とは何か** 授業の評価や今後の授業内容について確認をする．スポーツパフォーマンス分析は何を，なぜ，誰が，いつ，どのように行うのかを理解する．	今までどのようにスポーツのパフォーマンスを分析してきたか，自身の経験を発表できるように準備する．	4時間
第2回	**スポーツにおけるパフォーマンス分析の目的と役割** スポーツ場面において，パフォーマンス分析はどのような目的で行われ，どのような役割を担っているのかを理解する．また，パフォーマンス分析をどのように	実際にスポーツパフォーマンス分析が行われている場面，どのような人が活躍しているかを調査する．	4時間
第3回	**スポーツの運動構造と階層構造を理解する** スポーツの動作を複数の局面に分類して，各局面における階層構造を把握することで，分析の着眼点を定めていく．	運動の局面構造，局面融合のキーワードについて調査して説明できるようにしておく．	4時間
第4回	**スポーツ運動を力学的に理解する** スポーツ動作を分析するための力学的な基礎知識を学習する．	並進運動と回転運動について，それぞれの特徴を説明できるように調査する．	4時間
第5回	**パフォーマンス分析の着眼点** 基本的なスポーツ動作について，専門家と非専門家がどのような部位のどのような動作を重視しているかについて評価して，その相違についてディスカッションする．	運動の”コツ”に関して，トップアスリートが述べている内容をインターネット，雑誌，新聞などから調査する．	4時間
第6回	**映像を用いたパフォーマンス分析：連続写真の作成** 映像を取り出して，連続写真を作成する方法について学習する．作成した連続写真を利用して，スポーツ動作（パフォーマンス）を客観的に評価する方法について学習する．	走る，跳ぶ，投げるなどの基本的動作について，どのような動作が効率的であるかを調査しておく．	4時間
第7回	**映像を用いたパフォーマンス分析：連続写真の分析** スポーツ動作の相違点を連続写真から読み取って評価する．その評価をもとに動作課題を検討する．	連続写真から読み取れる動作の特徴や動作課題について，レポートにまとめる．	4時間
第8回	**映像を用いたパフォーマンス分析：トレーニング課題の設定** トレーニング課題の設定手順を学習し，連続写真から抽出された動作課題に対して，その課題解決のためのトレーニング課題を設定する．	課題に応じたトレーニング手段を調査し，レポートにまとめる．	4時間
第9回	**観察的評価法を用いたスポーツパフォーマンスの分析** 観察的評価法によってスポーツパフォーマンスを分析することが有効的な場面を理解し，スポーツ動作の特性を踏まえた評価基準を作成する．	提示されたスポーツ動作に関する“良い動き”と“悪い動き”を調査しておく．	4時間
第10回	**観察的評価法の実践** 自分自身で作成した評価基準を用いて，実際にスポーツ動作を評価する．	評価基準を用いて評価し，点数化したデータをデジタル化し，分析しやすいデータセットへ整える．	4時間
第11回	**観察的評価基準の信頼性・妥当性検証** 作成した評価基準がそのスポーツ動作を良し悪しを評価する妥当性・信頼性があったのか，実際に評価した結果を分析することで検証する．	「評価者内信頼性」「評価者間信頼性」キーワードについて調査し，レポートにまとめる．	4時間
第12回	**スポーツにおけるイベントの抽出と分析方法** 度数記録システムを用いて，手作業によって球技における試合中のイベントを記録する．	手作業によって記録したデータをデジタル化し，分析しやすいデータセットへ整える．	4時間
第13回	**度数記録システムによって収集したデータの分析と活用** 提示された試合動画から収集したデータを集計・分析し，選手に対して戦術やトレーニング課題を提供する手順について学習する	提示されたスポーツ種目に関する基本的戦術や技能について調査しておく．	4時間
第14回	**達成度チェックおよびまとめ**	14回の学習内容とその応用に関するプレゼンテーション資料を作成する．	4時間

全14回のまとめとして，映像などを利用したパフォーマンス分析についてまとめて発表する．		

SP-3409-3-2

授業科目名	**ゲーム分析法（ゲーム分析法）**				
担当教員名	山田・竹川・吉川・坂尾・玉城				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山田教授はJリーグ徳島や韓国江原FCコーチとして，竹川准教授は男子バレーボール日本代表および同U21/U20/U23スタッフとして，吉川准教授はJISSスポーツ情報研究部研究員として，坂尾講師はU17/16/15/日本女子代表コーチとして，玉城講師はバスケットボール男子日本代表やBjリーグ島根スサノ				

授業概要

スポーツのなかでも特に球技において著しい発展を遂げるゲームパフォーマンス分析を対象に、その手法を学習する。質的データを収集する質的分析法と，量的データを収集する記述分析を学習する。また、その知識をもとに各種スポーツを対象にゲーム分析を行い、発表と議論を通じてゲーム分析の実践力を高める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	ゲーム，質的分析法，ゲームパフォーマンス分析の知識	ゲーム，質的分析法，ゲームパフォーマンス分析の知識を習得する
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	ゲーム分析の新しい形を想像するための知識と技能	ゲーム分析の新しい形を想像するための知識と技能を習得する
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	分析，議論，発表に積極的にかかわる姿勢と態度	分析，議論，発表に積極的にかかわる姿勢と態度を習得する
4 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツデータを扱うために必要な倫理観	スポーツデータを扱うために必要な倫理観を修得する

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	100%	： 授業内で課されるゲーム分析に関する発表やレポートなどの課題を適切に行っているか.

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、ゲーム分析法の基礎（山田　庸）** ゲーム分析の手法は、情報技術の発達により大きく変革してきている。これまでのコーチの観点からの質的分析法に合わせて、客観的データに基づく記述分析をもちいたゲーム分析法について基礎知識を解説する。	ゲーム分析法について図書やサイトを調べる	4時間

第2回	**量的分析の概観（吉川　文人）** 記述分析（Notational Analysis）のこれまでの発展を振り返り、どのような研究成果が公表されてきており、それが実践的にどのように応用展開され得るのかを含め、記述分析アプローチを概観する。ゲーム型競技のうち「ネット型」、「ゴール型」、「ベースボール型」について、公開されている資料を通じて量的分析とそこで取り扱われているデータに関する具体例を紹介する。	自らが専門とするスポーツ競技や興味関心を持っているスポーツ競技の競技特性 と関連づけて、その競技のゲーム分析に求められる技術の機能について整理する。	4時間
第3回	**量的分析へのデータサイエンスの応用可能性（吉川　文人）** Volume（データの膨大さ）、Variety（データの多種多様性）、Velocity（分析のリアルタイム性）といった３つの要因の組み合わせで課題や価値が異なるビッグデータとの関連性を含め、今後の量的分析技術の可能性の一端を概観する。	データサイエンスが応用されている業界・業種やその応用事例について幅広に調 べる。	4時間
第4回	**量的分析技術の要件整理（吉川　文人）** 「量的分析の概観」及び「量的分析へのデータサイエンスの応用可能性」の講義を踏まえ、受講生各自が設定するゲームあるいはパフォーマンスの分析目的に合致した技術の要件を定義する実習を行い、発表を通じて各自のアイデアを共有する。	授業で取り扱った測定評価の技術やデータサイエンス技術の動向を踏まえ、自ら の競技力向上につなげたい分析の対象と内容について整理する。	4時間
第5回	**【ネット型球技】バレーボールにおけるゲーム分析に必要な知識の理解（竹川　智樹）** バレーボールの分析に必要な知識について、基礎的な用語からルール、戦術やゲーム分析法の概念について解説する。	バレーボール用語やルールについて書籍やサイトを調べる。	4時間
第6回	**【ネット型球技】バレーボールにおけるゲーム分析の手法（竹川　智樹）** データ収集、処理、分析について解説し、アナリストの役割について学習し、簡易的なデータ収集および分析を行う。	アナリストの役割について参考図書やサイトを利用して調べる。	4時間
第7回	**【ネット型球技】バレーボールにおけるゲーム分析の実践（竹川　智樹）** 近年バレーボールはデータ分析を活用し試合に臨んでいるが、アナログでの分析方法やゲーム分析ソフト「データバレー」を用いた分析方法について解説する。さらにゲーム分析を実践し、結果について検討し発表する。	国内外のトップリーグにおける公式データ等を閲覧し、それらが持つ意味について調査し理解を深める。	4時間
第8回	**【ゴール型球技】サッカーにおけるゲーム分析の実際（坂尾　美穂）** サッカーにおける分析対象や分析の種類について学習する．ワールドカップテクニカルレポートを活用し，分析結果の活用方法について検討する．	サッカーワールドカップのテクニカルレポートを閲覧し，各データの意味・活用方法を考察する．	4時間
第9回	**【ゴール型球技】サッカーにおけるゲーム分析の実際（坂尾　美穂）** サッカー競技におけるゲーム分析で使用する質的・量的指標について学習する．実際の活動現場で使用する機器の種類やその活用方法を検討する．	データ取得・活用方法と指導やトレーニング現場への活用方法を考察する．	4時間
第10回	**【ゴール型球技】サッカーにおけるスカウティング活動（坂尾　美穂）** スカウティング活動の種類について学習する．また，スカウティングで使用する指標やフィードバック方法について検討する．	サッカーのスカウティングの役割や方法について調べる．	4時間
第11回	**【ゴール型球技】バスケットボールの分析 ーボックススコアの活用ー（玉城　耕二）** 近年、バスケットボールの世界では科学的なデータを重要視される。本講義では、ボックススコアと呼ばれる比較的入手が容易なデータから、4 Factorなどバスケットボールで勝敗を決する競技性について考える。	Bリーグ・WJBLなどのボックススコアや、バスケットボールの競技特性について学習する。	4時間
第12回	**【ゴール型球技】バスケットボールの分析 ースポーツコードの活用ー（玉城　耕二）** 本講義では、バスケットボール分析を支えるツールの中でも代表的なスポーツコードについて、現場での使用例を学ぶとともに、ボックススコアだけでは抽出できない戦術傾向について説明する。	競技スポーツにおいて、用いられる映像分析ツールについて調査し、 それぞれの特徴を学習する。	4時間
第13回	**【ゴール型球技】バスケットボールの分析 ーデータと実践の紐付けー（玉城　耕二）** 本講義では、バスケットボールの試合に関して、ボックススコアやスポーツコードから抽出されるデータをもとに、データと実践を紐付ける実践例について解説する。	日本バスケットボール協会の研修会動画の中から、データ分析に関する 情報を閲覧し、評価事例について学習する。	4時間
第14回	**【ベースボール型球技】野球のゲーム分析（山田　庸）** 球技の中でも、特に野球についてセイバーメトリクスといわれるスタッツ分析について解説と評価の実践ワークを行う． また，トラッキングデータに基づくゲーム分析指標のうち，PITCH f/xなどの投球データについて学習し，実践ワークを行う． また、近年MLBや日本プロ野球で取り入れられているバレルゾーンを用いたフライボール革命についても解説する。	身の回りの「ゲーム」について調べる	4時間

SP-3410-3-2

授業科目名	**身体操作法（身体操作法）**				
担当教員名	高橋・山田・岡部				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツの指導や動作分析を行う時に、「自身の身体を動かす感覚」が優れていることは、「目の付け所を探す」時に必ず必要となる。普段何気なく動かしている身体の部位（肩甲骨、股関節、体幹）などの動かし方に始まり、スポーツの中で重要となる動きを学び、さらにそれらの指導ができるようになることを目的とする。そして、それらの動きに潜むバイオメカニクスや生理学的な原則を理解し、スポーツの中で行われている様々な運動を見るための能力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツパフォーマンスを向上させるために適切な身体の動きや姿勢	身体の構造と機能を理解した上で合理的な動きや姿勢がパフォーマンスに与える変化を理解・実践できる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	スポーツパフォーマンスを向上させるための身体操作に必要な感覚と指導法	パフォーマンスの変化を引き出すことのできる動きや姿勢を実践・指導できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	30%	： 実技に対しての積極的な取組みを評価する。
プレゼンテーション	50%	： プレゼンテーションとしてグループでのミニ講義を行う。その時に受講生にフィードバックシートを書かせ、その内容から評価する。
提出物	20%	： 授業ごとのミニレポートや、1課と14課の身体の変化に関するレポートを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業会場

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて事前にアポイントを取り、研究室（高橋：B306、藤林：B307）を訪れること。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、身体の特徴の確認、身体操作法の概略** 本授業の計画、評価方法などについて説明し、股関節や肩甲骨の可動域などについての計測を行う。 身体操作法について、担当教員が講習を行っている動画を見て、その内容から「自分では何ができて、なにができないか」を小レポートにまとめる。	自身の身体の特徴を理解し、股関節と肩甲骨の構造について解剖学の本などで調べる。また、動画の内容を参考に、今後学びたいことについてノートに書き留めておく	4時間
第2回	**単元1：足の指の動きについて** ・足や足指、その動きに関わる骨や筋などの構造について理解する ・受講者自身の足の指がどの程度動くか、足の指を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、トレーニングを行う。	授業内容を参考に、三日間足指の動きのトレーニングを行い、その変化と感想をレポートにまとめる。	4時間
第3回	**単元2：股関節の動きについて01：前屈と開脚** ・股関節の動きに関わる骨や筋などの構造について理解する。 ・受講者自身の股関節がどの程度動くか、特に前屈と開脚前屈を中心に講義を行う。股関節を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、トレーニングを行う。	授業内容を参考に、三日間股関節の動きのトレーニングを行い、その変化と感想をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**単元3：股関節の動きについて02：壁の前でのトレーニングなど** 前回の股関節トレーニングからの発展。 壁の前での前屈や立ち上がり、スクワットなどを行い、股関節と膝、足指の関係について、動きを通して体感する。 股関節を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、トレーニングを行う。	授業内容を参考に、三日間今回の講義で行った動かすトレーニングを行い、その変化と感想をノートにまとめる。	4時間
第5回	**単元4：肩甲骨の動きについて** ・肩甲骨や鎖骨の動きに関わる骨や筋などの構造について理解する。 ・受講者自身の肩甲骨がどの程度動くか、肩甲骨を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、トレーニングを行う。	授業内容を参考に、三日間肩甲骨を動かすトレーニングを行い、その変化と感想をレポートにまとめる。	4時間
第6回	**単元5：体幹の動きと働きについて** ・体幹の動きと働きに関わる骨や筋などの構造について理解する。 ・受講者自身の体幹がどの程度動くか、体幹を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、トレーニングを行う。	授業内容を参考に、三日間体幹を動かすトレーニングを行い、その変化と感想をレポートにまとめる。	4時間
第7回	**単元6：膝の抜きについて** ・膝の抜きという動作について理解する。 ・膝の抜きの動作により、スポーツや日常生活の動きがどのように変化するかを感じ取り、トレーニングを行う。	授業内容を参考に、三日間膝の抜きの動きのトレーニングを行い、その変化と感想をレポートにまとめる。	4時間
第8回	**単元7：二つの感覚について** ・運動をするときの「二つの感覚」について、理解する。 ・二つの感覚の方向性を意識しながら、運動やトレーニングを行う。	授業内容を参考に、レポート〆切まで「二つの感覚」に気をつけながら日常生活や運動を行い、その変化と感想をノートにまとめる。	4時間
第9回	**プレゼンテーション01：指導案の作成** ・第11回から、二名一組でグループごとにミニ講義を行うので、そのための指導案を、単元ごとにグループで集まって作成し、提出する。 ・ミニ講義は20分間なので、「導入・展開・まとめ」を時間配分し、それぞれでどのような内容を説明・実演するかを考え、指導案にまとめる。 指導案の評価の観点 1. 重要と思われるポイントが1つに絞れているかどうか（1点） 2. 1. のポイントが適切で、ちゃんと説明されているかどうか（3点） 3. 動きの解説だけになっていないかどうか（1点） 4. 時間が20分間でおさまっているかどうか（5点）	指導案を作成し、提出する	4時間
第10回	**プレゼンテーション02：模擬授業と内容の確認** 第9回で作成した指導案を元に、単元ごとのグループで実際に模擬授業を行い、指導案の内容を吟味して、適宜修正をする。 何度か繰り返して、単元ごとに同じクオリティで授業ができるよう、共通認識を持つようにする。	翌週からのプレゼンテーションに向け、準備と練習をする。	4時間

第11回	**プレゼンテーション03：プレゼンテーション　単元1～3** 第10回で作成・練習した内容を元に、単元1～3についてグループごとに模擬授業を行う。 プレゼンテーションについて、下記の観点に沿って学生同士で採点し合い、ディスカッションを行う。 【評価の観点と配点】 1. 指導案にそった内容の展開になっているか（3点） 2. 内容が明確に説明されているか（2点） 3. 動きの解説だけになっていないかどうか（2点） 4. 時間が20分間でおさまっているかどうか（3点）	プレゼンテーションに向け、準備と練習をする。	4時間
第12回	**プレゼンテーション03：プレゼンテーション　単元4、5** 単元4，5についてグループごとに模擬授業を行う。 プレゼンテーションについて、第11回に記載した観点に沿って学生同士で採点し合い、ディスカッションを行う。 空いた時間で、前回と今回のプレゼンテーションで理解できなかった内容などについてグループごとに意見交換を行う。	プレゼンテーションに向け、準備と練習をする。	4時間
第13回	**プレゼンテーション04：プレゼンテーション　単元6、7** 単元6，7についてグループごとに模擬授業を行う。 プレゼンテーションについて、第11回に記載した観点に沿って学生同士で採点し合い、ディスカッションを行う。 空いた時間で、今回のプレゼンテーションで理解できなかった内容などについてグループごとに意見交換を行う。	これまで行われたプレゼンテーショ ンを振り返り、実際に動作を行って感覚などが変わったかどうかを確認する。	4時間
第14回	**まとめおよび総評** 本講義のまとめを行い、第一回の授業で計測した内容と同じ計測を行う、そして自身のパフォーマンスや日常生活での感覚が変化したかどうかを考えさせ、その内容をレポート課題として提示する。	授業内容や自身の動き、感覚の変化についてレポートをまとめる。	4時間

SP-3411-3-2

授業科目名	スポーツメンタルサポート論（スポーツメンタルサポート論）				
担当教員名	豊田・玉城・工藤				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツメンタルサポート（ＳＭＳ）には、①スポーツメンタルトレーニング（ＳＭＴ：メンタルスキルの獲得を目指した計画的・教育的な取り組み）、②スポーツメンタルマネジメント（ＳＭＭ：セルフマネジメント能力の向上を目指した気づきと制御の鍛錬）、③スポーツカウンセリング（ＳＣ：徹底した対話による治療的人間関係から人格の成熟を目指す）といった３つの領域があり、これらについて詳細なる実例を通して学んでいく。また、心身の機能の発達と心の健康にも詳し触れ、授業ができる指導力を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツメンタルサポートにおいて基本となる学術的背景	スポーツメンタルサポートの基礎理論を理解することができる
２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	実際にどのような実践がなされているのかの学修	スポーツメンタルサポートにおける研究方法について理解を深めることができる
３．DP10.スポーツ学に関する実践力	アスリートの実力発揮のための心の在り方	具体的な事例の検討からアスリートの心理面について理解を深めることができる
４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	学習指導要領の目標や内容の理解および教材や指導法	指導計画を立案し、実施することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート課題 75%	：	毎回の授業の中で、授業内容を踏まえたレポート課題を課す。授業の内容を踏まえた論述であれば５点とし、重大な誤りや不足があれば１点とする。毎時間の最後に、課題に取り組む時間を設定し、時間内に提出を求める。
最終レポート課題 25%	：	スポーツメンタルサポートの基礎理論や研究方法、事例検討における見立ての仕方などについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

１）スポーツと心理臨床（鈴木壮　創元社）
２）スポーツカウンセリング入門（内田直　講談社）
３）スポーツメンタルトレーニング教本（日本スポーツ心理学会編　大修館書店）
４）白鳳のメンタル（内田堅志　講談社+α新書）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： 研究室

備考・注意事項： アポイントをとりたい場合は、toyoda-n@bss.ac.jp宛てに送信すること。
特に、E-Mailの「件名」には「学籍番号」と「氏名」を記入し、「本文」の一行目には「本授業名」を、二行目以降には「問合せ事項」を簡潔に記入すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツメンタルサポートとは？** 本授業の最初に「スポーツメンタルサポート」について概観し、学習内容や到達目標、評価基準等について学修する。	「スポーツ心理学」で学んだ内容について、ノートにまとめておく。また、スポーツカウンセリングについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第2回	**こころの健康と地域におけるスポーツの現状** 昨今は、こころの病める時代といえる。こころの健康とはどういうことか？　また、地域社会で生じているこころの問題について概観し、スポーツに関わってのカウンセリングの果たす役割について概観する。	授業の内容を踏まえ、こころの健康 と 地域におけるスポーツの現状について、ノートにまとめておく。また、こころ と からだの つながりについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第3回	**こころ　と　からだ　のつながり** こころとからだはつながっている。おおよそ漠然とした表現であるが、スポーツに関わる以上、身体がらみの心理的訴えを生じていくことが想定される。こころとからだの関係について学修する。心身の機能の発達と心の健康にも詳しく触れ、授業計画へとつなげていく指導力を身につける。	授業の内容を踏まえ、こころ と からだ のつながりについて、ノートにまとめておく。また、「自己を語る」ことについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第4回	**「自己を語る」ということ** こころの中を知ろうとするとき、自己を語ることは免れ得ない。実際、自己についてどれだけの語りが、どのように生じているのだろうか。前例を提示し、わかりやすく「自己を語る」ことについて学修する。	授業の内容を踏まえ、「自己を語る」ことについて、ノートにまとめておく。また、ライフストーリー分析について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第5回	**ライフストーリー分析** ライフストーリー分析を実際に体験する。これを通じて、自己についての新たな気づきや理解を深めていく。	授業の内容を踏まえ、ライフストーリー分析について、ノートにまとめておく。また、スポーツと「こころの世界」について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第6回	**スポーツと「こころの世界」** スポーツにおける「うごき」には、個人の「こころ」が映し出される。そういったことの事例を提示し、「こころ」と「うごき」がつながっていることを解説する。運動やスポーツが心に及ぼす効果についても学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツと「こころの世界」について、ノートにまとめておく。また、実践的なスポーツ心理学について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第7回	**実践的なスポーツ心理学** スポーツカウンセリングの事象に、スポーツ心理学の研究成果は寄与している。スポーツ場面における心理臨床問題を例示し、学修する上で、スポーツ心理学的成果が役に立っていることについて学修する。	授業の内容を踏まえ、実践的なスポーツ心理学について、ノートにまとめておく。また、メンタルトレーニングとメンタルマネジメントについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第8回	**メンタルトレーニングとメンタルマネジメント** 「トレーニング」と「マネジメント」のニュアンスの異なりから、その位置づけについての学修する。	授業の内容を踏まえ、メンタルトレーニングとメンタルマネジメントについて、ノートにまとめておく。また、アスリートの「こころを強くする」ことについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第9回	**アスリートの「こころを強くする」こと** 精神力の強化は、アスリートにとって大きな課題でもある。しかしながら、どのようにすれば「こころを強くする」ことが実現するのだろうか。ここでは、スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの立場から学修する。	授業の内容を踏まえ、アスリートの「こころを強くする」ことについて、ノートにまとめておく。また、アスリートの転機と生涯発達について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第10回	**アスリートの転機と生涯発達** アスリートにとって、怪我や引退は大きなライフイベントでもある。そこで、アスリートはどのような心理的成長を体験しているのだろうか。実例を通じて、学修する。また運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果についても学修する。	授業の内容を踏まえ、アスリートの転機と生涯発達について、ノートにまとめておく。また、スポーツへの取り組みと自己の成長・成熟について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間

第11回	**スポーツへの取り組みと自己の成長・成熟** スポーツへの取り組みは、競技力向上を目指すことと共通する。しかし、それと同時に人格的な成熟も期待される。そういったことの理論的背景や実践例を学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツへの取り組みと自己の成長・成熟について、ノートにまとめておく。また、スポーツカウンセリングについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第12回	**スポーツカウンセリングとは何か** これまでの授業を概観し、スポーツカウンセリングの位置づけと理論、実践を体系的に整理する。	授業の内容を踏まえ、スポーツカウンセリングについて、ノートにまとめておく。また、スポーツカウンセリングの歴史について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第13回	**スポーツカウンセリングの歴史** スポーツカウンセリングが歩んできた歴史を概観する。	授業の内容を踏まえ、スポーツカウンセリングの歴史について、ノートにまとめておく。また、スポーツカウンセリングの背景について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第14回	**スポーツカウンセリングの背景と諸問題** スポーツにおける心理的問題は、どのような社会的、心理的背景から生じてきているのかについて、スポーツカウンセリングの実践例を提示しながら学修する。また、本授業のまとめとして、スポーツカウンセリングを展開していく上で考慮しなければならない問題点を整理し、学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツカウンセリングの背景について、ノートにまとめておくと良い。また、スポーツカウンセリングに関する諸問題について、関連図書を利用して、予習しておくと良い。	4時間

SP-3412-3-2

授業科目名	トップアスリート論（トップアスリート論）				
担当教員名	コース教員				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	渋谷俊浩：日本スポーツ協会上級コーチ（第3回） 林　弘典：全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）（第5回） 北村哲：日本テニス協会強化本部各種委員およびスタッフとしてナショナルチームのサポートに関わ				

授業概要

世界基準で活躍するトップアスリートたちは、何をもってトップアスリートに成り得たのか？トップアスリートとして認められているのか？コーチングコース各教員の考え方・価値観・コーチング法とともに、トップアスリートに関るさまざまなスポーツ事象を切り口に、競技力向上のノウハウを探り出すことを目指す。また、受講生がスポーツ大学生・競技スポーツの実践者として、有意義なアスリートライフを創造する能力を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	様々なスポーツ事象を切り口に競技力向上のノウハウ	競技スポーツ実践者として、有意義なアスリートライフを創造する能力を身につけることができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	各競技のトップアスリートの学び方や育ち方	様々なスポーツの特性を理解して、競技力向上に活かすことができる。
3 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	各競技のルールや特性を知り、アスリートの価値観や行動特性の理解	アスリートとしてのマナーや振る舞いができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

発問に対しての意見、考えの提示など積極的な参加をする。レポートは内容とともに、読みやすい文字で記述する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	90%	： 第1回～第13回における小レポート。授業内容の理解度および自身の意見の明確化の点から評価する。
まとめレポート	10%	： 第14回におけるまとめレポート。授業内容の理解度および自身の意見の明確化の点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて授業内で紹介する。スポーツ選手の伝記、ニュース・新聞記事などに注目しておくこと。（＊キーワード：トップアスリート）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。
自分の競技に活かすため、トップアスリートを育てる指導者を目指すために、必要な知識・実践力を得ることができる授業とする。そのためにも授業外学習を必ず行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー
場所： 研究室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびトップアスリートの現状（望月　聡）** 授業の概要説明および、導入を図る。トップアスリートの現状について、総論的に解説する。	ノートに自分のトップアスリートに関する考えをまとめておく。	4時間
第2回	**女子サッカーのトップアスリートを育てる！(坂尾美穂)** 女子サッカーの「トップアスリートを育てる」には何が必要なのか？男子サッカーのアスリートとは違うのか。実はあまり変わらないのでは。トップアスリートに成長するための要素を「タレント育成」「パーソナリティ」をキーワードに考える。	アスリートがテーマの文献を読み、必要とされる資質・能力を調べて、自分自身と比較してみる。	4時間
第3回	**トップアスリートの現状と課題：トップアスリートに求められるもの（渋谷俊浩）** 近年のトップアスリートを取り巻く課題・問題点、特に競技スポーツの現場で大きな問題となっているドーピングについて、事例を通して理解するとともに対応策を考える。	WADAおよびJADAのHPを閲覧し、ドーピングについての見識を深めておく。	4時間
第4回	**日本人初のオリンピアン（岡部優真）** 日本から初めてのオリンピックへの選手派遣は、1912年開催の第5回ストックホルム大会である。派遣された2名の選手に関するエピソードから、日本人アスリートとしての資質について考える。	近代オリンピックの成り立ち、オリンピズムについて調べる。	4時間
第5回	**スキーのトップアスリートについて：アクセル・ルンド・スヴィンダルを事例に（林　弘典）** 「NHKスペシャル「ミラクルボディー」（第1回：滑降　時速160km　極限の恐怖に挑む 」を視聴し、アクセル・ルンド・スヴィンダルからトップアスリートの考え方について学習する。	アクセル・ルンド・スヴィンダルについて調べる。また、次の授業で疑問点を質問する。	4時間
第6回	**トップアスリートのメンタルマネジメント（豊田則成）** トップアスリートは、本番での実力発揮を目指してメンタルマネジメントに取り組む。このメンタルマネジメントとは、自身の有する実力を本番でいかにして発揮するのかをセルフマネジメントすることに他ならない。そのセルフマネジメントについての理論や実践例について学修し、理解を深め、実践可能なレベルへと学修成果を高めていく。	メンタルマネジメントに関する著書などに目を通し、基礎的理解を深めておくと良い。	4時間
第7回	**トップアスリートの競技力向上に資するためのデータ利用について（吉川文人）** スポーツ競技の事象を定量的に評価するために収集されたデータの活用事例について知り、競技力向上を意図したデータ利用について理解を深める。	重要度が高いと考えるパフォーマンス指標について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第8回	**トップアスリートの目標設定と実践（玉城耕二）** 東京オリンピック2020では、女子日本代表チームが日本バスケットボール史上初の銀メダルを獲得し、バスケットボールへの注目度はこれまで以上に高まっている。本講義では、バスケットボールのトップアスリート達が、高い競技力を発揮するためにどのように目標設定をし、実践しているのかについて理解を深める。	トップアスリートの練習・トレーニングスケジュールを調査し、特筆すべきポイントをまとめる	4時間
第9回	**トップアスリートの考え方（竹川智樹）** トップアスリートの著書や資料から、アリートとしての資質や素養、考え方を学ぶ。また、自身のアスリートとしての活動を振り返り、今後のアスリートとしての姿勢を考える。	トップアスリートの言葉（名言、格言）や考え方について図書資料等を参考にまとめる。	4時間
第10回	**心理学的にみるトップアスリートの条件（工藤慈士）** 社会情勢が不安定の中で情報ツールの発達化が進み、さらに2019年には新型コロナウイルス感染拡大が懸念されているコロナ禍にあるアスリートは様々な情報に触れている。本時限では、トップアスリートがコロナ禍で感じた競技への在り方をコンテンツを通して心理学的に理解を深めていく。	自身が感じる競技の在り方について理解を深める	4時間
第11回	**チャンピオンでありつづけるトップアスリート（北村　哲）** チャンピオンとして君臨し続けるトップアスリートの競技生活について触れ、成功者であり続けるためのポイントについて考える。	自身の専門競技種目におけるトップアスリートや他競技種目の著名なチャンピオン選手について調べる。	4時間
第12回	**トップアスリートの失敗** トップアスリートのの失敗事例から競技生活での苦難を克服するためのの考え方や方法について考える。	自身の競技生活の振り返りやトップアスリートの自伝書等から様々な事例について調べ知見を広げる。	4時間
第13回	**トップアスリートのフィジカル（山田　庸）** トップアスリートを育成する立場から，育成年代でのフィジカルのレベルと，トップアスリートがもつ体力レベルについて事例を検討しながら考える.	自身の競技生活の振り返りやトップアスリートの自伝書等から事例について知見を広げる。	4時間
第14回	**授業まとめ：これからのトップアスリートについて考えてみる（望月聡）総括** トップアスリート論から学び理解し考えたことをもとに、ディスカッションを通して、整理し共有する。その後の自身のアスリート活動に活かせるように理解を深める。	トップアスリートを育てるコーチの立場で、「アスリートプログラム」を組み立てを考えてみる。	4時間

SP-3413-3-2

授業科目名	陸上競技コーチング理論と実践（陸上競技コーチング理論と実践				
担当教員名	渋谷俊浩・岡部優真				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全14回：渋谷俊浩（第1回 - 7回）、岡部優真（第8回 - 14回）、日本スポーツ協会公認コーチ等				

授業概要

個人競技である陸上競技の特性を理解し、競技スポーツにおけるコーチングの基礎理論をふまえながら、自身の専門種目の競技力向上を目指したコーチング理論および方法論について理解する。
具体的には、陸上競技において適切なコーチングを行うために理解しておくべき関連分野（体力、技術、バイオメカニクス、生理、心理学、トレーニング、戦術、ルール、審判等）を、事例・先行研究・文献・ディスカッション等を通して実践的に学修する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	陸上競技のコーチングを実践するために必要な基礎的理論および関連分野の諸理論の理解と知見の獲得。	陸上競技のm特性を理解し、各自の専門種目の競技力向上に適切なコーチングができる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学習した内容をレポートにまとめて発表（プレゼンテーション・ディスカッション含む）する能力および競技の現場での実践。	学習した内容を競技現場で実践し、競技力向上に結び付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
陸上競技のコーチングの実践とそれに関するレポート 25%	：	関連分野の知見をふまえ、適切なコーチングについて理解したうえで実践し、論理的に記述できているかを25点満点で評価する。
陸上競技のトレーニング実践とそれに関するレポート 25%	：	関連分野の知見をふまえ、適切なトレーニングについて理解したうえで実践し、論理的に記述できているかを25点満点で評価する。
授業内課題（記述式小レポート） 20%	：	授業で学習した内容の理解度を確認するためにいくつかの課題（記述式小レポート）を与え、それぞれについて論理的に記述できているかを計20点満点で評価する。
まとめのレポート 30%	：	授業で学習した内容の理解度と、得られた知見をふまえた実践に基づく自身のコーチングポリシーが提示できているかを30点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

陸上競技のコーチング学：日本陸上競技学会編（大修館書店）
競技者育成プログラム：日本陸上競技連盟監修
基礎からの陸上競技バイオメカニクス：トム・エッカー著（ベースボール・マガジン社）
スポーツ・トレーニング理論：村木征人著（ブックハウス・エイチディ）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、得られた知見については必ず競技現場において実践してみること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび解説：陸上競技とは・コーチングとは（渋谷俊浩）** 授業内容・授業スケジュール等について、自身の競技スケジュールとあわせて理解・把握する。また、陸上競技・コーチングの基礎的な理論について理解する。	自身の競技スケジュールを確認しておく。競技スポーツおよび陸上競技に関連する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場において実践する。（担当コーチとのディスカッション等）	4時間
第2回	**陸上競技界の現状理解（渋谷俊浩）** 2020東京オリンピックのレガシーを含め、陸上競技会の現状（組織、強化システム等）について理解し、改めて自身の競技カレンダーを検討する。	各中央競技団体（日本陸上競技連盟等）のHPを閲覧し、それらの動向について把握しておく。	4時間
第3回	**陸上競技の特性（渋谷俊浩）** 陸上競技の歴史（成り立ちと発展の推移）をふまえたうえで、各種目（走・跳・投）の特性および各自の専門種目の特性について理解する。あわせて、種目特性をふまえたトレーニング・コーチングについて検討する。	陸上競技に関連する研究論文・学術文献を読んでおく。各種目の特性についてまとめ、競技現場での実践（担当コーチとのディスカッション、コーチング・トレーニング）し、その内容を記録しておく。	4時間
第4回	**陸上競技における競技力向上（渋谷俊浩）** 陸上競技において自身の競技力を向上させるためにはどのようなことが必要か、「競技力とは何か」などの基礎理論をふまえたうえで、競技現場で実践されているいくつかの事例から検討する。	競技力の構造についてまとめ、自身の競技力向上のポイントを記録しておく。	4時間
第5回	**陸上競技のトレーニングの基礎理論（渋谷俊浩）** 競技スポーツのトレーニングについての基礎理論を理解する。 陸上競技のトレーニングについて、文献・先行研究等を参考に検討を加える。	競技スポーツおよび陸上競技のトレーニングに関する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。	4時間
第6回	**陸上競技のトレーニングの現状と課題（渋谷俊浩）** 陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なトレーニングについて検討する。 陸上競技のトレーニングの課題を明らかにし、改善方策を検討する。 自身の競技力向上を目指したトレーニングについて検討する。	改善方策についてまとめ、自身が考案したトを競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。	4時間
第7回	**陸上競技のトレーニング計画の立案（渋谷俊浩）** これまでの授業だ学習した内容（トレーニングの原理・原則、陸上競技の種目特性等）に基づき、自身の競技力向上を目指した「年間トレーニング計画」を検討する。	自身が検討した年間計画を実践する。	4時間
第8回	**陸上競技のコーチングの基礎理論（岡部優真）** コーチングについての基礎理論を理解する。競技スポーツのコーチングについて、文献・先行研究等を参考に検討を加える。 陸上競技の基礎理論について理解する。陸上競技および「走・跳・投」各種目の特性について理解する。自身の専門種目の特性について理解する。	競技スポーツおよび陸上競技に関連する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場で実践する。（担当コーチとのディスカッション）各特性についてまとめ、資料を作成しておく。競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。	4時間
第9回	**陸上競技のコーチング理論：トラック種目（岡部優真）** 「走・歩」種目の特性に応じたコーチングについて検討を加え、理解する。	自身が検討したトラック種目（走・歩）のコーチングについてまとめ、競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。	4時間
第10回	**陸上競技のコーチング理論：フィールド種目（岡部優真）** 「跳・投」種目の特性に応じたコーチングについて検討を加え、理解する。	自身が検討したフィールド種目（跳・投）のコーチングについてまとめ、競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。	4時間
第11回	**陸上競技のコーチングの現状と課題：コーチングの実態（岡部優真）** 陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なコーチングについて検討する。 陸上競技のコーチングの現状について理解する。	コーチングの事例についてまとめ、そこから得た知見を競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。	4時間
第12回	**陸上競技のコーチングの現状と課題：競技力の分析・評価（岡部優真）**	改善方策についてまとめ、自身が確立したコーチングポリシーを競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。	4時間

	陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なコーチングについて検討する。 陸上競技のコーチングの課題を明らかにし、改善方策を検討する。 自身のコーチングポリシーについて検討する。		
第13回	**陸上競技における競技者育成および指導者養成（岡部優真）** 陸上競技におけるタレントの発掘・育成について理解し、アスリートの競技力向上を目指した強化プログラムを検討する。 加えて、アスリートの競技力向上に不可欠なサポート体制について理解し、競技環境の整備および指導者育成システムを検討する。	競技者育成および指導者養成プログラムを熟読し、その内容を理解しておく。さらに、指導者育成システムについてまとめておく。これらを競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。	4時間
第14回	**まとめ：陸上競技のグッドコーチを目指して（岡部優真）** 「陸上競技」「コーチング」をキーワードに、自身の競技現場における実践内容を振り返り、陸上競技における「グッドコーチ」とはどのようなコーチかを理解する。 今後の陸上競技界の動向を予見し、自身の競技力向上に有用なコーチング・トレーニングに活かせる方策を検討する。	学修した諸種の理論を、自身のスポーツ現場で実践する。	4時間

SP-3414-3-2

授業科目名	水泳コーチング理論と実践（水泳コーチング理論と実践）				
担当教員名	工藤　慈士				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

主に水泳（競泳）の実践・指導に必要な知識・技術・能力・態度の理解・習得を目指す．講義では水泳（競泳）に必要なバイオメカニクス的・生理学的・医学的知識，トレーニングに関わる専門的な知識，さらにコーチングに必要なコミュニケーション能力やマネジメントについて深く学び，実際に水泳（競泳）のトレーニングを計画・実行することを通して，指導者としての実践を経験する．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	水泳（競泳）の実践・指導に必要な知識・技術・能力・態度	水泳（競泳）の実践・指導現場において獲得した知識・指導技術を応用できる．
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	コーチングに必要なコミュニケーション能力やマネジメント力	水泳（競泳）トレーニングの実践・指導現場において計画的な実践ができる．

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業内課題(40点)ならびに期末レポート(60点)の合計100点で評価する．

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
予習課題理解度チェック	30%	： 授業開始時に，競泳競技規則など競技運営に関する知識についての理解度を確認する．60点満点（5点×12回）を30点満点に換算し評価する．
授業内理解度チェック	30%	： 水泳コーチ基礎理論①～⑦および競泳の動き①～③の最後に，その授業についての理解度を確認する．50点満点（5点×10回）を30点満点に換算し評価する．
期末レポート	40%	： 水泳の指導に関する課題テーマに対して，授業内で学んだことにとどまらず，自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に説明されていることを評価する．

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
公益財団法人日本水泳連盟	水泳コーチ教本　第3版	大修館書店	2014年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．
履修条件
①「水中運動法」ならびに「スポーツ指導論」の単位を修得していなければ履修できない．
②水泳部所属学生及び水泳競技経験者が受講することが望ましい．
③将来的に学校の教員あるいは水泳(競泳)の指導者になる可能性のある学生が受講することが望ましい．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**水泳コーチ基礎理論①「水泳競技解説・水中運動の科学」** 本授業の趣旨や到達目標を理解し，本授業を受講するうえで必要な姿勢や心構えを説明する．また，水泳競技（水泳競技の特性，水泳競技の歴史，日本水泳界の現状と課題など），水の特性（密度，水圧，浮力，熱伝導率，抵抗）について理解する．	水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」18～24ページを予習する．次回からの小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第2回	**水泳コーチ基礎理論②「水泳のバイオメカニクス」** 水泳のバイオメカニクス（推進と抵抗，推進力，推進効率など）について理解する． 水泳のバイオメカニクスならびに泳ぎ（動き）について理解を深める．	水泳コーチ教本「水泳の生理学」25～31ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第3回	**水泳コーチ基礎理論③「水泳の生理学」** 水泳の生理学（水泳の基礎生理学など）について理解する． トレーニングを計画・立案する上で必要な生理学的知識について理解を深める．	水泳コーチ教本「水泳の生理学」32～41ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第4回	**水泳コーチ基礎理論④「水泳のトレーニング①」** 水泳のトレーニング（トレーニングと生理学，ストロークパラメータと生理学など）について理解する． 水泳のトレーニングを生理学およびバイオメカニクスの側面より理解し，選手育成に応用する力をつける．	水泳コーチ教本「水泳の医学」150～153ページ，水泳コーチ教本「競泳のトレーニング」216～217ページを予習する．配布資料「水泳十則」を熟読する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第5回	**水泳コーチ基礎理論⑤「水泳のトレーニング②」** 水泳のトレーニング（トレーニングの原理・原則，泳技術・技術向上のためのトレーニングなど）について理解する． 水泳のトレーニングを計画・立案する上で必要なトレーニングの原理・原則，泳技術・技術向上のためのトレーニングを理解し，選手育成に応用する力をつける．	水泳コーチ教本「競泳のトレーニング」194～216ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第6回	**水泳コーチ基礎理論⑥「水泳のトレーニング③」** 水泳のトレーニング（トレーニング計画の立案，トレーニングの適応，トレーニング強度，トレーニング種別，トレーニングプログラムの立て方など）について理解する． 実践的なトレーニング立案方法を理解し，選手育成に応用する力をつける．	水泳コーチ教本「競泳の科学」165～174ページを予習する．	4時間
第7回	**水泳科学の実践　「競泳のレース分析」** 水泳科学の実践として，競泳のレース分析を実践する． レース分析の必要性，概要と目的，レース分析方法について理解し，現場で実践・応用できる能力を身につける．	水泳コーチ教本「水泳の栄養学」66～85ページ，水泳コーチ教本「水泳の医学」86～158ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第8回	**水泳コーチ基礎理論⑦　「水泳の医学・栄養学」** 水泳の医学（水泳に伴う疾病と障害，競技種目に特有な医学問題，特殊環境他など），水泳の栄養学（スポーツと栄養の関係，食事・サプリメント，目的別栄養の摂取など），水泳に関わるトレーナー（役割，基礎知識など）について理解する． 水泳の医学・栄養学についての理解を深め，トレーニングならびに選手育成に応用する力を身につける．	水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24ページ，「競泳のトレーニング」194～217ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第9回	**競泳の動き①　「近代4泳法」** 近代4泳法（クロール，背泳ぎ，平泳ぎ，バタフライ）の「動き」について理解する． 各泳法の技術向上を目的としたトレーニングに関する理解を深める． その際，実際に指導現場で用いられているトレーニング方法，最新の学術論文による見解についても情報を得る．	水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24ページ，「競泳のトレーニング」194～217ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第10回	**競泳の動き②　「上級者の技術について」** 近代4泳法（クロール，背泳ぎ，平泳ぎ，バタフライ）の高度な「動き」について理解する． 国際的に活躍する選手の動きを分析し，速く泳ぐ・効率よく泳ぐ動きの要素を深く理解し，それらの動きを習得するためのトレーニングを考える． また，実際に指導現場で用いられているトレーニング方法についても情報を共有し，技術指導ならびに選手育成に応用する能力を養成する．	水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24ページ，「競泳のトレーニング」194～217ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間

第11回	**競泳の動き③　「共通技術」** スタート動作，ターン動作について理解する． スタート動作，ターン動作の技術向上を目的としたトレーニングに関する理解を深める． その際に，実際に指導現場で用いられているトレーニング方法，最新の学術論文による見解についても情報を得る．	水泳コーチ教本「競泳のコーチング」175～193ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第12回	**水泳のコーチング①　「コーチの心得・必要な資質」** コーチの心得，コーチの役割，コーチに必要な資質などについて理解する． コーチとしての心得，コーチの役割，コーチに必要な資質についての理解を深め，職業「コーチ」として現場で実践・応用できる能力を身につける．	水泳コーチ教本「競泳のコーチング」175～193ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第13回	**水泳のコーチング②　「チーム作り・コミュニケーション」** コーチに必要なチーム作り理論，コミュニケーション能力について理解する． コーチにとって重要なチーム作り理論，コミュニケーションについての理解を深め，スポーツ現場だけでなく，あらゆる場面で実践・活用できる能力を身につける．	これまでの授業内容を振り返り，水泳（競泳）のコーチとして必要な知識・能力等を整理する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間
第14回	**水泳のコーチング③　「セルフコーチングを考える」** 自分自身を対象者とし，コーチング（手法・ポイントなど）を考える． 自分自身を対象にコーチングを考え，コーチングの手法やポイントを明確にし，トレーニング計画を立案する． その際，シーズン計画（学期・月・週・日）を明確に示し，強化のポイントや内容についてわかりやすく整理し，練習内容（メニュー）を提示できるように準備する．	これまでの授業内容を振り返り，水泳（競泳）のコーチとして必要な知識・能力等を整理する．セルフコーチングで考えた内容をレポートにまとめる．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する．	4時間

SP-3415-3-2

授業科目名	柔道コーチング理論と実践（柔道コーチング理論と実践）				
担当教員名	林　弘典				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005年～現在）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

柔道では、暴力・ハラスメント・体罰、頭部外傷が問題となっており、暴力・ハラスメント・体罰を絶対にしない、頭部外傷を引き起こさない安全指導を学ぶことは柔道者として不可欠である。本授業では、暴力・暴言・ハラスメント・体罰・虐待・いじめの正体やメカニズムについて学ぶ。また、柔道弐段、全日本柔道連盟公認準指導員やC指導員を取得するために必要な知識と技術を学ぶ。その中でも投の形を通して柔道の技術的な理論（崩し、作り、掛け）を理解する。また、柔道における頭部外傷の現状やメカニズム、安全指導について学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	投の形	柔道の技術的な理論（崩し、作り、掛け）を理解し、浮落、背負投、肩車、浮腰、払腰、釣込腰、送足払、支釣込足、内股、巴投、裏投、隅返、横掛、横車、浮技ができる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	柔道の概要	創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓を正しく書いて暗唱できる。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	暴力・ハラスメントを絶対にしてはいけない理由	暴力・暴言・ハラスメント・体罰・虐待・いじめの正体やメカニズムについて理解できる。
4 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	柔道の安全指導	柔道の頭部外傷の現状やメカニズムについて理解できる。
5 ．DP11.忠恕の心	礼の意味	礼の意味を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

1．事故防止や学習効果を高めるために、適切なサイズの柔道衣（ゼッケン付き）の着用を義務づける。
2．柔道衣を持っている者は2回目の授業までサイズチェックを受けることができる。サイズが適切だった場合、ゼッケンだけを購入する。不適切な場合、適切なサイズの柔道衣（ゼッケン付き）を購入する。
3．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は外す。
4．長髪の者はゴムで髪を束ね（ピンは使用しない）。
5．柔道衣の下には、男子は何も着用せず、女子はTシャツ等ボタンやファスナーのない衣類を着用する。
6．感染症防止のために、柔道衣の貸し借りをせず、使用した柔道衣はすぐに洗濯する。
7．体調を整えて参加する。
8．怪我防止のために、早めに柔道場に来てウォーミングアップをする。
9．各自で貴重品を管理する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表	25%	： 第1～14回の授業において、1人に対して5回の質問を行い、発表内容の妥当性を5段階で評価する。
レポート	25%	： 第10回の授業において、柔道の概要、投の形の名称と意味を正しく書いたレポートを提出・暗唱を行い、その完成度について5段階で評価する。

パフォーマンス評価　：　第11～14回の授業で、礼法（立礼、座礼）、投の形（浮落、背負投、肩車、浮腰、払腰、釣込腰、送足払、支釣込足、内股、巴投、裏投、隅返、横掛、横車、浮技）の完成度について5段階で評価する。
50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1．柔道の安全指導（全日本柔道連盟）
2．暴力・体罰・セクハラ問題を学ぶためのガイドブック（全日本柔道連盟）
3．実践柔道論（小俣幸嗣、メディアパル）
4．公認柔道指導者養成テキストC指導員（全日本柔道連盟）
5．講道館DVDシリーズ第3作「投の形」（講道館）
6．昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］（小俣幸嗣、大泉書店）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。本授業の履修は、安全上のために柔道の単位を取得した者で、かつ初段以上の者に限る。以下に主な注意点を記す。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、柔道の概要、指導者資格の必要性、コーチングとティーチングの違いについて** 授業の進め方や取り組み方を理解する。柔道の概要、指導者資格の必要性、コーチングとティーチングの違いについて学習する。	シラバスを熟読する。柔道の概要、指導者資格の必要性、コーチングとティーチングの違いについて調べる。実践柔道論pp.82-97.を熟読する。	4時間
第2回	**柔道の安全指導、暴力・ハラスメントについて** 柔道の安全指導、暴力・ハラスメントを絶対に根絶しなければならない理由について学習する。	柔道の安全指導、暴力・体罰・セクハラ問題を学ぶためのガイドブック、実践柔道論pp.87-93.を熟読する。	4時間
第3回	**投の形：礼法（立礼、座礼）、浮落（うきおとし）** 礼の意味、礼法（立礼、座礼）、投の形の目的、投の形の浮落について学習する。	礼の意味、礼法（立礼、座礼）、投の形の目的、投の形の浮落について調べる。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.1-15.を熟読する。	4時間
第4回	**投の形：背負投（せおいなげ）、肩車（かたぐるま）** 投の形の背負投、肩車について学習する。	投の形の背負投、肩車について調べる。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.16-23.を熟読する。	4時間
第5回	**投の形：浮腰（うきごし）、払腰（はらいごし）** 投の形の浮腰、払腰について学習する。	投の形の浮腰、払腰について調べる。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.24-31.を熟読する。	4時間
第6回	**投の形：釣込腰（つりこみごし）、送足払（おくりあしはらい）** 投の形の釣込腰、送足払について学習する。	投の形の釣込腰、送足払について調べる。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.32-39.を熟読する。	4時間
第7回	**投の形：支釣込足（ささえつりこみあし）、内股（うちまた）** 投の形の支釣込足、内股について学習する。	投の形の支釣込足、内股について調べる。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.40-47.を熟読する。	4時間
第8回	**投の形：巴投（ともえなげ）、裏投（うらなげ）、隅返（すみがえし）** 投の形の巴投、裏投、隅返について学習する。	投の形の巴投、裏投、隅返について調べる。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.48-55.を熟読する。	4時間
第9回	**投の形：横掛（よこがけ）、横車（よこぐるま）、浮技（うきわざ）** 投の形の横掛、横車、浮技について学習する。	投の形の横掛、横車、浮技について調べる。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.56-73.を熟読する。	4時間
第10回	**投の形（手技：浮落、背負投、肩車）のパフォーマンス評価** 投の形（手技：浮落、背負投、肩車）を演技する。	投の形（手技：浮落、背負投、肩車）を復習する。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.1-23.を熟読する。	4時間
第11回	**投の形（腰技：浮腰、払腰、釣込腰）のパフォーマンス評価** 投の形（腰技：浮腰、払腰、釣込腰）を演技する。	投の形（腰技：浮腰、払腰、釣込腰）を復習する。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.24-35.を熟読する。	4時間
第12回	**投の形（足技：送足払、支釣込足、内股）のパフォーマンス評価** 投の形（足技：送足払、支釣込足、内股）を演技する。	投の形（足技：送足払、支釣込足、内股）を復習する。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp.36-47.を熟読する。	4時間

第13回	**投の形（真捨身技：巴投、裏投、隅返）のパフォーマンス評価** 投の形（真捨身技：巴投、裏投、隅返）を演技する。	投の形（真捨身技：巴投、裏投、隅返）を復習する。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp. 48-59. を熟読する。	4時間
第14回	**投の形（横捨身技：横掛、横車、浮技）のパフォーマンス評価** 投の形（横捨身技：横掛、横車、浮技）を演技する。	投の形（横捨身技：横掛、横車、浮技）を復習する。昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］pp. 60-73. を熟読する。	4時間

SP-3416-3-2

授業科目名	サッカーコーチング理論と実践（サッカーコーチング理論と実践				
担当教員名	望月・坂尾				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2005年からJFA日本サッカー協会指導者養成インストラクター。2014年からユニバーシアード日本女子サッカー代表監督等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

サッカー競技において、キッズから発育発達に応じた一貫指導について学ぶ。またサッカー理論と技術，戦術，体力トレーニング方法一般を学ぶとともに、世界スタンダードの強く逞しいクリエィティブな個の育成、チームを運営するための理論とマネジメント法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	サッカーコーチングの実際についての、様々なコーチの考え方。	実践対応力あるコーチを体得できる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	特定の競技だけでなく、様々な競技のコーチングについての知識。	競技特性を考慮し、効果的なコーチングができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

意見交換やグループワーク、発表に積極的な参加を重要視します。レポートは内容とともに、読みやすい文字で記述して下さい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
複数の授業内課題 60%	：	・振り返りレポート(3回)18点 ・授業内小テスト(5回)30点 ・授業内小レポート(2回)12点
発表・説明 20%	：	・テーマに即していて、論理的である。10点 ・テーマに対して、自分自身の意見や考えが明確にある。10点
発問・質問にたいして意見交換 20%	：	・論理的で分かりやすい。10点 ・意見交換を発展していくことができ、まとめる力がある。10点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本サッカー協会キッズリーダーライセンステキスト（U-６・８・１０）
C級コーチライセンステキスト・ガイドライン
日本サッカー協会技術部強化指針
DVD「インテリジェンスを育てる」サッカートレーニング(JLCジャパンライム)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**世界基準からサッカーについて考える** 世界のメジャースポーツとしてのサッカーを知り，サッカー発祥の歴史を紐解く．サッカーの基本的なルールを確認するとともに，サッカーにおけるプレーの「原理原則」を理解する．	海外の試合映像を見て、日本との違いなど分析しておく。	4時間
第2回	**キッズ（U-6）年代の指導　発育発達とコーディネーションに関する基礎知識** サッカー導入段階であるキッズ（U-6）年代の特徴を社会面，発育発達の面から理解し，実際に行われるメニューについての知識を習得する．また，キッズ年代に必要なコーディネーションの基礎知識を習得する．	キッズ（U-6）この年代の身体的特徴を調べて理解しておく。	4時間
第3回	**キッズ（U-6）年代の指導　指導計画と実践準備** 本学のびわスポキッズプログラムで行われている指導を例に，キッズ年代の指導計画，準備，実践，振り返りについて学習する．	本学のびわスポキッズプログラムについて調べておく。	4時間
第4回	**ジュニア（U-12）年代の指導　基礎知識と指導の留意点** JFA公認C級コーチ講習会で用いられる指導教本を基に，サッカーの個人スキルが大きく成長するゴールデンエイジについて理解し，ジュニア（U-12）年代の指導について必要な知識を習得する．	ジュニア（U-12）この年代の身体的特徴を理解しておく。	4時間
第5回	**ジュニア（U-12）年代の指導　実際の指導から分析** フットサル前日本代表監督であるロドリゴ監督が小学生サッカーチームを指導したVTRを視聴し，ジュニア年代の指導の要点，コーチングスキル，コーチのあるべき姿について学習し，議論する．	選手に「主体性を持たせる」「考える力を持たせる」指導とはどんなことか。調べて考えて整理しておく。	4時間
第6回	**ジュニア（U-12）年代の指導　実技と実践から原理原則の理解** サッカーの個人戦術の原理原則と必要なキーファクターを学習する．スキル習得に必要なコツや指導に用いられるポイントについて理解を深める．	サッカーにおける個人戦術や優先順位とは何か、理解しておく。	4時間
第7回	**ジュニアユース（U-15）年代の指導　特徴理解から評価と指導法** ジュニアユース年代におこる早熟や晩熟といった発育発達の差を理解し，個人差を判別する評価方法と個人差に対応した指導方法を学習する．	ジュニアユース（U-15）この年代の特徴を理解しておく。	4時間
第8回	**ジュニアユース（U-15）年代の指導　選手に必要な能力** トップ選手のプレーVTRを視聴したうえで，グループ戦術を遂行するサッカー選手に必要な能力について学習する．	選手に必要な資質・能力について分析しておく。	4時間
第9回	**ゴールキーパーの指導** 現代サッカーにおけるゴールキーパーの役割と必要な技能について理解し，各テーマごとのトレーニング方法を学習する．	ゴールキーパーの役割、必要な能力について分析しておく。	4時間
第10回	**ユース（U-18）年代の指導　実践テクニックの習得** パーフェクトスキルの完成期であるユース年代における指導方法について学習する．	ユース（U-18）この年代の身体的特徴について考えておく。	4時間
第11回	**ユース（U-18）年代の指導　女子サッカー選手のコーチング** 女子サッカー選手の指導者の指導方法を視聴し，ユース年代に必要な戦術やスキルを育成するためのコーチングについて学習する．	女子サッカーの映像を見て、男子との違いや特徴を分析しておく。	4時間
第12回	**サッカー選手のための体力テストと体力トレーニング** 逞しい個を育成するためのフィジカル強化について，日本人選手の課題と育成に必要なトレーニング方法を学習する．体力テストなどの評価方法およびフィードバック方法を学習する．	サッカー選手に必要な身体的能力について整理しておく。	4時間
第13回	**審判の役割　（審判と技術の協調）** 日本サッカー協会が進める「審判と技術の協調」とは何か。どのようなことかを学び、必要性と実際についてディスカッションを通して、理解を深めていく。	審判の役割、「ルールとは」について調べておく。	4時間
第14回	**一流監督の指導方法** 世界トップクラスと言われる監督のVTRを視聴し，チームを統率する上で必要な条件やその指導方法について学習する．	一流監督に関する文献を見て、資質や能力等について分析しておく。	4時間

SP-3417-3-2

授業科目名	バレーボールコーチング理論と実践（バレーボールコーチング理				
担当教員名	竹川　智樹				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2015年～2020年：U21,U23日本代表コーチ、2015年～2021年：日本オリンピック委員会強化スタッフ、2018年：アジア競技大会スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

バレーボール競技の歴史的背景とその普及過程を学習する。
また、バレーボール競技の世界スタンダードの指導法研究に関連させながら、その技術論・戦術論を通じ 専門的な分析方法やコーチング法を学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	バレーボール競技の生い立ち、形成、変遷についての知識	バレーボール競技の起源を理解できる
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	チーム競技の戦術、戦略性と勝敗との兼ね合いの理解	詳細な戦術、戦略の構造理解ができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題レポート、まとめのテスト（授業内） 80%	：	授業内で「ミニレポート」課題を与え、「まとめのテスト」を行い、合計80点満点で評価する。
期末課題 20%	：	期末課題（20点満点）については本講義の理解度をはかる。 20点：本講義の内容をよく把握し理解している。 15点：本講義の内容をおおよそ理解している。 10点：本講義内容の一定の理解が見受けられる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度、指示したりプリント等を配布したりする。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義ガイダンスおよびバレーボール競技のコーチング概説** 講義内容の説明と進め方 バレーボール競技コーチングについての総論を解説する	授業内容について復習する	4時間

第2回	**バレーボール競技の形成** バレーボール競技の起源について学習する	競技がどのように産出されたかについてまとめる	4時間
第3回	**バレーボール競技の伝播と普及（世界）** バレーボール競技の世界への伝播を学習する	競技の発案者やそれを伝播した人物などを整理する	4時間
第4回	**バレーボール競技の伝播と普及（日本）** バレーボール競技の日本への伝播を学習する	日本に伝播した人物や日本独自のルールなどを整理する	4時間
第5回	**ルールの変遷** ルールの変遷や世界の潮流について学習する	競技ルールの変遷について、年代とともに整理する	4時間
第6回	**国内のバレーボール競技について** 6人制、9人制バレーボール、ビーチバレーボール、ソフトバレーボールの振興 地域スポーツの現状と今後	国内バレーボール競技の種目について理解し、それを整理する	4時間
第7回	**世界のバレーボール競技について** 実際の国際大会のレギュレーション（規定）について理解し、国際大会の運営がどのように執り行われれるかについて学習する	国際競技の運営についてまとめる	4時間
第8回	**バレーボールの個人技能（パス）** オーバーハンドパス、アンダーハンドパスについて理解する	パス技能の習得法、練習法についてまとめる	4時間
第9回	**バレーボールの練習法** 練習方法を考案し、実践する	サーブの習得法、練習法についてまとめる	4時間
第10回	**バレーボールの集団技能（オフェンス）** チームオフェンスについて理解する チームオフェンス練習方法を考案し、実践する	チームオフェンスや練習法についてまとめる	4時間
第11回	**バレーボールの集団技能（ディフェンス）** チームディフェンスについて理解する チームディフェンス練習方法について考案し、実践する	チームディフェンスや練習法についてまとめる	4時間
第12回	**バレーボールのデータ分析** データ収集、処理、分析について学習する アナリストの役割について理解する	競技力向上のためのデータ分析についてまとめる	4時間
第13回	**ビーチバレーボールについて** ビーチバレーボールについて理解する ビーチバレーボール練習法について考案し、実践する バレーボールとの相違点について理解する	ビーチバレーボールの特性やバレーボールとの相違点についてまとめる	4時間
第14回	**まとめおよび総評** 講義内容の理解度のチェックを行う（まとめのテスト） 要点整理とレポート課題について説明を行う	本講義の要点を整理する	4時間

SP-3418-3-2

授業科目名	バスケットボールコーチング理論と実践（バスケットボールコー				
担当教員名	玉城・吉川				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

バスケットボール競技のコーチングを取り巻く諸課題やコーチング実践の事例を取り上げながら、バスケットボールの技術や技能、個人、グループ、集団それぞれの戦術行動を知り、それらの指導法について学ぶ。バスケットボール競技及び各競技・種目に通底するコーチングの実践力向上を目指し、バスケットボール競技を題材とした競技力向上の方略を裏付けるスポーツ科学の知見について学びを深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	バスケットボール・コーチングの実践力につながる学術的側面に関する知識の獲得	バスケットボール競技とコーチングに関する学術的研究成果のポイントについて論理的に説明することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	バスケットボール・コーチングに関する実践知	バスケットボール競技を題材とした競技力向上の方略を裏付けるスポーツ科学の知見について多角的に論述することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小テスト	40%	： 授業で取り扱った内容の理解度を確認するため授業業内小テスト4回計40%で評価する。
授業内課題	20%	： 授業で取り扱った内容の理解度について、独自のルーブリックに基づいて授業内課題2回計20%で評価する。
プレゼンテーション	20%	： ゲーム分析レポートの内容について、独自のルーブリックに基づいて20%で評価する。
パフォーマンス評価	20%	： 受講生が作成したノートの内容に対して、独自のルーブリックに基づいて20%で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で、適時、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー
場所： 研究室
備考・注意事項： 急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください

授業計画 | **授業外学修課題にかかる目安の時間**

第1回	**オリエンテーション及びバスケットボールコーチング論の概説** 学習内容や到達目標、評価基準等について把握する。バスケットボール競技の競技特性を概観し、バスケットボール競技とコーチングに関連した話題の内容や検討課題について把握する。	バスケットボール競技をテーマとして、自らが既に知り得ている概念のマインドマップを作成する。	4時間
第2回	**バスケットボール競技の特性と基本動作** バスケットボール競技の競技特性や基本動作、ルールを概観し、専門用語とそれらが示す実態との関連付けを行ないながら、コーチの養成課程で求められている知識やスキルについて把握する。	バスケットボール競技の試合映像を閲覧する。	4時間
第3回	**コーチの役割と責務** コーチング学の導入に相当する内容を振り返るとともにグッドコーチングを概観する。バスケットボール競技の特性を踏まえ、コーチの役割と責務をはじめ、主要なコーチング行動について理解を深める。	グッドコーチングについて復習する	4時間
第4回	**育成年代別のコーチングの概観** 発育発達の段階を踏まえ、ライフステージや個人のライフスタイルに応じたスポーツライフの計画や実践の仕方、スポーツ指導者として求められる指導理論や健康、安全に関する事項について理解を深める。育成年代を大きく大別し、それぞれの年代におけるコーチングの事例を紹介する。バスケットボール競技に関する概念や競技の特性、ルールを振り返る。	競技者の発育の段階や、体力・技能の程度等を踏まえた指導法の選択にかかる留意事項をノートにまとめる。	4時間
第5回	**バスケットボールコーチングと状況判断能力** バスケットボール競技における戦略及び戦術に関する研究の知見や事例を概観し、付加的情報の利用法と練習の組織化について把握する。	バスケットボール競技における情報判断能力に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第6回	**バスケットボールコーチングと行動体力** バスケットボール競技に必要な体力的要素に関する研究の知見や事例を概観し、スポーツ医科学的な見地から、発育・発達段階や技術レベルに応じた様々なトレーニング・コーチング方法について把握する。	バスケットボール競技の特性上、選手に要求される行動体力について重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第7回	**バスケットボールコーチングと運動学習** バスケットボール競技における戦略及び戦術に関する研究の知見や事例を概観し、付加的情報の利用法と練習の組織化について把握する。	運動学習とりわけ技能の獲得過程について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第8回	**バスケットボールコーチングと付加的情報フィードバック** バスケットボール競技の勝敗に影響するパフォーマンス指標や試合における指標の基準値について理解する。バスケットボール競技における基礎的技術に関する研究の知見や事例を概観し、効果的な運動学習を目指した付加的情報の利用法と練習内容について把握する。	付加的情報フィードバックに関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第9回	**バスケットボールコーチングの事例紹介** 著名なコーチのコーチングスタイルやエピソード、指導方針について知り、自らのコーチングのあり方について考える。	バスケットボールコーチ論の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第10回	**バスケットボールコーチングの事例紹介（オフェンス）** 主としてオフェンスに関する様々な戦術行動のポイントや、戦術行動の成否を裏付ける資料から、オフェンス面の指導方略について実践知の獲得を図る。	オフェンスのチーム戦術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第11回	**バスケットボールコーチングの事例紹介（ディフェンス）** 主としてディフェンスに関する様々な戦術行動のポイントや、戦術行動の成否を裏付ける資料から、ディフェンス面の指導方略について実践知の獲得を図る。	ディフェンスのチーム戦術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第12回	**ゲーム分析レポートの作成** バスケットボール競技の勝敗因やそれらにかかる指標の基準値を踏まえ、客観的にゲーム・パフォーマンスを分析する方法論を学び、戦評を含むゲーム分析レポートの内容と書き方を理解する。さらに、ゲーム・パフォーマンス分析の目的と評価指標を設定し、その上でバスケットボール競技の試合映像を閲覧しながら、ゲーム分析レポートを作成する。	バスケットボール競技におけるパフォーマンス指標について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第13回	**ゲーム分析レポートの発表と視聴** グループごとにゲーム分析レポートを発表する。ゲーム・パフォーマンス分析の内容とその結果を踏まえて、次のＰＤＣＡサイクルをどのように回していくのか、発表者の考えや考え方を共有し、バスケットボールコーチングの理解を広げ深める。	競技力向上の方略に関する客観的な裏付けを調査し、内容をまとめる。	4時間
第14回	**まとめ及び総括** 講義の内容を振り返り、学習内容について再確認する。	理想的なバスケットボール・コーチングについて自らの考えをまとめる。	4時間

SP-3419-3-2

授業科目名	ベースボールコーチング理論と実践				
担当教員名	高橋　佳三・他				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	びわこ成蹊スポーツ大学硬式野球部監督（2006～2009）、同コーチ（2010～2019）。2009年、京滋大学野球連盟代表チームコーチとしてハーレム国際野球大会に出場、3位。				

授業概要

ベースボールのコーチングに必要な基礎知識、専門知識や指導スキルの習得を目指した授業を展開する。
授業はグラウンドまたは教室で行う。教室では、技術、戦術、体力など、ベースボールに必要な基礎知識や専門知識を学ぶ。グラウンドでは、コーチとしての動きなどの指導実践から選手やチームのコーチング計画の立案から管理などのマネジメントを学ぶ。さらに、コーチングで重要なコミュニケーション能力や指導言語を習得し、コーチとしての実践力を養うことを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	ベースボールのコーチングに必要な基礎知識および専門知識	ベースボールの特性を理解し、競技力向上に適切なコーチングができる
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	ベースボールを自身が実践でき、かつ他者にコーチングできる技能	ベースボールのプレーを、自身ができるのはもちろんのこと、他者が行っている事にコーチングができるようになる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学修した内容をレポートにまとめて発表（プレゼンテーション、ディスカッション）する能力および現場での実践	学修した内容を競技現場で実践し、競技力向上に結びつけることができるようになる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	40%	： 授業で取り上げた内容を適切にまとめていれば10点、独自のアイデアが盛り込まれていれば10点。これを2回実施する。
期末レポート	60%	： 課題に対して授業内容を理解し、総合的にバランスよくまとまっていれば30点。独自のアイデアが盛り込まれていれば15点。実践の場に活用できるアイデアが盛り込まれていれば15点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内にて適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その会の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

履修者は、①野球部またはソフトボール部の所属学生、もしくは②野球・ソフトボールの3年以上の経験者が望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　研究室（B306）

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ベースボールコーチングの概観** ベースボールコーチングの全体像について理解する。	ベースボールコーチングに関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第2回	**ベースボールの歴史** ベースボールの歴史について（ベースボールの起源、伝来、普及など）講義する。	ベースボールの歴史に関する文献・資料を検索し、理解を深める。	4時間
第3回	**現代ベースボールの理解** 現代ベースボール界の現状について（プロスポーツ、アマチュアスポーツ、学生スポーツ、生涯スポーツ等）講義する。	現代ベースボールに関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第4回	**ベースボールの競技力について** ベースボールのパフォーマンスを構成している要素等について講義する。	ベースボールパフォーマンスの実態に関する資料・映像を検索し理解を深める。	4時間
第5回	**ベースボールの戦略・戦術①攻撃編** ベースボールにおける攻撃の戦略・戦術・作戦能力について講義する。	ベースボールの攻撃の作戦行動に関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第6回	**ベースボールの戦略・戦術②守備編** ベースボールにおける守備の戦略・戦術・作戦能力について講義する。	ベースボールの守備の作戦行動に関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第7回	**ベースボールの技術についての理解①投球・送球編** ベースボールの技術の歴史的発達、各技術における科学的知見について、投球・送球動作を中心に講義する。	ベースボールの投球・送球動作の技術と科学に関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第8回	**ベースボールの技術についての理解②打撃編** ベースボールの技術の歴史的発達、各技術における科学的知見について、打撃動作を中心に講義する。	ベースボールの打撃動作の技術と科学に関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第9回	**ベースボールの技術についての理解③守備編** ベースボールの技術の歴史的発達、各技術における科学的知見について、守備動作やフォーメーションを中心に講義する。	ベースボールの守備動作の技術と科学に関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第10回	**ベースボールの体力についての理解** ベースボールにおける一般的体力、専門的体力の関係、体力についての科学的知見について講義する。	ベースボールの体力に関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第11回	**投球・送球動作のコーチング（実践編）** 投球および送球動作について、第7回授業の内容を踏まえ、実技形式で講義する。 その際、学生同士で動作を観察して、コーチングすべき点などを確認する。	講義内容を踏まえ、投球・送球動作の練習をして自身の動作の変化を記録する。	4時間
第12回	**打撃動作のコーチング（実践編）** 打撃動作について、第8回授業の内容を踏まえ、実技形式で講義する。 その際、学生同士で動作を観察して、コーチングすべき点などを確認する。	講義内容を踏まえ、打撃動作の練習をして自身の動作の変化を記録する。	4時間
第13回	**守備動作のコーチング（実践編）** 守備動作について、第8回授業の内容を踏まえ、実技形式で講義する。 その際、学生同士で動作を観察して、コーチングすべき点などを確認する。	講義内容を踏まえ、守備動作の練習をして自身の動作の変化を記録する。	4時間
第14回	**ベースボールのトレーニング計画の立案** 講義内容を踏まえ、投球・送球、打撃、守備、戦術など、多岐にわたる野球の練習について、トレーニング計画を立てる。 立案したトレーニング計画について、学生同士でディスカッションを行い、実践した際の問題点や課題などを明確にする。	トレーニング計画に関する文献・資料を検索し理解する。	4時間

SP-3420-3-2

授業科目名	テニスコーチング理論と実践（テニスコーチング理論と実践）				
担当教員名	北村　哲				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）、2018年度日本テニス協会S級エリートコーチ養成講習会講師				

授業概要

テニスのコーチングに必要な専門知識や指導スキルの習得を目的とした授業を展開する。
授業はオンコートや講義形式で行い、オンコートでの視点・コーチとしての動きなどの指導実践から選手やチームのコーチング計画の立案から管理といったマネジメントまで、テニス競技選手のコーチングについて実践的なモデルを捉えられるようになること。更にはテニスコーチングで重要なオンコートコミュニケーションの実践を行いコーチとしての力を習得することを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	テニスコーチとしての幅広く深い知識の習得。	オンコートでの指導から選手チームのマネジメントまで競技選手のコーチングについて実践的なモデルを捉えられるようになる。
2 ．DP4.高度なスポーツ技能	世界的メジャースポーツであるテニスを実践できる技能の習得。	ゲームを技術的だけでなく、駆け引きなどの戦術的心理戦も含め競い合い楽しむことができるようになる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	競技選手の観察の仕方、オンコートでの動き、アドバイスなどの実践力の習得。	目的を達成するために必要な選手とのコミュニケーション等を実践できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	40%	： 授業で取り上げた内容を適切にまとめていれば10点、独自のアイデアを見出していれば10点。これを2回実施する。
期末レポート	60%	： 課題に対して授業内容を理解し総合的にバランスよく述べられていれば30点、また独自の意見を見出していれば15点、実践の場に活用できるようなアイデアを盛り込めていれば15点とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
(公財)日本テニス協会	・ テニス指導教本Ⅰ	・ 大修館書店	・ 2015年

参考文献等

授業内にて適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： メールで質問を送ってください（送り先kitamura@bss.ac.jp）／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**テニスコーチングの概観** 全授業のレジメを配布し、テニスコーチングの全体像について理解する。	テニスのコーチングに関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第2回	**テニスの理解①　現代テニスの理解** 現代テニス界の現状について。（プロスポーツ、アマチュアスポーツ、学生スポーツ、生涯スポーツ等）	現代テニスに関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第3回	**テニスの理解②　現代テニスにいたるまでのテニスの歴史の理解** テニスの歴史について（テニスの起源、テニスの普及、日本におけるテニス伝来）	テニスの歴史に関する文献・資料を検索し理解を深める	4時間
第4回	**テニスの競技力** テニスのパフォーマンスを構成している要素等について。	テニスパフォーマンスの実態に関する資料・映像を検索し理解を深める。	4時間
第5回	**テニスの戦略・戦術** テニスの戦略・戦術・作戦能力について。	テニスの作戦行動に関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第6回	**テニスの技術についての理解** テニス技術の歴史的発達、各技術における科学的知見について	テニス技術と科学に関する文献・資料を検索し理解を深める。	4時間
第7回	**テニスの体力についての理解** テニスにおける一般的体力、専門的体力の関係、体力についての科学的知見について	テニスの体力に関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第8回	**テニスの心理についての理解** テニス選手の性格、心理特性、心理状態、競技的心理能力について	テニス競技の動機づけに関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第9回	**テニスの競技力に関わる外的要因の理解** 競技力に影響を及ぼす様々な要因について	テニス競技力と保護者のかかわりに関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第10回	**テニスの戦略・戦術の分析評価** 戦略・戦術の分析評価について（ゲームパフォーマンス分析の実践）	テニスのゲーム分析的研究に関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第11回	**テニスの技術の分析評価** 技術の分析評価について（スキルテストや科学的分析の実践）	テニスのスキルテストに関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第12回	**テニスの体力の測定評価** 体力の分析評価について（体力評価の実践）	テニスの体力評価に関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第13回	**テニスの心理の分析評価** 心理の分析評価について	テニスの心理テストに関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第14回	**テニスのトレーニング計画** 競技力向上のためのトレーニング計画について	トレーニング計画に関する文献・資料を検索し理解する。	4時間
第15回	**kkkkk** kkkk	kkkkk	4時間

SP-3421-3-2

授業科目名	**スポーツ指導支援（スポーツ指導支援）**				
担当教員名	山田・吉川				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山田教授は、2006年より2011年までJリーグ徳島ヴォルティスにて、2012年より韓国Kリーグ江原FCにて、フィジカルコーチとしての指導実績がある。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

スポーツの指導体系を学び、アシスタントや支援スタッフの役割を理解する。指導体制と役割，スポーツの体系化，技術、戦術指導、体力の構造，指導計画，メディカルスタッフの役割，アナリストの役割，について学習する.
本授業では，①指導支援の様々な方法と知識を習得する，②実践を通じてその技術の基礎を身に付ける，③体力測定やトレーニング強度の計測，フィードバック法，記述分析法，動作解析，指導支援ツールを習得する，ことなどを目標とする.

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	コーチング体制に関する知識，指導に必要な周辺の科学的知識	コーチング体制と指導するために必要な周辺の知識を理解できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の確認テストおよび課題 45%	：	授業内容に即して設問に正しく回答しているか，内容は質・量とも十分か
期末レポート 55%	：	指導体制と役割，スポーツの体系化，技術戦術指導、体力の構造，指導計画，メディカルスタッフの役割，アナリストの役割，について設問に正しく回答しているか，内容は質・量とも十分か

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、スポーツ指導支援とは** 「スポーツ指導に必要な支援とは何か」を定義する。指導を支援する役割、方法、効果について概略を紹介し、全14回の流れを確認する。	スポーツ指導支援についてまとめる	4時間
第2回	**指導の支援　ーフィードバックとはー** コーチングとは何かを定義する。コーチングの効果的方法について学習する。フィードバックについて、自己観察と他者観察および動機付けの観点から理論的背景を学習する	フィードバックについて理解する	4時間

第3回	**スポーツの体系化　ー技術、戦術、体力の構造を明らかにするー** スポーツに必要な技術、戦術、体力には「基礎から専門」「準備局面、主要局面、終末局面」などの一連の流れの中で、幾つかの要因からなる構造を仮定することができる。各種スポーツにおける構造を紹介し、要因の分類、集約する方法を学習する。	スポーツの体系化について理解する	4時間
第4回	**指導体制　ー役割とオーガナイズ（組織化）ー** 指導者には様々な役割があり、大きな指導チームでは様々な担当スタッフがいる。また、指導を行う上で必要な環境を整える必要がある。各種スポーツにおける指導体制を紹介するなかで、指導者の役割と必要な環境について学習する。	これまでの指導体制についてまとめる	4時間
第5回	**指導計画の作成** スポーツチームの活動及び指導は計画的に行われる必要がある。年間計画、週間計画、1日の指導計画の立案を紹介し、目標から逆算したチーム運営、PDCAサイクルに基づく計画の修正について学習する。	指導計画を作成する	4時間
第6回	**フィジカルコーチの役割①　ー体力測定ー** これまで定義されてきた体力の分類、体力測定の方法について学習する。競技に専門的な体力領域、測定手法を紹介する。	体力測定について理解する	4時間
第7回	**フィジカルコーチの役割②　TR負荷の計測** トレーニング強度を計測する手法として、心拍数、主観的運動強度、加速度計による走行速度、加速度などについて学習する。運動量として、運動時間、GPSを用いた走行距離などについて学習する。	体力測定のフィードバックについて理解する	4時間
第8回	**フィジカルコーチの役割③　コンディションの把握** スポーツ選手にとって、日々の体調＝コンディションを知り、コントロールすることは重要である。身体的、心理的、競技的コンディションを左右する要因、コンディションを計測する方法について学習する。	心拍数を用いてトレーニング強度を計測する	4時間
第9回	**アナリストの役割①　映像を用いた量的及び質的動作分析** 分析のスペシャリストとしてのアナリストに着目し，特に映像を用いた質的動作分析について解説する．100m走のスプリントフォームを例に，そのを分析する中で，分析に必要な概念モデル，チェックリスト，動画撮影方法などを学習する．	自分のスプリントフォーム撮影と評価を実践する	4時間
第10回	**アナリストの役割②　映像を用いた量的及び質的動作分析** 分析のスペシャリストとしてのアナリストに着目し，特に映像を用いた質的動作分析について解説する．走り高跳びの跳躍フォームを例に，その助走や踏切，空中姿勢を分析する中で，分析に必要な概念モデル，チェックリスト，動画撮影方法などを学習する．	跳躍種目全般の特徴の役割を理解する	4時間
第11回	**アナリストの役割③　データを活用した分析　ー記述分析ー** スポーツのパフォーマンスは自己観察、他者観察によって評価されフィードバックされる。映像による他者観察は有効であり、近年スポーツアナリストの役割が着目されている。今回は特に，柔道の分析システムGOJIRAを題材に、量的データベースと動画によるポイント分析を取り上げ、その手法について学習する。	記述分析について理解する	4時間
第12回	**データサイエンティスト①　研究手法を用いたデータの解析** スポーツ現場で，データを収集し，分析し，フィードバックできる―多サイエンティストの役割について学習する．今回は特に，カーリングやサッカーを例に，分析ソフトiCEや人工知能を用いたシミュレーション，xGゴール期待値について学習する．	自分の専門種目についてデータ分析を実施する	4時間
第13回	**データサイエンティスト②　バイオメカニクス手法を用いた解析** モーションキャプチャーや床反力計等を用いてスポーツ動作を力学的に計測するバイオメカニクスを用いた解析について学習する．今回は，特にカーリングのスイープ動作，競泳のウェットプレートと動画を用いたスタート動作の解析，マーカーレスモーションキャプチャーについて学習する．	動作分析を実施する	4時間
第14回	**IT技術を用いた指導支援の今後** アプリを用いたITコンディショニング手法を例に，今後の指導支援で用いられるIT技術や指導支援ツール（道具）について学習する．スマホやタブレットを活用した身近な指導支援を考え，活用するアイデアについて理解を深める．また、テキストマイニング手法を例に主観が多く含まれる質的な言葉を客観的なグラフやモデルに置き換えて理解する方法を学習する．	指導支援ツールのアプリを調査する	4時間

SP-3422-3-2

授業科目名	**コーチング社会論（コーチング理論Ⅱ）**				
担当教員名	豊田・北村・坂尾				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）、2018年度日本テニス協会S級エリートコーチ養成講習会講師				

授業概要

コーチが指導方針や指導方法を考える際、スポーツの社会的・文化的な価値を踏まえるとともに、現在のスポーツ界の情勢を把握することが重要である。現在の国内外の社会におけるスポーツの価値、スポーツ界の現状について検討する。また、コーチが持つべきスポーツ社会学的知識について学習するとともに、これからのグッドコーチングについて考える。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	コーチが持つべきスポーツ社会学的知識	現在のスポーツの価値を踏まえ、これからの指導者のあり方（指導観）について私見を述べることができると共に、 指導者が持つべきスポーツ社会学的知識について解説できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学んだ知識を実践的知識化	これからのグッドコーチングのあり方について私見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	60%	： 小レポート14回分×5点＝60点。 レポートの評価基準は、理解度・論理性・分量が、非常に良い＝4点、良い＝3点、やや劣る＝2点、劣る＝1点で評価する。
まとめレポート	40%	： まとめレポート40点 レポートの評価基準は、独自性・論理性・分量等が、非常に良い＝80～100%、良い＝70～89%、普通＝60～69%、劣る＝59%以下で評価す

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
履修について、「スポーツ指導論」を履修していること。3年次からの履修が望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： 担当教員へメールで質問を送ってください／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、スポーツの価値について** 本講義の進め方について確認する。自分にとってのスポーツの価値、スポーツの社会的価値について学習し、コーチングとの関連性について考える。	シラバスを熟読する。スポーツの価値についての知見を集める。	4時間
第2回	**競技スポーツの功罪　競技スポーツの実際** スポーツの多様化、競技スポーツにおいて起きている問題を取り上げ、アスリートのスポーツキャリアの実情について概観し、国内の競技スポーツの在り方について考える。	自身のスピーツ経験から競技スポーツの価値について整理する。	4時間
第3回	**競技スポーツの功罪　勝利至上主義・プレーヤーズファースト** 競技会主義、勝利至上主義によりおきる問題について、昨今の時事ネタを事例を理解し、自身のこれまでのスポーツ活動を振り返り、師事した指導者の指導方針や指導方法について考える。	授業内容を踏まえて自身のスポーツキャリアについて整理する。	4時間
第4回	**指導現場におけるハラスメント** パワハラ、体罰、セクハラなど指導現場で起こり得るハラスメントについて学習し、より良いスポーツ活動の環境作りについて考える。	各スポーツ種目におけるハラスメントの事例について整理する。	4時間
第5回	**指導現場におけるリスクマネジメント** スポーツ活動中の事故の事例学習から、事故の対処等やリスク回避するための知見について学習する。	各スポーツ種目における指導中の事故事例について整理する。	4時間
第6回	**スポーツペアレンツについて** スポーツ活動における保護者の問題や保護者の役割について理解するとともに、その保護者との関わり方について考える。	保護者と指導者の理想的な関わり方について考える。	4時間
第7回	**グッドコーチング・望ましいスポーツキャリアとは** レジャー、競技スポーツといった様々なスポーツ活動のあり方について確認するとともに、海外のスポーツ活動のキャリアの変遷を紹介しながら、望ましいスポーツ活動及びグッドコーチングについて考える。	理想的な大まかなコーチングの目的や計画について考える。	4時間
第8回	**競技スポーツとドーピング** 競技スポーツにはびこるドーピングやアンチ・ドーピングの意義や歴史について学ぶ他、アンチ・ドーピングの具体的施策について学習する。	各スポーツ種目におけるドーピング事例について整理する。	4時間
第9回	**競技スポーツの商業化①** 競技スポーツの商業化の過程から、トップアスリートの社会化について学習する。	各スポーツ種目における商業化について整理する。	4時間
第10回	**競技スポーツの商業化②** 競技スポーツの商業化の過程から、プロスポーツ選手とメディア、スポンサーとの関連性について学習する。	各種ポーツ種目におけるスポンサーの関係について整理する。	4時間
第11回	**オリンピック・パラリンピックムーブメント** オリンピック・パラリンピックムーブメントについて触れ、国内のトップアスリート排出を目指した各種団体の活動について学習する。	各スポーツ種目における2020オリパラへの取り組みについて整理する。	4時間
第12回	**国内のスポーツ体制・スポーツ統括団体について** スポーツ基本法やスポーツ振興に関わる政策等、基本的な国内のスポーツ体制について学習する。JOCや日本体育協会、JSC、各種スポーツ連盟・協会の仕組みや普及や強化活動の施策について学習する。	第2期スポーツ基本計画について学習する。各スポーツ連盟・協会におけるスポーツ政策について整理する。これまでのジュニアユース期に関わる学習内容について振り返り整理する。	4時間
第13回	**各ジュニア世代のコーチングはどうあるべきか（ジュニアユースまで・高校からシニア世代）** これまでの学習内容を活用しながら、幼少期（幼～中学校期）、ジュニア・シニア期（高～シニア期）における望ましいコーチングについてディスカッションする。	ジュニア期からシニア期に関わる学習内容について振り返り整理する。	4時間
第14回	**本講義のまとめおよび総評** これまでの学習内容を総合し、各自グッドコーチングについて考える。	望ましいコーチングについて自身の考えをまとめておく。	4時間

SP-3423-3-2

授業科目名	ハイパフォーマンスコーチング実践論（コーチング理論Ⅲ）				
担当教員名	望月・渋谷・豊田				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	望月：2005年から日本サッカー協会JFAコーチ 豊田： 渋谷：　以上の実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

スポーツ科学が格段に進歩した現在、トップアスリートの能力や技術、パワーやスピードは観ている人々を魅了してやまない。本講義ではスポーツコーチングを実践する代表・トップコーチの実際について学習する。トップアスリートや代表選手の強化や管理、チームの統率やマネジメントについて学び、競り勝つ個と強いチームつくりを考える。また、秀でたスポーツインテリジェンスや強靭且つしなやかなフィジカルとメンタルを持って、自らを自身で進化させていくアスリートを創造できるコーチングについて学び考える。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	トップアスリート養成	指導者として選手の競技能力を変えることができることを理解できる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	トップコーチに関する知識	トップコーチに求めれる能力や資質を理解した中で、指導実践でアスリートを向上させていく実践知識を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	70%	： 第1～14回の授業におけるレポートの完成度について5段階で評価する。
発表	30%	： 第1～14回の授業における発表内容が論理的で分かりやすいか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1.PEAK 超一流になるのは才能か努力か？(アンダース・エリクソン、文藝春秋)
2.

その他については、授業内で紹介したり、資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。本科目の履修は、コーチング理論Ⅰとコーチング理論Ⅱの単位を取得した者に限る。

毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をする。様々な価値観の基にコーチングがあることや答えが1つではないことを認識する。そのために、常識を超えた考えを受け入れる素養を持ち、多くの予備知識を身に付けておく。また、オープンマインドの心で取り組む。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**トップコーチとトップアスリートについて考えてみる(望月聡)** 授業の内容や進め方について解説する。最初にトップコーチとトップアスリートについて、常識を破り考えてみる。意見交換と発表する。	トップコーチとトップアスリートについて分析しておく。	4時間
第2回	**トップコーチの考え方・価値観・発信の重要性(望月聡)** トップアスリートを最高の環境で強化していくために必要な考え方、お互いにリスペクトし合える価値観について映像や資料をもとに考える。	トップコーチ関係の本を読んで、考え方や価値観について自分自身でも考えてみる。	4時間
第3回	**トップコーチの仕事・役割(望月聡)** 勝つことが絶対使命のトップコーチの仕事や役割について、世界大会報告書や資料を分析しながら考える。また新たに将来必要になる仕事についても考えてみる。	トップコーチの役割・仕事について考えて整理しておく。	4時間
第4回	**チームの統率と管理(望月聡)** トップコーチが実際に、個性豊かなトップアスリート集団をどのように統率して闘うチームにしていくのか。またまとめて管理しているのかを考える。	チームの統率・管理とはどのようなことか、考えて整理しておく。	4時間
第5回	**チームの強化と継続性(望月聡)** トップアスリートを統率して闘う集団にするだけではない。より強い進化する集団にしなければならない。そして継続することから”進化し続ける集団”にしていかなければならない。その方法を考えてみる。	チーム強化の実際について調べておく。	4時間
第6回	**サッカー代表監督の統率と管理(望月聡)** 代表監督は代表トップアスリートをどのように統率して、どのように管理していくのか。普通のチームとは違い、集まるに日数・時間は極端に少ない。チームを作る時間の制限のある中での統率と管理について考えてみる。	サッカー代表監督関係の本を読んでおく。	4時間
第7回	**トップコーチとトップアスリートの関係(望月聡)** 「元々トップアスリートであったトップコーチ」と「トップアスリート」お互いに価値観や哲学も大きく違う。そのような関係であっても、監督としてアスリートとしてチームが結果を出すことが絶対であり、至上命令である。どのような関係で協働しているのか考えてみる。	コーチとアスリートの関係について、自分の考えを整理しておく。	4時間
第8回	**個人競技におけるトップコーチとは：考え方・価値観等（渋谷俊浩）** 個人競技（陸上競技）におけるトップコーチの考え方・価値観の特徴およびチーム競技との共通点・相違点について、双方を比較しながら理解する。	トップコーチの著書等を読んで、その特徴などをノートにまとめておく。	4時間
第9回	**個人競技におけるトップコーチの仕事・役割（渋谷俊浩）** 個人競技（陸上競技）におけるトップコーチの仕事・役割について、競技力向上のみならず、多様な実際例を通して理解する。	授業で学んだことを整理してノートにまとめ、自身のコメントを付け加えておく。	4時間
第10回	**個人競技におけるトップアスリートの統率と管理（渋谷俊浩）** ハイレベルな競技力向上を目指すアスリートとコーチの関係性について、特に日本代表レベルのアスリートをどのように統率し管理しているのかを実際例を通して理解する。	授業内で紹介された事例を整理し、ノートにまとめておく。	4時間
第11回	**個人競技におけるトップアスリートの強化と継続性（渋谷俊浩）** 日本代表選手の強化方策（トレーニング例）、さらには日本代表の選考方法およびそのシステムについて、実際例を通して理解する。トップレベルのコーチ・アスリートの実践例を、自身の競技活動でも活用し、自身の競技力向上に役立てていく。	これまでの授業で学んだことを精査し、自身で実践してみる。	4時間
第12回	**プロフェッショナルアスリートへのメンタルコーチング （個別）豊田則成** プロ野球選手（投手）の場合、パフォーマンスの出来が直接的に競技継続に影響する。 そのような競技環境の中、自身のパフォーマンスのクオリティを向上させていくことは免れ得ない。 １シーズンを通じて取り組んだメンタルコーチング の実例を紹介しながら、そこに含まれる心理変容について詳しく学修する。	プロ野球選手の手記などは多く市販されており、その著書に予め目を通すことで 基礎的知識を深めることができる。	4時間
第13回	**プロフェッショナルアスリートへのメンタルコーチング （チーム）豊田則成** 女子バレーボール選手の場合、チームスポーツであることから、人間関係の複雑さや社会的相互作用のプロセスを心理的分析することがチームのパフォーマンス向上に直結する。 どのようにすれば、個人のパフォーマンスを向上させ、チームメイトとのコラボレーションを拡充していくことになるのか。質的なアプローチから学修する。 女子バレーボールは日本のお家芸とまで言われた時代がある。それに関連する著書等に予め目を通しておくことが求められる。	女子バレーボールは日本のお家芸とまで言われた時代がある。それに関連する著 書等に予め目を通しておくことが求められる。	4時間
第14回	**プロフェッショナルアスリートへのメンタルコーチング （競技引退）豊田則成**	競技引退やキャリアトランジションを題材にした論文や記事は数多くある。これ らに予め目を通しておくと良い。	4時間

プロフェッショナルアスリートであろうがなかろうが、現役の選手は、必ず、競 技引退を迎え、ハイパフォーマンスへの関わり方を変化させていくことになる。 世界的に、このようなキャリアトランジションを支援する動きは定着しつつある。 しかしながら、制度的なアプローチのみならず、個人の精神面での成熟を促して いくためにどういった取り組みが必要であるのか、心理学の側面から学修してい く。		

SP-3501-3-1

授業科目名	**野外・レク基礎演習Ⅰ**				
担当教員名	林・中野・黒澤・橋本				
学年・コース等	3	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、野外・レクリエーションスポーツの多様な活動・プログラム、専門実習や指導法の基礎となる科目である。野外レクリエーション、野外スポーツ、野外教育活動を通して、基礎的な知識や技能を自分自身の体験から学ぶこと、コースの専門の学生としての態度や心構えを育み、主体性や協調性を学習することを目的とする。具体的な内容として、コースでのキャンプ活動（ベーシックキャンプの実践）や森林山岳の登山活動、水辺活動のカヤックを実際に取り上げ体験をする。また、冬季野外スポーツの魅力や理解についても学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	キャンプ活動や登山、水辺活動を通した体験	自然体験活動の中で必要となる技能を習得するとともに、幅広いな知識や技能を身につけることが出来る。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	専門のコースでの自覚と誇り、心構え	自然環境での自分自身の在り方や仲間との関与について思いやりの心について考えることができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	キャンプ活動、登山、水辺活動	野外スポーツの基礎的な実践力が身につけることができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
リフレクションレポート 60%	：	実習後の報告書による目的・目標達成度を評価する。
野外プログラムに関するレポートおよび発表 40%	：	レポート内容や発表を通し、野外スポーツ・プログラムの理解度を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

随時紹介します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

［メッセージ］
野外・レクリエーションスポーツの基礎になる内容ばかりです。キャンプや登山を通して体験的に学びます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、野外・レクリエーションスポーツの概観** 授業のオリエンテーションを実施し、その中で野外・レクリエーションの分野・領域について知識や理解を深める。	野外・レクリエーションスポーツ、野外教育の定義について理解を深める	4時間
第2回	**ベーシックキャンプ実践：アイスブレイク** ベーシックキャンプの実践から「アイスブレイク」について体験し、他者との関わり方や自分自身の表現方法について理解を深める。	アイスブレイクについての効果についてまとめる	4時間
第3回	**ベーシックキャンプ実践：イニシアチブゲーム** ベーシックキャンプの実践から「イニシアチブゲーム」について体験し、グループでの課題解決を通して、コミュニケーション、信頼関係について理解を深める。	イニシアチブゲームの自分自身への気づきや学びについてまとめる	4時間
第4回	**ベーシックキャンプ実践：火起こしとアウトドアクッキング** ベーシックキャンプの実践から「火起こしと野外調理」について体験し、調理を含めた野外での「食」に対する理解を深める。	火おこしの方法や工夫についてまとめる	4時間
第5回	**ベーシックキャンプ実践：住環境の整備（テントとタープ）** ベーシックキャンプの実践から「テントやタープ設営」について体験し、野外での「住環境」に対するの理解を深める。	設営場所やテント・タープ設営の方法についてまとめる	4時間
第6回	**ベーシックキャンプ実践：登山計画と準備** ベーシックキャンプの実践から「登山計画と準備」について体験し、ナビゲーション（ルートの選択、地図とコンパスの使用法）やパッキングについて理解を深める。	授業の計画と準備の方法についてまとめる	4時間
第7回	**ベーシックキャンプ実践：登山** 実際の登山を体験し、グループ登山の方法や、地図の読み方やコンパスの使い方などOJT形式にて、理論と実践の理解を深める。	登山行程や自分自身やグループについてまとめる	4時間
第8回	**ベーシックキャンプ実践：キャンプファイヤー** ベーシックキャンプの実践から「キャンプファイヤー」について体験し、様々な活動の種類や教育的意図・意義についての理解を深める。	キャンプファイヤーの教育的価値についてまとめる	4時間
第9回	**ベーシックキャンプ実践：リフレクション** ベーシックキャンプを通して、自分自身についてふりかえりを行い、今後、野外。レクリエーションスポーツコースの専門の学生としての自覚について共有する場（発表し合う）を設け、自己理解や他者理解を深める。	キャンプを通した自分自身の気づきや学び・心構えについてレポートにまとめる	4時間
第10回	**カヤックの理論（基礎知識）** 水辺活動の実践から「カヤック」についての理論や扱う水辺環境についての理解を深める。	カヤックで得た知識や自然環境についてまとめる	4時間
第11回	**カヤックの実践（基礎スキル）** 水辺活動の実践から「カヤック」についての基礎的スキルや個人の安全管理の意識を高め、活動の楽しさやリスクについて理解を深める。	カヤックの基礎的なスキルについてまとめる	4時間
第12回	**カヤックリカバリー（個人・グループ）** 水辺活動の実践から「カヤック」についての個人でのリカバリー方法や、レスキューの方法、安全管理について学ぶ。	水辺活動の個人・集団での安全管理方法についてまとめる	4時間
第13回	**ウィンタースポーツの魅力と理解** 冬季に実施される野外スポーツの魅力や扱う自然環境への理解を深める。	冬季野外スポーツの種目について調べ、まとめる	4時間
第14回	**総括・まとめ** 本科目での実技や実習内容について学びを共有する	本科目での学びや気づきについてレポートを作成する	4時間

SP-3503-3-1

授業科目名	アウトドア専門実習（夏）（野外スポーツ専門実習Ⅰ）				
担当教員名	林・中野・黒澤・橋本				
学年・コース等	3	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

夏季のアウトドアスポーツについて、移動型のキャンプを行いながら実習を行う。縦走登山をはじめ、長距離ハイクやシーカヤック活動など、様々な野外スポーツを実施する中で、それぞれの野外スポーツスキルの獲得だけでなく、実習中に起こる相互関係の中での体験を通し、野外教育指導者としての資質・能力を高めることを目指す。また、縦走登山における宿泊はソロビバークを行うことで、自分を見つめ直したり、他人との関係を見つめ直すといった機会をもつなかで、自然の中で活動することの意義や自然環境への理解、自然状況への柔軟な対応など人間力を高める上で必要となる資質・能力を高めることを目的として実施する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	海といった自然環境の中で、人と人が関わる野外スポーツを通した自然・人・自分をの学習	自然環境の中で必要となる技能を習得するとともに、安全に過ごすための知識と実践力を身につけることが出来る。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	過酷な自然状況の中で安全かつ充実した生活を送る事のできる技術	６泊７日に及ぶ自然環境の中での野外スポーツプログラムを達成することによる自信と誇りを獲得出来る。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	縦走登山、40KMハイク、シーカヤック、オーバーナイトハイク	山、海といった自然環境の中で安全に過ごす為の実践力を身につけることができる。
4 ．DP11.忠恕の心	過酷な自然環境が予想される野外スポーツプログラムの中で他人に対する思いやりの心	自然環境と野外スポーツプログラムによる思いやりの心を学習することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
準備段階におけるレポート 20%	：	準備段階でのレポートによる実習の理解度を評価する。
実習における課題達成および実習日誌の提出 50%	：	実習での課題達成度の評価と実習日誌による実習の目的理解度を評価する。
報告書作成のためのレポート 30%	：	実習後の報告書による目的達成度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本実習は、同時開講している「アウトドアスポーツ実践論（夏）」を受講している者が対象となります。
また、本実習は学外での宿泊を伴った実習になるため、宿泊費、現地までの交通費など費用がかかります。実習予定地は移動型のキャンプで実施しますが、滋賀県及び福井県を予定しています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門実習の事前準備** 山岳環境・海洋環境で実施する実習の準備を行う。特に1泊2日の行程で実施する山岳環境における装備について、個人装備・団体装備の配布を行うとともに、パッキング方法について理解する。また、移動型のキャンプ形態で実施することから全ての活動の装備について積み込み等、マネジメント体制の理解を深める。	個人装備・団体装備について理解を深める。	4時間
第２回	**本実習：登山前の健康管理及び山行計画の最終確認** 縦走登山について、集合時に必要な健康管理チェックの実施と当日及び登山中における天候チェックにともなう最終の山行計画の確認することで実習への理解を深める。	グループミーティングによる実習の意味について理解を深める。	4時間
第３回	**本実習：縦走登山** 1日目：縦走登山（予定） ８：００　グループごとの登山活動開始 １６：００　ソロ（単独）活動によるビバーク 2日目：縦走登山（予定） ５：００　起床・朝食・撤収・出発（各自ソロ活動にて武奈ケ岳集合）＊八雲の本部にて点呼チェック ９：００　武奈ケ岳集合後、グループごとに登山活動再開 １６：００　朽木到着・登山活動終了 入浴・食事・振り返り	グループミーティングによって活動の理解を深める。	4時間
第4回	**本実習：40㎞ハイク** 3日目：ハイク（予定） 朽木（滋賀県）から小浜（福井）までの約40㎞の行程を徒歩（約8時間） ７：３０　朽木出発（健康チェック） グループごとのハイク １６：００　小浜着 入浴・食事・振り返り	グループミーティングによって活動の理解を深める。	4時間
第５回	**本実習：シーカヤックの組み立てと海洋での漕ぎ方** 4日目：シーカヤック（予定） ８：００　シーカヤック組み立て １０：００　出航 １４：００　到着・カヤック整備 食事・振り返り	グループミーティングによって活動の理解を深める。	4時間
第６回	**本実習：シーカヤックツーリング** 5日目：シーカヤック（予定） ７：３０　出発（健康チェック） 約２０㎞の距離をバディ・グループの安全管理を行いながら漕ぐ １５：００　到着・シーカヤック解体 食事・振り返り	グループミーティングによって活動の理解を深める。	4時間
第７回	**本実習：オーバーナイトハイク** ６日目：オーバーナイトハイク（予定） ７：３０　出発（健康チェック） ＊約９０㎞の距離をグループ・実習生全体の安全管理を行いながら夜通し歩く ７日目：３：００　大学艇庫到着 仮眠 ７：００　後片付け・ブランチ・振り返り ９：００　実習終了・解散	グループミーティング・全体ミーティングによって活動の理解を深める。	4時間
第８回	**振り返りと評価** 実習で体験したことを振り返り、実習の位置付けや意味について理解する。	実習の達成度をレポートにまとめる。	4時間

SP-3504-3-1

授業科目名	アウトドア専門実習（冬）（野外スポーツ専門実習Ⅱ）				
担当教員名	林・中野・黒澤・橋本				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

冬季自然環境の中で、野外教育指導者に必要とされる資質・能力を向上するために必要な野外スポーツプログラムを計画・実施・評価する能力の獲得を目指す。具体的な活動として、冬期野外スポーツを代表するアルペンスキー、雪中泊を含んだ雪上活動、クロスカントリースキーやスノーシューハイクにわたる幅広い活動で展開する。実習は冬期に集中して実施するが、指導者としての資質能力を高めるための技術・安全管理に関する理論や知識については事前学習を進めながら実施する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	雪中泊、スノーシューハイク、クロスカントリースキー、アルペンスキー	冬の自然環境の中で人と人が関わりながら野外スポーツを実践し、冬期野外スポーツに対する知識と技能を獲得することが出来る。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	過酷な自然状況の中で安全かつ充実した生活を送る事のできる技術	冬期自然環境の中での野外スポーツプログラムを達成することによる自信と誇りを獲得出来る。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	２泊にわたる雪中泊、スノーシュー、クロスカントリー、アルペンスキー、バックカントリー	冬山といった自然環境の中で安全に過ごす為の実践力を身につけることができる。
4 ．DP11.忠恕の心	過酷な自然環境が予想される野外スポーツプログラムの中で他人に対する思いやりの心	自然環境と野外スポーツプログラムによる思いやりの心を学習することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
前実習：レポートおよび班別計画表 20%	：	事前実習でのレポートによる実習の理解度を評価する。
本実習における課題達成および実習日誌の提出 50%	：	実習での課題達成度の評価と実習日誌による実習の目的理解度を評価する。
事後実習：レポートおよび班別活動記録 30%	：	実習後の報告書による目的達成度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本実習は、同時開講の「アウトドアスポーツ実践論（冬）」を受講した者が対象となります。
また、本実習は学外での宿泊を伴った実習になるため、宿泊費、現地までの交通費、実習で用いる装備のレンタル費など費用がかかります。実習予定地は新潟県妙高市赤倉周辺を予定しています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**専門実習の事前準備** 雪山環境で実施する実習の準備を行う。特に2泊3日の行程で実施する雪山環境におけるキャンプ活動の装備について、個人装備・団体装備の配布を行うとともに、パッキング方法について理解する。	個人装備・団体装備についての理解を深める。	4時間
第２回	**本実習：２泊３日の雪中キャンプ前の健康管理及び計画の最終確認** ２泊３日の雪中キャンプについて、集合時に必要な健康管理チェックの実施と当日及びキャンプ中における天候チェックにともなう最終の安全等を含めた計画の確認することで実習への理解を深める。	グループミーティングによる理解を深める。	4時間
第３回	**本実習：雪中キャンプ** １日目：イグルー泊（予定） １３：００　宿舎出発 イグルー製作（グループ） 環境整備 夕食・振り返り ２日目：スノーシューハイク及び雪洞泊（予定） ９：００　スノーシューハイク出発 １４：００　雪洞製作（ソロ） 夕食・振り返り ソロでの雪洞を活用して就寝 ３日目：スノーシューを用いたストレートハイク、クロスカントリースキー ８：００　マップ＆コンパスを活用したストレートハイク １０：００　宿舎着・後片付け １３：００　クロスカントリースキー体験	グループミーティングによる理解を深める。	4時間
第４回	**本実習：バックカントリースキー** 4日目：バックカントリースキー（予定） ９：００　バックカントリーの理解と実践 １６：００　終了 ５日目：バックカントリースキー（予定） ９：００　バックカントリーでのアルペンスキー（予定）実践 １６：００　終了・振り返り ６日目：全体ミーティング・解散	グループミーティングによる理解を深める。	4時間
第５回	**実習の振り返りと評価** 実習についての振り返りと個人別評価、グループ別評価を行い、実習についての理解を深める。	個人レポートによる目的・目標達成どの評価による理解を深める。	4時間

SP-3507-3-2

授業科目名	キャンプカウンセリング（キャンプカウンセリング）				
担当教員名	黒澤　毅				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

野外スポーツの教育現場で重要な役割を担うキャンプカウンセラー（指導者）について理解する。単なる野外スポーツの技術指導（ハードスキル）だけでなく、心理的側面からも対象者にアプローチするキャンプカウンセラーは可視化の困難なソフトスキルについても理解を深め、その指導法を身に付ける。また、野外スポーツ場面におけるキャンプカウンセリングについて、自然環境の中での自己の理解と他者の理解を含め、グループディスカッションやグループワークを交えて討議する中で学びを深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	野外スポーツに関する指導者の資質・能力	野外スポーツを実施する中で重要な役割である指導者の指導方法としてのカウンセリングについて理解を深めることが出来る。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	人間関係・信頼関係構築のためのグループワーク、を通した指導者としての資質・能力	キャンプカウンセラーとしての人間性を向上させるために新たな自分に気づき、他人を理解する能力を高めることが出来る。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	自然の中での活動を通した指導法における自己理解と他者理解の資質・能力	自然環境を用いた野外スポーツにおける指導の実際の中で、自然環境を用いた野外スポーツにおける指導の実際の中で、リスクマネジメントを含めた指導法について理解を深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のレポート 20%	：	レポートによる理解度を評価する。
グループ課題・個人別課題の発表 50%	：	グループ課題・個人別課題の発表による理解度を評価する。
授業内のワークシート 30%	：	授業の内容理解のためのワークシートを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

キャンプ・カウンセリング（A.V.ミッチェル・I.Bクロフォード共著　兼松保一訳）
自然体験活動指導者のための安全対策読本（（財）日本レクリエーション協会）
野外教育指導者読本（野外教育指導研究会）
その他、授業のなかで随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション・カウンセリングの定義** 本授業の概要を説明すると同時に、受講生のこれまでの野外教育活動経験および指導経験、キャンプカウンセラーに対して持つイメージについてディスカッションしながら、本授業における学修目標の確認を行う。	自身の野外スポーツ指導体験についてまとめる。	4時間
第２回	**キャンプ組織について** 野外教育の中でも組織的に行われるキャンプに焦点を当て、その教育目標を事例を用いて理解するとともに、キャンプにかかわる指導者全体の組織とその役割について概説する。	キャンプ組織について事例を挙げながらその組織の特徴をまとめる。	4時間
第３回	**キャンプ指導者と役割** 教育キャンプにおける指導者の役割について様々なキャンプ事例を用いて概観するとともに、目的との関連性について理解を深める。	自身の指導経験のある野外スポーツプログラムの指導者と役割について、その意義を含めて考えをレポートにまとめる。	4時間
第４回	**キャンプカウンセリングの意義** 野外スポーツ（キャンプ）におけるカウンセリングの意義について、指導者の役割の観点から理解を深める。	指導体験の中から指導者の存在意義と役割についてレポートにまとめる。	4時間
第５回	**キャンプカウンセラーの資質と能力** キャンプにおける対象となる参加者に直接的に関わるキャンプカウンセラーに必要となる資質や能力について概説する。	キャンプカウンセラーとしての自身の資質と能力につい評価用紙をもとに分析してまとめる。	4時間
第６回	**キャンプカウンセラーの役割** キャンプ指導場面における様々な役割の中で、キャンプカウンセラーとして関わる際に必要となる資質や能力について理解を深める。	キャンププログラム事例を調べ、その中でのキャンプカウンセラーの役割について特徴をまとめる。	4時間
第７回	**キャンプカウンセリングの進め方** キャンプカウンセラーとしてのカウンセリングの進め方について概説するとともに、グループワークの中で自己主張と傾聴の重要性について理解を深める。	自己主張と傾聴の重要性について、野外スポーツ以外の場面での重要性についてレポートにまとめる。	4時間
第８回	**対象者の理解** 目的を達成させるために実施される野外スポーツプログラムのなかでの、様々な対象者を理解する手法について学修する。	自らが興味関心を持つ対象者（年代）における効果的関わりについて、自らの考えをまとめる。	4時間
第９回	**フィードバックの方法** キャンプカウンセラーとしてのフィードバック（ふりかえり）の方法について理解を深める。	キャンプ実施団体におけるフィードバックの事例を調べてまとめる。	4時間
第１０回	**カウンセラーとしての自己評価** キャンプカウンセラーとして成長するための自己評価の方法について理解を深める。	キャンプカウンセラーとして成長するために自己評価をどのように活用するかについて考えをまとめる。	4時間
第１１回	**個の成長とカウンセラー** 野外スポーツにおけるカウンセラーの関わりが個に及ぼす影響について、グループディスカッションを通して理解を深める。	キャンプの感想文を読んで、個への影響について、感想文からまとめてレポートする。	4時間
第１２回	**グループの成長とカウンセラー** 野外スポーツにおけるカウンセラーの関わりがグループに及ぼす影響について、グループディスカッションを通して理解を深める。	キャンプの感想文を読んで、グループに与えた影響について、感想文からまとめてレポートする。	4時間
第１３回	**キャンプカウンセリングの効果に関する研究** キャンプカウンセリングの効果に関して概説するとともに、指導者の関わりによる対象者の成長について理解を深める。	キャンプカウンセリングに関する研究の中から興味関心のあるものについてまとめてレポートする。	4時間
第１４回	**キャンプの指導要項** キャンプにおける指導に関して、自らキャンププログラムをデザインする方法を知り、それに伴う指導の要点のまとめかたについて理解を深める。	キャンプカウンセリング指導要領を作成する。	4時間

SP-3508-3-2

授業科目名	キャンプ指導法（キャンプ指導法）				
担当教員名	コース教員				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

1年次生が実施するアウトドアキャンプにスタッフ、指導者として関わるために、指導・運営の実際を学び、指導スキルの向上や指導方法について理解を深めることを目的する。班担当の指導者としてキャンプの基本技術のインストラクションや班内の人間関係作りではカウンセラーとしての役割について指導について体験的に学ぶ。本部担当スタッフとしては、キャンプ全体のマネジメントやプログラム補助スタッフとしての役割について学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	キャンププログラムの指導者、スタッフとしての知識	プログラムの指導・運営ができる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	キャンププログラムの指導者、スタッフとしての実践力	指導スキルの向上や指導方法について理解を深め、実践できる
3 ．DP11.忠恕の心	指導者の視点からの参加者への思いやりの心	指導者として参加者への配慮や理解を表現することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
役割理解と実践・レポート 80%	：	キャンププログラムの指導実践の課題達成度およびレポートによる目的達成度を評価する。
報告書作成 20%	：	報告書による目的達成度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

随時紹介します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

［メッセージ］
キャンプ指導の基礎になる内容です。どのようにキャンプを企画・運営し、指導していくかのノウハウを学びます。演習形式の授業も行います。アウトドアキャンプの補助としての経験に活かされることを期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**キャンププログラムの目的確認、組織の説明** キャンプのプログラムに向けて目的や組織を共有する。	プログラムの目的および組織の理解を深める	4時間
第2回	**野外スポーツ指導者の心得** 指導スタッフとして、本部スタッフとしての心得や心構えについてを共有する。	指導者についての理解を深める。	4時間
第3回	**アウトドアプログラムの基本装備（個人・団体装備）** プログラムに必要な個人装備および団装備について学び、その活用方法（指導法）について学ぶ。	装備の一覧表を作成する	4時間
第4回	**アウトドアプログラムの野外生活に関するの基礎知識** 定住型の野外生活技術の基礎的な知識やその指導法について学ぶ。	野外での生活様式に合わせた指導について考える	4時間
第5回	**アウトドアプログラムのリスクマネジメント（仲間づくり野外ゲーム）** 仲間づくり野外ゲーム（ASE、イニシアチブゲーム）でのリスクマネジメントについて学ぶ。	仲間づくり野外ゲームで想定される様々なリスクについてまとめる	4時間
第6回	**アウトドアプログラムのリスクマネジメント（登山）** 登山でのリスクマネジメントについて学ぶ。	登山で想定される様々なリスクについてまとめる	4時間
第7回	**アウトドアプログラムのリスクマネジメント（キャンプサイト）** キャンプサイトでのリスクマネジメントについて学ぶ。	キャンプサイトで想定される様々なリスクについてまとめる	4時間
第8回	**プログラム指導実践（イニシアチブゲームの作成）** イニシアチブゲームの課題解決型の要素を取り入れたオリジナルのゲームを作成する。	イニシアチブゲームを作成する	4時間
第9回	**プログラム指導実践（イニシアチブゲームの評価と観察）** 作成されたイニシアチブゲームを実際に共有し、体験し評価を行う。その際に観察者を設け客観的な評価者としての立場からについても学ぶ。	他の人のイニシアチブゲームについて評価する	4時間
第10回	**プログラム指導実践（ネイチャーゲームの実際）** 参考資料からネイチャーゲームについて何点か取り上げ、指導者と参加者に分かれ、指導と実際の体験を同時に行う。	体験したネイチャーゲームについて自身の気づきについてレポートにまとめる	4時間
第11回	**プログラム指導実践（ネイチャーゲームの作成）** ネイチャーゲームの自然への理解や意識づけの要素を取り入れたオリジナルのゲームを作成する。	ネイチャーゲームを作成する	4時間
第12回	**プログラム指導実践（ネイチャーゲームの評価と観察）** 作成されたネイチャーゲームを実際に共有し、体験し評価を行う。その際に観察者を設け客観的な評価者としての立場からについても学ぶ。	他の人が作成したネイチャーゲームについて評価する	4時間
第13回	**キャンププログラムにおける指導の立場への理解** 多岐にわたるキャンププログラムの指導者の立場について整理し、それぞれの指導の内容やポイントについて理解を深める。	指導のポイントについてまとめる	4時間
第14回	**総括・まとめ** キャンププログラムの指導について総括を行い、実際の相互の指導についてディスカッションを行う。	指導法についてのレポートを作成する	4時間

SP-3509-3-2

授業科目名	冒険教育プログラム（野外スポーツプログラム）				
担当教員名	林　綾子				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Wilderness Education Association (US & Japan)、Outward Bound USAのインストラクターとして冒険教育プログラム、指導者養成プログラム指導、WEAJ資格認定指導者（Certifying Examiner）の経験を講義内容に結びつけている（全14回）				

授業概要

冒険教育とは、主に自然環境を活用し、冒険の要素を特定の教育目的を持って体験学習として組織的に行う活動であり、多くの野外教育活動に取り入れられている。また、展開方法としても、青少年教育や、企業研修、スポーツチームのチームビルディング、リーダーシップ研修、あるいは悩みや問題を抱える青少年を手助けする活動など多様な展開が行われ、一人ひとりが、あるいは集団として冒険や困難に立ち向かうことから得れる成長を促すものである。本授業においては、冒険教育の理論的理解と、多様な対象者や目的のための展開方法を体験や実践例を通して学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	冒険教育に関する理論・歴史的背景	野外教育の代表的な展開方法としての冒険教育についての理論を理解できる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	自然環境の特性を理解し、冒険教育の目的に即した展開方法の学習	目的や対象者に応じた自然環境の活用について理解できる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	冒険教育プログラムデザインについての学習	理論的理解と展開方法の理解を基に、自らプログラムデザインすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
個人課題	30%	： トピックに関わる課題から、理解の程度を評価する。
グループ課題	30%	： グループでトピックに関わる課題に取り組み、発表したものを、その理解や内容について評価する。
最終課題	40%	： 総合的な理解や、知識に基づいたプログラムデザインを実践する課題の内容を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

自然体験活動研究会編（2011）野外教育の理論と実践．杏林書院．
自然体験活動研究会編（2014）冒険教育の理論と実践．杏林書院．

履修上の注意・備考・メッセージ

多様な野外スポーツ・冒険教育の背景となっている理論を理解することは、今後のより効果的・意味深い実践を行うための基盤となります。今後の実習や実践において「専門知識」を持って関わり、創っていけるよう、また指導できるようになるように自主的に学んでいきましょう。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日３限

場所：　A402

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の概要説明および野外スポーツにおける冒険教育の概説** 野外スポーツ・野外教育の中での冒険教育の位置づけを理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第2回	**冒険教育の基盤となる体験学習の理解** 冒険教育の基盤となる体験学習の理論的理解、野外教育としての展開、冒険教育としての展開について学ぶ。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第3回	**冒険とは？** 人類の歴史における「冒険」の意味、現在社会における冒険の意味を理解し、冒険の重要な要素であるリスクについて理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第4回	**冒険教育理論とその展開** 冒険教育の基本的な考え方、歴史、理論やその実践を学ぶ。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第5回	**冒険教育プログラム実践例①** キャンプ教育、野外教育、学校教育、企業研修等多様な対象者に取り入れられている冒険教育プログラム実践例より、その展開方法や効果について理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第6回	**冒険教育プログラム実践例②** 冒険教育プログラムの中でも特に、wildernessと言われる手つかずの自然を活用したWilderness Educationについてその歴史や展開、効果について実践例から学ぶ。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第7回	**アウトドアセラピューティックプログラム（OTP）導入** 冒険の要素を特別な対象者へ活用するアウトドアセラピューティックプログラムについてその基礎概念を理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第8回	**OTP：体の不自由な人を対象としたアウトドアプログラムの展開** アウトドアスポーツ for ALL!アウトドア（自然環境）は、人類の共通財産であり、すべての人がその価値を共有できるべきものとして、体の不自由な人がアウトドアでの冒険を楽しむための展開方法について事例を通して学ぶ。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第9回	**OTP：悩みや困難を抱える人々を対象とした冒険教育** 自然環境や冒険教育の特性を不登校生徒や心に悩みを抱える人々へ展開する実践例から、冒険教育の多様な活用とその効果について理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第10回	**アウトドアセラピューティックプログラム（OTP）まとめ** 困難を抱える人々が自然環境を活用し、それぞれの冒険から成長するために、どのように冒険教育を展開するのか理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第11回	**冒険教育プログラムの効果** 冒険教育プログラムの効果について、その種類と内容を理解する。冒険、あるいは教育のどのような要素と効果が関係あるのか、なぜそのような効果が生まれるのか、研究にて証明されたエビデンスと照らし合わせて理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第12回	**冒険教育におけるリスクマネジメント** 冒険教育において重要な要素であるリスクについて、その種類や内容を理解し、安全管理のためのリスクマネジメントや、教育的な展開のためのリスクへの対処など多様なリスクマネジメントについて理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第13回	**冒険教育指導者資質** 冒険教育を効果的に指導するためにはどのような指導者の知識・能力=資質が必要であるか理解する。またどのようにその資質を身に付け、伸ばしていくか考える。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第14回	**冒険教育プログラムデザイン** 本授業のまとめとして、冒険教育プログラムデザインを自らができるようになる。冒険教育を通して社会にどのように貢献できるか考える。社会に対してポジティブな働きかけとなる目的設定を行い、対象者を設定し、目的を達成するための具体的な冒険教育プログラムをデザインする。	最終課題に取り組む	4時間

SP-3511-3-2

授業科目名	アウトドアスポーツ実践論（夏季）				
担当教員名	黒澤　毅				
学年・コース等	3	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、夏季における野外スポーツについて、縦走登山と長距離ハイク、シーカヤックを取り上げて実際に実践するために必要な知識や技術についての理解を深める目的で行います。多様な自然環境の中で、目的・目標を達成するためには、より高いレベルでの自然に対する理解と配慮、アウトドアアクティビティの理解とスキル獲得が必要になると同時に、安全に配慮した行動などに対する思考・判断力・行動力といったあらゆる資質・能力が求められます。本授業では夏季に実際に取り組む実習に対する実践のために必要な授業内容で構成します。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	山岳環境、海洋環境を用いた中での縦走登山、長距離ハイク、シーカヤック活動	自然環境の中での野外スポーツ活動を通じて、登山、長距離ハイク、シーカヤックへの幅広い知識と技術を獲得するとともに、対人関係を学ぶことができる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	縦走登山におけるソロ活動（ビバーク）をはじめ、自らと向き合い、他人と協働するプログラム	自らを見つめ直したり、他人と協働して過酷なプログラムを達成する中で、新しい自分の価値や他人の価値に気づくことができる。
3 ．DP11.忠恕の心	山岳環境、海洋環境を用いた中での縦走登山、長距離ハイク、シーカヤック活動	過酷なプログラムを通して、他人を思いやりながら行動することの大切さに気づくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の小レポート課題	30%	： 授業後に実施する小レポート課題の理解度を評価します。
実践課題	40%	： 実践課題をふりかえり、取り組みや理解を評価します。
理論課題	30%	： レポートや試験から、理論的な理解について評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。必要になる際には随時指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は、同時開講している「アウトドアスポーツ専門実習（夏）」を履修することを前提に受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション・組織キャンプの目的と意義** 本授業の概要及び夏季キャンプの目的と意義を理解する中で、夏季野外スポーツを実施・指導する際に必要となる様々な自然環境や人に対する理解を深める。	組織キャンプの目的について理解を深める。	4時間
第２回	**組織キャンプの実践と概要** 組織キャンプとしての具体的な位置付けを理解するとともに、ある一定の教育目的・目標を持って実施される組織キャンプの具体的実施体制について理解する。	具体的な実施体制の中での自らの位置付けを確認する。	4時間
第３回	**環境に配慮した野外での行動** 夏季野外スポーツを実施する際の山や海をはじめとしたフィールドについての理解を深めるとともに、その中での環境への配慮について理解する。	具体的なフィールドについて必要な環境への配慮を調べる。	4時間
第４回	**組織キャンプにおけるグループ** 組織キャンプを行う上で主体は学習者本人であることを理解し、一人一人の責任ある言動を促すために、キャンプ実施の際のグループ分けについて理解を深める。	グループ決定についての振り返りを行う。	4時間
第５回	**山遠征における行動計画とリスクマネジメント** １泊2日の縦走登山遠征における実際の行動についての計画・実施・評価に対する理解を深めると同時に、特徴的な自然環境としての山について、リスクの理解とともにリスクマネジメントを理解を深める。	山の行動計画の中のリスクとマネジメントについて調べる。	4時間
第６回	**海遠征における行動計画とリスクマネジメント** １泊2日のシーカヤック遠征における実際の行動についての計画・実施・評価に対する理解を深めると同時に、特徴的な自然環境としての海について、リスクの理解とともにリスクマネジメントを理解する。	海の行動計画の中のリスクとマネジメントについて調べる。	4時間
第７回	**地図とコンパス（山遠征）** リスクマネジメントの理解の中で重要な要素である地図とコンパスについて、山岳環境における事故や遭難の実態を知るとともに、地形図及びコンパスワークについても理解を深める。	地図とコンパスについて具体的な例題を行う。	4時間
第８回	**地図とコンパス（海遠征）** リスクマネジメントの理解の中で重要な要素である地図とコンパスについて、海洋環境における事故や遭難の実態を知るとともに、地形図及びコンパスワークについても理解を深める。	地図とコンパスについて具体的な例題を行う。	4時間
第９回	**キャンプにおける食料と装備** 非日常の自然環境の中で実施される組織キャンプにおいて安全に健康に計画を遂行するために必要となる食料と装備について、実際の遠征計画に沿った計画を立てる。	食料計画とプログラムとの整合性を確かめる。	4時間
第１０回	**サバイバルテクニック（野営方法）** 山遠征時に必要となるスキルとして、サバイバルテクニックに対する理解を深めるとともに、そのスキルを獲得する。主に、宿泊方法、調理のための火付け方法について、環境への配慮を伴いながら理解を深める。	サバイバルテクニックについて実施に復習する。	4時間
第１１１回	**シーカヤックの組み立てと実際** 海遠征時に用いられる装備であるシーカヤックについて、安全を第一として組み立てるスキルを獲得する。	カヤックの組み立てについて動画で確認する。	4時間
第１２回	**シーカヤックにおけるレスキュー方法** シーカヤックにおけるレスキュー方法の理解を深める。	レスキュー方法について動画で確認する。	4時間
第１３回	**野外における遠征のマネジメント体制** 組織キャンプとして山遠征及び海遠征をする際のマネジメント体制について、実際の行程に当てはめた体制について理解するとともに、実際に事前準備を行う。	マネジメント体制を理解した上で位置付けを確認する。	4時間
第１４回	**個人目標とグループ目標の設定** 夏季野外スポーツを実施する際の参加者の動機は組織キャンプが安全に充実したものになるかどうかに大きく作用することを理解し、個人目標及びグループ目標を実際に立てて計画を実施することの重要性を理解する。	個人目標とグループ目標についてまとめる。	4時間

SP-3512-3-2

授業科目名	アウトドアスポーツ実践論（冬季）				
担当教員名	黒澤　毅				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、冬季における野外スポーツについて、雪中泊をはじめ、スノーシューハイク、クロスカントリースキー、バックカントリースキーを取り上げて実際に実践するために必要な知識や技術についての理解を深める目的で行います。多様な自然環境の中で、目的・目標を達成するためには、より高いレベルでの自然に対する理解と配慮、アウトドアアクティビティの理解とスキル獲得が必要になると同時に、安全に配慮した行動などに対する思考・判断力・行動力といったあらゆる資質・能力が求められます。本授業では冬季に実際に取り組む実習に対する実践のために必要な授業内容で構成します。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	雪山環境を用いた中での雪中泊、スノーシュー、クロスカントリースキー、バックカントリースキープログラム	自然環境の中での野外スポーツ活動を通じて、雪中泊、スノーシュー、クロスカントリースキー、バックカントリースキーへの幅広い知識と技術を獲得するとともに、対人関係を学ぶことができる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	雪中泊におけるソロ活動（ビバーク）をはじめ、自らと向き合い、他人と協働するプログラム	自らを見つめ直したり、他人と協働して過酷なプログラムを達成する中で、新しい自分の価値や他人の価値に気づくことができる。
3 ．DP11.忠恕の心	雪山環境を用いた中での雪中泊、スノーシュー、クロスカントリースキー、バックカントリースキープログラム	過酷なプログラムを通して、他人を思いやりながら行動することの大切さに気づくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の小レポート課題	30%	： 授業後に実施する小レポート課題の理解度を評価します。
実践課題	40%	： 実践課題をふりかえり、取り組みや理解を評価します。
理論課題	30%	： レポートや試験から、理論的な理解について評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。必要になる際には随時指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は、同時開講している「アウトドアスポーツ専門実習（冬）」を履修することを前提に受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション・キャンプの目的と意義** 本授業の概要及び冬季キャンプの目的と意義を理解する中で、冬季野外スポーツを実施・指導する際に必要となる様々な自然環境や人に対する理解を深める。	組織キャンプの目的について理解を深める。	4時間
第２回	**冬季野外環境について** 冬季に実施する組織キャンプは雪をはじめとした多様な自然環境・状況の中で展開されることを理解する。	冬季野外環境についてのリスクを調べてまとめる。	4時間
第３回	**環境に配慮した野外での行動** 冬季野外スポーツを実施する際の雪山をはじめとしたフィールドについての理解を深めるとともに、その中での環境への配慮について理解する。	具体的なフィールドについて必要な環境への配慮を調べる。	4時間
第４回	**組織キャンプの実践と概要** ６泊7日の雪山遠征の実際の行動についての計画・実施・評価に対する理解を深める。	具体的な実施体制の中での自らの位置付けを確認する	4時間
第５回	**組織キャンプにおけるグループ** 組織キャンプを行う上で主体は学習者本人であることを理解し、一人一人の責任ある言動を促すために、キャンプ実施の際のグループ分けについて理解を深める。	グループ決定についての振り返りを行う。	4時間
第６回	**雪上におけるリスクマネジメント（雪）** 雪山をはじめとした特徴的な自然環境の中で起こりうるリスクとそれに対するリスクマネジメントについて理解する。	雪上の行動計画の中のリスクとマネジメントについて調べる。	4時間
第７回	**雪上活動の実際（宿泊方法について）** 特徴的な雪山という自然環境の中で、より快適に過ごす方法として「イグルー」、「雪洞」という2つの野営形態とその作り方について理解する。	宿泊方法について具体的手順を調べる。	4時間
第８回	**スノーシュー** 特徴的な雪山という自然環境の中でのアクティビティ（移動手段）としてのスノーシューについて理解する。	スノーシューの動画でスノーシュー活動についてさらに理解を深める。	4時間
第９回	**クロスカントリースキー** 特徴的な雪山という自然環境の中でのアクティビティ（移動手段）としてのクロスカントリースキーについて理解する。	クロスカントリースキーの動画でスノーシュー活動についてさらに理解を深める。	4時間
第１０回	**キャンプにおける食料と装備** 冬季における雪山遠征時に必要となる安全に健康に計画を遂行するために必要となる食料と装備について、実際の遠征計画に沿った計画を立てる。	食料計画とプログラムとの整合性を確かめる。	4時間
第１１回	**雪山で用いる装備の確認** 雪山では安全かつ快適に過ごすために多くの装備を必要とするが、その装備の使い方の理解を深める。	実際の装備の使い方について反復をしながら理解を深める。	4時間
第１２回	**バックカントリースキー** 非日常の世界である、普段は人が立ち入らない場所としてのバックカントリーでのアルペンスキー活動についての理解を深めるとともに、安全かつ快適な活動のための装備の確認を行う。	バックカントリースキーの動画を見ながらリスクと活動の理解を深める。	4時間
第１３回	**野外における遠征のマネジメント体制** 組織キャンプとして雪山遠征をする際のマネジメント体制について、実際の行程に当てはめた体制について理解するとともに、実際に事前準備を行う。	マネジメント体制を理解した上で位置付けを確認する。	4時間
第１４回	**個人目標とグループ目標の設定** 冬季野外スポーツを実施する際の参加者の動機は組織キャンプが安全に充実したものになるかどうかに大きく作用することを理解し、個人目標及びグループ目標を実際に立てて計画を実施することの重要性を理解する。	個人目標とグループ目標についてまとめる。	4時間

SP-3513-3-2

授業科目名	環境教育プログラム				
担当教員名	中野　友博				
学年・コース等	3・4	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や社会教育の場面で取り入れられている環境教育は野外教育の分野でも重要な位置づけとなっている。本科目では、海外の環境教育の歴史を概観し、わが国の現状について理解を進める。また、パッケージプログラムとして行われているネイチャーゲーム、ＰＬＴ、Project WILD、IOREシートなどについて体験することで理論を深め、最終的には「環境教育アクティビティデザイン」から環境教育プログラム（アクティビティ）について、デザインし、実践し、評価できるようになる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	地球環境の現状、環境教育の意義	地球環境の現状や環境脅威kの意義について説明できる
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	人間としての環境に対する倫理観、他者との共生	LNTについて説明でき、自分の生活や活動の中で実践できる
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	アクティビティデザイン、プログラム実践と評価	デザインしたアクティビティを実践でき、評価できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
講義内における課題（個人課題） 50%	：	各講義ごとの内容について理解度確認の課題を10点満点で評価する。
実技実習レポート 50%	：	各実技実習ごとにレポートテーマを設定し、具体的な内容と理解度についてのまとめ方により10点満点で評価する　5回×10点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

レイチェルカーソン、上遠恵子訳：「センスオブワンダー」、遊学社、1991年
日本環境教育フォーラム編：日本型環境教育の知恵、小学館、2008年
Project WILD
Sharing Nature with Children
Project Learning Tree

履修上の注意・備考・メッセージ

環境教育プログラムは、まず感じて興味関心を持つところからスタートします。授業ではアクティビティの実践をとおして、様々なプログラムを体験しながら、立案・指導の際に必要となる「指導者の思い」を広げ、深めて下さい。環境教育プログラム（環境学習）では、楽しいだけでない、指導者の思いが非常に大切です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**授業ガイダンス、野外教育・野外スポーツと環境教育** 授業ガイダンス、集中で行われる授業の説明を行うとともに、野外スポーツ・野外教育と環境教育の用語の意味や現状を知る。	野外スポーツ・野外教育の概念について再確認し、理解を深める。	4時間
第2回	**環境問題と環境教育** グローバルから見た環境問題、ローカルから見た環境問題の現状を知り、その解決方法について教育の観点から理解する。ESD、SDGs、カーボンニュートラル（気候変動）、ネイチャーポジティブ（生物多様性）	地球規模の環境問題を様々な情報源を基に整理してみる	4時間
第3回	**環境教育の歴史と現状（国外、国内）、環境教育の組織** 環境教育についてその起源である地球規模の会議や憲章、並びに日本での歴史を知る。 環境教育の組織について知る。	米国、日本の環境教育組織を調べる	4時間
第4回	**野性の森の現状を知る（実技）** 学内の野外教育施設である野性の森について、実際に体験することで現状を知る。	野性の森の林床についてさらに調べてみる	4時間
第5回	**湖西地域比良地区の里山の現状と野性の森の現状について知る（講義）** 「野性の森」周辺の里山について、その現状と「野性の森」整備活動のマスタープランについての講義。 里山について、野性の森について理解を深める。	里山についてさらに調べてみる	4時間
第6回	**野性の森を体感する、安全管理、まとめ（実技）** 前回の講義（野性の森と里山）のふりかえり 各自、各グループが担当する野性の森の区域内に生育する樹木（私の樹）について具体的に調る。 樹木については。樹種、胸高直径、エリア内の位置など。	担当エリアについての情報のまとめをする	4時間
第7回	**環境教育パッケージプログラムの実際①** NG,WILDを体験する	他のパッケージプログラムを調べてみる	4時間
第8回	**環境教育パッケージプログラムの実際②** IORE,PLTを体験する	他のパッケージプログラムを調べてみる	4時間
第9回	**LNT** アメリカを中心とし、世界各国に広まっているLeave No Trace (LNT)について学習し、環境への負荷を最小限に抑える野外での活動の方法と、環境倫理について理解する。	各自の生活や活動の中でのLNTを確認してみる	4時間
第10回	**民間自然学校の現状を見る（実習） 自然学校と環境教育** 民間の自然学校の現状について現場を体験し、見学する。 滋賀県にあるJON（Japan Outdoor Network）の加盟する民間自然学校についてその現場を体験し、見学する。 BSCウォータースポーツセンター、井上達也副校長を外部講師として施設を見学する	BSCでの環境教育アクティビティをデザインしてみる	4時間
第11回	**環境教育アクティビティデザイン①** 独自の環境教育アクティビティをデザインし、それを実践、評価する。 野性の森でのアクティビティを考える。	報告書の作成	4時間
第12回	**環境教育アクティビティデザイン②** 独自の環境教育アクティビティをデザインし、それを実践、評価する。 大学周辺でのアクティビティを考える。	報告書の作成	4時間
第13回	**環境教育プログラムを扱った研究の紹介** 自然体験活動としての環境教育プログラムを独立変数とした研究について概要を知る。	興味関心のある他の研究領域も検索してみる	4時間
第14回	**まとめ** 環境教育プログラムについて、概念、考え方、指導法の際の留意点、安全や環境意識などについてまとめ、復習する。	授業内容についてまとめる。	4時間

SP-3601-3-1

授業科目名	生涯スポーツ基礎演習Ⅰ				
担当教員名	藤松・入谷・佐藤・中道・黒須				
学年・コース等	3	開講時期	＊前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域における生涯スポーツ振興に関わる諸課題の解決を目指して行う卒業研究の準備段階として、研究の科学的アプローチを理解し、専門領域を問わず必要とされる研究方法の基礎的知識および探求的態度を習得することを目的とする。また、コース専門科目で学習する「子ども・高齢者・障がい者・労働者・女性のスポーツの現状や課題、および生涯スポーツとしてのスポーツ文化の理解」で学び得た知識をもとに、自己の問題意識を明確にし、3年次後期以降の専門的学びへとつなげる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	各研究手法における基礎知識の習得	各研究手法ごとの基礎的知識の習得とそれを活用する能力を身につける
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	生涯スポーツにおける問題解決のための方法論	生涯スポーツの諸課題を抽出し分析するための手法及び基礎的な分析手法を身につける。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	生涯スポーツ振興に関する理解	生涯スポーツにおける対象別（子ども・高齢者・障害者・女性等）のスポーツの現状・課題を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	55%	： 各授業で提示されたレポート課題について適切な内容が記述されているか、授業内容の理解度について評価する。
最終テスト	45%	： 卒業研究に必要な基礎知識について、その理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に、逐次紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

「生涯スポーツとは何か？」ということに関する基礎を学ぶことになる。幅広い領域の専門教員がいるが、それぞれの専門性について理解を深めたうえで、自分自身の関心領域を発見し今後の学習へのつなげていってもらいたい。
また、授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業教室

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**ガイダンス、卒業研究にむけて-よい「問い」を持つために-** 本授業の概要と評価方法について説明する。さらに、多様な人々を対象とした運動・スポーツの促進を図るための「問い」を自ら発見し、その課題を解決するために必要な理論的アプローチ等を資料や文献から探索する。さらにその課題を明らかにするための様々な研究手法等について学習する。	生涯スポーツの枠組みの中で、各自の「問い」を明確化する。	4時間
第2回	**文献調査の基礎** 文献調査の分類、それらの基礎的な枠組み等について概説する。	自分自身のスポーツにおける関心領域の基礎となる文献を各自収集する。	4時間
第3回	**資料研究(文献調査)に関するレポート作成** 各自の課題に沿った文献を収集しレポートを作成する。	自分自身のスポーツにおける関心テーマを明確化し、文献を収集する。	4時間
第4回	**資料研究(文献調査)に関するレポートの発表** 各自の課題に沿った文献を収集しレポートを作成する。	自分自身のスポーツにおける関心テーマを明確化し、文献を収集する。	4時間
第5回	**質的研究(インタビュー調査)の基礎** 質的調査の分類、質問紙調査の基礎的な枠組み等について概説する。インタビュー調査を行う際の基本的な質問設定や、聞き取りの基本的な手法について概説する。インタビュー実施に向けて、インタビューガイド（テーマ設定、質問項目作成等）作成を行う。	自分のスポーツにおける関心領域であれば、どのような質的手法が合致するのかを検討する。	4時間
第6回	**質的研究(インタビュー調査)の分析手法** インタビュー実施後の分析手法（逐語録作成、コード化等）について概説および演習を行う。グループごとに作成したインタビューレポートの発表を行う。	各自の発表の特徴、主張点についてまとめる。	4時間
第7回	**量的研究(質問紙調査)の基礎** 量的調査の分類、質問紙調査の基礎的な枠組み等について概説する。	これまで自分自身が協力したことのあるアンケート調査等について振り返っておく。	4時間
第8回	**量的研究(質問紙調査)の設計と分析** 量的調査を行う際の質問紙の設計方法およびEXCELを用いた集計方法について概説する。	Excelの基本操作について復習しておく。	4時間
第9回	**実験計画の基礎** 実験による研究手法を用いる際に必要な基礎的知識および計画を策定する際に必要な専門的知識を身につける。	授業の説明を踏まえ、実験計画の概要をまとめる。	4時間
第10回	**実験計画の策定** 実際の実験計画を前回授業の内容を踏まえながら策定する。	各自の実験計画について、実際に遂行可能かどうか確認する。	4時間
第11回	**統計学・統計手法の基礎** スポーツにおける各種統計や打率・勝率等の記録を例に、運動・スポーツにおける統計について概説する。	自分の行なっている種目に関わる統計に着目し、疑問点を明確化しておく。	4時間
第12回	**SPSSを用いた量的研究(質問紙調査)の分析** SPSSを用いた具体的な分析方法について演習を行う。	SPSSによる基本的な記述統計およびクロス集計の方法を理解する。	4時間
第13回	**ゼミ選考ガイダンス・各ゼミ紹介** これまでの授業内容のまとめを行うと同時に、後期からの生涯スポーツ演習におけるゼミ決定方法に関わる説明を行う。各教員のゼミ活動について説明する。	これまでの講義内容を整理し、自分自身が学びたい領域を明確にする。	4時間
第14回	**ゼミ志望理由書作成** 自分が希望する領域の授業内容および、その領域でどのようなことを学びたいのかを記述する。	これまでの授業でどのような領域に関心を持ち、具体的にどのようなことを研究したいのかを明確にしておく。	4時間

SP-3603-3-1

授業科目名	生涯スポーツ専門実習Ⅰ（地域スポーツ専門実習Ⅰ）				
担当教員名	藤松・入谷・佐藤・中道・黒須				
学年・コース等	3	開講時期	＊前期	単位数	1
授業形態	講義、実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

年齢・性別・障害の有無に関わらず一生涯を通じてスポーツを楽しめる環境、すなわち「スポーツ・イン・ライフ」の実現を目指しての実現を目指して様々な施策や取り組みが講じられている。本授業では、地域において様々な施策や取り組みや生涯スポーツ振興に関わる諸課題を学習する。また地域における高齢者、労働者、障がい者の実際について、健康に関わる運動づくりの実践を通して、生涯スポーツに関わる学びを深める。本授業では後期の「生涯スポーツ専門実習Ⅱ」で行う実習前に基礎的な知識と理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	地域における健康に関わる運動指導のための基礎知識の習得	高齢者、労働者，障がい者の特徴について学び、基礎知識を説明することができる。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	地域における運動指導の実践にあたりグループワークで検討	他者と円滑にコミュニケーションをとり円滑にグループワークができる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	子ども、高齢者、労働者、障がい者の特徴にあった運動指導の実践	子ども、高齢者、労働者、障がい者の特徴にあった運動指導を考察することができる

学外連携学修

有り　（連携先：BSC,滋賀県立障害者福祉センター、高島市包括支援課）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

課題の評価については、ガイダンスで説明する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題レポート	40%	： 課題5点×8＝40点
確認テスト	30%	： 授業に関する確認テスト
レポート	30%	： 授業内レポート

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

厚生の指標　国民衛生の動向　2021/2022
厚生の指標　国民の福祉と介護の動向　2021/2022

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
・授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・授業時間外の実習や演習を行なう場合があるので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　適宜

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション** 本授業の目的・目標・評価・授業計画の説明を行う。生涯スポーツに対する現状の知識の確認を行う	本授業のシラバスを読んでおく	4時間
第２回	**スポーツインライフとは** 年齢、性別、障がいの有無に関わらず一生涯を通じてスポーツを楽しめる環境について、生涯スポーツについて学ぶ	スポーツインライフの実践例を調べる	4時間
第３回	**女性とスポーツ** スポーツする上で女性、ジェンダーにおける課題と実際を学ぶ	女性がスポーツ実施する上で課題を調べる	4時間
第４回	**労働者の健康づくり** 労働者の健康課題と労働安全対策について学ぶ	労働者の健康課題について調べる	4時間
第５回	**スポーツ史について** わが国のスポーツ史を学ぶ、スポーツの理解を深める。	日本のスポーツの実態を調べる	4時間
第6回	**障がい者の健康課題とスポーツについて** 障害者の健康課題とスポーツの支援について学ぶ	障害者数や現状を調べる	4時間
第７回	**高齢者、子ども、障がい者の健康課題の検討** グループワークを通し、高齢者、子ども、障がい者の現状の課題を調べどのようなスポーツを指導するのか検討し、発表する	日本の高齢者、子ども、障がい者の現状を調べる	4時間
第８回	**高齢者の実態や地域の健康づくり対策や介護予防** 高島市地域包括支援課により高島市の高齢者数や介護の実態、地域で展開している健康づくりや介護予防事業について講話により学ぶ	日本の介護状況を調べる	4時間
第９回	**子どもの実態とスポーツの支援** BSCの状況から子どもの基礎体力等の実態とスポーツ支援の実態について講話により学ぶ	日本の子どもの運動やスポーツの割合を調べる	4時間
第10回	**障がい者のスポーツ経験の実態と支援方法** 滋賀県身体障害者福祉協会 滋賀県立障害者福祉センターにおける障がい者のスポーツの実態や支援環境づくりについて講和により学ぶ	障がい者の日本のスポーツ実施者の割合を調べる	4時間
第11回	**労働者の健康づくりと運動指導の実態** 日本における企業の健康管理や労働衛生の状況、健康づくり（運動）についてグループワークで調べ検討する発表する。	労働者の運動支援の実態を調べる	4時間
第12回	**労働者の就業環境、労働安全、健康づくりの実際** 企業における就業環境や労働安全の取り組みについて企業の方にオリエンテーションをいただき、企業見学を行う。	第11回の内容を復習をする。	4時間
第13回	**まとめ** 第1～12回までの授業のまとめを行う	第1～12回の復習をする。	4時間
第14回	**確認テスト・レポート** 第1～12回について確認テスト・レポートを行い、後期の実習に向け知識を定着させる。	第1～12回の復習をする。	4時間

SP-3604-3-1

授業科目名	生涯スポーツ専門実習Ⅱ（地域スポーツ専門実習Ⅱ）				
担当教員名	藤松・入谷・佐藤・中道・黒須				
学年・コース等	3	開講時期	＊後期	単位数	1
授業形態	実習、講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

年齢・性別・障害の有無に関わらず一生涯を通じてスポーツを楽しめる環境、すなわち「スポーツ・イン・ライフ」の実現を目指しての実現を目指して様々な施策や取り組みが講じられている。運動・スポーツ指導やイベント運営に必要な技術を修得するために、理論的アプローチと各種フィールドワークを実施するものである。また、以上の実践力のみならず、実践の中で浮かび上がってくる課題を抽出し分析するための手法についても学んでいく。　本授業では、地域において様々な施策や取り組みや生涯スポーツ振興に関わる諸課題を学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	地域スポーツ指導とイベント運営に関する能力	地域（高齢者、労働者、障がい者）における運動・スポーツ指導やイベント運営に必要な技術を身につける。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	地域スポーツにおける問題解決のための方法論	地域（高齢者、労働者、障がい者）スポーツの諸課題を抽出し分析するための手法及び基礎的な分析手法を身につける。

学外連携学修

有り　（連携先：堅田電機株式会社、滋賀県立障害者福祉センター、高島市包括支援課）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	40%	： 各授業で提示された授業内課題の内容について評価する。
調査内容・発表	60%	： 地域における調査及び結果の内容について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に、逐次紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
・授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・授業時間外の実習や演習を行なう場合があるので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業教室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス** 本授業の授業評価方法や概要を説明する。	シラバスにより確認	1時間
第2回	**高齢者・労働者・障がい者に関する地域での実習の概要** 高齢者・労働者・障がい者とスポーツの状況や課題を検討し、実習先を決定する	高齢者・労働者・障がい者の健康課題について復習する。	1時間
第3回	**中間発表会の参加** 4回生の中間発表会に参加し卒業研究についての知見を深める	中間発表会の資料の確認	1時間
第4回	**健康づくり（運動・スポーツ）企画①個人ワークをもとにグループワーク①** 高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画を作成するための個人ワークとグループワークを行う	健康づくりに対する情報収集	1時間
第5回	**健康づくり（運動・スポーツ）企画②グループワーク②** 第4回のグループワークをさらに深め高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画の立案を行う。	第4回の内容の振り返り	1時間
第6回	**健康づくり（運動・スポーツ）企画③企画内容の検証** 高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画内容を発表し検証、修正する。	第5回の振り返り	1時間
第7回	**健康づくり（運動・スポーツ）実践①** 高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画内容を実践し、再修正を行う。	企画内容の復習	1時間
第8回	**実践①の再修正** 高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画内容について修正する。	企画内容の復習	1時間
第9回	**健康づくり（運動・スポーツ）実践②** 高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画内容をそれぞれのフィールドで実践し、対象者あるいは施設担当者の意見を聴取する。	企画内容の再確認	1時間
第10回	**実践②の振り返り** 実施評価や振り返りを行う。	企画内容の評価	1時間
第11回	**報告書作成** 高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画内容の計画・実施・評価についてまとめ報告書を作成する。	報告書準備	1時間
第12回	**報告発表会①** 高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画内容の計画・実施・評価についてまとめたものを報告会で発表し、他のフィールドでの学びを共有する。	報告会の準備	1時間
第13回	**報告発表会②** 高齢者・労働者・障がい者のいずれかの健康づくり（運動・スポーツ）に関する企画内容の計画・実施・評価についてまとめたものを報告会で発表し、他のフィールドでの学びを共有する。	報告会の準備	1時間
第14回	**授業のまとめ** 第1～13回の授業のまとめ	1～13回の授業の復習を行う	1時間

SP-3607-3-2

授業科目名	生涯スポーツの理論と実際（地域スポーツの理論と実際）				
担当教員名	黒須・中道・入谷・村瀬				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

生涯スポーツにおける専門的な学びを理論と実践の往還を通して深めることを目的とする。よって、受講生はすでにある程度の生涯スポーツに関する基本的な理論について理解していることが前提となる。（※履修の条件を参照のこと）そうした基本的な理論をベースにしながら、実際に生涯スポーツの現場に足を運び、学びを深めていく。具体的には、生涯スポーツを取り巻く環境についてフィールドワーク調査を行うとともに、生涯スポーツの現場にボランティアとして参加し、理論と実際の相違や新たな課題等を経験を通して学んでいく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	生涯スポーツに関する専門的な知識	生涯スポーツを捉える理論と諸問題・課題について理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	生涯スポーツの展望を考察する力	生涯スポーツにおける課題と展望について、理論と現場の経験、その両者を踏まえて論じることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

・実習（ボランティア活動）は、事前の準備を十分に行なった学生のみが参加できるものとする。
・実習（ボランティア活動）に参加できなかった場合は、評価対象外とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業レポート 30%	：	生涯スポーツを捉える理論と諸問題・課題について理解できているか評価する。
実習評価（事前調査・日誌・報告書） 50%	：	実習先の基本情報、対象者、実習で学ぶべき内容が示されているか（事前調査）、実習当日の学びが示されているか（日誌）、実習を踏まえて、生涯スポーツにおける問題と課題が述べられているか(報告書）評価する。
期末レポート 20%	：	生涯スポーツにおける課題と展望について、授業の内容、実習の内容を踏まえて論じることができているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時各教員が紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・生涯スポーツコース専門科目「生涯スポーツ基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得済であることが、当授業を履修する条件になる。
・授業概要でも述べたように、本科目は「実際に生涯スポーツの現場に足を運び、学びを深めていく」ため、学外で取り組むボランティア活動を欠席した場合は単位認定の対象外となる。なお、ボランティア活動に参加するためには、学内で行う事前の準備を十分に行なった学生のみが参加でき、平常の取り組みが重要となる。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：生涯スポーツの理論と実際概説** 受講上の注意、授業の概要とスケジュール、評価方法を確認する。	配布資料を熟読し、内容を再確認する。	4時間
第2回	**実習に向けた準備（資料調査）** 生涯スポーツイベントの実施例について調査し、グループで調査結果を確認し、メンバー相互で内容を共有する。	授業で行なった各自の調査結果のまとめについて復習する。	4時間
第3回	**実施に向けた準備（インタビュー調査）** スポーツイベント実施に向けて、地域の方のニーズをインタビューにより調査する。またその結果をグループでまとめる。さらにスポーツイベントの実施場所、日時について確認をする。	2回にわたる調査の結果を発表できるようにまとめる	4時間
第4回	**実習の準備状況発表** 事前に行なった調査（資料・インタビュー）の結果から、求められるイベントとは何かをグループで議論しまとめる。またその結果を発表する。	他グループの発表について評価をグループ内で確認する。	4時間
第5回	**スポーツイベントの実施** 前回の授業において決定した内容に沿って、生涯スポーツイベントを実施する。	スポーツイベントに必要な物品の確認、各自の役割把握をしておく	4時間
第6回	**実習後発表の準備** 実施したスポーツイベントの成果をグループ内でまとめる。また、発表できるように準備を行なう。	各グループで発表練習を行なう。	4時間
第7回	**実習後の発表** 前回の授業でまとめた内容を発表する。	他グループの発表についてグループ内で評価を確認する。	4時間
第8回	**実習に向けた準備（資料調査）** 生涯スポーツに関わるボランティア活動の実施状況、ボランティアに求められる資質、実際のサポート内容などを各自で調査（主に資料調査）する。	資料調査で得られた情報をワークシートにまとめる。	4時間
第9回	**実施に向けた準備（外部講師）** ボランティア先の一つである「障害者スポーツ指導の現場」について、施設の特徴、利用者の特徴、利用者の体力や心身の状態に応じたスポーツ指導の留意点などについて理解する。	第8回、第9回の内容を各自で整理する。	4時間
第10回	**実習の準備状況発表** 求められるスポーツボランティアの資質や必要とされる学びを、グループ整理・議論しながらまとめ、その結果を発表する。	他グループの発表について評価をグループ内で確認する。	4時間
第11回	**スポーツボランティアの実施** 前回の授業において発表した内容に沿って、生涯スポーツのボランティアに参加する。	ボランティアとして参加するにあたり当日の段取りやサポート内容、注意事項などを確認しておく。	4時間
第12回	**実習後発表の準備** 実際に関わったスポーツボランティアでの経験や学び、課題をグループ内でまとめる。また、発表できるように準備を行う。	各グループで発表練習を行う。	4時間
第13回	**実習後の発表** 前回の授業でまとめた内容を発表する。	他グループの発表についてグループ内で評価を確認する。	4時間
第14回	**授業の総括** 生涯スポーツの理論と実際における展望をレポートとしてまとめる。	レポートを完成させる。	4時間

SP-3608-3-2

授業科目名	地域社会とスポーツ（地域社会とスポーツ）				
担当教員名	佐藤　馨				
学年・コース等	3	開講時期	＊前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域社会においてスポーツの果たす役割は、個人のスポーツへの積極的な取り組みを基本とし、それを支えるために①人々のニーズに適切に応える、②1人1人がスポーツ活動を継続的に実践できる、③競技力向上に繋がることであり、以上のようなスポーツ環境を整備することにある。本講義では、学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの企画・運営および管理」にあるスポーツの振興・発展に寄与するスポーツプログラム等の提供とは何か、総合型地域スポーツクラブの事例を用いて学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	地域におけるスポーツの意義と役割	地域社会におけるスポーツの役割と意義を理解できる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	地域における総合型地域スポーツクラブの意義と役割	スポーツを提供する場としての総合型地域スポーツクラブの役割と意義を理解できる。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツ振興のためのスポーツプログラム	人々のスポーツにおける多様な機会の提供として、スポーツ振興・発展に寄与するスポーツプログラムとは何かを理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　優秀な提出課題については、提出後の授業で概要をコメントします。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中に課す内容に関連する小レポート 5%	：	地域社会とスポーツに関連したレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する。
授業中盤に実施する確認テスト 30%	：	講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているか30点満点で評価する
本試験 65%	：	講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのか65点満点で評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『地域福祉論』市川一宏・牧里毎治編著　ミネルヴァ書房　2007
『地域プロデューサーの時代』松野将宏著　東北大学出版会　2005
『地域を変えた　総合型地域スポーツクラブ』山口泰雄著　大修館書店　2006
『総合型地域スポーツクラブの時代1』黒須充編著　創文企画　2007
『総合型地域スポーツクラブの時代3』黒須充編著　創文企画　2009

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修上の注意】
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
本講義は「スポーツ社会学」「レジャー・レクリエーション論」の2科目を単位取得済みであること。

【メッセージ】
「総合型地域スポーツクラブ」を皆さんは知っていますか。本講義では、総合型地域スポーツクラブの意義や役割を学ぶだけでなく、総合型地域スポーツクラブが設置されている「コミュニティ(地域)」についても地域論を引用しながら学習していきます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　講義前後
場所：　講義室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域社会とスポーツ　地域におけるスポーツニーズを知る** 地域社会とスポーツで学習する全講義内容の概略と受講上の留意点について説明する。	地域社会とスポーツで学習する講義の概要および受講上の留意点について書かれた資料を精読する	4時間
第2回	**コミュニティとは何か** コミュニティの概念と定義について講義する。	「コミュニティ」、この言葉の意味を調べ、現在コミュニティで問題視されている課題について調べる	4時間
第3回	**コミュニティの変容と21世紀のコミュニティ　コミュニティの崩壊と再生** 日本社会において20世紀に存在したコミュニティが崩壊し、新しいコミュニティの創造が必要とされていることを講義する。	コミュニティの歴史的変遷について学習したことを踏まえ、現代のコミュニティとの相違点、相似点について考え、まとめる	4時間
第4回	**コミュニティの変容と21世紀のコミュニティ　新しいコミュニティの形成** 新しいコミュニティの形成として、自治体に依存しない住民主導型コミュニティについて講義する。	新しいコミュニティには「情報化」「グローバル化」は欠かせないが、それでは具体的にどのように実践するのか、その方法を考える	4時間
第5回	**コミュニティ文化** コミュニティ形成には、コミュニティ文化の意義を理解することは重要と言える。その重要性について具体的な事例を用いて講義する。	日本におけるコミュニティ文化を学習した上で、現代のコミュニティ文化をどのように創造するのか、その具体案についてまとめる	4時間
第6回	**前半までの授業のまとめと講義内容の確認** 前半の講義までの講義において内容を正確に理解しているか確認する。	前半までの講義において重要と指摘された箇所は特に正確に理解し、まとめる	4時間
第7回	**日本のスポーツシステムと総合型地域スポーツクラブ　その意義と必要性** 総合型地域スポーツクラブの意義と必要性について、既存のクラブ運営を事例に講義を行なう。さらに学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの企画・運営および管理」に明記されるスポーツ振興および発展に寄与するスポーツプログラムとは何か、総合型地域スポーツクラブの事例を用いて学習する。	総合型地域スポーツクラブが現在の日本社会になぜ必要なのか、講義内容も踏まえて自分の意見をまとめる	4時間
第8回	**日本のスポーツシステムと総合型地域スポーツクラブ　総合型地域スポーツクラブのあり方** 民間スポーツクラブ、学校体育、スポーツ団体といった既存のスポーツクラブと総合型地域スポーツクラブとの位置づけや違いについて解説する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの企画・運営および管理」にあるスポーツプログラムの効果的な運営に必要な組織のあり方についても学習する。	総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、学校体育、各種スポーツ団体、それぞれの特性と違いを理解するため、配付資料を精読し、まとめる	4時間
第9回	**日本のスポーツシステムと地域総合型スポーツクラブ　自治体におけるスポーツ振興のあり方** 総合型地域スポーツクラブにとって地域住民のスポーツを促進しようとする自治体との関係は非常に重要である。その自治体の考えるスポーツ振興と総合型地域スポーツクラブのスポーツ振興のあり方の変遷について講義する。	これまでの自治体のスポーツ振興について学習したことを参考に、これからの自治体のスポーツ振興のあり方について考え、それをまとめる	4時間
第10回	**総合型地域スポーツクラブの考え方** 総合型地域スポーツクラブの現代における意義について講義する。	現在の総合型地域スポーツクラブの役割について理解するため、配付資料を熟読し、概要をまとめる	4時間
第11回	**総合型地域スポーツクラブの考え方　多様な機能と範囲** 総合型地域スポーツクラブの多様な機能と範囲について講義する。	現代における総合型地域スポーツクラブの役割について学習したことを踏まえ、自分の住む地域の総合型地域スポーツクラブのあり方について調べ、まとめる	4時間
第12回	**総合型地域スポーツクラブの現状と問題　メリット・デメリット** 総合型地域スポーツクラブ運営におけるメリット・デメリットの解説を事例を用いて行なう。	総合型地域スポーツクラブのメリット・デメリットを理解するため、配付資料をまとめる	4時間
第13回	**総合型地域スポーツクラブの現状と問題　多様なクラブ体系** 外部講師による総合型地域スポーツクラブの多様な運営実態や課題について講義する。	日本におけるスポーツクラブの分類を学習し、在住する地域の総合型地域スポーツクラブがどこに分類されるのか考え、意見をまとめる	4時間
第14回	**総合型地域スポーツクラブのマネジメントと企業経営の共通点**	自分が総合型地域スポーツクラブを経営する立場についた場合、どのような総合型地域スポーツクラブを希望するのか記述する	4時間

総合型地域スポーツクラブをマネジメントするということは、一企業を経営することと同義である。したがって企業経営の視点から見たクラブマネジメントについて解説する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの企画・運営および管理」に明記されるスポーツプログラムやスポーツイベントの企画において、企画の趣旨、参加者の状況、参加者数、施設状況等の把握といったマネジメント能力が必要であることも併せて学習する。		

SP-3609-3-2

授業科目名	スポーツ文化論（体育・スポーツ史）				
担当教員名	黒須　朱莉				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ文化は、各時代の社会的な影響を受けながらその時代に生きる人々によって育まれ、変化し、継承されてきたものである。この文化としてのスポーツを理解するためには、スポーツが各時代にどのような形で歴史を築きながら展開してきたのかを学ぶ必要がある。本講義は、現代スポーツの問題との連続性に自覚的になりながら、スポーツの歴史的な展開過程を理解し、今後のスポーツ文化の在り方を考えていくための教養を身に付けることを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツ史に関する知識	各時代のスポーツの特徴を歴史的な観点から説明できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツ史の視点から現代スポーツを考察する力	現代のスポーツの問題を、歴史的な視点から考察し、自身の意見として論理的に述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

双方向のやり取りができるよう、授業内の課題の内容を前半と後半のまとめの際にフィードバックし、受講生の質問や意見に対してコメントする。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
確認テスト 65%	：	調査、小テスト、授業内容の要約等の課題を通して、スポーツ史の背景となる社会の特徴とスポーツに関する知識を正確に理解できているか評価する。
授業の感想（問いかけへの回答・意見表明含む） 35%	：	各時代のスポーツの特徴を歴史的な観点から説明できているか、スポーツ史の視点から現代スポーツを考察できているか、以上の2点を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業資料のなかで参考文献を紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
スポーツの文化（と表裏一体の歴史）は、その時代（社会）の特徴と密接に関係しています。よって、授業外学修として高校までの世界史・日本史の内容を十分に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： メールでも受け付けます（kurosu@bss.ac.jp）。
メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」「所属コース」「学籍番号」を明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・スポーツ史を学ぶ意義** 授業全体の概要と、スポーツを歴史的に学ぶ意義をスポーツ文化という視点から理解する。	予習シートを用いて古代（ヨーロッパ）の歴史を復習する。	4時間

第2回	**古代のスポーツ** 古代ギリシャとローマにおける競技とその特徴について理解する。	授業内容の復習、予習シートを用いて中世（ヨーロッパ）の歴史を復習しておく。	4時間
第3回	**中世のスポーツ** ヨーロッパ中世におけるスポーツとその特徴について理解する。	授業内容の復習及び「フットボール」と「サッカー」の呼び方の違いについて調べておく。	4時間
第4回	**民族スポーツと近代スポーツ** 現代に継承されている民族フットボールの特徴を理解し、近代スポーツとの比較を行うための準備を行う。	予習シートを用いて近代ヨーロッパとイギリスの関係について復習しておく。	4時間
第5回	**近代スポーツの誕生と特徴①（時代背景）** 近代スポーツの誕生とその特徴について理解する。	競技スポーツが形成された時代背景とその特徴を復習する。	4時間
第6回	**近代スポーツの誕生と特徴②（誕生と伝播）** 映画「コッホ先生と僕らの革命」を教材とし、近代スポーツの特徴を復習と次回講義の予習を行う。	経験してきたスポーツを3つ取り上げ、その競技の発祥の国を調べておく。	4時間
第7回	**近代スポーツの伝播** 近代スポーツの伝播を、競技の「母国」を通して理解する。	授業で取りあげなかったスポーツの「母国」について調べる。	4時間
第8回	**前半の授業のまとめと確認** 前半までの講義内容を正確に理解しているか確認する。	前半までの講義内容を復習し、各時代のスポーツの特徴について理解しておく。予習シートを用いて近代日本の歴史について復習してくる。	4時間
第9回	**アメリカにおける人種とスポーツ** アメリカにおけるスポーツと人種の問題を取り上げ、アメリカスポーツ界における黒人のスポーツ選手の「参加」拡大の歴史的変遷と「参画」の問題点を理解する。	スポーツ界における人種差別に対する取り組みを調べる。	4時間
第10回	**日本における近代スポーツの受容と変容** 日本に近代スポーツが受容された背景と受容の特徴を理解する。	授業で取りあげなかったスポーツの日本への伝播の時期とその契機について調べる。	4時間
第11回	**近代オリンピックの誕生と理念** 近代オリンピックの誕生とその理念であるオリンピズムを、その創始者の思想的展開過程を踏まえながら理解する。	日本オリンピック委員会のHPを利用し、授業内容を復習する。	4時間
第12回	**近代オリンピック史からみる女性とスポーツ** オリンピック史における女性の参加とその背景や問題点について理解する。	同一種目における男女でのルールの違いや、競技人口を調べる。	4時間
第13回	**日本スポーツ史からみる女性とスポーツ（外部講師）** 人見絹枝に焦点を当て、「女性とスポーツ」の歴史を捉えるための視点について理解する。	授業で学んだ視点を踏まえて、身近なスポーツにおける性差に関わる相違点を考察すること。	4時間
第14回	**全講義のまとめ** 講義内容の総復習を行い、全体の内容の要点を理解する。	授業全体の内容を復習し、期末レポートの作成に取り組む。	4時間

SP-3610-3-2

授業科目名	こどもの遊びと運動（こどものあそびと運動）				
担当教員名	秋武　寛				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

身体を巧みに操る動作は、幼児、児童期の運動体験に影響され家庭環境など個人差がみられる。運動習慣は、一生涯の健康維持や性格形成にも影響を及ぼし、生活習慣病にも繋がることが考えられる。子どもの身体活動や運動あそびの重要性を理解し、移動系、操作系、平衡系運動などを組み合わせたサーキット遊びを立案し、実践できることを目指す。子どもの様々な運動あそびを学習し、身体を使って表現する力を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	子どもの発育発達に関する知識	発育発達に関する基礎的な知識を習得できる。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	それぞれの年代の発達段階に合わせた運動あそびが展開できるような実践力	発達段階に合わせた運動あそびを理解し、実践できるようになる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	身体表現、造形表現、児童文化財を活用した運動あそびとともに、他者との共生を考えることができる能力	児童文化財を活用した運動あそびを理解し、他者とのかかわりの中で、お互いを認め合い、協力することができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

「身体発育発達論」の単位取得済みの学生を履修の条件とする。
講義および実技を行うことから、最大40名とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の取り組み状況 80%	：	授業内の取り組み状況を評価する（安全への配慮、身体活動量、技術）。
期末レポート 20%	：	こどものあそびと運動について、レポート内容を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
実技は、運動できる服装、シューズ（室内用、屋外用）を持参のこと。
忘れた場合は、授業の参加を認めない。更衣は、更衣室のみで行うこと。
外部講師による授業は、日時を変更する可能性がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発育発達について** オリエンテーション（講義目的と評価および授業の進め方について）	発育発達について学修する。	4時間
第2回	**様々な運動動作の発達** 様々な運動動作の発達について学修する。	様々な運動動作の発達について復習する。	4時間
第3回	**加齢にともなう運動動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）** 加齢にともなう動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について学修する。	加齢にともなう動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について復習する。	4時間
第4回	**運動あそびの創造** 様々な集団あそびを理解し、実践する。	様々な集団あそびについて復習する。	4時間
第5回	**ボールあそび（ベースボール型ゲーム）** ベースボール型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。	ベースボール型ゲームの運動あそびについて復習する。	4時間
第6回	**ボールあそびの発展（ベースボール型ゲーム）** ベースボール型ゲームの運動あそびを発展させて、実践する。	ベースボール型ゲームの運動あそびの発展について復習する。	4時間
第7回	**ボールあそび（ネット型ゲーム）** ネット型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。	ネット型ゲームの運動あそびについて復習する。	4時間
第8回	**身体表現** 身体を使って様々な動作を実践する。	身体を使って様々な動作の発達を復習する。	4時間
第9回	**子どもと造形表現（外部講師）** 外部講師による児童文化財を活用したこどものあそびと運動を理解し、実践する。	児童文化財を活用した子どものあそびと運動について復習する。	4時間
第10回	**ボールあそびの発展（ネット型ゲーム）** ネット型ゲームの運動あそびを発展させて、実践する。	ネット型ゲームの運動あそびの発展について復習する。	4時間
第11回	**ボールあそび（ゴール型ゲーム）** ゴール型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。	ゴール型ゲームの運動あそびについて復習する。	4時間
第12回	**運動あそび（ボールあそび、伝承あそび）** ボール遊びや伝承あそびについて理解し、実践する。	ボール遊びや伝承あそびについて復習する。	4時間
第13回	**ボールあそびの発展（ゴール型ゲーム）** ゴール型ゲームの運動あそびを発展させて、実践する。	ゴール型ゲームの運動あそびの発展について復習する。	4時間
第14回	**サーキット運動あそびおよびまとめ** 移動系、操作系、平衡系動作を取り入れた、サーキット運動あそびを実践する。半期間のまとめを行う。	これまで学修した様々な運動動作を取り入れたプログラムを復習する。レポートを作成する。	4時間

SP-3611-3-2

授業科目名	健康と生涯スポーツ				
担当教員名	秋武　寛				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義、実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ヒトの身体活動は、幼児期から高齢者までのライフステージにおける健康と生涯スポーツに関することやその特徴を学修する。特に幼児期から青年期までの時期においては、身体活動が重要になる。各ライフステージにおける身体活動の役割は、健康、健康寿命の延伸、運動能力の向上、各諸器官の機能的向上などと影響があると考えられる。これらのことから、子どもから高齢者までの、各年齢別の望ましい身体活動を学修し、生涯スポーツの実践を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	健康と生涯スポーツに関する知識	心身ともに健やかな成長を促すために、健康と生涯スポーツに関する知識を習得することができる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	健康と生涯スポーツに関する生理学的な知識	加齢にともなう健康と生涯スポーツについて生理学的観点から説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	40%	： 期末試験（持ち込みなし）
実技	40%	： 授業時間内の取り組み、身体活動で評価する（5点×4）
授業時間内課題レポート	10%	： 授業の内容について、理解度を確認する（10点×1）
授業時間外課題レポート	10%	： 授業時間外において健康と生涯スポーツに関するレポート課題の内容を評価する（10点×1）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、健康の概論** 講義目的と評価および授業の進め方について学修する。	健康の概念について復習する。	4時間

第2回	**日常生活における身体活動** 身体活動の定義などを学修する。	身体活動の定義などを復習する。	4時間
第3回	**諸外国の身体活動ガイドライン** 諸外国の身体活動ガイドラインについて、幼児、子どもと青少年（5～17歳）、成人（18～64歳）、高齢者（65歳以上）、妊娠中および産後の女性、慢性疾患を有する成人および高齢者(18歳以上)、障がいのある子どもと青少年（5?17 歳)、障害のある成人(18歳以上)に分類して、学習する。	諸外国の身体活動ガイドラインについて復習する。	4時間
第4回	**健康と生涯スポーツの実践①** 生涯スポーツの実践を行う。	様々な生涯スポーツの歴史について復習する。	4時間
第5回	**日本の身体活動ガイドライン** 幼児期運動指針、厚生労働省の身体活動ガイドラインを学修する。	幼児期運動指針、厚生労働省の身体活動ガイドラインについて復習する。	4時間
第6回	**身体活動量のメッツ（METs）** 座位行動、低強度身体活動、中高度身体活動、高強度身体活動について学習する。	身体活動のメッツ（METs）を理解して、計算できるように復習する。	4時間
第7回	**健康と生涯スポーツの実践②** 生涯スポーツの実践を行う。	様々な生涯スポーツのルールについて復習する。	4時間
第8回	**健康日本２１** 健康日本２１、健康日本２１（第２次）の身体活動について学修する。	健康日本２１の背景と現状を復習する。	4時間
第9回	**健康づくりのための身体活動基準2013** 様々な生活活動や運動別のメッツ(METs)を学修する。	様々な生活活動や運動別のメッツ(METs)に基づき、メッツ、時間を用いた算出方法を復習する。	4時間
第10回	**健康と生涯スポーツの実践③** 生涯スポーツの実践を行う。	様々な生涯スポーツについて復習する。	4時間
第11回	**身体活動エクササイズ** 様々な生活活動や運動別のメッツ(METs)を基に、自身の一週間の身体活動（EX)を算出する。	一週間の身体活動（EX)を算出できるように復習する。	4時間
第12回	**健康に関する諸問題** 現代の健康に関する諸問題について、話題提供を行い、これまで学修した健康について考察する。	健康問題に関する知識を復習する。	4時間
第13回	**健康と生涯スポーツの実践④** 生涯スポーツの実践を行う。	実践の振り返りを行い、様々な生涯スポーツについて復習する。	4時間
第14回	**まとめ** 振り返りを行い、半期間の学修内容を確認する。	半期間の授業の内容を復習する。	4時間

SP-3612-3-2

授業科目名	**生涯スポーツ指導法**				
担当教員名	藤松　典子				
学年・コース等	3	開講時期	＊後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

生涯にわたって健康で暮らすために、運動・スポーツは欠かせないものである。人生100年時代が到来した今日、特に中高齢者の健康づくりのための運動を陸上、水中において有酸素運動、筋のコンディショニングのグループ指導が、安全に楽しく、効果的にできる。
水中では、水の特性（浮力、水圧、水抵抗、熱伝導）を理解し、その環境に応じて受講者に効果的で効率的な指導ができる。さらに、健康運動実践指導者資格（健康体力づくり事業財団）取得を視野に入れる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	水の特性（浮力、水圧、水抵抗、熱伝導）を理解する	陸上と水中運動の違いを理解し、効果的に指導ができる能力を養う
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	プレゼンテーション実技、理論と実践	分かりやすく明確な動作と言葉で伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30%	： 陸上運動と水中運動それぞれ小テストを実施
中間発表	30%	： 陸上運動、水中運動のそれぞれ筋コンディショニングとストレッチのプレゼンテーション完成度
学期末発表	40%	： プレゼンテーション実技の完成度

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

健康運動実践指導者養成用テキスト　（公益財団法人）健康体力づくり事業財団

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は先にエアロビックダンスを履修していることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生涯スポーツとは** 日本人の健康問題と生涯スポーツの必要性について知識を深める。有酸素運動、筋の強化、ストレッチングの目的と効果を理解し、対象者に合わせて指導ができるよう理論的に学習する。陸上運動（エアロビックダンス）の特性、効果等の復習と水中における水の特性の理解と効果について理論を理解する。	健康運動実践指導者の役割を理解する	4時間

第２回	**エアロビックダンスのプログラム習得** エアロビックダンスのプログラムを覚え正しい姿勢、明確な動きで表現できるように練習し、グループで発表しあう。	明確な指示ができるようにタイミングとキューイングを考える	4時間
第３回	**エアロビックダンスの指導法** 明確な指示で分かりやすく、身振り手振りを効果的に利用してキューイングができるようにする。お互いに発表し評価する。	筋の強化について学習する	4時間
第４回	**筋の強化エクササイズ** 大筋群に対する筋の強化方法を学習し、重力を考慮したプログラムを効果的に指導する。指導するときの言葉がけ、見せ方についても学習する。	ストレッチングについて学習する	4時間
第５回	**ストレッチングエクササイズ** 大筋群に対するストレッチの方法と指導ができるようにする。伸びるところの見せ方を始め分かりやすく説明指導ができるようにする。	高齢者の運動指導について学習する	4時間
第６回	**陸上運動（エアロビックダンス）指導の発表** エアロビックダンス、筋の強化エクササイズ、ストレッチングの指導を各自発表する。指導者と受講者を交替して実施す互いに評価し、レポートにまとめる	発表を実施し、他の人の良い点を考え自分にも取り入れる工夫をする	4時間
第７回	**水中運動の理論と実際** 水の特性（浮力・水圧・水抵抗・熱伝導）を理解し、効果的に水を利用した運動について学習する。	水を利用した運動を考え、まとめる	4時間
第８回	**水中ウォーキング** 浮力と水抵抗を利用し腰痛や膝痛の方でも歩けるプログラムを考える。陸上との違いを体験し、様々な歩き方をグループで出し合う。	水中ウォーキングをまとめる	4時間
第９回	**水中ウォーキングのプログラミング** さまざまなウォーキングの組み合わせ方を指導しやすいように組み立てるの応力を養う。	水中運動の利点をまとめる	4時間
第10回	**水中ウォーキングの指導** 各自が作成した水中ウォーキングプログラムをプールサイドより指導する。動きの手本は、浮力と水抵抗があるように見せる見せ方、プールサイドからの声のかけ方等指導を学び実践する。	指導における、運動の観察、修正、賞賛ができるようにする	4時間
第11回	**水中での筋の強化エクササイズ** 水抵抗を利用した各種強化を学習する	水中での手の使い方を考えたエクササイズを作成する	4時間
第12回	**水中でのストレッチング・リラクゼーション** 水の浮力と水抵抗を利用したストレッチング、リラクゼーションを学習する	スカーリングで移動できる技の習得	4時間
第13回	**水中での筋の強化とストレッチング指導** プールサイドから水中の受講者へ指導する運動の見せ方、声のかけ方を後退で実践し評価しあう。	キューイングのタイミングを考える	4時間
第14回	**水中プログラム指導の総まとめ** 水中ウォーキング、筋の強化、ストレッチングを水中の受講者にプールサイドから指導する。指導者役のものは、動きながら指導し、観察、修正、賞賛が行えるようにする 指導者になりきって、元気に指導ができるようにする	陸上での水中の動きの練習	4時間

SP-3613-3-2

授業科目名	障がい者スポーツ指導法（障害者スポーツ指導法）				
担当教員名	中道　莉央				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

受講者が主体となって、指導者、観察者、学習者の3役を経験する模擬授業を中心に展開する。具体的には、パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で実施されている競技のルールや用具を理解し、アダプテッド・スポーツの考え方を活かした授業案を作成する。これをもとに受講者同士が協働した模擬授業を通じて、障がいのある人を含む多様な対象者に応じた指導・支援法を習得します。このような学びから、「地域における障がい者スポーツのリーダー的役割」を担えるような態度を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	アダプテッド・スポーツにおけるルールや用具の工夫	アダプテッド・スポーツの考え方を理解し、これをもとにした多様な人々のスポーツのあり方を自分なりの言葉で説明できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	障がいの種類や程度に応じた指導・支援法	障がい程度や種別等、多様な対象者に応じた指導・支援法を身につける。
3 ．DP11.忠恕の心	障がい理解と障がい者スポーツ理解	障がいのある人を含む多様な人々に身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の授業への取り組み状況 45%	：	自他の安全に配慮しながら実技に参加している（授業内容を踏まえた論述ができている）…2点、積極的に参加している（独自の見解や具体例等が示されている）…3点、重大な不足がある…0点とし、これを15回実施する。
指導の実践（指導案含む） 30%	：	指導計画作成のポイントをおさえながら、目的・内容・方法が適切に述べられているかどうかを3段階で評価する。また、指導計画にもとづき、適切に指導できているかを3段階で評価する。
レポート 25%	：	与えられたテーマに対し、授業内容を踏まえながら自分の意見が主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の3観点から総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

(公財)日本障がい者スポーツ協会編　『新版　障がい者スポーツ指導教本』　ぎょうせい．2016
(公財)日本障がい者スポーツ協会編　『全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』　日本障がい者スポーツ協会．　2019

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は、「障がい者スポーツ概論」の単位を修得していなければ履修できない。その理由は、障がいのある人に対するスポーツ指導技術の習得を目的としており、各種障がいについては既知のこととして展開するためである。それゆえ、実技科目「障がい者スポーツ」の単位を修得済みであることが望ましい。
・履修希望者が30名以上となった場合は、抽選を行う（理由は、模擬授業＜実技＞を中心に展開するため、安全面および教育効果の観点から）。
・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・なお、本科目は(公財)日本障がい者スポーツ協会「障がい者スポーツ指導員（中級）」の資格取得には必須の授業である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 可能な限り、事前にアポイントメントを取ること（中道　nakamichi-r@bss.ac.jp）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス／ 全国障害者スポーツ大会の歴史的背景** わが国における障がい者スポーツの始まりや全国障害者スポーツ大会の成り立ち、その歴史的背景について理解する。	障害者スポーツ概論で学んだ「障がい者福祉施策の変遷」および「障がい者福祉施策とスポーツ」の内容を復習しておく。	4時間
第2回	**全国障害者スポーツ大会の目的と意義** 国内外の障がい者スポーツの歴史と現状、パラリンピックに代表される競技大会の歴史と現状等を踏まえ、全国障害者スポーツ大会の目的と意義を理解する。	障害者スポーツ概論の「障がい者スポーツの理念」で学んだパラリンピック・デブリンピック・スペシャルオリンピックス等の各種国際大会が掲げる理念を復習しておく。	4時間
第3回	**全国障害者スポーツ大会の実施競技（個人競技）** 全国障害者スポーツ大会における個人競技の競技概要、基本的な練習方法について理解する。	全国障害者スポーツ大会およびパラリンピックにおける個人競技を理解しておく。	4時間
第4回	**全国障害者スポーツ大会の実施競技（団体競技）** 全国障害者スポーツ大会における団体競技の競技概要、基本的な練習方法について理解する。	全国障害者スポーツ大会およびパラリンピックにおける団体競技を理解しておく。	4時間
第5回	**全国障害者スポーツ大会の障がい区分の考え方** 障がい区分の意義や目的について、障がい者スポーツ特有のシステムである「クラス分け」「持ち点制」の成り立ち、その背景にある考え方から理解する。	各種競技の「クラス分け」「持ち点制」を整理した上で、それぞれのメリットとデメリットを理解しておく。	4時間
第6回	**全国障害者スポーツ大会の障がい区分の実際** 全国障害者スポーツ大会における個人競技と団体競技の障がい区分について、適切な判定ポイントや判定時の注意点を理解する。	各種競技の障がい区分を整理しておく。	4時間
第7回	**全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（陸上競技・投てき）** 全国障害者スポーツ大会における陸上競技（投てき）の競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した投てきの基本的な指導法を体得する。	全国障害者スポーツ大会における陸上競技（投てき）の競技規則について調べ、理解しておく。	4時間
第8回	**全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（水泳・自由形／平泳ぎ）** 全国障害者スポーツ大会における水泳の競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した自由形および平泳ぎの基本的な指導法を体得する。	全国障害者スポーツ大会における水泳（自由形／平泳ぎ）の競技規則について調べ、理解しておく。	4時間
第9回	**全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（水泳・背泳ぎ／バタフライ）** 全国障害者スポーツ大会における水泳の競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した背泳ぎおよびバタフライの基本的な指導法を体得する。	全国障害者スポーツ大会における水泳（背泳ぎ／バタフライ）の競技規則について調べ、理解しておく。	4時間
第10回	**全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（サウンドテーブルテニス）** 全国障害者スポーツ大会におけるサウンドテーブルテニスの競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した基本的な指導法を体得する。	全国障害者スポーツ大会におけるサウンドテーブルテニスの競技規則について調べ、理解しておく。	4時間
第11回	**障がいのある人のスポーツ指導における留意点（障がい理解）** 障がい特性に応じた支援・指導法を理解するために、スポーツ指導場面における留意点および指導案を作成するうえでの基本的なポイントについて学ぶ。	障がい者スポーツ概論で学んだ障がいの特性を復習し、スポーツ指導における留意点として重要な点をまとめておく。	4時間
第12回	**障がい者のスポーツ指導における留意点（指導案作成）** 第11回の内容を踏まえ、全国障害者スポーツ大会実施競技・種目からテーマを選択し、個人対象の指導案を作成する。	第1回から第10回までの内容を復習し、全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目の基本ルール、特徴や魅力を整理しておく。	4時間
第13回	**障がいのある人のスポーツ指導における留意点（発表・評価）** 第12回で作成した指導案を発表し、それぞれの指導案のよい点、さらに工夫できる点を整理することを通して、障がいのある人のスポーツ指導における留意点を総合的に考察する。	障がいのある人のスポーツ指導における留意点を踏まえ、指導者に求められる資質や能力とは何かをまとめる。	4時間

第14回	**全国障害者スポーツ大会に期待されるコーチの役割** 障がい者スポーツの指導者に求められる大会前、大会中、大会後のコーチの役割と留意点を理解する。	これまでの授業内容を踏まえ、障がいのある選手のコーチに求められる役割や資質について、自分なりの考えをまとめておく。	4時間

SP-3614-3-2

授業科目名	中高齢者と生涯スポーツ（中高齢者と生涯スポーツ）				
担当教員名	村瀬　陽介				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、生涯スポーツについてこれまで学んだ基礎知識をさらに発展させ、自身の意見を述べられることを目標とする。加齢による身体の変化について、生理学的観点から運動・スポーツの重要性を理解できるように授業を展開する。また、生涯スポーツに関わる現状と課題を整理し、スポーツ政策について解説する。木球などのニュースポーツの体験を通じて競技スポーツとは異なった楽しみ方を知り、運動・スポーツの持つ多面的な価値に気づくだけでなく、将来の運動実践につなげられるようにする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツの意義に関する知識	学生は生涯スポーツの観点から、スポーツの価値を考えられる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	加齢による身体の変化に関する知識	学生は加齢による身体の変化について、生理学的観点から説明できる。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	健康づくり施策に関する知識	学生は健康づくりのための運動実践についてどのような課題があるのか、また関連する施策について知る。
4 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツの用語に関する知識	学生は中高齢者と生涯スポーツを説明するために必要な概念や用語について説明することができる。
5 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	健康づくり施策に関する知識	学生は中高齢者と生涯スポーツの関係や実態を、社会的な背景を踏まえて説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・その他(以下に概要を記述)
　講義

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	50%	：毎回の授業で授業内容について理解度を評価する
授業内テスト	20%	：授業中の知識の習得度について評価する
学期末テスト	30%	：授業内容の理解度および、生涯スポーツの今後の展望について自身の考えを述べられるかどうかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜レジュメで触れる。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
第1回のガイダンス時に、受講態度についての説明をするので、本科目のルールを理解した上で以降の授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限

場所： 研究室（B209）

備考・注意事項： 質問内容を整理して、具体的な質問を考えてから来室してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび生涯スポーツの現状と課題** （1）授業の予定、目標、成績の評価方法について説明する。また望まれる受講態度について説明する。（2）本科目で学ぶ「老化」と「生涯スポーツの現状と課題」について概説する。	生化学についてノートを見なおしておく。	4時間
第2回	**加齢と老化** 加齢による身体の変化について生理学的観点から解説する。また運動が高齢者の健康や寿命に与える影響について解説する。	スポーツ生理学概論で学んだ内容(特にエネルギー代謝について)を復習しておく。	4時間
第3回	**老化と運動～骨格筋、骨～** 第2回からさらに詳細な内容を扱う。免疫システムについて概説し、肥満、炎症についても老化の視点から解説をする。また、運動が免疫機能にどのような影響を与えるか、肥満や炎症にどのような効果があるか解説する。	スポーツ生理学概論で学んだ内容(特に免疫について)を復習しておく。	4時間
第4回	**老化と運動～免疫、肥満、炎症～** 第2回からさらに詳細な内容を扱う。免疫システムについて概説し、肥満、炎症についても老化の視点から解説をする。また、運動が免疫機能にどのような影響を与えるか、肥満や炎症にどのような効果があるか解説する。	スポーツ生理学概論で学んだ内容(特に免疫について)を復習しておく。	4時間
第5回	**老化と運動～認知機能～** 加齢による認知機能について解説する。また、認知症について概説し、運動が認知機能に与える影響について解説をする。	認知機能、認知症について厚労省のサイトなどを参考に学習しておく。	4時間
第6回	**老化と運動～栄養～** 高齢者が健康を維持するために、運動とともに必要な栄養について解説する。また、次回授業の事前学習となる調査の方法について解説をする。	運動と栄養についてこれまで学んだことを復習しておく。	4時間
第7回	**授業のまとめ（1）と到達度検証** これまでの授業内容のふりかえりを行ない、老化と運動についてまとめる。またこれまでの授業内容について記述試験を行なう。	第1回から6回までの授業内容を復習しておく	4時間
第8回	**生涯スポーツのはじまりと日本における現状** 生涯スポーツについて、その概念および歴史について解説する。また、日本での現状についても解説する。	生涯スポーツについて、これまで学んだ内容を復習しておく。	4時間
第9回	**中高齢者のスポーツと実際ー木球体験** ニュースポーツの実践として、木球を行なう。ルールや記録の取り方を説明し、グループ分けをした後実技に移る。運動のできる格好で参加すること。また各自防寒対策をすること。	木球について、各自映像を見て予習をす る。	4時間
第10回	**ヘルスプロモーションと行動変容ステージ** ヘルスプロモーションと行動変容ステージについて解説し、健康づくりのために実施されている方策について解説する。	健康づくりのために、自身の自治体で実施されている方策について調べてくる。	4時間
第11回	**生涯スポーツの振興政策** 生涯スポーツについて、スポーツ振興法、スポーツ振興計画、スポーツ基本法、スポーツ基本計画（第二期）について概説する。	スポーツ庁のサイトを閲覧し、これまでのスポーツ振興政策について調べる。	4時間
第12回	**スポーツクラブの運営** 総合型地域スポーツクラブを取り上げ、その運営について現状と課題を解説する。	身近な総合型地域スポーツクラブについて、ホームページなどでクラブの概要を調べる。	4時間
第13回	**中高齢者のスポーツと実際ーゴールドッヂ体験** ニュースポーツの実践として、ゴールドッヂを行なう。ルールを説明し、グループ分けをした後実技に移る。運動のできる格好で参加すること。	ゴールドッヂについて映像資料などで調べておく。	4時間
第14回	**スポーツの多様性** ニュースポーツをはじめ、世界各国のスポーツを紹介する。スポーツの多様性に触れ、生涯スポーツとしてのスポーツの価値を考え、これからの生涯スポーツのあり方について考える。3	授業内容についてレポートを作成する。	4時間

SP-3615-3-2

授業科目名	生涯スポーツと地域保健（生涯スポーツと地域保健）				
担当教員名	入谷　智子				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産業保健師として成人期の健康や予防活動に対する運動支援を実践				

授業概要

本講義では、生活習慣が発症に深く関与する生活習慣病について、概要・疫学的知識・その予防などを中心に学習するとともに、その予防に関してスポーツ(運動）がどのように影響を与えるかを学ぶ。さらには個人のライフステージ毎に対応したスポーツのあり方を学び、すべての国民が健康で幸せな人生を送ることができるように、健康寿命延伸にいかにスポーツが多角的に作用するかを学ぶ。また、生涯スポーツを理解し、予防医学・地域保健学について理解できるような学びを目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	健康寿命延伸とスポーツ（運動）の関連に関する知識の習得	生涯を通じてスポーツに触れる意義と根拠を理解できる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	生涯スポーツのもつ力と可能性についての理解	身近な生涯スポーツのあり方が理解できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
課題やレポートの提出お願いします。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間確認テスト及びレポート	40%	： 毎授業時に提出するワークシートの内容で評価する20点×2回＝40点
最終課題テスト	30%	： 生涯スポーツとして取り扱われる知識の理解度を評価する
実施計画書の提出	30%	： 学童期・成人期・老年期の運動について計画書を作成する。10点×3回

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

厚生労働省・文部科学省ホームページ
「生涯スポーツ実践論」　川西正志、野川春生著　市村出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー
場所： 入谷研究室
備考・注意事項： 事前にメールでアポイントをしてください。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**地域保健とは？健康とは** 地域保健・生涯スポーツの定義を理解する 健康とは何か、健康と運動についてのエビデンスを学ぶ	健康とは何かについて調べてみる	4時間
第２回	**スポーツ基本法** スポーツ基本法を通して、日本のスポーツの現状の運動を学び、日本のスポーツの課題について検討する	スポーツ基本法を文部科学省ホームページを調べる	4時間
第３回	**健康日本21** 厚生労働省ホームページから「健康日本21」の要旨と達成状況を知り、日本の健康の課題を検討する	健康日本21とは何かを厚生労働省のホームページを参考にし確認する	4時間
第４回	**ライフステージとスポーツ** ライフステージの特徴と運動の課題、ライフステージに沿ったスポーツとは何かについて学ぶ	ライフステージとは何かを調べる	4時間
第５回	**生活習慣病と運動** 生活習慣病における運動の効果や必要性について学ぶ。また事例を通して運動の取り組み実践例を知る。	生活習慣病とは何かを復習する	4時間
第６回	**成人期のスポーツ** 成人期の特徴や職場において運動の実態及び課題とその対策について学ぶ。	成人期の特徴を調べる	4時間
第７回	**高齢者のスポーツ** 老年期の特徴や高齢者の運動の実態及び今後の課題とその対策について学ぶ。	高齢者の特徴を調べる	4時間
第８回	**青少年のスポーツ** 幼少期～思春期の特性と青年期の実態及び今後の課題と対策について学ぶ。	青少年の特徴について調べる	4時間
第９回	**日本での生涯スポーツ** 日本での生涯スポーツの状況（国の施策、運動に関する指導者・施設の状況）を学ぶ	日本での生涯スポーツについて調べる	4時間
第10回	**世界の生涯スポーツ** 世界での生涯スポーツの状況（運動の実施率など）を学ぶ 日本と世界を比較し、日本の課題と今後の施策を考えまとめる	世界の生涯スポーツについて調べる	4時間
第11回	**成人期の運動の実践** 成人期の健康課題に応じた成人期の運動の取り組みの目的・目標・内容・評価等を記載する計画書を作成する	第6回の成人期のスポーツについて復習しておく	4時間
第12回	**老年期の運動の実践** 老年期の健康課題に応じた成人期の運動の取り組みの目的・目標・内容・評価等を記載する計画書を作成する	第7回の老年期のスポーツについて復習しておく	4時間
第13回	**学童期の運動の実践** 学童期の健康課題に応じた成人期の運動の取り組みの目的・目標・内容・評価等を記載する計画書を作成する	第8回青年期の運スポーツについて復習しておく	4時間
第14回	**授業のまとめと確認テスト** 1～13回の生涯スポーツと地域保健の授業のまとめ確認をおこない、知識の定着度を確認するテストを行う	1～13回の授業の復習を行う	4時間

SP-3616-3-2

授業科目名	**女性とスポーツ**				
担当教員名	佐藤　馨				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

平成11年に男女共同参画社会が公布・施行され、平成12年には具体的な男女共同参画社会基本計画が策定された。それから20年以上もの時間が経過したが、男女共同参画社会の基本理念は、いまやスポーツの領域においても広く浸透してきている。例えばスポーツ庁のスポーツ振興政策においても、指導者の男女比の是正や女性のスポーツ活動の促進が取上げられており、今後女性とスポーツを取巻く環境はますます変化していくと予測される。本講義では、スポーツを指導する観点から、女性のからだの特性を発育・発達に沿って学習し、指導に必要な基礎知識を習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	発育・発達からみた女性のからだの変化	女性のからだは、年齢によって異なることを学習する
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	女性の発育・発達に応じたスポーツ指導のあり方	スポーツを指導する際、女性の発育・発達に応じた指導を可能にする基礎知識を学習する

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内容に関するレポート課題 10%	：	授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する
講義中盤に実施する確認テスト 30%	：	講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているのか30点満点で評価する
本試験 60%	：	講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのか60点満点で評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『女性スポーツの医学』目崎登著　文光堂　1997
『女性のスポーツ医学』越野立夫　武藤芳照　定本朋子編著　南江堂　1996
『新妊婦スポーツの安全管理』日本臨床スポーツ医学会学術委員会編　文光堂　2004

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修上の注意】
本試験の評価は全体として比率が高いが、毎授業の出席なくしては高得点を取ることはできない。また本試験に備える意味でも、講義中に指示される小レポートは確実に提出し、評価に備えること。
出席状況は加点の対象にならないが、全授業の1/3以上を超えて欠席した場合は本試験を受験することができないので注意すること。
【メッセージ】
スポーツを指導することを考えると、世の中の半分を占める女性を無視することはできません。ですがこれまでの女性への指導は、からだの特性に充分考慮したものとは言えないのが現実です。本講義では、女性のからだの特性を発達別によってできるだけ詳しく解説し、将来、受講生の皆さんが女性を指導する際に必要な知識を習得できるような内容にしています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業教室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**女性とスポーツ　ガイダンスおよび女性スポーツの指導について** 生涯スポーツの観点からみた女性とスポーツに関する講義概要と受講上の留意点について理解する	講義中に配布される資料を精読し、全体的な講義内容について理解する	4時間
第2回	**女性のからだの特性①　乳幼児期におけるスポーツ指導** 乳幼児期におけるからだの特性とスポーツ指導における留意点について説明する	乳幼児期のスポーツ指導における留意点についてまとめる	4時間
第3回	**女性のからだの特性②　児童期におけるスポーツ指導** 児童期におけるからだの特性とスポーツ指導における留意点について説明する	児童期のスポーツ指導における留意点についてまとめる	4時間
第4回	**女性のからだの特性③　思春期におけるスポーツ指導** 思春期におけるからだの特性(特に月経)とスポーツ指導における留意点について説明する	特に月経との関係から、思春期のスポーツ指導における留意点についてまとめる	4時間
第5回	**女性のからだの特性④　青年期におけるスポーツ指導** 青年期におけるからだの特性(特に妊娠・出産)とスポーツ指導における留意点について説明する	妊娠・出産との関係から、青年期のスポーツ指導における留意点についてまとめる	4時間
第6回	**女性のからだの特性⑤　更年期におけるスポーツ指導** 更年期におけるからだの特性(特に閉経や更年期)とスポーツ指導における留意点について説明する	閉経や更年期障害との関係から、更年期のスポーツ指導における留意点についてまとめる	4時間
第7回	**女性のからだの特性⑥　老年期のスポーツ指導** 老年期におけるからだの特性(特に骨粗鬆症や老化)とスポーツ指導における留意点について説明する	骨粗鬆症や老化との関係から、老年期のスポーツ指導における留意点についてまとめる	4時間
第8回	**月経とスポーツ①　月経におけるからだの仕組み** 思春期における女性のからだの変化、特に月経との関連から、からだの仕組みとスポーツ指導における留意点を説明する	月経の仕組みを正しく理解するため、配布された資料を精読する	4時間
第9回	**月経とスポーツ②　月経とスポーツ実施との関連** 月経周期におけるからだの変化とその周期ごとにおけるスポーツ指導の留意点について説明する	月経周期とスポーツ指導との関連を理解するため、配布された資料を精読する	4時間
第10回	**月経とスポーツ③　月経障害とスポーツ指導** 月経に際して起こり得る身体的、心理的弊害について説明し、その際のスポーツ指導における留意点について解説する	月経周期と女性のからだの状態、あるいは心理状態に配慮したスポーツ指導やプログラムを考え、それをまとめる	4時間
第11回	**妊婦とスポーツ①　妊婦のからだの仕組み** 妊娠・出産にともなう女性のからだの変化とスポーツ指導における留意点について説明する	妊娠・出産にともなう女性のからだの変化について正しく理解するため、配布された資料を精読する	4時間
第12回	**妊婦とスポーツ②　妊婦とスポーツ指導** 妊婦にスポーツを指導する場面を想定し、妊婦・胎児に支障を来さないスポーツプログラムと指導における留意点について説明する	妊婦にスポーツを指導する場面を想定し、妊婦・胎児に支障を来さないスポーツプログラムを考え、それをまとめる	4時間
第13回	**更年期障害とスポーツ①　更年期障害におけるからだのしくみ** 更年期障害における女性のからだの仕組みについて基礎的な知識について解説する	更年期障害の基礎知識を正しく理解するため、配布された資料を精読する	4時間
第14回	**更年期障害とスポーツ②　更年期障害とスポーツ指導** 更年期障害をかかえた女性へのスポーツ指導で特に留意する点について説明する	更年期障害をかかえた女性へのスポーツ指導を想定し、そうした女性に適したスポーツプログラムを考え、まとめる	4時間

SP-3901-4-1

授業科目名	**卒業研究**				
担当教員名	ゼミ担当教員				
学年・コース等	4	開講時期	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）				

授業概要

指導教員の指導のもと、学部、学科、専門コースでの学習活動の総まとめとして、各学生がそれぞれの専門分野における研究論文を作成し、卒業論文発表会において各自の研究成果を発表する。スポーツ学に関する研究課題に対して計画的に取り組むことで、知識や考え方を統合的に発揮する力を身につける。卒業研究を通して、課題発見力、情報収集・分析力、発想、探求を含め論理的思考力、プレゼンテーション力、チームワークなど、社会から求められる力を育成するとともに、教わる学びから探求する研究を体現する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	研究を通してスポーツ学における各自の専門分野や自身のテーマに関する深い知識を修得する。	スポーツ学における各自の専門分野や自身のテーマに関する知識を深める。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	スポーツ学における各自の専門分野に関する課題発見力、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を修得する。	社会から求められる力（課題発見力、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力）を高める。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	身につけた知識や技能を発揮するための実践力を修得する。	卒業研究論文や発表会にて修得した知識や技能を表現および発揮する。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

コース独自の卒業研究ルーブリックを用いて評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
コース独自の卒業研究ルーブリックを参照 100%	：	コース独自の卒業研究ルーブリックを参照

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜指示する

履修上の注意・備考・メッセージ

－

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒業研究** 詳細な内容は、別途配付する「卒業研究の概要と作成の手引き」を確認してください。	－	4時間

SP-4001-2-2

授業科目名	エアロビックエクササイズ（エアロビックエクササイズ）				
担当教員名	藤松　典子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	エアロビックダンス、アクアエクササイズ、ウォーキングインストラクターの資格を取得し、近隣地域の講習会、研修会で講師の実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

深刻な生活習慣病、予備軍であるメタボリックシンドロームを改善する運動の一つとしてウォーキングやジョギングなどの有酸素運動を行う人が増加している。エアロビクス理論に基づき、ウォーキング、ジョギング、ストックウォーキングを行い理論と実技を習得する。また、中高年のための健康づくり運動プログラムを作成し、指導できる技能を習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	運動不足からなる疾病、生活習慣病、高齢化社会の理解。スポーツ指導者の役割。	超高齢化社会の現状を見つめ社会に必要な健康づくりについてスポーツでアプローチできる幅広い知識を身につける
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	エアロビクス理論に基づき、理論の理解と実技。	様々な有酸素性運動を実施することで運動強度の違いを体験し、指導ができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	各種運動から自分のデータを収集。データ化によるレポート作成。	中高年のための健康づくり運動プログラムを作成し、指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	60%	： 毎回の授業の各自のデーターを利用したレポートを有酸素運動の理解度の観点より評価する。
小レポート	40%	： 各授業の課題の小レポートを課題について理解し、考察できているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成テキスト」

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ウォーキング理論と実技** 現在、健康体力づくり運動の中で最も実施率の高いウォーキングについて運動強度や特性を理解する。各自の歩行能力の測定を実施し、指導者として利用したり、データを活用できるようにする。	ウォーキングの特性、目的、効果について調べて小レポートにまとめてくる。	1時間

第2回	**ウォーミングアップとクールダウン** 準備運動としてのウォーミングアップ、整理運動としてのクールダウンを指導できるように、目的と効果を学習し、実践する。	ウォーミングアップとクールダウンの目的とプログラムを小レポートとして作成してくる。	1時間
第3回	**ウォーキングと目標心拍数の設定** 心拍数の測定の仕方と目標運動強度の設定方法を知る。ゼロトゥピーク法と、カルボーネン法の違いを理解して活用できるように学習する。エクササイズとしてのウォーキングと通常の歩行の違いを理解できるよう体験する。	心拍数、心拍出量、１回拍出量、酸素摂取量について小レポートにまとめる。	1時間
第4回	**ウォーキングからジョギングへ** ウォーキングからジョギングへスピードの変化を体得しながら心拍数の変化にも着目し、自分のジョグの最適ペースを知る。ジョギングの効果を理解し、体力に合わせてプログラムを提供できる能力を身につける。	ジョギングについて小レポートにまとめる。	1時間
第5回	**12分間走テスト1** クーパー博士の考案した12分完走テストを体験し自分の運動能力を評価する。12分間走テストの実施の仕方を確認し、評価の仕方、データの活用方法を学習する。	これまでの自分のデータをまとめておく。クーパー博士のエアロビクス理論を調べてまとめる。	1時間
第6回	**ウォーキングとジョギングの強度設定と心拍数、RPE評価実技** 高齢者に重要な評価方法としてRPE（主観的運動強度）の利用の仕方を理解し、ウォーキングとジョギングのペースとRPEの対応について実践する。	正しいウォーキング指導方法を小レポートにまとめる。	1時間
第7回	**ストックウォーキング** ストックを使用した歩き方を体験し、ストックの持ち方と使い方、長さのあわせ方、ストックを利用したウォーミングアップの方法を学習する。ストックウォーキングの効果と利点を実際に体験し、指導できるようにする。	ストックウォーキングの目的と特性を小レポートにまとめる。	1時間
第8回	**ストックウォーキングで少し長い距離を歩く** 景色を楽しみながらストックウォーキングを実施する。ウォーキングとの違いを体感し、ペース、心拍数、運動強度の違いを学習する。	ウォーキングとストックウォーキングの比較を小レポートにまとめる。	1時間
第9回	**ストックウォーキングで比良散策** 自分の体力レベルを知りながら、指導法を学習する。 傾斜の利用の仕方、ストックの有効活用を実際に山の傾斜を利用して学習する。	毎時間の心拍数、RPE、歩数、距離、時間等のデータを整理しながらまとめる。	1時間
第10回	**ジョギングの運動強度** 対象者の年齢と運動経験や体力に合わせたジョギングの指導方法を学習する。対象者に合わせたジョギングのコースを選択すること、距離の設定やコース作成の考え方、注意するべきことを学習する。	運動不足の人は日ごろから走っておく。	1時間
第11回	**ジョギング** 3～5kmのコースを探究する。距離と時間、歩数等、自分のデータはきちんと測定する。	各自の自宅近くのジョギングコースを設定する。	1時間
第12回	**12分間走テスト2** 走った距離、ペース、RPE、心拍数、歩数を記録し、運動強度設定を行う。1回目と2回目のデータや全国の同年代のものとの比較を試み自分の体力の現状について理解し、今後の課題を探る。	1回目の12分間走との比較をする。	1時間
第13回	**グループ別ジョギング** 自分と同じペースの人とジョギングをする。 各グループでウォーミングアップ～ジョギング、運動強度の確認をしながら一定のペースで、お互いに周りの人の様子も観察しながら走る。走りながら多くの人とコミュニケーションをとるように会話も考える。	ウォーキング、ジョギングの指導案を作成してくる。	1時間
第14回	**データのまとめとレポート作成** これまでの授業で取った自分のデータをまとめながら、ウォーキング、ストックウォーキング、ジョギングという有酸素運動について特性と効果をまとめレポートを作成する。表やグラフのわかりやすい書き方、考察の仕方を学習する。また、その指導方法についても触れる。	これまでのデータをまとめたものを表やグラフにして考察、まとめ、感想を書いておく。最終授業でそのレポートを提出する。	1時間

SP-4002-3-2

授業科目名	エアロビックダンス（プログラミング）（エアロビックダンスⅡ				
担当教員名	藤松　典子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

エアロビックダンスⅠの授業に基づき、さらに深くエアロビックダンスプログラムの特性、効果を理解し、安全に運動が行えるようなプログラム作成の方法を学ぶ。筋の強化、ストレッチングのプログラムも作成し、より幅広い専門性を意識し、対象者の目的に応じた運動を実践、提供できるプレゼンテーション能力を養う。また、実技だけではなく、これまで学んできたフィットネス理論、スポーツ生理学、機能解剖学などについても復習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	エアロビックダンスⅠの授業に基づきスキルアップをさらに深め、プログラミングする技術の習得	学生が、対象者に応じてプログラムを作成できる
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	安全で、効果的な楽しいプログラムを作成できる知識	対象者の目的も考慮し適切なプログラミングができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート作成物	30%	： 遠隔授業時の課題提出物の完成度で評価する
学期末発表	50%	： 5分間の、徐々に心拍数を上げて一定の強度でキープでき、徐々に強度を落とすプログラムになっているか実技評価
レポート	20%	： 授業中の課題レポートのまとめから理解度を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導
指導理論のAtoZ(改訂版)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
エアロビックダンスⅠを取得していることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**フィットネス概論**	日本人の健康問題と運動療法の関係について小レポートにまとめる。	1時間

	日本人の健康問題について理解し，生活習慣病の予防と生活習慣の改善を検討する		
第2回	**エアロビクス理論** エアロビクス，エアロビックダンスの歴史，日本への流れとその後の日本での歴史を整理し理解する	有酸素運動について、また健康づくりの中高年の有酸素運動指導について小レポートにまとめる。	1時間
第3回	**基本ステップ** エアロビックダンスⅠで学んだことを復習しながらステップアップする	運動生理学の骨と筋肉の復習をする。	1時間
第4回	**基本ステップのステップアップ** 基本ステップを組み合わせる方法を学習する	機能解剖学の復習をする。	1時間
第5回	**コンビネーションドリル** コンビネーションパターンをいくつか作成する	体力学について復習する。	1時間
第6回	**筋コンディショニング** 大筋群の強化，プログラムに合わせた筋の強化部位を選択	栄養学について復習する。	1時間
第7回	**筋の強化のプログラミング** 対象者の目的に合わせた筋の強化部位を選択し、プログラミングできるようにする	グループエクササイズについて小レポートにまとめる。	1時間
第8回	**レイヤリングの作成方法** レイヤリングのスムーズな作成方法を理解する，またパターンを数種類考案する	運動強度の設定の仕方、変化のさせ方をまとめて小レポートにする。	1時間
第9回	**ウォーミングアッププログラミング** 様々な対象者の目的に合わせたプログラム作成をする エアロビックダンスⅠで作成したが，よりリズミカルに大筋群を動かし、関節を滑らかにし可動域が広がるように工夫する	各パート目的をまとめてくる。	1時間
第10回	**ストレッチのプログラミング** 様々な対象者の目的に合わせたプログラム作成をする 目的やエクササイズで使用した筋のストレッチが、効率よく実施できるようなプログラミングを考案する	プログラム作成のポイントを調べまとめてくる。	1時間
第11回	**メインエクササイズプログラミング　ーコンビネーションー** 有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップとハイインパクトクトステップの配分と移行方法を実施できるようにする	ローインパクトステップとハイインパクトステップを整理するとともに、スムーズな移行の仕方をまとめてくる。	1時間
第12回	**メインエクササイズプログラミング　ー空間形成ー** 有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップからハイインパクトクトステップの空間や軌跡の描き方等でステップを変化させる手法を習得する。	筋の強化エクササイズのプログラミングを作成してくる。	1時間
第13回	**メインエクササイズプログラミング　ーリズムの変化ー** 各種ステップをリズム変化によるオリジナルステップを作成する。 あらゆる方向から考慮し、なおかつ健康体力づくりに効果的なプログラムを作成する。	ストレッチエクササイズの指導案を作成してくる。	1時間
第14回	**5分間のメインエクササイズプログラム発表** 有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップからハイインパクトクトステップの配分と移行方法を実施できるようにする。 心拍数を2分間で徐々にアップし、ターゲットゾーンで1分間キープ、2分間でダウンのプログラムを作成する。お互いに評価する。	授業で作成したコリオグラフィーを清書する。	1時間

SP-4003-3-2

授業科目名	エアロビックダンス（指導法）（エアロビックダンスⅢ）				
担当教員名	藤松　典子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

エアロビックダンスⅠ、Ⅱの授業を土台とし、Ⅱで学んだプログラミングをさらに効果的で安全に楽しく伝える方法を学ぶ。より幅広い専門性を意識し、対象者の目的に応じた運動を提供でき、対象者を観察し、賞賛、修正ができるプレゼンテーション能力を養う。指導理論の知識と、実践を行いこれまで学んできたバイオメカニクス、トレーニング理論、スポーツ栄養学、スポーツ生理学なども復習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	エアロビックダンスⅠ、Ⅱの授業に基づきながら、プログラムを効果的に伝えることができる知識	運動の特性や効果を理解し、指導ができる
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	幅広い専門性を意識し、目的に応じたプログラムを実践、伝達できるスキルの習得	対象者の目的に応じた効果的な運動を指導できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表	40%	： 指導テクニックのキューイングのタイミング、内容、声の出し方動きやすさ等で習熟度を評価する。
レポート	40%	： 課題レポートの内容から理解度を評価する。
筆記テスト	20%	： 授業内容の理解度を筆記テストで評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

健康運動指導者のための最新フィットネス基礎理論　JAFA

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
エアロビックダンスⅠ，Ⅱの授業の単位を取得していること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**筋の強化エクササイズ** 筋の強化エクササイズにおいて、主な大筋群の強化の指導方法と、見本となる動きを習得し、正しい姿勢で指導できるように学習する。	指導の循環について調べ、特に観察・賞賛の仕方を調べまとめる。	1時間
第2回	**筋の強化指導法** 筋の強化エクササイズの主な大筋群の強化の指導方法と、見本となる動きを数種類習得し、その時の状況でどの動きが適しているか選択できる能力を養成する。	フィットネス理論をまとめる。	1時間
第3回	**クールダウンエクササイズ** 主な大筋群のストレッチングの指導方法と、見本となる動きを習得する。観察･賞賛等も使いながら指導する。	バイオメカニクスについて復習する。	1時間
第4回	**クールダウン指導法** 筋のストレッチングの指導方法と、見本となる動きを数種類習得し、その時の状況でどの動きが適しているか選択できる能力を体得する。	スポーツ栄養学について復習する。	1時間
第5回	**メインエクササイズのプログラミング** 5分間のメインエクササイズのプログラミングとその指導、そして本人の正しい動きが課題です。プログラムは2分間の徐々に運動強度を上げていく、1分間ターゲットゾーンでキープして2分間で徐々に強度を落とすプログラムを作成、指導する。	運動強度等に関する計算方法をまとめる。	1時間
第6回	**メインエクササイズのプログラミングと評価** 5分間のプログラムを作成し指導の練習を実施する 自分で作成したプログラムを覚え、ベルカーブを描くプログラムになっているか確認し、立ち位置、見せ方を工夫できる能力を養う。	運動処方について復習する。	1時間
第7回	**メインエクササイズのプログラミングと伝え方** 指導法、特に効果的な見本の見せ方、受講者にわかりやすい言葉がけや、指導者としてふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いや受け答えが出来ているか確認する。	救急処置法について復習する。	1時間
第8回	**メインエクササイズのプログラミングと指導法** 前期に作成したプログラムを修正し、明確な指導ができるように声の大きさや表情、わかりやすい指示ができるようにする。	スポーツ障害や外傷について復習する。	1時間
第9回	**メインエクササイズのプログラミング指導法と観察** 他の受講生とお互いのプログラムを指導し合い最終チェックを実施する。お互いに観察を行い、それに対して修正や賞賛ができる知識を深める。	指導時のクラスの雰囲気づくりを考察する。	1時間
第10回	**発表** メインエクササイズ、筋の強化、ストレッチングのグループ指導をお互いに発表し、評価しあう。良いところは賞賛し、足りないところは修正しよりよいものとなるよう学習する。	指導のタイミングと言葉がけをコリオグラフィーに合わせて作成する。	1時間
第11回	**発表準備　ープログラミングー** 実技試験に向けて作成した5分間のプログラムを45分間に組み立てなおす。 本検定で指摘された個所を修正し、充分練習をする。	エクササイズに使用する音楽をパートごとに選曲する。	1時間
第12回	**発表準備　ー指導ー** 修正した45分間プログラムを流れるように指導する。 本検定で指摘された個所を修正し、見せ方の確認、さらに充分練習をする。	発表会の宣伝チラシの作成をしてくる。	1時間
第13回	**実技発表会** 45分のプログラムを完成させ、授業の受講生以外の者を参加させ発表する。	グループエクササイズについて調べてまとめる。	1時間
第14回	**まとめおよび総評** 45分のプログラムを完成させ、授業の受講生以外の者を参加させ発表する。プログラム作成方法と指導についてレポート作成と発表（プレゼンテーション）。	これまでの授業を振り返り学んだことを小レポートとしてまとめる。	1時間

SP-4004-1-2

授業科目名	アスレティックトレーナー特別講座(1)（アスレティックトレー				
担当教員名	佃　文子				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、講義内容に結びつけながら講義している。				

授業概要

スポーツ現場で求められる医科学的支援について、アスレティックトレーナーの役割と業務の内容を理解する。
講義では、スポーツ指導者として安全なスポーツ指導の在り方について思考とディスカッションを繰返し、実践するために必要なモラルと行動力、リーダーシップについて学ぶ。
またスポーツ現場を取り巻く監督・コーチ、スポーツドクター、栄養サポートや各種分析専門家らとの協働について、各専門性とアスレティックトレーナーとの関係性を学ぶとともに、協同に必要な信頼関係の構築方法について議論する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	アスレティックトレーナーの役割	アスレティックトレーナーの役割を理解することができる
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	スポーツを支える人のモラルと、スポーツ指導に必要なリーダーシップ	スポーツの実践者を尊敬し、安全に配慮した行動がとれる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業ごとの小レポート	50%	：アスレティックトレーナーの役割に関する理解度を50点満点で評価を行う。授業の終了時に授業内容に関する理解度評価を実施しする。
見学／実践参加レポート	20%	：見学や実践活動の参加を通じてスポーツの医科学的支援の実際に触れ、行われている指導内容について理解した内容とそれらを目指すにあたっての自己の課題が適切に述べられているか20点満点で評価する。
課題レポート	30%	：安全管理にかかわる視点からスポーツ指導者に求められる指導内容の妥当性と理論構成について、30点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第一巻アスレティックトレーナーの役割　¥2900円　購入方法は授業開始時に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
この科目は、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの過程認定を受けるために必要な科目です。

授業の効率性を考慮し、授業の一部を集中授業とすることがあります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、アスレティックトレーナーについての概説** 授業の概要を理解し、アスリートの支援者としての基本的姿勢を理解する。	予習：これまで自身がスポーツに関連してサポートを受けたりかかわったことのあるトレーナー的仕事をしてきた人の、トレーナーとしての仕事、その方の職業、自分が受けた影響について、調べて書き出してくる。 復習：授業時に他者が発表したトレーナー像をまとめる	4時間
第2回	**アスレティックトレーナーの歴史** 世界各国の医療の仕組みとスポーツトレーナー制度、日本のアスレティックトレーナー制度ができるまでの歴史的変遷について理解する。	予習：日本のトレーナーはいつごろから始まったのか調べてくる。復習：日本のトレーナーの発生について、他の関連他業種との関わりも含めてまとめる。	4時間
第3回	**アスレティックトレーナーの役割と業務内容** アスレティックトレーナーの役割と業務内容の基礎を学ぶ。	予習：アスレティックトレーナーとして最も大事と思われる役割の主なもの2つについてその活動場面を考えてくる。復習：役割を書きだしこれまでかかわったトレーナーがどの役割を重点的に行っていたのかまとめる。	4時間
第4回	**アスレティックトレーナーの役割と資質** 活動現場の特性、競技特性、アマチュアスポーツとプロスポーツなど競技レベル別に求められるアスレティックトレーナーの役割と、スポーツ現場を取りまく各種のスタッフの専門性と協働について学ぶ。 特にコーチングスタッフやストレングスコーチやフィジカルコーチ、栄養指導やメンタルトレーニング指導者等、支援スタッフの役割の重なりと責任の範囲について討議し、協同のためのコミュニケーションの必要性について学ぶ。	予習：自身に関係の深い競技を想定し、特徴的なトレーナーの役割を見つけ出す(かかわりのあまりない競技についてトレーナーの役割を対比させながら考えてくる）。復習：競技レベルや競技の違いによってトレーナーの役割がどのようにあるべきかまとめる。	4時間
第5回	**日本の医療制度とアスレティックトレーナーの社会的立場** 日本の医療制度について理解することにより、日本における医療保険制度内での制約と、アスレティックトレーナーとして求められる行動規範と範囲について討議する。	予習：日本の社会保険の仕組みを予習する。復習：スポーツ指導者であることを踏まえ、アスレティックトレーナーとしての強みをまとめる。	4時間
第6回	**RICE処置の理論と実際** 人体の炎症について基礎的生理反応を理解する。さらにスポーツ現場で用いるRICE処理の理論的背景や特に冷却に関する科学的知見について学ぶ。	復習：RICEのキーワードの理論をまとめる。	4時間
第7回	**身近なスポーツ外傷・障害の応急処置** 足関節を例にして、RICE処置の実際例を学ぶ。また外傷・障害後の機能評価の概要を理解する。	復習：運動学的機能についてまとめる。	4時間
第8回	**トレーナー組織の管理運営と連携** 医科学スタッフとの各種情報の取扱いと管理方法について、特に個人情報の取り扱いについて守秘義務と倫理的配慮を学ぶ。また医科学スタッフとの連携として、特にスポーツドクターや医療機関、との連携方法、研究者らとの連携方法や注意点について学ぶ。	予習：身近なスポーツ現場にどのような種類の情報があるかを書き出してくる。復習：情報管理とトレーナー組織のマネジメントに必要な要件をまとめる。	4時間
第9回	**他者支援と倫理** 支援する際の心構えを学ぶとともに、トラブルになりやすい支援者や被支援者の関係について討議する。	予習：支援者(トレーナー)と選手の関係について理想的な関係を考えて書き出してくる。復習：支援者(トレーナー)と選手の関係について理想的な関係と、よくない関係の条件を整理する。	4時間
第10回	**身近なスポーツ外傷・障害の評価方法** 足関節捻挫やハムストリングルの肉離れを例にして、外傷や傷害発生時の評価方法（HOPS）を理解するとともに、評価に基づく処置や対応の重要性について理解を深める。	復習　HOPSのキーワードに必要な事項をまとめる。	4時間
第11回	**身近なスポーツ外傷・障害の予防** 足関節捻挫やハムストリングルの肉離れを例にして、外傷や傷害発生を予防するための科学的知見について理解を深める。	復習　予防プログラムを実践してみる。	4時間
第12回	**アスリートのメディカルチェック**	予習：アスリートに必要なメディカルチェックの項目を書き出して調べてくる。復習：スクリーニングとしてのメディカルチェックと運営の仕組みを復習し、自身の身近なスポーツ現場のメディカルチェックの計画を立てる。	4時間

	スポーツ外傷と障害を予防するための集団的健康診断やメディカルチェックの仕組みを学ぶ。		
第13回	**メディカルチェック後の管理とフィードバック** メディカルチェックで扱ったデータの管理と、フィードバック方法について演習する。	予習：メディカルチェック後のフィードバックについて、方法と時間的スケジュールを検討し、前週の計画と合わせて作成する。 復習：メディカルチェックの計画とフィードバック方法についての改善点をまとめてレポートを作成する。	4時間
第14回	**まとめ及び総括** スポーツ指導者としてのアスレティックトレーナーはどうあるべきか、授業で学んだ内容から考えをまとて発表する。	予習：今後の自身の発展性について考えてプレゼンテーションの準備をする。発表は一人10分以内とする。 復習：プレゼンテーションに基づき現時点での自分自身の課題についてまとめる。	4時間

SP-4006-3-2

授業科目名	アスレティックトレーニング実習Ⅰ（アスレティックトレーナー				
担当教員名	田中　忍				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

アスレティックリハビリテーションの基礎知識をもとに実践能力を高め、「怪我からの安全で効率良い復帰」のための運動指導ができるように、主要なプログラムについて学び、具体的なリハビリテーションメニューについて実習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	アスレティックトレーナーとしての心構え	サポート業務を行う際に必要な自己犠牲の精神や、競技者の自立を促す教育的態度を身につける
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	アスレティックリハビリテーションの理解	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を理解できる
3 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	基本的なアスレティックトレーニングとアスレティックリハビリテーションの実践	目的に応じたアスレティックトレーニングととアスレティックリハビリテーションの基本が実践できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技テスト	60%	： スポーツ傷害受傷後、前期あるいは後期のアスレティックリハビリテーションおよびトレーニングに関して実技テストを行う。内容の正確性，リスク管理，対応の仕方について評価する。
授業参加度	20%	： 積極的に参加しているか、またアスレティックトレーナーとしての振る舞いができているかについて評価する。
授業内課題	20%	： アスレティックリハビリテーションの基礎知識に関する内容について、授業後に記述あるいは選択問題で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、7巻アスレティックリハビリテーション￥3,200円、を公益財団法人日本体育協会から各自で購入。購入方法は、授業開始時に告知する。
広瀬統一『アスレティックトレーニング学』文光堂（2019）

履修上の注意・備考・メッセージ

履修は、救急処置法、スポーツ医学概論、スポーツリハビリテーション論、テーピング・マッサージ法、アスレティックトレーナー特別講座の単位を修得済みであること。
本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション、アスレティックリハビリテーション概説** 授業内容、スケジュールなどを説明し、アスレティックリハビリテーションについて概説する。	アスレティックリハビリテーションの概要をまとめる。	1時間
第2回	**アスレティックリハビリテーションの考え方** アスレティックリハビリテーション総論を学習する。	総論のポイントをまとめる。	1時間
第3回	**アスレティックリハビリテーションの基礎知識　関節可動域　柔軟性** アスレティックリハビリテーションにおける関節可動域および柔軟性の獲得について学習する。	主要な関節の可動域について、図式化し影響を与えうる筋のタイトネスについてまとめる。	1時間
第4回	**アスレティックリハビリテーションの基礎知識　筋力** アスレティックリハビリテーションにおける筋力トレーニングの段階的プログラミングを学習する。	筋力の評価方法をまとめる。	1時間
第5回	**アスレティックリハビリテーションの基礎知識　協調性　加速・減速　ステップ** アスレティックリハビリテーションにおける協調性トレーニングの段階的プログラミングを学習する。	運動スピードの調整について、関係する体力要素をまとめる。	1時間
第6回	**アスレティックリハビリテーションの基礎知識　再発予防** アスレティックリハビリテーションにおけるリスク管理について学習する。	一般的なスポーツ傷害の再発予防について要点をまとめる。	1時間
第7回	**アスレティックリハビリテーション上肢** 上肢におけるアスレティックリハビリテーションの段階的プログラミングを総合的に学習する。	上肢の基本運動（投げる・つかむ・押す）について、構成される運動の順序性についてまとめる	1時間
第8回	**アスレティックリハビリテーション体幹** 体幹部におけるアスレティックリハビリテーションの段階的プログラミングを総合的に学習する。	体幹の基本運動（屈曲・伸展・回旋）について、構成される運動の順序性についてまとめる。	1時間
第9回	**アスレティックリハビリテーション下肢　第一、第二段階** 下肢におけるアスレティックリハビリテーションの段階的プログラミングを総合的に学習する。	下肢の基本運動（立つ・しゃがむ・ける・移動する）について、構成すされる運動の順序性についてまとめる。	1時間
第10回	**アスレティックリハビリテーション下肢　第三、第四、第五段階** 下肢におけるアスレティックリハビリテーションの段階的プログラミングを総合的に学習する。	下肢の基本運動（立つ・しゃがむ・ける・移動する）について、素早く力強い運動のためのプログラムの順序性についてまとめる。	1時間
第11回	**下肢の運動機能と運動連鎖** 足部のアライメントについて学習し、装具や足底板などの対処療法と効果を学ぶ。	下肢の基本運動（立つ・しゃがむ・ける・移動する）について、関係し合う複合関節運動をまとめる。	1時間
第12回	**競技種目に基づいたアスレティックリハビリテーション上肢** 特に投球種目や上肢の運動に特化したアスレティックリハビリテーションを総合的に学習する。	上肢の基本運動（投げる・つかむ・押す）について、構成される運動の順序性についてまとめる。	1時間
第13回	**競技種目に基づいたアスレティックリハビリテーション体幹** 特に腰部や体幹の回旋運動に特化したアスレティックリハビリテーションを総合的に学習する。	体幹の基本運動（屈曲・伸展・回旋）について、構成される運動の順序性についてまとめる。	1時間
第14回	**競技種目に基づいたアスレティックリハビリテーション下肢** 特にジャンプ・ストップ・切り返し運動に特化したアスレティックリハビリテーションを総合的に学習する。	下肢の基本運動（立つ・しゃがむ・ける・移動する）について、構成される運動の順序性についてまとめる。	1時間

SP-4007-3-2

授業科目名	アスレティックトレーニング実習Ⅱ（アスレティックトレーナー				
担当教員名	小松　猛・武内　孝祐				
学年・コース等	3	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	（小松）スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場での医療従事者の実践経験を講義内容に結びつけている。（武内）現役のアスレティックトレーナーそして理学療法士として、スポーツ現場での実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

運動器に正確な計測方法を講義で学び、実際に計測しながら測定手技についても理解を深める。さらに、スポーツ外傷・障害の予防対策の基礎データとしてのアライメントチェックのポイントなど、メディカルチェックを行う際に必要とされる具体的なの方法を学ぶと共に、スポーツ外傷・障害の初期評価やリハビリテーション中の運動器の評価について理解を深め、自身のスポーツ活動や活動支援（トレーナーなど）に必要な具体的な身体開発手法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	関節可動域や筋力、柔軟性を評価するために必要な解剖と運動機能。	運動器の状態を正確に評価するための測定方法を理解する。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	関節可動域の計測、筋力の評価、整形外科的徒手検査などの実践的手技。	運動器の評価を角度計やメジャーを用いて正確に計測でき、スポーツ傷害の重症度を正しく評価できる。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	身体計測における最新の機器などを用いたデータに対する、分析方法とスポーツ現場で活かす評価。	計測のために使用する様々な機器の使用と、そこから得られるデータをどのようにスポーツ現場へフィードバックするかを理解する。
4 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	正確な評価を通して知るアスレティックトレーナーの役割	正確な測定と正しい評価をすることの重要性を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習試験	70%	： アスレティックトレーナーとして必要とされる評価と対処方法に関して、与えられたテーマを実践する。その内容を評価する。
実習内容に関するレポート	20%	： 実習を通して学んだ評価や対策について、十分理解したと言える内容であるかを評価する。
授業内課題	10%	： 授業で学んだ代表的なスポーツ障害の病態と評価方法に関して、課題の記述内容を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
片寄正樹（編集）	・ 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト③　スポーツ外傷・障害の基礎知識	・ 文光堂	・ 2011年

・ 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤ 検査・測定と評価	・ 文光堂	・ 2011年

参考文献等

●整形外科・スポーツ傷害診察ハンドブック 別府諸兄（監訳） （NAP limited）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

4月に実習に向けた総論的な講義を行い、9月に集中講義形式にて実践を伴う実習を行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよびアスレティックトレーナーが必要な知識・手技について** 講義 アスレティックトレーナー実習Ⅱの目的と範囲について、実際のスポーツ現場でのメディカルサポート内容について学ぶ。	トレーナーに必要な知識と仕事内容について、自分でも情報を収集しながら復習をする	1時間
第2回	**整形外科系メディカルチェックの基礎知識（身体計測方法と評価について）** 講義 具体的な身体計測の方法を理解する。例として、四肢の長さ、太さの計測、四肢アライメント計測。そして、その計測の記録方法なども学ぶ。 特に、筋力の評価（MMT）、関節可動域（ROM)については集中講義で実践してもらうため、各筋肉、各関節ごとに理解する。	身体計測のポイントを教科書などで確認しながら理解を深める	1時間
第3回	**整形外科系メディカルチェックのために必要な解剖について** 講義 身体各部の機能と障害の評価に必要な体幹（頚椎、胸椎、腰椎）、上肢、下肢それぞれの解剖について学ぶ。	解剖を改めて復習し、計測方法を再確認する	1時間
第4回	**関節可動域測定** 講義で学んだ関節可動域の測定方法について、具体的な計測に関する注意点について知る。角度計を用いて、実際にどの部分を計測しなければいけないかという具体的な解剖学的な指標を知る。	関節可動域測定のために必要な解剖、関節機能について復習する	1時間
第5回	**計測と評価について** アスレティックトレーナーが実際にスポーツ現場で行っている計測と評価について、実例を紹介しながら学ぶ。	様々な徒手検査の方法と意義を理解し、自分でも情報を収集する	1時間
第6回	**筋力測定と形態計測** 徒手や機器を用いた筋力測定方法について学び、講義で学んだ人体の四肢・体幹のアライメントなどの見方を具体的に学ぶ。実際の身体計測がスムーズに行えるように理解を深める。	徒手筋力テストを再確認すること、異常なアライメントとはどういうものかを授業内容、著書などで情報収集する	1時間
第7回	**代表的な膝スポーツ外傷・障害の病態、評価と検査、リハビリテーション** 膝の代表的な外傷である靭帯損傷を中心に、その病態と必要な評価方法、そして具体的なリハビリテーションについて学ぶ。	膝関節の解剖と機能を復習する	1時間
第8回	**代表的な足関節・肩のスポーツ外傷・障害の病態、評価と検査、リハビリテーション** 足関節捻挫、肩関節脱臼膝を中心に、その病態と必要な評価方法、そして具体的なリハビリテーションについて学ぶ。	足関節と肩関節の解剖および機能を復習する	1時間
第9回	**種々のスポーツ障害の病態、評価と検査** 第7，8回で学んだ以外のスポーツ外傷や障害に関する評価方法と病態について学ぶ。	全般的な整形外科的評価方法について実践できるように再確認する	1時間
第10回	**症例について考える** 訴える症状などからどのような障害を考えるか、そのために必要な評価は何か、といったことを考えていく。スポーツ外傷・障害の特徴についても復習する。	様々な症状から考えられる外傷・障害について再確認する	1時間
第11回	**実習 計測と評価（頚部・体幹）** 頚椎および体幹の機能と障害の評価を学ぶ。そして、いままで学習した測定手技を用いて実践し、その測定結果について評価する。	頚椎および体幹の評価方法とスポーツ傷害について復習する	1時間
第12回	**実習 計測と評価（上肢・下肢）** これまで学習した測定方法を用いて、上肢および下肢の機能と障害の評価する。お互いの身体を測定して機能異常の有無をチェックする。	上肢および下肢のスポーツ傷害で見られる身体特性を、授業内容や著書などを用いて復習する	1時間
第13回	**実習 実技発表（計測方法）** 各個人に与えられた課題についてどのような測定手技を用いて評価するのか実技発表する。	自分に与えられた課題についての正しい評価方法を再確認する	1時間
第14回	**実習 実技発表（傷害別の評価）**	テーマに与えられたスポーツ傷害全体に関すること、その評価方法について復習する	1時間

各個人にそれぞれ与えられた異なる傷害に関するテーマについて、どのような評価方法を用いて行うべきか実技発表する。		

SP-4011-2-2

授業科目名	保健体育科教育法Ⅰ（体育）（保健体育科教育法Ⅰ（体育））				
担当教員名	大西　祐司				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校体育専科講師として勤務し，小学校1年生から6年生までの全領域の体育授業を担当した.				

授業概要

これまで受けてきた体育授業の経験（被授業経験）を出発点にして、「体育授業を学ぶ」視点に転換し、よい体育授業とは何かについて考える。体育科の基本的性格や歴史的な変遷、制度的条件について学ぶとともに、学習指導要領に基づいて教科目標や学習内容、学習評価などについて学ぶ。理論的な内容を踏まえた上で、体育授業の実践を見通し、年間指導計画の構想や単元計画及び授業計画（学習指導案）の立て方を理解し、実際に指導案を作成する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	体育科の基本的性格、歴史的な変遷、制度的条件	体育科教育学の理論的な背景を理解する。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	学習指導要領に則した教科目標や学習内容、学習評価の理解	学習指導要領に準拠した体育授業の立案ができる。
3 ．DP11.忠恕の心	学習指導案の作成	仲間とコミュニケーションとり、課題に意欲的に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時の課題	55%	： 講義内容について、正しい理解に基づき論述ができているか。正しく指導案が作成できているか。
期末試験	45%	： 体育科教育学に関する専門的知識、保健体育科の学習指導要領に関する知識が十分に修得できているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2017年
文部科学省	高等学校学習指導要領解説　保健体育編 体育編	東山書房	2018年

参考文献等

教科書に加え、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業終盤から行われる学習指導案の作成では，各自がPCを持ち込んで課題に取り組みます。

2年次の早い段階から教職に対する使命感や学習意欲を持って授業に臨んでください。本講座を2年次に単位修得済みでないと、4年次に教育実習に行くことができません。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日２限

場所： 大西研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**保健体育科の基本的性格** 体育科教育学を学ぶことの意義を理解する。	被授業経験を振り返る。	4時間
第2回	**保健体育科の歴史的変遷** 体育科の歴史（目標の変遷）を理解する。	楽しい体育について調べてくる。	4時間
第3回	**保健体育科に関わる制度的条件** 学校や授業を取り巻く制度を理解する。	教育基本法、学校教育法について調べてくる。	4時間
第4回	**保健体育教師の役割と期待** 保健体育科で求められる教師像について考える。	保健体育科の教師の特徴を書き出してくる。	4時間
第5回	**学習指導要領の性格と読み方** 学習指導要領の位置付けと性格、その読み取り方を知る。	学習指導要領の総則「改訂の経緯及び基本方針」を読んでくる。	4時間
第6回	**保健体育科の目標と学習内容** 学習指導要領に記された目標と指導内容を知る。	自分の専門種目に関する学習指導要領の記載内容を確認してくる。	4時間
第7回	**保健体育科における学習評価** 単元の評価規準と各授業における観点別評価規準及び基準を理解する。	国立教育政策研究所が示している評価規準に関する資料を読んでくる。	4時間
第8回	**保健体育における教材観** 体育授業における教材と教材観について知る。	これまでの体育授業の経験から教材に該当するものをまとめる。	4時間
第9回	**保健体育科における指導観** 体育授業における指導観と生徒観について知る。	高校までの自分や自分のクラスの特徴を考えてくる。	4時間
第10回	**体つくり運動の理論と実際** 体つくり運動の授業づくりについて考える。	体つくり運動に関する学習指導要領の記載内容を読んでくる。	4時間
第11回	**体育理論の理論と実際** 体育理論の授業づくりについて考える。	体育理論に関する学習指導要領の記載内容を読んでくる。	4時間
第12回	**指導計画の立て方** 単元計画、授業計画の重要性と立て方について知る。	書籍や論文から指導案を探し、読んでくる。	4時間
第13回	**指導計画の作成** 学習指導案の作成を行う。	担当する領域・種目の学習指導要領の記載内容を読んでくる。	4時間
第14回	**指導計画の修正** 単元計画、学習指導案の修正を行う。	指導案の修正に必要となる資料を集めてくる。	4時間

SP-4012-3-2

授業科目名	保健体育科教育法Ⅱ(保健)（保健体育科教育法Ⅱ(保健)）				
担当教員名	股村　美里　　川合　英之				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	川合英之：高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

学習指導要領に基づき、教育課程における保健の位置づけや今日的課題について理解するとともに、児童生徒の①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力、人間性等を育むための主体的・対話的で深い学びについて理解する。
理論的な内容を踏まえた上で、小学校・中学校・高等学校の保健の授業の実践を見通し、年間指導計画の構想や単元計画及び授業計画（学習指導案）の立て方を理解し、実際に指導案を作成する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	各校種の学習指導要領	学習指導要領に基づく小中高等学校の保健学習の内容が理解できる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	保健学習の指導法	保健学習の様々な指導方法に関する知識・技術を理解する。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	保健の指導案の作成とその実践	実際に学習指導案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内の小レポート 70%	：	・各回１～5点で評価し合計70点満点とする。 ・授業内容を踏まえた論述ができていれば3又は4点、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば5点、誤りや不足があれば2点。重大な誤りや不足があれば１点。
指導案の作成 30%	：	・指導案が適切に作成され、それに基づき授業ができている。 大変よくできている30～25点、ある程度できている25～15点、できていない15点以下

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

保健科教育学会編「保健科教育法入門」大修館書店、2017年
森良一編著「中学校・高等学校保健科教育法」東洋館出版社、2016年
そのほか、書籍だけでなく映画やホームページなど参考文献を適宜指定するので参考にすること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　研究室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**保健授業をめぐる今日的課題** 教育課程における保健授業の位置づけ、保健授業における今日的課題について理解する。 今日の健康問題と関連させた保健授業の重要性について理解する。	保健の授業をめぐる今日的課題について整理してまとめる。	4時間
第2回	**保健授業の果たす役割と動向** 社会生活における保健学習の役割を理解する。 将来の社会生活における健康・安全の動向を注視し、保健学習の方向性を考える。	社会生活における健康・安全の動向を調べておく。	4時間
第3回	**学校における保健学習と保健指導** 保健学習（授業）と保健教育（学校教育全体を通した健康教育）の役割と内容について理解する。	保健学習と特別活動・保健室を通した健康教育の構造を把握してまとめる。	4時間
第4回	**小学校学習指導要領と保健学習** 学習指導要領における小学校体育科保健領域の内容について理解する。	小学校学習指導要領における体育科保健領域の内容を調べてまとめる。	4時間
第5回	**中学校学習指導要領と保健学習** 学習指導要領における中学校保健体育科「保健分野」の内容について理解する。	中学校学習指導要領における保健体育科「保健分野」の内容を調べてまとめる。	4時間
第6回	**高等学校学習指導要領と保健学習** 学習指導要領における高等学校保健体育科「科目保健」の内容について理解する。	高等学校学習指導要領における保健体育科「保健」の内容を調べてまとめる。	4時間
第7回	**保健学習における多様な学習方法** ICT活用、グループワーク、課題学習、ブレインストーミング、フィールドワーク、実験など多様な学習方法について理解する。	効果的な授業展開について調べておく。	4時間
第8回	**保健学習における主体的・対話的で深い学び** 児童生徒の①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力、人間性等を育むための主体的・対話的で深い学びについて理解する。	「主体的・対話的で深いまなび」の授業実践例を調べておく。	4時間
第9回	**中学校保健体育科「保健分野」・高等学校「科目保健」の指導計画と評価** 学習指導要領に基づく指導計画の作成と評価について理解する。	学習指導要領の指導計画と評価について調べておく。	4時間
第10回	**学習指導案作成の実際** 保健授業の学習指導案の作成方法について理解する。	学習指導案の実践例を調べておく。	4時間
第11回	**中学校の保健「健康な生活と疾病の予防」「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業実践** 「健康な生活と疾病の予防」「心身の機能の発達と心の健康」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。	中学校の保健「健康な生活と疾病の予防」「心身の機能の発達と心の健康」の教科書の内容を調べておく。	4時間
第12回	**中学校の保健「傷害の防止」「健康と環境」の模擬授業実践** 「傷害の防止」「健康と環境」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。	中学校の保健「傷害の防止」「健康と環境」の教科書の内容を調べておく。	4時間
第13回	**高等学校の保健「現代社会と健康」「安全な社会生活」の模擬授業実践** 「現代社会と健康」「安全な社会生活」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。	高等学校の保健「現代社会と健康」「安全な社会生活」の教科書の内容を調べておく。	4時間
第14回	**高等学校の保健「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の模擬授業実践** 「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。	高等学校の保健「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の教科書の内容を調べておく。	4時間

SP-4013-3-2

授業科目名	教材研究Ⅰ（体育）（教材研究Ⅰ（体育））				
担当教員名	大西　祐司				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

よい体育授業の実現に向けては、教材づくりがその中心的課題となる。本講座では、体育授業における教材研究の意義と方法について学び、各運動領域・種目の運動特性に触れながら、教材づくりの基本的視点（内容的視点、方法的視点）を理解する。学習指導要領に示されている各領域の目標及び指導内容を確認し、典型教材の理解を深める。また、教材に関わる教具の開発や工夫、教師の働きかけの重要性についても学ぶ。典型教材を踏まえ、個人またはペア、グループで協議しながらよりよい教材の創出に努める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	体育授業における教材の位置付け	教材研究の意義と方法を理解することができる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	各領域の目標・指導内容を踏まえた典型教材	典型教材について深く理解することができる。
3 ．DP11.忠恕の心	教材研究に関するディスカッション	仲間と協同して課題に意欲的に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小レポート	60%	： 授業内で扱われた理論や典型教材の紹介を踏まえて、課題に対して適切に論述しているか60点満点で評価する。
まとめのレポート	40%	： 14回の授業を通して学んだことをもとに、新たな教材提案の試みを40点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

岩田靖（2012）体育の教材を創る－運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて－（大修館書店）
文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

講義だけでなく、教室内でできる実技を通してさまざまな典型教材に触れます。それらの典型教材を踏まえて、ペアやグループで教材の検討を行います。教育実習前に子どもを誘い込む教材について学びたい人は是非受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限

場所：　大西研究室（B206）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教材研究の意義と方法**	これまで経験したよい教材について振り返っておく。	4時間

	授業の進め方と成績評価について知る。 教材研究の意義と方法を理解する。		
第2回	**教材づくりの基本的視点（内容的視点）** 教材づくりの内容的視点について理解する。 学習指導要領の指導内容と教材の関係性を理解する。	学習指導要領の内容領域ついて調べてまとめる。	4時間
第3回	**教材づくりの基本的視点（方法的視点）** 教材づくりの方法的視点について理解する。 学習指導要領の目標と教材の関係性を理解する。	球技（ゴール型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第4回	**「球技（ゴール型）」の教材** 「球技（ゴール型）」領域の教材について、具体例を示し解説する。	球技（ネット型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第5回	**「球技（ネット型）」の教材** 「球技（ネット型）」領域の教材について、具体例を示し解説する。	球技（ベースボール型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第6回	**「球技（ベースボール型））」の教材** 「球技（ベースボール型）」領域の教材について、具体例を示し解説する。	体つくり運動の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第7回	**「体つくり運動」の教材** 「体つくり運動」領域の教材について、具体例を示し解説する。	体育理論の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第8回	**体育理論の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。** 「体育理論」領域の教材について、具体例を示し解説する。	武道、ダンスの教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第9回	**「武道」「ダンス」の教材** 「武道」領域の教材について、具体例を示し解説する。 「ダンス」領域の教材について、具体例を示し解説する。	器械運動の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第10回	**「器械運動」の教材** 「器械運動」領域の教材について、具体例を示し解説する。	陸上競技の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第11回	**「陸上競技」の教材** 「陸上競技」領域の教材について、具体例を示し解説する。	水泳の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第12回	**「水泳」の教材** 「水泳」領域の教材について、具体例を示し解説する。	中学校で実施されている教材や指導法の工夫について調べてまとめる。	4時間
第13回	**学校現場に学ぶ中学校の教材研究** 中学校で行われている教材研究の実際について理解する。	教材づくりの基本的視点でこれまでの教材を整理する。	4時間
第14回	**教材案の検討と改善** グループに分かれて、指定した運動領域・体育理論の教材案について検討する。	グループで改善した教材案を完成させる	4時間

SP-4014-3-2

授業科目名	教材研究Ⅱ（保健）（教材研究Ⅱ（保健））				
担当教員名	川合英之・股村美里				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

保健の授業を実施するための基礎的力量を養うために、学習指導要領に基づく保健学習のねらい、内容、方法などについて学ぶとともに、教材づくりや授業づくりの学修を通して、効果的な保健授業の展開について具体的に検討する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	保健の教育課程における位置づけ	教育課程における保健の位置づけがわかる。
2 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	保健に関する各校種の学習指導指導要領	小学校・中学校・高等学校の学習指導要領における保健学習の目標・内容がわかる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	保健の授業実践	保健における具体的教材づくり及びその教材を活用した授業実践ができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内の小レポート	60%	：・各回１～４点で評価し合計60点満点とする。 ・授業内容を踏まえた論述ができていれば３点、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば４点、重大な誤りや不足があれば１点。
模擬授業	20%	：・話し方は適切か（4点） ・教具は効果的か（4点） ・なにを聞いているのか具体的で理解しやすいか（4点） ・説明は内容が容易でイメージしやすいか（4点）合計20点
まとめのレポート	20%	：・授業内で作成した略案を基に指導案を完成させる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編
小学校体育の教科書、中学保健体育の教科書、高等学校保健体育の教科書

履修上の注意・備考・メッセージ

様々な教具やICTを含む学習方法を活用した保健の授業展開をめざして、グループで教材の工夫や検討を行いながら授業づくりを考える。中学校や高等学校だけでなく小学校での授業も視野に入れる。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

保健体育科教員を目指すための科目であり、授業の準備、模擬授業・観察、振り返り等と、受講生には授業外においても相当な負荷を与える。明確な目的意識、教師を志望する自覚と責任を持って受講すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日2限・木曜日3限

場所：　川合研究室・股村研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**保健授業を実施するに当たって学ぶこととは** 授業全体の計画に触れ、保健の授業実践に向けた意識を高める。教育課程における保健の位置づけを理解する。 保健の授業を通して、児童生徒に身に着けさせたい能力について理解する。 模擬授業や討議を行うグループを決め、授業日程を計画する。	小学校・中学校・高校学習指導要領解説体育編、保健体育編「保健」を読んでおく。	4時間
第２回	**学習指導要領と保健学習** 学習指導要領の保健の目標、内容、指導計画の作成及び内容の取り扱い等について学習する。	小学校・中学校・高校学習指導要領解説体育編、保健体育編「指導計画の作成と内容の取り扱い」を読んでおく。	4時間
第３回	**「保健の教科書」教材の検討** 小・中・高等学校の保健の教科書の記述を教材という視点から検討し、保健に関する今日的課題、地域特性を踏まえるとともに、児童生徒の実態に応じた学習指導案の構成を検討する。	良い指導案の作成について調べておく。	4時間
第４回	**多様な保健の教材** 教材としてのICT活用、発問、文章教材、学習活動、教具の工夫について、具体的な例に基づき学ぶとともに、模擬授業に向け効果的な教材を活用した学習指導案を作成する。	身近なICT機材を活用できるようにしておく。	4時間
第５回	**保健学習における「主体的・対話的で深い学び」** 児童生徒の①知識、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等を育むための保健学習について検討する。	「主体的・対話的で深い学び」について調べておく。	4時間
第６回	**保健の模擬授業（中学校）ー健康な生活と疾病の予防ーとその検討** 中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「健康な生活と疾病の予防」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	中学生を対象とした「健康な生活と疾病の予防」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第７回	**保健の模擬授業（中学校）ー心身の機能の発達と心の健康ーとその検討** 中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「心身の機能の発達と心の健康」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	中学生を対象とした「心身の機能の発達と心の健康」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第８回	**保健の模擬授業（中学校）ー傷害の防止ーとその検討** 中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「傷害の防止」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	中学生を対象とした「傷害の防止」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第９回	**保健の模擬授業（中学校）ー健康と環境ーとその検討** 中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「健康と環境」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	中学生を対象とした「健康と環境」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第10回	**保健の模擬授業（高等学校）ー現代社会と健康（喫煙・飲酒・薬物乱用と健康）ーとその検討** 高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	高校生を対象とした喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第11回	**保健の模擬授業（高等学校）ー現代社会と健康（生活習慣病、感染症）ーとその検討** 高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	高校生を対象とした生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第12回	**保健の模擬授業（高等学校）ー安全な社会生活ーとその検討** 高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「安全な社会生活」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	高校生を対象とした「安全な社会生活」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第13回	**保健の模擬授業（高等学校）ー生涯を通じる健康ーとその検討** 高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「生涯を通じる健康」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。	高校生を対象とした「社会生活と健康」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。	4時間
第14回	**模擬授業のリフレクション　まとめ** 小学生、中学生、高校生を想定した保健の授業づくりを振り返り、教材の工夫や授業行動の改善の在り方について検討する。	中学生、高校生対象を想定した保健の授業づくりを振り返り、授業改善の方策を考える。	4時間

SP-4015-1-2

授業科目名	教育学概論（教育学概論）				
担当教員名	松本　圭将				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

誰もが「教育」を受けた経験があるため、誰もが「教育」を知っているように捉えがちである。しかし、教員にとって必要なのは、自らの経験の枠を超えた「教育」を知ることである。本講義では、教育の理念、歴史、思想を学ぶことで、今日の教育や学校教育のあり方についての理解を深めることを図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	教育の理念・思想と、実際の教育や学校との関係	教育の理念・思想と、実際の教育や学校との関係について、具体例を挙げて説明できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	教育をめぐる新たな価値の創造	教育をめぐる社会的な現実を理解し、そのうえで、これからの社会の変化に応じた教育の理念・思想・方法を創造できるようになる。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教育に関わるものとしての自覚・誇り	他者と教育に関わる意見の交流を行うことを通して、教員などとして教育に関わっていくものとしての自覚やほこりを身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
最終レポート	58%	： 授業終了後、1000字程度のレポート課題を課す。授業内容について、自分で調べた内容を含めて、理解を深め、自分なりの考えを確立できているかという観点から評価する。
授業内の小レポート	42%	： 授業内に小レポートの作成を毎回実施する（3点×14回＝42）。課題にきちんと答えられているかどうかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

安彦忠彦・児島邦宏・藤井千春・田中博之編著（2012）『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房
酒井朗・多賀太・中村高康編著（2012）『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業終了後
場所：　教室

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション：「教育」とは何か** 「教育」の意味について考える。あわせて、講義の進め方や評価の方法について詳細を説明する。	「教育」と聞いてイメージすることを考えておく。	4時間
第2回	**教育の本質** 教育学の概念と教育の本質、目標について理解する。	教育の本質や目標について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第3回	**古代・中世の教育** 古代・中世における教育について学ぶ。	古代・中世における教育について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第4回	**近代教育の歴史的展開** 近代教育の歴史的展開について学ぶ。	近代教育の歴史的展開について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第5回	**日本における公教育制度の歴史的展開と現状** 日本における公教育制度の歴史的展開について学ぶ。	日本における公教育制度の歴史的展開について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第6回	**西洋における教育思想の潮流** 西洋における教育思想について学ぶ。	西洋における教育思想について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第7回	**日本における教育思想の潮流** 日本における教育思想について学ぶ。	日本における教育思想について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第8回	**前半授業のまとめ** 前半授業のまとめを行う。	前半授業の配布資料を整理し、復習する。	4時間
第9回	**生涯学習という考え方** 生涯学習という考え方について学び、「教育」や「学習」という概念についての理解を深める。	生涯学習という考え方について、配布資料を基に復習する。	4時間
第10回	**「教育」に関する現代的課題①　ー「特別の教科　道徳」** 「特別の教科　道徳」について、その在り方を考える。	「特別の教科　道徳」について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第11回	**「教育」に関する現代的課題②　ー貧困と格差** 子どもの貧困や教育格差について学ぶ。	子どもの貧困や教育格差について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第12回	**「教育」に関する現代的課題③　ー学習機会の保証** いじめや不登校について考えるとともに、様々な理由で学習の機会を失った人に対する教育機会の保証について考える。	教育機会の保証について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第13回	**特別支援教育** 特別支援教育の歴史について学び、インクルーシブ教育について考える。	インクルーシブ教育について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第14回	**後半授業のまとめ** 後半授業のまとめを行う。	後半授業の配布資料を整理し、復習する。	4時間

SP-4016-1-2

授業科目名	教職入門（教職入門）				
担当教員名	黒澤・山手				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛己　高等学校教諭・生徒指導主事として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（7回） 山手隆文　小学校教諭・副校長として勤務した実戦経験を講義内容に結びつけている。（7回）				

授業概要

教員を目指す学生にとって最初に受講する入門科目である。具体的な講義内容は教員の役割、教員の職務内容、児童生徒への指導に関する内容となっている。教員に必要な知識や理論、実際の指導方法について学ぶ。また、様々な教育課題について各自が調査し、課題を作成することで教師にとって必要な知識や技能の定着を図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	教員に必要な知識・技能などの能力	教員に必要な知識・技能などの能力を身に付ける。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教員としての自覚・規範意識	教員としての自覚・規範意識を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

成績評価については、毎時の教職に関する課題レポート、講義中に実施する確認テスト、期末テストにより
総合的に評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時の課題レポート	40%	： ワークブックの「教職に関するワークシート」「教職時事問題に関するレポート課題」
期末テスト	60%	： 教員となるために必要な「教職」全般に関する基礎知識について出題し、評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

勝野正章・庄井良信(2015)『問いからはじめる教育学』有斐閣

履修上の注意・備考・メッセージ

受講者は、将来「教職」に就くという強い意思を持って履修すること。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

また、毎時の学修課題以外に、各自で「教職」に関する資料を収集して知識習得に励むこと。
本授業では「教職入門ワークブック」を使用するので、必ず購入すること。購入方法については、別途指示する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 黒澤寛己研究室（研究棟3階）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「教職」とは何か？** 「教職」に就くことの意味・意義とは何か、考察を加える。	「 教職」に就くことの意味・意義について、自分の考えを整理する。	4時間

第2回	**教育の役割とは何か？** 教員に求められる職務の内容を理解し、その役割について考察を加える。	教員に求められる役割とは何か、整理する。	4時間
第3回	**教員に求められる職務の現状と学習指導要領** 教員に求められる役割が多様化しつつある現状について、考察を加える。 学習指導要領の内容について、考察を加える。	教員に求められる役割がなぜ多様化しつつあるのか、その理由について考察を加える。	4時間
第4回	**教員養成制度の現状とキャリアの選択** 教員養成制度の基本的枠組みを学んだうえで、「教職」に就くための今後の課題について各自で考察を行う。	「 教職」に就くために、今後、身に付けるべきことを整理する。	4時間
第5回	**教員採用制度の現状** 教員採用制度とその実態について分析する。	各自が受験する都道府県で求める教師像を調べ、身に付けるべき資質・能力について整理する。	4時間
第6回	**教員採用制度の課題** 教職に付くということが困難になっている状況を確認したうえで、非正規の教員が増加することに伴う課題を考察する。	非正規の教師が増えることに伴う課題について、講義の復習を合わせて意見を整理する。	4時間
第7回	**教員研修制度の現状と教員免許更新制** 教員研修の種類・体系、法制度および教員免許更新制の現状について、整理する。	教員研修制度の現状および教員免許更新制の概要について整理する。	4時間
第8回	**教職の意義、教員の役割** ここまでの講義で扱った教職の意義や教員の役割について、再度確認を行う。 各自の理想的な教員像について、項目を整理する。	これまでの講義で扱った項目について、整理する。	4時間
第9回	**教員の服務規程と身分保障** 教員が守らなければならない服務規程と、その身分保障の実態について、考察する。	教員の服務規程と身分保障について、関連する法規の内容をまとめる。	4時間
第10回	**教員の専門性とその発達** 教員に求められる専門性とは何か、その発達を促すためには何が重要となるのか、考察を加える。	教員に求められる専門性について、考察を加える。	4時間
第11回	**新たな教育課題への対応と教員の専門性** 新たな教育課題に対応するうえで、教員にはどのような専門性が求められるのか、特別支援教育の導入を事例として、検討を加える。	新たな教育課題に対応するために、教員には何が求められているかをまとめる。	4時間
第12回	**福祉的な課題への対応と教員の専門性** 「子どもの貧困」をはじめとする福祉的な課題に対応するために、教員にはどのような専門性が求められるのか、検討を加える。	福祉的な課題に対応するために、教員には何が求められているかをまとめる。	4時間
第13回	**「組織としての学校」と教員に求められる役割** 学校組織の一員として教員が果たすべき役割について、考察を加える。	日本の学校組織が持つ特徴について、まとめておくこと。	4時間
第14回	**日本の教員文化** 日本の教員文化にはどのような特徴があるのか、検討を行う。	日本の教員文化の特質について、まとめておくこと。	4時間

SP-4017-3-2

授業科目名	教師論（教師論）				
担当教員名	黒澤寛己・山手隆文				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛己　高等学校教諭・生徒指導主事として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。(7回) 山手隆文　小学校教諭・副校長として勤務した実戦経験を講義内容に結びつけている。（7回）				

授業概要

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容などを学ぶ。そして、それらの学修内容をもとに、教師の日常世界、教師の専門性と力量、学校づくりと学校経営などの内容を学び、さらに、学校現場で教師が実際に対応する様々な問題について、事例研究（ケースメソッド）を通じて具体的な理論や指導方法を身に付ける。さらに、現職教員へのインタビューを実施し、その内容を発表する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教師としての責任感と自覚。教育問題に対する知識と指導方法	教師としての責任感と自覚を身に付け、学校現場で直面する教育問題への指導方法を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時の取り組みと課題	70%	： 講義内で学習した概念や理論を基に、独自の視点で課題に対する論述が行われているか評価します。
事例研究発表	30%	： 各自が調査してきた内容を発表する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、資料を配付します。

横山勝彦・来田宣幸・黒澤寛己他「ライフスキル教育-スポーツを通して伝える「生きる力」」昭和堂
小笹大道「教師道を磨く「二人の師」から学んだ思いと実践」PHP研究所

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習して下さい。なお、授業の後半には、現職教員（恩師など）へ各自がインタビュー調査を実施します。

将来、教師になるという強い意志を持って取り組んで下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　黒澤寛己研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教師になることの意味**	教師に求められる力量について調べてまとめる	4時間

	教師論で学ぶ内容を理解する。 教師になることの意味を考える。 教員の資質とは何かを考察する。		
第2回	**現職教師の現状** 現職教師の現状を理解する。 教育現場の課題について理解する。	大学における教員養成について調べてまとめる。	4時間
第3回	**教員養成教育のカリキュラムの基本枠組み** 教員養成カリキュラムの基本的枠組みを理解する。	教員養成教育の概略と現状の問題点を検討しまとめる	4時間
第4回	**教師像の変遷と教師論** 教師像の変遷について理解する。	教師像を示す典型的な書物を一冊読み、感想文を書く	4時間
第5回	**教員養成制度** 現行制度化の教員養成について理解する。 改訂された教員養成カリキュラム・教員養成制度について理解する。 教育実習の位置づけと内容について理解する。	現行の教員養成制度について理解する。	4時間
第6回	**教員採用制度** 選考としての教員採用制度のその実態を理解する。	各自が受験する都道府県が求める教師 像を調べ、自分に不足している力を検討する	4時間
第7回	**教員研修の意義と制度** 教員研修の意義と法制度について理解する。 教員研修の種類と体系について理解する。 初任者研修制度について理解する。 教員免許更新講習制度について理解する。	教員研修制度の実態を調べてまとめる	4時間
第8回	**学校における教職員の多様化と協働** 学校における教職員の多様化と協働について理解する。 事例研究（生徒指導）	学校における教員の仕事について調べてまとめる	4時間
第9回	**教師の職務** 教師の職務の多面性について理解する。 事例研究（学級担任・学級経営）	公務員としての教師の仕事を調べてまとめる	4時間
第10回	**教師の日常世界** 教師のキャリアプロセスについて理解する。 事例研究（進路指導）	教師の日常的業務の多様性について調べてまとめる	4時間
第11回	**教師の葛藤と発達** 教師の葛藤、成長・発達とは何かを理解する。 教師の発達と学校組織としての取り組みを理解する。 事例研究（主任業務）	教師のキャリアプロセスについて調べてまとめる	4時間
第12回	**教師の専門性と力量①** 教師の資質、専門性を理解する。 事例研究（授業実践）	教師の専門性について調べてまとめる	4時間
第13回	**教師の専門性と力量②** 教育実践の協働と専門性の変容について理解する。 事例研究（部活動指導）	体育教師の専門性と求められる力量について調べてまとめる	4時間
第14回	**学校経営** 学校経営の変化について理解する。 事例研究（教育目標）	担任業務や管理職の業務について調べてまとめる	4時間

SP-4018-3-2

授業科目名	教育制度論（教育制度論）				
担当教員名	松本　圭将				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

私たちはこれまで、その場所、その学校によってさまざまな学校教育を受けてきた。しかし一方で、どの学校にも共通する内容もある。それは、学校教育がその国・地域の教育制度に基づいて展開されているからである。本講義では、こうした公教育を支える諸制度の仕組みを扱うとともに、学校と地域の連携や、学校安全に関する理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	公教育制度の意義や原理、構造に関する知識	公教育制度の法的、制度的仕組みについて説明することができる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	社会の変化に合わせた教育制度の創造	学校教育制度のみならず、生涯学習に関する制度を含めて、これからの社会に必要な制度を創造することができる。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教育に関わるものとしての自覚や誇り	教育制度が抱える社会的役割を理解することを通して、教員などとして教育に関わるものとしての自覚や誇りを身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加状況	42%	： 毎回提出するリフレクションペーパーおよびディスカッション等への参加で評価する（3点×14回）。
レポート（授業内発表資料）	58%	： 第13回、第14回目の授業で行う発表の内容を、自分で調べた内容を含め、公教育制度に対する理解を深め、自分なりの考えを確立できているかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高見茂他編著『教育法規スタートアップver．3．0　教育行政・政策入門 』昭和堂、2015年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業終了後
場所：　教室

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション：教育制度とは何か** 教育制度とは何なのか、その意味を考える。あわせて、講義の進め方や評価の方法について理解する。	他者の学校教育制度と、自身が受けてきた学校教育制度との類似点と相違点を、講義の復習とあわせてまとめておくこと。	4時間
第2回	**現代日本の公教育制度** 日本の教育制度の特徴について、諸外国の教育制度と比較することで理解する。	諸外国の教育制度と比較をとおして認識できた日本の教育制度の特殊性について、講義の復習とあわせてまとめておくこと。	4時間
第3回	**教育制度の歴史的展開** 教育制度が諸外国や日本においてどのように展開してきたのかを学ぶ。	教育制度の歴史的展開について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第4回	**教育制度を支える法規と学校教育** 学校教育に関する法規を学ぶ。	学校教育に関する法規について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第5回	**教育制度を支える法規と教育課程** 教育課程に関わる法規を学ぶとともに、学習指導要領について理解を深める。	教育課程に関する法規について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第6回	**教育制度を支える法規と社会教育・生涯学習** 社会教育・生涯学習に関する法規を学ぶ。	社会教育・生涯学習に関する法規について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第7回	**学習機会の保障と教育制度（１）　夜間中学校** 何らかの理由で学習機会を得ることができなかった人々に対して、教育制度がいかなる学習機会を保障しているのかを学ぶ。第7回目では、夜間中学校について歴史的展開とその現状を学ぶ。	夜間中学校について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第8回	**学習機会の保障と教育制度（２）　定時制高校・職業訓練校** 何らかの理由で学習機会を得ることができなかった人々に対して、教育制度がいかなる学習機会を保障しているのかを学ぶ。第8回目では、定時制高校や職業訓練校について歴史的展開とその現状を学ぶ。	定時制高校・職業訓練校について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第9回	**社会人の「学び直し」と教育制度** 現代社会では学齢期を終えた後も学習を続けていく必要性が主張されている。社会人の「学び直し」に関してどのような教育制度が整備されているのか、その現状と課題を考える。	社会人の「学び直し」について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第10回	**現代的課題と教育制度（１）　経済的課題について** 学校教育制度と現代的問題、特に貧困や格差問題との関係について、統計的データを用いつつ理解を深める。	貧困・格差問題と教育制度について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第11回	**現代的課題と教育制度（２）　いじめ・不登校について** 学校教育制度と現代的課題、特にいじめや不登校との関係について、統計的データを用いつつ理解を深める。	いじめ・不登校について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第12回	**学校教育制度と諸問題に関する調べ学習** 学校教育制度に関して、自身が興味を持ったテーマについて調べる。	発表会に向けた資料を作成する。	4時間
第13回	**学校教育制度と諸問題に関する発表会（前半）** 学校教育制度に関して調べたことを発表し、その内容について他の受講者と意見を交わし、多角的な理解を深める。	前半の発表者の発表内容に関する教育制度とその諸問題、それに対する自身の意見をまとめておくこと。	4時間
第14回	**学校教育制度と諸問題に関する発表会（後半）** 学校教育制度に関して調べたことを発表し、その内容について他の受講者と意見を交わし、多角的な理解を深める。	後半の発表者の発表内容に関する教育制度とその諸問題、それに対する自身の意見をまとめておくこと。	4時間

SP-4019-2-2

授業科目名	生涯教育論（生涯教育論）				
担当教員名	松本　圭将				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

今日、私たちを取り巻く社会はめまぐるしく変化している。そうした変化に対応するためにも、私たちは常に学び続けることが求められている。本講義では、生涯学習についての理論を学ぶとともに、私たちの「生涯にわたる学び」を充実させるより良い生涯学習社会のあり方について、諸外国の事例を踏まえながら検討する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	生涯教育／生涯学習についての新しい思想や方法、理念の創造	教育という営みが学校にとどまっていられない社会的現実を理解したうえで、生涯教育／生涯学習に関する思想や理念、あるいは方法に関する既存の議論を更新する力を身に付ける。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教育に関わるものとしての自覚や誇り	生涯教育／生涯学習に求められる社会的な役割を理解することを通して、教員などとして教育に関わるものとしての自覚や誇りを身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加状況（小レポート） 42%	：	毎回提出するリフレクションペーパーおよびディスカッション等への参加で評価する（3点×14回）。
最終レポート 58%	：	授業終了後にレポートを課す。自分で調べた内容を含めて、生涯学習に対する理解を深め、自分なりの考えを確立できているかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

渡邊洋子編著(2014)『生涯学習概論－知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』ミネルヴァ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業終了後
場所：　教室

授業計画　　授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション：生涯学習とは何か** 生涯学習の意義について概説する。あわせて、講義の進め方や評価の方法について詳細を説明する。	生涯学習と聞いて何をイメージするか考えておく。	4時間
第2回	**生涯学習の基礎（１）　概念と語句** 生涯学習に関する概念や語句を整理する。	生涯学習に関する概念や語句について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第3回	**生涯学習の基礎（２）　制度と施設** 生涯学習に関する日本の制度や施設について学ぶ。	生涯学習に関する制度や施設について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第4回	**生涯学習論の生成と日本での展開** OECDにおける生涯学習論の生成と、その日本への流入・展開について学ぶ。	生涯学習論の展開について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第5回	**生涯学習の理論（１）　P.ラングランの「成人教育論」** P.ラングランの「成人教育論」を学ぶことを通して、学習者としての成人と子どもの違いについて考える。	「成人教育論」について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第6回	**生涯学習の理論（２）　J.メジローの「変容学習論」** J.メジローの「変容学習論」を学ぶことを通して、「学習」とは何かを考える。	「変容学習論」について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第7回	**生涯学習の理論（３）　P.フレイレの識字教育** P.フレイレが『被抑圧者の教育』において示した諸理論を学び、「教育」という営みに関する見識を深める。	P.フレイレの理論について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第8回	**子どもの現代的課題と生涯学習** 子どもの現代的課題として貧困と地域社会の衰退を取り上げ、それらの課題と向き合っている生涯学習事業である「子ども食堂」の実践について学ぶ。	「子ども食堂」について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第9回	**青年の現代的課題と生涯学習** 青年の現代的課題として「居場所」の喪失を取り上げたうえで、「居場所」の喪失と向き合っている「たまり場」づくり事業や「居場所」づくり事業の歴史的展開と現状を学ぶ。	「居場所」づくり事業について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第10回	**働く人々と生涯学習（１）　働く人々の生活・生涯** 働く人々の生活・生涯の充実において、「学ぶ」という営みはどのような役割を果たしうるのかを考える。第10回目ではまず、働く人々の生活・生涯はどのような場面で構成されているのか、働く人々にはどのような学習機会があるのかを学ぶ。	働く人々の生活・生涯について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第11回	**働く人々と生涯学習（２）　働く人々の学習機会** 働く人々の学習機会を学校教育（夜間中学校・定時制高校・通信制大学）と社会教育（「労働学校」）に分けたうえで、それぞれの果たしうる役割を考える。	働く人々の学習機会について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第12回	**障がいと生涯学習** 障がいを持つ人々の生涯学習の機会を学ぶ。	障がい者の学習機会について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第13回	**生涯教育に関する発表会（前半）** 生涯教育に関して、各自の関心に基づいて調べたことを発表し、その内容について他の受講者と意見を交わし、多角的な理解を深める。	前半の発表者の発表内容（生涯教育）に対する自身の意見をまとめておく。	4時間
第14回	**生涯教育に関する発表会（後半）** 生涯教育に関して各自の関心に基づいて調べたことを発表し、その内容について他の受講者と意見を交わし、多角的な理解を深める。	後半の発表者の発表内容（生涯教育）に対する自身の意見をまとめておく。	4時間

SP-4020-2-2

授業科目名	教育心理学（教育心理学）				
担当教員名	多賀谷　智子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校での学級経営，教科指導，生徒指導に関する実践経験，および通級指導教室担当として発達障害児童生徒への指導，保護者・担任への教育相談等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

教師が行う学習指導や生徒指導を効果的に進めていく上で知っておくことが求められる、子どもの心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。そして、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。さらに、発達障害を含む障害をもつ子どもの特徴や指導・援助のあり方についての理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	児童・生徒の心身の発達の過程	児童・生徒の心身の発達の過程について理解することができる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	児童・生徒の学習に関する基礎的知識	児童・生徒の学習に関する基礎的知識を身に付けることができる。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	児童・生徒の学習の過程	児童・生徒の発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

本科目では毎回授業の最後に、講義内容に関する課題シートを提出しなければならない。これは、授業者が授業内容の理解度を把握すると共に、受講者は授業内容を整理し、論理的にまとめる練習にもなる。そして、後半の授業では、記述したレポートを題材として、ルーブリックに基づく評価実習を行う。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内小レポート・小テスト 70%	：	各回5点×14回　課題内容を理解しているか、及び適切に論じることができているかで評価する。
自己評価実習（必須課題） 30%	：	ルーブリックに基づいて自分のレポート課題を自己評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「コアカリキュラムで学ぶ教育心理学」（ 杉森伸吉共編著・松尾直博共編著・上淵寿共編著，2020)培風館
「教育心理学の最前線」（斎藤冨由起・守谷賢二，2019）八千代出版
「あなたと創る教育心理学」（羽野ゆつ子・倉盛美穂子・梶井芳明，2017）ナカニシヤ出版
「学習指導要領」文部科学省
その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は教職必修科目なので、教員免許状取得希望者は必ず受講すること。
「介護等体験」、「教育実習」を履修するためには、この科目が履修済みであること(ゲート科目)
受講生へのメッセージ
この授業では、学習指導や生徒指導を効果的に進めていく上で理解しておくことが必要な子どもの成長・発達および学習に関するさまざまな知見について提供します。内容は、教育心理学や発達心理学、学習心理学、障害児教育学等多岐にわたっています。これまでの経験や、教育、子どもに対する関心をベースに、今後の教育実践に役立つ心理学知識を一つ一つ確実に身に着けていきましょう。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：　研究室B２０８

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育心理学とは** ・教育心理学の内容と方法、授業の概要及び到達目標、評価基準について知る。 ・児童・生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用（学習説、成熟説、輻輳説）について学ぶ。 ・発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念、及び発達を理解することの意義について学ぶ。	生まれてから今日まで、自身の成長を発達の視点で振り返る。	4時間
第2回	**子どもの育ちの多様性（発達の心理学）** ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達について学ぶ。	ピアジェの理論と学校制度の関連についてまとめる。	4時間
第3回	**自己の発達と心理的適応** ・乳幼児期から青年期の各時期における心理社会的発達について学ぶ。	エリクソンの理論にもとづいてこれまでの自身の発達についてまとめる。	4時間
第4回	**社会性の発達，道徳性発達理論** ・乳幼児期から青年期の各時期における社会性の発達について学ぶ。	生まれてから今日までの社会性の発達について振り返る。家族や周りの人にも聞く。	4時間
第5回	**行動主義的学習観　レスポンデント条件付け** ・様々な学習の形態や概念について学ぶ。 ・レスポンデント条件付けについて学ぶ。	レスポンデント条件付けの具体例について考える。	4時間
第6回	**行動主義的学習観　オペラント条件づけ** ・オペラント条件づけについて学ぶ。 ・観察学習について学ぶ。	どのようにほめられるとよかったでしょうか。振り返って考える。	4時間
第7回	**記憶の発達** ・記憶の多重貯蔵モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）について学ぶ。 ・乳幼児期から青年期の各時期における記憶の発達について学ぶ。	今まで行ってきた記憶の方略について、書き出して、まとめる。レスポンデント条件付けの具体例について考える。	4時間
第8回	**主体的学習を支える学習の理論・形態と過程** ・主体的学習を支える学習の理論・形態とその過程について学ぶ。	今までの学びを振り返る。	4時間
第9回	**主体的な学びにつながる学習意欲（動機づけ理論）** ・日本の子どもの課題について知る。 ・主体的学習を支える動機づけ・学習意欲の在り方について、発達の特徴と関連付けて学ぶ。	外発的動機付けから内発的動機付けに変化したことについて書き出してまとめる。	4時間
第10回	**主体的学習を支える評価・測定①** ・学習評価の分類（規準・基準、相対評価・絶対評価、評価の役目、評価者）、学習過程を評価する方法について学ぶ。	あなたが受けてうれしかった教育評価についてまとめる。	4時間
第11回	**主体的学習を支える評価・測定②** ・パフォーマンス評価について、ルーブリック評価と関連付けて学ぶ。	これからの学習評価の在り方について考える。	4時間
第12回	**主体的・対話的な深い学び** ・メタ認知、自己調整学習について学ぶ。	主体的な学習活動を支える要因についてまとめる。	4時間
第13回	**学級集団という関係性の中での学び** ・学校不適応の様相について学ぶ。 ・主体的学習を支える学級集団づくりの在り方について、発達の特徴と関連付けて学ぶ。	今まで学んできたことを教育現場においてどのように活用できるかまとめる。	4時間
第14回	**まとめ、今日的な教育課題について考える** ・幼児、児童・生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ ・学校現場での今日的な教育課題について理解し、学んできたことをいかに活用していくかを考える。	どのような教師になりたいか、まとめる。	4時間

SP-4021-2-2

授業科目名	**特別支援教育論（特別支援教育論）**				
担当教員名	多賀谷　智子				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校での学級経営，教科指導，生徒指導。通級指導教室担当として発達障害児童生徒への指導。指導教諭として他の教員への特別支援教育に関する指導・助言。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により、特別の支援を必要とする児童・生徒の学習上又は生活上の困難を理解する。そして、それぞれの個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について理解する。さらに、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるような支援について考えを深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	特別の支援を必要とする児童・生徒の障害特性	特別の支援を必要とする児童・生徒の障害特性について理解することができる。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	特別の支援を必要とする児童・生徒に対する支援方法	特別の支援を必要とする児童・生徒に対する支援方法を身に付ける。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	特別の教育的ニーズのある児童・生徒への支援	障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒への学習上、生活上の困難とその対応について身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

本科目では毎回授業の最後に、講義内容に関する課題シートを提出しなければならない。これは、授業者が授業内容の理解度を把握すると共に、学生にとっては論理的文章を書く練習にもなる。そして次回の授業の最初に、その中から適切なものを紹介しコメントすることで、前回授業の振り返りを行う。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト・小レポート	70%	：各回5点×14回　講義内容の基礎的知識を確認する。
発表	16%	：課題に対して調べ、相手にわかりやすく説明する。
ピア評価	14%	：発表に対する評価、コメントを適切に行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「高等学校教員のための特別支援教育」（大塚玲編著，2020）萌文書林
「インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門」（大塚玲編著，2019）萌文書林
「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省，2018）
その他の参考文献については開講時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は特別支援教育全般についての知識理解と教師として重要な「インクルーシブな共生社会」の実現を積極的に担う人材を育成することを目的としており、常に教育をめぐる事象や動向に関心を持つことが大切である。また、与えられた事前課題や次回の授業に向けた予習に取り組むと共に、授業中は自分の考えを発表するなど、積極的に授業に参加することにより、到達目標の達成を目指している。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：　研究室B２０８

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**特別支援教育の理念と基本的な考え** オリエンテーション ・授業概要と到達目標・評価方法について知る。 ・自身の障害に対する知識や理解度を確認する。 ・特別支援教育とは何かについて考え、その理念と基本的な考え方について知る。	自分が学んできた特別支援教育について振り返る。我が国の特別支援教育の歩みと滋賀県の特別支援教育の現状について調べる。	4時間
第2回	**特別支援教育の制度とインクルーシブ教育システム** ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて学ぶ。 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容について学ぶ。	特別支援教育の現行制度とインクルーシブ教育システムについてまとめる。	4時間
第3回	**特別支援教育の仕組み** ・特別支援教育コーディネーターの役割と意義を理解する。 ・支援体制を構築することの必要性について学ぶ。 ・個別の指導計画・個別の教育支援計画についての理解を深める。	ADHD(注意欠如多動性障害)の特性について調べる。	4時間
第4回	**ADHD（注意欠如多動性障害）のある児童・生徒の理解と支援** ・ADHD（注意欠如多動性障害）の児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。 ・ADHD（注意欠如多動性障害）の児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。	LD(学習障害)の特性について調べる。	4時間
第5回	**LD（学習障害）のある児童・生徒の理解と支援** ・LD（学習障害）の児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。 ・LD（学習障害）の児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。 ・ユニバーサルデザイン化のための環境づくり・授業づくりについて知る。	自閉症スペクトラムの特性について調べる。	4時間
第6回	**自閉症スペクトラムの児童・生徒の理解と支援** ・自閉症スペクトラムの児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。 ・自閉症スペクトラムの児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。 ・児童・生徒の不適切な行動への対応方法について学ぶ。	視覚障害について調べる。	4時間
第7回	**視覚障害のある児童・生徒の理解と支援** ・視覚障害のある児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。 ・視覚障害のある児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。	聴覚障害について調べる。	4時間
第8回	**聴覚障害のある児童・生徒の理解と支援** ・聴覚障害のある児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。 ・聴覚障害のある児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。	肢体不自由について調べる。	4時間
第9回	**肢体不自由のある児童・生徒の理解と支援** ・肢体不自由の児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。 ・肢体不自由のある児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。 ・バリヤフリー、ユニバーサルデザインなどの用語及び理学療法士、作業療法士について理解を深める。	病弱の特性について調べ、支援方法について考える。	4時間
第10回	**病弱の児童・生徒の理解と支援** ・病弱の児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。 ・病弱の児童・生徒に対する支援方法及び教育の場について学ぶ。 ・病弱の児童・生徒を支える家族の心情について理解を深める。	知的障害の特性について調べる。	4時間
第11回	**知的障害のある児童・生徒の理解と支援** ・知的障害ある児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。 ・知的障害ある児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。 ・アセスメントの方法及びアセスメントに基づく支援方法について学ぶ。	母語の問題等による学習上・生活上の困難について調べる。	4時間
第12回	**外国につながる児童・生徒の理解と支援** ・母語の問題等により特別の教育的ニーズのある児童・生徒の学習上・生活上の困難についての理解を深める。 ・組織的な対応の必要性を理解する。	貧困の問題等による学習上・生活上の困難について調べる。	4時間
第13回	**貧困家庭の児童・生徒の理解と支援** ・貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある児童・生徒の学習上・生活上の困難についての理解を深める。 ・組織的な対応の必要性を理解する。	関係機関について調べる。	4時間
第14回	**関係機関・家庭との連携** ・関係機関の役割と意義を理解する。 ・関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解を深める。	今まで学んできた知識を学校現場でどのように活用できるかまとめる。	4時間

SP-4022-2-2

授業科目名	教育課程論（教育課程論）				
担当教員名	全　京和				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。	教育課程が社会において果たしている役割や機能を例示できる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。	長期的な視野から学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することができる。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解し、説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取組状況・履修内容の定着と深化 50%	：	授業外学習として毎回の授業で指定した課題の内容に基づいて評価する。
学期末試験 50%	：	教育課程の意義や学習指導要領の歴史的変遷等、教育課程に関する事項を修得しているかに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省『学習指導要領』（平成29年3月公示）
田中耕治ほか編著（2011）『新しい時代の教育課程 第３版』有斐閣
その他の参考文献については、毎回紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・この授業では毎回、PCを持参すること。
・第1回にて、講義の進め方や評価の方法について詳しく説明する。受講を希望する場合は必ず出席すること。
・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。詳細は毎回指示する。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問等がある場合は、メールにて受け付けます（zen@g.bss.ac.jp）。
メールには必ず氏名と所属を明記してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　―「教育課程」と「カリキュラム」** 教育課程について学ぶ意義を考え、教育課程とカリキュラムの概念を整理する。併せて、講義の進め方や評価の方法、その他の留意事項について詳細を説明する。	シラバスを読んでおく。「教育課程」と「カリキュラム」の概念についてまとめる。	4時間
第2回	**「教育課程」と「学習指導要領」** 教育課程を編成する際の基準となる学習指導要領について学ぶ。	教育課程と学習指導要領について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第3回	**学習指導要領の変遷** 学習指導要領の改訂がどのように行われてきたのかについて時代的背景とともに学ぶ。	学習指導要領の各改訂の要点をまとめる。	4時間
第4回	**新しい学習指導要領** 平成29年公示の新しい学習指導要領について、改訂ポイントを中心に学ぶ。	新しい学習指導要領と現行の学習指導要領との共通・相違についてまとめる。	4時間
第5回	**教育課程編成の思想** 教育課程の編成にかかわる様々な教育観（主義）について学ぶ。	各教育観の関係性や特徴について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第6回	**学力調査の教育課程改革への影響** 国際学力調査（PISAやTIMSS）や、国内学力調査（全国学力・学習状況調査）の結果がどのように学力観の形成に影響を及ぼしてきたのかについて学ぶ。	最新の国際学力調査と国内学力調査の結果について調べ、成果と課題をそれぞれまとめる。	4時間
第7回	**教育課程の行政** 教育課程にかかわる行政の構造、法体系、教科書検定制度などについて学ぶ。	教育課程に関する法の原文にあたる。	4時間
第8回	**教育課程の編成** 教育課程の構成要件と基本原則について学ぶ。	教育課程の編成主体、方法・手順、留意すべき点について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第9回	**教育課程編成の実際** 小・中・高と特別支援教育の学習指導要領と教育課程について学ぶ。	各教育段階の学習指導要領と教育課程について要点をまとめ、特徴について理解する。	4時間
第10回	**教育課程と評価** 教育課程における評価の意義と役割を理解し、方法としての量的な評価と質的な評価について学ぶ。	量的・質的評価の可能性と限界について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第11回	**教科外活動の教育課程** 教科外活動の教育課程に関する内容と新しいかたちについて学ぶ。	教科外活動の教育課程について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第12回	**学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関係** 教育課程との関連性から、日本型学級経営の特徴や生徒指導の機能などについて学ぶ。	教育課程と学校・学級経営について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第13回	**教育課程とカリキュラム・マネジメント** 特色のある学校づくりとカリキュラム・マネジメントの考え方と進め方について学ぶ。	関連の取り組みが行われている事例校について調べる。	4時間
第14回	**総括と教育課程をめぐる現代的な課題** 授業の総括を行い、学力問題、キャリア教育、一貫教育、外部資源活用のような教育課程をめぐる現代的な課題について理解する。	授業の配布資料を整理し、全体的な流れを意識しながら復習する。	4時間

SP-4023-2-2

授業科目名	道徳の指導法（道徳の指導法）				
担当教員名	俵谷　好一				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	昭和51年4月から平成7年3月まで大阪市立小学校教諭として、特に体育科教育の実践及び研究に励む。				

授業概要

本科目では、学校における道徳教育の今日的なあり方について考察し、「特別の教科　道徳」の目標と内容の把握、さらには具体的な指導法について理論と方法の両面にわたって学修する。そして、教育現場で実際に担当することをめざす学生に、必要とされる実践的な指導に関する基礎的力量を培う。とりわけ、道徳教育の要としての「特別の教科　道徳」の目標と内容について理解した上で、子どもが「考え、議論する」質の高い授業を展開するための方法を多面的・多角的に追究する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	「道徳科」の授業の実践的な力量を養う	「道徳科」の授業を創造し、展開することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業における関心・意欲・態度 20%	：	積極的に授業に参加し、自分の意見を論理的に発表する。
各回の講義振り返りシートの作成 40%	：	本科目では、毎回授業の最後に講義内容に関する振り返りシートを作成し、自分の考えを論理的に文章表現できる。
課題レポートの作成 40%	：	課題に対して論考するために必要な知識を身につけると共に、自分の考えを論理的に述べる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　特別の教科　道徳編	教育出版	2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後
場所：　授業実施教室

備考・注意事項： 事前に先生のメルアドに予約が必要。Eメール:k-hyotani@jonan.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　道徳教育と自己の教育体験の省察** 自己の道徳教育に関する教育体験を振り返り、道徳性を育む教育活動全体のあり方を考える。	専用ノートを用意し、学修内容について整理すること。	4時間
第2回	**道徳教育の課題と展望(1) －特別の教科　道徳」の目標と学習内容の理解－** 道徳教育の体験についてグループ内で意見交換し、「特別の教科　道徳」の目標、学習内容を理解する。	本時のグループ協議を思い起こし、学修内容を整理すること。	4時間
第3回	**道徳教育の課題と展望(2) －自己の道徳授業体験をもとにめざす道徳教育の構想－** グループ内で構想した道徳の授業内容を全体に提案し、めざす道徳授業を構想する。	発表内容を整理して、自己のめざしたい授業の構想をまとめておくこと。	4時間
第4回	**教材研究と授業の展開** 代表的な読み物教材をてがかりに、教材研究と授業展開の実際を体験する。	本時の学修内容を振り返り、より質の高い授業構想をまとめておくこと。	4時間
第5回	**学習指導要領と道徳教育(1) －学習指導要領における道徳教育の変遷について－** 道徳教育の歴史を概観し、学習指導要領における道徳教育の変遷について学修する。	道徳の歴史的変遷について整理し、「特別の教科　道徳」の目標、内容を精読しておくこと。	4時間
第6回	**学習指導要領と道徳教育(2)－特別の教科　道徳」の教科化と背景の把握－** 「教科化」の背景を把握し、学習指導要領「特別の教科　道徳」の目標と内容について考察する。	学修内容を振り返り、「特別の教科　道徳」の目標、内容をより一層理解を深めること。	4時間
第7回	**道徳教育と人権教育** いじめ問題などの人権課題について、道徳教育とその授業のなかで「考え、議論する」実践方法を探求する。	いじめの定義、実態、自己体験について、事前に整理し、課題解決の方法を考えておくこと。	4時間
第8回	**道徳科の授業デザイン** 「モデル教材」をてがかりにして、多面的多角的に考える道徳科の授業をデザインする。	学習指導案(略案)の作成に向けて、事前に読み物教材を選択しておくこと。	4時間
第9回	**道徳科の授業内容の内容と展開(1) －読み物教材をもとにした学習指導案の作成－** 読み物教材をもとにして学習指導案(略案)の作成をおこない、授業づくりの方法について体験的に学修する。	選択した読み物教材をもとに、学習指導案(略案)の作成の準備をしておくこと。	4時間
第10回	**道徳科の授業内容の内容と展開(2) －作成した学習指導案の導入部分の発表－** 各自が作成した学習指導案(略案)をもとにグループ内で、主に「導入」の工夫とその意味を発表する。	各自が作成した学習指導案(略案)をもとにグループ内で「導入部分の工夫」の発表を準備しておくこと。	4時間
第11回	**道徳科の授業内容の内容と展開(3) －作成した学習指導案の展開部分の発表－** 各自が作成しと学習指導案(略案)をもとにグループ内で、主に「展開・中心発問」の工夫とその意味を発表する。	各自が作成しと学習指導案(略案)をもとにグループ内で「展開部分の工夫」の発表を準備しておくこと。	4時間
第12回	**道徳科の授業内容の内容と展開(4) －作成した学習指導案の終末部分の発表－** 各自が作成した学習指導案(略案)をもとにグループ内で、主に「終末」の工夫とその意味を発表する。	各自が作成した学習指導案(略案)をもとにグループ内で「終末部分の工夫」の発表を準備しておくこと。	4時間
第13回	**道徳科の授業と授業者の考察** 道徳科の授業展開について総合的に省察して、子どもがアクティブに深く学ぶ授業のあり方を追究する。	道徳科の授業展開について総合的に省察して、子どもがアクティブに深く学ぶ授業のあり方を考えておくこと。	4時間
第14回	**道徳科の授業実践に求められるもの** これからめざすべき道徳の授業とはどのようなスタイルを有するものなのかについて総括する。	これからめざすべき道徳の授業とはどのようなスタイルを有するものなのかについて考えておくこと。	4時間

SP-4024-3-2

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法（総合的な学習の時間の指導法）				
担当教員名	張　潔麗				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、近年重要性を増している「総合的な学習の時間」について、その理念・目標を理解するとともに、それを踏まえて実際の授業案を作成する。そのために、まず「総合的な学習の時間」の理念等に関する講義を行い、続いて実際全国の学校で行われている授業実践の紹介、それらを踏まえたうえでの受講者間でのワークショップを行うことで「総合的な学習の時間」に関する理解を深める。最後に、それまでに得た知識を総合的に用いて、グループで総合的な学習の時間の単元を構想する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	総合的な学習の時間の基本的理念	総合的な学習の時間の基本的理念、目標、内容について理解できる。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教員としての自覚	変化の激しい時代を生きる教員に必要な能力を自覚できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
最終レポート	58%	： 授業終了後、1000字程度のレポート課題を課す。授業内容について、自分で調べた内容を含めて、理解を深め、自分なりの考えを確立できているかという観点から評価する。
授業内の小レポート	42%	： 授業内に小レポートの作成を毎回実施する（14回×3点＝42点）。課題にきちんと答えられているかどうかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

森田真樹・篠原正典編著『総合的な学習の時間』ミネルヴァ書房、2018。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜2限
場所：　第2ホール

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：総合的な学習の時間の意義と導入経緯** 授業の流れについて理解するとともに、総合的な学習の時間の意義と導入経緯について理解する。	総合的な学習の時間の意義と導入経緯に関する配布資料を熟読する。	4時間

第2回	**総合的な学習の時間に育む資質・能力** 学習指導要領をもとにして、総合的な学習の時間に育むべき資質・能力を理解する。	総合的な学習の時間に育む資質・能力に関する配布資料を熟読する。	4時間
第3回	**総合的な学習の時間の年間指導計画** 総合的な学習の時間の年間指導計画について、事例をもとに学ぶ。	総合的な学習の時間の年間指導計画に関する配布資料を熟読する。	4時間
第4回	**単元構成の方法と探求的な見方・考え方の指導** 単元構成の方法と探求的な見方・考え方の指導について、理論と実際を往還しながら学ぶ。	単元構成の方法と探求的な見方・考え方の指導に関する配布資料を熟読する。	4時間
第5回	**総合的な学習の時間の事例①ー現代的課題に対応した授業実践** 総合的な学習の時間には、様々なテーマの設定が想定されている。その中でも、「国際理解、情報、環境、福祉・健康」などの現代的課題をテーマにした授業実践を検討する。	配布資料を熟読するとともに、現代的課題に対応した授業実践を自分で検索する。	4時間
第6回	**総合的な学習の時間の事例②ー地域や学校の特色に応じた課題** 総合的な学習の時間には、様々なテーマの設定が想定されている。その中でも、地域や学校の特色に応じた課題をテーマにした授業実践を検討する。	配布資料を熟読するとともに、地域や学校の特色に応じた課題に対応した授業実践を自分で検索する。	4時間
第7回	**総合的な学習の時間の事例③ー職業や自己の進路に関する課題** 総合的な学習の時間には、様々なテーマの設定が想定されている。その中でも、職業や自己の進路に関する課題をテーマにした授業実践を検討する。	配布資料を熟読するとともに、職業や自己の進路に関する課題に対応した授業実践を自分で検索する。	4時間
第8回	**総合的な学習の時間のカリキュラム開発（1）：クローズドテーマのワークショップ** 総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行う。この時間では、クローズドテーマのワークショップを行う。	ワークショップで出た意見等を整理し、カリキュラムに関する考えを深める。	4時間
第9回	**総合的な学習の時間のカリキュラム開発（2）：オープンテーマのワークショップ** 総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行う。この時間では、オープンテーマのワークショップを行う。	ワークショップで出た意見等を整理し、カリキュラムを完成させる。	4時間
第10回	**総合的な学習の時間の単元づくり（1）：テーマ設定のグループワーク** 総合的な学習の時間の単元を、グループに分けて実際に作ってみる。この回では、テーマ設定を行う。	グループでの話し合いを整理し、自分なりのテーマ設定を行う。	4時間
第11回	**総合的な学習の時間の単元づくり（2）：単元展開案のグループワーク** 引き続き、総合的な学習の時間の単元をグループで作成する。この回では、単元展開について考える。	グループでの話し合いを整理し、自分なりの単元展開を行う。	4時間
第12回	**総合的な学習の時間の単元づくり（3）：指導計画と評価計画のグループワーク** 総合的な学習の時間の単元を作り終える。この回では、指導計画と評価計画をグループでたてる。	グループでの話し合いを整理し、自分なりに指導計画・評価計画を考える。	4時間
第13回	**単元構想のプレゼンテーション（グループ発表）①前半** 前回までに構想した、総合的な学習の時間の単元を発表する。	発表したグループの意見を聞き、自分の考えを深める。発表したグループは、聴衆から出た意見を作成した単元に反映させる。	4時間
第14回	**単元構想のプレゼンテーション（グループ発表）②後半** 前々回までに構想した、総合的な学習の時間の単元を発表する。	発表したグループの意見を聞き、自分の考えを深める。発表したグループは、聴衆から出た意見を作成した単元に反映させる。	4時間

SP-4025-3-2

授業科目名	特別活動論（特別活動論）				
担当教員名	俵谷　好一				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	昭和51年4月から平成7年3月まで大阪市立小学校教諭として、特に体育科教育の実践及び研究に励む。				

授業概要

学習指導要領「特別活動」の目標と内容を理解し、各内容や学年の特性に応じた諸活動の推進に必要な知識・技能を修得することを目的とする。また、他教科、道徳科、総合的な学習の時間などとの関連についても実践的に理解できることをめざす。「学級活動(ホームルーム活動)」の推進についての重要性から「学級づくり」「集団づくり」と併せて中心的に探究する。「生徒会活動」「学校行事」の内容については教育現場の特色ある実践を調べ、実践力、創造力を身につけることを目的とする。その中で、いじめ問題克服の課題について考察を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	特別活動は特に「学級活動」(ホームルーム活動)」の重要性について実践的な理解を深める。	特別活動の実践について自己の創造的な考えが表明できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業における関心・意欲・態度 20%	：	積極的に授業に参加し、自分の意見を論理的に発表する。
各回の講義振り返りシートの作成 40%	：	本科目では、毎回授業の最後に講義内容に関する振り返りシートを作成し、自分の考えを論理的に文章表現できる。
課題レポートの作成 40%	：	課題に対して論考するために必要な知識を身につけると共に、自分の考えを論理的に述べる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学修指導要領(平成29年告示)解説　特別活動編	・ 東山書房	・ 2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業実施教室

備考・注意事項：　事前に先生のメルアドに予約を必要とする。Eメール:k-hyotani@jonan.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　教育課程における「特別活動」の特質と意義** 教育課程における特別活動の特質と意義について学ぶ。	学修内容を自己体験を踏まえて整理すること。	4時間
第2回	**「特別活動」の変遷と学習指導要領「特別活動」の目標と内容** 特別活動の変遷と特別活動の目標・内容を理解する。	学習指導要領「特別活動編」の目標と内容について精読し、本時の学修内容を整理すること。	4時間
第3回	**「学級活動(ホームルーム活動)」と集団づくり(1)　-集団づくりの意味と学級びらき-** 学級づくりの意味を理解し、学級びらきについて実践的に学ぶ。	学級びらきをイメージし、その意味と学級担任の役割を整理すること。	4時間
第4回	**「学級活動(ホームルーム活動)」と集団づくり(2) -生徒がつながる学級集団づくり-** 教師と生徒、生徒間の望ましい関係性について考える。	教師と生徒、生徒間の関係づくりを整理しておくこと。	4時間
第5回	**「学級活動(ホームルーム活動)」と集団づくり(3) -生徒理解の多様性と集団づくり-** 生徒理解について考察する。	生徒の多様性につて理解したことを整理しておくこと。	4時間
第6回	**「学級活動(ホームルーム活動)」と集団づくり(4) -生徒の仲間意識と集団づくり-** 生徒の良好な仲間意識について考える。	学修内容を整理し、めざす学級集団について構想を考えておくこと。	4時間
第7回	**「いじめ」を許さない集団を形成するために(1) -いじめの定義について-** いじめの定義について理解し、いじめを許さない集団育成を考察する。	いじめを許さない集団とその形成方法について構想をまとめておくこと。	4時間
第8回	**「いじめ」を許さない集団を形成するために(2)　-いじめ事案の対処法について-** いじめ事案の適切な対処法について追究する。	いじめ事案が発生した場合の適切な対処についての方策を考えておくこと。	4時間
第9回	**「生徒会活動」の今日的意義と指導法(1) -「生徒会活動」の教育的意義について-** 生徒会活動について教育現場の特色ある取組を調査し、教育的意義を明らかにする。	特色ある生徒会活動の実践校を調べ、発表に備えること。	4時間
第10回	**「生徒会活動」の今日的意義と指導法(2)　-「特別活動」の可能性と課題について-** 教育現場における生徒会活動について、特別活動の可能性と課題を明らかにする。	意義あるグループ内発表になるために、入念な準備をしておくこと。	4時間
第11回	**「学校行事」の今日的意義と指導法(1) -「学校行事」の教育的意義について-** 学校行事について、教育現場の特色ある取組を調査し、教育的意義を明らかにする。	特色ある学校行事の実践校を調べて、発表に備えること。	4時間
第12回	**「学校行事」の今日的意義と指導法(2) -「特別活動」の可能性と課題について-** 教育現場における学校行事の取組を学び、特別活動の可能性と課題を明らかにする。	意義あるグループ内発表になるために、入念な準備をしておくこと。	4時間
第13回	**「特別活動」と市民性教育** 学校・地域・社会で活躍するために特別活動でどのような力を育むべきか、各教科等と関連づけて考える。	学修内容を振り返り、「社会参加」について考えをまとめておくこと。	4時間
第14回	**「特別活動」の今日的意義と課題** 特別活動を実践するために教師に求められる指導力とは何かを整理する。	特別活動の特質を踏まえ、自己の指導力の課題を整理しておくこと。	4時間

SP-4026-2-2

授業科目名	教育方法論（教育方法論）				
担当教員名	全　京和				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、学校教育において育成が求められる資質・能力に効果的な教育の方法・技術、情報機器・教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とする。そのため、各回のテーマに応じて講義及び視聴覚資料による知識の習得とともに、学生自身が各種 ICT 機器を活用しながら体験的に学修する機会を設ける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。	教育方法の基礎的理論と実践を理解し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。	話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。	子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

・原則として毎回出席すること。
・規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
個人ワークの取組み状況	30%	： 課題の提出と質、態度・姿勢などに基づいて評価する。
グループ作業への取組み状況	40%	： パフォーマンス課題に対する積極性、貢献度、成果物評価に基づいて評価する。
最終レポート	30%	： 個人・グループ課題を踏まえた最終レポート作成に基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治ほか編著（2012）『新しい時代の教育方法』有斐閣
松下佳代編著（2015）『ディープ・アクティブラーニング』 勁草書房
その他の参考文献については、毎回紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・この授業では、毎回、PCを持参すること。
・第1回にて、講義の進め方や評価の方法について詳しく説明する。受講を希望する場合は必ず出席すること。
・本科目は2単位の科目であり、授業外学修は毎回平均4時間求められる。詳細は毎回指示する。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問等がある場合は、メールにて受け付けます（zen@g.bss.ac.jp）。
メールには必ず氏名と所属を明記してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　―教育方法を学ぶ意義と授業の目標** 教育方法について学ぶ意義を考える。併せて、講義の進め方や評価の方法について詳細を説明する。	シラバスを読んでおく。	4時間
第2回	**様々な学びのとらえ方** 「教える」と「学ぶ」の関係を考える。そのうえ、行動論、認知論、構成主義、社会的構成主義などについて学ぶ。	各とらえ方の例示を調べるとともに、配布資料をもとに十分に復習しておく。	4時間
第3回	**教育方法の基本原理** 教育には系統学習と経験学習という二つの大きな流れがあることを理解し、学力を向上させるための方法について理解を深める。	教育方法の基本原理について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第4回	**教育方法の歴史的変遷** 教授スタイル（一斉指導、チームティーチング等）と学習スタイル（発見学習、協同学習等）について学ぶ。	それぞれの教育方法の特徴について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第5回	**学びのメカニズムとモデル** 学習転移、経験学習、批判的学習、正統的周辺参加などについて学ぶ。	各メカニズムとモデルについて、配布資料をもとに復習する。	4時間
第6回	**こどもの知能観と学びへの動機付け** 児童生徒の学習意欲の状況、動機づけ理論、学習意欲と関連する要因について学ぶ。	動機付け理論の可能性と限界について、配布資料をもとに復習する。	4時間
第7回	**教育方法の現代的テーマ** 主体的・対話的で深い学び（アクティブ･ラーニング）、「生きる力」の育成と21世紀型能力について学ぶ。	新しい学習指導要領を読み、「主体的・対話的で深い学び」と「生きる力」に対する理解を深める。	4時間
第8回	**ICT活用の基本的考え方と実践** ICT活用の諸形態（教えるツール、学ぶツール、協同の学びのツールとしての利用）について学ぶ。	学校現場におけるICT活用の事例について調べる。	4時間
第9回	**教育評価をどうするか** 形成的評価、パフォーマンス評価、ルーブリック、真性の評価などについて学ぶ。	評価方法のメリットとデメリットについて、配布資料をもとに復習する。	4時間
第10回	**マイクロ・ティーチングにむけた課題の整理** 自身の模擬授業の構想を練る。	講義の復習、次回発表者は準備を行う。	4時間
第11回	**マイクロ・ティーチング①** 全員必須の模擬授業を行う。模擬授業後の学生間の相互評価と授業者自身の振り返りなどを実施する。	終了者は振り返りシート作成、次回発表者は準備を行う。	4時間
第12回	**マイクロ・ティーチング②** 全員必須の模擬授業を行う。模擬授業後の学生間の相互評価と授業者自身の振り返りなどを実施する。	終了者は振り返りシート作成する。	4時間
第13回	**新しい学びのスタイル：コンピテンシーを育てる授業のデザイン** 発問・教材の検討を中心として、アクティブ・ラーニングや学びの共同体・学び合いの特徴をもった授業をデザインする。	自身の教科における先進的な取り組みを調べる。	4時間
第14回	**総括と新たな学びの形を引き出す教育方法の可能性** 授業の総括を行い、これからの教育方法の在り方について考える。	授業の配布資料を整理し、全体的な流れを意識しながら復習する。	4時間

SP-4027-2-2

授業科目名	**生徒・進路指導論（生徒・進路指導論）**				
担当教員名	高柳　真人				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国公立高等学校教諭として勤務し、担任や教務部、生徒指導部、進路指導部などの校務分掌経験がある				

授業概要

この授業では、「ガイダンス」の考え方に基づき、子どもの社会的自己実現を支援する生徒指導及び進路指導・キャリア教育に関する理論と方法について学んでいく。暴力行為、いじめ、不登校といった生徒指導上の諸問題の現状や対応について理解するとともに、子どもの社会的自己実現を支援する生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と進め方について理解することを目標とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教師に求められる資質・能力	教職の重要性を理解し、学び続ける教師であろうとする自覚を持つことができる

学外連携学修

無し

授業方法

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時間実施するミニレポート	30%	： 毎回の授業内容の理解度
試験	70%	： 到達目標に対する到達度

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省『生徒指導提要』
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』『高等学校キャリア教育の手引き』

いずれも公開されており、ダウンロードが可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

ゲート科目である。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　出講日の休み時間等
場所：　講師控室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生徒指導の意義と原理１** 生徒指導の意義、集団指導と個別指導の原理、生徒指導の今日的課題（インターネットや性に関する課題、児童虐待等を含む）、教育課程の展開と生徒指導	生徒指導提要の該当箇所を読み、生徒指導の意義と原理を理解する	4時間
第2回	**生徒指導の意義と原理２** 積極的生徒指導と消極的生徒指導、個性の伸長と社会的資質・能力の育成（基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成等を含む）、自己指導能力の育成、不適応児童生徒の支援	生徒指導提要の該当箇所を読み、個性化と社会化の意義を理解する	4時間

第3回	**生徒指導の推進体制** 生徒指導体制と教育相談体制、校務分掌と生徒指導部、担任の役割、チーム支援	生徒指導提要の該当箇所を読み、生徒指導の推進体制を理解する	4時間
第4回	**懲戒と体罰、校則** 生徒指導に関する主な法令の理解、懲戒、体罰、罰の教育的効果、校則	生徒指導提要の該当箇所を読み、懲戒や校則の意義、体罰の実際について復習する	4時間
第5回	**生徒理解** 生徒理解の視点、生徒理解の方法	生徒指導提要の該当箇所を読み、生徒理解の方法を理解する	4時間
第6回	**生徒指導上の諸問題1（暴力行為）** 暴力行為の定義、暴力行為の現状とその対応	生徒指導提要の該当箇所を読み、暴力行為の現状を理解するとともに、その対応策を考える	4時間
第7回	**生徒指導上の諸問題２(いじめ)** いじめの定義、いじめの現状とその対応	生徒指導提要の当該箇所を読み、いじめの現状を理解するとともに、その対応策について考える	4時間
第8回	**生徒指導上の諸問題３（不登校）** 不登校の定義、不登校の現状とその対応	生徒指導提要の該当箇所を読み、不登校の現状を理解するとともに、その対応策を考える	4時間
第9回	**居場所としての学校** 居場所の構造と機能、居場所としての学校	学校が子どもにとっての居場所となることの意味、学校が居場所となるための方策について復習する	4時間
第10回	**教師と子どもの人間関係** 教師の職務、教師と子どもの人間関係、生徒理解を生かした生徒指導	教師の子どもへの関わり方、教師と子どもの人間関係について復習する	4時間
第11回	**進路指導・キャリア教育の意義** 進路指導・キャリア教育の意義と現状、進路指導とキャリア教育、教育課程の展開と進路指導・キャリア教育、カリキュラム・マネジメントと進路指導・キャリア教育	キャリア教育の手引きの該当箇所を読み、進路指導の意義を理解する	4時間
第12回	**進路指導・キャリア教育の推進体制** 進路指導・キャリア教育の推進体制、校務分掌と進路指導部、担任の役割、家庭や地域・関係機関との連携	キャリア教育の手引きの該当箇所を読み、進路指導の推進体制を整理する	4時間
第13回	**ガイダンスとしての進路指導・キャリア教育** すべての子どもを対象とした進路指導・キャリア教育、自己理解と職業観・勤労観の育成、職業の理解、職業体験活動の役割	キャリア教育の手引きの該当箇所を読み、全ての児童生徒を対象とするガイダンスとしての進路指導の理論や進め方を理解する	4時間
第14回	**カウンセリングとしての進路指導・キャリア教育** 個に応じた進路指導・キャリア教育、キャリア発達の支援、ポートフォリオ（キャリア・パスポート）を活用した進路指導・キャリア教育、キャリア・カウンセリングの理論と方法	キャリア教育の手引きの該当箇所を読み、一人一人の児童生徒に焦点を当てたカウンセリングとしての進路指導の理論や進め方を理解する	4時間

SP-4028-3-2

授業科目名	教育相談基礎論（教育相談基礎論）				
担当教員名	多賀谷　智子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校での学級経営，教科指導，生徒指導，および通級指導教室担当として発達障害児童生徒への指導，保護者・担任への教育相談等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

教育相談は、児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。
この授業では、児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。
そして、教育相談の基本的な考え方や進め方、専門機関等の連携も含めた、組織的な取り組み、カウンセリングの諸理論について理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教育相談の意義と理論	学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	教育相談の方法	教育相談に必要な基礎的知識を理解することができる。
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	教育相談の展開	教育相談の進め方（組織的な取り組み、連携）を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

・理解を深めるために、毎回ワークを課す。ワークには積極的に参加すること。ワークへの参加の意思がない場合、又は、明らかなマナー違反があった場合には、欠席とみなすことがある。
・この授業の必須課題として、自分の学び、気づきに対して、発展的に調べ、考えを深める課題を課す。そのまとめを動画に編集し、授業参加者へ公開し、ピア評価を実施する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
①ワーク及び小レポート 70%	：	各回5点×14回　前回の講義内容に関する基本的事項に関する理解程度の確認を行う。
②発表（発表資料・発表内容） 30%	：	レポート課題について、内容を理解し、具体例を交え、適切に説明できているかで評価する。ピア評価を取り入れる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「教育相談の理論と方法」（会沢信彦，2019）北樹出版
「絶対に役立つ教育相談」（水野治久・本田真大・串崎真志，2017）ミネルヴァ書房
「生徒指導提要」（文部科学省）教育図書
その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は教職の必修科目なので、教員免許状取得希望者は必ず受講すること。
教育を効果的に進めていく上で、児童生徒と児童生徒を取り巻く環境との相互作用を理解し、実践的な力を養うことが大切です。この授業では、毎回、ワークを取り入れる予定です。教育相談の理論や技法を知り、学校生活において活用できるようになりましょう。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：　研究室Ｂ２０８

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校における教育相談の意義と課題** ・授業の概要及び到達目標、評価基準について知る。 ・教育相談とは何か，学校における教育相談の意義と課題について学ぶ。	教育相談の意義と課題についてまとめる。	4時間
第2回	**教育相談に関わる心理学の基礎的な理論** ・教育相談に関わる心理学（精神分析・行動主義心理学・人間性心理学等）の基礎的な理論・概念について学ぶ。 ・心の問題を抱えたクライエントに関わる際の5つの基本的視点（①年齢により関わり方が異なる，②抱える心の問題の質に見合った関わり方が必要，③心の状態に見合ったタイミングがある，④分からない時には，コンサルテーションを受ける，⑤症状を取り除くことだけではなく，そのケースの生活全体を視野に入れた支援，将来を見越した支援が必要）について学ぶ。	教育相談に関わる心理学の基礎的な理論についてまとめる。	4時間
第3回	**学校におけるカウンセリング** ・学校カウンセリングの特徴，３つの機能について学ぶ。 ・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性について学ぶ。	学校カウンセリングの特徴と３つの機能についてまとめる。	4時間
第4回	**カウンセリングの基本技法** ・受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。	学校カウンセリングの方法についてまとめる。	4時間
第5回	**教育相談におけるアセスメント** ・アセスメントのための情報収集の基本，児童生徒を多面的に理解するためのアセスメントの基本について学ぶ。 ・児童・生徒の不適応や問題行動の意味，及び児童・生徒の発するシグナルに気付き実態を把握する方法について学ぶ。	様々なアセスメント方法とその特徴についてまとめる。	4時間
第6回	**幼児期の発達課題と教育相談** 幼児期の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を学ぶ。	幼児期の教育相談についてまとめる。	4時間
第7回	**児童期の発達課題と教育相談** 児童期の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を学ぶ。	児童期の教育相談についてまとめる。	4時間
第8回	**思春期・青年期の発達課題と教育相談** 思春期・青年期の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を学ぶ。	思春期・青年期の教育相談についてまとめる。	4時間
第9回	**いじめ問題への対応** 「いじめ」の定義と学校における実態・様相について知る。 ・いじめ予防・対応について学ぶ。	いじめの定義とその対応方法についてまとめる。	4時間
第10回	**不登校（園）と教育相談** ・不登校（園）・中途退学をめぐる状況を知り，予防・対応について学ぶ。 ・校内連携によって支援を行った実践例を通して支援の方向性について学ぶ。	不登校（園）の社会的背景と予防についてまとめる。	4時間
第11回	**保護者支援と教育相談** ・職種や校務分掌に応じた教育相談の目標の立て方や進め方について学ぶ。 ・保護者とのかかわりの重要性，保護者支援について学ぶ。	保護者とのかかわりを促進するための手立て，および保護者支援についてまとめる。	4時間
第12回	**学級担任が行う教育相談** ・「学級」がもつ予防的機能，教師の相反する二つの指導行動について理解し、学級集団作りのポイントについて学ぶ。 ・学級集団活動の際に起こりやすい問題行動についての対応方法（行動の機能を分析し，働きかけ方を変える）について学ぶ。	学級集団づくりのポイント，および問題行動への対応についてまとめる。	4時間
第13回	**学校全体で進める教育相談** ・教育相談の計画の作成や校内体制の整備、及び組織的な取り組みの必要性について学ぶ。 ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー配置の背景，職務と役割について学ぶ。 ・チーム支援の進め方について学ぶ。	校内組織体制とそれぞれの役割，チーム支援と校内連携についてまとめる。	4時間
第14回	**専門機関との連携** ・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性について学ぶ。	地域にある専門機関について調べる。	4時間

SP-4029-3-2

授業科目名	教育相談と学校カウンセリング（教育相談と学校カウンセリング				
担当教員名	金子　真理子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教諭、臨床心理士、京都府スクールカウンセラーとしての実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

この授業では、学校教育相談の意義と理論と方法について学校現場の実際に照らしながら学習する。学校現場で現在起こっていることについて幅広く紹介するとともに、興味・関心を自ら深めていく考え方も学ぶ。教育相談をすべての教師が行う教育活動の一環と捉え、「子どもを育てるカウンセリング」のための態度を学び「自分も育てる」ことを目標とする。またカウンセリングについての基礎的な知識、カウンセリングの諸理論について理解することも目標とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	教育相談の意義・理論・方法を理解する。	実際の教育現場で使える技法を習得し、教育相談を有効利用できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
学習内容に関するミニレポート	30%	： 学習内容についての理解度を評価する。
レポート	70%	： レポート課題について、授業内容を踏まえ、論理的に記述できているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

会沢信彦・安齋順子(編著)　2010　教師のたまごのための教育相談
黒沢幸子　2002　指導援助に役立つ　スクールカウンセリング・ワークブック　金子書房
一丸藤太郎・菅野信夫　2002　学校教育相談　ミネルヴァ書房
大前玲子・小野田正利　2015　体験型ワークで学ぶ教育相談　大阪大学出版会
神田橋條治・かしまえりこ（編著）2021　神田橋條治 スクールカウンセラーへの助言100

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後
場所：　授業実施教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育相談の意義** 受講内容について説明する。 教育相談の意義や意味を学ぶ。	教育相談の意義について復習しまとめておく。	4時間

第2回	**教育相談の種類** 学校組織における教育相談について理解を深める。 教育相談・カウンセリング・生徒指導の異同について学ぶ。	教育相談の種類について復習しまとめておく。	4時間
第3回	**教育相談の理論と技法** 教育相談において必要となる理論を学ぶ。治療的・予防的・開発的カウンセリングについて学ぶ。教師として教育相談をどのように活用するか、児童・生徒とに対する向き合い方などにも触れる。	教育相談の理論と技法・カウンセリングについて復習しまとめておく。	4時間
第4回	**教育相談とカウンセリング** 教育相談で活用できるカウンセリング技術について学ぶ。カウンセラーはどのようにカウンセリングを行っているか。理解を深めるとともに、教育相談にどう生かしていくかを学び、活用できるようにする。	カウンセリング技術について復習しまとめておく。	4時間
第5回	**スクールカウンセラー・校内及び関係機関との連携** スクールカウンセラーの活用、校内・関係機関との連携の際に方法などについて学ぶ。実際に起こっている事例を元に、それぞれがどのような関りをしているかについても理解を深める。	スクールカウンセリングについて復習しまとめておく。	4時間
第6回	**学級経営に生かす学校教育相談** 教育相談的な個及び学級へのアプローチを学ぶ。児童・生徒、学級、学年、学校全体をどう見立てていくか、そこに対する有効なアプローチの方法について学ぶ。	学級経営に有効な教育相談について復習しまとめておく。	4時間
第7回	**教師の自己理解** 指導・支援につなげる自己理解を学ぶ。自己理解をすることにより、自分の強み・弱み・特技・気をるける点などを客観的に理解する。	自己理解について復習しまとめておく。他に自己理解する方法について調べておく。	4時間
第8回	**小学校における子どもの問題** 小学校における発達の特徴と課題について学び、問題行動について検討する。問題行動の裏にある理由について考えを深める。	小学生における子どもの問題について復習しまとめておく。他に起こり得る問題について調べておく。	4時間
第9回	**中学校・高等学校における子どもの問題** 中学校・高等学校における発達の特徴と課題について学び、問題行動について検討する。この時期特有の問題行動、その背景となっていることについて理解を深める。	中学校・高等学校における子どもの問題について復習しまとめておく。他に起こり得る問題について調べておく。	4時間
第10回	**虐待の理解と支援** 虐待の理解と支援について学ぶ。虐待件数は年々増加の一途となっている。虐待とはどのようなものかについての正しい知識と、現在起こっていることについての理解とどのように対応するべきかについて学ぶ。	虐待の理解と支援について復習しまとめておく。	4時間
第11回	**発達障害の理解と支援** 発達障害の特徴と支援の方法を学ぶ。発達に課題を持つ児童・生徒を理解するとともに、必要な支援はどのようなものかを具体的に考える。	発達障害の理解と支援について復習しまとめておく。	4時間
第12回	**精神疾患の理解と支援** 学校現場で遭遇しやすい精神疾患について学ぶ。10代でも発症する可能性がある精神疾患について正しく理解する。またどのように対応するべきかについても学ぶ。	精神疾患の理解と支援について復習しまとめておく。他の精神疾患についても調べておく。	4時間
第13回	**保護者への理解と対応** 保護者支援という観点から保護者への対応を学ぶ。保護者に対応する時に気を付けるべき点と、心構えについて学ぶ。実際の事例にも触れ、対応についてより実践的に考えを深める。	保護者への理解と対応について復習しまとめておく。	4時間
第14回	**いじめの問題の理解と対応** 学校で起こっているいじめの問題について学ぶ。現在どのようないじめが起こっているのか、正しく理解をし、対応について考える。	いじめの問題の理解と対応について復習しまとめておく。	4時間

SP-4034-2-2

授業科目名	福祉と介護（福祉と介護）				
担当教員名	森本　創				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教員、社会福祉施設、社会福祉事務所で勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

教員免許取得において社会福祉施設での介護等体験実習は必須であり、そのために必要な福祉と介護に関する基礎的知識を身につけると共に、教師として重要な児童生徒一人ひとりをより深く理解しようとする福祉的態度を養うことを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	社会福祉の歴史と制度、多様性への理解、共生社会	福祉と介護に関する基礎的知識と教師として必要な福祉的態度を身につける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

本科目では毎回授業の最後に、講義内容に関する課題シートを提出しなければならない。これは、授業者が授業内容の理解度を把握すると共に、学生にとっては論理的文章を書く練習にもなる。そして次回の授業の最初に、その中から適切なものを紹介しコメントすることで、前回授業の振り返りを行う。

成績評価

注意事項等

本科目ではすべての授業を受講することを原則とし、原則公休は認めていない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加	20%	： 積極的に授業に参加し、自分の意見を論理的に発表する。
毎回の課題シートの提出による授業理解	20%	： 講義内容を理解し、自分の考えを論理的に文章表現できる。
筆記試験またはレポート提出	60%	： 課題に対して論考するために必要な基礎的知識を身につけると共に、自分の考えを論理的に述べる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『新　社会福祉とは何か』（大久保秀子著　中央法規）
『教師を目指す人の介護等体験ハンドブック』（現代教師養成研究会編　大修館書籍）
『よくわかる社会福祉施設』（社会福祉法人全国社会福祉協議会　図書印刷）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は社会福祉全般についての基礎的知識理解と教師として重要な福祉的態度を養うことを目的としており、常に社会の事象や動向に関心を持つことが大切である。また、与えられた事前課題や次回の授業に向けた予習に取り組むと共に、授業中は自分の意見を発表するなど、積極的に授業に参加することにより、到達目標の達成を目指している。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、授業概要および導入（到達目標・評価方法・その他注意点）**	本授業受講の目標を明確にする。	4時間

	・学生自身の社会福祉に関する知識や理解を確認する。 ・学生自身の将来の目標とそれに向けての意識を確認する。 ・授業の目的と意義を理解し、本授業への動機づけとする。		
第2回	**現代社会における社会福祉の意義と目的** ・社会福祉とは何かについて考え、その意義を理解する。 ・社会福祉の概念と理念を理解する。 ・教師を目指す学生が社会福祉を学ぶことの意義を理解する。	社会福祉の概念と理念に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。	4時間
第3回	**社会福祉のあゆみ1** ・我が国の社会福祉の歩みと到達点を理解する。 ・滋賀県の社会福祉の現状と課題への理解を深める。	我が国の社会福祉の歩みに関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。	4時間
第4回	**社会福祉のあゆみ2** ・ヨーロッパの社会福祉の歩みと到達点を理解する。 ・我が国と諸外国の社会福祉の特徴を比較し、その違いについて考える。	ヨーロッパの社会福祉の歩みに関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。	4時間
第5回	**セーフティネットと公的扶助1** ・生活保護の意義と目的を理解する。 ・生活保護制度への理解を深める。	社会福祉の法制度と行政機関に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。	4時間
第6回	**セーフティネットと公的扶助2** ・セーフティーネットをめぐる日本と諸外国との違いを理解する。 ・生活保護の現状と課題についての理解を深める。	生活保護の意義と目的に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。	4時間
第7回	**子ども家庭福祉と現代社会の課題1** ・子ども家庭福祉の法制度と行政機関を理解する。 ・子ども家庭福祉の相談機関と施設を理解する。	事前に児童福祉施設の種別と役割について調べる。	4時間
第8回	**子ども家庭福祉と現代社会の課題2** ・子ども家庭福祉の現状と課題について理解を深める。 ・少子化問題についての理解を深め、その対策を考える。	事前に子ども家庭福祉をめぐる問題について調べる。	4時間
第9回	**高齢者福祉と現代社会の課題1** ・高齢者福祉の法制度と行政機関を理解する。 ・高齢者福祉の相談機関と施設を理解する。	事前に高齢者福祉施設の種別と役割について調べる。	4時間
第10回	**高齢者福祉と現代社会の課題2** ・高齢者福祉の現状と課題について理解を深める。 ・高齢化問題についての理解を深め、その対策を考える。	事前に高齢者福祉をめぐる問題について調べる。	4時間
第11回	**障害者福祉と現代社会の課題1** ・障害者福祉の法制度と行政機関を理解する。 ・障害者福祉の相談機関と施設を理解する。 ・主な障害とその特徴を理解する。	事前に障害者福祉施設の種別と役割について調べる。	4時間
第12回	**障害者福祉と現代社会の課題2** ・障害者福祉の現状と課題についての理解を深める。 ・「障害者権利条約」について学び、その意義や目的を理解する。	事前に障害者福祉をめぐる問題について調べる。	4時間
第13回	**インクルーシブな共生社会を目指して1** ・これまでの授業を振り返り、我が国の現状と課題への理解を深める。 ・「インクルーシブな共生社会」に向けた具体的取り組みについて理解する。	事前に興味関心のある福祉課題について調べてまとめる。	4時間
第14回	**インクルーシブな共生社会を目指して2** ・「インクルーシブな共生社会」の実現への課題について考える。 ・「インクルーシブな共生社会」の実現に向けて、教師として社会人としてできることを考える。	「インクルーシブな共生社会」とはどのような社会なのか事前に考えまとめる	4時間

SP-3102-3-1

授業科目名	学校基礎演習Ⅱ（川合）				
担当教員名	川合　英之				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長までを歴任（12年）、元水球競技日本代表コーチ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

本講義では、保健体育科教育学について深く学ぼうとする学生が基本的に習得しなければならない内容を中心に学修する。受講生が課題・論文等を要約した資料を作成して発表を行い、他の受講生の質疑を受けるスタイルで授業を進め、学習者が相互に理解を深め合う。
また、研究についての理解を深めるため、先行研究、各種文献などを調べ、研究の進め方、視点、具体的方法の検討、結論の導き方などについて理解するとともに、その発表方法についても習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	保健体育科教育学の理解	保健体育科教育学領域で学ぶべき内容を理解し説明できる。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	研究論文の理解	保健体育科教育学や学校教育に関する研究論文等を精読し、内容の要約と問題点の指摘ができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な授業の実践力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時のコメントカード	56%	： 2点×28回 講義内容及び意見・感想をまとめている。
課題発表	32%	： 4点×8回 4点：内容・発表がよく理解できる。3点：内容・発表が理解できる。2点以下：内容・発表を行った。
課題レポート	12%	： 12点～10点：指定の形式に沿って独自の視点で書かれている。 9点以下：指定の形式に沿って書かれている。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高橋健夫	新版体育科教育学入門	大修館書店	2010年

参考文献等

学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
保健体育科教員を目指す学生として、最低限学んでおかなければならない項目や内容の検討を中心に学習していくため、主体的に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー

場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**保健体育科教育学の性格と領域** 保健体育科教育学とはどのような学問か、保健体育科教育学ではどのような研究が行われるのか、保健体育科教育学で何を学ぶのかについて学修する。	保健体育科教育の領域について発表の準備を行う。	4時間
第2回	**保健体育の目標と内容** 保健体育の目標の設定構造、学習指導要領における目標の変遷、先進諸国における保健体育の目標、保健体育の目標と内容領域について学修する。	学習指導要領について発表の準備を行う。	4時間
第3回	**保健体育のカリキュラムの構成** カリキュラムと教育課程、カリキュラム構成法、学校体育のカリキュラムの基準としての学習指導要領、新学習指導要領における保健体育のカリキュラムについて学修する。	保健体育科のカリキュラムについて発表の準備を行う。	4時間
第4回	**保健体育の目標と内容** 保健体育の目標の設定構造、学習指導要領における目標の変遷、先進諸国における保健体育の目標、保健体育の目標と内容領域について学修する。	学習指導要領について発表の準備を行う。	4時間
第5回	**保健体育のカリキュラムの構成** カリキュラムと教育課程、カリキュラム構成法、学校体育のカリキュラムの基準としての学習指導要領、新学習指導要領における保健体育のカリキュラムについて学修する。	保健体育科のカリキュラムについて発表の準備を行う。	4時間
第6回	**よい体育授業の条件** よい体育授業とは、二重構造で成り立つよい体育授業の条件、よい体育授業のための基礎的条件、よい体育授業のための内容的条件について学修する。	よい体育授業とはどのようなものか、発表の準備を行う。	4時間
第7回	**保健体育の教材・教具論** 教材・教具とはなにか、教材づくりの基本的視点、単元教材の創出、教材のサイズ、教材の機能を高める「教具づくり」について学修する。	教材・教具について発表の準備を行う。	4時間
第8回	**保健体育の学習指導論** 学習指導論の問題領域、学習指導の多様性、ストラテジーとしての学習指導について学修する。	学習指導の多様性について発表の準備を行う。	4時間
第9回	**保健体育の学習形態論** 学習形態の考え方、保健体育の学習形態論、これからの学習形態の考え方について学修する。	保健体育授業の学習形態について発表の準備を行う。	4時間
第10回	**保健体育の学習評価** 保健体育の学習評価をめぐる課題、学習評価の考え方、体育における目標に準拠した学習評価の視点、学習指導があっての学習評価について学修する。	保健体育科の学習評価について発表の準備を行う。	4時間
第11回	**単元計画（ユニットプラン）の作成** 学習指導計画を作成する意義、単元計画を作成する際のポイント、単元計画の基盤となる学習指導過程の工夫について学修する。	単元計画を作成し発表の準備を行う。	4時間
第12回	**授業計画（デイリープラン）の作成** 授業計画（デイリープラン）、授業計画の作成手順について学修する。	授業計画を作成し発表の準備を行う。	4時間
第13回	**卒業研究の領域と課題設定・研究方法** 各自が興味を持った過去の卒業研究を読み、その概要と問題点を発表する。	過去の卒業研究を調べ課題設定について発表の準備を行う。	4時間
第14回	**卒業研究課題の発表と検討** 各自の卒業研究テーマと動機・目的・方法を発表する。	効果的なプレゼンテーション方法検討する。	4時間
第15回	**卒業研究課題の検討** それぞれの卒業研究テーマについて検討する。	それぞれの卒業研究テーマを調べておく。	4時間
第回			時間
第回			時間
第回			時間
第回			時間
第回			時間
第回			時間
第回			時間
第回			時間

第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間

SP-3102-3-1

授業科目名	学校基礎演習Ⅱ（大西）				
担当教員名	大西　祐司				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自身のスポーツに関する興味関心や疑問を手掛かりに、教師に求められる専門的知識や実践的指導力の基礎を培っていく。前半では、教師に求められる実践的指導力を向上させるために、それぞれの専門種目に関するマイクロティーチングを中心とした活動を行う。後半では、4年次の卒業研究に向け、興味のある論文や書籍を読み進め、周辺的知識を蓄え、仲間と共有する。最終的には、ミニ卒論として研究テーマを定め、卒業研究に向けた論文の作成し、発表を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	マイクロティーチング	一人で体育授業を計画・実施することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	関連書籍や論文の検索と閲読	興味関心のある領域の知識を身に付ける。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な、授業の実践力を身に付ける。
4 ．DP11.忠恕の心	マイクロティーチング、ミニ卒論	主体的かつ協働的に活動に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
マイクロティーチング	30%	： マイクロティーチングの計画と実施を30点満点で評価する。
ミニ卒論	40%	： ミニ卒論の作成と発表を40点満点で評価する。
活動への取り組み	30%	： 主体的かつ協働的な取り組みを30点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

岡出美則ほか（2021）体育科教育学入門 三訂版（大修館書店）
適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教師は専門的な知識や実践力はもちろんのこと、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、仲間やチームに対応する力も求められます。教師を目指す仲間とともに切磋琢磨して学びましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限

場所： 大西研究室（B206）

備考・注意事項： 本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教師は専門的な知識や実践力はもちろんのこと、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、仲間やチームに対応する力も求められます。教師を目指す仲間とともに切磋琢磨して学びましょう。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：目標の設定、役割分担** 本講座の目標と計画を確認する	なりたい教師像について考えてくる	4時間
第2回	**マイクロティーチングの実施計画①** 自身の専門種目の資料や学習指導要領解説の読み込む	該当する専門種目の資料収集	4時間
第3回	**マイクロティーチングの実施計画②** マイクロティーチングの単元計画及び指導案の作成を行う	学習指導要領の確認	4時間
第4回	**マイクロティーチングの実施計画③** マイクロティーチングのシナリオ作成を行う	シナリオを考える	4時間
第5回	**マイクロティーチングの実施とリフレクション** マイクロティーチングを実施し、リフレクションを行う	リフレクションの観点の確認、過去の卒業論文を読んでくる	4時間
第6回	**卒業論文について①** 文献の収集方法を知り、関連論文を収集する	興味のある研究キーワードを考える	4時間
第7回	**卒業論文について②** キーワードに関する関連論文を読み、要約表を作成し紹介する	文献をファイリングする	4時間
第8回	**卒業論文について③** 収集した関連論文をもとにミニ卒論のテーマを設定する	必要に応じて文献を追加する	4時間
第9回	**卒業論文について④** ミニ卒論の研究計画を立てる 論文の書き方を知る	論文の書き方を知る	4時間
第10回	**卒業論文について⑤** ミニ卒論の構成を理解し、作成する	必要に応じて文献を追加する	4時間
第11回	**卒業論文について⑥** ミニ卒論の読み合わせを行い、完成させる。	ミニ卒論を修正する	4時間
第12回	**ミニ卒論発表会に向けて①** ミニ卒論を完成させる	ミニ論文の遂行	4時間
第13回	**ミニ卒論発表会に向けて①** 発表のためのプレゼンテーションの資料とシナリオを作成する	プレゼンテーションの完成	4時間
第14回	**ミニ卒論発表会** ミニ卒論発表会の実施と振り返りを行う	発表の振り返り	4時間

SP-3102-3-1

授業科目名	学校基礎演習Ⅱ（黒澤）				
担当教員名	黒澤　寛己				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

学校現場（小・中・高等学校）における体育・スポーツ指導に関する事項について理解を深めることを目的とする。具体的には「保健体育科教育」に関する基礎的な理論、特別活動「健康安全・体育的行事」や「運動部活動」についての現状の課題を理解し、効果的な指導方法について検討する。また、学校現場での課題や実際の指導方法について事例研究を行う。そして、その結果についてグループディスカッションを行ったり、グループ発表を行うことによって知識及び技能の定着を図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	学校現場における体育・スポーツ指導に関する知識	保健体育科教員に必要な知識を身に付ける。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	学校現場における体育・スポーツ指導に関する技能	保健体育科教員に必要な技能及び実践力を身に付ける。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な、授業の実践力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小レポート	60%	： 毎時の課題に対して、適切な内容の文章が書けているかについて評価する。
まとめの課題レポート	40%	： 体育・スポーツの理論を踏まえ、各自が興味関心を持った専門領域のレポートを作成する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

学習内容に即して、適宜参考資料を配布する。また、担当者が作成したワークブックを使用する。

履修上の注意・備考・メッセージ

学校スポーツ教育コースの基礎演習科目であるため、教員となることを念頭において自主的・主体的に取り組むこと。少人数グループでの活動を行うため、欠席する際には必ず連絡すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　黒澤寛己研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校スポーツ教育演習での学びについて**	各自の研究計画作成、関連資料の収集	4時間

	本講義の概要と年間計画を理解する。 各自の卒業までの研究計画を作成する。		
第2回	**保健体育科教員に求められる資質・能力** 保健体育科教員に求められる資質・能力を理解する。 学校経営の基本概念を理解する。 学校における保健体育科教員の果たすべき役割を理解する。 現行の教員研修制度を理解する。	保健体育科教員に関する事例調査	4時間
第3回	**保健体育科教育学の性格と領域** 保健体育科教育学の概要を理解する。 保健体育科教育学の先行研究を調べる。	保健体育科教育に関する文献の要約と発表資料作成	4時間
第4回	**保健体育科教育の歴史** 戦前・戦後の保健体育科教育について理解する。 学習指導要領の変遷を調べる。	保健体育科教育の歴史に関する文献の要約と発表資料作成	4時間
第5回	**保健体育科教育の目標と内容** 学習指導要領における教科目標の変遷を調べる。 保健体育の目標と内容領域を理解する。	保健体育科教育の目標・内容についての要約と発表資料作成	4時間
第6回	**単元指導計画の作成** 評価の観点及び単元の評価規準を作成する。 具体的評価規準を作成する。 指導と評価について理解する。	保健体育科単元指導計画案の事例収集と作成	4時間
第7回	**体育理論の授業作り** 体育理論の学習指導のポイントについて理解する。 体育理論の単元計画を作成する。	体育理論の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第8回	**保健分野の授業作り** 保健分野の学習指導のポイントについて理解する。 保健分野の単元計画を作成する。	保健分野の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第9回	**体つくり運動の授業作り** 体つくり運動の学習指導のポイントについて理解する。 体つくり運動の単元計画を作成する。	体つくり運動の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第10回	**器械運動の授業作り** 学習指導要領における器械運動の内容について理解する。 器械運動の授業づくり・教材づくりについて理解する。	器械運動の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第11回	**運動部活動の指導計画** 運動部活動の指導内容について理解する。 運動部活動の評価規準について理解する。 運動部活動の指導計画案について理解する。	運動部活動指導の先行事例の要約と指導計画案作成	4時間
第12回	**論文の書き方** 先行研究を読み取る。 論文の構成を理解する。 論文のタイプについて理解する。	論文作成に関する文献調査	4時間
第13回	**文献研究** 引用文献の示し方・引用文の作成法を理解する。 文献リストの記載方法を理解する。 先行研究の提示方法を理解する。	論文執筆要項に関する先行事例調査	4時間
第14回	**卒業研究論文に向けたレポート作成** 論文の章立てについて理解する。 キーワード・リード文について理解する。	授業研究に関する小レポート作成	4時間

SP-3102-3-1

授業科目名	学校基礎演習Ⅱ（高松）				
担当教員名	髙松　靖				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、金子明友氏の提唱している発生論的運動学の視点から、体育授業とスポーツの指導について深く学ぼうとするゼミ学生を対象とし、体育教員およびスポーツに携わる指導者として、基本的に習得すべき内容を学習する。体育の現場、あるいはスポーツの現場に起こる諸問題を挙げ、その事例について、受講生がそれぞれの考えを発表し、ディスカッションすることにより、問題解決に向けた方法を学習する。他の受講生とのディスカッションを通して、理解を深めていくようにする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	運動学習の構造理解	運動学習における位相構造や運動の構造について理解することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	発生論的運動学の理解	運動学習・指導の場面における問題を発生論的運動学的視点に立ち、考えることができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な、授業の実践力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時の小レポート	50%	： 授業内で学習した発生論的運動学の理論を理解できているか小レポートで評価します。
課題プレゼンテーション	30%	： 過去の卒業研究を要約し、各自の考えを述べられているか課題発表で評価します。
最終レポート	20%	： 各自の卒業研究テーマの課題意識を述べられているか最終レポートで評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

マイネル．K　著　スポーツ運動学（大修館書店）
金子明友　著　身体知の形成上・下（明和出版）
高橋健夫　編著　体育科教育学入門（大修館書店）
金子明友　著　身体知の構造(明和出版)
金子明友　著　スポーツ運動学（明和出版）
金子明友　著　わざ伝承の道しるべ（明和出版）

履修上の注意・備考・メッセージ

本講義は、後期2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
保健体育科教員、スポーツ指導者を目指す学生として、最低限学んでおかなければならない項目や内容の検討を、運動学的視点から学習していく予定ですので、主体的に取り組んで欲しいと思っています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限（10:30-12:10）
場所：　髙松研究室（B205）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発生論的運動学の性格と領域について** 発生論的運動学とはどのような学問か、どのような研究が行われるのかを学習する。	各自、学問領域の要約をする	2時間
第2回	**身体知の構造分析ー始原論的構造分析についてー** 発生論的運動学の身体知構造分析における始原論的構造分析について学習する。	各自、身体知の始原論的構造分析の要約をする	2時間
第3回	**身体知の構造分析ー体系論的構造分析についてー** 発生論的運動学の身体知構造分析における体系論的構造分析について学習する。	各自、体系論的構造分析の要約をする	2時間
第4回	**身体知の構造分析ー動感言語の体系についてー** 動感言語の体系論、体系論の縁取り分析とその方法について学習する。	各自、動感言語の体系について要約をする。	2時間
第5回	**地平論的構造分析について** 動感創発地平分析とは、動感促発地平分析とは何かを学習する。	各自、地平論的構造分析の要約をする	2時間
第6回	**動感創発地平分析について** 動感創発領域における「形態化地平分析」「修正化地平分析」「自在化地平分析」とは何かを学習する。	各自、動感創発分析の要約をする	2時間
第7回	**動感促発地平分析についてー素材化地平分析ー** 動感促発領域における「観察地平分析」「交信地平分析」「代行地平分析」とは何かを学習する。	各自、素材化地平分析の要約をする。	2時間
第8回	**動感促発地平分析についてー処方化地平分析ー** 動感促発領域における「道しるべ地平分析」「動感提示地平分析」「促発起点地平分析」とは何かを学習する。	各自、処方化地平の要約をする	2時間
第9回	**発生論的運動学領域の現場の役割と課題** 発生論的運動学の役割、身体知分析論の問題性、指導者養成の諸問題について学習する。	各自、発生論的運動学の役割と課題について要約する	2時間
第10回	**運動学習の意味について** 体育で何を学習するのか、活動内容としての運動学習、運動学習とその基礎理論、運動学習指導に求められるものについて運動学的視点から学習する。	各自、運動学習の意味について要約する	2時間
第11回	**運動学習と授業研究を考える** 授業研究で問題となること、運動学習指導のあり方について運動学的視点から学習する。	各自、運動学習と授業研究について要約する	2時間
第12回	**動きに構造を見つける** 動きの先取りを見つける、動きに系統性を見つける、動きの違いを見つける、修正の仕方を見つける	各自、動きの構造について要約する	2時間
第13回	**動きかたを覚えさせる一初心者に動きを教えるためにー** 動きかたはどのように覚えるのか、覚えるのにどんな情報が必要か、指導ポイントをどうとらえるかについて運動学的な視点から学習する。	各自、動き方の指導について要約する	2時間
第14回	**動きかたを覚えさせる一子どもの動きの指導についてー** 意欲的に覚えさせるにはどうするか、新しい動きかたにどう取り組ませるか、子どもの動きの可能性をどう引き出し伸ばすかについて運動学的視点から学習する。	各自、動き方への取り組み方について要約する	2時間

SP-3102-3-1

授業科目名	学校基礎演習Ⅱ（股村）				
担当教員名	股村　美里				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究に向けた基礎的力量を養う。基本的な研究方法を学ぶとともに、各自の研究テーマを定め、関連する先行研究を適切に探索し、レビュー・レポートする。
その作業に基づいて、卒業研究として論文にまとめる準備を進めていくこととする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	学校保健に関する知識	現代社会における児童生徒の健康課題についての知識を身につける
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	中学校・高等学校における保健体育科に関する知識	発達発育段階に応じた教育的支援と環境的支援のあり方についての知識を身につける
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な、授業の実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート課題	25%	： 授業内容を踏まえた記述ができているか評価する
担当課題発表	50%	： 与えられたテーマに基づいて、文献レビューあるいは研究を進め、プレゼンテーションを行う。教員を含めた相互評価により評価する。
最終レポート	25%	： 与えられたテーマに基づいて、指定された形式で論理的な文章が書けているか、評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度、書物、論文、視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）、ホームページなど適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

ガイダンスの時に、半年後の自分の達成目標について明記してもらいます。この講義を通じて、その各々の達成目標がどの程度実現できているか。それは皆さんの主体的な参加にかかっています。それにあたり、指導者としてのサポートをしていきますので、オフィスアワー等を活用し、次年度の卒業研究に向けて準備を進めてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　股村研究室

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**【第１部】学校保健における研究とは①ガイダンスと未来予想図の策定** 本演習の全体の内容を把握し、年間を通じた長期目標および半年の中期目標、１か月ごとの目標を立てる	自らの関心のあるテーマについて、なぜ関心があるのか説明できるように準備をして次回の演習に臨むこと	4時間
第2回	**②各自の研究課題の方向性の探索** 各自の興味のある研究課題について発表し、方向性を探る	各自の興味のある研究課題について発表し、受講者相互で議論されたものを記録しておくこと。	4時間
第3回	**③卒業研究論文例の紹介** ゼミにおける過年度生の卒業論文のテーマやその内容についてレビューする	過去の卒業論文について検索し、紹介できるように準備する。さらにそこで得られた疑問やアイデアを記録しておく。	4時間
第4回	**【第２部】文献購読の実施①文献検索の方法** 具体的な文献（日本語論文）検索方法について、演習形式で学ぶ。	自らの興味関心のあるテーマについて、適切な文献の検索ができるようになること。	4時間
第5回	**②学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第6回	**③学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第7回	**④学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第8回	**⑤学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第9回	**⑥学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第10回	**【第３部】各自の研究課題構想①文献収集の準備** 自ら調べたいテーマを確定させ、検索ワードをいくつか定めること。	先行研究に徹底的にあたることによって、これまで何が明らかにされていて何がわかっていないのか明文化すること。	4時間
第11回	**②文献収集の実施** 自らの調べたいテーマにおける検索ワードをもとに、文献検索を行い、文献収集を進める。	収集した文献は、適宜整理しながら、知見をまとめ、先行研究のリストとしてまとめる	4時間
第12回	**③各自の研究課題構想の文章化** 先行研究の知見をもとに、自らが明らかにしたいテーマについての問題の所在を明文化するとともに、発表準備を行う。	先行研究の知見を履修者内で共有できるようにプレゼンテーションの準備を行う。またプレゼンテーションの準備として、複数の他者と議論し、意見交換を行うこと。	4時間
第13回	**【第４部】文献研究の共有　成果発表（１回目）** 各自の興味関心をもとに実施してきた文献レビューをもとに、その領域における研究の全体像を俯瞰する	文献レビューに基づく先行研究の知見を履修者内で共有する。発表の仕方や構成についても互いに評価を行う。	4時間
第14回	**中期課題の見直しーこれまでの自分とこれからの自分ー** 半年間の文献に基づいた先行研究の探索を振り返って、達成できたこと、まだ不足していることを明確にする	本演習を通して学んだことを振り返り、第14回目の授業に向けた課題を自ら立てる	4時間

SP-3102-3-1

授業科目名	学校基礎演習Ⅱ（山手）				
担当教員名	山手　隆文				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校にて、教諭（担任、体育専科）として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

学校現場（小・中・高等学校）における体育・スポーツ指導に関して、保健体育科教員としての知識や授業の実践力を身につけることを目的とする。保健体育科教育に関する基礎的な理論、学習指導要領の体育・保健体育の位置づけについて理解し、効果的な指導法について検討する。また、卒業研究に向けて、先行研究を収集し、グループディスカッションや発表を通して共有する。最終的には、４年次の卒業研究に向けて、ミニ卒業研究レポートを作成し、発表する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP8.スポーツ学に関する深い知識	学校現場における体育・スポーツ指導に関する知識	保健体育科教員に必要な知識を身につける。
２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	学校現場における体育・スポーツ指導に関する技能	保健体育科教員に必要な技能を身につける。
３．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践力の向上	保健体育科教員に必要な授業の実践力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

本講義では、小レポート、課題発表、最終課題レポートによって評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	50%	： 授業内容を踏まえて、適切な内容の文章及び意見・感想をまとめている。
ミニ卒業研究レポート	30%	： テーマに基づいて、先行研究を調べ、分かりやすくまとめ、発表することができている。
活動への取り組み	20%	： 主体的かつ協働的に活動に取り組むことができている。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本講義の概要説明 各自の卒業までの研究計画	各自の研究計画について考える。	4時間
第2回	**保健体育科教育の目標と内容** 学習指導要領における目標と内容領域	保健体育科教育の目標・内容について調べる。	4時間
第3回	**各領域の単元づくり①** 体つくり運動の授業・教材づくり	体つくり運動の実践事例を収集する。	4時間
第4回	**各領域の単元づくり②** 器械運動の授業・教材づくり	器械運動の実践事例を収集する。	4時間
第5回	**各領域の単元づくり③** 陸上競技の授業・教材づくり	陸上競技の実践事例を収集する。	4時間
第6回	**各領域の単元づくり④** 水泳の授業・教材づくり	水泳の実践事例を収集する。	4時間
第7回	**各領域の単元づくり⑤** 球技の授業・教材づくり	球技の実践事例を収集する。	4時間
第8回	**各領域の単元づくり⑥** 武道の授業・教材づくり	武道の実践事例を収集する。	4時間
第9回	**各領域の単元づくり⑦** ダンスの授業・教材づくり	ダンスの実践事例を収集する。	4時間
第10回	**各領域の単元づくり⑧** 体育理論の授業・単元づくり	体育理論の実践事例を収集する。	4時間
第11回	**卒業研究論文について①** 先行研究の収集	論文作成に関する文献を収集・要約をする	4時間
第12回	**卒業研究論文について②** 収集した先行研究をもとに、ミニ卒業研究レポートテーマ設定・作成	ミニ卒業研究レポートのテーマを考え、資料を作成する。	4時間
第13回	**卒業研究論文について③** ミニ卒業研究レポート発表準備	ミニ卒業研究レポートの資料を整理し、発表の準備をする。	4時間
第14回	**卒業研究論文について④と振り返り** ミニ卒業研究レポート発表 本講義の振り返り	各自の卒業研究計画の方向性を修正・確認する。	4時間

SP-3202-3-1

授業科目名	ビジネス基礎演習Ⅱ（石井）				
担当教員名	石井　智				
学年・コース等	3	開講時期	＊通年	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

マネジメントの基礎知識および、スポーツマネジメントやマーケティング、スポンサーシップにおける応用知識をもとに社会課題の解決を目指した（卒業研究に向けての）研究課題を決定することを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	自らが考える社会課題を設定し、それを解決するために方策をスポーツ（自らのスポーツ学についての学びやクラブ体験などから）を軸に考察する力の獲得	スポーツにおける学びや経験が社会課題の解決に役立てることを実感し、社会に出てからも活躍できるという有能感を身に付けることができる
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	問題意識は情報を収集し、分析することによって明確化されることから、スポーツ実施者や観戦者へのアンケート調査と分析の実施	統計の知識を修得するとともにSPSSを使いこなすレベルにまでスキルアップできる

学外連携学修

有り　（連携先：大阪ガス株式会社、株式会社オージースポーツ）

授業方法

・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション 60%	：	①研究テーマの発表、②研究の目的および重要性の発表、③研究方法の発表。それぞれが、問題意識が明確であるかなどで評価される：各２０％
レポート 40%	：	①過去の卒業研究のレビュー、②一般の先行研究のレビュー。先行研究からどのような問題点を明確化するかなどで評価される：各２０％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツの組織文化と産業（横山勝彦、八木匡、松野光範編著　晃洋書房）2012年
スポーツ・マネジメント理論と実務（廣瀬一郎　東洋経済新報社）2009年
石井智（2006）　スポーツの価値を企業政策－ＣＳＲの視点から－」、同志社政策科学研究第8巻，135-147ページ

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
４年次の卒業論文に向けた準備を、１年間かけて計画的に行うとともに、情熱を注いで打ち込めるような研究テーマを自ら設定すること。
演習は、研究や実践に関する疑問について学生の皆さんが中心となって議論する場です。議論を活発にするために、毎回各自で発表する「ネタ」をしっかり準備頂く必要があります。演習前半に取り上げる各課題について、「これまで何がどこまで明らかにされてきたのか」、「今後は何を明らかにすべきか」という問いに答えられるようにしましょう。演習後半では皆さん自身が研究課題を決定し、３年生から段階的に卒業研究に取り組んでいきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーションおよび演習の概説** 4年次の卒業研究に向けた動機づけと演習の概要の説明。卒業論文は学生が社会で活躍するための設計図であることを意識させ、問題意識の向上とそれを解決するためのスキルを、研究を通じて獲得することを実感することができる。	配布資料をよく読み、演習の目標および流れについて理解する	4時間
第2回	**スポーツに対する社会の要請** 現代社会が抱える課題について文献、ネットを通じてリサーチし、、それを解決することが果たしてスポーツで可能であるかについて理解することができる。	事前に配布資料をよく読み、スポーツと社会課題についての各自の疑問についてまとめる	4時間
第3回	**現在のスポーツビジネスについての再評価** 現在のスポーツビジネスについての事例から成功の秘訣や失敗の本質について検討し、ビジネス自体、社会課題解決を目的とするものが多いという現状を理解することができる。	事前に配布資料をよく読み、スポーツビジネスについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第4回	**スポーツイベント（メガイベント）の光と影についての検討** これまでのメガスポーツイベントの評価を通じて、イベントの品質と顧客満足について学ぶことにより、平昌オリンピック・パラリンピックの社会的評価を通してスポーツイベントの光と影について理解することができる。	事前に配布資料をよく読み、メガスポーツイベントについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第5回	**カスタマーエクイティ（バリュー、ブランド、リレーションシップエクイティ）** スポーツの消費者（顧客）の行動本質などカスタマーエクイティについて学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、顧客価値についての各自の疑問についてまとめてくること	4時間
第6回	**参画動機（する、観る、支える）** スポーツ消費者の購買動機因子について学ぶことができる。また、新たなマーケットとしてスポーツを支える人たちがどのような消費行動や、価値創造を行うのかについて研究を深めることができる。	事前に配布資料をよく読み、スポーツ消費者の動機についての各自の疑問についてまとめる	4時間
第7回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論１** スポーツ観戦者からスポーツファンに変容するメカニズムを検討することによって、観戦者とファンの階層性について理解を深めることができる。	事前に配布資料をよく読み、スポーツ観戦者の特性について各自の疑問についてまとめる	4時間
第8回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論２** スポーツにおける顧客ロイヤルティについて学ぶことができる。また、製品関与についても学びを深めることができる。	事前に配布資料をよく読み、顧客ロイヤルティについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第9回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論３** スポーツ企業は今後スポーツの何を売っていくのか、という課題について、単なる製品やサービスだけでなく、感動を共有するなどの経験価値をいかに創造して販売するのかなどを視点に、企業としての戦略や組織マネジメントについて学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、活性化した組織についての各自の考えをまとめる	4時間
第10回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論４** ブランド価値について学ぶことができる	事前に配布資料をよく読み、ブランド価値についての各自の疑問についてまとめてくること	4時間
第11回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論５** アスリートは自らの価値をどう高めていくのかという課題について、アスリートのブランド価値の本質と価値創造という視点から学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、アスリートの価値についての各自の疑問についてまとめる	4時間
第12回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論６** スポーツにおけるブランドコミュニティについて学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、ブランドコミュニティについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第13回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論７** 企業の社会的責任（CSR）について学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、CSRについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第14回	**前期のまとめおよび総評** 前期のまとめとして（１）現代社会に生起する課題をグループごとにピックアップし、（２）なぜ起こるのか、（３）その課題を解決するためにスポーツは何ができるのか、について議論し（４）その解決策を考え、COC+のビジネスアイデアプランコンテストに出場し、他大学の学生の考えや、審査員などの社会人からの意見をいただくことによって、問題意識の向上、プレゼン作成スキルの向上を可能にすることができる。	発表の準備を行う	4時間
第15回	**後期の演習に関するオリエンテーションおよび演習の概説** 後期の演習の概要および卒業研究の意義を知ることができる。	配布資料をよく読み、演習の目標および流れについて理解しておくこと	4時間
第16回	**研究課題の選択：第一グループの発表** 各自のテーマについて、（１）研究の背景、（２）必要性、（３）重要性、（４）研究目的をまとめ、発表することによって、問題から解決までのストーリーのブラッシュアップ、プレゼンのスキルを強化することができる	第一グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる	4時間

第17回	**研究課題の選択：第二グループの発表** 各自のテーマについて、（1）研究の背景、（2）必要性、（3）重要性、（4）研究目的をまとめ、発表することによって、問題から解決までのストーリーのブラッシュアップ、プレゼンのスキルを強化することができる。	第二グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる	4時間
第18回	**研究課題の選択：第三グループの発表** 各自のテーマについて、（1）研究の背景、（2）必要性、（3）重要性、（4）研究目的をまとめ、発表することによって、問題から解決までのストーリーのブラッシュアップ、プレゼンのスキルを強化することができる。	第三グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる	4時間
第19回	**過去の卒業研究の検討：第一グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第一グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第20回	**過去の卒業研究の検討：第二グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第二グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第21回	**過去の卒業研究の検討：第三グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第三グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第22回	**先行研究（学術論文）の検討：第一グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第一グループは各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第23回	**先行研究（学術論文）の検討：第二グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第二グループは各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（4）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第24回	**先行研究（学術論文）の検討：第三グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第三グループは各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（5）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第25回	**研究方法の検討：第一グループの発表** 研究方法について、（1）研究環境、（2）研究の種類、（3）測定尺度、（4）調査概要、（5）サンプリング方法をまとめ、発表することによって、卒業論文作成のイメージを明確化することができる。	第一グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく	4時間
第26回	**研究方法の検討：第二グループの発表** 研究方法について、（1）研究環境、（2）研究の種類、（3）測定尺度、（4）調査概要、（5）サンプリング方法をまとめ、発表できる。	第二グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく	4時間
第27回	**研究方法の検討：第三グループの発表** 研究方法について、（1）研究環境、（2）研究の種類、（3）測定尺度、（4）調査概要、（5）サンプリング方法をまとめ、発表できる。	第三グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく	4時間
第28回	**まとめ：マネジメント、マーケティング調査研究まとめ：卒業論文の実施に向けた留意点** 後期の授業を通して疑問に思ったこと、十分な理解が進まずもう一度説明が必要なトピックス、研究を実施する際の不安材料などを書き出し、それについて議論するできる。 １年間の取組を総括し、卒業論文の目的、重要性、意義、流れについて理解できる	議論の準備	4時間

SP-3202-3-1

授業科目名	ビジネス基礎演習Ⅱ（城島）				
担当教員名	城島　充				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全28回）				

授業概要

スポーツの魅力や問題点を伝えるジャーナリズムには、その時代のなかでそれぞれのスポーツシーンを切り取る視点が必要とされる。数多くのスポーツノンフィクション作品や新聞記事ををスクラップ帳にまとめ、熟読することでその視点を身につけたい。社会の変化とともに、ジャーナリズムの世界も多様化しており、それぞれのツールによる伝え方の違いも学ぶ。東京オリンピック・パラリンピックに関する動きも含め、そのときどきの話題をテーマに議論を深めていきたい。実践的な課題としては、BSSCジャーナルの取材、執筆、編集、校閲作業を通じて様々なテーマを呼び発表するまでのノウハウを学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	ジャーナリズムの視点からみたスポーツの魅力の追求。	さまざまなスポーツシーンを独自の視点で切り取ることができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツの魅力を文章や写真で表現するために必要な知識や技術の習得。	自らの視点でスポーツの魅力を切り取り、文章や写真で表現する力をつける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
レポート提出 100%	： それぞれがスクラップした記事のなかから1つを選択し、その記事から何を感じたのか、レポートする。すべてのレポートをまとめて100点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文藝春秋スポーツグラフィック誌「Number」に発表されたスポーツノンフィクション作品。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび演習の概説** 授業のスケジュールや進め方、達成目標を確認し、評価方法などを説明する。Number誌の作品から気になった作品を一部選択する。	選択した作品を熟読する。	4時間
第2回	**スポーツノンフィクション入門** 前回の授業で選んだ作品についての批評会を行う。作者の視点がどこにあったのかを把握できているかどうかをチェックする。	他の人が選んだ作品も熟読する。	4時間
第3回	**スポーツノンフィクションの視点**	例にあげた作品を熟読する。	4時間

	実際にどんな視点でスポーツノンフィクション作品が紡がれてきたのか。日本のスポーツノンフィクションの金字塔的作品と呼ばれる山際淳二氏の「江夏の21球」をはじめ、いくつもの作品を例にあげながら、その多様性について学ぶ。		
第4回	**新聞ジャーナリズムの研究** 一般紙、スポーツ紙の記事について検証する。雑誌で発表されるノンフィクションとの違いを学ぶ。	図書館で一般紙とスポーツ紙の朝刊に目を通し、関心のあるスポーツニュースを見つけておく。	4時間
第5回	**フォトジャーナリズムの研究** スポーツの一瞬のシーンを切り取るフォトジャーナリズムについて研究する。一枚の写真が伝えるものはなにか。いくつかの作品を例にあげながら、その魅力と問題点について考察する。 。	図書館で新聞や雑誌のバックナンバーを調べ、印象に残った写真をコピーしておく。	4時間
第6回	**映像ドキュメンタリーの研究** スポーツをテーマにした映像ドキュメンタリーについて研究する。実際に発表された作品を検証しながら、活字ジャーナリズムとの違い、その魅力と問題点について考察する。	映像と活字ジャーナリズムの違いについて復習し、テレビが日々伝えるスポーツニュースから興味を持った映像を見つけておく。	4時間
第7回	**スポーツノンフィクションが完成するまで** 実際にどんな形でNumber誌の作品をできあがっていくのか。教員の作品をモデルに、企画の準備段階にやるべき作業や、締め切りを含む担当編集者とのやりとり、ゲラ検の内容などについて学ぶ。	作品が完成するまでのプロセスをしっかりと復習しておく。	4時間
第8回	**スポーツコラムを書く** 自らのスポーツ体験をモチーフにコラムを書く。テーマを絞ることを意識して1200字程度の作品を書き上げる。	自分が書いた作品を徹底的に推敲する。	4時間
第9回	**コラム批評会** 書き上げたコラムを全員が発表し、批評会を行う。	批評会で出た指摘を受け止め、作品を改稿する。	4時間
第10回	**写真でスポーツを表現する** 自分の身近なスポーツシーンをカメラで撮影する。	一枚の写真にどんな意図を込めたのか、しっかりと復習する。	4時間
第11回	**写真批評会** 撮影した写真を全員が発表し、批評会を行う。	批評会で出た指摘を受け止め、どんな写真を撮れば意図が伝わるのかを検証する。	4時間
第12回	**BSSCジャーナルの歴史** 過去に出版されてきたBSSCジャーナルを熟読し、記事の取り上げ方、編集スタイルの変化について学ぶ。	過去のジャーナルの記事を熟読し、自分ならどんな記事が企画できるのかを考える。	4時間
第13回	**BSSCジャーナル制作の企画会議** 自分たちならどんな紙面が作れるのか、意見を出し合う。全体のレイアウトを考え、一面トップに掲載するテーマについてしっかり議論する。	自分が編集長なら、どんな紙面をつくるのか。企画会議の内容をふまえて熟考する。	4時間
第14回	**BSSCジャーナルのデータ収集** 企画会議の結果にしたがって、記事を書くためのデータを収集し、取材対象者を絞っていく。	取材の基本について復習する。	4時間
第15回	**BSSCジャーナルの取材** サッカーや野球のリーグ戦など、紙面に掲載する対象を実際に取材する。	取材した内容を整理する。	4時間
第16回	**BSSCジャーナルの写真撮影** 取材対象のクラブや学生の活動風景や、インタビュー写真を撮影する。	撮影した写真を整理する。	4時間
第17回	**BSSCジャーナルの記事制作** 記事制作の準備から、執筆作業に入る。	視点を絞った記事が書けているか確認する。	4時間
第18回	**BSSCジャーナルのレイアウト** 書いた記事と撮影した写真を実際にレイアウトし、見出しを考える。	レイアウトを点検する。	4時間
第19回	**BSSCジャーナルの完成** 完成した紙面をしっかりと点検する。	できあがった紙面について見直し、反省点などをまとめる。	4時間
第20回	**テレビ局見学** テレビ局に足を運び、日々どんな形でスポーツニュースが報道されているのかを学ぶ	スポーツジャーナリズムにおけるテレビメディアの役割について復習する。	4時間
第21回	**インタビュー実習の準備** 第一線で活躍している人物をゲストスピーカーとして招き、合同インタビューを実施するための準備を行う。対象人物についてのデータ収集や取材のポイントを絞る作業をする。	どんな視点でその人物を切り取るのか、しっかりと確認しておく。	4時間
第22回	**インタビュー実習** 実際にゲストスピーカーへのインタビューを行う。	取材したゲストスピーカーの言葉を整理する。	4時間
第23回	**インタビュー実習作品の執筆**	テーマからそれずに作品が書けているか、確認しておく。	4時間

	教員が実際に取材したアスリートのテープお越しを参考に、インタビュー原稿を作成する。		
第24回	**インタビュー実習作品の批評会** 書き上げた作品を全員が発表し、批評会を行う。	批評会で出た指摘を受け止め、作品を改稿する。	4時間
第25回	**BSSCジャーナル卒業特集号の準備** ３月の学位授与式にあわせて卒業生に贈る新聞制作にとりかかる。	卒業特集にふさわしい企画、レイアウトを考え、インタビュー取材、写真撮影の準備を進めていく。	4時間
第26回	**ＢＳＳＣジャーナル卒業特集の制作** 役割分担し、それぞれの取材、写真撮影活動を進める。	テーマを確認しながら、それに沿った取材を続けていく。	4時間
第27回	**BSSCジャーナル卒業特集号のレイアウト、校閲作業** 記事を完成させ、写真とともにレイアウトし、見出しをつける。編集作業の仕上げとして誤字や脱字がないか、日本語のニュアンスがおかしくないか、すべての記事をチェックする。	出来上がったレイアウト、記事を再点検する。	4時間
第28回	**ＢＳＳＣジャーナル卒業特集号の総括、批評** 納得のいく新聞が作れたかどうか、それぞれが担当した記事を自己分析するとともに、他の記事についても気づいたことを発表しあう。	出来上がった紙面についての話し合いをまとめ、一年間の活動を総括する。	4時間

SP-3202-3-1

授業科目名	ビジネス基礎演習Ⅱ（山本）				
担当教員名	山本　達三				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究作成で必要なLaTeXの基礎（コード、作法）を学ぶんだ上で．興味のある先行研究（和文・英文）の文献要約・添削・発表を繰り返し，研究課題を絞り込み、最期の授業でゼミ内プロポーザルを実施する。こうした先行研究の要約発表を繰り返すことで、研究計画書作成，調査票作成，予備調査依頼，予備調査実施，基礎解析に関するスポーツマネジメント，スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動に関する知識および技能を実践する力を身につける．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する研究の学習・応用，および先行研究の精読と発表．	スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する論文精読・要約を繰り返し行い，自ら研究計画をデザインできるようになる．
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツマネジメント，スポーツマーケティング，消費者行動，消費者心理学，統計学に関する深い知識の獲得と応用．	スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関するに関する研究仮説，研究計画，分析方法，結果の解釈などを独力でできるようになる．

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

スポーツマネジメント，スポーツマーケティングに関する先行研究を学びながら，当該研究に必要な一連の研究プロセスを習得することを目的とし，３年次で研究計画を完成させることを目指す．なお，コロナ禍を考慮して，授業の内容は，google classroom上に事前にアップロードし，zoomによるオンラインライブ授業を展開する．

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
先行研究の発表	60%	： 幅広い先行研究の要約と発表を複数回行う．要約の内容とプレゼンテーションの内容などを総合的に評価する．
卒業研究に関する発表	40%	： 先行研究を踏まえた卒業研究に必要な、研究目的、研究方法、研究の位置付け、新規性、分析方法、予想される結果などを十分に網羅しているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞，吉田政幸編著，2017），ミネルヴァ書房：京都．
LaTeX2ε　美文書作成入門（2017）
SPSSによる統計データ解析（2007）
EZRでやさしく学ぶ統計学(2019)
共分散構造分析［AMOS編］(2013)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日3限

場所： 研究棟B311

備考・注意事項： 事前に下記のメールでアポイントを取ること
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**LaTeXのインストール、LaTeXのコードの基礎** 山本ゼミで使用する、LaTeXに関する基礎的な習熟を目指す。	LaTeXのコードを習熟する	4時間
第2回	**英文先行研究について** 英文の先行研究の検索方法、文献要約の仕方を学ぶ。	英文先行研究の要約の仕方について習熟する。	4時間
第3回	**先行研究の要約発表(1)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第4回	**先行研究の要約発表(2)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第5回	**先行研究の要約発表(3)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第6回	**先行研究の要約発表(4)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第7回	**先行研究の要約発表(5)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第8回	**先行研究の要約発表(6)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第9回	**先行研究の要約発表(7)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第10回	**先行研究の要約発表(8)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第11回	**先行研究の要約発表(9)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第12回	**先行研究の要約発表(10)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第13回	**先行研究の要約発表(11)** 各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う． 継続テーマ：LaTeXの習得	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間
第14回	**ゼミ内プロポーザル** ゼミ内で卒業研究のプロポーザルを実施する。	発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく．	4時間

SP-3202-3-1

授業科目名	ビジネス基礎演習Ⅱ（吉倉）				
担当教員名	吉倉　秀和				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この演習の一番の目的は、スポーツマネジメントおよびスポーツマーケティングにおける基礎ならびに応用知識の習得を念頭に、問題点を把握し、卒業研究に向けて研究課題を決定することである。具体的には、調査方法、文章表現、プレゼンテーションなどの基本的知識の理解とその実践について、演習を通じて習得することを授業のゴールとし、スポーツビジネス現場での実践機会も設けることで理論と実務のギャップについても認識し、卒業後の進路に向けた自身の現状把握も第二目標として設定する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツビジネス研究領域に関する知識	学術論文や参考文献の購読を通じて、スポーツビジネスに関する専門用語や統計手法を理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツ産業の実践にて必要とされる社会人基礎力	スポーツ産業に必要とされるプレゼンテーション、コミュニケーション、ファシリテーション手法を獲得できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション 60%	：	①理論的な発表、②独自の見解が織り交ぜられているか、③発表に対する姿勢や準備
レポート 40%	：	①説明すべきテーマに対して簡潔に記されているか、②卒業研究に関するレビューに対して深い考察ができているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツマネジメント」原田宗彦・小笠原悦子編著，大修館書店
「スポーツマーケティング」原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高編，大修館書店
「スポーツファイナンス」武藤泰明著，大修館書店

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツビジネスを学ぶとは？** スポーツビジネス研究領域に関する学習方法について解説する。	自身が高めたい専門性について検討すること。	4時間

第2回	**スポーツビジネス界の現状** スポーツビジネス界の現状について、資料を踏まえながらディスカッションを行う。	配布資料をもとに自身が考察したことについてレポートすること。	4時間
第3回	**スポーツチームのマネジメント** チームづくりに関するノウハウを講義を中心に解説する。	スポーツマネジメントについて、講義内容をもとに復習すること。	4時間
第4回	**スポーツリーグのマネジメント** リーグのガバナンスについて、SWOT分析をもとに解説する。	SWOT分析ならびにガバナンスに関する復習をすること。	4時間
第5回	**スポーツクラブのマネジメント** クラブチームの損益に関する留意点について解説する。	クラブチームの経営状況とその問題点について、レポートすること。	4時間
第6回	**社会調査・データ分析について** 社会調査の基礎について学習し、調査をもとにしたデータ分析について理解する。	社会調査の基礎について、復習すること。	4時間
第7回	**研究課題の選択：発表と議論（スポーツマネジメント）** 各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。	他のプレゼンテーションを参考に、自身の研究テーマに深みを持たせられるように検討すること。	4時間
第8回	**研究課題の選択：発表と議論（スポーツマーケティング）** 各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。	幅広い知識の習得に向けた参考文献リストを作成すること。	4時間
第9回	**研究課題の選択：発表と議論（スポーツ施設マネジメント）** 各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。	自身のプレゼンテーションに関する改善点について再検討する。	4時間
第10回	**文献研究：発表と議論（卒業研究要旨集）** 各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。	文献のリストアップならびに入手方法について確認すること。	4時間
第11回	**文献研究：発表と議論（学術論文雑誌）** 各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。	発表をもとに、再検索が必要とされる文献について検討すること。	4時間
第12回	**文献研究：発表と議論（各種官公庁資料）** 各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。	文献内において理解できなかった用語に対する再復習をおこなう。	4時間
第13回	**研究方法の検討：発表と議論（アンケート調査）** 各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。	発表を参考に、自身の調査計画について改善点を列挙すること。	4時間
第14回	**研究方法の検討：発表と議論（ヒアリング調査、フィールドワーク）** 各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。	最終的な調査計画を決定し、レポートとしてまとめること。	4時間

SP-3302-3-1

授業科目名	健・トレ基礎演習Ⅱ（佃）				
担当教員名	佃　文子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。（全30回）。				

授業概要

スポーツ医科学の実践について、トレーニング科学やスポーツ医学の知見（関連する文献等）を収集し原典を理解すると同時に、体験的知見との差について討議する。
後期には、各自の興味に応じた研究分野の情報収集と卒業研究に向けた予備調査・測定を行う。これらの演習は、卒業研究のテーマをしぼり、研究計画を立案するための重要な素地となる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ医科学に関する論文抄読および解釈	問題解決のための具体的な方法を検討し提案できる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	自己の疑問に沿った課題に対する、問題解決に向けた研究計画の立案	課題研究について、適切な問題提起と解決のための方法等について、わかりやすくプレゼンテーションできる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業課題への取り組み	40%	： 内容の妥当性と理論構成について、本学基準のルーブリックに基づいて評価します。
授業課題のプレゼンテーション	30%	： 伝える内容のまとめ方50%、伝え方50%の割合で得点化します。
ミニ卒論の計画と結果	30%	： ミニ卒論について、計画70%、結果の伝え方30%の割合で得点化します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。必要に応じて検索し取り寄せる。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション、図書館利用方法の習熟** 授業の内容と進め方を理解する。論文検索や論文お取り寄せなど専門情報の検索方法と手続き、取り寄せや複写、引用に関するルールを理解する。	予習：トレーニング・健康分野で、自分自身が最も興味のある内容について、読んでみたい本や雑誌を見つけてくる 復習：読んだ雑誌や本を要約する	4時間
第2回	**アスレティックトレーニング活動の計画立案** 身近なスポーツフィールドで実施できる、トレーニング計画・コンディショニング計画・体力測定計画などを立案する。 何を根拠に立案したのか他者に説明する 対象の問題点や課題に関する情報の把握方法を討議する。	予習：自身の身近なスポーツの現場で求められている、スポーツ傷害の管理・計画的なトレーニング・リカバリー方法などについて、組織から求められている内容をリサーチしてくる 復習：自身の身近なスポーツの現場で求められている、スポーツ傷害の管理・計画的なトレーニング・リカバリー方法などについて、組織的なサポート計画の素案を作成する	4時間
第3回	**過去の卒業論文の研究課題や問題提起の観点を理解する** トレーニング・健康コースの卒業研究をもとに、研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：過去のコース内の卒業研究の抄録集から自身で興味が持てる内容を5つ探し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ過去の卒業研究の内容をまとめる	4時間
第4回	**過去の卒業論文の内容を討議し研究方法の理解を広める** トレーニング・健康コース以外の卒業研究をもとに、研究方法を理解する	予習：過去のコース外の卒業研究の抄録集から自身で興味が持てる内容を5つ探し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ過去の卒業研究の内容をまとめる	4時間
第5回	**関連分野の研究文献の検索方法** 各種の学会にて発表された先行研究を文献検索し、研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：スポーツと健康の関連分野の学会から自身で興味が持てる研究報告を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ資料を読み要約する	4時間
第6回	**国内研究文献から研究課題や問題提起の観点を理解する** 各種の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する	4時間
第7回	**国内研究文献から研究方法の理解を広める** 各種の学術誌に調べた文献等の概要をまとめる発表された原著論文を文献検索し、研究方法を理解する	予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み、研究方法について図にまとめる	4時間
第8回	**国内の研究文献の発表する** 調べた文献をまとめて、発表や討議のための準備のための準備を行う	予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み、主な結果を図示する	4時間
第9回	**国内の研究文献発表についてデスカッションを行う** 前週の研究発表の、特に結果の分析と考察について討議する	予習：自身の発表した研究について、さらに結果と考察の理解を深める 復習：他者からの質問について不明な点を調べる	4時間
第10回	**症例検討1回目　足部** 足部の運動機能に対するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する	予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、足部のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：足部のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる	4時間
第11回	**症例検討2回目　下肢** 下肢の運動機能に対するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する	予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、下肢のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：下肢のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる	4時間
第12回	**症例検討3回目　体幹** 体幹の運動機能に関するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する	予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、体幹のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：体幹のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる	4時間

第13回	**症例検討4回目　肩・肩甲帯** 上肢帯の運動機能についてのトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する	予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、肩・肩甲帯のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：肩・肩甲帯のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる	4時間
第14回	**総合討議** 前期の取り組みを振り返り、各自の興味が持てた課題内容と、各研究の限界から次の研究課題を分析する。	予習：前期の学習を振り返り、興味が深まった研究と理解の浅い内容や課題について整理する 復習：洗い出された研究課題についてまとめる	4時間
第*回	**＊** ＊	＊	4時間

SP-3302-3-1

授業科目名	**健・トレ基礎演習Ⅱ（秋武）**				
担当教員名	秋武　寛				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域のスポーツにかかわり、その運営・管理ができる立場の人材をはじめ、子どもを対象にした健康増進・余暇活動の充実に貢献できるような研究を行う。この授業科目は、子どもの運動能力の向上に向けた卒業論文作成に向けての知識を習得する。文献研究の方法、先行研究との関係、フィールド調査の企画、フィールド調査、データの整理、統計手法を用いた分析、プレゼンテーション能力（特に伝える力）等を学び、最終的に卒業論文に結び付けることとする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	卒業論文作成に向けて、フィールド調査の企画、フィールド調査、プレゼンテーション能力	先行研究との関係、フィールド調査の企画、フィールド調査、分析、研究論文の執筆する能力を身につける。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	文献研究の方法、先行研究との関係、考察	卒業論文作成に向けて、文献研究の方法、先行研究との関係、考察する力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	20%	： 各単元終了後に内容に沿ったレポートを提示し、その理解度を評価する。
卒業論文計画書発表	30%	： 作成した計画書を用いて、定期的に研究計画を発表し、その発表について評価する。
卒業論文計画書	50%	： 授業内容を踏まえ、定期的に卒業研究に必要な計画書を作成し、その内容について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

資料を適宜配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、卒業論文作成のスケジュールの発表** 演習全体の流れを説明すると同時に、受講者それぞれに本演習を選んだ理由、関心のある事柄等について発表してもらう。	演習全体の流れを把握すると同時に、自分自身の関心について再確認する。	4時間

第2回	**「論文」とは何か** 「論文」と「感想文」との違い、相手に納得してもらうための文章づくり等について概説する。	配布資料を参考に、論文全体の基本的な流れについて学ぶ。	4時間
第3回	**論文・レポート作成の基礎① - 文章表現** 論文・レポート作成時の基本的な文章表現方法について学ぶ	論文・レポートに共通する言葉遣いや表現方法を適切に理解する。	4時間
第4回	**論文・レポート作成の基礎② - 章立て・構成** 論文・レポートの構成について学ぶ	配布資料をしっかりと読み込み、全体の構成について理解する。	4時間
第5回	**文献講読① - レポート作成・発表準備** 課題図書を指定し、それに対するレポート作成・発表準備を行う。	レポート作成の手順、発表方法について理解をしておく。	4時間
第6回	**文献講読② - レポート発表準備** 課題図書をもとにして作成したレポートを発表準備を行う。	発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。	4時間
第7回	**文献講読③ - レポート発表** 課題図書をもとにして作成したレポートを発表する。	発表者は、発表するための準備を行う。発表者以外の受講生は、発表者の評価を行う。	4時間
第8回	**文献講読④ - レポート発表およびまとめ** 課題図書をもとにして作成したレポートを発表し、相互で振り返りを行う。	発表の準備、発表、まとめを復習する。	4時間
第9回	**資料検索の方法** 図書館データベースの使用方法、CiNiiによる論文検索の方法を学ぶ。	関心のあるテーマに関わる資料を数件探し出すこと。	4時間
第10回	**先行研究の検討① - 論文の構成** 配布した論文をもとに、研究手法（質的・量的手法）や調査対象者、全体の構成について学ぶ。	自分自身の関心のあるテーマに対して、どのような手法が合致するのかをしっかりと考える。	4時間
第11回	**先行研究の検討② - レポート作成** 第１０回の授業を踏まえて、各自先行研究を２件程度収集し、レポートの形でまとめる。	論文テーマのみで決めるのではなく、研究手法や対象者の違いについても留意しながら先行研究を収集する。	4時間
第12回	**先行研究の検討③ - レポート発表準備** 前回授業で収集した先行研究のレポートを発表できるように準備する。	レポート作成の手順、発表方法について理解をしておく。	4時間
第13回	**先行研究の検討④ - レポート発表** 前回授業で収集した先行研究のレポートを発表する。	発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。	4時間
第14回	**先行研究の検討⑤ - レポート発表およびまとめ** 前回授業で収集した先行研究のレポートを発表し、相互で振り返る。	発表の準備、発表、まとめを復習する。	4時間
第15回	**まとめ・振り返り** これまでの演習を踏まえて、大まかなテーマ設定・調査対象等についてまとめる。	自分自身が発表したレポート課題、先行研究レポートについて事前に振りかえりをしておくこと。	4時間
第16回	**論文のテーマ作成①** 各自収集した先行研究、その他資料を参照しながら論文のテーマを作成していく。	どのような障害をもっているのか、どのような種目に関わっているのか等、関心のあるテーマに対するイメージを具体化していく。	4時間
第17回	**論文のテーマ作成② - ディスカッション** 第１６回の授業を踏まえて、各自設定したテーマを選んだ理由や問題関心についてディスカッションを行う。	それぞれのテーマに対する問題関心を明確にする。	4時間
第18回	**研究手法の検討① - 質的研究について** 配布した資料をもとに、質的研究（インタビュー・参与観察等）の手法および調査対象者の設定について学ぶ。	自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。	4時間
第19回	**研究手法の検討② - 量的研究について** 配布した資料をもとに、量的研究（質問紙調査等）の手法および調査対象者の設定について学ぶ。	自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。	4時間
第20回	**研究手法の検討③ - 発表およびディスカッションのための準備** 自分自身が設定した研究テーマ、研究手法について発表およびディスカッションを行うための準備を行う。	発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。	4時間
第21回	**研究手法の検討④ - 発表およびディスカッション** 自分自身が設定した研究テーマ、研究手法について発表およびディスカッションを行う。	第20回と同様	4時間
第22回	**卒業論文計画書の作成① - テーマ設定**	自分自身の研究テーマを意識しながら、論文の構成について理解する。	4時間

	先行研究をもとに、論文の構成と各自のテーマに合致した形式を学ぶ。		
第23回	**卒業論文計画書の作成② - 仮説の設定** 各自が収集した先行研究、その他資料を参考に論文の仮説を設定する。	先行研究をすべて踏襲するのではなく、仮説の中に自分なりの視点を加味すること。	4時間
第24回	**卒業論文計画書の作成③** 第２２回・第２３回の作業を踏まえて、計画書を作成する。	研究目的に沿った手法を選択しているか、仮説に飛躍はないか等、全体の構成を考える。	4時間
第25回	**卒業論文計画書の作成④** 第２４回と同様	第24回と同様	4時間
第26回	**プレゼンテーションの方法および資料の作成** パワーポイントの基本的な操作方法および、プレゼンテーションの基本的な手法について学ぶ。卒業論文計画書の発表用資料を作成する。	見やすい資料の作成や、発表方法の基本的な技術を身につける。各自作成した計画書をもとに、資料を作成していく。	4時間
第27回	**卒業論文計画書の発表の準備** 各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行うための準備を行う。	発表後にディスカッションを行うため、事前に配布する発表資料を読み込んでおく。	4時間
第28回	**卒業論文計画書の発表およびまとめ** 各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行い、一年間のまとめを行う。	発表後にディスカッションを行うため、事前に配布する発表資料を読み込んでおく。	4時間

SP-3302-3-1

授業科目名	健・トレ基礎演習Ⅱ（小松）				
担当教員名	小松　猛				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者としての実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

卒業論文作成に向け研究目的の考え方、それを達成するための研究方法の立案とその技術の習得、得た結果のまとめ方、そしてその結果をどのように考察し、結論を見出すかについて具体的に勉強を進める。更に、トレーニング・健康に関する専門的知識を習得するため、スポーツ医学を中心とするテーマのプレゼンテーション、ディスカッション、論文抄読などをしながら、自らの研究テーマを探っていくことから始める。また、統計処理や適切な文献を選択する文献検索のコツについても学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ医学に関する理解と、個人またはグループでのプレゼンテーション。	自分自身の研究テーマを考えるためのスポーツ医学に関する知識を深めることができる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツ医学に関する論文の文献検索と、その内容についてのディスカッション。	卒業研究に向けて行うテーマを見つけ、実現可能な研究計画を立てることができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツ医学分野で学んだ外傷・障害における対応の実践。	医学分野におけるスポーツ現場で必要な知識を活かすことができる。

学外連携学修

有り　（連携先：滋賀県スポーツ医会）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	50%	： 授業内で学んだトレーニング・健康に関する内容、学外で行ったフィールドワークや聴講した講演内容のサマリなどを、適切な表現を使って分かり易く伝えているかを評価。
プレゼンテーション	50%	： スポーツ傷害、リハビリテーションなどの課題について、内容が分かり易く的確なプレゼンテーションになっているのかを評価。スライドの内容に関しても同様に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

新版　スポーツ整形外科学　中嶋寛之（監修）　福林　徹・史野根生（編集）　「南江堂」
新・スポーツ医学　藤本繁夫・大久保　衛（編）　「嵯峨野書院」
その他、必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本演習の目的と進め方** 本授業のガイダンス、スポーツに関する怪我の自己体験をプレゼンテーション	適切な自己表現方法と経験したスポーツ傷害について復習	4時間
第2回	**スポーツ医学に関する知識の総復習** 筆記・口頭でのスポーツ医学に関する知識の確認	講義等で学習したスポーツ医学に関する知識を再確認する	4時間
第3回	**参考文献の調べ方** あるテーマに対して、図書館やインターネットを用いての先行研究の検索方法を学ぶ	自分の興味のあるテーマを検索して、検索方法を熟知する	4時間
第4回	**プレゼンテーションの作成：準備** グループに分かれて、与えられた課題に対するプレゼンテーションのために必要な準備を理解する。	グループでプレゼンテーションの進め方について話し合う	4時間
第5回	**プレゼンテーションの作成：スライド構成** 分かりやすいプレゼンテーションのために必要なプレゼン構成を理解する。	パワーポイントの使いこなせるように情報を収集する	4時間
第6回	**プレゼンテーションの進め方** 作成したスライドを分かり易く伝えられるような進め方を学ぶ。	今後与えられる課題をイメージして、プレゼンテーションを繰り返す	4時間
第7回	**運動器の知識を深める（正常解剖と機能）** 運動器（関節や筋肉）の解剖および機能に関する各自の担当テーマを調べ、発表する	運動器の解剖と機能の知識を整理して、正確に分かり易く発表できるように準備する	4時間
第8回	**運動器の知識を深める（上肢のスポーツ外傷・障害）** 上肢のスポーツ外傷・障害の受傷機転、診断、治療、具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する	上肢の傷害に関する基礎知識を復習する	4時間
第9回	**運動器の知識を深める（下肢のスポーツ外傷・障害）** 下肢のスポーツ外傷・障害の受傷機転、診断、治療、具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する	下肢の傷害に関する基礎知識を、今までの講義の資料などから再確認しておく	4時間
第10回	**運動器の知識を深める（頭頸部、体幹のスポーツ外傷・障害）** 頭頸部、体幹のスポーツ外傷・障害の受傷機転、診断、治療、具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する	比較的重症な外傷や障害については理解を深めておく	4時間
第11回	**スポーツ医学系の学術講演聴講と内容の理解** 学外で行われる学術講演の内容について文献や著書を用いて調べた上で、学術講演を聴講する。	講演の内容を再確認して、それに対する自分の考えをまとめておく	4時間
第12回	**学術講演に対する評価** 第11回授業で聴講したスポーツ医学系の学術講演の内容について自分なりの意見を述べ、最終的にどのような知見が得られたかをグループおよび個人でまとめる。	学術講演に関するレポートを作成する	4時間
第13回	**卒業研究のテーマを求めて（論文のプレゼンテーションとディスカッション）** スポーツ外傷・障害の臨床研究を検索して、その中から各自の担当論文を調べ発表する。発表後にグループでディスカッションする。プレゼンテーション内容が分かり易いか、もし難しければ何が分からないのか、をグループディスカッションを通して問題抽出をする。	自分のプレゼンテーションで指摘された問題点について考える	4時間
第14回	**卒業研究のテーマを求めて（個人でのテーマ設定に関するプレゼンテーション）** 卒業研究テーマの設定に関してプレゼンテーションを行う。データの収集方法、分析の進め方、などが正しいのかをプレゼンテーションを通して検証する。	プレゼンテーションを通して出てきた問題点に対して、どのように改善するべきかを考える	4時間

SP-3302-3-1

授業科目名	健・トレ基礎演習Ⅱ（高橋）				
担当教員名	高橋　佳三				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、一年間を通して「各自が研究計画を立て、データを収集・分析し、考察を加えて論文を執筆する能力を養う」ことを目標とする。そのため前期では先行研究から各自が行いたい研究内容の問題点を抽出し、研究計画書を執筆する。そして２次元および３次元動作分析の手法を用いた実験とデータ分析を行う。後期には、前期に算出したデータを加工し、考察を行い、ミニ卒業論文を執筆する。これらの一連の内容を学修し、４年次の卒業論文執筆のための基礎的な能力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツバイオメカニクスに関する知識の習得とその応用	スポーツ技術について、スポーツバイオメカニクスの観点から分析できるようになる。
２．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツバイオメカニクスで用いられる実験・研究手法の習得	スポーツバイオメカニクスの実験・研究手法を用いた研究ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
研究計画書	20%	： 先行研究のレビューが的確に行われ（50点），実験計画が詳細に記されているか（50点）を評価する
実験などへの参加度	30%	： 自身の実験の際に主導的立場で実験を行っているか（50点），他の学生の実験に積極的に参加しているか（50点）を評価する
レポート	50%	： レポートが卒業論文の体裁に従って執筆されているか（30点），内容が論文として適切かどうか（40点），新たな発見と卒業論文につながる知見が得られたか（30点）を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツバイオメカニクス（深代千之，桜井伸二，平野裕一，阿江通良著，朝倉書店）
バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎（金子公宥，福永哲夫著，杏林書院）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　研究室（B306）

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**文献読解（1）：文献検索、読解** 文献検索の方法、論文の読み方について理解する。 バイオメカニクスの研究論文を読み、先行研究で明らかにされていること、されていないことを読み取り、課題を明らかにする。	次回以降の授業で読む研究論文を検索し、印刷しておく。	4時間
第2回	**文献読解（2）：レビュー作成、発表** 先行研究のレビューの作成法について学び、実際に作成する。レビューのプレゼンテーションをする。	先行研究のレビューを作成し、パワーポイントで発表資料を作成する。	4時間
第3回	**研究計画（1）：研究計画書の書き方** 研究計画書の書き方について説明する。そしてレビューを元に研究計画を立て、研究計画書を作成する。	研究計画を発表できるよう、パワーポイントで資料を作成する。	4時間
第4回	**研究計画（2）：研究計画の発表** 研究計画についてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの際質問を受けた内容についてさらに調査を進める。	4時間
第5回	**二次元および三次元画像撮影** 実際に映像を撮影することで、二次元および三次元画像撮影の方法（固定法、パンニング法、キャリブレーション法）を理解する。その際、カメラの設定内容についても理解を深める。	次週の授業に向けて、撮影した映像を変換しておく。	4時間
第6回	**二次元データ分析（1）：デジタイズ法の理解** デジタイズの方法を理解する。	次週の授業までにデジタイズを終わらせておく。	4時間
第7回	**二次元データ分析（2）：2次元実長換算、平滑化、速度算出** 2次元の実長換算について、概念や計算方法を理解する。また、平滑化（スムージング）について概念と手法を理解する。 微分法について理解し、2次元座標値を微分して速度を算出する。そして速度の意味（成分や合成など）について理解する。	次週の授業までに実長換算、平滑化、速度算出を終わらせ、問題があればデジタイズをやり直しておく。	4時間
第8回	**二次元データ分析（3）：角度・角速度算出** ベクトル間の角度の算出方法について理解する。そして部分角度と関節角度を算出し、それぞれの違いと意味について理解する。また部分角度と関節角度を微分して角速度を算出する。	算出したデータをExcelでまとめておく	4時間
第9回	**三次元データ分析（1）：三次元のデジタイズ法の理解** カメラ2台以上でデジタイズを行う際の注意点など、デジタイズの方法を理解し、デジタイズを行う。	次週の授業までにデジタイズを終わらせておく.	4時間
第10回	**三次元データ分析（2）：三次元DLT法、平滑化、速度算出** キャリブレーションポールのデジタイズ方法、カメラ定数の算出方法、3次元DLT法について理解する。 微分法により、三次元速度を算出する。	次週までに三次元速度算出まで行い、Excelにまとめておく	4時間
第11回	**三次元データ分析（3）：三次元キネマティクス（角度、各速度）算出** 三次元データにおける角度、角速度を算出し、データの意味を理解する。	次週の授業までにそれぞれのデータをエクセルでグラフ化しておく.	4時間
第12回	**統計処理** t検定、分散分析、相関係数など、基礎統計量について理解し、基礎統計を行う。	次週からの考察に向け、統計処理を行っておく。	4時間
第13回	**考察、レポート執筆** データを様々な組み合わせで並べ替え、考察のストーリーを考える。 ストーリーを元に、レポートを執筆する。	次週までにレポート執筆を終わらせておく	4時間
第14回	**まとめ：発表** 執筆したレポートを発表し、ディスカッションを行う。	ディスカッションで出た課題を元にレポートを修正し、提出する。	4時間

SP-3302-3-1

授業科目名	健・トレ基礎演習Ⅱ（武田）				
担当教員名	武田　哲子				
学年・コース等	3	開講時期	＊後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪帯同、2021年東京五輪帯同）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

トレーニング・健康・栄養に関する膨大な情報の中から信頼できる情報を選択し、理解した上でプレゼンテーションができる力を養うことを目的とする。
また、さまざまな研究手法を学び、自ら研究を計画し遂行できる力を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	健康やスポーツと栄養に関する情報の整理および課題設定や問題解決の考察	情報収集する力，情報を選択する力，課題設定から問題解決までの論理的思考能力を身につける
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	健康維持や競技パフォーマンス向上に対して適切な栄養素等摂取ができるための実践力の習得	健康維持や競技パフォーマンス向上のために適した食生活の課題設定ができ、実践できる力を身につける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

課題発表は前期に2回、後期に2回行う。レポート作成は授業終了時に行う。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題発表	30%	： 課題の理解，論理的な説明，発表のわかりやすさについて評価する
課題取り組み状況	40%	： 課題発表に向けて適切な文献検索，情報処理を行っているかについて評価する
レポート	30%	： 所定の書式に合わせて独自の考察を含めて論理的に取り組むことができているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒業論文についての概説** 自然科学系の研究のテーマ設定について解説する.	興味あるテーマについての卒業研究について下調べしておく.	4時間
第2回	**文献検索とその読み方、紹介方法について** 学術論文の書き方について解説する.	卒論テーマに向けて関心事項からキーワードを選択する.	4時間
第3回	**文献抄読** 検索した文献を抄読し内容を理解する.	文献を読み，文献のキーワードについて下調べおよび復習しておく.	4時間
第4回	**文献紹介準備** 探索した課題について先行研究を読み，課題を整理する.	発表資料を準備する.	4時間
第5回	**発表資料の準備** スポーツ現場における問題点について情報共有を行うためのプレゼンテーション資料を準備する.	発表資料を完成させ，発表練習をする.	4時間
第6回	**文献紹介** 文献紹介（プレゼンテーション）を行い，内容に関して討論する.	プレゼンテーションで質問された事項など新たな課題を整理しておく.	4時間
第7回	**卒論研究計画の立案** 研究計画の立て方と研究の進め方について解説する.	扱いたいテーマに関して下調べしておく.	4時間
第8回	**卒論研究計画の討論** 研究テーマについて発表し，テーマ設定や方法について討論する.	発表の中でキーワードになった事柄について復習しておく.	4時間
第9回	**卒論研究計画のための先行研究探索** 研究テーマについての先行研究を探索する.	先行研究を抄読するにあたり関連する事柄の基礎知識を復習しておく.	4時間
第10回	**卒論研究計画のための先行研究抄読** 研究テーマについての先行研究を抄読する.	論文内でキーワードになる事柄について復習しておく.	4時間
第11回	**先行研究のプレゼンテーションの準備** 研究したいテーマに関連した研究の調べ方，まとめ方について解説する.	先行研究のプレゼンテーション資料を完成させ発表練習する.	4時間
第12回	**先行研究のプレゼンテーション** 準備した資料に基づきプレゼンテーションを行う.	関連する先行研究を検索し読み込んでおく.	4時間
第13回	**卒業研究発表会の参加** 研究方法、データの整理の仕方、プレゼンテーション方法について理解を深め、自身の研究活動に向けた課題を探索する.	レポートを作成する	4時間
第14回	**卒論研究テーマの発表** 研究テーマおよび計画について発表する.	計画の修正を行い、実験や調査の準備をする	4時間

SP-3302-3-1

授業科目名	健・トレ基礎演習Ⅱ（田中）				
担当教員名	田中　忍				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自己や課題を探求し，調べて表現することを繰り返す．発表時には，時間を考慮して聞き手に見やすくわかりやすい資料を作成し，相手に伝わる発表が出来るようになる．プレゼンテーションは，内容と発表（資料の見やすさ，発表態度，声の大きさ，目線など）に分けて学生同士でも評価をし合いフィードバックを行う．また，卒業論文の作成に向け，興味のある課題を見つけ，文献を検索し，研究方法を理解する．信頼できる文献を元に課題を具体的に絞り込み，自ら卒業論文を作成できる力を身につける．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	興味深い領域の研究探索	参考文献を用い，興味あることをまとめて説明できる．
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	参考文献の検索と要約	信頼できる参考文献を探すことができる．

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	70%	： 内容と話し方をそれぞれ評価する。教員評価と学生の相互評価を用いる。一度目（文献要約）は提示資料を自由とし、二度目（研究計画書）はパワーポイントで作成をする。
研究計画書作成	20%	： 卒業研究の計画書を作成する。
文献検索と要約	5%	： 卒業研究として取り組みたいテーマで信頼できる論文を探し、要約する。
授業参加度	5%	： 提出物の期限厳守、個人およびグループ活動時に積極的に参加しているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する．

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の概要と目標の設定** 研究テーマを決定していくために必要な情報をどのように収集していくかについて、概要を学ぶ．自己紹介の際に、研究として取り組む興味のあることを発表する．	演習での学びを通して自立する見通しを立てる．	4時間
第2回	**文献検索** 学術論文の構成を理解し、トレーニング効果や二つの事柄の関係性について書かれた論文を検索する。	文献を検索し、5本の論文を読む。	4時間
第3回	**論文要約** 自身の卒業研究のテーマに添った文献を要約する。	要約する項目に必要なことをまとめる。	4時間
第4回	**プレゼンテーション（文献要約について）** 要約した文献を発表する。発表者は、時間内に、何をどのように発表すれば伝わるかを考えて発表する。同時に評価者として、内容・話し方を評価する。	自身の発表を振り返る。	4時間
第5回	**研究テーマを考える** 発表した文献について、卒業研究として行うためにさらに検討する必要があることや不足していることを検討する。	具体的に考えられるように再度文献を検索する。	4時間
第6回	**研究テーマの発表** どのようなことに取り組むかを発表する。	不足している情報を調べる。	4時間
第7回	**研究計画書の作成** 研究計画書に記載する内容を理解し、作成していく。	文語で文章を書く。	4時間
第8回	**研究計画書の発表準備** 研究計画書の発表は、自分の計画ではなく他者の計画を発表する。他者の計画を理解し、パワーポイントで資料を作成して発表する準備をする。	お互いに協力をして、伝わりやすい発表にする。	4時間
第9回	**研究計画書の発表準備（仕上げ）** 時間内にどのように発表すると伝わるかを考えて、互いの発表を仕上げる。	プレゼンテーション資料を見やすく作成する。	4時間
第10回	**研究計画書の発表** 他者の研究計画をプレゼンテーションする。同時に、評価者として内容・話し方を評価する。	発表を振り返る。	4時間
第11回	**研究背景の充実** 研究計画のうち、背景について文章を書き進める。	文語で文章を記載する。	4時間
第12回	**研究方法の充実** 研究方法のうち、測定を行う際の注意点や記録の取り方について確認する。	具体的な測定のスケジュールを立てる。	4時間
第13回	**研究結果の充実** 得られた研究結果をどのようにまとめるのかについて、確認する。自身が用いる分析方法について確認する。	必要な分析方法を理解する。	4時間
第14回	**研究計画の確認とまとめ** 測定の時期やスケジュールを決め、どのような見通しで卒業研究に取り組むかをまとめる。	実践できるように具体的にスケジュールを立てる。	4時間

SP-3302-3-1

授業科目名	健・トレ基礎演習Ⅱ（禰屋）				
担当教員名	禰屋　光男				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事した実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

卒業論文の作成に向けて、研究目的の立て方、研究目的を達成するための研究方法の立案と企画方法の習得、得られた実験結果のまとめ方や統計に関する計算方法、そして、その結果に基づきどのような考察が立てたれるかについてのまとめなど、具体的に勉強を進めます。また、研究は、チームで進めていく場合が多いため、仲間同士のディスカッション能力、協調性も求められます。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ科学に関する様々な基礎的知識用いた身体運動の複合的な構成	身体運動が様々な生理学的反応が複合的に関連して成立していることを理解する
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	卒業研究に向けた、基本的実験を進めるための知識や技能	自身で卒業研究を実施するための研究計画を立案できる
3 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	卒業研究に用いるスポーツ科学分野の測定技術	スポーツ科学分野で用いる測定技術を習得する

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

実験で得られたデータをもとにレポートを作成する必要があるので、欠席しないでください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各実験データに基づくレポート 50%	：	レポートに必要な内容が適切に記載され、十分な考察ができていること
各実験データに基づくプレゼンテーション 50%	：	プレゼンテーションに必要な内容が含まれ、研究の意義などについてのプレゼンテーションができていること

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　随時
場所：　研究室
備考・注意事項：　初回講義時に説明します

授業計画　　**授業外学修課題にかかる目安の時間**

第1回	**データの解析とエクセルの活用（基本的な入力の方法）** 例示データを用いて，エクセルへのデータ入力について学習します.	エクセルにデータを入力する際の基本的な方法を復習すること	4時間
第2回	**データの解析とエクセルの活用（データの解析）** 例示データを用いて，エクセルでのデータ解析について学習します.	エクセルを用いたデータ解析の方法を復習すること	4時間
第3回	**データの解析とエクセルの活用（基本的なグラフの作成）** 例示データを用いて，エクセルでの基本的なグラフ作成について学習します.	エクセルを用いた基本的なグラフの作成の方法を復習すること	4時間
第4回	**データの解析とエクセルの活用（応用的なグラフの作成）** 例示データを用いて，エクセルでの応用的なグラフ作成について学習します.	エクセルを用いた応用的なグラフの作成の方法を復習すること	4時間
第5回	**データの解析つSPSSの活用** 例示データを用いて，SPSSでの分散分析の方法について学習します.	分散分析について復習すること	4時間
第6回	**チームプロジェクト（研究の計画の立案）** ２～３名のチームを作り，研究テーマを設定します	研究テーマと計画を整理すること	4時間
第7回	**チームプロジェクト（研究の実施）** 研究計画にそって、データを取得します	実験結果をまとめておくこと	4時間
第8回	**チームプロジェクト（報告書の作成）** 取得したデータをもとに報告書作成の準備をします	報告書を作成すること	4時間
第9回	**論文の書き方（基本的な書き方）** チームプロジェクトのデータを活用して，論文の基本的な書き方を勉強します	基本的な論文の書き方を復習すること	4時間
第10回	**論文の書き方（図表の作成）** チームプロジェクトのデータを活用して，論文を書く際に必要な図表の作成方法を学びます	図表の作成方法を復習すること	4時間
第11回	**論文の書き方（参考文献の検索と引用）** 論文を書く際に必要な参考文献の検索と引用の方法を学びます	参考文献の検索方法と引用方法を復習すること	4時間
第12回	**研究報告（プレゼンテーションの準備）** チームプロジェクトの研究の成果をプレゼンテーションにより発表する際のプレゼンテーション作成の基本を学びます	プレゼンテーション作成の際の基本的な方法を復習すること	4時間
第13回	**研究報告（プレゼンテーションの作成）** チームプロジェクトの研究の成果報告するためのプレゼンテーションを作成します	報告会のためのプレゼンテーションの準備をすること	4時間
第14回	**研究報告（プレゼンテーションによる報告会）** チームプロジェクトの研究の成果について報告会を開催します	報告会で指摘された問題点の修正点を検討する	4時間

SP-3302-3-1

授業科目名	健・トレ基礎演習Ⅱ（村瀬）				
担当教員名	村瀬　陽介				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、4年次に実施する卒業研究に向けて、レポート・論文の書き方を基礎から学ぶ。レポート・論文には一定の形式があり、論理的飛躍や書いている本人しか理解できない内容は避けなければならない。本講義では、形式に沿った論文執筆方法を習得する。また自身の研究テーマ探索および決定を行うため、文献資料の調査方法を解説し実践する。具体的な研究手法についても、それぞれが選択した研究テーマに沿った手法を実技形式で学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	情報収集	自身が選択したテーマに関する文献を見つけることができる。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	情報の整理	自身が選択したテーマに関する文献から得られた情報を整理することができる。
3 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	プレゼンテーション能力	自身が選択したテーマに関するプレゼンテーションができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30%	： 授業内での積極的な発言を評価する。
レポート	35%	： 形式に沿っていること、論理的な主張ができていることを評価する。
発表	35%	： 形式に沿っていること、プレゼンテーション技術を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年
『レポート・論文の書き方入門』　河野哲也著　慶応義塾大学出版会　2002年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限
場所：　研究室（B209）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域スポーツ演習ガイダンスと論文作成の基礎知** 本科目の学習計画について説明し、卒業論文作成に必要な基礎知識の概要を学ぶ。	シラバスを読み、授業の到達目標、評価方法を理解しておく	4時間
第2回	**研究における文献、資料について**	授業内において「キーワード」提示し、そ れについて下調べをする	4時間

	研究における文献、資料とは何か、また辞書、百科事典、インターネットを用いた文献検索方法の概要を説明する。		
第3回	**文献検索の方法（データベース・サービスの利用）** 学術情報検索用のデータベース・サービスCiNii等を用いた文献検索方法を説明する。	第2回「研究における文献、資料について」で提示された「キーワード」を用いて、CiNii等により興味のある文献を入 手する。	4時間
第4回	**レポート・論文執筆のルール（概要の説明）** レポート・論文の基本的な書き方について概要を説明する。レポート・論文にふさわしい文言の選択、客観的な文章の書き方を練習する。	第2回～第3回で収集した文献について、講義中に練習した書き方を応用しミニレポートを作成する。	4時間
第5回	**レポート・論文中に用いる図表の作成方法** レポート・論文中に用いる図表の作成方法を説明する。	授業中に提示する練習用データを使 用し、レポート・論文にふさわしい形 式の図表を作成する。	4時間
第6回	**アンケート調査報告型のレポート作成** アンケート調査報告型のレポート作成方法について概要を説明し、作成する。	アンケート調査報告書を作成するための資料として、各自でアンケート調査資料を収集する。	4時間
第7回	**現地調査報告型のレポート作成方法** 現地調査報告型のレポート作成方法について概要を説明し、作成する。	現地調査報告書を作成するための資料として、各自で現地調査資料を収集しておく。	4時間
第8回	**文献調査報告型のレポート作成方法** 文献調査報告型のレポート作成方法について概要を説明し、作成する。	文献調査報告書を作成するための資料として、各自で文献資料を収集しておく。	4時間
第9回	**発表スライドの作成** 調査・研究内容を発表するために使用するスライドについて、作成のポイントを解説する。またこれまで作成したレポートを用いて、スライド作成ソフトを用い発表用スライドを作成する。	これまで作成したレポート内容を復習し、内容を整理しておく	4時間
第10回	**スライドを用いた発表** 作成したスライドの発表方法についてポイントを説明し、第9回で作成したスライドを用いて発表をする。	作成したスライドの内容を再度吟味し、情報の取捨選択をする。	4時間
第11回	**研究テーマに関わるキーワードの選定** 自身の関心のある分野の文献をもとに、5つ程度のキーワードを選定する。	これまで収集した文献に再度目を通し、内容を復習しておく	4時間
第12回	**キーワードに関する資料の要約** 第11回で選定したキーワードを使用して、自身の研究に関連すると考えられる文献・資料を収集する。	収集した資料の内容を整理し、これまでの研究で明らかになっているポイントをまとめておく。	4時間
第13回	**研究テーマの決定およびテーマに沿った資料の収集** 研究テーマを決定し、研究テーマに関わる内容の文献を収集する。収集した文献の内容を整理し、問題点を整理する。	自身の関心のあるキーワードをもとに、研究テーマの候補を選定しておく。	4時間
第14回	**研究テーマおよび研究手法に関するスライドの作成** 自身の研究テーマに関する問題を解決するための研究手法を決定し、テーマ及び研究手法についてスライドを作成し発表する。	スライド作成方法の復習をしておく。	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（望月）**				
担当教員名	**望月　聡**				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（岡部）**				
担当教員名	**岡部　優真**				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業論文作成へ向け、コーチング現場で活用される、運動の力学や動作の分析方法を学ぶ。また、先行研究の調査を通じて研究に関する理解を深める。
具体的には卒業研究に必要な基礎知識や各種測定機器の使用方法、データ解析に関する知識と技能、研究デザインの立案方法について学ぶことで、卒業論文のテーマを明確にする。さらに、測定したデータを分かり易く提示する方法や効果的なプレゼンテーションの方法についても学習することで、卒業論文制作へ向けたビジョンを確立する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ動作の基礎知識を習得.	科学的知見に基づいてスポーツ動作を観察・評価できるようになる.
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツに関する各種測定機器の使用方法に関する知識と技能を習得．また，測定した各種データの加工方法する技能を習得.	測定に必要な機材と分析方法を理解し，適切な手段を選択できるようになる.
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	測定した各種データの加工方法する技能を習得して，加工したデータの"分かりやすい"提示・表現の知識と方法の習得.	データを分かり易く整理して説明するスキルを身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内レポート 25%	:
プレゼンテーション 25%	:
研究計画書 25%	:
最終レポート課題 25%	:

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）
動きの質的分析入門（ナップ）
陸上運動・競技の指導を考える基礎的研究（創文企画）
スポーツ・バイオメカニクス入門（杏林書院）
走る科学（大修館書店）
跳ぶ科学（大修館書店）
投げる科学（大修館書店）
マイネル・スポーツ運動学（大修館書店）
健康・スポーツ科学のためのRによる統計学入門（杏林書院）

履修上の注意・備考・メッセージ

科目は4単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる．
授業内では，各種方法・理論の基礎的部分を学習する．したがって，学習した理論を習得するためには，授業外時間を利用した学習が不可欠となる．また，各種の実験や測定を主体的に計画して実施することを求める．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業終了後など

場所：　講義場所、B211研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：コーチングにおけるスポーツバイオメカニクス** コーチングにおけるスポーツバイオメカニクスの役割と意義について説明するとともに，全体の授業計画や評価方法について概説する．	バイオメカニクスの”コーチング”に対する役割を調査してレポートにまとめる．	4時間
第2回	**文献の検索方法** 科学的に信頼のおける文献を検索する方法と文献資料を引用，参考する際の注意点について学習する．	興味のある研究に関するキーワードを考え，文献検索の準備を行う．	4時間
第3回	**文献研究の方法** 各自が興味のある論文を検索し，その要点をまとめる．	「緒言」「方法」「結果」「考察」の項目にはどのようなことが記述されているのかを調査する．	4時間
第4回	**文献研究の発表** 各自が興味を持ち，収集，要約した文献を要約したものを発表する．また，それぞれの発表に対する質疑応答を通して，より理解を深める．	興味のある研究領域について考え，その領域を取り扱うジャーナルを調査しておく．	4時間
第5回	**運動の力学の理解** 身体の運動を理解する方法の一つとして，力学的な視点から運動を考える． 効率の良い運動と悪い運動との間に，どのような違いがあるのかを学習する．	物理学的視点から見た運動とは，何を意味するのかについて調査しておく．	4時間
第6回	**身体重心の計算方法** 身体重心が何を意味するのか，どのような手順によって求められるのかを，手計算することによって学習する．	身体重心とは何か，どのような時に変化するのかを調査しておく．	4時間
第7回	**ハイスピードカメラの使用方法** ハイスピードカメラの使用方法を学び，動作分析を行うための設定を確認する．	2次元動作分析と3次元動作分析の相違について調査して，それぞれに最低限必要なカメラの台数と配置方法について調査する．	4時間
第8回	**2次元座標値を用いた計算と分析の方法** 撮影した画像データをデジタイズすることで得られた2次元座標値の持つ意味を理解し，必要とする数値を算出する．	2次元動作分析の利点について調査する．	4時間
第9回	**3次元座標値を用いた計算と分析の方法** 撮影した画像データをデジタイズすることで得られた3次元座標値の持つ意味を理解し，必要とする数値を算出する．	3次元動作分析の利点について調査する．	4時間
第10回	**身体座標値を用いたスポーツ動作の分析** 身体座標値から算出された数値を用いて，スポーツ動作を分析・比較する方法を学習する．	座標値を用いた速度や角度の計算方法について調査しておく．	4時間
第11回	**「Excel」「R」を用いた統計分析** 表計算ソフト「Excel（Microsoft）」，統計ソフト「R」を用いた統計分析の方法や，簡単なプログラミングについて学習する．	統計について予習と復習を行う．「回帰式」「T検定」「分散分析」のキーワードを調査して説明できるようにしておく．	4時間
第12回	**統計分析手法の選択と実践** 提示されたサンプルデータを用いて，統計分析を行う．その際，学習した統計手法の中から適切な手法を選択し，実践する．また，得られた結果について，論文執筆，発表資料へ挿入できる，見やすく伝わりやすい図表の作成法について学び，実際に発表する．	論文へ図表を挿入する際のルールについて調査する．	4時間
第13回	**研究のデザインの方法** 仮説を立てる方法と仮説を検証する方法を理解して，実践できるようになる．	これまでの学習，実践，文献研究を振り返り，自分の興味のある研究をまとめておく．	4時間
第14回	**研究計画の発表，まとめと総評** 卒業研究において実施したい研究とその計画についてまとめ，発表する．これまでの実施内容を確認する．	これまでの学習内容を振り返り，レポート課題に取り組む．	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（北村）**				
担当教員名	北村　哲				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）、2018年度日本テニス協会S級エリートコーチ養成講習会講師				

授業概要

1.アクティブラーニングによる事例的に学習から、①指導者としての考えやスキル、②プレーヤーのセルフコーチングスキルについて理解し、指導や競技力向上に必要な実践的な観点や知見を学ぶ。主なアクティブラーニングとしてモチベーションビデオの作成、ディスカッションの実践、質問スキル向上実践、ファシリテーション実践を行う。
2.卒業研究に向けた研究法を学びながら個人またはグループ調査と発表を数多く実施し、プレゼンテーション能力の向上を図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	実践的なコーチングに関する知識	コーチングに関する幅広い知識と指導者の経験や考え方などの思考の要因等について理解できる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	コーチングに関わる知識を発揮するための技能	学んだコーチングに関わる知識・情報を自身の競技生活や指導場面で活用できる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学んだ知識について自身の競技生活や指導場面での活用・実践	学んだコーチング関連の情報やセルフコーチングのスキルを自身の競技生活や指導場面で多面的に活用できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
個人発表	30%	：個人をモチベートするビデオの発表
グループ発表①	20%	：集団をモチベートするビデオの発表
グループ発表②	20%	：ミニ研究の発表
期末レポート	30%	：半期間の学びと整理と4年次の学びに向けたレポート

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・レイナー・マートン（2013）スポーツ・コーチング学 ： 指導理念からフィジカルトレーニングまで
・アンドレ・アガシ（2012）OPEN-アンドレ・アガシの自叙伝
その他授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4 時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**コーチングの実践的学びについて、コーチングについての理解①** 基礎演習の進め方について説明およびコーチング実践の学び方について理解する。 自身が受けてきたコーチングについて理解する（ディスカッション形式で履修者の多種多様な経験を理解する）。	自身がこれまで受けたコーチングについて振り返り、まとめる。	4時間
第2回	**コーチングについての理解　個人のモチベ―ト** 自分自身をや個人をモチベ―トする方法や考えについて理解し、実践する。	個人スポーツにおけるコーチの自伝書を読み、プレゼン資料を作成する。	4時間
第3回	**モチベーションビデオの作成** 自分をモチベ―トするための動画の方法論や知識について理解し、映像を作成する。	自身をモチベ―トするための資料を入手する。	4時間
第4回	**モチベ―ションビデオの作成および発表準備** 自分をモチベ―トするための動画の方法論や知識について理解し、映像を作成する。	自身をモチベ―トするための資料を入手する。	4時間
第5回	**モチベーションビデオの発表および内容についてのプレゼン** 作成したモチベーションビデオを発表する。また、どのような意図で作成したか、映像のポイントや工夫した点についてプレゼンする。	発表のためのプレゼン資料の作成	4時間
第6回	**ディスカッション、質問スキル、ファシリテーションスキルの理解** ディスカッション、質問スキル、ファシリテーションスキルについて、グループワーク、ロールプレイング等のアクティビティを通して理解する。	事例集の予習	4時間
第7回	**コーチングについての理解　集団のモチベ―ト** チームをモチベ―トする事例に触れながら、集団をコーチングするための知見を理解する。	著名な集団スポーツにおけるコーチの自伝書を読み、プレゼン資料を作成する。	4時間
第8回	**モチベ―ションビデオの作成および発表準備** 集団をモチベ―トするための映像をグループで作成する。 グループワークを通して、様々な視点からまとめる。	集団をモチベ―トするための資料を入手する。	4時間
第9回	**集団のモチベーションビデオの発表および内容についてのプレゼン** 作成したモチベーションビデオを発表する。また、どのような意図で作成したか、映像のポイントや工夫した点についてプレゼンする。	発表のためのプレゼン資料作成や発表の役割分担。	4時間
第10回	**コーチング研究の概観** 4年生の卒業研究ついて学び、多様なコーチング分野の研究に触れ、コーチング研究についての理解を深める。	コーチングに関する研究文献の調査。	4時間
第11回	**コーチング研究領域で用いられる研究方法の整理** 自身の興味のあるコーチング領域の研究を探索し、まとめる。	コーチングに関する研究文献の調査。	4時間
第12回	**ミニ研究の計画** 論文の作成方法についての実践的学習。グループ別に研究テーマを設定する。 論文の作成方法についての実践的学習。グループで先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について理解する。その後研究計画を作成する。	日々の実践から課題を見出すためのフィールドワークを行う。	4時間
第13回	**ミニ研究の実践** グループで、調査や実験を行う。調査や実験で得られたデータの整理方法について学習し整理する。 整理したデータの分析方法を学習し、分析をする。その後分析したデータの提示方法について学習し、図表および文章を作成する。	ミニ研究のデータ収集	4時間
第14回	**ミニ研究の発表** ミニ研究の発表会。	発表のためのプレゼン資料作成や発表の役割分担。	4時間
第15回	**kkkkk** kkkkkk	kkkkk	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（坂尾）**				
担当教員名	坂尾　美穂				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	(公財)日本サッカー協会におけるタレント育成・強化・普及活動（JFAアカデミー福島、JFAアカデミー堺、JFAナショナルトレセンコーチ、JFAエリートプログラム女子監督、U-17日本女子代表コーチ）、ドイツにおけるサッカー指導（MSV デュイスブルク）などの実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

スポーツ選手を対象とした運動指導や，サッカー競技等のコーチング，ボールゲームを中心としたスポーツのゲーム分析・パフォーマンス分析等を計画，実践する。そして卒業研究に向けた文献収集，文献レビューの作成，プレゼンテーション，スポーツとコーチングの実践，ゲーム分析・パフォーマンス分析等の実際を行う.

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	サッカー競技を中心に、コーチングについて、コーチの実際の役割、資質、能力についての知識	コーチに必要とされる能力を理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	実践力ある選手育成についての力	選手を実際に伸ばすことのできるコーチングを体得できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

プレゼンテーションのために、予習や準備を求める。プレゼンテーションとともに準備物も確認する。積極的な意見交換や質問も重要視する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	60%	： 3回のプレゼンテーション(20点×3回)60点 ・テーマに対して理解があり、論理的である。10点 ・テーマに対して自分の意見や考え、新しい視点がある。10点
レポート	40%	： 2回のレポート(20点×2回) ・テーマに関する問題点や課題について、論理的に記述されている。10点 ・自身の考えや新たな視点での提言が、明確かつ論理的に記述されている。10点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

映像を適宜使用する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・コーチ学の研究とは** 本演習について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法についてガイダンスを行う。研究ノートに、ノートの使用方法、まとめ方を指導する。また、コーチ学の研究について、例を紹介し、全体像を概観する。	コーチ学について基礎知識を調べておく。	4時間
第2回	**文献収集　検索ファイリング** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	図書館で興味ある先行研究を調べておく。	4時間
第3回	**レジュメ作成** 提示された文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	収集した文献資料を読んでおく。	4時間
第4回	**グループワーク　ディスカッションおよび発表と質疑応答** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第5回	**分析** それぞれの競技を題材に、分析について理解する。目的や対象によって多種多様な分析があることを理解する。	静止画および動画を使用し、プレーの分析を行う。	4時間
第6回	**プレゼンテーションの実践A　プレー分析** 個の育成につながる分析の観点、手法と効果的な映像の使い方について理解する。 コーチング現場につながる分析を動作・個人の戦術行動・チームの戦術行動の観点から実践する。	映像を抽出・編集し、個の育成につながる分析結果についてプレゼンテーションを行う。他者の分析およびプレゼンテーションの内容について評価しコメントする。	4時間
第7回	**プレゼンテーションの実践B　プレー分析** 個の育成につながる分析の観点、手法と効果的な映像の使い方について理解する。 コーチング現場につながる分析を動作・個人の戦術行動・チームの戦術行動の観点から実践する。	映像を抽出・編集し、個の育成につながる分析結果についてプレゼンテーションを行う。他者の分析およびプレゼンテーションの内容について評価しコメントする。	4時間
第8回	**文献収集　検索ファイリング** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次年度の研究計画作成に向けて情報を集約する。 前回の文献収集等を踏まえ、各学生の研究テーマ・キーワードを仮決定する。	振り返りから、自分に興味あるテーマ設定を考えておく。	4時間
第9回	**競技に専門的な体力測定の実施** サッカーに専門な20m走、5*10mシャトルラン、３歩バウンディング、垂直跳びなどを実施する．スパイクまたはトレーニングシューズを持参する．サッカーフィールドにて計測を実施する。	実際にフィジカル測定をするので、運動を行い体力をつけておく。	4時間
第10回	**グループワーク　データの入力、基本統計量とグラフの出力** 体力測定のデータを入力する。得られたデータセットから平均値、標準偏差、最大値、最小値を算出する。得られたデータの解釈方法を解説し、理解を深める。また、実践現場への活用・フィードバックの方法について検討する。	実際に測定したデータをどう活用するか、自分でまず考えておく。	4時間
第11回	**スポーツ現場と研究** プロ選手に関する動画を視聴し、スポーツ現場の実際とそれに対する科学的分析の視点に関して知見を深める。	実動画を見ながら必要な情報をメモにとり、実践されている科学的分析の視点についてまとめる。	4時間
第12回	**海外のスポーツシステム** 「海外」をキーワードに、育成システム・代表チーム・リーグ戦文化・プロフェッショナルスポーツ・クラブスポーツ・協会・指導法・教育に関して、興味のあるテーマについて調べ、発表する。	パワーポイントを使用して海外のスポーツについて発表の練習をする。	4時間
第13回	**次年度研究計画の立案①** 次年度の卒業研究に向けたテーマの決定，準備，調査・実験計画，データ収集・解析，本文執筆などの計画を立案する．スケジュール表を作成する．	テーマについて再考して、自分で計画を立ててみる。	4時間
第14回	**次年度研究計画の立案②** 次年度の卒業研究に向けたテーマの決定，準備，調査・実験計画，データ収集・解析，本文執筆などの計画を立案する．スケジュール表を作成する．テーマに関する先行研究を調べ、緒言・問題の所在/仮説設定を検討し、レポートにまとめる。	テーマおよび計画について再考し、卒業研究の方法・期日設定を行う。	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（工藤）**				
担当教員名	工藤　慈士				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

コーチングに関わる指導者の行動や諸問題に対する事例を紹介し、スポーツ心理学の観点を中心に自身の考えを整理・発表し、他者との意見の相違を図り、多様なコーチング哲学やポリシーの在り方について深く理解する。また、プレゼンテーションや汎用性のあるコーチングスキル習得を目指すため、文献や書籍から興味深い題材を選択し、卒業研究への学びにつながる思考力・実践力を養い、スポーツを題材に様々な観点から事象を考察し自身の競技力向上や指導現場など日常生活に応用可能なスキル習得を図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	事例を参考に実践的なコーチングに関する知識を深める	幅広い競技種目を理解することで自身の競技への理解を深めることができる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	自身の考えを整理・発表しプレゼンテーションを通してコーチング力を発揮する技能を高める	卒業研究に向けて多角的にスポーツを捉え、考察し、プレゼンテーションすることができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	50%	： 与えられたテーマに基づいて、論理的記述されていることを基準に評価する
プレゼンテーション	50%	： 研究テーマに関わるプレゼンテーションができているか評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・コーチング概説**	コーチングの基礎知識についてまとめる	4時間

	本科目の授業展開について説明およびコーチングについて紹介する		
第2回	**競技理解** 自身の専門種目やこれまで経験してきた競技についてのルールや歴史的背景、課題などディスカッション形式で展開し、大局的な競技理解を深める。	自身が従事した競技の歴史・文化などについてまとめる	4時間
第3回	**事例紹介** コーチングに関わる事例を紹介し、コーチングにおける諸問題について理解する。その防止策についても共有する。	提供された資料を基に、コーチングの発展性・応用性についてまとめる	4時間
第4回	**多様なコーチング方法の収集** これまで経験してきたコーチングスタイルや文献、書籍などで見聞きした多様なコーチング法について共有し、さらに良いポイント・改善ポイントを全体で共有する。	自身の経験を踏まえ、コーチングの発展性・応用性についてまとめる	4時間
第5回	**文献収集** 心が動いたコンテンツ（CM、YouTube、映画、スポーツ映像など）を収集し、スライドに要約する。 プレゼンテーションに関わる引用方法について理解する。	興味関心のあるコーチング実践についてまとめる	4時間
第6回	**発表①** それぞれが持ち寄ったコンテンツを全体で共有し、心が動いたポイントについてスポーツ心理学の観点から考察する。	発表の準備、パワーポイントの使用方法についてまとめる	4時間
第7回	**発表②** それぞれが持ち寄ったコンテンツを全体で共有し、心が動いたポイントについてスポーツ心理学の観点から考察する。	発表の準備、パワーポイントの使用方法についてまとめる	4時間
第8回	**質的研究** 質的研究法について紹介する。これまでの研究動向や様々な手法について概説する。	質的研究についてまとめる	4時間
第9回	**量的研究** 量的研究法について紹介する。心理尺度を用いて客観的データ採集、分析過程を概説する。	量的研究についてまとめる	4時間
第10回	**文献講読** 卒業研究につながる資料を収集する。	文献を収集する	4時間
第11回	**研究計画の立案** 実現可能な研究テーマを設定する。	研究計画についてまとめる	4時間
第12回	**研究方法の立案** 実現可能な研究テーマに沿った研究方法を設定する。	分析方法までの具体的な展開についてまとめる	4時間
第13回	**プレゼンテーションの理解** 聞き手が理解しやすいスライドの作成方法を紹介する。	研究発表におけるプレゼンテーションの基礎知識をまとめる	4時間
第14回	**プレゼンテーションの実践** 研究テーマを分かりやすく簡潔にまとめ、全体で発表する。	卒業研究にむけて準備する	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（渋谷）**				
担当教員名	渋谷　俊浩				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全14回：日本スポーツ協会公認コーチ4				

授業概要

4年時のコーチング専門実習Ⅰ・Ⅱ（卒業研究の実施）へ向けた導入的な内容とする。上級生（他ゼミ含む）の卒業研究活動を概観（中間・最終発表会参加等）しながら、前期コーチング基礎演習Ⅰで学習した内容を基づき、各自の興味関心のある研究テーマを設定する。また、その研究課題を解決するために必要な研究資料（引用参考文献要約集等）の作成および実験・調査等を行う。さらに、まとめとしてグループおよび担当教員とのディスカッション等を通じて短編論文を執筆・発表（プレゼンテーション）する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	競技スポーツ・コーチングに関する理論の理解	競技スポーツ・コーチングに関する理論を理解し、説明することができる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	競技スポーツにおけるコーチング理論の実践	コーチング（トレーニング含む）計画を立案し、自身もしくは他者に対してコーチングを実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

コース卒業研究中間発表会、最終卒業研究発表会への参加を必須とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各自テーマの短編論文 50%	：	コーチングに関する基礎理論をふまえた、各自テーマの独創性・理解度・論理性等を50点満点で評価します。
研究資料（引用参考文献要約集等） 20%	：	各自で作成した研究資料の有用性について20点満点で評価します。
研究発表（プレゼンテーション） 30%	：	プレゼンテーションの内容（作法・表現力・論理性等）を30点満点で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の研究テーマに沿って、随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業内容の復習と、次回の授業に向けて予習をしてください。また、ディスカッション等では積極的に発言し、自主的の研究を進めてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
場所： 授業教室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：前期の振り返りおよびコーチング分野の動向把握** 前期の授業内容を振り返るとともに、後期の授業スケジュール・課題等を確認する。 今期に行われた主要大会の結果やそれらへのコーチ分野の関わり等を把握し、今後の自身のコーチングに活かす方策を検討する。 コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。	前期の授業内容を振り返る。また、コーチング分野の動向について理解し、各自のテーマを構想しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第2回	**研究発表会の聴講：コーチング分野の研究内容の理解** 研究発表会（卒業研究中間発表会等）を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。 コーチングにかかわる様々な基礎理論を確認し、理解する。 コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。	コーチング分野の研究の実践例をまとめ、ノートに記録しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第3回	**個人研究テーマの模索：引用参考文献検索** これまでに学習した内容に基づき、自身の興味関心のある研究テーマを模索する。 コーチング分野の様々な研究論文・学術文献に触れ、自身の研究に関する示唆を得る。	自身の研究に関わる研究論文・学術文献をライブラリー・検索ソフトを用いて講読しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第4回	**個人研究テーマの設定：研究資料の作成** 個人研究テーマを設定する。 自身の研究課題を解決するために有用な研究論文・学術文献等を要約し、研究資料を作成する。	自信が作成した研究資料を熟読し、研究の進め方を検討しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第5回	**個人研究進捗状況報告会：ディスカッション** 各自の研究テーマと研究資料について全員でディスカッション（意見交換）し、他者の多様な視点からの示唆を得ながら研究の進め方を検討する。	ディスカッションで受けたアドバイス・意見をまとめておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第6回	**個人研究活動：調査・実験等の計画、ディスカッション** 自身の研究課題を解決するためにはどのような研究手法が適切かを検討し、全員でディスカッションしながら、工程を決める。	自身が選択した研究手法について、先行研究論文等を参考に精査しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第7回	**個人研究活動：調査・実験等の実施** 自身の研究活動（調査・実験等）を実践する。 積極的かつ自主的に研究を進める。	データを整理し、まとめておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第8回	**個人研究活動：結果の整理** 調査・実験で得られた結果（データ）を整理し、適切な分析方法等を検討する。	データをまとめ、進捗状況報告会の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第9回	**個人研究進捗状況報告会：ディスカッション** 各自の研究の進捗状況（整理されたデータ等）について報告する。全員でディスカッション（意見交換）し、他者の多様な視点からの示唆を得ながら研究を進めていく。	報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、研究・短編論文執筆を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。	4時間
第10回	**個人研究活動：結果の分析・考察等** 得られた結果（データ）を適切な手法で分析し、研究資料（研究論文・学術文献要約集等）を参考に考察を加える。	結果をまとめ、短編論文の執筆を進める。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第11回	**個人研究活動：結果報告・短編論文提出** 個人研究の結果を全員に報告し、短編論文を提出する。プレゼンテーションの準備をする。	自身の短編論文を熟読し、プレゼンテーションの準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第12回	**個人研究発表会：プレゼンテーション・ディスカッション（前半）** 一人ずつ研究成果を報告（プレゼンテーション）する。（5名程度） 質疑応答を通じて自身の研究を振り返り、次年度の研究活動の準備を始める。	プレゼンテーションで受けたアドバイス・意見をまとめ、これまでの取り組みを振り返っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第13回	**個人研究発表会：プレゼンテーション・ディスカッション（後半）**	プレゼンテーションで受けたアドバイス・意見をまとめ、これまでの取り組みを振り返っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間

	一人ずつ研究成果を報告（プレゼンテーション）する。（5名程度） 質疑応答を通じて自身の研究を振り返り、次年度の研究活動の準備を始める。		
第14回	**授業のまとめ：コーチング専門実習Ⅰ・Ⅱ受講へ向けて** これまでにスポーツ・コーチング分野の授業で学習した内容を振り返り、4年次生での研究活動にどのように取り組んでいくのか（研究活動の工程）を検討する。	卒業研究の工程を検討し、研究行うための準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（竹川）**				
担当教員名	竹川　智樹				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2015年～2020年：U21,U23日本代表コーチ、2015年～2021年：日本オリンピック委員会強化スタッフ、2018年：アジア競技大会スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

コーチングにおける問題や疑問を自身で見つけ、それらをどのように解決していくかという能力を身につけることが重要であり、そのために調査をしたり、文献講読したり、討論や発表を行ったり、報告書や論文をまとめたりする「知的作業の基本」を身につけるための学習を行う。そしてコーチングに必要な知識について学びつつ、論文とは何か、研究とは何かを理解し、卒業論文作成のための基礎的な能力の向上を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	卒業論文の作成準備と専門的な知識の獲得	基礎的研究を理解し、卒業論文を作成するための知識を獲得することができる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツ学から新しい知識を取り入れ、自分の競技や指導に役立つ能力の養成	競技生活や指導現場においてスポーツ学からの新しい知識を生かし実践することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題評価 60%	：	授業内での課題に対しての理解度と独自性について評価する。 ・課題をよく理解し独自性がある（60点） ・課題をおおよそ理解し独自性がある（50点） ・課題に対して一定の理解と独自性が見受けられる（40点）
発表・プレゼンテーション 40%	：	発表・プレゼンテーション ・プレゼンテーマに対して理解があり、的確な表現である（20点） ・プレゼンテーマに対して自身の意見や考えがあり、独自性がみられる（20点）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびコーチングの理解**	コーチングについての基礎的知見をまとめる	4時間

	コーチング演習の計画や内容、評価方法などについてガイダンスを行う。コーチングについての基礎的知見から概要を理解する。		
第2回	**研究、論文とはなにか** 研究や論文とはどんなものなのかを、実際の論文を講読し、理解をする。	研究や論文について基礎的知識をまとめる	4時間
第3回	**コーチングに必要な基礎的知識（運動生理学、トレーニング科学）** 運動生理学やトレーニング科学について学び、コーチングに必要な基礎的な理解を得る。	運動生理学、トレーニング科学についてまとめる	4時間
第4回	**コーチングに必要な基礎的知識（スポーツ心理学、メンタルトレーニング）** スポーツ心理学、メンタルトレーニングについて学び、コーチングに必要な基礎を理解する。	スポーツ心理学、メンタルトレーニングについてまとめる	4時間
第5回	**文献検索、文献収集方法** 図書館データベース等を用いて興味のあるテーマやキーワードに沿った図書や雑誌の検索、収集方法について学ぶ。	興味のあるテーマやキーワードについてまとめる	4時間
第6回	**文献収集（指定されたテーマ、キーワード）** 指定されたテーマ、キーワードを用いて、関連する文献を３編以上収集する。	収集した文献を読む	4時間
第7回	**プレゼンテーション１（パワーポイントでの資料作成、操作方法）** プレゼンテーションとは何かを考え、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成方法や操作方法について学ぶ。	パワーポイントの使用方法についてまとめる	4時間
第8回	**基礎的な統計１（平均、標準偏差、ｔ検定）** 研究論文に用いられる基礎的な統計について学び、研究論文講読の理解を深める。	平均や標準偏差、ｔ検定についてまとめる	4時間
第9回	**基礎的な統計２（相関、χ二乗検定）** 研究論文に用いられる基礎的な統計について学び、研究論文講読の理解を深める。	相関やχ二乗検定についてまとめる	4時間
第10回	**プレゼンテーション２（発表）** 効果的なプレゼンテーションの方法と発表シミュレーションを行い、伝わる技術を学ぶ。	プレゼンテーションについてまとめる	4時間
第11回	**卒業研究仮テーマの設定** これまで行ってきた授業を振り返り、卒業論文の研究テーマやキーワードを仮設定する。	興味、関心、疑問点についてまとめる	4時間
第12回	**卒業研究の仮テーマ、仮計画の発表およびグループ討論** 卒業研究の仮テーマ、仮計画の発表を行い、発表学生に対しての質疑応答およびグループ討論を行う。	研究計画についてまとめる	4時間
第13回	**卒業論文の研究計画の作成（緒言）** 目的を明確にし、研究背景についてまとめる。	卒業研究の目的をまとめる	4時間
第14回	**授業の総括および卒業研究へむけての心構え** 前期科目コーチング基礎演習Ｉを含め、１年間の授業を振り返り、まとめを行う。卒業研究へむけた課題の確認をする。	前期、後期の授業について確認し、特に重要と思われる事柄についてまとめる	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（玉城）**				
担当教員名	**玉城　耕二**				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

バスケットボールを主としたコーチングに関わる内容について、スポーツ心理学やゲーム分析の観点から学ぶ。
また、言語技術教育に取り組むことで、思考力・想像力・分析力を高め、コーチングスキルや卒業論文作成の土台を構築する。
卒業研究に向けては、下記の3つ観点から学習を行う

１.言語技術と研究法・分析法の学習
2.自身の競技内容を定量・定性的に分析し、改善・向上に向けた計画の立案による学習
3.個人・グループ調査とプレゼンテーション能力向上に向けた学習

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	実践的なコーチングに関する知識	コーチングに関する幅広い知識と指導者の経験や考え方などの思考の要因等について理解できる
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	コーチングに関わる知識を発揮するための技能	スポーツを定量的・定性的に分析し、言語化できる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	ゲーム分析に関する知識・技能	分析に基づき、自身の競技生活や指導場面でアウトプットすることができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	60%	：①言語技術・コーチングの実践に関するレポート ②研究テーマ設定に関わるレポート 各30点
プレゼンテーション	40%	：①言語技術・コーチングの実践のプレゼン ②研究テーマ設定のプレゼン 各20点

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

三森ゆりか	大学生・社会人のための言語技術トレーニング	大修館書店	2013年

参考文献等

その他授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4 時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**コーチングの実践的学びについて** 演習の進め方について説明およびコーチング実践の学び方について理解する	自身がこれまで受けたコーチングについて振り返り、まとめる。	4時間
第2回	**コーチングについての理解①　自分の恩師のコーチング** 自身が受けてきたコーチングについて理解する （ディスカッション形式で履修者の多種多様な経験を理解する）	授業時に取り上げられた恩師のコーチングについて、再度振り返る。	4時間
第3回	**言語技術 導入** 言語技術の重要性とその目的を理解する コーチング場面を元に言語技術の必要性を学ぶ	大学生のための言語技術トレーニング事前学習	4時間
第4回	**言語技術①対話** 対話:面接などにも役立つ、論理的な受け答えの方法が身につける コーチング場面・インタビュー場面を想像し、自身の経験を振り返る	大学生のための言語技術トレーニング事前学習	4時間
第5回	**言語技術②物語・要約 -1-** 物語・要約:物語の構造を理解する コーチング場面などで、端的かつ明確に伝える重要性を学ぶ	大学生のための言語技術トレーニング事前学習	4時間
第6回	**言語技術③物語・要約 -2-** 物語・要約:物語の構造を理解し、要約や速読の実践につなげる コーチング場面などで、端的かつ明確に伝える重要性を学ぶとともに、重要な情報を掴む力を育む	大学生のための言語技術トレーニング事前学習	4時間
第7回	**言語技術④説明 -1-** 説明:分かりやすく情報を伝達することができ、話の説得力を高める（優先順位に応じた説明） コーチング場面などで、端的かつ明確に伝える重要性を学ぶとともに、重要な情報を掴む力を育む	大学生のための言語技術トレーニング事前学習	4時間
第8回	**言語技術④説明 -2-** 説明:より複雑な情報に対する説明力を育む（ストーリーの説明） コーチ役と選手役に分かれ、自身が取り組む競技場面での説明の実践	大学生のための言語技術トレーニング事前学習	4時間
第9回	**言語技術⑤報告** 報告:レポートや報告書などで、事実や進捗状況を適切に伝える力がつく	大学生のための言語技術トレーニング事前学習	4時間
第10回	**言語技術⑥クリティカルリーディング** クリティカルリーディング:批判的に聞くことで、分析的・論理的思考力を高める 情報化社会に生きるコーチとして、情報を鵜呑みにせず、数ある情報の中から 重要度の高い情報を取捨選別し、整理し、伝える力を身につける	大学生のための言語技術トレーニング事前学習	4時間
第11回	**自身の競技実践の評価 -1-** 自分の競技への取り組みを振り返り、課題や問題点を明確にする。 その上で、それらを改善するために計画の立案を行う。	自分自身の競技に関するフィールドワークおよび実践内容振り返りをまとめる	4時間
第12回	**自身の競技実践の評価 -2-** 自分の競技への取り組みを振り返り、課題や問題点を明確にする。 その上で、それらを改善するために計画の立案を行う。	自分自身の競技に関するフィールドワークおよび実践内容振り返りをまとめる	4時間
第13回	**自身の競技実践の計画・報告** 改善するための計画をまとめて、プレゼンテーションへと発展させる	他の学生からのアドバイスやプレゼン内容を元に多様な考え方を学ぶ	4時間

第14回	**プレゼンテーション①** これまでの取り組みを活かして、自分自身の競技パフォーマンスを高めるための鍵を分析し、 プレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションに対して、全体でディスカッションを行う。	実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。	4時間
第15回	**コーチングに関わる研究方法①　スポーツ方法論に関わる研究** スポーツ方法論に関わる研究の概観	スポーツ方法論に関する研究論文を読む。コーチングに関わる研究方法②　多様なコーチング分野の研究	4時間
第16回	**コーチングに関わる研究方法②　多様なコーチング分野の研究に触れる** 4年生の卒業研究中間発表会に参加し、多様なコーチング分野の研究に触れ、コーチング研究についての理解を深める。	スポーツ方法論に関する研究論文を読む	4時間
第17回	**コーチングに関わる研究方法②　スポーツ方法論に関わる研究** スポーツ方法論に関わる研究を学ぶとともに、ゲーム分析について学びを深める	ゲーム分析に関する論文を調べてくる	4時間
第18回	**コーチングに関わる研究方法②　スポーツ方法論に関わる研究** ゲーム分析の中でもSportscodeを用いた数量的分析を実践する	Sportscodeの基本的な操作方法を調べてくる	4時間
第19回	**コーチングに関わる研究方法②　スポーツ方法論に関わる研究** Sportscodeを用いて、自分が取り組んでいるスポーツのゲーム分析を実践する。 グループワークを通じて、分析-評価-再計画というプロセスに取り組む。	自身の競技のデータに基づいてゲーム分析を進める	4時間
第20回	**プレゼンテーションの実践②** ゲーム分析に関するグループワークに基づき、プレゼンテーションを実践する。 プレゼンテーションに対して、全体でディスカッションを行う。	プレゼンテーションの準備作業を行う。	4時間
第21回	**コーチングに関わる研究方法③　コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）** コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）の概観	コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）を読む	4時間
第22回	**ミニ論文作成①** 論文の作成方法についての実践的学習。グループ別に研究テーマを設定する。	日々の実践から課題を見出すためのフィールドワークを行う。	4時間
第23回	**ミニ論文作成②** 論文の作成方法についての実践的学習。グループで先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について理解する。その後研究計画を作成する。	各自先行研究の調査、収集を行う	4時間
第24回	**ミニ論文作成③** グループで、調査や実験を行い、調査や実験で得られたデータの整理方法について学習し整理する。	グループで、調査や実験を行う	4時間
第25回	**効果的なプレゼンテーション** 相手に伝えるためには、どのような伝え方が効果的か？ 効果的なプレゼン資料の作成方法を学ぶ。 簡単なアプリケーションなどを用いて効果的な資料作成を考える。	プレゼンテーションの準備作業を行う。	4時間
第26回	**プレゼンテーションの実践②** ミニ論文発表会の実施	各自分担されたデータの整理を行う	4時間
第27回	**自身の研究テーマの立案①** 自身のスポーツ経験からの学術的興味のもと、先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について整理する。	卒業研究に向けた先行研究調査	4時間
第28回	**自身の研究テーマの立案②** 4年生の卒業研究発表会に参加し、先週までの自身らが行った研究と対比させながら、 卒業研究について深く思考し、自身の卒業研究のテーマについて立案する。	自身の研究テーマの立案②	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（豊田）**				
担当教員名	豊田　則成				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

コーチングに心理学的にアプローチすることが世界的規模で広まっています。その背景には、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなど、アスリートへの心理学的アプローチが多くの成果を生み、アスリートの競技生活に貢献してきたことが垣間見れます。この授業では、そのような貢献に寄与するような心理学的分析法、特に、質的心理学の分析方法について学び、スポーツシーンをより良く変えていく手法について詳しく学修していきます。そして、その成果をメンタルコーチング という身近な営みに転換してくことで、具体的な介入方略を検討することにつながっていきます。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	質的心理学研究法を学ぶ	質的心理学研究法を理解する
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	スポーツ活動における質的理解を深める	概念を見つけ出し、構造的に物事を理解する
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ心理学領域の研究成果を学ぶ	研究成果から深い知識を得る
4 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	研究成果をスポーツフィールドに還元する方略を学ぶ	研究成果を活用することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

ゼミ単位での学習形態となるため、文献資料の整理、発表レジュメの作成、全体的議論といった形式で学修を深めていきます。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
文献資料の整理	30%	： 適切な先行研究、文献等を選定し、その内容を精査できる。
発表レジュメの作成	30%	： 文献の内容を読み込み、発表するためのレジュメを作成する。
プレゼンと議論	40%	： 作成した資料を適宜プレゼンテーションを行い、有益な質疑応答を展開できる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

発表資料を選定するために図書館等を利用しながら、スポーツ心理学、メンタルトレーニング、メンタルコーチング などのキーワードから適切な文献を選定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

メンタルコーチング について学修する上で、アスリート個人の変容、チームにおけるケミストリーなど、実際場面に役立つ文献レビューを行い、適宜、有益な資料を作成し、プレゼンテーションを行うため、授業時間外での課題遂行に時間を要する。是非とも、真摯な取り組みを期待した。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時
場所： A407

備考・注意事項： 訪問前に、toyoda-n@g.bss.ac.jpにアポイントを取るためのメイルを送信すること。突然の来訪では対応できない場合があり、その場合も、アポイントを取ることを優先するように。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション（授業の進め方）** 本授業の方向づけについて解説する。具体的には、先行文献等の選択の仕方、有益な情報の整理の仕方、発表資料の整理の仕方、プレゼンテーションや質疑応答の仕方など、本授業における具体的な取り組みについて解説を行い、本授業の方向性について学修する。	自身が関心を持つスポーツ心理学的トピックについて説明できるようにしておくこと	4時間
第2回	**質的研究法（グラウンデッド・セオリー・アプローチ）について** 代表的な質的研究法のひとつであるグラウンデッド・セオリー・アプローチについて学修する。 グレイザー＆ストラウス（1967）によって開発された、グラウンデッド・セオリー・アプローチは、観察法や面接法で得られた「語り（ナラティブ）」を方法とし、目前にある現象の概念化していく。才木（2005）が解説している「才木版」と称するグラウンデッド・セオリー・アプローチは、著書も多く、分析方法を学ぶ資料を得ることができる。スポーツフィールドにおいても、このようなアプローチは斬新かつ有益であり、理論的背景から実践方法に至まで、具体的に事例を検討しながら学習していく。	質的研究法（グラウンデッド・セオリー・アプローチ）についての概論書に目を通しておくと良い	4時間
第3回	**質的研究法（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）について** 代表的な質的研究法のひとつである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチについて学修する。 木下（2020）によって開発された、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチは、観察法や面接法で得られた「語り（ナラティブ）」を方法とし、目前にある現象の概念化していく。特に、「研究する人間」といった概念で、分析しようとする現象に組み込まれた観察者を積極的に位置づけ、質的に分析する。スポーツフィールドにおいても、このようなアプローチは斬新かつ有益であり、理論的背景から実践方法に至まで、具体的に事例を検討しながら学習していく。	質的研究法（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）についての概論書に目を通しておくと良い	4時間
第4回	**質的研究法（複線径路等至性モデリング）について** 代表的な質的研究法のひとつである複線径路等至性モデリングについて学修する。 サトウ（2009）によって開発された、複線径路等至性モデリングは、人間の行動を開放システムとして捉え、様々な「選択肢の連続体」としての理解を試みようとする。スポーツ心理学領域において、この手法を取り入れた研究が広まっている現状にある。そのような実例に触れながら、メンタルコーチング に役立つ研究成果について学修する。すなわち、スポーツフィールドにおいても、このようなアプローチは斬新かつ有益であり、理論的背景から実践方法に至まで、具体的に事例を検討しながら学習していく。	質的研究法（複線径路等至性モデリング）についての概論書に目を通しておくと良い	4時間
第5回	**質的研究法（KJ法）について** 代表的な質的研究法のひとつであるKJ法について学修する。 河北（1967）によって開発された、KJ法は、野外科学といった概念を導入し、直面するフィールド・現場で生じている現象を可視化し、議論していく手続きを経ていく。長きにわたって援用されてきているこの手法について学修し、メンタルコーチング に役立てる手続きへの理解を深める。すなわち、スポーツフィールドにおいても、このようなアプローチは斬新かつ有益であり、理論的背景から実践方法に至まで、具体的に事例を検討しながら学習していく。	質的研究法（KJ法）についての概論書に目を通しておくと良い	4時間
第6回	**質的研究法（質的統合法＜KJ法＞）について** 代表的な質的研究法のひとつである質的統合法＜KJ法＞について学修する。 山浦（2012）によって開発された、質的統合法＜KJ法＞は、先に学修したKJ法の研究法としての手続化によって開発されている。インタビュー法によって導き出された概念間の連関を見取り図によって検討するこの手法は、メンタルコーチング の現場において、極めてリーズナブルな方法である。すなわち、スポーツフィールドにおいても、このようなアプローチは斬新かつ有益であり、理論的背景から実践方法に至まで、具体的に事例を検討しながら学習していく。	質的研究法（質的統合法＜KJ法＞）についての概論書に目を通しておくと良い	4時間
第7回	**質的研究法（現象学的アプローチ）について** 代表的な質的研究法のひとつである現象学的アプローチについて学修する。 フッサールに代表される現象学的アプローチは、目前に生じるスポーツシーンにおける問題点や課題点を導き出し、質的に理解をむかめ、説明するのに有効な分析手法であると言える。コーチング実践の現場においては、この手法を取り入れることで、深い理解を伴う人間理解を実現することが可能となる。すなわち、スポーツフィールドにおいても、このようなアプローチは斬新かつ有益であり、理論的背景から実践方法に至まで、具体的に事例を検討しながら学習していく。	質的研究法（現象学的アプローチ）についての概論書に目を通しておくと良い	4時間
第８回	**文献を読み込み、資料を作成し、プレゼンテーションしよう（１）** 研究雑誌にある論文の中から、社会的公共性を有していて、自身の関心事に合致した文献を検索し、その中にある有益な情報を検討し、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。発表者を輪番で設定し、その他の受講生は発表内容を拡充することを目指した質疑応答の準備を行い、ディベートを充実させる。	発表資料の作成に向けて文献検索をしておくと良い	4時間
第９回	**文献を読み込み、資料を作成し、プレゼンテーションしよう（２）**	発表資料の作成に向けて文献検索をしておくと良い	4時間

	研究雑誌にある論文の中から、社会的公共性を有していて、自身の関心事に合致した文献を検索し、その中にある有益な情報を検討し、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。発表者を輪番で設定し、その他の受講生は発表内容を拡充することを目指した質疑応答の準備を行い、ディベートを充実させる。		
第10回	**文献を読み込み、資料を作成し、プレゼンテーションしよう（３）** 研究雑誌にある論文の中から、社会的公共性を有していて、自身の関心事に合致した文献を検索し、その中にある有益な情報を検討し、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。発表者を輪番で設定し、その他の受講生は発表内容を拡充することを目指した質疑応答の準備を行い、ディベートを充実させる。	発表資料の作成に向けて文献検索をしておくと良い	4時間
第11回	**文献を読み込み、資料を作成し、プレゼンテーションしよう（４）** 研究雑誌にある論文の中から、社会的公共性を有していて、自身の関心事に合致した文献を検索し、その中にある有益な情報を検討し、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。発表者を輪番で設定し、その他の受講生は発表内容を拡充することを目指した質疑応答の準備を行い、ディベートを充実させる。	発表資料の作成に向けて文献検索をしておくと良い	4時間
第12回	**文献を読み込み、資料を作成し、プレゼンテーションしよう（５）** 研究雑誌にある論文の中から、社会的公共性を有していて、自身の関心事に合致した文献を検索し、その中にある有益な情報を検討し、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。発表者を輪番で設定し、その他の受講生は発表内容を拡充することを目指した質疑応答の準備を行い、ディベートを充実させる。	発表資料の作成に向けて文献検索をしておくと良い	4時間
第13回	**文献を読み込み、資料を作成し、プレゼンテーションしよう（６）** 研究雑誌にある論文の中から、社会的公共性を有していて、自身の関心事に合致した文献を検索し、その中にある有益な情報を検討し、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。発表者を輪番で設定し、その他の受講生は発表内容を拡充することを目指した質疑応答の準備を行い、ディベートを充実させる。	発表資料の作成に向けて文献検索をしておくと良い	4時間
第14回	**文献を読み込み、資料を作成し、プレゼンテーションしよう（７）** 研究雑誌にある論文の中から、社会的公共性を有していて、自身の関心事に合致した文献を検索し、その中にある有益な情報を検討し、発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。発表者を輪番で設定し、その他の受講生は発表内容を拡充することを目指した質疑応答の準備を行い、ディベートを充実させる。	発表資料の作成に向けて文献検索をしておくと良い	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（林）**				
担当教員名	林　弘典				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005年～現在）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

本授業は、コーチングにおいて重要とされている振り返る能力を高めることの重要性を学ぶ。また、コミュニケーション能力や傾聴力を高めることの重要性を学ぶ。具体的には、今まで行ってきた自分のスポーツ活動（幼稚園時代・小学校時代・中学校時代・高校時代・大学時代）を振り返り、どのようにスポーツに取り組んできたのか、どのようなコーチングを受けてきたかを振り返って文章にする。その際、当時どのように思ったのか、現在はどのように思うのかを詳細に記述する。また、授業内の質疑応答や卒業研究の中間発表・最終発表を通して傾聴力を高めるとともに、コミュニケーション能力を高める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ活動史の作成	コーチングにおいて重要とされている振り返る能力を理解して高めることができる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	卒業研究の中間発表・最終発表	コーチングにおいて重要とされている傾聴力を理解して高めることができる。
3 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	授業内の質疑応答	コーチングにおいて重要とされているコミュニケーション能力を理解して高めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表	70%	： 毎回の授業における質疑応答に対する内容の妥当性について5段階で評価する（5点×14回=70点）。
レポート	30%	： 第14回に提出したスポーツ活動史の完成度（表紙、目次、ページなどの体裁、分量、内容等）について5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション、文献検索の方法** 本授業の目的を理解する。また、スポーツ活動史を作成に用いる文献を適切に見つけるために、図書館で文献検索の講習を受けて適切な文献の検索方法を学習する。	シラバスを熟読する。本学ホームページの図書館のサイトを見て図書館の利用のルールを確認する。	4時間
第2回	**スポーツ活動史の書き方** スポーツ活動史を適切に作成するために、卒業研究の概要と作成の手引きからスポーツ活動史の体裁を学習する。	卒業研究の手引きを熟読する。	4時間
第3回	**スポーツ活動史（幼稚園時代）** 幼稚園時代のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	幼稚園時代のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第4回	**スポーツ活動史（小学校1～2年生）** 小学校1～2年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	小学校1～2年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第5回	**スポーツ活動史（小学校3～4年生）** 小学校3～4年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	小学校3～4年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第6回	**卒業研究の中間発表（前半）** 4年生（林ゼミ）の卒業研究の中間発表を聴講し、スポーツ活動史の発表方法を理解する。また、コミュニケーション能力や傾聴力の重要性を学ぶ。	4年生（林ゼミ）の中間発表の抄録を熟読して質問を考える。	4時間
第7回	**卒業研究の中間発表（後半）** 4年生（林ゼミ以外）の卒業研究の中間発表を聴講し、スポーツ活動史の発表方法を理解する。また、コミュニケーション能力や傾聴力の重要性を学ぶ。	4年生（林ゼミ以外）の中間発表の抄録を熟読して質問を考える。	4時間
第8回	**スポーツ活動史（小学校5～6年生）** 小学校5～6年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	小学校5～6年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第9回	**スポーツ活動史（中学校1～3年生）** 中学校1～3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	中学校1～3年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第10回	**スポーツ活動史（高校1～3年生）** 高校1～3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	高校1～3年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第11回	**スポーツ活動史（大学1～3年生）** 大学1～3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	大学1～3年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第12回	**スポーツ活動史（まとめ）** すべての時代のスポーツ活動を総括し、まとめを作成する。	小学校以前から大学3年生までのスポーツ活動を見直す。	4時間
第13回	**卒業研究の最終発表（前半）** 4年生（林ゼミ）の卒業研究の最終発表を聴講し、スポーツ活動史の最終発表の方法を理解する。また、コミュニケーション能力や傾聴力の重要性を学ぶ。	4年生（林ゼミ）の最終発表の抄録を熟読して質問を考える。	4時間
第14回	**卒業研究の最終発表（後半）** 4年生（林ゼミ以外）の卒業研究の最終発表を聴講し、スポーツ活動史の最終発表の方法を理解する。また、コミュニケーション能力や傾聴力の重要性を学ぶ。	4年生（林ゼミ以外）の最終発表の抄録を熟読して質問を考える。	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（山田）**				
担当教員名	山田　庸				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山田教授は、2008年から2012年までプロサッカークラブでのコーチング経験を有している。				

授業概要

卒業研究に向けた研究に必要なスキルを実践を通じて習得する。文献収集では、ライブラリーを活用した書籍と論文の収集を行い、要約を作成する。それらをまとめ、文献レビューの作成を行い卒業論文の文献研究の基礎とする。プレゼンテーションは見に卒論発表を通じて実践的に小立てごとにパワーポイント資料を作成し発表を実践する。，ミニ卒論を通じたパフォーマンス分析の実際を行う。取得データは、各個人の興味のあるスポーツから取得する。，データ入力および解析を行い、簡潔な研究を実践する。.

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	文献収集のテクニック、コーチング現場や研究に関する知識	コーチングに関する文献収集を通じて過去の研究や指導現場での実践知識を習得できる
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	コーチング学の研究を行うためのデータ取得、分析、発表の技能	ミニ卒論の中でデータを取得し、分析し、プレゼンテーションすることができる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	コーチング学に関する研究の実践力	ミニ卒論を仕上げることができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の発表資料及びプレゼン	100%	： 各回の資料発表を全て行なった＝60点とし、①資料の様式が整っているか、②内容は適切であるか、③自分の意見や考察が適切に行われているか、④卒業研究に向けた関連性と計画性があるかについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

出席を重視し、各回の課題を丁寧に行なっていくことを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜４限
場所：　B207

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス/卒論キーワードをマインドマップでまとめる** 後期のゼミ活動＝情報戦略演習（ゼミ）について、予定と内容を確認する。 以前に出したキーワードから，卒論に向かってキーワードを整理し，文献収集や調査方法の狙いを具体化する.	興味のあるスポーツについてスタッツなどの情報を検索する	4時間

第2回	**論文の収集とレビューの作成** 自分に必要な研究キーワードに基づき，論文を5本以上収集する．	収集した文献をリスト化し整理しておく	4時間
第3回	**文献収集** 卒業論文キーワードに沿った論文を検索し，収集する．収集した論文を読み，A4用紙1枚の抄録にまとめる．抄録の書式について学習する．	必要に応じて文献検索を追加で行う	4時間
第4回	**卒業研究中間発表会前半** コーチングコースの卒論中間発表会前半に参加する．すべての発表を閲覧し，自由質問を行う．レポートを作成し提出する．	興味のある卒業研究について関連文献を調査する	4時間
第5回	**卒業研究中間発表会後半** コーチングコースの卒論中間発表会後半に参加する．すべての発表を閲覧し，自由質問を行う．レポートを作成し提出する．	興味のある卒業研究について関連文献を調査する	4時間
第６回	**文献の発表** 検索した論文を抄録にまとめ，ゼミ内で発表する．	関連の文献を探索する	4時間
第7回	**文献収集の発展** 前回の文献発表を踏まえ、新たな卒業論文キーワードに沿った論文を検索し，収集する．収集した論文を読み，A4用紙1枚の抄録にまとめる．抄録の書式について学習する．	抄録まとめ作業をフォローする	4時間
第8回	**文献発表の発展** 検索した論文を抄録にまとめ，ゼミ内で発表する．前回の発表の反省点を生かし、自身の主張点として賛同する点や反対する点を具体的に述べる	発表に基づき文献研究の章の構成を考える	4時間
第9回	**文献研究の実施** これまでまとめた文献に加え、過去の卒業論文や学術論文、専門書籍を参考に対象となるスポーツに関する先行研究や知見を文献研究の章にまとめる。主にスポーツの指導書などを参考とし引用する	文献研究の不足している部分を記述する	4時間
第10回	**ミニ論文の構想を立てる** 期末のミニ論文発表に向けて，キーワード，仮説を整理し，実験や調査の計画を立てる．研究仮説，対象，方法について考えて書き出していく．	構想にそってスポーツパフォーマンスを確認し仮説を洗練させる	4時間
第11回	**ミニ卒論のデータ収集** 実際にデータを収集してみる．方法は，先行研究などを参考にする．実験やアンケートを実施する場合は，事前に被験者を確保する必要がある．	必要に応じてデータ再収集やデータのクレンジングを行う	4時間
第12回	**ミニ卒論のデータ分析** 得られたデータからグラフを作成し，その特徴をまとめる．Excelにてグラフ作成し，PowerPointに貼り付けて体裁を整える．	作成したスライドの体裁を整える	4時間
第13回	**論文発表のテクニック，資料作成** 山田教授の学会発表例および過去の卒業論文発表例を聴講し，学会発表スライドに必要な要素，発表のテクニックについて学ぶ．学んだことを活かして，実際にPowerPointスライドを作成する．	スライドの発表練習を行う	4時間
第14回	**ミニ卒論の発表** 収集したデータに基づき，ミニ論文発表を行う．発表は5分間，質疑応答3分間．	今後の課題に従い、研究計画を立てる	4時間
第*回	**＊** ＊	＊	4時間

SP-3402-3-1

授業科目名	**コーチング基礎演習Ⅱ（吉川）**				
担当教員名	吉川　文人				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

コーチングに関連する文献の調査をとおして、競技力に影響する因子とその分析方法を含め、コーチングの知識やスキルについて学びを広げ深める。また、コーチングを支援する情報通信技術とその応用事例についても学びを広げ深め、コーチングにおけるPDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルを効果的に実行する上で要請される能力の充実を図る。加えて、受講生自らの興味・関心を踏まえたコーチング研究に取り組み、学び続ける力の延伸を図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 . DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	コーチング実践に必要な知識の獲得とその応用にかかる論理的思考の醸成	コーチング実践に必要な知識 コーチングに関する論文のポイントをまとめた資料を作成することができる。
2 . DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ及びコーチングに関連する知識の獲得とその応用にかかる論理的思考の醸成	スポーツ実践及びコーチング実践に必要な知識を説明することができる。
3 . DP10.スポーツ学に関する実践力	コーチングを実践する上で必要な基本的知識やスキルの獲得	コーチングに関する学びを実践応用できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

下記のレポート評価については、各自が設定する研究課題に関連した先行研究や関連研究の論文を10件以上にわたって適切に引用し、レポート（報告書）を取りまとめることが期待される。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小テスト	40%	： 授業で取り扱った内容の理解度について10%×4で評価する。
授業内課題	20%	： 授業で取り扱った内容の理解度を確認する授業内課題をとおして、独自のルーブリックに基づいて20%で評価する。
レポート評価	20%	： 授業で取り扱った内容や方法を踏まえて、各自で研究活動に取組み取り纏めた報告書について、独自のルーブリックに基づいて20%で評価する。
プレゼンテーション評価	20%	： 加点要因として授業中内の発言を含め、プレゼンテーションのできばえについて、独自のルーブリックに基づいて20%で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

論文を中心に、随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

自己学習力を高められるように主体的に取り組むことを期待する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： 急に研究室を訪ねられても対応できないこともありますので、可能な限り、Mail等で事前に面会の約束を取り交わすようお願いします。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及びスポーツ学とコーチング** 授業の進め方や内容について把握する。コーチングに関連の深いスポーツ学の細分野について概観し、コーチング学を俯瞰し包括的に捉える取り組みを行う。	コーチング学を中心に紹介されている資料を収集し、浅く広く概観する予習を行う。	4時間
第2回	**コーチング支援向け情報通信技術とその応用事例** スポーツ競技者の強化に資することを意図して開発された動作分析技術とその応用事例の紹介を中心として、情報通信技術のスポーツ応用に関する事例を概観し、科学的エビデンスに基づくコーチングの在り方について考えを深める。加えて、コーチングにおけるＰＤＣＡサイクルの意義を理解するだけでなく、その過程で利活用可能な手段についても見識を広げる。	コーチングに応用されている情報通信技術について資料の収集を図り、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第3回	**ゲーム・パフォーマンス分析実習（データの収集・加工・分析）** 受講生各自が興味・関心のあるスポーツ動作や日常生活動作について分析目的を設定し、映像の収録からデータの加工・分析、可視化までのプロセスを実習する。この取組みをとおして、動作分析技術ひいては情報通信技術のコーチングへの応用可能性について学びを広げ深める。加えて、実習の体験や受講生間の情報共有をとおして、獲得した知識を応用展開する道筋について発想を広げる。	授業担当者の公表論文とパフォーマンス分析に関する総説を読み、実習内容の予習を行う。	4時間
第4回	**ゲーム・パフォーマンス分析実習（基本的なデータの統計処理と結果の発表）** 前回に引き続き、データの収集・加工・分析・閲覧といったデータの処理過程を実習する。それらに加え、さらにデータを集計する上で必要な基本的な統計処理についても実習に挑戦し、ゲーム・パフォーマンス分析にかかるデータ処理の基本的なプロセスを一通り経験する。各自の実習内容とその実習を通して学び得た事項について、各自の発表をとおして学習内容の共有を図る。	自らの分析課題に関連した文献調査を行う。	4時間
第5回	**コーチの役割とコーチング行動** 著名なコーチのコーチングスタイルやエピソードを知るとともに、学際的な研究・調査の結果と関連づけてコーチの役割とコーチング行動について見識を広げる。	指導者からコーチングを受けてきた受講生各自の経験をもとに、コーチの役割とコーチング行動について網羅的にリストアップするなど、本テーマに関する予習を行う。	4時間
第6回	**運動学習とコーチング** 古典的運動学習理論をはじめ、運動学習・制御の分野で議論されてきた問題について概観するとともに、脳神経系の機能と構造について理解を深め、コーチングとの関連について考える。加えて、運動学習のメタ認知に関する研究の動向について概観し、過去に学んだコーチの役割とコーチング行動について改めて別の角度から考える。	関心のあるスポーツ動作を取り上げ、重要視すべき技術や技能に関するバイオメカニクスについて文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第7回	**体力トレーニングとコーチング** スポーツ競技の特性に応じて求められる行動体力について分類・整理し、からだの適応、期分け、体力トレーニングの計画立案等、研究の動向を多岐にわたって紹介する。	関心のあるスポーツ競技を取り上げ、重要視すべき体力要素とそのトレーニング方法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第8回	**コーチングを取り巻く諸問題** 過去の授業で取り扱われなかったコーチング関連事項についてブレインストーミングをおこない、補足及び議論された事項について理解を深める。過去の授業を踏まえ、コーチングのあり方について自らの考えをプレゼンテーションする。	コーチングを取り巻く諸問題に関して文献調査を行ない、自らの考えをまとめる。	4時間
第9回	**研究法の概観** コーチングに関連した卒業研究の意義や研究の進め方について概観する。また、先行関連研究の調査の仕方やその取り纏めの仕方について実践例を紹介する。さらに、コーチングに関する題材を取り上げ、先行関連研究の知見を踏まえた研究課題の策定例を紹介する。これらの授業内容を踏まえ、受講生各自が研究課題の策定に必要なプロセス管理に取組む。	興味関心のあるテーマについて論文を読み、そのテーマに関する研究動向の把握に努める。	4時間
第10回	**研究課題の策定と研究構想の発表** 受講生各自の研究課題とその実施計画案を発表し、質疑応答を行う。発表及び質疑応答を踏まえ、研究計画案のブラッシュアップを図る。	興味関心のある研究テーマについて実施計画案を詳細化する。	4時間
第11回	**コーチング学に関する発表の視聴** 様々な研究課題の研究発表を視聴し、研究活動全般の見識を広げる。	研究発表の抄録を読み、研究課題の重要事項の捕捉に努める。	4時間

第12回	**研究活動のプロセス改善** パーソナルプロジェクトマネジメントに必要な知識とスキルについて理解を深め、実践力を培う。各自の研究課題の構想を詳説し、改善事項を明確化する。また、一般的な資料の作成方法やプレゼンテーションの方法について理解を深める。加えて、各自の研究課題に関する補足事項について学びを深める。	パーソナルプロジェクトマネジメントの知識やスキルの獲得を図り、当該研究活動を題材に実習を試みる。	4時間
第13回	**研究報告書の作成と推敲** 研究報告書の作成と推敲に取り組む。On the job trainingを通して、実践力を培う。本授業時間終了までに実行することを求められた研究報告書（レポート）の提出と発表を完遂する。	研究報告書を取り纏め、発表資料を作成し、発表を反復練習する。	4時間
第14回	**まとめ及び総括** 学び得た事項を振り返ることに加え、実践応用の展望について概観する。	コーチング学に関連の深いスポーツ学細分野の知見について網羅的に復習を試み、学修内容について内省する。	4時間

SP-3502-3-1

授業科目名	野外・レク基礎演習Ⅱ（林）				
担当教員名	林　綾子				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、論文の読み方を学び、さらにデータの収集、分析、結果・考察について学ぶ。実践現場での経験や自身の興味や関心、問題意識に基づいて論文検索を行い、有益な情報収集、方法の活用から、自分の卒業研究のテーマを考える。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	野外スポーツ分野の先行研究の概観	野外スポーツに関する学術的理解が得られる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習	課題に対する学術的アプローチに必要な手法を身に付ける。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	野外スポーツ分野の発展に貢献する研究課題の設定	自らの価値感から世の中に重要な課題を設定し、学術的に課題に取り組む力を付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・レポート	40%	：トピックに関する課題に対するレポートを評価する。
課題発表	30%	：課題に対してグループで取り組み、発表を行う。その内容を評価する。
最終課題	30%	：最終課題であるプロポーザルとそのプレゼンテーションを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中敏・山際勇一郎（1989）ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法．教育出版.

履修上の注意・備考・メッセージ

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

本科目は通年で2単位ずつ、4単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日３限

場所：　A402

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要説明および「研究」とは** 卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第2回	**野外スポーツ関連研究の概観** 各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第3回	**データの取り扱い①** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。データの入力、集計を実際に行う。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第4回	**データの取り扱い②** 入力したデータを用い、統計ソフトを使用しながら基本的な統計処理に取り組み、データ分析の基本を理解する。分析にて得られた結果を理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第5回	**データの取り扱い③** 分析によって得られた結果を理解し、結果をまとめ、結果から何が言えるのか、結果から考えられること（考察）は何か考え、結果のまとめ方を理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第6回	**研究方法①観察法** 研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第7回	**研究方法②質問紙法** 野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第8回	**研究方法③面接法** 質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第9回	**研究方法④実験研究** 実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。	授業の復習と課題に取り組む	4時間
第10回	**研究方法⑤文献研究** 文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。	論文検索を行い、興味のある論文を見つける。	4時間
第11回	**先行研究のまとめ** 各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。	自分の興味のあるテーマに即した先行研究をまとめる	4時間
第12回	**研究デザイン・信頼性・妥当性** これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。また、研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。	自分のテーマに即したデザインを考える。	4時間
第13回	**研究プロポーザル作成** フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。	研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。	4時間
第14回	**卒業研究プロポーザル発表** 各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。	プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。	4時間

SP-3502-3-1

授業科目名	野外・レク基礎演習Ⅱ（中野）				
担当教員名	中野　友博				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本基礎演習Ⅱは、野外・レクリエーションスポーツ関連の実践や研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、卒業研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について具体的に学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させ、プロポーザルの考案・作成・発表から、実際に研究を行う上で、何が意義なのか、何が問題なのか、よりよい研究を行うための視点などについて理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	野外・レクリエーションスポーツに関する先行研究の概観	野外・レクリエーションスポーツに関する学術的理解が得られる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	野外・レクリエーションスポーツ研究の実践に必要な手法の学習	研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究デザインを計画することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	研究デザインの実践	計画した研究デザインを実践することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

提出物にコメント・評価をつけて返却します
提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・レポート	30%	： トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表	40%	： 各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト	30%	： 研究法についての知識の理解を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

随時配布・紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回４時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要説明および「研究」とは** 授業計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。	卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを選び、読んでくる。	4時間
第2回	**野外スポーツ関連研究の概観** 各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。	抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。	4時間
第3回	**個人別課題発表** 各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。	評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。	4時間
第4回	**研究とは？変数とは？** これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。	授業の復習を行い、理解を深める	4時間
第5回	**データ分析における基本知識の習得** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。	尺度・検定について復習を行い、理解を深める。	4時間
第6回	**データの分析方法** 実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。	授業の復習を行い、データ入力を完成させ、分析を復習し、各自例題に取り組む、	4時間
第7回	**結果のまとめ方** 分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。各自のまとめた結果、考察について発表し、理解を深める。	課題の分析結果についての評価を受け振り返る	4時間
第8回	**研究方法** 観察法、質問紙法、面接法、実験研究、文献研究の研究手法につい理論を学び、その種類や具体的方法を理解する。	授業の復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する	4時間
第9回	**文献検索の方法** インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。	学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を見つける	4時間
第10回	**論文構成** 例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。	構成を理解し、選んだ論文を読み進める。	4時間
第11回	**先行研究のまとめ** 各自のテーマに基づいて検索し、見つけた論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。	レビュー結果から、仮説や課題を考える	4時間
第12回	**信頼性・妥当性** 研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。	授業を復習し、例題に取り組む。	4時間
第13回	**研究デザイン、研究プロポーザ** これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。 プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。フォーマットに則りプロポーザルをまとめる。	プロポーザル作成。	4時間
第14回	**個人発表** 各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。実際に研究を行う上で、何が意義なのか、何が問題なのか、よりよい研究を行うための視点などについて理解する。	プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。	4時間

SP-3502-3-1

授業科目名	**野外・レク基礎演習Ⅱ（黒澤）**				
担当教員名	**黒澤　毅**				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習は、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について理解を深める。また、野外スポーツ関連の研究動向や研究手法の特徴などを理解する中で、基本的研究の理解を深める。さらに、実際に研究論文を書くために必要となる研究論文における論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学びながら、最終段階として、自らの卒業研究につながる研究デザインに発展させ、発表することで更なる理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習	研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究デザインを計画することができる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	野外スポーツに関する調査・研究を実践する力	野外スポーツに関する実践的・学術的理解をもとに、研究課題を設定し、研究実践を行う力を身につけることができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	課題・レポート	トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・レポート	40%	： トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表	40%	： 自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト	20%	： 研究法についての知識の理解を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。随時必要な場合には指定します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立てるための、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第１回	**授業概要説明および「研究」とは** 授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。	論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選んで読む。	4時間
第２回	**野外スポーツ関連研究の概観** 各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。	抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。	4時間
第３回	**研究と変数について** これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。	授業の復習を行い、理解を深める	4時間
第４回	**データ分析における基本知識ー尺度と検定についてー** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。	尺度・検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。	4時間
第5回	**データの分析方法** 実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。また、入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。	授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。	4時間
第６回	**結果のまとめ方ー結果と考察のまとめ** 分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。	授業の復習を行い、各自例題に取り組む。	4時間
第７回	**研究方法①観察法** 研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。	まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。	4時間
第８回	**研究方法②質問紙法** 野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。	授業の復習、例題に取り組む。	4時間
第９回	**究方法③面接法** 質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。	インタビューデータを整理し、まとめる。	4時間
第１０回	**研究方法④実験研究** 実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。	授業を復習し、例題に取り組む。	4時間
第１１回	**研究方法⑤文献研究** 文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。	授業を復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。	4時間
第１２回	**文献検索の方法** インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。	学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。	4時間
第１３回	**研究デザイン** これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。	自分のテーマに即したデザインを考える。	4時間
第１４回	**研究プロポーザル作成** プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行い、変数の決定、方法の決定しながら研究プロポーザルを作成する。	研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。	4時間

SP-3502-3-1

授業科目名	野外・レク基礎演習Ⅱ（橋本）				
担当教員名	橋本　和俊				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、野外スポーツ演習や卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	野外スポーツに関する先行研究の概観	野外スポーツに関する学術的理解が得られる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習	研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究デザインを計画することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	野外スポーツに関する調査・研究を実践する力の習得	野外スポーツに関する実践的・学術的理解をもとに、研究課題を設定し、研究実践を行う力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・レポート	40%	：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解度を評価する。
課題発表	40%	：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解度を評価する。
授業内小テスト	20%	：研究法についての知識の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田中敏・山際勇一郎	・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法	・教育出版	・1989年
日本野外教育学会	・野外教育研究法	・杏林書院	・2018年

参考文献等

随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

［メッセージ］
卒業研究作成に向けたとても重要な内容です。積み上げ式に授業が展開されるので、まずは欠席をしないこと。欠席をした場合は各自補填をすることを心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要説明、「研究」とは？** 卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文との文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。	どのような文章表現の違いがあるかまとめる	4時間
第2回	**野外スポーツ関連研究の概観** 本学の卒業論文抄録の課題に沿ってまとめ、疑問点や問題点を整理する。	抄録を参照し興味のある内容を調べる	4時間
第3回	**論文構成** 例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において記述すべき重要な内容について理解する。	論文構成についてまとめる	4時間
第4回	**文献検索の方法** インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について理解する。また、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、情報を整理し自身の考えを述べる。	実際に文献を検索し、興味のある論文を読む	4時間
第5回	**研究方法①観察法** 研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。	どのような観察の方法があるかまとめる	4時間
第6回	**研究方法②質問紙法** 野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。	どのような質問紙（尺度）の内容があるかまとめる	4時間
第7回	**研究方法③面接法** 質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。	どのようなインタビュー内容があるかまとめる	4時間
第8回	**研究方法④実験研究** 実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。	どのような実験のデザインがあるかまとめる	4時間
第9回	**研究方法⑤文献研究** 文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。	どのような文献研究（総説論文）があるかまとめる	4時間
第10回	**変数の理解** これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。	それぞれの変数について説明できるようにまとめる	4時間
第11回	**データ分析①尺度の信頼性・妥当性** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。またその信頼性と妥当性についても学習する。	尺度、信頼性、妥当性とは何か説明できりようにまとめる	4時間
第12回	**データの分析②データ入力・分析** 実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。	入力方法やその分析の種類について説明できるようにまとめる	4時間
第13回	**結果のまとめ方ー結果の理解と考察** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。	課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。	4時間
第14回	**研究デザイン** これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。	研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。	4時間

SP-3602-3-1

授業科目名	生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（藤松）				
担当教員名	藤松　典子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

健康・トレーニング・運動指導に関心があること、問題点、疑問点等をあげ討論・解決しながら自らの課題を探求する。自身の身体を使い、ウォーキングやランニング時のデータを収集し、レポートにまとめることにより卒業論文につなげるよう、課題をみつける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツ経験の中から関心のあることを調べ、まとめ、発表する能力	身近なところで健康・運動指導・体力づくり・介護予防等に関することを探求できる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	自らデータを収集し、レポートにまとめる。興味を卒業論文につなげる積極的な姿勢	健康・運動指導・体力づくりに関する関心があること、問題点、疑問点等をあげ討論・解決しながら自らの課題を探求できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート1	30%	： 計画・立案と目的設定の完成度を評価します。
レポート2	30%	： 課題、テーマの探求と先行研究をまとめる完成度を評価します。
レポート3	40%	： 自身の運動実施データから表や図を作成し、考察、まとめる完成度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて適宜紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**健康についてのディスカッション**	スポーツ生理学の単元より1つ選び発表できるようにまとめてくる。	4時間

	おい互いに相手のことを知る普段心がけている健康に関する行動を紹介する。 授業計画とゼミ活動として参加するボランティア等について理解する。		
第2回	**健康・体力づくりについて** 文献検索の仕方の復讐と検索した文献の収集をする。自分の現在の興味について突き詰めていく上で、まずはトレーニングと健康づくりについて考える。	トレーニングの単元より発表できるようにまとめてくる。	4時間
第3回	**トレーニングと健康・体力づくり、有酸素運動について　ー文献をまとめるー** 授業外でまとめてきたスポーツ生理学の単元を発表する。 関連する基本文献の講読と各自の検索した文献のまとめ。	さらに文献を検索し、まとめる。	4時間
第4回	**文献のまとめ方と発表** 授業外でまとめた、トレーニングの単元を発表する。 文献をまとめ発表する。お互いに質問し、討論する。	有酸素運動について調べてまとめる。	4時間
第5回	**有酸素運動の実際　　ースロージョギングー** 心拍測定器を装着し、5～10kmを走る。走る前後の体重と走行距離、走行時間、心拍数を測定する。	有酸素運動と無酸素運動とのそれぞれの特性と目的を調べ違いをまとめる。	4時間
第6回	**有酸素運動の比較** 先行研究の検討 健康体力づくりのための有酸素運動について調べる。 前回の自分のデータの吸い上げ方を習得し、図を作成する。統計処理について学習する。	授業中に作成した図から結果と考察を作成する。	4時間
第7回	**有酸素運動の効果と活用方法** 先行研究の検討　 有酸素運動の効果について理解し、生活習慣病改善のための有酸素運動につなげる。	先行研究を引用しながら、緒論と考察を完成させる。	4時間
第8回	**有酸素運動の実際　ーインターバル速歩ー** 心拍測定器を装着し、5～10kmをインターバル速歩を試みる。歩く前後の体重と走行距離を測定する。データを吸い上げ考察する。	データの吸い上げと保存をし、図を作成する。	4時間
第9回	**有酸素運動の実際　ージョギングー** 心拍測定器を装着し、5～10kmをジョギングで走る。走る前後の体重と走行距離、走行時間、心拍数、RPEを測定する。	高齢者の運動について意義、目的、効果を調べてまとめる。	4時間
第10回	**高齢者の介護予防トレーニング** 高齢者の介護予防に必要な筋力トレーニングや運動後のストレッチのプログラムを作成する。文献により、衰え易い筋や、運動能力等を調べる。	健康寿命について調べる	4時間
第11回	**高齢者の運動指導** 健康寿命を延伸させるための介護予防運動、メタボリックシンドローム、認知症、ロコモティブシンドローム、フレイルについて調べ、その予防運動を考案する。タオルや、ボールなどの道具を使ったものも体験する。	高齢者に関する論文を検索してまとめる。	4時間
第12回	**課題探索** 日頃疑問に感じていることやこれまで学んできたことで、より深く知りたいごとなどを挙げ卒業研究の課題を探索する。お互いに発表して、他人の考えを聞き、意見交換をする。	自分の興味のある論文を読む	4時間
第13回	**卒業論文作成の目的、方法を作成し、計画を立案する。** 卒業研究の計画書の作成。何について調べたいのか、どのような方法でできるのか、どのような結果が予測されるのか、それが何の役に立つのか整理して作成する。	計画書を完成させる	4時間
第14回	**まとめ　ー卒業論文へー** まとめと卒業論文の計画。心拍数、水分出納、高齢者の介護予防運動、ランニングやジョギングの健康づくりに関して、体験して自分の興味や疑問に感じたことを卒論につなげられるようにまとめていく。卒業論文の計画を完成させ、予備実験に着手できるように準備する。	卒業論文のための課題を見つける。レポート作成	4時間

SP-3602-3-1

授業科目名	生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（入谷）				
担当教員名	入谷　智子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、4年次の卒業研究の論文作成に関する基本的な知識と技術を習得し、卒業論文計画書の完成と発表を目的とする。そのための生活習慣と健康、予防に関する先行研究の文献検索や検討を行い、知識を深め、具体的な研究手法について習得する。また研究課題を探求する上で必要な、一般的な知識や基本的な統計学についても学び知識を向上することを目標とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	生活習慣と健康・スポーツに関連する研究課題の探求	生活習慣に関連する諸課題について研究課題を探求し、自分の研究が検討できる 卒業研究に必要な知識と技術が習得できる
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	生活習慣・健康とスポーツに関連する先行研究や研究による知識の習得	生活習慣・健康とスポーツに関連する先行研究や研究により知識が習得できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内演習および課題	40%	： 論文作成にあたる基本的な技術の習得なための毎回の授業態度や知識習得。文献検索、レポート、一般知識の向上のための課題に対して評価する。
研究計画書の作成及び発表	50%	： 自分の研究に関して、積極的・自主的に学びを進めているか、適切な進め方ができているか、研究計画書の作成及び発表について評価する
論文検索状況	10%	： 論文検索を積極的に行い、自分の研究について学びを深めているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「今日から使える医療統計」　新谷歩著　医学書院
「看護研究をはじめるための統計と臨床疫学」「横川博英,藤林和俊　学研
「看護・医療系スタッフのための質問紙作成ワークブック」土屋雅子　診断と治療社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**演習の目標、計画等のガイダンス,** 演習の全体の流れと目標の確認。卒業研究論文の概要を説明し、現状の興味のある研究を共有する	卒業研究論文の概要および興味のある研究を調べる	4時間
第2回	**運動と健康に関する先行研究による知識の習得** 運動と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、運動と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	運動と健康に関する先行研究検索	4時間
第3回	**喫煙と健康に関する先行研究による知識の習得** 喫煙と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、喫煙と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	喫煙と健康に関する先行研究検索	4時間
第4回	**飲酒と健康に関する先行研究による知識の習得** 飲酒と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、飲酒と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	飲酒と健康に関する先行研究検索	4時間
第5回	**文献検討①** 文献検索の具体的な方法を学ぶ	文献検索の復習	4時間
第6回	**文献検索②** キーワードにより文献検索を行う	文献検索の復習	4時間
第7回	**文献検討①** 抽出した文献に関して文献検討を行う	文献検討を文章化する	4時間
第8回	**課題、研究テーマの検討** 個別面談を通じ課題や研究テーマについて確認する自分の研究をPICOに表す	課題や研究について整理する	4時間
第9回	**文献検討②** 自分の興味関心があるキーワードにより文献検索と文献検討をさらに行う	文献検討の復習	4時間
第10回	**文献検索した論文のまとめ** 抽出した論文を他者にわかるようにパワーポイントを作成し、発表の準備を行う	パワーポイントをまとめる	4時間
第11回	**文献検索発表会の実施** 文献検索し的た内容を一人5分で発表(質疑応答5分) する	発表練習	4時間
第12回	**4回生のプレ中間発表会参加** プレ中間発表会に参加し、卒業研究論文の発表方法について理解する	プレ中間発表会に関する課題レポート作成	4時間
第13回	**卒業研究計画書の作成** 先行研究の検索に基づき、目的や方法を検討し計画書を作成する	研究計画書をワードで作成する	4時間
第14回	**卒業研究計画書の発表資料の作成** 卒業研究計画書をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションの資料を作成する	パワーポイントの作成	4時間
第15回	**卒業研究論文の研究計画書の発表** 卒業研究論文の研究計画書をゼミ内で発表し、来年度の研究の基盤を確定する	発表の事前資料の作成	4時間

SP-3602-3-1

授業科目名	生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（黒須）				
担当教員名	黒須　朱莉				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究における基本的な知識と技術を習得し、卒業研究計画書（問題関心、先行研究の検討、研究の目的と課題、研究の方法）を完成させることを本演習の目的とする。そのために、まずはスポーツ文化に関する文献の輪読を行う。その際、文献講読の方法、レジュメの書き方、議論の方法などを学ぶ。次に、各自でブレーンストーミングを行い、個々の問題意識を明確にするとともに、関連する文献や先行研究を読み進めていく。その際、先行研究の収集方法や論文の読み方を学び、文献研究の基礎を固めていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ文化に関する知識	スポーツ文化における多様な対象・テーマについて理解できる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	質的研究の研究方法	文献資料調査の基礎的方法について理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	80%	： 各自のスポーツ文化に関わるテーマを対象に文献調査を行い、その内容を踏まえてレポートを作成する。その内容（質および量）を評価する。
プレゼンテーション	20%	： 自身の問題意識について言語化し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。その内容に筋が通っているか、根拠が適切な形で示せているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、受講生の関心に応じて提示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
日頃からスポーツに関する事象についてアンテナを張り、自身の問題関心を育てること。
そして、「本気で取り組みたいテーマ」を根気強く探そう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業の教室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス（卒業論文作成の流れ）** 演習全体の流れを説明すると同時に、受講者が本演習を選んだ理由、関心のある事柄について発表する。	関心のある事象について、まずはインターネットを用いて調査し、その内容をまとめる。	4時間
第2回	**「論文」とは何か** 「論文」と「感想文」との違いについて理解する。	授業の復習と、配布資料（論文・レポート作成の基礎①）を読む。	4時間
第3回	**論文・レポート作成の基礎①文章表現** 論文・レポート作成時の基本的な文章表現方法について理解する。	授業の復習と、配布資料（論文・レポート作成の基礎②）を読む。	4時間
第4回	**論文・レポート作成の基礎②章立て・構成** 論文・レポート作成時の基本的な章立て・構成について理解する。	授業の復習と、指定された章を中心に課題文献を読む。	4時間
第5回	**文献講読①読み方の手法** 指定された課題文献をもとに、文献の読み方のテクニックを理解する。	授業で学んだ読み方を用いて、課題文献を再度読み、疑問点もまとめる。	4時間
第6回	**文献講読②議論の手法** 指定文献の内容と疑問点について発表するとともに、ディスカッションの方法について理解する。	授業の復習、課題文献の疑問点をレポートにまとめる。	4時間
第7回	**文献講読③議論の展開** 指定文献の内容と疑問点について発表するとともに、第6回の内容を踏まえてディスカッションを行う。	授業の復習、ディスカッションの内容の振り返りと、疑問点をレポートにまとめる。	4時間
第8回	**文献講読④議論の発展** 第7回のディスカッションで挙がった論点について、補足資料を用いて再度議論する。	関心のあるテーマについて、その理由を踏まえてまとめる。	4時間
第9回	**卒論の仮テーマ設定に向けたプレ発表** 卒論の仮テーマ設定に向けて、各自が関心のある事象について主観的な理由と客観的な理由の両者を踏まえて発表する。	発表時にあがったアドバイスや、他の受講生からのコメントをまとめる。	4時間
第10回	**先行研究の検討①論文検索** 資料検索の方法として、図書館データベースの使用方法やCINIIによる論文検索の方法を理解する。	テーマに関する文献及び先行研究一覧を完成させる。	4時間
第11回	**先行研究の検討②研究の基礎知識** 配布した論文をもとに、研究手法や調査対象、全体の構成について理解する。	授業の復習と、先行研究を２点程度取り上げて読んでくる。	4時間
第12回	**先行研究の検討③論文の読み方** 各自収集した先行研究をもとに、論文の読み方を理解する。	先行研究を２件程度取り上げ、レポートの形でまとめる。	4時間
第13回	**先行研究の検討④論文レビュー** 先行研究のレビューの方法を理解する。	レポートをもとにパワーポイント資料を作成する。	4時間
第14回	**まとめ・振り返り** これまでの演習を踏まえて、卒論の仮テーマを設定・調査対象等についてまとめる。	第14回までの内容をレポートとしてまとめ、発表できるように準備する。	4時間

SP-3602-3-1

授業科目名	生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（佐藤）				
担当教員名	佐藤　馨				
学年・コース等	3	開講時期	＊後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、卒業研究にむけ論文の書き方を基礎から学ぶため、論文の書式や形式について学習する。さらに具体的な研究手法についても習得する。また、これまで習得したスポーツに関する知識を用いて、各自、卒業研究になり得る研究テーマの探索を1年かけて行なう。卒業研究テーマについては、「健康」「地域」「スポーツ振興」「こども」「高齢者」「障害者」「女性」「生涯スポーツ」「福祉」等のキーワードに関連するものを探索する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	スポーツに関する研究課題の探索	各単元終了後、その内容に沿ったレポート課題を達成する
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツに関する研究課題の専門知識習得	レポート課題に取り組むことにより、授業終了後に卒業研究に必要な知識および技術を理解する

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	50%	： 各単元終了後に内容に沿ったレポートを提示し、それを評価する
レポート課題の発表	30%	： レポート課題で作成した内容を用いて、パワーポイントを作成し、それを用いて発表する
卒業研究計画書	20%	： 授業の内容を踏まえ、卒業研究に必要な計画書を作成し、その内容について評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年『レポート・論文の書き方入門』　河野哲也著　慶応義塾大学出版会　2002年

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修上の注意】
本科目では、レポート課題が多く課せられるため、毎回4時間の授業外学修を有効に活用することが求められる。また、「授業外学修課題」では、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習が求められる。
また毎回課される課題を授業中に発表したり、それを使って授業を展開する。
【メッセージ】
学生本人の講義に対する理解度を推し測り、それを評価します。学生には、指示された課題、レポート等を確実に提出することを希望する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業教室

授業計画　　授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**生涯スポーツ基礎演習：ガイダンスおよび本演習の概説** 卒業研究およびレポート作成に必要な基礎知識を学び、また学習計画について説明する	生涯スポーツ基礎演習で実施する学習計画について熟読する	4時間
第2回	**論文・レポートのルール①基本的な書式について** 論文・レポートの基本的な書式について講義する	入手した文献を参考に基本的な書式について理解し、まとめる	4時間
第3回	**論文・レポートのルール②インターネットによる資料の利用方法について** インターネットを利用した資料の利用方法について説明する	インターネットによる資料を熟読し、まとめる	4時間
第4回	**論文・レポートのルール③引用・参考文献について** 引用文献、参考文献、注釈を理解し、盗用と引用・参考との違いについてに講義する	授業でまとめた資料を参考に引用・参考文献についてまとめる	4時間
第5回	**論文・レポートのルール④実際にレポートを作成する** 授業で収集した資料を用いてレポートを作成する	収集した文献を熟読し、まとめる	4時間
第6回	**レポート作成の方法①アンケート調査型レポートの作成** アンケート調査型レポート作成の手順について説明し、実際にレポートを作成する	データによる資料を収集し、レポートを作成する	4時間
第7回	**レポート作成の方法②資料総括型レポートの作成** 資料総括型レポート作成の手順について説明し、実際にレポートを作成する	収集した資料を用いてレポートを作成する	4時間
第8回	**レポート作成の方法③二次データ型レポートの作成方法** 二次データ型レポート作成の手順について説明し、実際にレポートを作成する	二次データ資料を用いてレポートを作成する	4時間
第9回	**レポート作成の方法④パワーポイントによるプレゼンテーションについて** パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法および資料作成を説明する	プレゼンテーションに必要な基礎知識を理解する	4時間
第10回	**レポート作成の方法⑤アンケート調査型レポートのプレゼンテーション資料作成** 作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する	作成したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する	4時間
第11回	**レポート作成の方法⑥資料総括型レポートのプレゼンテーション資料作成** 作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する	作成したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する	4時間
第12回	**レポート作成の方法⑦二次データ型レポートのプレゼンテーション資料作成** 作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する	作成したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する	4時間
第13回	**レポート作成の方法⑧二次データ型レポートのプレゼンテーション** これまで作成したパワーポイント資料の中から1つ資料を選び、それを用いて実際にプレゼンテーションをする	作成したパワーポイント資料を用いて発表準備をする	4時間
第14回	**卒業研究のテーマを見つけ、研究計画書を作成する** これまで作成してきたレポート課題および発表資料から、最も自分の卒業研究に沿っている資料を選択し、それを用いて研究計画書（テーマ、研究目的、研究対象、研究方法）を作成する	これまで作成した資料を用いて、研究計画書を作成する	4時間

SP-3602-3-1

授業科目名	生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（中道）				
担当教員名	中道　莉央				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

4年次の卒業研究の執筆に向けて、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、研究計画を作成することを目標とする。そのために、障がい者スポーツに関わる先行研究等を講読して障がい者スポーツに関する科学的知見を概観したり、各種フィールドワークを行って自身の問題意識を明確化したりする活動を行う。すべての活動には主体的かつ共同的に取り組み、つねに自分の関心事や問題意識を問いながら、関連領域における先行研究の成果と課題を文章や口頭で説明できるようにすることを目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	アダプテット・スポーツ科学	アダプテッド・スポーツ科学の最新の科学研究の成果や課題等について、先行研究をもとに理解する。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	障がいと障がい者スポーツを捉える概念	ＩＣＦやアダプテッド・スポーツの考え方をもとにしたスポーツや用具の工夫を事例をもとに理解する。
3 ．DP11.忠恕の心	ボランティアマインド	障がい者スポーツにおける現場での体験的活動を通して、多様な人々と協働し、共助しようとする態度を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
先行研究に関するレポート	70%	： 論文としての体裁を保ちながら、先行研究を適切に要約し、それに対する自分の意見を根拠をもとに主張できているかどうかを評価する。
卒業研究計画書（発表含む）	20%	： 適切な形式に則り、論理性のある計画書が作成できているかどうか、またこれにもとづき、パワーポイントを有効的に使った発表を行い、質疑に対する適切な応答ができているかどうかを評価する。
体験的活動におけるレポート	10%	： 障がい者スポーツ現場で体験的に学んだ事柄を具体的かつ論理的に述べられているかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じ、適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は4単位の授業であり、1回の授業に対して4時間程度の授業外学習（予習・復習）が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・本科目は座学だけではなく、さまざまな現場でのフィールドワークにも取り組むため、「現場から学ぶ」真摯な姿勢が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　いつでも

場所：　メールで

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび卒業研究の全体像** 演習全体の流れを確認し、この授業を選んだきっかけや理由、関心のある事柄等について発表し合う。	事前に配布した自己紹介カードを作成の上、関心のある事柄について簡潔にまとめる。	4時間
第2回	**先行研究の要約** 先行研究の構造を理解し、要約の方法を学ぶ。	先行研究の構造を理解し、自分なりに要約	4時間
第3回	**先行研究の検討①（身体障がい者とスポーツ）** 身体障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（身体障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。	4時間
第4回	**先行研究の検討②（知的障がい者とスポーツ）** 知的障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（知的障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。	4時間
第5回	**先行研究の検討③（精神障がい者とスポーツ）** 精神障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（精神障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。	4時間
第6回	**先行研究の検討④（発達障がい者とスポーツ）** 発達障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（発達障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。	4時間
第7回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動①（特別支援学校）** 特別支援学校における障がい者スポーツに参画し、学校現場における障がい者スポーツ振興の現状と課題を学ぶ。	事前課題として特別支援学校におけるスポーツの取り組み状況を調べ、事後課題として気づきをまとめる。	4時間
第8回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動②（障がい者スポーツセンター）** 障がい者スポーツセンターにおける障がい者スポーツに参画し、地域における障がい者スポーツ振興の現状と課題を学ぶ。	事前課題として障がい者スポーツセンターにおけるスポーツの取り組み状況を調べ、事後課題として気づきをまとめる。	4時間
第9回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動①および②の振り返り** 特別支援学校および障がい者スポーツセンターにおける体験的活動での気づきを振り返り、ディスカッションを得て、学びを構造化する。また、これまでの演習を踏まえて、自分が卒業論文で取り組みたい大まかなテーマ設定・調査対象等についてまとめる。	これまでの授業内容を振り返り、わかったこと、なお疑問に思うことを整理する。これを踏まえ、自分が卒業論文として取り組みたいテーマについてまとめておく。	4時間
第10回	**先行研究の検討①（質的研究：インタビュー）** 障がい者スポーツに関する研究の中で、質的調査（インタビュー）に取り組んでいる先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	前期の生涯スポーツ基礎演習Ｉで学んだ「質的研究」の内容を整理しておく。	4時間
第11回	**先行研究の検討②（量的研究：アンケート）** 障がい者スポーツに関する研究の中で、量的調査（アンケート）に取り組んでいる先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	前期の生涯スポーツ基礎演習Ｉで学んだ「量的研究」の内容を整理しておく。	4時間
第12回	**テーマの設定および研究手法の検討** 各自で収集した先行研究やその他資料を参考にしながら、卒業研究のテーマを決定する。	これまでの内容を振り返りながら、卒業研究のテーマとして取り上げたい内容を説明できるように資料作成や発表準備を行う。	4時間
第13回	**効果的なプレゼンテーションと資料の作成** 効果的なプレゼンテーションのあり方について学び、これにもとづき資料を作成する。	授業で学んだポイントを押さえたスライドを作成し、発表練習を行う。	4時間
第14回	**演習のまとめ** 本演習の総括として、4年次の卒業研究の執筆に向けて、研究計画書を発表する。	これまでの授業内容を振り返り、わかったこと、なお疑問に思うことを整理する。これを踏まえ、自分が卒業研究として取り組みたいテーマについてまとめておく。	4時間

1-0-1

授業科目名	**現代社会と人間関係**				
担当教員名	金子　真理子				
学年・コース等	1・2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床心理士、公認心理師としての実務経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

本科目は、人間関係に関る心理学の基本的知識の修得に基づき、現代社会の諸問題への理解を深めることを目的とする。私たちが生きる現代社会において起こる現象を人間関係に焦点を当て、捉えなおし知見を深める。実際の報道記事や、統計資料を取り上げ、社会、臨床、発達、人格などの分野からの理解を深めていく。理解を深めるため個人ワーク、グループワークを実施するので積極的な参加を求める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	現代社会や人間関係に関する知見の学習	講義で学ぶ心理学の用語を理解し，概ね説明できるようになる。
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	自分の人生やパーソナリティの，心理学の知見からの振り返り	自分や他者の言動について，心理学の視点から説明できる側面を増やす。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
私語，授業途中の入退室，不要な携帯電話等の機器の使用など，明らかなマナー違反があった場合には，欠席とみなすことがある。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
学習内容に関するミニレポート 50%	：	人間関係に関わる心理学の基礎知識の修得の程度を評価する。
授業内での課題 50%	：	毎回与えられた課題を提出する。内容について理解度、論理的に記述できているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回の授業時に関連したものをその都度紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業の教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**心理学の基礎知識**	心理学の基礎知識について復習しまとめておく。自分の関心がある点について調べておく。	4時間

	授業内容について説明する。心理学の始まりから現在までの大まかな歴史や動向について理解する。現代の社会ではどのように心理学が取り入れられ、活用されているかについても学ぶ。		
第2回	**発達と人間関係** 人の発達について基礎知識を学ぶ。また各発達段階での人間関係の傾向や特徴についても学ぶ。	発達と人間関係について復習しまとめておく。	4時間
第3回	**虐待について** 大きな社会問題となっている虐待について、理解を深める。虐待について正しく理解をすると共に、人間関係に焦点を当て、愛着理論、世代間連鎖などについても触れ、理解を深める。	虐待について復習しまとめておく。また日本ではどのような虐待が起こっているか調べておく。	4時間
第4回	**自分らしさとは** 自分らしさを作るものは何か、環境か遺伝か。今までの研究で議論されてきたことを学ぶ。自分のパーソナリティーについても理解を深める。質問紙を使った自己分析を行う。	自分についての考えを深める。今回で知った自己分析結果に加え、これからどう生きていくのかを深めて考える。	4時間
第5回	**メンタルヘルス（不安についての基礎知識）** 不安について、どのような症状があるか、どのようにして不安な感情が起こるのか、理論と不安への対処法をを学ぶ。	自分に有効なストレスマネジメント法を身につける。	4時間
第6回	**損得勘定** 損得勘定について学ぶ。損得勘定に至るまでの判断、決断、意思決定について学ぶ。人は行動する時に必ず、損得を考えていると言われています。人はどのような状況の時、どんな判断をするのかを学ぶ。	損得勘定について復習しまとめておく。また自分の損得勘定のパターンを分析しておく。	4時間
第7回	**周囲からの影響** 私たちの行動は無意識のうちに周囲からの影響を受けている。どのような影響を受けているのか、また自分の行動に影響を及ぼしやすい事象を学ぶ。	周囲からの影響について復習しまとめておく。また自分の行動に与える影響を確認する。	4時間
第8回	**だまされる** どうして人はだまされるのか。まただます側のテクニックについても理解を深める。身近に起こっている詐欺事件などにも触れる。	だまされることについて復習しまとめておく。また自分が騙された経験について考える。	4時間
第9回	**記憶** 記憶についての基礎知識、また記憶の仕組みと様々な研究を学ぶ。記憶の種類、それぞれの特徴についても理解を深める。	記憶について復習しまとめておく。また自分の記憶についても振り返る。	4時間
第10回	**感情** 感情とは何かを学ぶ。喜怒哀楽、さまざまな感情を持つのは人間だけである。その感情はどこから生まれるのか、仕組みと今まで研究されていることなどにも触れる。	感情について復習しまとめておく。自分の感情についてもまとめる。	4時間
第11回	**デートDV** デートDVについての基礎知識を学ぶ。どのような種類があるか、また自分が加害者・被害者にならない為にはどうすればいいのかを学ぶ。	デートDVについて復習しまとめておく。周りで起こっているDVについても調べておく。	4時間
第12回	**ハラスメント** ハラスメントの基礎知識について学ぶ。ハラスメントの種類、環境によって起こりやすいハラスメントについて学ぶ。	ハラスメントについて復習しまとめておく。それぞれのハラスメントが起こりやすい環境、人間関係についても調べておく。	4時間
第13回	**依存症** さまざまな依存症の問題を扱う。人間関係に及ぼす影響などにも理解を深める。	依存症について復習しまとめておく。身近に存在する依存症についても調べておく。	4時間
第14回	**LGBTQ・性的マイノリティー** LGBTQ・性的マイノリティーの基礎知識について学ぶ。様々なセクシャリティについて理解を深める。現在起こっている問題についても触れる。	LGBTQ・性的マイノリティーについて復習しまとめておく。	4時間

1-0-1

授業科目名	**情報と統計**				
担当教員名	木村　聡				
学年・コース等	1・2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

情報処理技術と統計学の関わりは深い。例えば、情報量と通信の基礎理論は確率論に立脚しているし、複雑なプログラムの処理効率を測る際にモンテカルロ法などの統計的手法を利用することもある。人工知能(AI)の分野では、予測、次元削減、意思決定といった、統計学無くしては成り立たない分野がある。
本講座では、コンピュータの動作原理から始め、コンピュータの可能性と限界、情報処理と統計の関わりと展開などについて、考察したい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 . DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	コンピュータと統計学の基礎知識。	情報処理技術と統計学のかかわりを理解し、AIなど、技術の進展に振り回されないで済む程の知識を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・その他(以下に概要を記述)
　基本的に講義の講座である。統計学に関連して、表計算ソフトウェアを使って、実習を行うことがある。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	70%	： 統計学の手法としては、検定を主に問い、情報関連については、コンピュータの動作原理、通信とネットワークにおける諸問題、AIについての考え方等について、問う。
講義時間内で指示する課題	30%	： 課題への取り組みを独自のルーブリックにより評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

統計学の参考書には良書が豊富である。各社から、マンガで読めるものも出ている。コンピュータとの関連では、SPSSやExcelなどで統計を学べるものがある。本講座では必要無いが、卒業論文作成など、いずれは要りようになろうから、馬の合うものを探すことを心がけておかれるように。ここでは、入門レベルにとどまるが、一応、担当者の手許にあるオーム社の「マンガでわかる」シリーズを挙げておく。

・高橋 信,井上 いろは,トレンド・プロ,『マンガでわかる統計学』,オーム社,2004

・田久 浩志, 小島 隆矢, こやま けいこ, ビーコム,『マンガでわかるナースの統計学 データの見方から説得力ある発表資料の作成まで』,オーム社,2006

履修上の注意・備考・メッセージ

情報にせよ統計にせよ、実は、「わからないことだらけ」と言えよう。研究の進展、あるいは、技術革新により、解決済みの範囲は広がるのだが、しかし、必ずしも、未解決の範囲は狭まらない。その一方で、情報も統計も、広範囲に応用可能なものである。「わかっている分だけでも、ここまでできる」という実績がある。本講座が、現状、「わかっていること、できていること」と「わかっていないこと、できていないこと」を考えるよすがになれば、幸いである。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　問わない
場所：　G-Mail

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**コンピュータは何をする機械か － ハードウェア編**	各装置について調べ、簡単なイメージを掴んでおく。	4時間

	コンピュータを構成する各種の装置とその基本的な機能と動作について学ぶ。		
第2回	**コンピュータとは_ソフトウェア編** データとプログラム、プログラムとアルゴリズムについて学ぶ。フォン・ノイマン型の計算機モデルによる汎用性の獲得とその意味を考え、「コンピュータは、何をする機械なのか」を理解する。	「決定不能な問題の存在」について調べる。	4時間
第3回	**データの表現法** データの内部表現法、A/D変換、データの単位等について学ぶ。	パケット通信について調べる。	4時間
第4回	**データの表現法と情報と通信の理論** 情報量と情報のエントロピー、符号化等について学ぶ。	確率、対数について調べる。	4時間
第5回	**ファイル、フォルダとバックアップ，インターネットとプロトコル** ファイルの取り扱いとバックアップの重要性について、また、インターネットとプロトコルについて学ぶ。	パケット通信について調べる。	4時間
第6回	**マルウェアとその対策** マルウェアの特徴と対策について考える。	セキュリティソフトについて調査する。	4時間
第7回	**統計学入門** 母集団と標本の考え方、各種の基本的な特性値(平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差)について学ぶ。	算術平均値以外の平均値について調べる。	4時間
第8回	**クロス集計表と期待値、カイ2乗値、クラメールの連関係数** 観測値と期待値、また、相関について学ぶ。	単相関係数、相関比についても調べる。	4時間
第9回	**検定** 独立性の検定(カイ2乗検定)を例に、検定の考え方について学ぶ。	データの種別と検定方法の関わりについて調べる。	4時間
第10回	**シミュレーションと乱数** 乱数を使ったシミュレーション手法であるモンテカルロ法について学ぶ。	乱数発生のアルゴリズムについて調べてみる。	4時間
第11回	**AIと統計学** AIと統計学の関わりについての概要を学ぶ。	「AIの定義」について調べる。	4時間
第12回	**線形単回帰分析** 「機械学習における量的予測」について考える。	オペレーションズリサーチ(OR)について調べる。	4時間
第13回	**主成分分析** 「機械学習における次元削減」について考える。	SPSSでの主成分分析の使い方を調べる。	4時間
第14回	**ベイズ統計学を覗いてみよう** ベイズ統計学の概要と特徴について学び、「不確実な状況下における意思決定」の方法について考える。	条件付き確率について調べる。	4時間

1-0-1

授業科目名	英語Ⅰ				
担当教員名	亀本　真朱				
学年・コース等	1	開講時期	通年	単位数	4
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

英語Ⅰ－communication and writing courseでは、スピーキング・リーディング・ライティング・リスニングを通して、自己表現力の向上と異文化の理解を目指す。
テキストを使って、自分自身について話したりクラスメートとの会話や身近な話題についての英作文をしたりしながら、語彙力と文法力を固める。
また、テキスト以外にもコラムや映像などの教材を使い、日本文化を英語で紹介したり、世界の文化や時事問題において自分の意見を述べ、議論につなげる練習をする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	英語コミュニケーション能力	文章を読んだり聞いたりできる語彙力・文法力をつける。読んだり聞いたりした内容に対して自分の意見を口頭・文面で述べることができる。日常的な話題に関して短い英作文ができる。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	グローバル視点の醸成	現代社会の様々なトピックに関する英文記事を読み、見聞を広げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中に提示する複数の課題 40%	：	授業内でのワークへの積極的参加と提出物の完成度における評価
スピーキング・プレゼンテーション 40%	：	授業内で指摘した注意点に留意してスピーキングができているか、また積極的に発話できているか
確認テスト 20%	：	授業内容の理解度

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Robert Hickling, Misato Usukura	English Missions! Basic	金星堂	2019年
	英和辞典（電子辞書可）		年

参考文献等

ジェミック今井『フォニックス＜発音＞トレーニングブック』明日香出版社 2005年
ジェミック今井『＜フォニックス＞できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社 2012年
日向清人『国際基準の英単語 初級』秀和システム 2018年
日向清人『クイズでマスターするGSL基本英単語2000』テイエス企画 2016年
学研教育出版編・山田暢彦監修『中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく』学研プラス 2011年
岩村圭南『1分間英語（イングリッシュ）スピーキング編』アルク 2016年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
スマートフォン又はタブレットやPCを毎回の授業に必ず持参すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Course Introduction / Self Introduction** 授業概況、評価方法、使用テキストなどの説明、自己紹介。	英語での自己紹介を完成させ、練習する。テキストの目次に目を通し、学習項目を確認。	4時間
第2回	**Unit 1: お礼を伝える・自己紹介する** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「お礼を伝える・自己紹介する」をテーマに英作文	Unit 1について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第3回	**Unit 2: 感想を述べる・友人を紹介する** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「感想を述べる・友人を紹介する」をテーマに英作文	Unit 2について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第4回	**Unit 3: 勤務時間についてたずねる・行動予定について書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「勤務時間についてたずねる・行動予定について書く」をテーマに英作文	Unit 3について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第5回	**Presentation 1** Unit1～3に基づくPresentationまたはInterview Test	Unit1～3の復習、Presentationの準備・練習	4時間
第6回	**Topic 1** Topic 1: Activities based on a sport related topic	授業中に指示された課題の作成	4時間
第7回	**Unit 4: 週末にしたことを述べる・ある1日を振り返る** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「週末にしたことを述べる・ある1日を振り返る」をテーマに英作文	Unit 4について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第8回	**Unit 5: 相手を励ます・大学で必要な物について書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「相手を励ます・大学で必要な物について書く」をテーマに英作文	Unit 5について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第9回	**Presentation 2** Unit4～5に基づくPresentationまたはInterview Test	Uni4～5の復習、Presentationの準備・練習	4時間
第10回	**Topic 2** Topic 2: Activities based on a culture related topic	授業中に指示された課題の作成	4時間
第11回	**Unit 6: これからすることを提案する・健康状態について書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「これからすることを提案する・健康状態について書く」をテーマに英作文	Unit 6について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第12回	**Unit 7: 助けを求める・好きな人物を紹介する** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「助けを求める・好きな人物を紹介する」をテーマに英作文	Unit 7について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第13回	**Presentation 3** Unit6～7に基づくPresentationまたはInterview Test	Uni6～7の復習、Presentationの準備・練習	4時間
第14回	**Topic 3** Topic 3: Activities based on a sport related topic	授業中に指示された課題の作成	4時間
第15回	**Unit 8: パーティに誘う・好きなこと、嫌いなことについて書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「パーティに誘う・好きなこと、嫌いなことについて書く」をテーマに英作文	Unit 8について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第16回	**Unit 9: 相手に約束する・未来の自分について書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「相手に約束する・未来の自分について書く」をテーマに英作文	Unit 9について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第17回	**Unit 10: 好みを伝える・自分の価値観について書く**	Unit 10について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間

	発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「好みを伝える・自分の価値観について書く」をテーマに英作文		
第18回	**Presentation 4** Unit8～10に基づくPresentationまたはInterview Test	Uni8～10の復習、Presentationの準備・練習	4時間
第19回	**Topic 4** Topic 4: Activities based on a culture related topic	授業中に指示された課題の作成	4時間
第20回	**Unit 11: 同僚に確認する・大学の規則について書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「同僚に確認する・大学の規則について書く」をテーマに英作文	Unit 11について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第21回	**Unit 12: 喜びを伝える・最近したことについて書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「喜びを伝える・最近したことについて書く」をテーマに英作文	Unit 12について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第22回	**Unit 13: 滞在先の感想をたずねる・尊敬する人物について書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「滞在先の感想をたずねる・尊敬する人物について書く」をテーマに英作文	Unit 13について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第23回	**Presentation 5** Unit11～13に基づくPresentationまたはInterview Test	Uni11～13の復習、Presentationの準備・練習	4時間
第24回	**Topic 5** Topic 5: Activities based on a sport related topic	授業中に指示された課題の作成	4時間
第25回	**Unit 14: 観光名所を案内する・通っている大学について書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「観光名所を案内する・通っている大学について書く」をテーマに英作文	Unit 14について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第26回	**Unit 15: お別れの言葉を述べる・普段の習慣について書く** 発音基礎練習、テキストを使って語彙・文法の確認、リスニング練習、「お別れの言葉を述べる・普段の習慣について書く」をテーマに英作文	Unit 15について発音基礎練習、語彙暗記、文法の復習、テキストの音読、自作の英作文の音読	4時間
第27回	**Presentation 6** Unit14～15に基づくPresentationまたはInterview Test	Uni14～15の復習、Presentationの準備・練習	4時間
第28回	**振り返りと確認テスト** 後期の内容の総復習および評価	一年間の学習内容を総復習する	4時間

1-0-1

授業科目名	**英語Ⅱ**				
担当教員名	西条　正樹				
学年・コース等	2	開講時期	通年	単位数	4
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

英語Ⅰで身につけた基本的な４技能（スピーキング・リーディング・ライティング・リスニング）をさらに伸ばすことを目指す。また、自分の趣味や好きなことについて、人前で英語で発表できるようになったり、他人の発表を理解し、質問をしたりする練習をする。
また、海外のスポーツ事情、宗教、戦争、AI社会などに関する様々な英文記事を読み、現在社会の流れを捉え、自分たちが学んでいるスポーツの役割をグローバルな視点から捉える力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	英語基礎力の養成	英文を読んだり聞いたりできる語彙力・文法力を身につけることができる。
２．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	英語による自己発信力の向上	読んだり聞いたりした内容に対して自分の意見を口頭・文面で述べることができる。
３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	グローバル視点の醸成	現代社会の様々なトピックに関する英文記事を読み、見聞を広げることができる。
４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	キャリア選択次の視野の拡大	語学を身につけることで、幅広いキャリア選択ができることを知ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

本授業では，オンライン学習教材を用います．毎週決められた課題の量をオンライン上で提出してもらうので，スマホかパソコンを毎回授業に持ってきてください．

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト（毎回）	10%	：オンライン教材に基づく小テストを行います．　語彙力を評価基準とします．
スピーキング	20%	：プレゼンテーションや会話テストを行います．　学修した表現などを使い，自分のことをどれだけ表現できるかを評価基準とします．
オンライン学習	20%	：オンライン教材のEnglish Centralを用いて，スピーキングやリスニング練習をします．　毎回決められたタスクが達成できているかを評価します．
まとめテスト	40%	：授業中に習った英語表現のまとめテストを行います．
授業内課題	10%	：授業中に配布するワークシートについて取り組みます．　英語の読解問題がどれだけできるかを評価基準とします．

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松本恵美子	・書いて覚える　英検３級合格ノート	・高橋書店	・2021年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
英語で自分のことについて発表する機会があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション / Introduction** 前期の授業内容に関する説明 英語学習の仕方	今後の学習の進め方に関して理解できるようにする。	4時間
第2回	**Lesson 1 授業アンケート** 英語科事前授業アンケート ライティング課題	授業で配布されたワークシートNo.1の授業内課題をする。	4時間
第3回	**Lesson 2 English structure ① (Introduction)** 英文の基本構造を理解する Introduction Paragraphのライティング	授業で配布されたワークシートNo.1の授業内課題後半部分をする。	4時間
第4回	**Lesson 3 English structure ② (Body paragraph)** 英文の基本構造を理解する Body Paragraphのライティング	授業で配布されたワークシートNo.2の授業内課題の前半部をする。	4時間
第5回	**Lesson 4 English structure ③ (Conclusion)** 英文の基本構造を理解する Conclusionのライティング	授業で配布されたワークシートNo.2の授業内課題後半部をする。	4時間
第6回	**Review　1 (2～5回目の振り返り)** Lesson 1～4までの復習。 単元まとめテスト。	Lesson 1～4で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間
第7回	**Lesson 5 Reading skill ①（主題文とは）** リーディングの方法＆要約の仕方① 海外のスポーツ事情②	授業で配布されたワークシートNo.3の授業内課題前半部をする。	4時間
第8回	**Lesson 6 Reading skill ②（トピックセンテンスとは）** リーディングの方法＆要約の仕方① 海外のスポーツ事情②	授業で配布されたワークシートNo.3の授業内課題後半部をする。	4時間
第9回	**Lesson7 Reading skill ③（サポーティングセンテンスとは）** リーディングの方法＆要約の仕方② 海外のスポーツ事情③	授業で配布されたワークシートNo.4の授業内課題前半部をする。	4時間
第10回	**Lesson8 Reading skill ③（まとめ）** リーディングの方法＆要約の仕方③ 海外のスポーツ事情③	授業で配布されたワークシートNo.4の授業内課題後半部をする。	4時間
第11回	**Review 2 (7～10回目の振り返り)** Lesson 6～8の復習。 単元まとめテスト。	Lesson 5～8で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間
第12回	**Lesson9（英文の読み方～スキミング～）** プレゼンテーション（パワーポイントの使い方について） リーディング（スキミングで全体の趣旨をすばやく理解する技術を学ぶ）	授業で配布されたワークシートNo.5の授業内課題前半部をする。	4時間
第13回	**Lesson10（英文の読み方～接頭辞、接尾辞～）** プレゼンテーション（構成の仕方について） リーディング（接頭辞、接尾辞から単語の意味を推測する方法を学ぶ）	授業で配布されたワークシートNo.5の授業内課題後半部をする。	4時間
第14回	**Review3 (12～13の振り返り)** Lesson9～10の復習。 単元まとめテスト。	Lesson 9～10で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間
第15回	**後期Introduction** 後期の授業内容に関する説明。単語張の使い方。プレゼンテーション方法に関する説明。プリント教材への取り組み方。	クラス内での自己紹介。今後の課題の理解。学習の進め方に関して理解できるようにする。	4時間
第16回	**Lesson11（未来の貨幣）** プレゼンテーション（Q and Aセッションへの応対） リーディング（物々交換から貨幣文化発達までに関する英文の記事を読む）	授業で配布されたワークシートNo.6の授業内課題前半部をする。	4時間
第17回	**Lesson13（未来の貨幣）**	授業で配布されたワークシートNo.6の授業内課題後半部をする。	4時間

	プレゼンテーション（発音練習の仕方） リーディング（貨幣からブロックチェーン、そして未来の貨幣の形はどうなるのか、英文記事を読む）		
第18回	**Lesson14（お金と人間社会）** プレゼンテーション（メモの取り方） リーディング（「個」が求められる時代、仕事とは何かをペーパーバックを用いて考える）	授業で配布されたワークシートNo.7の授業内課題前半部をする。	4時間
第19回	**Lesson15（お金と人間社会）** プレゼンテーション（視覚資料の使い方） リーディング（留学経験を生かして、スポーツ業界で働いている人の事例学習）	授業で配布されたワークシートNo.7の授業内課題後半部をする。	4時間
第20回	**Review 4（16～19回の振り返り）** Lesson11～15の復習。 単元まとめテスト。	Lesson 11～15で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間
第21回	**Lesson16(AIと社会～AI社会の到来～)** プレゼンテーション（ビジュアル資料の使い方） リーディング（AI社会がもたらすメリットに関する英文記事を読む）	授業で配布されたワークシートNo.8の授業内課題前半部をする。	4時間
第22回	**Lesson17(AIと社会～AI社会の功罪～)** プレゼンテーション（姿勢に関して） リーディング（Society 5.0に関する英文記事を読む）	授業で配布されたワークシートNo.8の授業内課題後半部をする。	4時間
第23回	**Lesson18（AIと未来～ビッグデータ～）** プレゼンテーション（資料中の表記について） リーディング（AI社会がもたらすデメリットに関する英文記事を読む）	授業で配布されたワークシートNo.9の授業内課題前半部をする。	4時間
第24回	**Lesson19（AIと未来～AIスコア～）** プレゼンテーション（単語の選び方） リーディング（デジタルディクテーターシップに関する英文記事を読む）	授業で配布されたワークシートNo.9の授業内課題後半部をする。	4時間
第25回	**Review 5（21～25回の振り返り）** Lesson 16～19の復習。 単元まとめテスト。	Lesson 16～19で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間
第26回	**Lesson20（人間と社会～幸福の探究とは～）** プレゼンテーション（間の取り方） リーディング（ポストワーク社会における人間の生き方に関する英文記事を読む～）	授業で配布されたワークシートNo.10の授業内課題前半部をする。	4時間
第27回	**Lesson21（人間と社会～ユニバーサルベーシックサポート～）** プレゼンテーション（結論の導き方） リーディング（ポストワーク社会におけるユニバーサルベーシックサポートに関する英文記事を読む）	授業で配布されたワークシートNo.10の授業内課題後半部をする。	4時間
第28回	**Review 6（26～27回の振り返り）** Lesson 20 ～ Lesson 21の復習。 単元まとめテスト。	Lesson 20～21で配布された資料の見返し、繰り返し問題を自分で解いてみる。	4時間

1-0-3

授業科目名	**英語Ⅲ**				
担当教員名	西条　正樹				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では，スポーツを通して英語を学ぶ．ネイティブスピーカーの外部講師と英語でスポーツを楽しんだり，学生自身も英語でアクティビティを行う．また、語学を生かして海外のスポーツ分野で活躍している日本人や，海外のスポーツのケーススタディも行う．この授業を通して，「英語を話すこと」への恐怖心を克服する．そのためには，今まで学んできた知識を使ってとにかく，英語を使う練習をすることです．その際に大切なことは，文法や発音を間違えてしまうことを気にしてはいけないということ．。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	ICTツールを活用した日常英会話の練習や，スポーツ活動を通して養うアウトプット活動	英語のアウトプット活動への抵抗をなくす
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	アスリートやコーチがグローバルに活動する際に必要な語彙表現や姿勢を身につける	アスリートやコーチが海外で活動するために必要な基礎知識やコミュニケーションスキルを身につけ、実践することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

本授業では、電子版のテキストを使用します。初回の授業で購入方法を指示するので、事前に自分のスマートフォンなどにKindleをダウンロードしておいてください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト（毎回）	10%	： 毎回の授業内容が定着しているかを確認します
スポーツ英語実技	30%	： 習得した語彙表現を使いながら、実際にグラウンドに出て、英語によるスポーツの実技指導をしてもらいます。発音や文法を心配するよりも、自信を持って、堂々と実践することが大切です。
授業内課題	10%	： 授業内でのワークへの積極的参加と提出物の完成度における評価
英語表現テスト	30%	： 授業内容に基づく英語表現のまとめテスト
プレゼンテーション	20%	： オンラインによるスピーキング活動

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松本恵美子	・ 書いて覚える　英検３級合格ノート	・ 高橋書店	・ 2021年

参考文献等

『サッカー海外組への道』（西条マサ，2019）タキビ出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Introduction（クラス内での自己紹介、今後の課題について等）** 教員の自己紹介および授業の進め方について 英語学習の仕方	クラス内での自己紹介の準備をする．英語学習の基本的な考え方について理解する．	4時間
第2回	**Sports English Communication ① / スポーツ英語実技体験（屋外実習）** ・外部講師によるスポーツ英語実技体験 ・オンライン英会話	屋外実習を受けて，自分の実技課題へのイメージを持つ．	4時間
第3回	**Sports English Communication ② / イントロダクション** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（「海外組」が増えている背景p12～28） ・オンライン英会話 ・授業内課題（コーチング英語とは）	屋外実習でのコーチの使っていた英語表現を覚える	4時間
第4回	**実技テスト1回目 / スポーツ英語実技の心構え** グループに分かれて実技テストを行います．	実技の準備をする．	4時間
第5回	**Sports English Communication ③ / 動作を表す表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（「海外組」が増えている背景p29～36） ・オンライン英会話 ・授業内課題（put）	授業内で紹介したコーチング英語の特徴を覚え、次回の確認テストの勉強をする。	4時間
第6回	**Sports English Communication ④ / 位置関係を表す表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（渡航前準備p37～43） ・オンライン英会話 ・授業内課題（前置詞）	授業内に配布したワークシートを復習し、次週の確認テストに備える。	4時間
第7回	**Sports English Communication ⑤ / 様々な動作動詞** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（海外のスポーツ事情p57～66） ・オンライン英会話 ・授業内課題（動作動詞）	授業内に配布したワークシートを復習し、次週の確認テストに備える。	4時間
第8回	**ケーススタディ** ・小テスト（前回の授業の復習） ・オンライン英会話 ・授業内課題（Q & A）	海外スポーツの話を聞いて，自分の意見をまとめる．	4時間
第9回	**Sports English Communication ⑥ / 鼓舞する表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（海外のスポーツ事情p67～77） ・オンライン英会話 ・授業内課題（エンカレッジメント）	前時に伝えた範囲のボキャブラリーを覚える	4時間
第10回	**Sports English Communication ⑦ / モダリティ表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（海外で求められるコミュニケーション能力とは p106～118） ・オンライン英会話 ・授業内課題（モダリティ）	授業内で紹介したコーチング英語の特徴を覚え、次回の確認テストの勉強をする。	4時間
第11回	**Sports English Communication ⑧ / モダリティ表現** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ(セカンドキャリア p121～136) ・オンライン英会話 ・授業内課題（モダリティ）	前時に伝えた範囲のボキャブラリーを覚える	4時間
第12回	**Sports English Communication ⑨ / 復文** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（セカンドキャリア p180～188） ・オンライン英会話 ・授業内課題（復文）	前時に伝えた範囲のボキャブラリーを覚える	4時間
第13回	**Sports English Communication ⑩ / 復文** ・小テスト（前回の授業の復習） ・ケーススタディ（セカンドキャリア p180～188） ・オンライン英会話 ・授業内課題（復文）	ワークシートの見直しをしましょう	4時間
第14回	**実技テスト2回目 / スポーツ英語実技の振り返り** グループに分かれて実技テストを行います	実技に備えて、スピーキングの練習をしましょう。	4時間

1-0-3

授業科目名	英語Ⅳ				
担当教員名	亀本　真朱				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、自己紹介や日常会話、海外旅行、スポーツ観戦など様々な場面を取り上げて、その時々で使える会話表現や語彙を学び、リスニング、スピーキング練習を行う。スマートフォンアプリ等を使って自分で英語を上達させる方法も紹介する。また、ウェブサイトやeラーニングアプリなどを積極的に使い、グループワークを行うことで、ITリテラシーを高めると共に、クラスメイトとの協働を通じてコミュニケーション能力を高めることを目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	英語コミュニケーション能力	基礎的な会話力を身につけ、多様な人々と英語でコミュニケーションをとるための自信をつける。
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	ICTを使用したグループワーク	仲間とコミュニケーションをとりながら工夫をして協働できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・eラーニング、反転授業
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度と努力 20%	：	期限内に指示通り課題を提出できているか、積極的に授業参加できているか
ディクテーション・スピーキング課題 40%	：	課題の完成度、授業中に学習したポイントに留意して発音できているかどうか
語彙・表現 40%	：	学習した語彙・表現の定着度

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Raymond Murphy著『 English Grammar in Use 』Cambridge University Press (2019年)
NHK語学テキスト各種

履修上の注意・備考・メッセージ

タブレットやノートパソコンを毎回の授業に必ず持参すること。
グループワークに積極的に参加し、クラスメイトとコミュニケーションをとること。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Course Introduction / Self Introduction	英語での自己紹介を完成させ、練習する。	4時間

	・授業概要、評価方法、授業の進め方についての説明 ・自己紹介アクティビティ		
第2回	**Unit 1 : Nice to meet you (1) [語彙・表現]** ・初めて会った人との会話（挨拶をする、出身地・趣味・職業などについて話す） 語彙・表現の導入	e-learningツールを使ってUnit1の語彙・表現の発音練習、暗記	4時間
第3回	**Unit 1: Nice to meet you (2) [リスニング・スピーキング]** ・初めて会った人との会話（挨拶をする、出身地・趣味・職業などについて話す） 語彙・表現の復習（ゲームアクティビティ） グループワーク（リスニングタスク、スピーキング練習、発表）	Unit 1 についてe-learningツールを使って復習（語彙・表現、リスニング、スピーキング）	4時間
第4回	**Unit 2: How are things? (1) [語彙・表現]** ・普段会う友達・クラスメイトと会話（体調・最近したこと・普段の生活などについて話す） 語彙・表現の導入	e-learningツールを使ってUnit2の語彙・表現の発音練習、暗記	4時間
第5回	**Unit 2: How are things? (2) [リスニング・スピーキング]** ・普段会う友達・クラスメイトとの会話（体調・最近したこと・普段の生活などについて話す） 語彙・表現の復習（ゲームアクティビティ） グループワーク（リスニングタスク、スピーキング練習、発表）	Unit 2 についてe-learningツールを使って復習（語彙・表現、リスニング、スピーキング）	4時間
第6回	**Unit 3 : Where to? (1) [語彙・表現]** ・旅行先での会話（機内・空港・ホテル・タクシー・買い物・レストラン） 語彙・表現の導入	e-learningツールを使ってUnit3の語彙・表現の発音練習、暗記	4時間
第7回	**Unit 3 : Where to? (2) [リスニング・スピーキング]** ・旅行先での会話（機内・空港・ホテル・タクシー・買い物・レストラン） 語彙・表現の復習（ゲームアクティビティ） グループワーク（リスニングタスク、スピーキング練習、発表）	Unit 3 についてe-learningツールを使って復習（語彙・表現、リスニング、スピーキング）	4時間
第8回	**Unit1, 2, 3 review / スポーツに関する語彙・表現①** ・Unit 1、2、3の復習アクティビティ ・スポーツに関する語彙・表現を学ぶ	スポーツに関する語彙・表現①について発音練習、暗記	4時間
第9回	**Unit 4 : スポーツ観戦（球技）(1) [語彙・表現]** ・スポーツ観戦（球技）における会話 語彙・表現の導入	e-learningツールを使ってUnit4の語彙・表現の発音練習、暗記	4時間
第10回	**Unit 4: スポーツ観戦（球技）(2) [リスニング・スピーキング]** ・スポーツ観戦（球技）における会話 語彙・表現の復習（ゲームアクティビティ） グループワーク（リスニングタスク、スピーキング練習、発表）	Unit 4 についてe-learningツールを使って復習（語彙・表現、リスニング、スピーキング）	4時間
第11回	**Unit 5: スポーツ観戦（球技以外）(1) [語彙・表現]** ・スポーツ観戦（球技以外）における会話 語彙・表現の導入	e-learningツールを使ってUnit4の語彙・表現の発音練習、暗記	4時間
第12回	**Unit 5 : スポーツ観戦（球技以外）(2) [リスニング・スピーキング]** ・スポーツ観戦（球技以外）における会話 語彙・表現の復習（ゲームアクティビティ） グループワーク（リスニングタスク、スピーキング練習、発表）	Unit 5 についてe-learningツールを使って復習（語彙・表現、リスニング、スピーキング）	4時間
第13回	**Unit4, 5 review / スポーツに関する語彙・表現②** ・Unit 4、5の復習アクティビティ ・スポーツに関する語彙・表現を学ぶ	スポーツに関する語彙・表現②についてe-learningツールを使って発音練習、暗記	4時間
第14回	**まとめテスト / 最終プレゼンテーション** ・授業内で学習した語彙・表現の総まとめテスト ・最終プレゼンテーション（グループワーク）	総復習・プレゼンテーションの準備	4時間

1-0-2

授業科目名	**コンピューターリテラシーⅢ**				
担当教員名	木村　聡				
学年・コース等	2・3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

実務で表計算ソフトウェアを利用する場合、定型処理を繰り返すことが多く、ぞんざいな作りのスプレッドシートは、馬鹿にならないマンパワーを浪費することがある。幸い、そうしたマンパワーを軽減できる機能も少なくなく、これらを利用しない手は無いだろう。
本講座では、Microsoft Excelの諸機能(データベース、ピボットテーブル、What-If分析、マクロなど)について学ぶ。
なお、本講座は、前提知識として、最低限の関数やセルの使い方の知識を要求することを承知されたい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 . DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	Excelの各種機能。	処理の省力化と自動化。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

本講座では、スプレッドシートに、セルの参照や関数呼び出しの複雑なコードを、なるべく書き込まないで済ませる方法を考える。自然、期末試験や課題も、このラインを沿うものなので、どうか、気楽に、臨んでいただきたい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	70%	： 授業で扱ったテーマに基づいたスプレッドシートの作成方法など。なお、定期試験を予定しているが、講座の進行状況等により、提出課題などで、これに代えることがあり得る。
講義時間内に完了する課題	30%	： 課題への取り組みを独自のルーブリックにより評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
飯田慈子、米沢雄介、岡本久仁子	30時間アカデミック　情報活用　Excel2016/2013	実教出版	2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本講座では、スプレッドシートに複雑なコードを、なるべく書き込まないで済ませる方法を考える。しかし、それでも、それなりのコードは必要になってしまう。セルの絶対/相対参照や、関数で言えば、せめて、COUNTIF関数やVLOOKUP関数辺りは、しっかり使えるようにしておいていただきたい(これらを解説する時間的余裕が無いため)。
なお、マクロ機能は、学生諸君には、異質に思える分野かもしれない。「コンピュータに簡単な依頼を出せば、後はコンピュータが自動でやってくれる」というのは、コンピュータ利用の理想的な形の一つであることは間違いないが、「ユーザの希望通りのものは、作らない限り存在しない」のが原則である。マクロ機能は、これを実現できるものではあるものの、それには相応の知識と技術を要する。本講座では、その入り口を提示するにとどめ、関連事項として、所謂、マクロウィルスについて触れる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　問わず

場所：　G-Mail

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**基礎知識の確認**	集計とカウントの関数を確認	4時間

	オートフィル、セルの絶対/相対参照		
第2回	**スプレッドシートとデータベース** データベースとは	データベース製品について調べてみる	4時間
第3回	**データベースとオートフィルター** オートフィルターとは	オートフィルター機能の操作法を確認	4時間
第4回	**データベースD関数** D関数 クライテリア	論理和と論理積について確認	4時間
第5回	**ピボットテーブルを使ってみよう** ピボットテーブルとは	クロス集計表について確認	4時間
第6回	**ピボットテーブルとグラフ、スライサー** ピボットグラフ スライサー	グラフ機能の使い方を確認	4時間
第7回	**ABC分析** ABC分析とは	ABC分析の必要性について考える	4時間
第8回	**パレート図** パレート図とは	パレート図の利点を考える	4時間
第9回	**What-If分析 1** シナリオ	「シミュレートする」ということについて考える	4時間
第10回	**What-If分析 2** ゴールシーク	「最適解を探す」ということについて考える	4時間
第11回	**マクロを使ってみよう** マクロの記録と呼び出し	「自動化したい処理の整理の仕方」について考える	4時間
第12回	**ピボットテーブルとリレーションシップ** リレーションシップとは	データベースの「正規化」について調べる	4時間
第13回	**関数を見直してみよう** 関数の使い方の工夫について考える	「ややトリッキーな使い方」の程度について考える	4時間
第14回	**全体のまとめ** 補遺と全体の振り返り	スプレッドシートの作成意義を考える	4時間

1-1-3

授業科目名	インターンシップ実習				
担当教員名	各ゼミ担当教員				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	実験・実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本学では、高度な専門知識と実践的な技能を備えた「職業人」養成を目指し、現場での実践体験を行なうインターンシップ実習を重要な科目と位置づけ、必修としている。本実習では、民間企業、公共施設、NPO法人、医療機関、教育現場など、さまざまなスポーツ関連の実習機関における就業体験を通して、自らが専攻するスポーツ領域の理解を深めるとともに、自身の適性を見極め、将来のキャリアに役立つ実践力を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	民間企業、自治体、公共施設、NPO法人、医療機関、教育現場など、さまざまなスポーツ関連の実習機関における就業体験を通して、自らが専攻するスポーツ領域の理解	自らが専攻するスポーツ領域に関する知識と技能を身につける
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	自身の適性を見極め、将来のキャリアに役立つ実践力を身につける能力	将来のキャリアに役立つ実践力を身につける
3 ．DP11.忠恕の心	高度な専門知識と実践的な技能を備えた「職業人」を目指し、現場での実践を体験するための知識	「職業人」としてふさわしい専門知識と技能を身につける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前指導	30%	： 全体事前指導レポート16点、目標設定シートの内容14点で評価する。
実習	40%	： 実習評価報告書20点、日誌内容20点で評価する。
事後指導	30%	： 全体事後指導レポート16点、インターンシップ実習レポート14点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

インターンシップ実習は２年次からの事前研修を含め、事前指導、実習、事後指導で構成されている。事前研修、事前指導を欠席した学生は３年次での履修の意思がないものとみなす。実習先の検索や手続きなどに関しては、それぞれのゼミ担当教員とよく相談すること。また、配付した「インターンシップ実習ガイド」を熟読のうえ、実習の流れを把握し、各種手続き書類を提出すること。

現場での就業体験だけでなく、事前、事後指導を含めて「２単位」の科目である。日ごろの学びや事前指導を実習に活かし、実習での経験を今後の大学での学びに活かすように、心掛ける。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前指導１：手続きについて（4月）** 現場での就業体験に必要な基礎的知識・スキルの習得のためのプログラム。 ・実習先の検索方法や確認などを行う。	実習機関を探索し、実習先に求められる人材像を把握する。自分の習得すべきことを知り、事前指導を通じて身につける。	2時間
第2回	**事前指導２：実習現場で求められるもの（5月）** 現場での就業体験に必要な基礎的知識・スキルの習得のためのプログラム。 ・「実習現場で求められるもの」について業種や職種の違いを理解し、自分には何が求められており、何ができるか、何をするのかを明確にする。	自分の興味ある職業、今は興味がなくても知見を広げるために様々なスポーツ関連の職業について調べる。	2時間
第3回	**事前指導３：社会人マナー・守秘義務（6月）** 現場での就業体験に必要な基礎的知識・スキルの習得のためのプログラム。 ・社会人としてのマナー（電話のかけ方、とり方、服装について等）、守秘義務（SNSの使い方の注意含む）について確認する。	日ごろよりマナーや守秘義務について考え、実践するよう心がける。	2時間
第4回	**事前指導４：実習前のまとめ（7月）** 現場での就業体験に必要な基礎的知識・スキルの習得のためのプログラム。 ・もう一度自分のできることやすべきことをリストアップし、最終準備を行う。今後の流れについても理解する。	実習を通じて学ぶことを整理する。	2時間
第5回	**実習（8月～9月）** 実習機関にて就業体験を行うプログラム。 自らの専攻するスポーツ領域の理解を深める。将来のキャリアに結びつけるよう実践力を身につけ、自身の適性を見極める。 夏期・冬期・春期休業中に2週間以上（実日数10日間以上・70～80時間程度（70時間を下回らない））行う。なお、別々の実習先で５日間の実習を２回行い、合わせて10日間とすることもできる。	実習期間中は毎日、日誌をつけ当日の反省を行い、翌日の仕事の改善へつなげていく。	2時間
第6回	**事後指導１：実習の振り返り（10月）** 就業体験をもとに学んだ知識やスキルをゼミやコースの学生と共有し、自己の職業観を明確にするプログラム。 ・ゼミまたはコース別 ・「ゼミ事後指導（目標設定シートを用いた実習内容の振り返り）」	実習内容を振り返り、ディスカッションを通じ、卒業までの学びを整理する。また、自身のキャリアプランについても検討する。	2時間
第7回	**事後指導２：職業観の明確化（10月～1月）** 就業体験をもとに学んだ知識やスキルをゼミやコースの学生と共有し、自己の職業観を明確にするプログラム。 ・「全体事後指導①～④（詳細は決定次第連絡します）」	＊	2時間

1-1-1

授業科目名	テーピング・マッサージ法				
担当教員名	片淵・森宜裕				
学年・コース等	1	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	滋賀県競技力向上対策本部医科学専門スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

スポーツマッサージおよびテーピングの理論と実践を通して，スポーツ活動を継続する上で必要なコンディショニングの手法を習得することを目的とする．スポーツマッサージでは，解剖学的知識を活かし，部位に合わせた手技を習得する．また，互いに実施前後の感覚や動きを評価し，体感することで身体のケアの重要性を学ぶ．テーピングでは，スポーツに関連した外傷として多くみられる足関節内反捻挫を再発予防するための方法を習得する．練習を重ねることで，解剖学的知識を応用し，しわなくテーピングが巻けるようになる．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	身体の解剖学的知識およびスポーツ傷害の理解	負担がかかり，ケアが必要な筋の部位を判別することができる．
2 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	部位に合わせたスポーツマッサージの応用と足関節内反捻挫再発予防のテーピングの実践	適切なスポーツマッサージができることに加え，テーピングを巻くことができる．
3 ．DP11.忠恕の心	相手に合わせた対応	常に相手とコミュニケーションをとり，相手を思いやることができる．

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

・理論試験またはテーピングの実技試験のいずれかが６割未満の場合は不可とする．
・原則として毎回出席すること．規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします．

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
理論試験	45%	： スポーツマッサージおよびテーピングの目的，効果，禁止事項等に関する理解度を評価する．
テーピング実技試験	50%	： 足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングを，所定の時間内に正しく巻くことが出来るかどうかについて評価する．
授業参加度	5%	： 授業のルールを遵守し，実習を行う相手に対して愛護的に手技を実践しているかについて評価する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業に必要な物（タオルや半パンツ，テーピング等）は必ず各自で準備をする．忘れた場合は，実習に参加できなくなるため確認をして参加すること．

また，授業で使用するテーピングは，別途自費（￥2,000プラス必要に応じて)で購入する．実技試験では，テーピングの種類で評価に差が出ないよう，授業で指定したテーピングを使用すること．購入の時期および方法は，授業内およびポータルを用いて通達する．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスとマッサージ理論** マッサージおよびスポーツマッサージの基礎理論について，目的，生理的作用，禁忌を理解する．また基本手技の名称と特徴について，手部および前腕部を用いて，基本手技および手順の確認と相手にとって最適な圧を学ぶ．	マッサージの基礎理論および基礎手技を復習する．	4時間
第2回	**タイトル：スポーツマッサージ実習（下腿）** 下腿の後面の柔軟性を評価し，筋がリラックスできる姿勢をとり，片側はスポーツマッサージのみ実施，反対側はまずストレッチをした後にスポーツマッサージをして比較する．続いて，下腿前面のマッサージを実施する．	下腿のスポーツマッサージおよびストレッチを復習する．	4時間
第3回	**タイトル：スポーツマッサージ実習（大腿後面・外側面）** 大腿後面の主要な筋の名称および付着部の確認と，柔軟性の評価を行った後，片側はスポーツマッサージのみ実施，反対側はストレッチをした後にスポーツマッサージをして比較する．続いて，同様に大腿外側面の評価およびマッサージを実施する．	大腿後面と外側面のスポーツマッサージおよびストレッチを復習する．	4時間
第4回	**タイトル：スポーツマッサージ実習（大腿前面・内側面）** 大腿前面の主要な筋の名称および付着部の確認と，柔軟性の評価を行った後，片側はスポーツマッサージのみ実施，反対側はストレッチをした後にスポーツマッサージをして比較する．続いて，同様に大腿内側面の評価およびマッサージを実施する．	大腿前面と内側面のスポーツマッサージおよびストレッチを復習する．	4時間
第5回	**スポーツマッサージ実習（殿部・腰背部）** 殿部と腰背部は自分では手が届かないところであり，スポーツマッサージを受けることでリラックス効果も高い．解剖学的知識を応用し，疲労が蓄積しやすい部位に適切な手技を行う．	臀部と腰背部のスポーツマッサージを復習する．	4時間
第6回	**スポーツマッサージ実習（上肢）** 上肢の主要な筋の名称および付着部の確認と，柔軟性の評価を行った後，仰臥位で片側はスポーツマッサージのみ実施，反対側はストレッチをした後にスポーツマッサージを行う．続いて，側臥位で同様にマッサージを実施し，上反対側は上肢のペアストレッチを行い柔軟性の評価を行う．	上肢のスポーツマッサージを復習する．	4時間
第7回	**効果的なウォーミングアップ・セルフケア** スタティックなストレッチングを除いた，動きながら行うウォーミングアップを実践する．また，ポールやボールなどの手軽に入手できる道具を用いたセルフケアの方法を実践する．	実習したウォーミングアップやケアを復習する．	4時間
第8回	**テーピング理論** テーピングの目的，効果，注意事項およびテーピングの種類や基本的な巻き方などの理論を学ぶ．実技試験のデモンストレーションを行う．	テーピングの理論を復習する．	4時間
第9回	**足関節のテーピング実習（アンダーラップ）** 皮膚に直接テーピングがかからないように保護する役割であるアンダーラップの巻き方を習得する．薄く，しわなく，たるみなく，隙間なく巻くことを目指し，アンダーラップの持ち方，巻く順序，分量に注意して実施する．	正確にアンダーラップが巻ける様に，持ち方，順序，分量に注意して繰り返し練習する．	4時間
第10回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（手順前半）** 足関節内反捻挫で損傷されることが多い靭帯の名称と場所を確認する．最初にアンダーラップを巻いた後，コットンテープを用いて，足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングを行う．相手の姿勢に注意し，しわなく，たるみなく，隙間なく巻くことと方向に注意する巻き方を学ぶ．それぞれの名称であるアンカーテープ，スターアップ，ホースシューを学ぶ．	正確にアンダーラップが巻ける様にし，授業で行ったコットンテープの順序を復習する．	4時間
第11回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（手順後半）** アンダーラップおよび前回に巻いたテーピングを復習し，フィギュアエイトをプラスする．フィギュアエイトをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために必要な解剖学的な要因を理解し，練習する．	正確にアンダーラップが巻ける様にし，授業で行ったコットンテープの順序と方向を復習する．	4時間
第12回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（完成）** アンダーラップおよびテーピングをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために練習する．スターアップとフィギュアエイトは方向に注意する．	正確にアンダーラップおよびコットンテープが巻けるよう復習する．	4時間
第13回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（予行）** 時間内にアンダーラップおよびテーピングをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために練習する．実技試験のポイントについて解説する．	時間内に正確にアンダーラップおよびコットンテープが巻けるよう復習する．	4時間
第14回	**足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングのまとめと実技試験** 足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングの実技試験を行う．	試験での完成度を自己評価し，良かった点および不足していた点を振り返る．	4時間

1-1-3

授業科目名	**武道論**				
担当教員名	林　弘典				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005年～現在）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

武道は、武士道の伝統に由来する我が国で体系化された武技の修錬による心技一如の運動文化であり、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道を修錬して心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である。本授業では、武術、武道、スポーツの目的を比較することによって、「武道とは何か」について学ぶ。また、宗教と修行の関係から武道における「自分と向き合う」意味について学ぶ。さらに、9種類の武道について学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	千日回峰行（比叡山）	酒井雄哉氏の言動から武道の本質である「自分と向き合う」意味を理解できる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	剣道八段戦	神崎浩氏と有馬光男の言動から武道の目的を深く理解できる。
3 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	武道憲章	武道が心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養うことを理解できる。
4 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	こども武道憲章	武術、武道、スポーツの目的を理解できる。
5 ．DP11.忠恕の心	武道の理念	武道が国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道であることを理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート	40%	： 第1・2・3・5・7回の講義後に提出するレポートについて（8点×5回）、内容の妥当性や論理的構成を5段階で評価する。
発表資料	12%	： 第9・11・13回の作成した内容について5段階で評価する（4点×3回）。
発表資料	48%	： 第4・6・8・10・12・14回の発表における分かりやすさ質疑応答の明確さを5段階で評価する（8点×6回）。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1．武道を知る：田中　守・藤堂良明・東　憲一・村田直樹（不昧堂出版）
2．実践柔道論（小俣幸嗣、メディアパル）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、武道の種類や統括団体について** シラバスを確認しながら、授業の進め方や取り組み方について理解する。武道の種類や統括団体について学習する。	シラバスを熟読する。武道の種類や統括団体について調べる。	4時間
第2回	**武術、武道、スポーツの目的について** 武道の理念、武道憲章、こども武道憲章を通して、武術、武道、スポーツの目的について学習する。	武術、武道、スポーツの目的、武道の理念、武道憲章、こども武道憲章について調べる。	4時間
第3回	**スポーツの価値について** オトナの学校完全版　武井壮【オトナの！】を視聴し、スポーツの価値について学習する。	武井壮氏について調べる。	4時間
第4回	**スポーツの価値についての発表・討論** スポーツの価値に関するレポートを発表し、討論する。	スポーツの価値について調べる。	4時間
第5回	**武道の価値について** かんさい熱視線「極めて　なお磨く―剣道八段・最高峰の戦い―」を視聴し、武道の価値について学習する。	全日本剣道演武大会、剣道八段の神崎浩氏と有馬光男氏について調べる。	4時間
第6回	**武道の価値についての発表・討論** 武道の価値に関するレポートを発表し、討論する。	武道の価値について調べる。	4時間
第7回	**武道と修行について** NHK特集「行　比叡山千日回峰」を視聴し、武道と修行の関係について学習する。	比叡山千日回峰行、酒井雄哉氏について調べる。	4時間
第8回	**武道と修行についての発表・討論** 武道と修行の関係に関するレポートを発表し、討論する。「自分と向き合う」について学習する。	武道と修行の関係、「自分と向き合う」について調べる。	4時間
第9回	**武道（柔道、剣道、弓道）の発表準備** 武道（柔道、剣道、弓道）の発表資料を作成する。	武道（柔道、剣道、弓道）について調べる。	4時間
第10回	**武道（柔道、剣道、弓道）の発表** 武道（柔道、剣道、弓道）について発表する。	武道（柔道、剣道、弓道）の発表練習をする。	4時間
第11回	**武道（相撲、なぎなた、空手）の発表準備** 武道（相撲、なぎなた、空手）の発表資料を作成する。	武道（相撲、なぎなた、空手）について調べる。	4時間
第12回	**武道（相撲、なぎなた、空手）の発表** 武道（相撲、なぎなた、空手）について発表する。	武道（相撲、なぎなた、空手）の発表練習をする。	4時間
第13回	**武道（合気道、少林寺拳法、銃剣道）の発表準備** 武道（合気道、少林寺拳法、銃剣道）の発表資料を作成する。	武道（合気道、少林寺拳法、銃剣道）について調べる。	4時間
第14回	**武道（合気道、少林寺拳法、銃剣道）の発表** 武道（合気道、少林寺拳法、銃剣道）について発表する。	武道（合気道、少林寺拳法、銃剣道）の発表練習をする。	4時間

1-1-2

授業科目名	**スポーツ統計学**				
担当教員名	山本　達三				
学年・コース等	2	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究や課題レポート，種々の報告書では，データを統計的に検定し具体的な論拠（エビデンス）を挙げて説明する必要がある．統計学が適用されている実例を多数紹介しながら理解を深める．頻度主義的な統計学の基本的立場を踏まえ，その基礎理論を概観する．本授業では，①卒業研究や課題レポート，種々の報告書で論拠（エビデンス）を示すために必要な統計解析の基礎知識を身につける，②統計学の基礎を学び理論を知る，③基本統計量，相関係数，t検定，χ二乗検定，１要因分散分析・2要因分散分析，ノンパラメトリック検定，因子分析，重回帰分析，共分散構造分析を理解し実際に適用する方法を習得する，ことなどを目標とした．内容的には各コースの卒業研究でコース代表に選ばれるような高度な内容を展開する．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	統計解析に関する基礎的知識，データセットを作成する力，データ分析力，統計出力を理解する力	統計解析の基礎知識を習得できる，データ処理に沿ったデータセットを作成できる，研究計画に沿ったデータ分析を行うことができる，出力した統計出力を読み解くことができる．
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	様々なデータを扱いデータに対応した解析方法を習得する力、その意味を検討解釈する力	データセットの型を理解し、目的に合致した統計手法を選択できる。
3 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	自分で工夫し課題に対して真剣に取り組む力	各回の課題の解法を積極的に学習し、得た知識を積極的に活用して課題の回答を導くことができる
4 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	各回の新しい解法について、自ら取り組み自らの力でやり抜く力	課題に際し、自分の力で解決方法を探索し解答することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

学習した知識を問う期末テストを実施し評価する．資料の持ち込みは，手書き資料A4一枚のみ可（コピー不可）とする．

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題 40%	：	毎回の確認テストにおいて，正しく入力できているか，計算式は妥当か，算出された数値があっているか，統計情報を正しく解釈できているか，を評価する．
期末テスト 60%	：	統計解析の基礎知識，統計学の基礎理論，相関係数，t検定，χ二乗検定，分散分析，ノンパラメトリック検定，因子分析，重回帰分析，共分散構造分析の理解と適用方法について，適切に理解しているかを評価する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

健康・スポーツ科学のための統計解析入門，佐藤進，杏林書院．
超初心者向け，SPSS統計解析マニュアル，米川和雄，北大路書房．
SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析，小塩真司，東京図書．

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3限

場所： B311

備考・注意事項： 事前に下記のメールにてアポイントを取ること.
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、統計学の基礎、統計ソフトの紹介** 卒業研究や課題レポート、種々の報告書では、データを統計的に検定し具体的な論拠（エビデンス）を挙げて説明する必要がある。統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深める。統計学の基本的立場を踏まえ、その基礎理論を概観する。	参考図書の熟読	4時間
第2回	**変数と尺度　ー質的データと量的データー** 計測されたデータは、質的データと量的データに大きく分類され、さらに名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度の４つに分類される。これらの分類ごとに適用できる統計解析手法は異なる。今回は、データの種類とその性質、適用する統計解析手法、データ計測の際のコツについて学習する。	変数と尺度の理解を深める	4時間
第3回	**基本統計量　ー平均値と中央値ー** 集団の分布特性を示す平均値、標準偏差、最大値、最小値、中央値、最頻値、平均ランクなどの基本統計量について解説する。平均値の示す意味と落とし穴、平均値と中央値の違い、などについて学習する。	基本統計量の理解を深める	4時間
第4回	**分散　ー正規分布と標準偏差ー** 多くの統計解析手法が前提条件とする正規分布の特性について解説する。平均値と個々のデータの差である偏差、分布のばらつきを示す不偏分散、標準偏差（不偏標準偏差、母集団標準偏差）について学ぶ。実際の計算手順も理解する。	不偏分散や標準偏差の理解を深める	4時間
第5回	**相関係数　ー散布図、相関、単回帰分析ー** 散布図を用いて２つの変数の関連性について学習しながら、関連性の指標である相関係数について解説する。種々のスポーツ現象からデータを抽出し相関係数（積率相関、順位相関、偏相関）を求める方法を学習する。さらに、単回帰分析、回帰直線、決定係数について解説する。	相関係数の理解を深める	4時間
第6回	**t検定①　対応のないt検定（独立サンプルのt検定）** ２つのグループ間に平均値の差があるかを検定する「t検定」を学習する。特に、グループ間で対象の異なる際に用いる「対応のないt検定」を学習する。(等分散の検定、student's t、weich's t)。効果量についても学ぶ。	対応のないt検定の理解を深める	4時間
第7回	**t検定②　対応のあるt検定** 前回に続き「t検定」を学習する。特に、グループ間で対象が同一である際に用いる「対応のないt検定」を学習する。効果量についても学ぶ。	対応のあるt検定の理解を深める	4時間
第8回	**ノンパラメトリック検定(Mann-WhitneyU検定、Wilcoxonの符号付き順位検定)** 正規性の検定を解説した上で、正規分布であるとみなせない場合の検定方法を学ぶ。効果量についても学ぶ。	ノンパラメトリック検定の理解を深める	4時間
第9回	**１要因分散分析（被験者間、被験者内）と多重比較、Kruskal-Wallis検定、Friedman検定** 正規性の検定を実施した上で、3群の平均値の比較（１要因分散分析）と正規分布とみなせない場合のノンパラメトリック検定で、対応しない場合のKruskal-Wallis検定、対応する場合のFriedman検定を学ぶ。効果量についても学ぶ。	3群以上の平均値・平均ランクの比較の理解を深める	4時間
第10回	**２要因分散分析（主効果と交互作用、混合計画）** 対応あり、対応なし、両者を含んだ場合の２つの独立変数におけるいくつかの水準の相違を検討する仮説を設定した際の分析方法を学ぶ。効果量についても学ぶ。	主効果と交互作用への理解を深める	4時間
第11回	**χ二乗検定　ークロス集計表と期待値ー** 名義尺度のデータを対象に度数の差があるかを検定するχ二乗（カイジジョウ）検定について学習する。クロス集計表の作成手順、度数、期待値、残差分析について学ぶ。効果量についても学ぶ。	χ2検定の理解を深める	4時間
第12回	**因子分析と信頼性分析（クロンバックのα、平均分散抽出、構成概念信頼性）** 心理学を中心に用いられる因子分析について、特に構成概念の定義と潜在変数および観測変数について解説する。さらに、因子分析を包含する構造方程式モデリングについても紹介するとともに、尺度の信頼性（内的整合性）、妥当性（収束的妥当性、弁別的妥当性）についても学ぶ。	因子分析、尺度の信頼性・妥当性への理解を深める	4時間
第13回	**重回帰分析と構造方程式モデリング（１）　ー潜在変数と観測変数の理解ー** 重回帰分析を実施する際の注意点、最低サンプルサイズ、相関と因果関係の違い、多重共線性などを学ぶ。発展的にSEM（構造方程式モデリング）についても学ぶ。	構造方程式モデリングの理解を深める	4時間
第14回	**重回帰分析と構造方程式モデリング（２）　ー潜在変数と観測変数の理解ー** 重回帰分析の発展形である、構造方程式モデリングについて学ぶ。モデルの適合度を理解する。	構造方程式モデリングの理解を深める	4時間

1-8-3

授業科目名	**スポーツ情報戦略専門実習Ⅰ**				
担当教員名	スポーツ情報戦略コース教員				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実験・実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ情報戦略において求められるのは、スポーツ現象を観察し、正しく解釈するための「視点」を養うことである。また、そこから導き出されるいくつかの特徴を整理し、的確に表現できる「表現力」を有し、そして、再びスポーツ現場にわかりやすくフィードバックする「実践力」を有することであるといえる。スポーツ情報戦略専門実習Iでは、担当教員による専門的な授業を通して、専門分野に関するより高度な知識を学修し、上記のような能力の習得を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツ情報戦略の意義・意味	情報戦略（インテリジェンス）活動の意義・意味について理解する。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツにおける情報戦略（インテリジェンス）活動	情報戦略（インテリジェンス）活動の内容とその手法について理解する。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツフィールドへの有意義なフィードバック法	情報戦略（インテリジェンス）活動により得られた内容をスポーツフィールドにフィードバックする手法を理解し、実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
成果報告書 50%	：	授業内容を踏まえた論述ができていれば50点とし、重大な誤りや不足があれば10点とする。
プレゼンテーション 50%	：	成果報告書を踏まえた発表であれば30点とし、そこに独自の見解や具体例等が示され、分かりやすい内容であれば20点を加え、重大な誤りや不足があれば10点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
また、スポーツ情報戦略専門実習Ⅱとの連結についても配慮しなければならない。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。
授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各担当者の時間を確認すること

場所： 各担当者の研究室

備考・注意事項： 予めアポイントをとってから、各担当者の研究室に訪問すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ情報戦略とは？（スポーツインテリジェンスの構築）** 本授業のオリエンテーションを行う。特に、具体的な研究方法の取得を目指す授業であることの解説を行う。	授業の内容を踏まえ、スポーツ情報戦略の基礎的知識について、ノートにまとめておく。また、スポーツインテリジェンスについて、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第2回	**グループ分けとグループ毎のテーマ設定** グループ学習を中心的に行う。また、グループ毎にテーマを設定し、それを実現するための課題をいくつかを学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツインテリジェンス構築について、ノートにまとめておく。また、グループ学習を促進する手法について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第3回	**スポーツ情報戦略における「目」とは？** 研究テーマを設定する場合、スポーツフィールドで実際に生じている現象のどの部分に着目すべきかについて学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツ情報戦略における「目」について、ノートにまとめておく。また、VTR・観察法・インタビューなどのデータ収集法について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第4回	**様々なデータ収集法（VTR・観察法・インタビューなど）** スポーツフィールドをより良く変えて行くためのデータ収集法について学修する。	授業の内容を踏まえ、VTR・観察法・インタビューなどのデータ収集法について、ノートにまとめておく。また、スポーツデータの解釈について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第5回	**スポーツデータの解釈** スポーツデータを解釈するための方法を解説する。特に、質的研究の立場から、有益な仮説を導きだすための手法を学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツデータの解釈について、ノートにまとめておく。また、スポーツ現場を正しく理解するための基礎的知識について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第6回	**スポーツ現場を正しく理解するために** スポーツ現場を正しく理解するためには、スポーツを捉える観点、すなわち認識論が問われることになる。どのような観点からスポーツ事象を捉えるべきかについて学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツ現場を正しく理解することについて、ノートにまとめておく。また、スポーツ情報戦略における「口」について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第7回	**スポーツ情報戦略における「口」とは？** スポーツデータを高次の情報として加工し、それをスポーツ現場に正しくフィードバックするためには、得られた成果をどのように伝えるのかといった観点からのアプローチが求められる。これについて詳しく学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツ情報戦略における「口」について、ノートにまとめておく。また、様々な知識形成法（特に、ブレインストーミング）について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第8回	**様々な知識形成法（ブレインストーミング）** 優れた知見を構造的に解釈するために、ブレインストーミングは有効な思考法といえる。これについて詳しく学修する。	授業の内容を踏まえ、様々な知識形成法（ブレインストーミング）について、ノートにまとめておく。また、２水準分析法について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第9回	**２水準分析法** データを分析する際、グローバルな視点からのアプローチを書かすことはできない。ここでは、両面価値的な観点から分析をする方法論について学修する。	授業の内容を踏まえ、２水準分析法について、ノートにまとめておく。また、スポーツデータを有益に構成することについて、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第10回	**スポーツデータを有益に構成するために** 研究成果をフィードバックするために、プレゼンテーションは不可欠といえる。その際、どのような構成によって伝えるのかは重要な要素となる。これについて詳しく学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツデータを有益に構成することについて、ノートにまとめておく。また、スポーツ情報戦略における「手」について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第11回	**スポーツ情報戦略における「手」とは** スポーツフィールドをより良く変えていくために、スポーツ指導支援の立場から学修する。	授業の内容を踏まえ、スポーツ情報戦略における「手」について、ノートにまとめておく。また、様々なフィードバックの方法（映像や図示によるフィードバック）について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第12回	**様々なフィードバックの方法（映像や図示によるフィードバック）** 様々なフィードバックの方法について学修する。また、映像や図示など、アトラクティブな方法の具体例を学修する。	授業の内容を踏まえ、様々なフィードバックの方法（映像や図示によるフィードバック）について、ノートにまとめておく。また、情報のわかりやすい提示の仕方について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間

第13回	**スポーツインテリジェンスを形成するために** スポーツインテリジェンスを形成するためには、様々な情報をひとつのストーリーとして構成し、伝える必要がある。本授業における具体的な作業は最終段階になるため、受講生の学修の進捗状況をチェックし、必要でれば軌道修正を行う。	授業の内容を踏まえ、スポーツインテリジェンスについて、ノートにまとめておく。また、これまでに作成したノートを振り返り、予習しておく。	1時間
第14回	**まとめ（各グループの成果発表）** 本授業のまとめとして、各グループの成果発表を行う。	授業の内容を踏まえ、グループ発表から学んだことについて、ノートにまとめておく。	4時間

1-8-3

授業科目名	**スポーツ情報戦略専門実習Ⅱ**				
担当教員名	スポーツ情報戦略コース教員				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実験・実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ情報戦略において求められるのは、スポーツ現象を観察し、正しく解釈するための「視点」を養うことである。また、そこから導き出されるいくつかの特徴を整理し、的確に表現できる「表現力」を有し、そして、再びスポーツ現場にわかりやすくフィードバックする「実践力」を有することであるといえる。スポーツ情報戦略専門実習IIでは、専門実習Iで学修した上記能力を実際にスポーツフィールドで活かすことができるよう、フィードバック能力を高めるための実習を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ情報戦略の意義・意味	情報戦略（インテリジェンス）活動の意義・意味について理解する。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツにおける情報戦略（インテリジェンス）活動	情報戦略（インテリジェンス）活動の内容とその手法について理解する。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツフィールドへの有意義なフィードバック法	情報戦略（インテリジェンス）活動により得られた内容をスポーツフィールドに有意義にフィードバックする手法を理解し、実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
成果報告書	50%	： 授業内容を踏まえた論述ができていれば50点とし、重大な誤りや不足があれば10点とする。
プレゼンテーション	50%	： 成果報告書を踏まえた発表であれば30点とし、そこに独自の見解や具体例等が示され、分かりやすい内容であれば20点を加え、重大な誤りや不足があれば10点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
また、スポーツ情報戦略専門実習Ⅰとの連結についても配慮しなければならない。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。
授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各担当者の時間を確認すること

場所： 各担当者の研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（科学的分析とフィードバックの方法）** 本授業のオリエンテーションを行う。本授業の特質から、スポーツ情報戦略専門実習Iとの兼ね合いが重視されることを学修する。	科学的分析とフィードバックの方法について、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第2回	**グループ分けとテーマ設定** グループ学習を重視することから、グループ活動を通じて研究テーマを設定し、研究調査活動を展開することを学修する。	課題研究のテーマを自らが選定し、具体的な研究が遂行できるよう、予め関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第3回	**実験・調査の実施（1）：実験・調査の企画** グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を企画する。	スポーツフィールドをより良く変えるための基礎的資料となるような研究を企画するために、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第4回	**実験・調査の実施（2）：実験・調査の実施** グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を遂行する。	授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の個別に指導を受ける。特に、スターチアップの段階では、実験・調査のマイナーチェンジを立案することも必要となる。	1時間
第5回	**実験・調査の実施（3）：実験・調査の改善と再実施** グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を遂行し、必要であれば、方法の改善などの軌道修正を行う。	授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、、実験・調査においてデータの分析・解析方法について、関連図書を活用し、予習しておく。	1時間
第6回	**スポーツデータの分析・解釈法（1）：方法論の理解** 得られたデータを分析／解析するための方法論を学ぶ。	授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の指導を受ける。特に、分析・解釈方法については、データの序列や優位性に配慮しつつ進める必要がある。	1時間
第7回	**スポーツデータの分析・解釈法（2）：データ分析の実施** 得られたデータを分析／解析するための方法論を駆使し、実際にデータの分析手順や注意事項を学ぶ。	授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、分析・解釈方法には、しっかりとした方法論が背景にあることから、関連図書を利用して、予習しておく。	1時間
第8回	**スポーツデータの分析・解釈法（3）：データ分析の改善と再実施** 得られたデータを分析／解析するための方法論を駆使し、必要であれば、分析方法の変更や改善をはかる。	授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、有益な知見を導き出すために、関連図書を利用し、予め予習しておく。	1時間
第9回	**スポーツインテリジェンスの形成法（1）：情報の加工** 分析結果を有益な情報へと加工する。	研究成果を見える化するために、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、分析結果を有益な情報へと加工するために、アドバイスを受ける。	1時間
第10回	**スポーツインテリジェンスの形成法（2）：ディスカッション** 分析結果を有益な情報へと加工し、グループ内外での意見交換を行い、改善をはかる。	研究成果を見える化するために、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、導き出された知見については、常に再考する立場を採ることが重要であり、オープンエンドな思考を心がける。	1時間
第11回	**スポーツインテリジェンスの形成法（3）：発表と質疑応答** スポーツ現場への提言を行うため、分析結果を発表し、質疑応答を展開する。	研究成果を見える化するために、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、オープンエンドな発想から生まれた知見を有益な知見として加工するために、関連図書を利用し、予習しておく。	1時間
第12回	**スポーツインテリジェンスのフィードバック（1）：精緻化と提言** スポーツ指導支援の立場から、研究成果を精緻化し、有効な提言を行う。	スポーツ指導支援の立場から、研究成果を精緻化し、有効な提言を行うために、授業担当者の個別指導を受ける。特に、フィードバックの内容を点検しておく。。	1時間
第13回	**スポーツインテリジェンスのフィードバック（2）：実践場面の議論と理解** 実際のスポーツ現場での有効性、機動性など、本授業で学んだことが実践場面でどのように活用される可能性があるのかを議論し、理解を深める。	スポーツ指導支援の立場から、研究成果を精緻化し、有効な提言を行うために、授業担当者の個別指導を受ける。特に、スポーツフィールドへのフィードバックは、多くの知見を提供するよりも、焦点を絞った形でのフィードバックが求められるため、導き出された知見を項目化してく。	1時間

第14回	**スポーツインテリジェンスのフィードバック（3）：理解の深化と成果発表** 既存の研究成果を概観し、本授業で学んだことについて、さらに理解を深める。 また、本授業のまとめとして、研究成果を発表し、その是非を問う機会を設け、本授業の学びを深める。	スポーツ指導支援の立場から、研究成果を精緻化し、有効な提言を行うために、授業担当者の個別指導を受ける。特に、現場へのフィードバックを形成すると同時に、今後の課題や展望についても検討しておく。	1時間

1-2-3

授業科目名	キャンプマネジメント				
担当教員名	橋本　和俊				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育キャンプと呼ばれる「組織キャンプ」について取り上げる。実際のキャンプの企画観点や運営体制、様々な自然環境の活用などプログラムデザイン・マネジメントデザインを中心に実際のキャンプの事例について学習する。また、実際にキャンプの企画案を作成し、プレゼンテーションにて発表を行うことで、他者の意見や疑問点から、企画の問題点や工夫点についての理解を深める。そして、自身のキャンプの運営・指導体制や自然環境の理解、キャンプの広報の仕方や評価の方法について学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	活動におけるリスクマネジメント	自然環境やそのアクティビティに伴うリスクマネジメントについて説明できる
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	様々な自然環境を活用したキャンプの理解	多用な自然環境を活用したキャンプの事例を参考にプログラムデザイン、マネジメントデザインができる
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	キャンプの企画・立案	キャンプなどの事例を取り上げ、自身の考える企画やその際に必要な運営について理解できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プログラムデザイン	10%	： 講義の中でキャンプのプログラムを企画・立案し評価する
マネジメントデザイン	20%	： 講義の中でキャンプのマネジメントについて理解度を評価する
授業内小テスト	30%	： 講義の終盤にキャンプのマネジメントに関する知識について評価する
授業内もしくは授業外レポート課題	40%	： キャンプの施設・運営やリスク管理に関するレポートをまとめ、評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「キャンプディレクター必携」日本キャンプ協会
「キャンプの積み木」日本キャンプ協会
「ザ・キャンプ　その理論と実際」：松田稔、創元社、1978年
「キャンプ指導者入門」日本キャンプ協会
その他、授業中に紹介します

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

［メッセージ］
キャンプの基礎になる内容ばかりです。どのようにキャンプを企画し、運営していくかのノウハウを自身のスタッフ経験や指導経験を基に学びます。演習形式の授業も行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業のオリエンテーションおよびキャンプの発祥** キャンプの語源は？自然体験活動とキャンプの関係は？教育キャンプ・組織キャンプの歴史について、アメリカ合衆国、ヨーロッパ、日本について概観する。	自身のキャンプ体験について、どんな内容であったかレポートにまとめる。	4時間
第2回	**キャンプ組織と指導者養成** 教育キャンプ、組織キャンプについて、目的を達成するために必要な組織内の役割やシステムを知る。 民間の自然体験活動団体の役割に応じた指導者養成の内容を知る。	キャンプ指導者の役割を確認し、自然体験活動の指導者養成団体について調べる。	4時間
第3回	**対象者理解** 対象となる青少年、幼児、中高年、障害者（児）の特性を知ると共に、様々なキャンプの実践を紹介する	幼児キャンプ、高齢者キャンプ、障害児キャンプなどの多様なの実践の取り組みについて学習する。	4時間
第4回	**キャンプの企画** 企画に必要な６Ｗ２Ｈ１Ｓについて、フレッシュマンキャンプについて概説し、自分の興味関心のある目的、対象でデザインをしてみる。	自身のキャンプ経験をの６Ｗ ２Ｈ １Ｓについてレポートにまとめる。	4時間
第5回	**装備と食料** キャンプの企画の中でもマネジメントの大きな部分である装備、食料（食事）について、その内容と留意点を概説する。	１泊２日のキャンプを想定し必要な個人装備、班装備、団体装備についてリストを作成する。	4時間
第6回	**キャンプの安全管理と健康管理** キャンプ、自然体験活動における安全管理、安全教育の観点の具体的な内容を概説する キャンプの健康面、衛生面から事例を基に説明を加えていく。	アウトドアでの事故が発生する環境要因、人的要因をまとめる。また、自然界に潜む危険要因について実体験や過去の事例を基にまとめる。	4時間
第7回	**キャンプでの危険、ＫＹＴ・ＲＭＥ** キャンプ、自然体験活動における指導者の危険予知責任、危険回避責任の内容を概説する 危険予知トレーニング、リスクマネジメントエキササイズから危険に対する能力をスキルアップする。	今までのアウトドアでの体験でのヒヤリハット体験をまとめる。	4時間
第8回	**キャンプ中の事故と法的責任** キャンプ、自然体験活動における事故事例を概説する。 刑事判例、民事判例から指導者の責任能力、責任の具体的な内容を知る。	アウトドアや野外スポーツ中の事故での判例を１事例について調べ、まとめる。	4時間
第9回	**キャンプと施設** キャンプ、自然体験活動で使用される施設について、民間、公立、国立の施設の現状を概説する。	野外スポーツの種類と多様なフィールドを活用した施設について調べる。	4時間
第10回	**自然環境に応じたマネジメント** LNT（Leave No Trace）の理念を中心に、自然環境へ出向く際にどのような計画を行えばよいか概説する。その際、グループによるLNTの7原則を用いた発表を行う。	LNTの実践を調べ、どのように運営が行われているか調べる。	4時間
第11回	**キャンプの観察と記録** 安全面からキャンプ、自然体験活動実施中に行われる指導者としての観察を、役職の観点から行ってみる。	キャンプカウンセラー（指導者）としてキャンプの一日を記録する。	4時間
第12回	**キャンプの評価と効果** キャンプ、自然体験活動の事業としての評価測定の方法と教育目的からの効果測定の方法を知る。	キャンプに関する研究について評価・測定方法、教育目的などを調べる。	4時間
第13回	**キャンプの臨機応変な対応** 活動中での臨機応変な対応や、実際に起きてしまった事故についての対処法について学修する。	活動中のあらゆるリスクの管理や事故が起きてしまった場合の対処法をまとめる	4時間
第14回	**まとめ及び総評** 各自でデザインをしたキャンプ、自然体験活動について、プログラムデザイン、マネジメントデザインを完成させる。完成したデザインを発表する。	自身の実践のに向けた準備について考えレポートにまとめる。	4時間

1-2-3

授業科目名	**野外スポーツ指導法**				
担当教員名	黒澤　毅				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	自然体験活動を中心とした業務に指導者として従事した実戦指導経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

野外スポーツの指導は、用いる自然環境とスポーツ種目の違い、また、活動の目的や対象者によって様々なプログラムで構成・展開されている。その中で効果的に指導を行うためには、野外スポーツの種目に応じた活動を理解するとともに、スキル獲得、またそのスポーツ種目を用いて個々に構成されるプログラムの特徴を理解し、それを指導できる力を必要とする。そこで、本授業では、野外スポーツの中で本学が環境的特色を活かして展開する水辺活動および雪上活動について、活動の理解とともにスキルの獲得を行った上で指導法について学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	水辺活動、雪上活動の学習	水辺活動、雪上活動の具体的活動や教育的目目標と効果に関する幅広い知識を身につける。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	水辺活動の指導方法、雪上活動の指導方法	目的に応じたアクティビティの指導案を作成することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	目的と対象に応じたアクティビティの指導実践	安全で効果的な指導方法を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各アクティビティ指導実習 40%	：	指導案の内容、指導実習、実習後のふりかえりの内容について評価する
授業ごとに提示される課題 40%	：	授業のテーマについての理解度を評価する
現場での指導実習レポート 20%	：	実際の指導実習の報告書の内容について、指導案、指導対象理解、指導の留意点等についての理解度を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

随時配布・紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**授業の概要説明、自然を活かしたスポーツ活動** 自然を活かしたスポーツ活動がどのように展開されているかを知るとともに、その教育的意義について理解を深める。	これまでの野外スポーツ経験から、教育的意義を考える	4時間
第2回	**水辺環境の理解と安全（湖）** 野外スポーツを指導する際に必要な水辺環境の自然について、湖（琵琶湖）の歴史と文化、自然の特徴について理解を深める。	湖についての理解を深める。	4時間
第3回	**水辺環境の理解と安全（海）** 野外スポーツを指導する際に必要な水辺環境の自然について、海の歴史と文化、自然の特徴について理解を深める。	海についての理解を深める。	4時間
第4回	**野外スポーツ（カヤック）の魅力と教育的手段としての特性の理解** 野外スポーツ種目としてのカヤックを取り上げ、その魅力や活動範囲を理解するとともに、教育的手段として用いられているカヤックの特性について理解を深める。	野外スポーツ（カヤック）の教育的意義を考える	4時間
第5回	**野外スポーツ（カヤック）の安全とリスク** 水辺活動として実施されるカヤックについて、その安全とリスクについての理解を深める。	琵琶湖を活用したカヤックの安全とリスクを考える	4時間
第6回	**野外スポーツ（カヤック）の実際** 野外スポーツ（カヤック）について、実際の自然環境及び装備を用いて体験してみる。	体験したふりかえりとして留意点をまとめる	4時間
第7回	**野外スポーツ（カヤック）の指導の実際** 野外スポーツ（カヤック）について、実際の自然環境及び装備を用いて体験したことを活かして指導してみる。	指導したふりかえりとして留意点をまとめる	4時間
第8回	**野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の魅力と教育的手段としての特性の理解** 野外スポーツ種目としてのウィンドサーフィンを取り上げ、その魅力や活動範囲を理解するとともに、教育的手段として用いられているカヤックの特性について理解を深める。	野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の教育的意義を考える	4時間
第9回	**野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の安全とリスク** 水辺活動として実施されるウィンドサーフィンについて、その安全とリスクについての理解を深める。	琵琶湖を活用したウィンドサーフィンの安全とリスクを考える	4時間
第10回	**野外スポーツ（カヤック）の指導法について** カヤックを用いた教育活動を実施する際の指導法について、実際に水辺現場で実際体験を通して理解を深める。	カヤックを指導する際の指導案を考える	4時間
第11回	**野外スポーツ（カヤック）の実際** 野外スポーツ（カヤック）について、実際の自然環境及び装備を用いて体験することから理解を深める。	体験したふりかえりとして留意点をまとめる	4時間
第12回	**野外スポーツ（カヤック）の指導の実際** 野外スポーツ（カヤック）について、実際の自然環境及び装備を用いて指導の立場から理解を深める。	指導したふりかえりとして留意点をまとめる	4時間
第13回	**野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の指導法について** ウィンドサーフィンを用いた教育活動を実施する際の指導法について、実際に水辺現場で実際体験を通して理解を深める。	ウィンドサーフィンを指導する際の指導案を考える	4時間
第14回	**野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の実際** 野外スポーツ（ウィンドサーフィン）について、実際の自然環境及び装備を用いて体験することから理解を深める。	体験したふりかえりとして留意点をまとめる	4時間

1-2-2

授業科目名	**野外スポーツ特別講義**				
担当教員名	中野　友博				
学年・コース等	2・3・4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外部講師として、井上達也（民間自然学校副校長）、辰野勇（モンベル会長、客員教授）を依頼する。				

授業概要

2022年度は、新カリキュラムの「環境教育プログラム」の科目に読み替える内容とする。

野外スポーツの今日的課題や動向について、野外スポーツの専門的な実践者による講義、実技、演習を取り入れて講義内容とする。民間の野外スポーツ産業に関わる企業人、実践者、冒険家・環境教育実践者などを特別講師とし、野外スポーツ界の現状と取り組むべき課題について、体験を通して具体的な視点から学ぶ。
野性の森での里山整備作業を通して、里山の自然環境を理解するとともに自然環境に興味関心を持つだけでなく、保全の意識まで持てるように学修する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	地球環境の現状、環境教育の意義	地球環境の現状や環境脅威kの意義について説明できる
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	人間としての環境に対する倫理観、他者との共生	LNTについて説明でき、自分の生活や活動の中で実践できる
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	アクティビティデザイン、プログラム実践と評価	デザインしたアクティビティを実践でき、評価できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
講義内における課題(個人課題) 50%	：	各講義ごとの内容について理解度を10点満点で評価する。 課題5回×10点
実習後のレポート 50%	：	各実習ごとにレポートテーマを設定し、その体験の具体的な内容と理解度についてのまとめ方によって10点満点で評価する。　実習5回×10点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に提示します。資料を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス、野外教育・野外スポーツとは** 特別講義の授業ガイダンス、ならびに集中で行われる授業の説明を行うとともに、野外スポーツ・野外教育・自然体験活動の用語の意味や現状を知る。	野外スポーツについて調べ、理解を深める。	4時間
第2回	**野外教育の歴史と現状（国外、国内）、野外教育の組織（冒険教育・環境教育）** 授業の受講に際し、他コースの学生が多くいることから、理論的な背景について確認する。 野外教育についてその起源である米国、ドイツ、英国の団体、並びに日本での歴史を知る。 野外教育の主要なプログラムである冒険教育と環境教育のプログラムについて特徴について理解する。	海外の野外教育団体について調べ、理解を深める。	4時間
第3回	**民間の自然学校とは、民間自然学校の現状、全国調査から** 国内の民間団体について知る。 民間の自然学校の現状について学習する。 JON（Japan Outdoor Network）の加盟する民間自然学校について理解を深める。 国内の民間自然学校の設立の経緯やその動向、歴史について知る。 1980年から実施されている民間自然学校の全国調査や清里環境教育フォーラムの報告から民間自然学校の起源、成長、変遷を知る。	民間の自然学校について理解を深める。	4時間
第4回	**コロナ感染症と自然学校** 2019年度から発症した「新型コロナウィルス感染症」による全国の自然学校への影響を日本環境教育フォーラムのアンケート結果や社団法人日本キャンプ協会のアンケート結果、日本キャンプ協会主催のキャンプミーティングの資料を基に2020年4月.5月現在の自然学校の現状を知り、課題を検討していく。	自然学校の現状から特定の自然学校の現状を調べる	4時間
第5回	**アフターコロナ・ウィズコロナの自然学校** 全かに授業、提出された課題を振り返りながら、afterコロナ、withコロナの時代の持続可能な自然学校について概説し、資料からその課題や計画・プログラムについて考える。 実技の課題として身近な自然を知る・探すことを目的に「私のセンスオブワンダー」を課題として設定し提出する	afterコロナ、withコロナの自然学校の将来を考える。	4時間
第6回	**民間自然学校の現状を見る（実習）** 民間の自然学校の現状について現場を体験し、見学する。 滋賀県にあるJON（Japan Outdoor Network）の加盟する民間自然学校についてその現場を体験し、見学する。 BSCウォータースポーツセンター、井上達也副校長を外部講師として施設を見学する	BSCウォータースポーツセンターでの授業で感じたこと、疑問に思ったことをまとめる。特にコロナ禍でのBSCが課題としている内容やこれから取り組むべき企画について考える。	4時間
第7回	**野性の森の現状を知る（実技）** 学内の野外教育施設である野性の森について、実際に体験することで現状を知る。	担当区域の林床について更に調べてみる	4時間
第8回	**湖西地域比良地区の里山の現状と野性の森の現状について知る（講義）** 「野性の森」周辺の里山について、その現状と「野性の森」整備活動のマスタープランについての講義。 里山について、野性の森について理解を深める。	担当区域内の整備を進める	4時間
第9回	**野性の森を体感する、安全管理、まとめ（実技）** 前回の講義（野性の森と里山）のふりかえり 各自、各グループが担当する野性の森の区域内に生育する樹木（私の樹）について具体的に調る。樹木については。樹種、胸高直径、エリア内の位置など。 野性の森全体の草本・樹木マップを作成する	マップを完成させる	4時間
第10回	**植林・植栽（野性の森）、まとめ（実技・講義）** 野性の森のエリア内に、各グループごとに樹種を決めて植林を行うことを前提に、場所の選定、準備を行う。（実際の植林作業は後期の授業中、土日を利用して実施する）。利用する道具について安全な使用方法を知る。 これまでの体験をまとめ、発表を行う。	報告書を作成する	4時間
第11回	**アウトドアビジネスの実態（講義）①** 本学客員教授であり、株式会社モンベル会長の辰野先生より、冒険家として、アウトドア産業界の代表として、フィールドで実技（リバーカヤック）を交えながら話を聞く機会を設ける。 アウトドア産業・アウトドアビジネスの実態について理解を深める。 奈良県五條市　モンベル五條店で実施	アウトドアビジネスの実態について具体的な現状と課題をまとめる	4時間
第12回	**アウトドアビジネスの現場体験（リバーカヤック）（実習）①** 本学客員教授であり、株式会社モンベル会長の辰野先生より、冒険家として、アウトドア産業界の代表として、フィールドで実技（リバーカヤック）を交えながら話を聞く機会を設ける。 リバーカヤックについて用具とフィールドについて理解を深める。 奈良県五條市　モンベル五條店で実施 実技に関わる実費が必要になる。	リバーカヤックについて用具とフィールドについて理解を更に深めることで、現場体験に向けた準備を行う。	4時間

第13回	**アウトドアビジネスの現場体験（リバーカヤック）（実習）②** 本学客員教授であり、株式会社モンベル会長の辰野先生より、冒険家として、アウトドア産業界の代表として、フィールドで実技（リバーカヤック）を交えながら話を聞く機会を設ける。 リバーカヤックの基礎技術の理解を深める。 奈良県五條市　モンベル五條店で実施 実技に関わる実費が必要になる。	リバーカヤックの基礎技術の理解を更に深めることで、現場体験に向けた準備を行う。	4時間
第14回	**アウトドアビジネスの現場体験（リバーカヤック）（実習）③** 本学客員教授であり、株式会社モンベル会長の辰野先生より、冒険家として、アウトドア産業界の代表として、フィールドで実技(ホワイトウォーターツアー)を交えながら話を聞く機会を設ける。 奈良県五條市　モンベル五條店で実施。 実技に関わる実費が必要になる。	ホワイトウォーターツアーに向けた準備を行う。	4時間

授業科目名	**卒業研究**				
担当教員名	ゼミ担当教員				
学年・コース等	4	開講時期	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）				

授業概要

指導教員の指導のもと、学部、学科、専門コースでの学習活動の総まとめとして、各学生がそれぞれの専門分野における研究論文を作成し、卒業論文発表会において各自の研究成果を発表する。スポーツ学に関する研究課題に対して計画的に取り組むことで、知識や考え方を統合的に発揮する力を身につける。卒業研究を通して、課題発見力、情報収集・分析力、発想、探求を含め論理的思考力、プレゼンテーション力、チームワークなど、社会から求められる力を育成するとともに、教わる学びから探求する研究を体現する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	研究を通してスポーツ学における各自の専門分野や自身のテーマに関する深い知識を修得する。	スポーツ学における各自の専門分野や自身のテーマに関する知識を深める。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	スポーツ学における各自の専門分野に関する課題発見力、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を修得する。	社会から求められる力（課題発見力、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力）を高める。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	身につけた知識や技能を発揮するための実践力を修得する。	卒業研究論文や発表会にて修得した知識や技能を表現および発揮する。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

コース独自の卒業研究ルーブリックを用いて評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
コース独自の卒業研究ルーブリックを参照 100%	：	コース独自の卒業研究ルーブリックを参照

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜指示する

履修上の注意・備考・メッセージ

－

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**卒業研究** 詳細な内容は、別途配付する「卒業研究の概要と作成の手引き」を確認してください。	－	4時間

1-9-3

授業科目名	**レクリエーション指導法**				
担当教員名	中野　友博				
学年・コース等	3・4	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

レクリエーション指導者に必要とされるプログラムの立案、指導、評価能力、ならびに企画運営能力を修得することを目的とする。実際の地域のイベントなどに直接参画するとこで、その能力を高める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	プログラムの指導案の内容についてアイスブレイクの考え方の理解	アイスブレイクの企画、立案ができる
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	企画立案したレクリエーションプログラムの指導法の理解、人間関係構築のためのプログラム・自然環境のフィールドで展開されるプログラム	新たなレクリエーションプログラムデザインし、指導展開できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

※レクリエーション・コーディネーター資格取得希望者は、必ず受講すること。
※レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は、受講することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
アイスブレイクプログラムデザイン 20%	：	プログラムの指導案の内容についてアイスブレイクの考え方の理解について評価する
ウォークラリーマップ 20%	：	ウォークラリーマップ（サイクリングマップ）の作成について、マップの様式の理解について評価する
指導実習 40%	：	指導内容について対象の理解、指導内容の理解について評価する
最終レポート 20%	：	レクリエーションの指導についての理解をレポートの内容から評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

レクリエーション支援の基礎（2007）財団法人日本レクリエーション協会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要およびレクリエーション資格について** レクリエーション指導法としての実技の授業内容の説明だけでなく、日本レクリエーション協会認定資格のレクリエーションインストラクター、レクリエーションコーディネーターについて理解を深める。 びわこ成蹊スポーツ大学が日本レクリエーション協会の課程認定校であることも含めて理解する。	レクリエーション資格について深く調べる	2時間
第2回	**レクリエーションプログラムの立案、指導、評価** レクリエーションプログラムデザインに必要な理論を確認しながら、様々なレクリエーション活動について理解を深める。	理論としてデザインに必要な項目を整理する	2時間
第3回	**レクリエーションと安全管理** レクリエーション活動中の安全について、安全管理、安全教育、リスクマネジメントの観点から概説する	理論としてデザインに必要なリスク項目を整理する	2時間
第4回	**アイスブレイクの体験** レクリエーション活動の一つであるアイスブレイク活動を体験する	興味あるアイスブレイク活動を検索し、指導案を作成	2時間
第5回	**プログラムデザイン（アイスブレイク）と指導** アイスブレイク活動についてアクティビティデザインを行い、指導実習する	興味あるレク活動を選び、自分なりの改善・工夫を考える	2時間
第6回	**ウォークラリーの体験** 日本レクリエーション協会が普及を進めている、レクリエーション活動の一つである「ウォークラリー（WR）」を体験する	ウォークラリーの楽しさについて確認し、振り返る	2時間
第7回	**ウォークラリーマップの作成** ＷＲ体験をいかして、大学周辺の地域や文化、自然を活かしたオリジナリティあふれるＷＲコースマップを作成する。	オリジナリティのあるコースマップを作成する	2時間
第8回	**ウォークラリーの指導実習、運営** 各自で作成したＷＲコースマップを使用して、ＷＲ指導実習を行う	良いマップにするためのアイデア、チェックポイントについて再考する	2時間
第9回	**レクリエーション指導の実際（ネイチャーゲームを中心に）** 地元幼稚園の親子対象プログラムの指導を行う。あるいは幼児を対象とした自然体験学習の指導者研修会を受講し、理解を深める。	指導報告書を作成する	2時間
第10回	**レクリエーション指導の実際（幼児を対象とした活動を中心に）** 地元幼稚園の親子対象プログラムの指導を行う。	興味ある活動の指導案を作成する	2時間
第11回	**レクリエーションスポーツ体験Ⅰ** MTBの理論、メインテナンスと修理について理解を深める。	実際に自分のMTBをメインテナンスする	2時間
第12回	**レクリエーションスポーツ体験Ⅱ** MTB実際、走行技術の獲得	サイクリングマップを作成する	2時間
第13回	**レクリエーションコーディネーター試験に向けて** コーディネーター試験に向けて、理論、デザイン、リスクマネジメントについてまとめる	コーディネーター試験の受験準備をする	2時間
第14回	**まとめおよび総評** 新しいレクリエーションスポーツを考案してみる	興味あるレクリエーションスポーツを検索する	2時間

SP-4005-4-2

授業科目名	アスレティックトレーナー特別講座(2)（アスレティックトレー				
担当教員名	片淵　建				
学年・コース等	4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、講義内容に結びつけながら講義している。（全14回）				

授業概要

アスレティックトレーナーの役割に準じて、スポーツ現場で求められる問題解決のために、メディカルチェックやスクリーニングなどの対応策を計画し、実践のための企画書を作成する。
さらに評価に基づく改善策についての指導案を作成し、フィードバックプレゼンテーションを作成する。
様々な種目と競技特性、競技のレベル、性別、専門的指導者の有無などを想定し、企画書とプレゼンテーションの妥当性を受講者同士で討議しながら、スポーツの現場に求められるスポーツの安全管理方策について理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	アスレティックトレーニングを中心としたコンディショニング指導法	スポーツ現場に求められるアスレティックトレーナーとして、基本的な役割のすべてを実践できる
2 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	アスリートファースト	全ての人がスポーツ活動に安全に安心してに取り組むために、活動時のリスクに対する予防方策を計画できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
アスレティックトレーニングの指導案作成 50%	：	アスレティックトレーニングについての例題や実際の課題について対応すべき内容の計画と具体的な指導案の作成について、理解度と精度について本学基準のルーブリックを用いて評価する。全体の成績の50%の配点とする
コンディショニングに関するプレゼンテーション 50%	：	メディカルチェックの立案、実施、実施後のフィードバックなど実践的取り組みに対する理解度と精度について本学基準のルーブリックを用いて評価する。全体の成績の50%の配点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第3巻、5巻、6巻、7巻、8巻を購入すること。購入方法は授業開始時に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
この科目は、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの過程認定を受けるために必要な科目です。履修制限として、AT特別講座（１）、AT実習Ⅰ、AT実習Ⅱを履修済みであること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室、研究室

備考・注意事項： 急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ現場の医科学的問題に対する対応** 各種スポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷やコンディショニングに係る医科学的問題と対応策について概説する。これらの問題の対応方法と個人情報の取り扱いや評価とフィードバック際の倫理的配慮についても学ぶ。	個人競技・チーム競技、球技系・記録競技系・格技系のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニングに関する問題点を抽出する 復習：個人情報の取り扱いや評価とフィードバックに関する注意事項をまとめる	4時間
第2回	**個人競技・記録系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる** 個人競技・記録系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する。	予習：個人競技・記録競技系の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する	4時間
第3回	**個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案** 個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する。	予習：個人競技・チーム競技、球技系・記録競技系・格技系のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する	4時間
第4回	**個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック** 個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。	予習：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる	4時間
第5回	**個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ** これまで計画した個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。 最終的に個人競技・記録系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。	復習：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる	4時間
第6回	**チーム競技・球技系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる** チーム競技・球技系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する。	予習：チーム競技・球技系競技の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する	4時間
第7回	**チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案** チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する。	予習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する	4時間
第8回	**チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック** チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。	予習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる	4時間
第9回	**チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ** これまで計画したチーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。 最終的にチーム競技・球技系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。	復習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる	4時間
第10回	**格技系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる**	予習：格技系競技の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する	4時間

	格技系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する		
第11回	**格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案** 格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する	予習：格技系競技のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する	4時間
第12回	**格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック** 格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。 授業外学修 （～500字）	予習：格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる	4時間
第13回	**格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ** これまで計画した格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。 最終的に格技系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。	復習：格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる	4時間
第14回	**ジュニア世代に必要なスポーツ医科学的問題とスクリーニング** 発育発達が盛んなジュニア世代のアスリートに多いスポーツ医科学的問題への効果的なスクリーニングを検討し、メディカルチェックを立案する	予習：ジュニア世代に多いスポーツ医科学的問題を調べる	4時間

1-9-4

授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅲ				
担当教員名	佃　文子				
学年・コース等	4	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	実験・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	滋賀県競技力向上対策本部医科学専門スタッフトレーナーとして国体などに帯同した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

「怪我からの安全で効率良い復帰」「より良いperformance発揮」のための、アスレティックトレーニングとコンディショニングについて総合的に実習し、個人の実践能力だけでなく指導者として他者のリスク管理と競技力向上のために指導者として貢献できるように実習を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ外傷・障害に影響する主な身体機能の理解	主なスポーツ外傷・障害に影響する身体機能を説明できる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	主なスポーツ外傷・障害に影響する身体機能を修正するための適切なアスレティックトレーニング	問題修正に必要なアスレティックトレーニングを適切に選択し指導プログラムを計画できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業ごとの課題レポート 50%	：	内容の妥当性と論理性について、独自のルーブリックに基づき評価する。
課題に対するプレゼンテーション 50%	：	課題に対するプログラムやトレーニングメニューの提案について、実技のデモンストレーションの正確さ30%、運動指導のリスクマネジメント力40%、指導時のプログラムの妥当性30%で得点化する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、6巻予防とコンディショニング￥2,900円、第7巻アスレティックリハビリテーション』￥3,200円を公益財団法人日本体育協会から各自で購入。購入方法は、授業開始時に周知する。

履修上の注意・備考・メッセージ

履修は、AT実習Ⅰ及びⅡを修得済みであること。
本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後
場所：　授業実施教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション、アスレティックリハビリテーション総論・各論**	復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。	1時間

	アスレティックリハビリテーション指導上のポイントとリスク管理についてまとめる		
第2回	**アスレティックリハビリテーション指導法①運動学習と難易度** 運動要素と運動難度について学習する	予習：体力の要素、基本運動、エネルギー供給様式、筋の収縮形態について予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。	1時間
第3回	**アスレティックリハビリテーション指導法②リスク管理** リスク管理のポイントを学習する	予習：アスレティックリハビリテーションをすすめるうえでの一般的なリスクについて予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。	1時間
第4回	**アスレティックリハビリテーション指導法③記録競技のリスク管理** 競技種目別のリスク管理：記録競技を学ぶ	個人記録競技で競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション時の一般的なリスクについて予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。	1時間
第5回	**アスレティックリハビリテーション指導法④球技種目のリスク管理** 競技種目別のリスク管理：球技競技を学ぶ	チームボール競技で競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション時の一般的なリスクについて予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。	1時間
第6回	**アスレティックリハビリテーション指導法⑤格闘技種目のリスク管理** 競技種目別のリスク管理：格闘技競技を学ぶ	武道等で競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション時の一般的なリスクについて予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。	1時間
第7回	**アスレティックリハビリテーション指導法⑥情報管理とサポート連携** 情報の管理と周囲のサポートスタッフとの連携による、より効果的な指導法を学ぶ	チーム指導について、円滑にサポートが進むための要点をまとめる	1時間
第8回	**テーピング実技　部位別テーピング基礎①足部** 足部のスポーツ外傷・障害に効果的なテーピングを理解する	予習：基礎的な足部のテーピング、復習：より手早く機能的に巻けるように練習する	1時間
第9回	**テーピング実技　部位別テーピング基礎②足関節** 足関節のスポーツ外傷・障害に効果的なテーピングを理解する	予習：基礎的な足関節のテーピング、復習：より手早く機能的に巻けるように練習する	1時間
第10回	**テーピング実技　部位別テーピング基礎③膝関節他** 膝関節のスポーツ外傷・障害や肉離れに効果的なテーピングを理解する	予習：基礎的な膝関節のテーピング、復習：より手早く機能的に巻けるように練習する	1時間
第11回	**テーピング実技　競技種目別の応用** 競技種目に応じたテーピングの方法を理解する	競技種目のテーピングに関係するルールなどについて調べてくる。復習：より手早く機能的に巻けるように練習する	1時間
第12回	**スポーツ外傷と障害の予防　理論** 運動連鎖を理解し、患部と関連する他部位の運動特性を理解する	スポーツ外傷と障害を予防するために、指定する文献を読み要約してくる。復習：より手早く機能的に巻けるように練習する	1時間
第13回	**チームスポーツ現場におけるスポーツ外傷と障害の予防** 集団競技種目のトレーナーサポートについて学習する	個人記録競技の健康管理システムについてまとめ、自身の身近なスポーツ現場におけるより良い健康管理システムの提案を予習し、授業の課題を反映させてより完成の高いものをまとめて提出する。	1時間
第14回	**まとめ　症例検討会** 実際の症例を想定し、アスレティックリハビリテーションとコンディショニングの一連のプログラムを立案する	・	1時間

SP-4009-4-2

授業科目名	健康運動指導士特別講座(1)				
担当教員名	藤松　典子　入谷　智子				
学年・コース等	4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携し安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者である。よりハイリスク者に対して安全で効果的な運動プログラムを作成し、目的に応じた効率的な指導ができる基本的な知識と技能を修得する。健康運動指導士養成テキストを使って学び、テキスト内容を分担、各自でまとめて発表する。発表資料等を作成し、発表後にまとめと確認をする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	安全で効果的な運動を実施するためのプログラム作成及び実践指導計画の調整を担える知識	幅広い年齢の方の健康づくりに関われるよう基本的な知識を身につけ運動プログラムの作成ができる。
2 ．DP6.優れたスポーツマンシップ	ハイリスク者に対して効果的な運動の指導プログラム内容を立案できる知識	安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムを提供し、運動指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート・発表	30%	： 自分で調べたことをまとめ発表し、他者の発表を聞きまとめたものを毎回提出し、その内容で評価する。
中間テスト	30%	： 授業の前半の内容から筆記テスト（選択問題）の正解率で評価する。
学期末テスト	40%	： 授業の全般の内容から筆記テスト（選択問題）の正解率で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 健康指導士養成講習会テキスト上	・ 公益財団法人　健康･体力づくり事業財団	・ 2020年

参考文献等

問題集を適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**健康づくり施策概論**	各自の担当項目を分担し、責任を持って調べ、まとめ、発表の準備をする。	4時間

	健康づくりとはなにかを総説する グループに別れ今後の授業の項目を分担する。		
第2回	**社会環境の変化と健康課題** 人口の変遷、死亡原因の傾向を解説する。メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームの理解を深める。	自分の担当項目について調べ、まとめ、発表のプレゼンテーションを準備をする。	4時間
第3回	**各自の調べてきたことの発表** ①健康概念と制度について　②生活習慣病　③介護予防概論　④健康づくり施策　⑤健康運動指導士の社会的役割　について発表し、発表者でないものは発表されたことをノートにまとめる。	生活習慣病とメタボリックシンドロームについて調べてまとめてくる。	4時間
第4回	**生活習慣病とメタボリックシンドローム** メタボリックシンドロームの診断についてまた、肥満が誘発する疾病に関して現状と予防について解説する。	生活習慣病の予防の重要性について調べ、考察してくる。	4時間
第5回	**生活習慣病とその予防** 予防対策ー運動・栄養・休養の関係とその重要性を理解する。	生活習慣予防のための運動プログラムの指導案を作成してくる。	4時間
第6回	**健康運動指導士とは** 健康増進施設などの法律用語を解説、社会環境の整備について現状と課題を見つける。	高血圧の定義とわが国の現状について調べ、考察してくる。	4時間
第7回	**中間試験と解説** 前半の授業の範囲で中間試験を実施する。試験は選択問題である。その後、試験の正否を解説する。	試験で出来なかった不得意な分野を確認し、もう一度分らない点を調べなおし、解決する。	4時間
第8回	**耐糖能異常・糖尿病** 糖尿病が心血管を合併するリスクを高めることから、糖尿病の定義と分類、診断基準と予防・治療における運動の意義、注意点を理解する。	虚血性心疾患とリハビリテーションについて調べ、まとめてくる。	4時間
第9回	**運動の基礎生理学（循環・呼吸）** 循環系及び呼吸器系と運動の機能を理解する。	既に取得しているスポーツ生理学等の復習を含めてまとめてくる。	4時間
第10回	**運動の基礎生理学（神経・筋）** 神経系及び筋肉の構造と運動の機能を理解する	既に取得しているスポーツ生理学等の復習を含めてまとめてくる。	4時間
第11回	**運動とエネルギー代謝・内分泌と運動** グルコースの代謝を理解する。また、ホルモンの定義と作用の特性・仕組みについて理解する。	運動･トレーニングに伴うホルモンの分泌変化について調べ、まとめてくる。	4時間
第12回	**高血圧** 血圧の生理学的特性を理解し、運動と血圧の関係、運動の効果また、禁忌について理解する。	高血圧における運動実施上の注意点を調べ、説明できる要のまとめてくる。	4時間
第13回	**環境と運動** 環境が体温調節機構を中心とする身体諸機能に与える影響について学習し、高温、寒冷、低酸素水中環境下における運動に関する専門知識を習得する。	バイオメカニクス、力学の基礎について調べ、まとめてくる。	4時間
第14回	**健康運動づくりの理論とまとめ** 運動条件と反応、トレーニングの減速、運動強度について学習し、具体的な運動種目について理解する。また、成長期や発育の関係、女性の特性等について学習する。小テストを実施。その後解説を行う	内科的障害と予防について調べ、まとめてくる。	4時間

SP-4010-4-2

授業科目名	健康運動指導士特別講座(2)				
担当教員名	藤松　典子　入谷　智子				
学年・コース等	4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

健康運動指導士養成に必要な、健康運動指導の知識・技能を身につける。一次予防のみならず、二次予防も含めた健康づくり運動を指導できる専門家に必要な幅広い知識を修得し、特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担えるように基礎知識を修得できるよう学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	運動の必要性と継続できるための指導の重要性を理解。	運動習慣を継続させるための知識と、実践方法を学ぶ。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	ハイリスク者の様々な運動指導に対応できる能力。	健康運動指導の知識・技能を身につけ、ハイリスク者にも配慮したプログラム提供、指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート	30%	： 自分で調べたことを発表しまとめたり、他者の発表を聞きまとめたものを毎回提出物し、その内容で評価する。
中間テスト	30%	： 授業の前半の内容から筆記テスト（選択問題）で理解度を正解率で評価する。
学期末テスト	40%	： 授業の後半の内容から筆記テスト（選択問題）で理解度を正解率で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

問題集などその都度、紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。前期の健康運動指導士特別講座（1）を受講していること。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**体力測定と評価**	体力測定について、実施する項目と測定する体力、実施方法などをまとめておく。	4時間

	体力の構成要素や、体力測定の意義と活用法について、体力の必要性について学習する。 後半の課題とグループ分け、担当の分担を行い、各自の課題を明確にする。		
第2回	**健康運動づくりの実際（ウォーキング・ジョギング）** ウォームアップとクールダウン定義、目的と意義について理解する。ストレッチングの目的や効果、ジョギングや走り方のトレーニング方法などを理解する。	わが国における運動実施者の割合、実施種目など現状を把握する。	4時間
第3回	**健康運動づくりの実際（エアロビックダンスと水泳･水中運動）** エアロビックダンス、水泳･水中運動の目的と意義を理解する。	レジスタンス運動の種類や方法について調べ、まとめておく。	4時間
第4回	**各自の担当課題の発表** 各グループにおいて担当課題を発表する。お互いに質問をし、学んだことをレポートにまとめる。	救急処置、救急蘇生法など一次救命処置を理解し、実践できるよう調べてまとめてくる。	4時間
第5回	**運動プログラム** 運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムが作成できるようになる。	健康づくりのための適切なプログラムとは何か。運動実践の手順を示すプログラム案の作成。	4時間
第6回	**検診結果の読み方** 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値を理解する。安静時心電図の基本を理解し、電極装着の補助が出来るようになる。	運動プログラムの継続性について提案する。	4時間
第7回	**中間試験と解説** 後期前半授業の内容を試験する。試験は選択問題である。その後正否を解説する。	試験で自分の不得意分野があればそこを集中して学習する。	4時間
第8回	**メディカルチェック** 運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解し、健康運動指導士としてメディカルチェックの内容が説明できるようにする。	スポーツ当日のセルフチェックの内容を説明できるようにする。	4時間
第9回	**服薬者、生活習慣病に対する運動療法プログラム** 包括的な運動プログラムの基本例が作成できるようになる。運動プログラムの効果判定と、再運動プログラムの内容を作成できるように理解を深める。	運動負荷試験のプロトコルを理解し説明ができるようにまとめる。	4時間
第10回	**模擬試験（前半課題より）と行動変容理論** 練習問題を各自の担当より作成しお互いに練習問題を実施する。その後、出題者による解説を行う。運動の成果をもたらすためには行動の継続が重要である。行動変容の目的と行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得する。	自分の不得意な課題を見つけ補うように学習する。行動変容に伴うカウンセリングに関して調べてまとめる。	4時間
第11回	**こころと運動** 人と環境の係わり合いの中で生じるストレスとその生体への影響（健康障害）を理解する。また、こころの健康(メンタルヘルス)に関する国の対策を理解し、進退活動･運動の意義について説明できるようにする。	ストレスマネジメントとカウンセリングについて調べてまとめる。	4時間
第12回	**食生活と健康運動** 健康の保持増進における栄養・食事の役割、食事摂取基準の概念を理解する。からだと栄養について、健康増進と食生活の原則を理解する。	身体活動量と食事摂取基準について調べてまとめる	4時間
第13回	**栄養素の機能と代謝** 栄養素、および水の機能をりかいし、主要な栄養素の体内代謝と食事摂取基準について理解し、炭水化物、たんぱく質の代謝について理解する。ビタミン、ミネラルの役割について、水、運動時の代謝の特徴について理解する。	食生活指針と栄養・食事指導について考え方並びに指導方法を理解し、まとめる。	4時間
第14回	**模擬問題（後半課題より）** 模擬問題実施・正否解説を行い試験の課題を探求する。	テキストの上下巻を再度読み確認をする。疑問があれば解決する。	4時間

SP-4030-4-2

授業科目名	**教育実習指導**				
担当教員名	**黒澤（寛）・川合・多賀谷・山手・大西・髙松・股村**				
学年・コース等	4	開講時期	＊	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛：高等学校において教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 川合：学校及び教育行政機関に管理職として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 多賀谷・山手：小学校において教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつている。（全14回）				

授業概要

３年次の事前指導において、教職の意義や役割、実習の目的や内容、実習までのスケジュール、保健体育の学習指導案作成についての理解を深め、実際に作成した指導案を基に模擬授業を行う事により各自の学習指導における問題点を明らかにして、教育実習までの学習課題を理解する。４年次の直前指導においては、教育実習に向けての心得や直前の準備等について理解する。事後指導においては、教育実習受け入れ校の教員による講話を伺い、教育実習を振り返り、自らの達成点や今後の課題を明らかにする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP7.自覚、誇り、道徳心	教育実習の展望	教育実習の意義、内容、スケジュールなどについて理解できる。
２．DP7.自覚、誇り、道徳心	教育実習に対する責任と自覚、教員としての道徳心	教育実習に対する責任と自覚、教員としての道徳心を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業のための指導案 30%	：	指導案の完成度について評価する。
模擬授業実施に関するレポート 20%	：	模擬授業を行い、学んだことについて、自らの考えを記述できているか評価する。
形成的授業評価とリフレクション 30%	：	適切に授業評価とリフレクションができているか評価する。
教育実習指導全体のレポート 20%	：	教育実習指導を通して学んだことを振り返り、自らの達成点や今後の課題について記述できているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各学校種の「学習指導要領」「学習指導要領解説　保健体育編・体育編」（文部科学省）
各学校種の保健教科書
各学校種の体育実技テキスト

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
授業の日時、場所については、別途連絡（掲示等）する。
教育実習に関する記録等、指示された提出物を必ず提出すること。
教育実習指導をシラバスの通り受講したと認定された者（出席や提出部の条件を満たしている者）以外は、教育実習に参加することができない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 黒澤寛己研究室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育職員の責務と教育実習の位置づけ** 学校教育において教師が果たす役割、教員に求められる資質･能力について学修するとともに、教育実習の意義と目的、教育実習で学ぶこと、教育実習までのスケジュールとやっておくべきことについて学修する。	教育実習ハンドブックを活用し、教育実習に対するイメージや心構えを涵養する。	4時間
第2回	**体育実技の指導案の作成について** 体育実技の授業の設計、体育実技の指導案の実際例、指導案の作成における留意点について学修する。	体育実技の指導案の作成法についてまとめておく。	4時間
第3回	**保健・体育理論の指導案の作成について** 保健や体育理論の指導案の実際例、指導案の作成における留意点について学修する。	保健と体育理論の指導案の作成法についてまとめておく。	4時間
第4回	**授業構想と指導案の作成** 各自が担当する模擬授業の学習指導案を作成する。	担当する授業の構想を立て、指導案を作成する。	4時間
第5回	**模擬授業の実践と省察①** ６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。	形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。	4時間
第6回	**模擬授業の実践と省察②** ６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。	形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。	4時間
第7回	**模擬授業の実践と省察③** ６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。	形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。	4時間
第8回	**模擬授業の実践と省察④** ６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。	形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。	4時間
第9回	**模擬授業の実践と省察⑤** ６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。	形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。	4時間
第10回	**模擬授業の実践と省察⑥** ６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける	形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。	4時間
第11回	**模擬授業のまとめ** ６回の模擬授業参加体験で学んだことのまとめと反省を行い、実習までの各自の課題を確認する。	反省で明らかになった課題を解決する手立てを考えてまとめておく。	4時間
第12回	**教育実習に向けての指導案の実際** 教育実習の意義と目的を再確認し、実習校において担当する実際の授業の指導案を作成する。	実習まで担当する授業について調べる。	4時間
第13回	**教育実習における実習生の行動** 教育実習生としての学校における行動、児童生徒への指導・対応、事務的業務等について確認を行う	事前の準備や連絡について再確認しておく。	4時間
第14回	**教育実習を振り返り、教師の資質について考える** 実習生受け入れ校の教員を講師に招き、講話を伺い、考えをまとめる	これまでの学びを振り返り、レポートを作成する。	4時間

SP-4031-4-2

授業科目名	教育実習Ⅰ				
担当教員名	川合・黒澤				
学年・コース等	4	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛己：高等学校おいて保健体育科教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 川合英之：学校及び教育行政機関に管理職として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

教育実習校における現場実習を通して、教員になるために求められる資質・能力の習得、向上を図る。保健体育科の授業の設計と教材研究、計画立案、教材開発、学習指導と学習評価、授業観察および授業省察、授業改善を実際の生徒を対象として学ぶとともに、学級（ホームルーム）活動、学校行事、生徒指導、部活動等の指導、生徒理解の方法等に関する実践的な知識や技能の向上を図ることを通して、教職意識の高揚を図り、教職を目指すことの意義について実際体験を通して学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教師の職責の理解	教職の重要性を理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	教師の具体的業務の理解	教師の仕事や役割を理解できる。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	生徒指導力・学習指導力	生徒の特性や行動の背景にある思いを理解できる。
4 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	授業実践力	一定水準の授業ができる。
5 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学級経営力	一定水準の学級経営ができる。
6 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	生徒理解力	生徒とよい人間関係を形成できる。

学外連携学修

有り　（連携先：各教育実習校）

授業方法

・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
教育実習校による評価	80%	：教育実習に対する取り組みについて、各実習校が評価を行う。
教育実習日誌	10%	：実習内容について適切にまとめられているか評価する。
作成した指導案の達成度	10%	：指導案の達成度について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

校種別の学習指導要領・学習指導要領解説保健体育編(文部科学省)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位科目の教育現場での実習であり、実習生活そのものが学修となる。
中学校教員免許状と高等学校教員免許状を取得しようとする者が履修する。
「教育実習指導」（１単位）に出席していない学生は、教育実習に参加することはできない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**教育実習** 実習校で３週間以上行われる。 観察・参加・実習という展開過程で行われる。 具体的な内容については、授業や学級経営等の実践が、実習校の指導教員との緊密な連携･協力のもとに計画され、実施される。	これまでの教職課程での学びを再確認しておくこと。実習校や生徒に関する情報収集、指導案の作成等、実習を円滑に遂行するために必要なことに取り組むこと。	4時間

SP-4032-4-2

授業科目名	**教育実習Ⅱ**				
担当教員名	川合・黒澤				
学年・コース等	4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	黒澤寛己：高等学校において保健体育科教諭として勤務した実践経験を講義内容に結び付けている。 川合英之：学校及び教育行政機関に管理職として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

教育実習校における現場実習を通して、教員になるために求められる資質・能力の習得、向上を図る。保健体育科の授業の設計と教材研究、計画立案、教材開発、学習指導と学習評価、授業観察および授業省察、授業改善を実際の生徒を対象として学ぶとともに、学級（ホームルーム）活動、学校行事、生徒指導、部活動等の指導、生徒理解の方法等に関する実践的な知識や技能の向上を図ることを通して、教職意識の高揚を図り、教職を目指すことの意義について実際体験を通して学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP7.自覚、誇り、道徳心	教師の職責の理解	教職の重要性を理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	教師の具体的業務の理解	教師の仕事や役割を理解できる。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	生徒指導力・学習指導力	生徒の特性や行動の背景にある思いを理解できる。
4 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	授業実践力	一定水準の授業ができる。
5 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学級経営力	一定水準の学級経営ができる。
6 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	生徒理解力	生徒とよい人間関係を形成できる。

学外連携学修

有り　（連携先：各教育実習校）

授業方法

・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
教育実習校による評価	80%	：教育実習に対する取り組み方について、各実習校が評価を行う。
教育実習日誌	10%	：実習内容について適切にまとめられているか評価する。
作成した指導案の達成度	10%	：指導案の達成度について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編」（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

「教育実習Ⅱ」（２単位）は高等学校教員免許状のみの取得を目指す者が履修する。
中学校教員免許状を取得しようとする者は「教育実習Ⅰ」（４単位）を履修しなければならない。
「教育実習指導」（１単位）に出席していない学生は、教育実習に参加することはできない。
教育現場での実習であり、実習生活そのものが学修となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**教育実習** 各実習校で２週間行われる。 観察・参加・実習という展開過程で行われる。 具体的な内容については、授業や学級経営の実践について、実習校との緊密な協力･連携のもとに、計画され、実施される。	これまでの教職課程での学びを再確認しておくこと。実習校や生徒に関する情報収集、指導案の作成等、実習を円滑に遂行するために必要なことに取り組むこと。	4時間

1-9-4

授業科目名	**教職実践演習（中・高）**				
担当教員名	多賀谷・川合・黒澤（寛）・山手・大西・高松・股村				
学年・コース等	4	開講時期	＊	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	川合：学校及び教育行政機関に管理職として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 黒澤（寛）：高等学校において保健体育科教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 多賀谷・山手：小学校において教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

第1回目の授業で、履修カルテや教育実習体験の振り返りを通し、今後の学習課題を確認する。前半の授業では、人権教育、特別支援教育、総合的な学習の時間、生徒指導、特別活動、自然体験学習について、その意義や実際、教育の方法等を理解し、課題解決に向けた実際的な対応について学ぶ。後半の授業では、教員としての反省的実践者に必要な資質能力を育むため、教育実習事前指導の保健や体育理論、体育実技の模擬授業に生徒役として参加し、授業観察と授業評価を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	教職に関する知識	生徒指導、人権教育、特別支援教育等の今日的教育課題の現状と対応について理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	教職の実践力	保健体育科授業における反省的実践者に必要な資質能力を高めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業演習での評価シート	30%	：授業内容の理解度を評価シートで評価する。
小レポート	30%	：教育の諸課題に関する研究に参加して身につけた知識をレポートで評価する。
まとめ	40%	：履修カルテ、まとめレポート、教育課程ポートフォリオ（履修カルテを含む）について、学びの過程、及び学んだ知識の活用度で総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。適宜資料を配付します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、２単位の科目であるため、平均すると毎４時間の授業外学修が求められる。
１年次から記録している教職ハンドブックの履修カルテに記録した内容を読み返して、自分が４年間に学んできたことを再確認しておくこと。
保健体育科教員としての資格を取るための総まとめの授業である。また、今までに学んできたことの再確認と身につけたことを試す授業でもある。４年後期の授業となるが、教員免許状取得者としてふさわしい態度で、最後まで気を抜かずに真剣に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教職実践演習について** ・授業オリエンテーション、学習カルテや教育実習体験の振り返りにより、学習課題を確認する。 ・授業期間を通じて、履修カルテを含む大学における教職関連の学びに関するポートフォリオを完成させる。	各自の学習課題をまとめてレポートを作成する。	4時間
第2回	**人権教育について** 教員経験者による人権教育に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、人権教育に関する課題を明らかにし理解を深める。	人権教育についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。	4時間
第3回	**道徳の指導について** 教員経験者による特別支援教育に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、道徳の指導に関する課題を明らかにし理解を深める。	道徳の指導ついての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**総合的な学習の時間について** 現場教員による総合的な学習の時間に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、総合的な学習の時間に関する課題を明らかにし理解を深める。	総合的な学習の時間についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。	4時間
第5回	**生徒指導について** 現場教員による生徒指導に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、生徒指導に関する課題を明らかにし理解を深める。	生徒指導についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。	4時間
第6回	**特別活動について** 教員経験者による特別活動に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、特別活動に関する課題を明らかにし理解を深める。	特別活動についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。	4時間
第7回	**自然体験学習について** 教員経験者による自然体験学習に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、自然体験学習に関する課題を明らかにして理解を深める。	自然な体験学習についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。	4時間
第8回	**授業演習のためのオリエンテーション** 授業演習に関する説明 ６班のグルーピングと授業観察及び省察の方法を理解する。	授業観察評価法について復習しておく。	4時間
第9回	**授業演習①** ６つの班に分かれて３年次生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と評価発表役として参加する。 体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。	模擬授業のリフレクションシートを作成する。	4時間
第10回	**授業演習②** ６つの班に分かれて３年次生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と評価発表役として参加する。 体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。	模擬授業のリフレクションシートを作成する。	4時間
第11回	**授業演習③** ６つの班に分かれて３年次生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と評価発表役として参加する。 体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。	模擬授業のリフレクションシートを作成する。	4時間
第12回	**授業演習④** ６つの班に分かれて３年次生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と評価発表役として参加する。 体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。	模擬授業のリフレクションシートを作成する。	4時間
第13回	**授業演習⑤** ６つの班に分かれて３年次生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と評価発表役として参加する。 体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。	模擬授業のリフレクションシートを作成する。	4時間
第14回	**授業演習⑥** ６つの班に分かれて３年次生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と評価発表役として参加する。 体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。	模擬授業のリフレクションシートを作成する。	4時間

1-4-3

授業科目名	学校スポーツ演習（黒澤寛己）				
担当教員名	黒澤　寛己				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。				

授業概要

学校現場（小・中・高等学校）における体育・スポーツ指導に関する事項について理解を深め、研究論文を作成することを目的とする。具体的には「保健体育科教育」、特別活動「健康安全・体育的行事」、「運動部活動」の課題を理解し、その中から自身の興味・関心に応じた課題を見つけ出し、それを研究論文にまとめる。また、学校現場での課題や実際の指導方法について事例研究を行う。そして、その結果についてグループディスカッションを行ったり、グループ発表を行い研究成果として論文にまとめる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	学校現場における体育・スポーツ指導に関する知識	保健体育科教員に必要な知識を身に付ける。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	学校現場における体育・スポーツ指導に関する技能	保健体育科教員に必要な技能及び実践力を身に付ける。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な、授業の実践力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

本講義では、毎時の小レポート、担当課題発表、最終課題レポートによって評価する。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
毎時の小レポート 56%	： 毎時の課題に対して、適切な内容の文章が書けているかについて評価する。各回2点×28回
課題レポート 44%	： 体育・スポーツの理論を踏まえ、各自が興味関心を持った専門領域のレポートを作成する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は通年4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー
場所： 黒澤寛己研究室（研究棟３階）

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**学校スポーツ演習での学びについて考える** 本講義の概要と年間計画を理解する。 各自の卒業までの研究計画を作成する。	各自の研究計画作成、関連資料の収集	4時間
第2回	**保健体育科教員に求められる資質・能力** 学校経営の基本概念を理解する。 学校における保健体育科教員の果たすべき役割を理解する。 様々な教育課題に対する資質・能力について理解する。	保健体育科教員に関する事例調査	4時間
第3回	**保健体育科教育学の理論** 保健体育科教育学の理論を理解する。 保健体育科教育学の先行研究を調べる。	保健体育科教育に関する文献の要約と発表資料作成	4時間
第4回	**保健体育科教育の歴史と学習指導要領の変遷** 戦前・戦後の保健体育科教育について理解する。 学習指導要領の変遷を理解する。	保健体育科教育の歴史に関する文献の要約と発表資料作成	4時間
第5回	**保健体育科教育の目標と内容** 学習指導要領における教科目標の変遷を調べる。 最新の学習指導要領の保健体育の目標と内容領域を理解する。	保健体育科教育の目標・内容についての要約と発表資料作成	4時間
第6回	**保健体育科教育のカリキュラムの構成** 学校体育のカリキュラムと学習指導要領について理解する。 学習指導要領における保健体育のカリキュラムについて理解する。	保健体育科教育のカリキュラム構成の要約と発表資料作成	4時間
第7回	**年間指導計画の作成と実施** 年間指導計画と学期の指導計画を作成する。 指導計画と評価方法を理解する。	保健体育科年間指導計画案の事例収集と作成	4時間
第8回	**単元指導計画の作成と実施** 評価の観点及び単元の評価規準を作成する。 具体的評価規準を作成する。 指導と評価について理解する。	保健体育科単元指導計画案の事例収集と作成	4時間
第9回	**体つくり運動の指導実践** 体つくり運動の学習指導のポイントについて理解する。 体つくり運動の単元計画を作成する。	体つくり運動の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第10回	**器械運動の指導実践** 学習指導要領における器械運動の内容について理解する。 器械運動の授業づくり・教材づくりについて理解する。	器械運動の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第11回	**陸上競技の指導実践** 学習指導要領における陸上競技の内容について理解する。 陸上競技の授業づくり・教材づくりについて理解する。	陸上競技の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第12回	**水泳の指導実践** 学習指導要領における水泳の内容について理解する。 水泳の授業づくり・教材づくりについて理解する。	水泳の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第13回	**球技の指導実践** 学習指導要領における球技の内容について理解する。 球技の授業づくり・教材づくりについて理解する。	球技の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第14回	**武道の指導実践** 学習指導要領における武道の内容について理解する。 武道の授業づくり・教材づくりについて理解する。	武道の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第15回	**ダンスの指導実践** 学習指導要領におけるダンスの内容について理解する。 ダンスの授業づくり・教材づくりについて理解する。	ダンスの先行研究要約と発表資料作成	4時間
第16回	**保健体育科各領域の特徴** 前期の振り返りを行う。（保健体育科の各領域の特長） 後期の講義計画についてについて理解する。 研究計画の修正を行う。	研究計画の修正案作成	4時間
第17回	**運動部活動の歴史** 運動部活動の始まりについて理解する。 運動部活動の変遷について理解する。 学習指導要領の位置づけについて理解する。	運動部活動に関する資料の収集	4時間
第18回	**運動部活動の課題** 指導面の課題について理解する。 運営面の課題について理解する。 制度面の課題について理解する。	運動部活動の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第19回	**運動部活動の指導計画** 運動部活動の指導内容について理解する。 運動部活動の評価規準について理解する。 運動部活動の指導計画案について理解する。	運動部活動指導の先行事例の要約と指導計画案作成	4時間
第20回	**特別活動の歴史と現状の課題** 特別活動の変遷について理解する。 学習指導要領の位置づけについて理解する。 現状の課題について理解する。	特別活動の先行研究要約と発表資料作成	4時間
第21回	**特別活動の指導計画** 運動会の指導計画を作成する。 体育・スポーツ大会の指導計画を作成する。 宿泊行事の指導計画を作成する。	特別活動の指導計画案作成	4時間
第22回	**論文の書き方と研究計画**	論文作成に関する資料を調べる	4時間

	先行研究を読み取る。 論文の構成を理解する。 論文のタイプについて理解する。		
第23回	**文献・資料研究** 引用文献の示し方・引用文の作成法を理解する。 文献リストの記載方法を理解する。 先行研究の提示方法を理解する。	論文執筆要項に関する先行事例調査	4時間
第24回	**保健体育の授業研究** 研究課題の設定について理解する。 研究の方向性について理解する。 文献調査方法を理解する。	保健体育の授業に関する資料収集	4時間
第25回	**特別活動・運動部活動研究** 研究課題の設定方法を理解する。 研究の方向性を理解する。 文献調査方法を理解する。	特別活動・運動部活動に関する資料収集	4時間
第26回	**研究論文の内容理解** 論文の章立てについて理解する。 キーワード・リード文について理解する。 体育・スポーツに関する論文の内容を理解する。	授業研究に関する小レポート作成	4時間
第27回	**研究論文の要約** 論文の構成を理解する。 調査方法を理解する。 研究論文を要約する。	関連する論文を要約する。	4時間
第28回	**研究論文のプレゼンテーション** 研究論文の内容について理解する。 研究論文を要約して、その内容を発表する。	研究論文に関するプレゼンテーション資料作成	4時間

1-4-3

授業科目名	学校スポーツ演習（川合）				
担当教員名	川合　英之				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長までを歴任（12年）、元水球競技日本代表コーチ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全２８回）				

授業概要

本講義では、保健体育科教育学について深く学ぼうとするゼミ学生が基本的に習得しなければならない内容を中心に学修する。受講生が課題・論文等を要約した資料を作成して発表を行い、他の受講生の質疑を受けるスタイルで授業を進め、学習者が相互に理解を深め合う。
また、研究についての理解を深めるため、先行研究、各種文献などを調べ、研究の進め方、視点、具体的方法の検討、結論の導き方などについて理解するとともに、その発表方法についても習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	保健体育科教育学の理解	保健体育科教育学領域で学ぶべき内容を理解し説明できる。
2 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	研究論文の理解	保健体育科教育学や学校教育に関する研究論文等を精読し、内容の要約と問題点の指摘ができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な授業の実践力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時のコメントカード	56%	： 2点×28回 講義内容及び意見・感想をまとめている。
課題発表	32%	： 4点×8回 4点：内容・発表がよく理解できる。3点：内容・発表が理解できる。2点以下：内容・発表を行った。
課題レポート	12%	： 12点～10点：指定の形式に沿って独自の視点で書かれている。 9点以下：指定の形式に沿って書かれている。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高橋健夫	新版体育科教育学入門	大修館書店	2010年

参考文献等

学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
保健体育科教員を目指す学生として、最低限学んでおかなければならない項目や内容の検討を中心に学習していくため、主体的に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー

場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**保健体育科教育学の性格と領域** 保健体育科教育学とはどのような学問か、保健体育科教育学ではどのような研究が行われるのか、保健体育科教育学で何を学ぶのかについて学修する。	保健体育科教育の領域について発表の準備を行う。	4時間
第2回	**保健体育科教育を取り巻く制度的条件** 教育制度とは何か、教育課程に関連する法令、教師教育に関する法令、スポーツの振興、子どもの体力向上に関する施策について学修する。	教育制度について発表の準備を行う。	4時間
第3回	**保健体育と学習者** 子どもの運動に対する欲求とその変化、子どもの運動に対する態度とパーソナリティの関係、子どもの体力と運動技能の発達について学修する。	子どもの運動について発表の準備を行う。	4時間
第4回	**保健体育の目標と内容** 保健体育の目標の設定構造、学習指導要領における目標の変遷、先進諸国における保健体育の目標、保健体育の目標と内容領域について学修する。	学習指導要領について発表の準備を行う。	4時間
第5回	**保健体育のカリキュラムの構成** カリキュラムと教育課程、カリキュラム構成法、学校体育のカリキュラムの基準としての学習指導要領、新学習指導要領における保健体育のカリキュラムについて学修する。	保健体育科のカリキュラムについて発表の準備を行う。	4時間
第6回	**よい体育授業の条件** よい体育授業とは、二重構造で成り立つよい体育授業の条件、よい体育授業のための基礎的条件、よい体育授業のための内容的条件について学修する。	よい体育授業とはどのようなものか、発表の準備を行う。	4時間
第7回	**保健体育の教材・教具論** 教材・教具とはなにか、教材づくりの基本的視点、単元教材の創出、教材のサイズ、教材の機能を高める「教具づくり」について学修する。	教材・教具について発表の準備を行う。	4時間
第8回	**保健体育の学習指導論** 学習指導論の問題領域、学習指導の多様性、ストラテジーとしての学習指導について学修する。	学習指導の多様性について発表の準備を行う。	4時間
第9回	**保健体育の学習形態論** 学習形態の考え方、保健体育の学習形態論、これからの学習形態の考え方について学修する。	保健体育授業の学習形態について発表の準備を行う。	4時間
第10回	**保健体育の学習評価** 保健体育の学習評価をめぐる課題、学習評価の考え方、体育における目標に準拠した学習評価の視点、学習指導があっての学習評価について学修する。	保健体育科の学習評価について発表の準備を行う。	4時間
第11回	**保健体育の授業評価** 保健体育の授業評価、授業評価の具体的な方法、授業評価を活用した研修の進め方について学修する。	保健体育科の授業評価について発表の準備を行う。	4時間
第12回	**モニタリングと相互作用技術** モニタリング、相互作用技術ついて学修する。	モニタリングと相互作用について発表の準備を行う。	4時間
第13回	**マネジメント方略** 学習の勢いとマネジメント、授業で問題になるマネジメント場面、子どものマネジメント行動、マネジメント方略、効果的なマネジメント技術について学修する。	授業のマネジメントについて発表の準備を行う。	4時間
第14回	**インストラクション方略** インストラクション（学習指導）、「はじめ」の場面におけるインストラクション、「なか」の場面におけるインストラクション、「まとめ」の場面におけるインストラクション、効果的なインストラクションに必要な教師の技量について学修する。	インストラクションについて発表の準備を行う。	4時間
第15回	**運動有能感を高める指導方略** 運動有能感、運動有能感を高める指導方略の考え方、運動有能感を高める指導方略の具体例、 生涯スポーツをめざす体育と運動有能感を高める指導方略について学修する。	運動有能感について発表の準備を行う。	4時間
第16回	**単元計画（ユニットプラン）の作成** 学習指導計画を作成する意義、単元計画を作成する際のポイント、単元計画の基盤となる学習指導過程の工夫について学修する。	単元計画を作成し発表の準備を行う。	4時間
第17回	**授業計画（デイリープラン）の作成** 授業計画（デイリープラン）、授業計画の作成手順について学修する。	授業計画を作成し発表の準備を行う。	4時間
第18回	**選択制授業の授業づくり**	選択制授業の具体例を調べ発表の準備を行う。	4時間

	選択制授業、選択制授業の具体化、選択制授業の留意点、選択制授業の例について学修する。		
第19回	**体ほぐしの運動の教材づくり・授業づくり** 体ほぐしの運動、体ほぐしの運動の授業づくりの視点、体ほぐしの運動で取り扱われている教材例、体ほぐしの単元計画・学習指導案と授業のシナリオについて学修する。	体ほぐし運動の指導案を作成し発表の準備を行う。	4時間
第20回	**体力を高める運動の教材づくり・授業づくり** 子どもの体力低下と体育授業、体力を高める運動の運動例と展開例、体力を高める運動の単元計画例と実施にあたっての留意点、学習指導案例とシナリオについて学修する。	体力を高める運動の指導案を作成し発表の準備を行う。	4時間
第21回	**器械運動の教材づくり・授業づくり** 器械運動の授業、器械運動の学習指導のポイント、器械運動の単元づくりについて学修する。	器械運動の指導案を作成し発表の準備を行う。	4時間
第22回	**陸上運動（競技）の教材づくり・授業づくり** 新学習指導要領における陸上運動系領域の内容、陸上運動系の授業づくり・教材づくり、授業実践例について学修する。	陸上運動（競技）の指導案を作成し発表の準備を行う。	4時間
第23回	**武道の教材づくり・授業づくり** 武道の授業づくりの視点、柔道・剣道の授業づくり（中学１・２年）、柔道・剣道の単元づくりについて学修する。	武道の指導案を作成し発表の準備を行う。	4時間
第24回	**ダンスの教材づくり・授業づくり** 表現運動・ダンス、運動の特性と学習指導、表現・創作ダンスの学年別指導内容と計画、学習の進め方、指導案とシナリオについて学修する。	ダンスの指導案を作成し発表の準備を行う。	4時間
第25回	**体育理論の教材づくり・授業づくり** 体育理論の学習内容、体育理論の単元づくり、体育理論の題材設定と発問づくり、体育理論の発展について学修する。	体育理論の指導案を作成し発表の準備を行う。	4時間
第26回	**支援を必要とする児童・生徒の体育の授業づくり** 支援を必要とする児童・生徒に対する教育の意味と意義、授業準備段階で求められる配慮、授業実践段階で必要な配慮について学修する。	支援を必要とする児童・生徒の体育の授業づくりについて発表の準備を行う。	4時間
第27回	**卒業研究の領域と課題設定・研究方法に関して** 各自が興味を持った過去の卒業研究を読み、その概要と問題点を発表する。	過去の卒業研究を調べ課題設定について発表の準備を行う。	4時間
第28回	**卒業研究課題の発表と検討** 各自の卒業研究テーマと動機・目的・方法を発表する。効果的なプレゼンテーション方法検討する。	卒業研究テーマと動機・目的・方法について発表の準備を行う。	4時間

1-4-3

授業科目名	学校スポーツ演習（大西）				
担当教員名	大西　祐司				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習科目				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校での体育専科講師の経験を踏まえ、実践的な取り組みを行う。				

授業概要

1年間をかけて、自身のスポーツに関する興味関心や疑問を手掛かりに、教師に求められる専門的知識や実践的指導力の基礎を培っていく。前期では、教師に求められる実践的指導力を向上させるために、それぞれの専門種目に関するマイクロティーチングを中心とした活動を行う。後期では、4年次の卒業研究に向け、興味のある論文や書籍を読み進め、周辺的知識を蓄え、仲間と共有する。最終的には、ミニ卒論として研究テーマを定め、卒業研究に向けた論文の作成し、発表を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	マイクロティーチング	一人で体育授業を計画・実施することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	関連書籍や論文の検索と閲読	興味関心のある領域の知識を身に付ける。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な、授業の実践力を身に付ける。
4 ．DP11.忠恕の心	マイクロティーチング、ミニ卒論	主体的かつ協働的に活動に取り組むことができる。

学外連携学修

有り　（連携先：関西体育授業研究会、全国体育授業研究会）

授業方法

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
マイクロティーチング	30%	： マイクロティーチングの計画と実施を30点満点で評価する。
ミニ卒論	40%	： ミニ卒論の作成と発表を40点満点で評価する。
活動への取り組み	30%	： 主体的かつ協働的な取り組みを30点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

岡出美則ほか（2021）体育科教育学入門 三訂版（大修館書店）
適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教師は専門的な知識や実践力はもちろんのこと、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、仲間やチームに対応する力も求められます。教師を目指す仲間とともに切磋琢磨して学びましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜2限
場所：　大西研究室（B206）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：目標の設定、役割分担** 本講座（前期）の目標と計画を確認する	なりたい教師像について考えてくる	4時間
第2回	**マイクロティーチングの実施計画①** 自身の専門種目の資料の読み込む	該当する専門種目の資料収集	4時間
第3回	**マイクロティーチングの実施計画②** マイクロティーチングの単元計画の作成を行う	学習指導要領の確認	4時間
第4回	**マイクロティーチングの実施計画③** マイクロティーチングの指導案の作成を行う	マイクロティーチングの指導内容の立案	4時間
第5回	**マイクロティーチングの実施計画④** マイクロティーチングのシナリオ作成を行う	シナリオを考える	4時間
第6回	**マイクロティーチングの実施とリフレクション⑤** マイクロティーチングを実施し、リフレクションを行う	リフレクションの観点の確認	4時間
第7回	**体育の教材・教具論** 教材・教具の必要性を理解する	既存の教材・教具に関する情報収集	4時間
第8回	**体育の学習指導論** 学習指導の多様性について理解する	経験した学習指導の振り返り	4時間
第9回	**体育の学習評価** 学習評価の現状と課題について理解する	自身の学習評価の振り返り	4時間
第10回	**体育の授業評価** 授業評価の意義について理解する	組織的観察法について復習する	4時間
第11回	**器械運動の教材・授業づくり** 器械運動の教材を知る	器械運動の典型教材を調べる	4時間
第12回	**球技の教材・授業づくり** 球技の教材を知る	球技の典型教材を調べる	4時間
第13回	**ダンスの教材・授業づくり** ダンスの教材を知る	ダンスの典型教材を調べる	4時間
第14回	**前期のまとめ：マイクロティーチング、教材・教具** よい体育授業の条件について考える	これまでに書いた指導計画を読み持参する	4時間
第15回	**オリエンテーション：目標の設定、役割分担** 本講座（後期）の目標と計画を確認する	過去の卒業論文を読んでくる	4時間
第16回	**卒業論文について①** 文献の収集方法を知り、関連論文を収集する	興味のある研究キーワードを考える	4時間
第17回	**卒業論文について②** キーワードにそって関連論文の抄録を作成し、紹介する	文献をファイリングする	4時間
第18回	**卒業論文について③** 別のキーワードで関連論文の抄録を作成し、紹介する	文献をカテゴリー分けする	4時間
第19回	**卒業論文について④** 関連論文をまとめ文献リストを作成する	文献リストを完成させる	4時間
第20回	**卒業論文について⑤** 収集した関連論文をもとにミニ卒論のテーマを設定する	必要に応じて文献を追加する	4時間
第21回	**卒業論文について⑥** ミニ卒論の研究計画を立てる	研究計画の完成	4時間
第22回	**卒業論文について⑦** 論文の書き方を知る	論文の書き方についてまとめる	4時間
第23回	**卒業論文について⑧** ミニ卒論を作成する	必要に応じて文献を追加する	4時間
第24回	**卒業論文について⑨** ミニ卒論の読み合わせを行う	ミニ卒論を修正する	4時間
第25回	**卒業論文について⑩** ミニ卒論を完成させる	ミニ論文の遂行	4時間
第26回	**ミニ卒論発表会に向けて①** 発表のためのプレゼンテーションの資料を作成する	プレゼンテーションの完成	4時間
第27回	**ミニ卒論発表会に向けて②** 発表のためのシナリオをつくって練習する	シナリオの完成	4時間
第28回	**ミニ卒論発表会** ミニ卒論発表会の実施と振り返りを行う	発表の振り返り	4時間

1-4-3

授業科目名	学校スポーツ演習（髙松）				
担当教員名	髙松　靖				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ運動学の視点から体育授業について深く学ぼうとするゼミ学生を対象として、基本的に習得すべき内容を学び考える。基本的には、教員からの講義を聴講し受講生がそれぞれの考えを発表し、他の受講生の質疑を受けながら授業を進め、当該の内容について学習者が共通して理解を深めていくようにする。後期の途中から、卒業研究への取組に関する学習と各自の研究テーマについての検討も行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	運動学習の構造理解	運動学習における位相構造や運動の構造について理解することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	発生論的運動学の理解	運動学習・指導の場面における問題を発生論的運動学的視点に立ち、考えることができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な、授業の実践力を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎時の小レポート	50%	： 授業内で学習した発生論的運動学の理論を理解できているか小レポートで評価します。
課題プレゼンテーション	30%	： 過去の卒業研究を要約し、各自の考えを述べられているか課題発表で評価します。
最終レポート	20%	： 各自の卒業研究テーマの課題意識を述べられているか最終レポートで評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

マイネル．K　著　スポーツ運動学（大修館書店）
金子明友　著　身体知の形成上・下（明和出版）
高橋健夫　編著　体育科教育学入門（大修館書店）
金子明友　著　身体知の構造(明和出版)
金子明友　著　スポーツ運動学（明和出版）
金子明友　著　わざ伝承の道しるべ（明和出版）

履修上の注意・備考・メッセージ

本講義は、通年4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
保健体育科教員を目指す学生として、最低限学んでおかなければならない項目や内容の検討を、運動学的視点から学習していく予定ですので、主体的に取り組んで欲しいと思っています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜2限（10:30-12:10）

場所：　髙松研究室（B205）

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ運動学の性格と領域** スポーツ運動学とはどのような学問か、どのような研究が行われるのかを学習する。	各自、スポーツ運動学の要約	4時間
第2回	**始原論的構造分析** 鋳型化始原分析とは、モザイク化始原分析とは、構築化始原分析とは何かを学習する。	各自、始原論的構造分析の要約	4時間
第3回	**体系論的構造分析ー構造化体系分析についてー** 類化形態体系分析とは、類型化形態体系分析とは、構造化形態体系分析とは何かを学習する。	各自、体系論的構造分析の要約	4時間
第4回	**体系論的構造分析ー動感言語の体系についてー** 動感言語の体系論、体系論の縁取り分析とその方法について学習する。	各自、体系論的構造分析の要約	4時間
第5回	**地平論的構造分析** 動感創発地平分析とは、動感促発地平分析とは何かを学習する。	各自、地平論的構造分析の要約	4時間
第6回	**動感創発地平分析** 形態化地平分析とは、修正化地平分析とは、自在化地平分析とは何かを学習する。	各自、動感創発分析の要約	4時間
第7回	**動感促発地平分析①素材化地平分析** 観察地平分析とは、交信地平分析とは、代行地平分析とは何かを学習する。	各自、素材化地平分析の要約	4時間
第8回	**動感促発地平分析②処方化地平分析** 道しるべ地平分析とは、動感提示地平分析とは、促発起点地平分析とは何かを学習する。	各自、処方化地平の要約	4時間
第9回	**スポーツ運動学の性格と領域役割と課題** スポーツ運動学の役割、身体知分析論の問題性、指導者養成の諸問題について学習する。	各自、スポーツ運動学の役割と課題について要約	4時間
第10回	**運動学習の意味について** 体育で何を学習するのか、活動内容としての運動学習、運動学習とその基礎理論、運動学習指導に求められるものについて運動学的視点から学習する。	各自、運動学習の意味について要約	4時間
第11回	**運動学習と授業研究を考える** 授業研究で問題となること、運動学習指導のあり方について運動学的視点から学習する。	各自、運動学習と授業研究について要約	4時間
第12回	**動きに構造を見つける** 動きの先取りを見つける、動きに系統性を見つける、動きの違いを見つける、修正の仕方を見つける	各自、動きの構造について要約	4時間
第13回	**動きかたを覚えさせるー初心者に動きを教えるためにー** 動きかたはどのように覚えるのか、覚えるのにどんな情報が必要か、指導ポイントをどうとらえるかについて運動学的な視点から学習する。	各自、動き方の指導について要約	4時間
第14回	**動きかたを覚えさせるー子どもの動きの指導についてー** 意欲的に覚えさせるにはどうするか、新しい動きかたにどう取り組ませるか、子どもの動きの可能性をどう引き出し伸ばすかについて運動学的視点から学習する。	各自、動き方への取り組み方について要約	4時間
第15回	**学習指導案を考える** スポーツ運動学の考え方を基に学習指導計画について考える、単元計画を作成する際のポイント、単元計画の基盤となる学習指導過程についての要約をする。	各自、学習指導案について検討する	4時間
第16回	**授業計画の作成** スポーツ運動学の考え方を基に計画を考える、授業計画の作成手順について学習する。	各自、授業計画を作成する	4時間
第17回	**スポーツ運動学の考え方を基にした体ほぐしの運動** 体ほぐし運動とは、体ほぐしの運動の授業づくりについて学習する。	各自、体ほぐし運動についての要約	4時間
第18回	**スポーツ運動学の考え方を基にした器械運動（マット運動）** 器械運動の学習指導に必要な情報、マット運動の特性、前転ファミリー、後転ファミリーの指導について学習する。	各自、器械運動についての要約	4時間
第19回	**スポーツ運動学の考え方を基にした器械運動（とび箱運動）** とび箱の特性、きり返し系、回転系の指導について学習する。	各自、とび箱運動についての要約	4時間
第20回	**スポーツ運動学の考え方を基にした器械運動（鉄棒運動）** 鉄棒運動の特性、鉄棒指導のポイント、技の系統性・段階性について学習する。	各自、鉄棒運動についての要約	4時間
第21回	**スポーツ運動学の考え方を基にした陸上運動（短距離走・走幅跳・ハードル走・走高跳）** 短距離走・走幅跳・ハードル走・走高跳の目標、個に応じた学習指導の実践例について学習する。	各自、陸上運動についての要約	4時間
第22回	**スポーツ運動学の考え方を基にした陸上運動（投運動）** 投運動の指導について、初心者指導の実践例について学習する。	各自、陸上運動（投運動）についての要約	4時間
第23回	**スポーツ運動学の考え方を基にした武道** 武道とはどんな運動なのか、武道の授業視点について学習する。	各自、武道についての要約	4時間
第24回	**スポーツ運動学の考え方を基にしたダンス**	各自、ダンスについての要約	4時間

	ダンスとは、ダンス学習指導のあり方について学習する。		
第25回	**卒業研究における先行研究の検討** 自身が興味を持っている分野についての先行研究となる文献を読み，自身が読んだ先行研究の批判的検討を行う。	先行研究を読み，批判的検討．各自の発表領域の要約と発表資料作成	4時間
第26回	**卒業研究における研究方法について** 卒業研究を行うにあたっての研究方法を学ぶ、スポーツ運動学の考え方を改めて確認する。	発表資料作成	4時間
第27回	**卒業研究の領域と課題設定** 各自が興味をもった過去の卒業研究を読み、その概要と問題点を発表する。	過去の卒業研究を読んで内容の要約と評価を行い、発表用のしりょうを作成	4時間
第28回	**卒業研究課題の発表と検討** 各自の卒業研究テーマと動機・目的・方法を発表、効果的なプレゼンテーション方法の検討を行う。	各自の卒業研究テーマと課題意識を発表するための資料を作成する。	4時間

1-4-3

授業科目名	学校スポーツ演習（股村）				
担当教員名	股村　美里				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究に向けた基礎的力量を養う。基本的な研究方法を学ぶとともに、各自の研究テーマを定め、関連する先行研究を適切に探索し、レビュー・レポートする。
その作業に基づいて、卒業研究として論文にまとめる準備を進めていくこととする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	学校保健に関する知識	現代社会における児童生徒の健康課題についての知識を身につける
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	中学校・高等学校における保健体育科に関する知識	発達発育段階に応じた教育的支援と環境的支援のあり方についての知識を身につける
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践	保健体育教員に必要な、授業の実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート課題	25%	： 授業内容を踏まえた記述ができているか評価する
担当課題発表	25%	： 与えられたテーマに基づいて、文献レビューあるいは研究を進め、プレゼンテーションを行う。教員を含めた相互評価により評価する。
最終レポート	25%	： 与えられたテーマに基づいて、指定された形式で論理的な文章が書けているか、評価する。
研究計画書	25%	： 一連の学修を踏まえ、卒業研究に向けた研究計画書が実現可能な形で記述できているかどうか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度、書物、論文、視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）、ホームページなど適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

ガイダンスの時に、1年後の自分の達成目標について明記してもらいます。この講義を通じて、その各々の達成目標がどの程度実現できているか。それは皆さんの主体的な参加にかかっています。それにあたり、指導者としてのサポートをしていきますので、オフィスアワー等を活用し、次年度の卒業研究に向けて準備を進めてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　股村研究室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**（前半）【第１部】学校保健における研究とは①ガイダンスと未来予想図の策定** 本演習の全体の内容を把握し、年間を通じた長期目標および半年の中期目標、１か月ごとの目標を立てる	自らの関心のあるテーマについて、なぜ関心があるのか説明できるように準備をして次回の演習に臨むこと	4時間
第2回	**②各自の研究課題の方向性の探索** 各自の興味のある研究課題について発表し、方向性を探る	各自の興味のある研究課題について発表し、受講者相互で議論されたものを記録しておくこと。	4時間
第3回	**③卒業研究論文例の紹介** ゼミにおける過年度生の卒業論文のテーマやその内容についてレビューする	過去の卒業論文について検索し、紹介できるように準備する。さらにそこで得られた疑問やアイデアを記録しておく。	4時間
第4回	**【第２部】文献購読の実施①文献検索の方法** 具体的な文献（日本語論文）検索方法について、演習形式で学ぶ。	自らの興味関心のあるテーマについて、適切な文献の検索ができるようになること。	4時間
第5回	**②学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第6回	**③学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第7回	**④学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第8回	**⑤学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第9回	**⑥学校保健領域における先行研究のレビュー** 学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。	文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。	4時間
第10回	**【第３部】各自の研究課題構想①文献収集の準備** 自ら調べたいテーマを確定させ、検索ワードをいくつか定めること。	先行研究に徹底的にあたることによって、これまで何が明らかにされていて何がわかっていないのか明文化すること。	4時間
第11回	**②文献収集の実施** 自らの調べたいテーマにおける検索ワードをもとに、文献検索を行い、文献収集を進める。	収集した文献は、適宜整理しながら、知見をまとめ、先行研究のリストとしてまとめる	4時間
第12回	**③各自の研究課題構想の文章化** 先行研究の知見をもとに、自らが明らかにしたいテーマについての問題の所在を明文化するとともに、発表準備を行う。	先行研究の知見を履修者内で共有できるようにプレゼンテーションの準備を行う。またプレゼンテーションの準備として、複数の他者と議論し、意見交換を行うこと。	4時間
第13回	**【第４部】文献研究の共有　成果発表（１回目）** 各自の興味関心をもとに実施してきた文献レビューをもとに、その領域における研究の全体像を俯瞰する	文献レビューに基づく先行研究の知見を履修者内で共有する。発表の仕方や構成についても互いに評価を行う。	4時間
第14回	**中期課題の見直し－これまでの自分とこれからの自分－** 半年間の文献に基づいた先行研究の探索を振り返って、達成できたこと、まだ不足していることを明確にする	本演習を通して学んだことを振り返り、第１５回目の授業に向けた課題を自ら立てる	4時間
第15回	**（後半）【第１部】学校保健における研究とは　ガイダンスと卒業論文に向けた研究計画の立案** 第１４回までの文献購読で得られた知識をもとに、自らの研究テーマについて明確化する	自らの研究テーマについて履修者内で共有できるよう、レジュメの作成を行う	4時間
第16回	**【第２部】研究手法のいろいろ　①質的研究とは** 質的研究の特徴と実施にあたり必要なことを先行研究に基づいて学ぶ	質的研究を用いた先行研究について、共有できるよう準備しておくこと	4時間
第17回	**②量的研究とは** 量的研究の特徴と実施にあたり必要なことを先行研究に基づいて学ぶ	質的研究を用いた先行研究について、共有できるよう準備しておくこと	4時間
第18回	**③介入研究とは** 介入研究の特徴と実施にあたり必要なことを先行研究に基づいて学ぶ	介入研究を用いた先行研究について、共有できるよう準備しておくこと	4時間
第19回	**【第３部】各自の研究課題の設定①リサーチクエッションと用いるべき研究手法（１回目）** 自ら設定した研究テーマとその問題の所在を明確にして、問いを立てる。またその問いに答えるための方法について検討する。	各自の研究課題の問いを明文化すること。また、複数の人と議論を交わし、修正や改善を図ること	4時間

第20回	**②リサーチクエッションと用いるべき研究手法（２回目）** 自ら設定した研究テーマとその問題の所在を明確にして、問いを立てる。またその問いに答えるための方法について検討する。	自ら設定した研究テーマとその問題の所在を明確にして、問いを立てる。またその問いに答えるための方法について検討する。	4時間
第21回	**【第４部】卒業論文に向けた研究計画作成①仮説の立案** 「（前半）【第２部】文献購読」における先行研究の知見をもとに、仮説を立てる	卒業研究で明らかにしたい問題の「問い」について、履修者内で共有し、相互に議論検討する。	4時間
第22回	**②研究手法の決定** 「（後半）【第２部】研究手法のいろいろ」で学んだ研究手法の中から、立てた「問い」に答えるのに適切な手法を選ぶ	卒業研究で用いる研究手法について明確にし、履修者内で共有し、相互に議論検討する。	4時間
第23回	**③研究計画の策定（研究対象の決定）** 卒業研究を実施するに当たり、どのような対象に協力を依頼するべきか検討する。	実際に研究を実施するに当たって、実現可能な研究対象を明文化すること。またそれに当たって、必要な倫理的配慮や手順を適切に理解すること。	4時間
第24回	**④研究計画の策定（全体の振り返り）** 研究の問い、方法、対象、仮説について振り返るとともに、論理的に実現可能な研究計画が立てられているか確認する	研究計画の作成を行う。また次回以降のプレゼンテーションに向けた準備を実施する	4時間
第25回	**【第５部】研究計画の共有ープレゼンテーションの方法①** プレゼンテーションができるようパワーポイントの作成方法について学ぶ。	多数の他者にむけて研究計画が共有できるようパワーポイントの作成方法について学ぶ。見やすいわかりやすいパワーポイントの作成方法についての工夫を調べる	4時間
第26回	**研究計画の共有ープレゼンテーションの方法②** 研究計画が共有できるよう発表用パワーポイントを作成する。また、より伝わるプレゼンテーションの方法について学ぶ。	次回のパワーポイントの作成と発表のリハーサルを必ず行い、規定された時間内で発表が行えるよう準備しておくこと	4時間
第27回	**研究計画の共有ープレゼンテーションの実施①** 卒業論文作成へ向けて、履修者内で共有できるようにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを実施する	あらかじめパワーポイントの作成と発表のリハーサルを必ず行い、規定された時間内で発表が行えるよう準備しておくこと。また質疑応答に対応できるよう準備しておくこと	4時間
第28回	**研究計画の共有ープレゼンテーションの実施②** 卒業論文作成へ向けて、履修者内で共有できるようにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを実施する	あらかじめパワーポイントの作成と発表のリハーサルを必ず行い、規定された時間内で発表が行えるよう準備しておくこと。また質疑応答に対応できるよう準備しておくこと	4時間

1-6-3

授業科目名	**コーチング演習（渋谷）**				
担当教員名	渋谷　俊浩				
学年・コース等	3	開講時期	前後期	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本スポーツ協会上級コーチ（陸上競技）、日本陸上競技連盟男子マラソン・長距離コーディネーター（2016年～）・ランニング普及部副部長（2014年～）、日本学生陸上競技連合理事（2018年～）、関西学生陸上競技連盟ヘッドコーチ（2016年～）、などの実践経験を講義内容に結びつけている（全14回）				

授業概要

競技スポーツのコーチングに関するいくつかのテーマについて、実習・ディスカッション・文献講読等を通じて学修することにより、卒業研究（研究論文）執筆に向けて導入的な内容とする。
前期は共通テーマについて実験・調査等を行い、その結果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。
後期は個別テーマについて実験・調査等を行い、その結果を短編論文にまとめ、プレゼンテーションを行う。
また、年間を通じて4年次生（他ゼミ含む）の卒業研究の実際（発表会含む）動向を観察し、自身の視野を広げ、知識を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	競技スポーツ・コーチングに関する理論の理解	競技スポーツ・コーチングに関する理論を理解し、説明することができる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	競技スポーツにおけるコーチング理論の実践	コーチング（トレーニング含む）計画を立案し、自身もしくは他者に対してコーチングを実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

コース卒業研究中間発表会（10月）、最終卒業研究発表会（2月）への参加を必須とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
共通テーマのレポート	25%	：コーチングに関する基礎理論をふまえた、共通テーマの理解度を25点満点で評価します。
プレゼンテーション1	15%	：プレゼンテーションの内容（作法・表現力等）を15点満点で評価します。
各自テーマの短編論文	40%	：コーチングに関する基礎理論をふまえた、各自テーマの独創性・理解度・論理性等を40点満点で評価します。
プレゼンテーション2	20%	：プレゼンテーションの内容（作法・表現力・論理性等）を20点満点で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

テーマ別に随時紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 連絡等はメール（shibutani@bss.ac.jp）で行います。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびコーチングの現状の確認** 授業スケジュール・課題等を確認する。 コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。	コース専門科目等の資料・ノートをまとめ、整理しておく。これまでに学修した内容を、自身のスポーツ現場で実践する。（担当コーチとのディスカッション）	4時間
第2回	**基礎理論の理解** コーチングにかかわる様々な基礎理論を確認し、理解する。 コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。	これまでに学修したスポーツ・コーチングに関わる理論について内容をまとめ、整理しておく。自身のスポーツ現場で実践する。（担当コーチとのディスカッション）	4時間
第3回	**文献講読** テーマにかかわる様々な研究・文献に触れる。	テーマに関わる研究論文・学術文献をライブラリー・検索ソフトを用いて講読しておく。自身のスポーツ現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第4回	**ディスカッション** 取り組むテーマについて全員でディスカッションする。	ディスカッションで受けたアドバイス・意見をまとめ、課題への理解を深める。自身のスポーツ現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第5回	**前期課題の理解** 提示されたテーマについて理解を深め、取り組みを開始する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	研究の進め方を理解し、計画立てって進めていく。自身のスポーツ現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第6回	**先行研究・文献調査** 提示された課題について、先行研究及び文献を調査するなど、取り組みを開始する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	研究に関わる研究論文・学術文献をライブラリー・検索ソフトを用いて講読しておく。自身のスポーツ現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第7回	**調査のまとめ** 論文・文献の要約集を作成する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	自身が作成した論文・文献要約集を熟読し、課題について十分理解を深め、調査等の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第8回	**研究の実践（アンケート調査等）** アンケートを作成するなど、調査等を開始する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	調査を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第9回	**中間報告** 資料等を基に、進捗状況を報告する。	報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、研究を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。	4時間
第10回	**研究の実践（結果の整理）** 調査結果を整理する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	得られたデータをについて検討を加え、研究を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第11回	**研究の実践（結果の分析）** 得られた結果について分析を加える。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	研究結果をまとめ、レポートを作成していく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第12回	**研究のまとめ（レポート作成）** 発表用レポートを作成し、発表の準備をする。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	結果報告会の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第13回	**結果報告会** 取り組みの結果を全員に報告し、ディスカッションする。	報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、後期課題について構想を練っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第14回	**前期のまとめ（後期課題設定）** 前期の授業内容を総括する。	取り組みの成果をまとめ、資料として残しておく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。	4時間
第15回	**ガイダンスおよびスポーツ界の動向把握**	スポーツ界の動向について理解し、各自のテーマを構想しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間

	後期の授業スケジュール・課題等を確認する。 今期に行われた主要大会の結果等を把握し、今後のコーチングに活かす方策を検討する。 コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。		
第16回	**研究発表会の聴講（基礎理論の理解）** 研究発表会を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。 コーチングにかかわる様々な基礎理論を確認し、理解する。 コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。	自身の研究に関わる研究論文・学術文献をライブラリー・検索ソフトを用いて講読しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第17回	**研究発表会の聴講（文献講読）** 研究発表会を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。 各自研究にかかわる様々な研究・文献に触れ、要約集を作成する。	自身が作成した論文・文献要約集を熟読し、課題について十分理解を深め、調査等の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第18回	**ディスカッション** 各自研究について全員でディスカッションする。	ディスカッションで受けたアドバイス・意見をまとめ、研究テーマを絞っていく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第19回	**研究テーマの設定** これまでの学修内容をふまえ、各自の研究テーマを設定する。	研究の工程を検討し、研究を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第20回	**各自研究（調査・実験等）** 各自で設定したテーマについて、調査・実験を開始する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	データを整理し、まとめておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第21回	**各自研究（結果の整理等）** 得られた結果を整理する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	データをまとめ、中間報告会の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第22回	**各自研究中間報告** 資料等を基に、進捗状況を報告する。	報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、研究を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。	4時間
第23回	**各自研究（結果の分析・考察等）** 得られた結果について分析し、考察を加える。並行して、スポーツ現場での実践を行う。	結果をまとめ、短編論文の執筆を始める。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第24回	**各自研究（結果報告・レポート提出）** 個人研究の結果を全員に報告し、まとめのレポートを提出する。プレゼンテーションの準備をする。	自身のレポートを熟読し、プレゼンテーションの準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第25回	**各自研究（結果発表・プレゼンテーション）** 一人ずつ、各自の研究成果をプレゼンテーションする。	プレゼンテーションで受けたアドバイス・意見をまとめ、これまでの取り組みを振り返っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第26回	**研究発表会の聴講（卒業研究実施へ向けて：テーマの模索）** 研究発表会を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。 3年間の学修内容を総括し、各自の卒業研究テーマを模索する。	卒業研究のテーマを模索する。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第27回	**研究発表会の聴講（卒業研究実施へ向けて：テーマの設定）** 研究発表会を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。 3年間の学修内容を総括し、各自の卒業研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマを設定する。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）	4時間
第28回	**授業のまとめ（卒業研究の進め方）** 3年間の学修内容を総括し、各自の卒業研究の行程を検討・設定する。	卒業研究の工程を検討し、研究行うための準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。	4時間

1-6-3

授業科目名	コーチング演習（林弘典）				
担当教員名	林　弘典				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005年～現在）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

コーチングにおける対象者の目的と方法を明確にすることの重要性を学ぶ。具体的には、対象者（履修者）が卒業後の進路やインターンシップ実習先の目的を明確にすることを通して学ぶ。また、自分の長所や短所を理解することを通してセルフコーチングを学ぶ。さらに、スポーツ活動史を作成することによって、今までの自分のスポーツ活動を振り返りながら、コーチングにおける振り返ることの重要性を学ぶ。授業内の発表やレポート作成を通して論理的思考能力や文章作成能力、プレゼンテーション能力を高めることの重要性を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	毎回の授業におけるに発表	コーチングに必要なプレゼンテーション能力を高めることができる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	スポーツ活動史の作成	コーチングにおける振り返る能力や文章作成能力を高めることができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	卒業後の進路やインターンシップ実習先における目的と方法の明確化	コーチングに必要な目的と方法を明確する能力を高めることができる。
4 ．DP11.忠恕の心	セルフコーチング	自分の長所や短所を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表	56%	： 毎回の授業における質問に対する発言内容の妥当性について5段階で評価する（2点×28回=56点）。
レポート	44%	： 第28回にスポーツ活動史のレポートの完成度（表紙・目次・ページなどの体裁、分量、内容等）について5段階で評価する（44点）。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、研究における目的と方法の重要性** 研究論文の構成を通して目的と方法の重要性を学習する。	シラバスを熟読する。研究（科学論文）とは何かについて調べる。	4時間
第2回	**研究における主観的分析** 自分の長所と短所をテーマにして主観的分析を学習する。	自分の長所と短所について書き出してまとめる。	4時間
第3回	**研究における客観的分析** 自分の長所と短所をテーマにして客観的分析を学習する。	自分の長所と短所について家族や友人に聞いてまとめる。	4時間
第4回	**研究における目的設定：卒業後の進路をテーマとして** 卒業後の進路（目的）をテーマにして目的の適切な設定を学習する。	卒業後の進路について具体的に考えてくる。また、その動機について考えてくる。	4時間
第5回	**研究における目的設定：インターンシップ実習をテーマとして** インターンシップ実習先（目的）をテーマにして目的の適切な設定を学習する。	インターンシップ実習先について具体的に考えてくる。また、その動機について考えてくる。	4時間
第6回	**研究における目的設定：インターンシップ実習のエントリーシートを活用して** インターンシップ実習のエントリーシートを活用して目的の適切な設定を学習する。	インターンシップ実習のエントリーシートに記入する。	4時間
第7回	**研究における目的設定の検証** 各ゼミ生が検討した卒業後の進路やインターンシップ実習先の目的の妥当性について議論する。	各ゼミ生の卒業後の進路やインターンシップ実習先の目的について質問を考えてくる。	4時間
第8回	**研究における方法設定：卒業後の進路をテーマとして** 卒業後の進路（目的）をテーマにして方法の適切な設定を学習する。	卒業後の進路を実現できる具体的な方法を検討してくる。	4時間
第9回	**研究における方法設定：インターンシップ実習をテーマとして** インターンシップ実習先（目的）をテーマにして方法の適切な設定を学習する。	インターンシップ実習先の目的を実現できる具体的な方法を検討してくる。	4時間
第10回	**研究における方法設定の検証** 各ゼミ生が検討した方法の妥当性について議論する。	各ゼミ生の卒業後の進路やインターンシップ実習先の目的を実現させる方法について質問を考えてくる。	4時間
第11回	**研究における体裁の重要性** インターンシップ実習のレポート様式を通して体裁の重要性を学習する。	インターンシップ実習の手引きや卒業研究の手引きを見て体裁を確認する。	4時間
第12回	**文献検索の方法** 図書館で文献検索の講習を受け、正しい文献の検索方法を学習する。	本学ホームページの図書館のサイトを見て図書館の利用のルールを確認する。	4時間
第13回	**研究の構成：インターンシップ実習をテーマとして** 過去のインターンシップ実習レポートを輪読し、研究の構成を学習する。	インターンシップ実習について本ゼミの4年生に話を聞く。	4時間
第14回	**研究の構成：過去のスポーツ活動史を通して** 過去のスポーツ活動史を輪読し、研究の構成を学習する。	スポーツ活動史について本ゼミの4年生に話を聞く。	4時間
第15回	**スポーツ活動史（小学校以前）** 小学校以前のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	小学校以前のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第16回	**スポーツ活動史（小学校1～2年生）** 小学校1～2年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	小学校1～2年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第17回	**スポーツ活動史（小学校3～4年生）** 小学校3～4年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	小学校3～4年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第18回	**スポーツ活動史（小学校5～6年生）** 小学校5～6年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	小学校5～6年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第19回	**スポーツ活動史（中学校1年生）** 中学校1年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	中学校1年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第20回	**スポーツ活動史（中学校2年生）** 中学校2年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	中学校2年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第21回	**スポーツ活動史（中学校3年生）** 中学校3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	中学校3年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第22回	**スポーツ活動史（高校1年生）**	高校1年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間

	高校1年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。		
第23回	**スポーツ活動史（高校2年生）** 高校2年生スポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	高校2年生スポーツ活動をまとめておく。	4時間
第24回	**スポーツ活動史（高校3年生）** 高校3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	高校3年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第25回	**スポーツ活動史（大学1年生）** 大学1年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	大学1年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第26回	**スポーツ活動史（大学2年生）** 大学2年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	大学2年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第27回	**スポーツ活動史（大学3年生）** 大学3年生のスポーツ活動大学時代3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。	大学3年生のスポーツ活動をまとめておく。	4時間
第28回	**スポーツ活動史（まとめ）** すべての時代のスポーツ活動を総括し、受けてきたコーチングを学習する。	小学校以前から大学3年生までのスポーツ活動を見直す。	4時間

1-6-3

授業科目名	**コーチング演習（望月）**				
担当教員名	望月　聡				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2005年からJFA日本サッカー協会指導者養成インストラクター。2014年からユニバーシアード日本女子サッカー代表監督等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

スポーツ選手を対象とした運動指導や，サッカー競技等のコーチング，ボールゲームを中心としたスポーツのゲーム分析・パフォーマンス分析を計画，実践する。そして卒業研究に向けた文献収集，文献レビューの作成，プレゼンテーション，スポーツとコーチングの実践，ゲーム分析・パフォーマンス分析の実際を行う.

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	サッカー競技のコーチングについて、コーチの実際の役割、資質、能力について理解できる。	コーチの必要とされる能力を理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	実践力ある選手作りについて講義・実践を通して理解できる。	選手を実際に伸ばすことのできるコーチングを体得できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

プレゼンテーションのために、予習や準備を必ずして下さい。プレゼンテーションとともに準備物も確認します。積極的な意見交換や質問も重要視します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	60%	： 3回のプレゼンテーション(20点×3回)60点 ・テーマに対して理解があり、論理的である。10点 ・テーマに対して自分の意見や考え、新しい視点がある。10点
期末レポート	40%	： 2回(前期・後期)の期末レポート(20点×2回) ・テーマに関する問題点や課題について、論理的に記述されている。10点 ・自身の考えや新たな視点での提言が、明確かつ論理的に記述されている。10点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ビデオを適宜使用する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・コーチ学の研究とは** 本演習について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法についてガイダンスを行う。研究ノートに、ノートの使用方法、まとめ方を指導する。また、コーチ学の研究について、例を紹介し、全体像を概観する。	コーチ学について基礎知識を調べておく。	4時間
第2回	**文献収集　検索ファイリング** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	図書館で興味ある先行研究を調べておく。	4時間
第3回	**レジュメ作成** 収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	収集した文献資料を読んでおく。	4時間
第4回	**グループA発表** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第5回	**グループB発表** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第6回	**スポーツの実践** サッカーの練習としても用いられるフットサル（５対５）を実践し、サッカーに必要な技術、個人戦術、グループ戦術について身体知として理解する。次回の質的分析を行うための動画撮影を行い、質的分析のための情報を収集する。	サッカー競技の実践を行うので、身体的な準備(運動)をしておく。	4時間
第7回	**質的分析、意見の集約方法①** フットサル（５対５）の実施動画を確認し、サッカーに必要な技術、個人戦術、グループ戦術について議論する。半構造化インタビューによりサッカーの戦術構造を構築する。質的分岐手法を経験し、身体知を形式知へ変換する過程を学習する。	競技を振り返り分析しておく。	4時間
第8回	**量的分析、データ収集方法①** フットサル（５対５）におけるサッカーの戦術構造に基づき、戦術行動を一つ定めてデータ収集を行う。実施動画を確認し、戦術行動の成否、本数、人数、状況などを記録する。得られたデータから考えられることを議論し、考察する。	前回の授業の内容を復習して、再度理解しておく。	4時間
第9回	**文献収集　ペアで検索ファイリング** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	図書館で興味ある文献を閲覧しておく。	4時間
第10回	**レジュメ作成　ペアで作成** 収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	収集した文献を読んで、まとめておく。	4時間
第11回	**グループA　発表と質疑応答** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第12回	**グループB　発表と質疑応答** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第13回	**競技に専門的な体力測定の実施** サッカーに専門な20m走、5*10mシャトルラン、３歩バウンディング、垂直跳びなどを実施する．スパイクまたはトレーニングシューズを持参する．サッカーフィールドにて計測を実施する。	実際にフィジカル測定をするので、運動を行い体力をつけておく。	4時間
第14回	**データの入力、基本統計量とグラフの出力** 体力測定のデータを入力する。得られたデータセットから平均値、標準偏差、最大値、最小値を算出する。各1回目と２回目による信頼性係数を算出する。各項目間の相関係数を算出する。項目間の散布図を作成する。得られたデータの解釈方法を解説し、理解を深める。	実際に測定したデータをどう活用するか、自分でまず考えておく。	4時間
第15回	**研究テーマの選択** 前期の文献収集等を踏まえ、各学生の研究テーマ・キーワードを仮決定する。	振り返りから、自分に興味あるテーマ設定を考えておく。	4時間

第16回	**研究計画を発表する** 前期までにそろえた資料と選択したテーマを基に，今後の研究計画を立て発表する．	仮決定したテーマについて、関連する文献を調べておく。	4時間
第17回	**別テーマ選択から文献収集** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。	4時間
第18回	**グループでレジュメ作成** 収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。	4時間
第19回	**グループA　グループで共同発表** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。	4時間
第20回	**グループB　グループで共同発表とまとめ** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。	4時間
第21回	**スポーツの実践　他の競技から分析** サッカー以外のスポーツを実践し，必要な技術、個人戦術、グループ戦術について身体知として理解する。次回の質的分析を行うための動画撮影を行い、質的分析のための情報を収集する。	実技を行うので、身体の準備と他のスポーツの特性について調べておく。	4時間
第22回	**質的分析、意見の集約方法　議論** スポーツの実施動画を確認し、必要な技術、個人戦術、グループ戦術について議論する。半構造化インタビューによりサッカーの戦術構造を構築する。質的分岐手法を経験し、身体知を形式知へ変換する過程を学習する。	競技を振り返り分析しておく。	4時間
第23回	**量的分析、データ収集方法　議論** サッカーなどのTV放映動画から，データ収集を行う。実施動画を確認し、戦術行動の成否、本数、人数、状況などを記録する。得られたデータから考えられることを議論し、考察する。	試合映像を見て、観るものの整理(組織化)をしておく。	4時間
第24回	**文献収集　時間制限あり** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	図書館で興味ある文献を閲覧しておく。	4時間
第25回	**レジュメ作成　討論つき** 収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。	4時間
第26回	**グループA・B　討論** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第27回	**次年度研究計画の立案** 次年度の卒業研究に向けたテーマの決定，準備，調査・実験計画，データ収集・解析，本文執筆などの計画を立案する．スケジュール表を作成する．	テーマについて再考して、自分で計画を立ててみる。	4時間
第28回	**次年度研究計画の発表　グループA・B** それぞれの研究計画を発表する。各学生5分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。2分間の質疑応答をへて、自分の計画に対する課題を認識する。他学生の発表を聴き、自身への参考とする。	発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間

1-6-3

授業科目名	**コーチング演習（北村）**				
担当教員名	北村　哲				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）、2018年度日本テニス協会S級エリートコーチ養成講習会講師				

授業概要

1.指導者の指導哲学、指導行動といった事例について調査し発表する。その過程から指導に必要な実践的な観点や知見を学ぶ。
2.自身の日々の選手および指導活動の振り返りを通して課題を明らかにするとともに改善および向上方法を見出す。PDCAサイクルのもと実践的なセルフコーチングおよび指導のための知見を得る。
3.卒論作成に向けた研究法を学びながら個人またはグループ調査と発表を数多く実施し、プレゼンテーション能力の向上を図る。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	実践的なコーチングに関する知識	コーチングに関する幅広い知識と指導者の経験や考え方などの思考の要因等について理解できる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	コーチングに関わる知識を発揮するための技能	学んだコーチングに関わる知識・情報を自身の競技生活や指導場面で活用できる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	学んだ知識について自身の競技生活や指導場面での活用・実践	学んだコーチング関連の情報やセルフコーチングのスキルを自身の競技生活や指導場面で多面的に活用できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	60%	：　①指導実践についてのレポートおよび②研究テーマ設定に関わるレポートについて各30点
中間プレゼン	40%	：　①指導実践についてのプレゼンおよび②研究テーマ設定のプレゼンについて各20点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・レイナー・マートン（2013）スポーツ・コーチング学 ： 指導理念からフィジカルトレーニングまで
・アンドレ・アガシ（2012）OPEN-アンドレ・アガシの自叙伝
その他授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4 時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**コーチングの実践的学びについて** 演習の進め方について説明およびコーチング実践の学び方について理解する	自身がこれまで受けたコーチングについて振り返り、まとめる。	4時間
第2回	**コーチングについての理解①　自分の恩師のコーチング** 自身が受けてきたコーチングについて理解する （ディスカッション形式で履修者の多種多様な経験を理解する）	授業時に取り上げられた恩師のコーチングについて、再度振り返りレポートを作成する。	4時間
第3回	**コーチングについての理解②　海外のコーチング** 自身のスポーツ種目における海外のコーチングの実際に触れ、自身の経験と対比しながら理想のコーチングについて思考を深める。	授業時に取り上げられた内海外のコーチングについて、再度振り返りレポートを作成する。	4時間
第4回	**コーチングについての理解③　自分のモチベ―ト** 自分自身をモチベ―トする方法や考えについて理解し、実践する。	自身をモチベ―トするための資料を入手する。	4時間
第5回	**コーチングスタイル①　　チームスポーツのコーチング** チームをモチベ―トする事例に触れながら、集団をコーチングするための知見を理解する。	著名な集団スポーツにおけるコーチの自伝書を2冊以上読み、プレゼン資料を作成する。	4時間
第6回	**コーチングスタイル②　個人スポーツのコーチング** 個人（他人）のモチベ―トする事例に触れながら、個人をコーチングするための知見を理解する。	著名な個人スポーツにおけるコーチの自伝書を2冊以上読み、プレゼン資料を作成する。	4時間
第7回	**モチベーションビデオの作成** 自分を、他人を、または集団をモチベ―トするための動画の方法論や知識について理解し、映像をを作成する。	モチベ―ションビデオの作成および発表準備	4時間
第8回	**モチベーションビデオの発表および内容についてのプレゼン** 作成したモチベーションビデオを発表する。また、どのような意図で作成したか、映像のポイントや工夫した点についてプレゼンする。	他者発表について分析評価し、コメントを作成する。	4時間
第9回	**日々の競技実践および指導実践の評価** セルフコーチングを理解し、実践するために、日々の競技実践および指導実践を評価し、問題点、これからの課題を明確にする。その後実践のための計画を立案する。	実践の中でのフィールドワークおよび振り返りをまとめる。	4時間
第10回	**実践活動前期の報告** 前回調整し直した計画を遂行した結果、実践の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。	実践報告について自身以外の学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。	4時間
第11回	**実践活動前期の報告** 実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。	活動の継続状況について自身以外の学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。	4時間
第12回	**実践活動の評価** これまで継続してきた実践について評価し、新たな問題点や課題を明確にする。その上で計画を新たに立案し報告する。	変化の過程についてその要因について振り返りまとめる。	4時間
第13回	**実践活動後期の報告継** 実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。	他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。	4時間
第14回	**計画の評価および調整による新計画の立案** 計画を遂行した結果から再度、計画の再調整を図る。また、これまでのPDCAサイクルを活用した実践の中で得られたことや効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。	実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。	4時間
第15回	**コーチングに関わる研究方法①　スポーツ方法論に関わる研究** スポーツ方法論に関わる研究の概観	スポーツ方法論に関する研究論文を読む。	4時間
第16回	**コーチングに関わる研究方法②　　多様なコーチング分野の研究** 4年生の卒業研究中間発表会に参加し、多様なコーチング分野の研究に触れ、コーチング研究についての理解を深める。	指導方法に関する研究論文を読む。	4時間

第17回	**コーチングに関わる研究方法③　コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）** コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）の概観	コーチングの事例的研究論文（実験検証的研究）を読む。	4時間
第18回	**コーチングに関わる研究方法④　コーチング事例に関わる研究（エピソード分析的研究）**	コーチング事例に関わる研究（エピソード分析的研究）の概観	4時間
第19回	**コーチングに関わる研究方法⑤　コーチング研究の方法** コーチング研究の方法についての学習	研究方法に関する文献を読む。	4時間
第20回	**ミニ論文テーマ設定** 論文の作成方法についての実践的学習。グループ別に研究テーマを設定する。	日々の実践から課題を見出すためのフィールドワークを行う。	4時間
第21回	**ミニ論文作成のための先行研究の調査・研究のデザイン** 論文の作成方法についての実践的学習。グループで先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について理解する。その後研究計画を作成する。	各自先行研究の調査、収集を行う。	4時間
第22回	**ミニ論文のデータ収集** グループで、調査や実験を行う。	グループで、調査や実験を行う。	4時間
第23回	**ミニ論文のデータ収集②　データの整理** 調査や実験で得られたデータの整理方法について学習し整理する。	各自分担されたデータの整理を行う。	4時間
第24回	**ミニ論文のデータの分析・解釈** 整理したデータの分析方法を学習し、分析をする。その後分析したデータの提示方法について学習し、図表および文章を作成する。	分析項目に沿って分析を行う。	4時間
第25回	**プレゼンテーション　良いプレゼンテーションの理解** プレゼンテーションのアプリケーションについて学習し、プレゼンテーションのスライドを作成する。	プレゼンテーションの準備作業を行う。	4時間
第26回	**プレゼンテーションの実践** ミニ卒論の発表会。	他グループのプレゼンについて分析評価し、コメントを作成する。	4時間
第27回	**自身の研究テーマの立案①** 自身のスポーツ経験からの学術的興味のもと、先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について整理する。	卒業研究に向けた先行研究調査	4時間
第28回	**自身の研究テーマの立案②** 4年生の卒業研究発表会に参加し、先週までの自身らが行った研究と対比させながら、卒業研究について深く思考し、自身の卒業研究のテーマについて立案する。	卒業研究テーマを立案する。	4時間

1-6-3

授業科目名	**コーチング演習（吉川）**				
担当教員名	吉川　文人				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

コーチングに関連する研究報告や事例報告の調査をとおして、競技力に影響する因子とその分析方法を含め、コーチングの知識やスキルについて学びを広げ、深める。また、コーチングを支援する情報通信技術とその応用事例についても学びを広げ、深め、コーチングにおけるPDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルを効果的に実行する上で要請される能力の充実を図る。加えて、受講生自らの興味・関心を踏まえたコーチング研究に取り組み、研究の推進力を獲得するための基礎固めをする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	コーチング実践に必要な知識	コーチングに関する論文のポイントをまとめた資料を作成することができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ及びコーチングに関連する知識	スポーツ実践及びコーチング実践に必要な知識を説明することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	コーチングを実践する上で必要な基本的な知識やスキル	コーチングに関する学びを実践応用できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小テスト	40%	： 授業で取り扱った内容についての理解度について、5%×8で評価する。
レポート評価	20%	： 内容の妥当性と論理構成について、独自のルーブリックに基づいて20%で評価する。
プレゼンテーション評価	20%	： プレゼンテーションのできばえについて、独自のルーブリックに基づいて20%で評価する。
授業内課題	20%	： 授業で取り扱った内容についての理解度について、独自のルーブリックに基づいて5%×4で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

随時紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー

場所：　研究室

備考・注意事項：　急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及びスポーツ学とコーチング** 授業の進め方や内容について把握する。コーチングに関連の深いスポーツ学の他の細分野について概観する。	スポーツ学とコーチングの概念をテーマとするマインドマップを作成する。	4時間
第2回	**コーチング支援向け情報通信技術とその応用事例** スポーツ競技者の強化に資することを意図して開発された情報通信技術とその応用事例について概観し、センサー技術を用いてスポーツ競技の事象を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。	コーチング支援向け情報通信技術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第3回	**コーチング支援向け動作分析技術とその応用事例** スポーツ競技者の強化に資することを意図して開発された動作分析技術とその応用事例について概観し、映像に基づいてスポーツ動作を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。	コーチング支援向け動作分析技術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第4回	**コーチング支援向けゲーム＆パフォーマンス分析技術とその応用事例** スポーツ競技の強化に資することを意図して開発されたゲーム＆パフォーマンス分析技術とその応用事例について概観し、映像に基づいてゲームやパフォーマンスを客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。	コーチング支援向けゲーム及びパフォーマンス分析技術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第5回	**個人スポーツの競技特性とパフォーマンス指標** 個別の個人スポーツ競技を題材として取り上げ、競技特性とパフォーマンス指標について詳細化を図る。ゲーム＆パフォーマンス分析の研究動向について理解を深め、コーチの役割とコーチング行動について考える。	一つの個人スポーツ競技・種目を取り上げ、パフォーマンス指標についてマインドマップを作成する。	4時間
第6回	**集団スポーツの競技特性とパフォーマンス指標** 個別の集団スポーツ競技を題材として取り上げ、競技特性とパフォーマンス指標について詳細化を図る。ゲーム＆パフォーマンス分析の研究動向について理解を深め、コーチの役割とコーチング行動について考える。	一つの集団スポーツ競技・種目を取り上げ、パフォーマンス指標についてマインドマップを作成する。	4時間
第7回	**運動学習とコーチング** 古典的運動学習理論をはじめ、運動学習・制御の分野で議論されてきた問題について概観するとともに、脳神経系の機能と構造について理解を深め、コーチングとの関連について考える。加えて、運動学習のメタ認知に関する研究の動向について概観し、過去に学んだコーチの役割とコーチング行動について改めて別の角度から考える。	関心のあるスポーツ競技を取り上げ、関連の深い運動学習の概念について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第8回	**体力トレーニングとコーチング** スポーツ競技の特性に応じて求められる行動体力について分類・整理し、からだの適応について概観する。期分けに関する研究の動向を概観し、体力トレーニングの計画をプレゼンテーションする。	関心のあるスポーツ競技を取り上げ、重要視すべき体力要素とそのトレーニング方法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第9回	**コーチの役割とコーチング行動** 著名なコーチのコーチングスタイルやエピソードを知るとともに、学際的な研究・調査の結果と関連づけてコーチの役割とコーチング行動について見識を広げる。	コーチの役割とコーチング行動についてマインドマップを作成する。	4時間
第10回	**コーチングを取り巻く諸問題** 過去の授業で取り扱われなかったコーチング関連事項についてブレインストーミングをおこない、補足及び議論された事項について理解を深める。過去の授業を踏まえ、コーチングのあり方について自らの考えをプレゼンテーションする。	コーチングを取り巻く諸問題に関して文献調査を行ない、自らの考えをまとめる。	4時間
第11回	**研究法の概観** コーチングに関連した卒業研究の意義や研究の進め方、研究論文の書き方について概観する。	自らが設定したテーマに関して論文を読み、その研究動向についてプレゼンテーションを行なう準備をする。	4時間
第12回	**文献調査と情報利用** 各自が精読した文献の内容について、パワーポイントの資料を用いてプレゼンテーションをおこなう。先行研究の調査や調査結果の取り纏め、プレゼンテーションといったそれぞれのプロセスの重要事項について理解を深める。	関心のあるスポーツ競技の映像を収集する。	4時間
第13回	**コーチング支援向けスポーツ映像の活用法**	コーチングに資する映像を収集し、コンテンツを作成する。	4時間

	スポーツ映像を対象として、スポーツ映像由来のデータの収集方法とその処理方法について実践を通して理解を深める。加えて、映像編集ソフトウェアの操作方法を知り、コーチングに資する映像コンテンツの作成を図る。		
第14回	**研究課題の策定** コーチングに関する題材を取り上げ、先行・関連研究の知見を踏まえた研究課題の策定を図るとともに、研究論文の作成方法についての理解を深める。	関心のある研究テーマについて実施計画案を詳細化する。	4時間
第15回	**研究構想の発表と前期のまとめ** 研究課題とその実施計画案をプレゼンテーションする。前期の授業の内容を振り返る。	関心のある研究テーマについて実施計画案を詳細化する。	4時間
第16回	**前期の演習についての振り返りと後期の演習に関するオリエンテーション** 前期の演習において学習した内容について振り返るとともに、後期の授業の進め方や内容について把握する。	前期の演習で構想した研究課題の実施計画を策定する。	4時間
第17回	**コーチング研究事例の調査** コーチングに関する研究発表を視聴し、多岐にわたる研究課題のエッセンスを捕捉する。	興味・関心のある研究課題について文献調査を実施する。	4時間
第18回	**研究活動のプロセス改善** 研究課題を立案し、その構想の概要についてのプレゼンテーションをとおして内容の改善を図る。パーソナルプロジェクトマネジメントに必要な知識とスキルについて理解を深め、実践力を培うとともに、コーチング行動への応用について考える。	パーソナルプロジェクトマネジメントに関する文献を読む。	4時間
第19回	**研究構想のブラッシュアップ　発表及び視聴（前半）** 各自の研究課題の構想を詳説し、改善事項を明確化する。また、一般的な資料の作成方法やプレゼンテーションの方法について理解を深める。加えて、各自の研究課題に関する補足事項について学びを深める。	他者の研究課題に関する改善事項や提案事項をまとめる。	4時間
第20回	**研究構想のブラッシュアップ　発表及び視聴（後半）** 各自の研究課題の構想を詳説し、改善事項を明確化する。また、一般的な資料の作成方法やプレゼンテーションの方法について理解を深める。加えて、各自の研究課題に関する補足事項について学びを深める。	他者の研究課題に関する改善事項や提案事項をまとめる。	4時間
第21回	**ゲーム・パフォーマンス分析研究** ゲーム＆パフォーマンスの記述分析に関する研究の動向を概観するとともに、分析レポートの意義と作成方法を学ぶ。	ゲーム＆パフォーマンスの記述分析に関する文献調査を実施し、重要事項や関連事項をまとめる。	4時間
第22回	**ゲーム＆パフォーマンスのデータ処理と評価方法** 複数のゲーム＆パフォーマンスを題材として、ゲームやパフォーマンスの分析・評価方法について概観する。データの収集・加工・管理・閲覧といったデータ処理手法について理解を深めるとともに、そのコーチング応用について見識を広げる。ゲーム＆パフォーマンス分析研究で求められる確率・統計の基礎について理解を深め、いくつかのサンプルデータを用いて統計処理を実習する。	ゲーム＆パフォーマンスの評価方法について重要事項や関連事項をまとめるとともに、データ処理を実践する。	4時間
第23回	**分析レポートの発表及び視聴** 複数のゲーム＆パフォーマンスの分析レポートを視聴し、分析レポート作成に必要な知識とスキルについて理解を深める。	統計処理を含め、分析レポートを作成する。	4時間
第24回	**コーチングの事例研究に関する発表の視聴** コーチングの事例研究に関する発表を視聴する。	興味・関心のある事例研究課題について文献調査を実施する。	4時間
第25回	**研究報告書の作成** 過去の授業で設定した研究報告書の作成と推敲に取り組む。On the job trainingを通して、実践力を培う。	これまでに取り組んだ研究の報告書を作成する。また、卒業研究課題の提案書を作成する。	4時間
第26回	**研究活動に関する発表と視聴　（前半）** 研究活動報告の内容の共有・議論をとおして、各研究課題の内容の理解を広げ深める。	興味・関心のある研究課題について文献調査を実施する。	4時間
第27回	**研究活動に関する発表と視聴　（後半）** 研究活動報告の内容の共有・議論をとおして、各研究課題の内容の理解を広げ深める。	興味・関心のある研究課題について文献調査を実施する。	4時間
第28回	**まとめ及び総括** 前期及び後期の授業を振り返り、学び得た事項の実践応用の展望について考える。	前期及び後期の演習の内容を踏まえ、自らが学び得た内容を振り返る。	4時間

1-6-3

授業科目名	**コーチング演習（竹川）**				
担当教員名	竹川　智樹				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2015年～2020年：U21,U23日本代表コーチ、2015年～2021年：日本オリンピック委員会強化スタッフ、2018年：アジア競技大会スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

コーチングににおける問題や疑問を自身で見つけ、それらをどのように解決していくかという能力を身につけることが重要であり、そのために調査をしたり、文献講読したり、討論や発表を行ったり、報告書や論文をまとめたりする「知的作業の基本」を身につけるための学習を行う。そしてコーチングに必要な知識について学びつつ、論文とは何か、研究とは何かを理解し、卒業論文作成のための基礎的な能力の向上を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	卒業論文の作成準備と専門的な知識の獲得	基礎的研究を理解し、卒業論文を作成するための知識を獲得することができる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツ学から新しい知識を取り入れ、自分の競技や指導に役立つ能力の養成	競技生活や指導現場においてスポーツ学からの新しい知識を生かし実践することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題評価	60%	： 授業内での課題に対しての理解度と独自性について評価する。 ・課題をよく理解し独自性がある（60点） ・課題をおおよそ理解し独自性がある（50点） ・課題に対して一定の理解と独自性が見受けられる（40点）
発表・プレゼンテーション	40%	： 発表・プレゼンテーション４回（１０点×４回） ・プレゼンテーマに対して理解があり、的確な表現である（5点） ・プレゼンテーマに対して自身の意見や考えがあり、独自性がみられる（5点）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよびコーチングの理解**	コーチングについての基礎的知見をまとめる	4時間

	コーチング演習の計画や内容、評価方法などについてガイダンスを行う。コーチングについての基礎的知見から概要を理解する。		
第2回	**研究、論文とはなにか** 研究や論文とはどんなものなのかを、実際の論文を講読し、理解をする。	研究や論文について基礎的知識をまとめる	4時間
第3回	**コーチングに必要な基礎的知識（運動生理学、トレーニング科学）** 運動生理学やトレーニング科学について学び、コーチングに必要な基礎的な理解を得る。	運動生理学、トレーニング科学についてまとめる	4時間
第4回	**コーチングに必要な基礎的知識（栄養学、スポーツ栄養学）** 栄養学やスポーツ栄養学について学び、コーチングに必要な基礎を理解する。	栄養学、スポーツ栄養学についてまとめる	4時間
第5回	**コーチングに必要な基礎的知識（スポーツ心理学、メンタルトレーニング）** スポーツ心理学、メンタルトレーニングについて学び、コーチングに必要な基礎を理解する。	スポーツ心理学、メンタルトレーニングについてまとめる	4時間
第6回	**文献検索、文献収集方法** 図書館データベース等を用いて興味のあるテーマやキーワードに沿った図書や雑誌の検索、収集方法について学ぶ。	興味のあるテーマやキーワードについてまとめる	4時間
第7回	**文献収集１（指定されたテーマ、キーワード）** 指定されたテーマ、キーワードを用いて、関連する文献を３編以上収集する。	収集した文献を読む	4時間
第8回	**レジュメ作成１** 収集した文献のうち、自身で一番興味深いもののレジュメを作成する。	収集した文献についての要約をする	4時間
第9回	**発表１** 作成したレジュメをもとに発表を行う。他学生の発表から知識を増やし、自分の発表との比較から改善点を見出す。	発表の準備をしておく	4時間
第10回	**文献収集２（興味のあるテーマ、キーワード）** 興味のあるテーマ、キーワードを用いて、関連する文献を３編以上収集する。	収集した文献を読む	4時間
第11回	**レジュメ作成２** 収集した文献のうち、自身で一番興味深いもののレジュメを作成する。	収集した文献についての要約をする	4時間
第12回	**発表２（Aグループ）** 作成したレジュメをもとに発表を行う。他学生の発表から知識を増やし、自分の発表との比較から改善点を見出す。	発表の準備をしておく	4時間
第13回	**発表３（Bグループ）** 作成したレジュメをもとに発表を行う。他学生の発表から知識を増やし、自分の発表との比較から改善点を見出す。	発表の準備をしておく	4時間
第14回	**前期のまとめと後期に向けての課題の設定** 前期授業についての総括をし、後期に向けての課題を設定する。	前期授業について振り返りを行い、内容をまとめる	4時間
第15回	**ガイダンスおよび後期課題の確認** 前期を振り返り要点の復習を行う。各自後期の課題について確認する。	各自の課題を認識しておく	4時間
第16回	**基礎的な統計１（平均、標準偏差、ｔ検定）** 研究論文に用いられる基礎的な統計について学び、研究論文講読の理解を深める。	平均や標準偏差、ｔ検定についてまとめる	4時間
第17回	**基礎的な統計２（相関、χ二乗検定）** 研究論文に用いられる基礎的な統計について学び、研究論文講読の理解を深める。	相関やχ二乗検定についてまとめる	4時間
第18回	**研究テーマの設定** これまで行ってきた授業を振り返り、卒業論文の研究テーマやキーワードを仮設定する。	興味、関心、疑問点についてまとめる	4時間
第19回	**プレゼンテーション１（パワーポイントでの資料作成、操作方法）** プレゼンテーションとは何かを考え、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成方法や操作方法について学ぶ。	パワーポイントの使用方法についてまとめる	4時間
第20回	**プレゼンテーション２（発表）** 効果的なプレゼンテーションの方法と発表シミュレーションを行い、伝わる技術を学ぶ。	プレゼンテーションについてまとめる	4時間
第21回	**文献収集３（研究テーマ、キーワード）** 研究テーマやキーワードを用いて、先行研究の文献を３編以上収集する。	収集した文献を読む	4時間
第22回	**レジュメ作成３** 収集した文献のうち、自身で一番興味深いもののレジュメを作成する。	収集した文献についての要約をする	4時間
第23回	**発表4** 作成したレジュメをもとに発表を行う。他学生の発表から知識を増やし、自分の発表との比較から改善点を見出す。	発表の準備をしておく	4時間
第24回	**卒業研究の仮テーマ、仮計画の発表（Aグループ）およびグループ討論**	研究計画についてまとめる	4時間

	卒業研究の仮テーマ、仮計画の発表（Aグループ）を行い、発表学生に対しての質疑応答およびグループ討論を行う。		
第25回	**卒業研究の仮テーマ、仮計画の発表（Bグループ）およびグループ討論** 卒業研究の仮テーマ、仮計画の発表（Bグループ）を行い、発表学生に対しての質疑応答およびグループ討論を行う。	研究計画についてまとめる	4時間
第26回	**卒業論文の研究計画の作成１（緒言）** 目的を明確にし、研究背景についてまとめる。	卒業研究の目的をまとめる	4時間
第27回	**卒業論文の研究計画の作成２（方法）** 卒業論文の研究方法についてまとめる。	研究方法についてまとめる	4時間
第28回	**授業の総括および卒業研究へむけての心構え** １年間の授業を振り返り、まとめを行う。卒業研究へむけた課題の確認をする。	前期、後期の授業について確認し、特に重要と思われる事柄についてまとめる	4時間

1-6-3

授業科目名	**コーチング演習（坂尾）**				
担当教員名	坂尾　美穂				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	(公財)日本サッカー協会におけるタレント育成・強化・普及活動（JFAアカデミー福島、JFAアカデミー堺、JFAナショナルトレセンコーチ、JFAエリートプログラム女子監督、U-17日本女子代表コーチ）、ドイツにおけるサッカー指導（MSV デュイスブルク）などの実践経験を講義内容に結びつけている。（全28回）				

授業概要

スポーツ選手を対象とした運動指導や，サッカー競技等のコーチング，ボールゲームを中心としたスポーツのゲーム分析・パフォーマンス分析を計画，実践する。そして卒業研究に向けた文献収集，文献レビューの作成，プレゼンテーション，スポーツとコーチングの実践，ゲーム分析・パフォーマンス分析の実際を行う.

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	サッカー競技を中心に、コーチングについて、コーチの実際の役割、資質、能力についての知識	コーチに必要とされる能力を理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	実践力ある選手育成についての力	選手を実際に伸ばすことのできるコーチングを体得できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

プレゼンテーションのために、予習や準備を求める。プレゼンテーションとともに準備物も確認する。積極的な意見交換や質問も重要視する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	60%	： 3回のプレゼンテーション(20点×3回)60点 ・テーマに対して理解があり、論理的である。10点 ・テーマに対して自分の意見や考え、新しい視点がある。10点
レポート	40%	： 2回(前期・後期)のレポート(20点×2回) ・テーマに関する問題点や課題について、論理的に記述されている。10点 ・自身の考えや新たな視点での提言が、明確かつ論理的に記述されている。10点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

映像を適宜使用する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・コーチ学の研究とは** 本演習について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法についてガイダンスを行う。研究ノートに、ノートの使用方法、まとめ方を指導する。また、コーチ学の研究について、例を紹介し、全体像を概観する。	コーチ学について基礎知識を調べておく。	4時間
第2回	**文献収集　検索ファイリング** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	図書館で興味ある先行研究を調べておく。	4時間
第3回	**レジュメ作成** 提示された文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	収集した文献資料を読んでおく。	4時間
第4回	**グループA発表** それぞれのキーワードに従い収集あるいは提示された文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第5回	**グループB発表** それぞれのキーワードに従い収集あるいは提示された文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第11回	**分析** それぞれの競技を題材に、分析について理解する。目的や対象によって多種多様な分析があることを理解する。	静止画および動画を使用し、プレーの分析を行う。	4時間
第12回	**プレゼンテーションの実践Aグループ　プレー分析** 個の育成につながる分析の観点、手法と効果的な映像の使い方について理解する。 コーチング現場につながる分析を動作・個人の戦術行動・チームの戦術行動の観点から実践する。	映像を抽出・編集し、個の育成につながる分析結果についてプレゼンテーションを行う。他者の分析およびプレゼンテーションの内容について評価しコメントする。	4時間
第13回	**プレゼンテーションの実践Bグループ　プレー分析** 個の育成につながる分析の観点、手法と効果的な映像の使い方について理解する。 コーチング現場につながる分析を動作・個人の戦術行動・チームの戦術行動の観点から実践する。	映像を抽出・編集し、個の育成につながる分析結果についてプレゼンテーションを行う。他者の分析およびプレゼンテーションの内容について評価しコメントする。	4時間
第14回	**プレゼンテーションの実践Cグループ　プレー分析** 個の育成につながる分析の観点、手法と効果的な映像の使い方について理解する。 コーチング現場につながる分析を動作・個人の戦術行動・チームの戦術行動の観点から実践する。	映像を抽出・編集し、個の育成につながる分析結果についてプレゼンテーションを行う。他者の分析およびプレゼンテーションの内容について評価しコメントする。	4時間
第7回	**レジュメ作成** 収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	収集した文献を読んで、まとめる。	4時間
第8回	**グループA　発表と質疑応答** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第9回	**グループB　発表と質疑応答** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第6回	**グループC発表** それぞれのキーワードに従い収集あるいは提示された文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第10回	**グループC　発表と質疑応答**	発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間

	それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。		
第15回	**文献収集　検索ファイリング** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。 前期の文献収集等を踏まえ、各学生の研究テーマ・キーワードを仮決定する。	振り返りから、自分に興味あるテーマ設定を考えておく。	4時間
第16回	**競技に専門的な体力測定の実施** サッカーに専門な20m走、5*10mシャトルラン、３歩バウンディング、垂直跳びなどを実施する．スパイクまたはトレーニングシューズを持参する．サッカーフィールドにて計測を実施する。	実際にフィジカル測定をするので、運動を行い体力をつけておく。	4時間
第17回	**別テーマ選択から文献収集** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。	4時間
第18回	**データの入力、基本統計量とグラフの出力** 体力測定のデータを入力する。得られたデータセットから平均値、標準偏差、最大値、最小値を算出する。各1回目と２回目による信頼性係数を算出する。各項目間の相関係数を算出する。項目間の散布図を作成する。得られたデータの解釈方法を解説し、理解を深める。	実際に測定したデータをどう活用するか、自分でまず考えておく。	4時間
第19回	**グループA　グループで共同発表** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。	4時間
第20回	**グループB　グループで共同発表とまとめ** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。	4時間
第21回	**スポーツ現場と研究** プロ選手に関する動画を視聴し、スポーツ現場の実際とそれに対する科学的分析の視点に関して知見を深める。	実動画を見ながら必要な情報をメモにとり、実践されている科学的分析の視点についてまとめる。	4時間
第22回	**海外スポーツ　Aグループ** 「海外」をキーワードに、育成システム・代表チーム・リーグ戦文化・プロフェッショナルスポーツ・クラブスポーツ・協会・指導法・教育に関して、興味のあるテーマについて発表する。	パワーポイントを使用して海外のスポーツについて発表の練習をする。	4時間
第23回	**海外スポーツ　Bグループ** 「海外」をキーワードに、育成システム・代表チーム・リーグ戦文化・プロフェッショナルスポーツ・クラブスポーツ・協会・指導法・教育に関して、興味のあるテーマについて発表する。	パワーポイントを使用して海外のスポーツについて発表の練習をする。	4時間
第24回	**文献収集　時間制限あり** 図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	図書館で興味ある文献を閲覧しておく。	4時間
第25回	**レジュメ作成　討論つき** 収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。	4時間
第26回	**グループA　討論** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第27回	**グループB　討論** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。	4時間
第28回	**次年度研究計画の立案** 次年度の卒業研究に向けたテーマの決定，準備，調査・実験計画，データ収集・解析，本文執筆などの計画を立案する．スケジュール表を作成する．	テーマについて再考して、自分で計画を立ててみる。	4時間

1-5-3

授業科目名	**トレーニング・健康演習（佃）**				
担当教員名	佃　文子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。（全28回）。				

授業概要

スポーツ医科学の実践について、トレーニング科学やスポーツ医学の知見（関連する文献等）を収集し原典を理解すると同時に、体験的知見との差について討議する。
後期には、各自の興味に応じた研究分野の情報収集と卒業研究に向けた予備調査・測定を行う。これらの演習は、卒業研究のテーマをしぼり、研究計画を立案するための重要な素地となる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ医科学に関する論文抄読および解釈	問題解決のための具体的な方法を検討し提案できる
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	自己の疑問に沿った課題に対する、問題解決に向けた研究計画の立案	課題研究について、適切な問題提起と解決のための方法等について、わかりやすくプレゼンテーションできる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業課題への取り組み	40%	： 内容の妥当性と理論構成について、本学基準のルーブリックに基づいて評価します。
授業課題のプレゼンテーション	30%	： 伝える内容のまとめ方50%、伝え方50%の割合で得点化します。
ミニ卒論の計画と結果	30%	： ミニ卒論について、計画70%、結果の伝え方30%の割合で得点化します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。必要に応じて検索し取り寄せる。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業教室、研究室
備考・注意事項：　急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション、図書館利用方法の習熟** 授業の内容と進め方を理解する。図書館での論文検索など専門情報の検索を理解する	予習：トレーニング・健康分野で、自分自身が最も興味のある内容について、読んでみたい本や雑誌を見つけてくる 復習：読んだ雑誌や本を要約する	4時間
第2回	**トレーナー活動の計画立案** 身近なスポーツフィールドで実施できる、トレーニング計画・コンディショニング計画・体力測定計画などを立案する	予習：自身の身近なスポーツの現場で求められている、スポーツ傷害の管理・計画的なトレーニング・リカバリー方法などについて、組織から求められている内容をリサーチしてくる 復習：自身の身近なスポーツの現場で求められている、スポーツ傷害の管理・計画的なトレーニング・リカバリー方法などについて、組織的なサポート計画の素案を作成する	4時間
第3回	**過去の卒業論文の研究課題や問題提起の観点を理解する** トレーニング・健康コースの卒業研究をもとに、研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：過去のコース内の卒業研究の抄録集から自身で興味が持てる内容を5つ探し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ過去の卒業研究の内容をまとめる	4時間
第4回	**過去の卒業論文の内容を討議し研究方法の理解を広める** トレーニング・健康コース以外の卒業研究をもとに、研究方法を理解する	予習：過去のコース外の卒業研究の抄録集から自身で興味が持てる内容を5つ探し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ過去の卒業研究の内容をまとめる	4時間
第5回	**関連分野の研究文献の検索方法** 各種の学会にて発表された先行研究を文献検索し、研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：スポーツと健康の関連分野の学会から自身で興味が持てる研究報告を2つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ資料を読み要約する	4時間
第6回	**国内研究文献から研究課題や問題提起の観点を理解する** 各種の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を2つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する	4時間
第7回	**国内研究文献から研究方法の理解を広める** 各種の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、研究方法を理解する	予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を2つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み、研究方法について図にまとめる	4時間
第8回	**国内の研究文献の発表･討議のための準備** 調べた文献等の概要をまとめる	予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を2つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み、主な結果を図示する	4時間
第9回	**国内の研究文献を発表する** 調べた文献をまとめて、概要を発表し内容や研究手法について説明する	予習：第6回で選んだスポーツと健康の関連分野の学会誌等から、自身で興味が持てる研究をA4サイズ1枚に要約する　復習：他者の選んだ研究について復習する	4時間
第10回	**国内の研究文献発表についてデスカッションを行う** 前週の研究発表の、特に結果の分析と考察について討議する	予習：自身の発表した研究について、さらに結果と考察の理解を深める 復習：他者からの質問について不明な点を調べる	4時間
第11回	**症例検討1回目　足部** 足部の運動機能に対するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する	予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、足部のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：足部のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる	4時間
第12回	**症例検討2回目　足部・下肢** 足部や下肢の運動機能に対するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する	予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、下肢のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：下肢のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる	4時間
第13回	**症例検討3回目　体幹**	予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、体幹のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：体幹のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる	4時間

	体幹の運動機能に関するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する		
第14回	**症例検討4回目　肩・肩甲帯** 上肢帯の運動機能についてのトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する	予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、肩・肩甲帯のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：肩・肩甲帯のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる	4時間
第15回	**総合討議** 前期の取り組みを振り返り、各自の興味が持てた課題内容と、各研究の限界から次の研究課題を分析する	予習：前期の学習を振り返り、興味が深まった研究と理解の浅い内容や課題について整理する 復習：洗い出された研究課題についてまとめる	4時間
第16回	**国外の文献の検索　①　ストレッチング、コンディショニング** 国外の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、英文を読解し研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：国際学会誌からストレッチングまたはコンディショニングに関する研究を一つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する	4時間
第17回	**国外の文献の検索　②　可動性とパフォーマンス、外傷・障害** 国外の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、英文を読解し研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：国際学会誌から関節の可動性またはスポーツパフォーマンス、スポーツ外傷・障害に関する研究を一つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する	4時間
第18回	**国外の文献の検索　③　動作パターンと身体機能評価** 国外の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、英文を読解し研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：国際学会誌から動作パターンまたは身体機能評価に関する研究を一つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する	4時間
第19回	**国外の文献の検索　④　脳振盪** 国外の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、英文を読解し研究課題や問題提起の観点を理解する	予習：国際学会誌からスポーツに関係する脳振盪の研究を一つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する	4時間
第20回	**文献研究（海外の関連文献を収集し読む）とグループ発表　①　疫学的研究** 国外の学術誌に発表された疫学的研究に関する原著論文を調べてまとめ、グループで概要を発表し内容や研究手法、研究結果の分析について討議する	予習：健康に関する疫学的研究の原著論文を、グループで1-3本程度探してくる 復習：グループ討議で出た意見をもとに原著論文中に用いられている図表を使って概要をまとめる	4時間
第21回	**文献研究（海外の関連文献を収集し読む）とグループ発表　②　横断的・縦断的研究** 国外の学術誌に発表された横断的・縦断的研究に関する原著論文を調べてまとめ、グループで概要を発表し内容や研究手法、研究結果の分析について討議する	予習：スポーツと健康に関する横断的研究又は縦断的研究の原著論文を、グループで1-3本程度探してくる 復習：グループ討議で出た意見をもとに原著論文中に用いられている図表を使って概要をまとめる	4時間
第22回	**文献研究（海外の関連文献を収集し読む）とグループ発表　③　コンディショニング** 国外の学術誌に発表されたコンディショニングに関する原著論文を調べてまとめ、グループで概要を発表し内容や研究手法、研究結果の分析について討議する	予習：コンディショニングや傷害予防に関する原著論文を、グループで1-3本程度探してくる 復習：グループ討議で出た意見をもとに原著論文中に用いられている図表を使って概要をまとめる	4時間
第23回	**文献研究（海外の関連文献を収集し読む）とグループ発表　④　機能評価** 国外の学術誌に発表された各種の運動機能評価に関する原著論文を調べてまとめ、グループで概要を発表し内容や研究手法、研究結果の分析について討議する	予習：身体の機能評価に関する原著論文を、グループで1-3本程度探してくる 復習：グループ討議で出た意見をもとに原著論文中に用いられている図表を使って概要をまとめる	4時間
第24回	**総合討議** 後期の取り組みを振り返り、課題に対する達成度を確認し、次年度に向けた各自の課題を洗い出し、冬季や春季休業中に取り組むべき内容を計画する。また各種の計画に変更が生じている場合には、修正計画を作成する	予習：これまでの学修を振り返り、自身の興味が深まった海外論文についてさらに詳細に読み込んでまとめてくる　復習：自身のミニ卒論計画に向けて参考になる研究結果と今度の課題についてまとめる	4時間
第25回	**ミニ卒論計画** 自己の興味に基づき、ミニ卒論を計画する	予習：ミニ卒論の研究テーマを考えてくる 復習：ミニ卒論研究計画案を作成する	4時間

第26回	**ミニ卒論予備実験** 第25回の計画に基づき、測定や調査を予備的に行う	予習：ミニ卒論計画で予定している測定や調査方法について詳細を調べて実施に向けた準備をする 復習：手順や測定の練習に取り組み、課題を明確化する	4時間
第27回	**ミニ卒論本実験** 第26回の予備測定の課題を修正し、測定や調査を実施する	予習：前週の課題を改め、ミニ卒論の測定や調査の準備を完成させる 復習：測定や調査結果をまとめる	4時間
第28回	**ミニ卒論まとめ** ミニ卒論で行った結果をまとめ、卒業研究に向けた課題や応用発展の可能性についてプレゼンテーションを行う	予習：プレゼンテーションのためのパワーポイントを作成する 復習：各発表について要約し、研究の発展性についてコメントする	4時間

1-5-3

授業科目名	**トレーニング・健康演習（小松）**				
担当教員名	小松　猛				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者としての実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

卒業論文作成に向け研究目的の考え方、それを達成するための研究方法の立案とその技術の習得、得た結果のまとめ方、そしてその結果をどのように考察し、結論を見出すかについて具体的に勉強を進める。更に、トレーニング・健康に関する専門的知識を習得するため、スポーツ医学を中心とするテーマのプレゼンテーション、ディスカッション、論文抄読などをしながら、自らの研究テーマを探っていくことから始める。また、統計処理や適切な文献を選択する文献検索のコツについても学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ医学に関する理解と、個人またはグループでのプレゼンテーション。	自分自身の研究テーマを考えるためのスポーツ医学に関する知識を深めることができる。
2 ．DP5.新しい価値を創造する能力	スポーツ医学に関する論文の文献検索と、その内容についてのディスカッション。	卒業研究に向けて行うテーマを見つけ、実現可能な研究計画を立てることができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツ医学分野で学んだ外傷・障害における対応の実践。	医学分野におけるスポーツ現場で必要な知識を活かすことができる。

学外連携学修

有り　（連携先：滋賀県スポーツ医会）

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	50%	： 授業内で学んだトレーニング・健康に関する内容、学外で行ったフィールドワークや聴講した講演内容のサマリなどを、適切な表現を使って分かり易く伝えているかを評価。
プレゼンテーション	50%	： スポーツ傷害、リハビリテーションなどの課題について、内容が分かり易く的確なプレゼンテーションになっているのかを評価。スライドの内容に関しても同様に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

新版　スポーツ整形外科学　中嶋寛之（監修）　福林　徹・史野根生（編集）　「南江堂」
新・スポーツ医学　藤本繁夫・大久保　衛（編）　「嵯峨野書院」
その他、必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本演習の目的と進め方** 本授業のガイダンス、スポーツに関する怪我の自己体験をプレゼンテーション	適切な自己表現方法と経験したスポーツ傷害について復習	4時間
第2回	**スポーツ医学に関する知識の総復習** 筆記・口頭でのスポーツ医学に関する知識の確認	講義等で学習したスポーツ医学に関する知識を再確認する	4時間
第3回	**参考文献の調べ方** あるテーマに対して、図書館やインターネットを用いての先行研究の検索方法を学ぶ	自分の興味のあるテーマを検索して、検索方法を熟知する	4時間
第4回	**プレゼンテーションの作成：準備** グループに分かれて、与えられた課題に対するプレゼンテーションのために必要な準備を理解する。	グループでプレゼンテーションの進め方について話し合う	4時間
第5回	**プレゼンテーションの作成：スライド構成** 分かりやすいプレゼンテーションのために必要なプレゼン構成を理解する。	パワーポイントの使いこなせるように情報を収集する	4時間
第6回	**プレゼンテーションの進め方** 作成したスライドを分かり易く伝えられるような進め方を学ぶ。	今後与えられる課題をイメージして、プレゼンテーションを繰り返す	4時間
第7回	**運動器の知識を深める（正常解剖）** 解剖に関する各自の担当テーマを調べ、発表する	解剖学の知識を整理して、正確に分かり易く発表できるように準備する	4時間
第8回	**運動器の知識を深める（正常機能）** 運動器（関節や筋肉）の機能に関する各自の担当テーマを調べ、発表する	運動器の機能を学習し、他者に分かり易いプレゼンテーションができるように計画を立てる	4時間
第9回	**運動器の知識を深める（上肢のスポーツ傷害の原因、診断）** 上肢の外傷・障害の受傷機転や診断方法について、各自の担当テーマを調べ、発表する	上肢の傷害に関する基礎知識を復習する	4時間
第10回	**運動器の知識を深める（上肢のスポーツ傷害の治療、リハビリテーション）** 上肢の外傷・障害の治療方法と具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する	上肢の傷害に対しての対処方法、スポーツ復帰のためのリハビリについて、基礎的な知識を整理しておく	4時間
第11回	**運動器の知識を深める（下肢のスポーツ傷害の原因、診断）** 下肢の外傷・障害の受傷機転や診断方法について、各自の担当テーマを調べ、発表する	下肢の傷害に関する基礎知識を、今までの講義の資料などから再確認しておく	4時間
第12回	**運動器の知識を深める（下肢のスポーツ傷害の治療、リハビリテーション）** 下肢の外傷・障害の治療方法と具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する	下肢の傷害に関するスポーツ復帰に向けた具体的な対処方法について復習する	4時間
第13回	**運動器の知識を深める（頭頸部、体幹のスポーツ傷害の原因、診断）** 頭頸部、体幹の外傷・障害の受傷機転や診断方法について、各自の担当テーマを調べ、発表する	比較的重症な傷害については理解を深めておく	4時間
第14回	**運動器の知識を深める（頭頸部、体幹のスポーツ傷害の治療、リハビリテーション）** 頭頸部、体幹の外傷・障害の治療方法と具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する	知識を整理して、自分は頭頸部・体幹の傷害に対して対応できるように復習する	4時間
第15回	**学術論文を読む** 医学系論文を題材にして論文を読む。書かれている内容の傾向を知り、理解を深める。	授業に使用した論文を読んで、自分で内容をまとめる	4時間
第16回	**卒業研究のテーマを求めて（卒業研究に求められるもの）** 過去の卒業研究から各自の担当論文を調べ発表する。自分自身が興味ある領域の論文を、前期で学んだ検索方法を用いて選択する。	自分が選択した論文の内容に関するサマリーを作成する	4時間
第17回	**研究データの取り方** 論文に書かれている実験の詳細を調べ、どのような方法でデータを集めるのかを実践できるようにする。	データ収集を実践するために何が必要かを論文から読み取る	4時間
第18回	**データ収集の実践（身体測定の評価）** 論文作成に必要とされる身体計測を実践して、そのデータを評価する。その方法が正しいかの検証も行う。	実践してみて不足していたと思われる情報については、自分で収集する	4時間
第19回	**データ収集の実践（機器を用いた測定）** 医療機器（筋力測定器、超音波診断装置など）を用いて計測を行う。具体的な使用方法と、出てきた数値や画像がいったい何を表しているかを、実測したサンプルを確認しながら理解する。	機器を用いた評価に関する知識を復習する	4時間

第20回	**データの解析（アンケート調査）** アンケート調査を行う場合の注意点と論文とするために必要なデータの集め方、データ分析方法（統計学的検討など）を理解する。	アンケート調査をもとにした論文を読んで理解する	4時間
第21回	**データの分析（実験で得られたデータ）** 実験データを取るにあたっての注意と、信用できるデータかどうかの評価、そしてデータの分析方法（統計学的検討など）について理解する。	実験から得られたデータをもとにした論文を読む	4時間
第22回	**分析結果から得られる将来への課題** 様々な測定で得られたデータの分析結果を基に、今後その領域を発展させるために必要な考え方についてディスカッションする。	関係領域の論文を読み、その研究の発展性についてまとめる	4時間
第23回	**卒業研究のテーマを求めて（論文のプレゼンテーションとディスカッション）** スポーツ外傷・障害の臨床研究を検索して、その中から各自の担当論文を調べ発表する。発表後にグループでディスカッションする。プレゼンテーション内容が分かり易いか、もし難しければ何が分からないのか、をグループディスカッションを通して問題抽出をする。	自分のプレゼンテーションで指摘された問題点について考える	4時間
第24回	**学術講演の徴候と内容の理解** 学外で行われる学術講演の内容について文献や著書を用いて調べた上で、学術講演を聴講する。	内容を再確認して、それに対する自分の考えをまとめておく	4時間
第25回	**学術講演に対する評価** 学外で聴講した学術講演の内容について自分なりの意見を述べ、最終的にどのような知見が得られたかをグループおよび個人でまとめる。	学術講演に関するレポートを作成する	4時間
第26回	**トレーニング・健康に関する実践（ミニ研究のテーマ検討とデータ採取）** 卒業研究に向けてのシュミレーションとして、グループに分かれて自分たちでテーマを決めてデータ採取を実践する。	決めたテーマに関する先行研究を読んで内容を理解する	4時間
第27回	**トレーニング・健康に関する実践（ミニ研究のデータをまとめて考察）** 前回授業で採取したデータをまとめて分析を進め、考察した内容をグループでディスカッションする。	ディスカッションした内容について個人で調べて、さらに理解を深める	4時間
第28回	**卒業研究のテーマを求めて（個人でのテーマ設定に関するプレゼンテーション）** 卒業研究テーマの設定に関してプレゼンテーションを行う。データの収集方法、分析の進め方、などが正しいのかをプレゼンテーションを通して検証する。	プレゼンテーションを通して出てきた問題点に対して、どのように改善するべきかを考える	4時間

1-5-3

授業科目名	**トレーニング・健康演習（禰屋）**				
担当教員名	禰屋　光男				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事した実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

卒業論文の作成に向けて、研究目的の立て方、研究目的を達成するための研究方法の立案と企画方法の習得、得られた実験結果のまとめ方や統計に関する計算方法、そして、その結果に基づきどのような考察が立てたれるかについてのまとめなど、具体的に勉強を進めます。また、研究は、チームで進めていく場合が多いため、仲間同士のディスカッション能力、協調性も求められます。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツ科学に関する様々な基礎的知識用いた身体運動の複合的な構成	身体運動が様々な生理学的反応が複合的に関連して成立していることを理解する
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	卒業研究に向けた、基本的実験を進めるための知識や技能	自身で卒業研究を実施するための研究計画を立案できる
3 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	卒業研究に用いるスポーツ科学分野の測定技術	スポーツ科学分野で用いる測定技術を習得する

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

実験で得られたデータをもとにレポートを作成する必要があるので、欠席しないでください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各実験データに基づくレポート 50%	：	レポートに必要な内容が適切に記載され、十分な考察ができていること
各実験データに基づくプレゼンテーション 50%	：	プレゼンテーションに必要な内容が含まれ、研究の意義などについてのプレゼンテーションができていること

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　随時
場所：　研究室
備考・注意事項：　初回講義時に説明します

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**トレーニング科学の概説** 授業の内容，進め方について確認します.	参考文献を紹介するのでその内容を確認すること	4時間
第2回	**筋パワーの測定（測定の概要）** 筋パワーの測定方法について説明します.	測定の概要をまとめて復習すること	4時間
第3回	**筋パワーの測定（データの取得）** 実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います.	測定した筋パワーのデータを整理すること	4時間
第4回	**筋パワーの測定（データの整理）** グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます.	グループごとに整理した筋パワーのデータをもとに考察の準備をすること	4時間
第5回	**等速性筋力の測定（測定の概要）** 等速性筋力の測定方法について説明します.	等速性筋力の測定の概要をまとめて復習すること	4時間
第6回	**等速性筋力の測定（データの取得）** 実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います.	測定した等速性筋力のデータを整理すること	4時間
第7回	**等速性筋力の測定（データの整理）** グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます.	グループごとに整理した等速性筋力データをもとに考察の準備をすること	4時間
第8回	**心拍数の測定（測定の概要）** 心拍数の測定方法について説明します.	心拍数の測定の概要をまとめて復習すること	4時間
第9回	**心拍数の測定（データの取得）** 実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います.	心拍数の測定データを整理すること	4時間
第10回	**心拍数の測定（データの整理）** グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます.	グループごとに整理した心拍数のデータをもとに考察の準備をすること	4時間
第11回	**血中乳酸濃度の測定（測定の概要）** 血中乳酸濃度の測定方法について説明します.	血中乳酸濃度の測定の概要をまとめて復習すること	4時間
第12回	**血中乳酸濃度の測定（データの取得）** 実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います.	血中乳酸濃度の測定データを整理すること	4時間
第13回	**血中乳酸濃度の測定（データの整理）** グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます.	グループごとに整理した血中乳酸濃度のデータをもとに考察の準備をすること	4時間
第14回	**呼気ガス分析の測定（測定の概要）** 呼気ガス分析の測定方法について説明します.	呼気ガス分析の測定の概要をまとめて復習すること	4時間
第15回	**呼気ガス分析の測定（データの取得）** 実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います.	呼気ガス分析の測定データを整理すること	4時間
第16回	**呼気ガス分析の測定（データの整理）** グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます.	グループごとに整理した呼気ガス分析のデータをもとに考察の準備をすること	4時間
第17回	**データの解析とエクセルの活用（基本的な入力の方法）** これまでの実験データを用いて，エクセルへのデータ入力について勉強します.	エクセルにデータを入力する際の基本的な方法を復習すること	4時間
第18回	**データの解析とエクセルの活用（データの解析）** これまでの実験データを用いて，エクセルでのデータ解析について勉強します.	エクセルを用いたデータ解析の方法を復習すること	4時間
第19回	**総合実験（漸増負荷実験テストの実施）** 漸増負荷実験テストについて解説し，持久的能力の評価法を学びます.	漸増負荷実験テストについて復習すること	4時間
第20回	**チームプロジェクト（研究の計画の立案）** ２～３名のチームを作り，研究テーマを設定します	研究テーマと計画を整理すること	4時間
第21回	**チームプロジェクト（研究の実施）** 研究計画にそって、データを取得します。	実験結果をまとめておくこと	4時間
第22回	**チームプロジェクト（報告書の作成）Ⅰ** 取得したデータをもとに報告書作成の準備をします。	報告書を作成すること	4時間
第23回	**論文の書き方（基本的な書き方）** チームプロジェクトのデータを活用して，論文の基本的な書き方を勉強します.	基本的な論文の書き方を復習すること	4時間
第24回	**論文の書き方（図表の作成）** チームプロジェクトのデータを活用して，論文を書く際に必要な図表の作成方法を学びます。	図表の作成方法を復習すること	4時間
第25回	**論文の書き方（参考文献の検索と引用）** 論文を書く際に必要な参考文献の検索と引用の方法を学びます。	参考文献の検索方法と引用方法を復習すること	4時間
第26回	**研究報告（プレゼンテーションの準備）** チームプロジェクトの研究の成果をプレゼンテーションにより発表する際のプレゼンテーション作成の基本を学びます。	プレゼンテーション作成の際の基本的な方法を復習すること	4時間

第27回	**研究報告（プレゼンテーションの作成）** チームプロジェクトの研究の成果報告するためのプレゼンテーションを作成します。	報告会のためのプレゼンテーションの準備をすること	4時間
第28回	**研究報告（プレゼンテーションによる報告会）** チームプロジェクトの研究の成果について報告会を開催します.	報告会で指摘された問題点の修正点を検討する	4時間

1-5-3

授業科目名	**トレーニング・健康演習（武田）**				
担当教員名	武田　哲子				
学年・コース等	3	開講時期	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪帯同）の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回）				

授業概要

トレーニング・健康・栄養に関する膨大な情報の中から信頼できる情報を選択し、理解した上でプレゼンテーションができる力を養うことを目的とする。
また、さまざまな研究手法を学び、自ら研究を計画し遂行できる力を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	健康やスポーツと栄養に関する情報の整理および課題設定や問題解決の考察	情報収集する力，情報を選択する力，課題設定から問題解決までの論理的思考能力を身につける
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	健康維持や競技パフォーマンス向上に対して適切な栄養素等摂取ができるための実践力の習得	健康維持や競技パフォーマンス向上のために適した食生活の課題設定ができ、実践できる力を身につける

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

課題発表は前期に2回、後期に2回行う。レポート作成は授業終了時に行う。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題発表	30%	： 課題の理解，論理的な説明，発表のわかりやすさについて評価する
課題取り組み状況	40%	： 課題発表に向けて適切な文献検索，情報処理を行っているかについて評価する
レポート	30%	： 所定の書式に合わせて独自の考察を含めて論理的に取り組むことができているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**健康・栄養に関する概説** 本演習の内容と課題について解説し，達成目標を確認する．	興味あるテーマについての卒業研究について下調べしておく．	4時間
第2回	**卒業論文についての概説** 自然科学系の研究のテーマ設定について解説する．	スポーツ現場における解決すべき問題点について文献検索する．	4時間
第3回	**現場から栄養に関する課題を探索する** スポーツ現場における問題点について探索する．	先行研究を探索する．	4時間
第4回	**探索した課題の整理** 探索した課題について先行研究を読み，課題を整理する．	先行研究を読み，探索した課題におけるキーワードについて調べておく．	4時間
第5回	**発表資料の準備** スポーツ現場における問題点について情報共有を行うためのプレゼンテーション資料を準備する．	発表資料を完成させ，発表練習をする．	4時間
第6回	**プレゼンテーション** スポーツ現場における問題点について情報共有を行う．	発表でキーワードとなった内容について各自復習する．	4時間
第7回	**課題とプレゼンテーションの評価** 共有した話題についてディスカッションしそれぞれの内容を評価する．	評価を受けてプレゼンテーションを修正する．	4時間
第8回	**スポーツ現場における栄養に関する課題についての討論** これまでの発表内容を総合的にとらえ，スポーツ現場における栄養に関する問題点について議論する．	討論した内容を復習し，まとめる．	4時間
第9回	**食事テーマの探索と計画の立案** これまでにあげられた課題に関するテーマを設定し，食事計画を立案する．	食事計画立案のために必要な情報を下調べしておく．	4時間
第10回	**食事計画の評価** 食事計画の見直し，修正を行う．	調理の準備を行う．	4時間
第11回	**食事計画の実践** 調理計画に基づき各自自宅にて実践する．	実習をふりかえりレポートを作成する．	4時間
第12回	**実践した食事計画の評価** 実践した計画の見直し，修正を行う．	資料を検索し，実践した食事計画を客観的に評価する．	4時間
第13回	**食事計画のプレゼンテーション準備** 計画内容や実践結果のプレゼンテーションを行うための準備を行う．	プレゼンテーション資料を完成させ，発表練習をする．	4時間
第14回	**食事計画のプレゼンテーション** 計画内容や実践結果のプレゼンテーションを行う．	プレゼンテーションの評価を受け，資料を修正する．	4時間
第15回	**前半授業のまとめ** 前半授業をまとめる．	これまでの内容を振り返り，卒論テーマに向けて関心事項を整理しておく．	4時間
第16回	**文献検索とその読み方、紹介方法について** 学術論文の書き方について解説する．	卒論テーマに向けて関心事項からキーワードを選択する．	4時間
第17回	**文献検索** 文献の検索方法を学び自身の興味ある研究の文献を検索する．	抄読する文献を準備する．	4時間
第18回	**文献抄読** 検索した文献を抄読し内容を理解する．	文献を読み，文献のキーワードについて下調べおよび復習しておく．	4時間
第19回	**文献紹介準備** 文献紹介のための資料を準備する．	発表資料を準備する．	4時間
第20回	**文献紹介** 文献紹介（プレゼンテーション）を行い，内容に関して討論する．	プレゼンテーションで質問された事項など新たな課題を整理しておく．	4時間
第21回	**文献紹介の振り返り** プレゼンテーションを振り返り，評価を行う．	卒論で扱いたいテーマを検討する．	4時間
第22回	**卒論研究計画の立案** 研究計画の立て方と研究の進め方について解説する．	扱いたいテーマに関して下調べしておく．	4時間
第23回	**卒論研究計画の立案と討論** 研究テーマについて発表し，テーマ設定や方法について討論する．	発表の中でキーワードになった事柄について復習しておく．	4時間
第24回	**卒論研究計画の見直し** ディスカッションを通して計画の見直しを行う．	研究計画を修正する．	4時間
第25回	**卒論研究計画のための先行研究探索** 研究テーマについての先行研究を探索する．	先行研究を抄読するにあたり関連する事柄の基礎知識を復習しておく．	4時間

第26回	**卒論研究計画のための先行研究抄読** 研究テーマについての先行研究を抄読する.	論文内でキーワードになる事柄について復習しておく.	4時間
第27回	**先行研究のプレゼンテーションの準備** 研究したいテーマに関連した研究の調べ方，まとめ方について解説する.	先行研究のプレゼンテーション資料を完成させ発表練習する.	4時間
第28回	**先行研究のプレゼンテーション** 準備した資料に基づきプレゼンテーションを行う.	関連する先行研究を検索し読み込んでおく.	4時間

1-5-3

授業科目名	トレーニング・健康演習（田中）				
担当教員名	田中　忍				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自己や課題を探求し，調べて表現することを繰り返す．発表時には，時間を考慮して聞き手に見やすくわかりやすい資料を作成し，相手に伝わる発表が出来るようになる．プレゼンテーションは，内容と発表（資料の見やすさ，発表態度，声の大きさ，目線など）に分けて学生同士でも評価をし合いフィードバックを行う．また，卒業論文の作成に向け，興味のある課題を見つけ，文献を検索し，研究方法を理解する．一年間かけて，信頼できる文献を元に課題を具体的に絞り込み，自ら卒業論文を作成できる力を身につける．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	興味深い領域の研究探索	参考文献を用い，興味あることをまとめて説明できる．
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	参考文献の検索と要約	信頼できる参考文献を探すことができる．

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	30%	： 作成した資料を内容（わかりやすさ・見やすさ）および発表（声の大きさや聞きやすさ）で評価する．
授業内課題	20%	： google classroomを活用し、オンライン授業の受講に必要な課題に対応できているかについて評価する。
学生同士の評価	10%	： プレゼンテーションを学生同士で評価する．
文献の要約	30%	： 必要な事柄を外さず文献を要約し発表する．
授業参加度	10%	： 提出物の期限厳守，個人およびグループ活動時に積極的に参加しているかを評価する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する．

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の概要と興味の共有** 研究テーマを決定していくために必要な情報をどのように収集していくかについて、概要を学ぶ．自己紹介の際に、研究として取り組む興味のあることを発表する．	演習での学びを通して自立する見通しを立てる．	4時間
第2回	**コンディショニング（１）下肢の柔軟性と筋のタイトネス** 下肢の柔軟性と筋のタイトネス評価を行い，実践を通してセルフケアやペアストレッチの仕方を学ぶ．	下肢のセルフチェックやセルフケアを実践する．	4時間
第3回	**コンディショニング（２）上肢・腰背部** 上肢および腰背部の柔軟性と筋のタイトネス評価を行い，実践を通してセルフケアやペアストレッチの仕方を学ぶ．	上肢および腰背部のセルフチェックやセルフケアを実践する．	4時間
第4回	**プレゼンテーション（準備）** プレゼンテーションを行うときに必要なこと（発表時間，資料，声の大きさ，話し方等）を確認する．スポーツ・トレーニング・健康に関連したプレゼンテーション課題を見つける．	課題を調べ，プレゼンテーション資料を作成し，発表の準備をする．	4時間
第5回	**グループのプレゼンテーション** スポーツ・トレーニング・健康に関連したプレゼンテーション課題を発表する．今回の発表者以外は，質問をする．全員が発表の内容と発表の仕方について，互いに評価しあう．	発表で良かったことと，改善点を振り返る．	4時間
第6回	**学術論文とは（トレーニングの効果）** 学術論文とは何かおよび構成を理解する．トレーニング効果を調べた論文を要約しながら，各項目で準備することや必要なことを学ぶ．	トレーニング効果を調べた文献を熟読する．	4時間
第7回	**学術論文とは（二つの関係）** 二つの事柄の相関関係を調べた論文を要約しながら，各項目で準備することや必要なことを学ぶ．	相関関係を調べた文献を熟読する．	4時間
第8回	**文献検索** 本学図書館HPのデータベース一覧を利用し，キーワードを用いて文献を検索する．	文献を探し，簡単に説明できるように熟読してくる．	4時間
第9回	**グループで文献を選ぶ** トレーニング効果に関する文献を選んだグループと，相関関係を調べたグループに分かれ，それぞれの内容をもとにグループで文献を一つ選ぶ．発表のための分担を決める．	プレゼンテーションの資料を作成し，発表の練習をする．	4時間
第10回	**グループ１のプレゼンテーション** グループで選出した論文を発表する．聞くグループは，質問をすることと，発表された論文の概要をまとめる．	発表者は自分の発表を振り返る．聞いたグループは概要をまとめる．	4時間
第11回	**グループ２のプレゼンテーション** グループで選出した論文を発表する．聞くグループは，質問をすることと，発表された論文の概要をまとめる．	発表者は自分の発表を振り返る．聞いたグループは概要をまとめる．	4時間
第12回	**文献の要約** 学術文書を書く際の注意点を理解する．グループでプレゼンテーションした文献を，グループで協力して要約する．	学術文書の書き方に注意し，文献を要約する．	4時間
第13回	**要約した文章のピア評価** グループで要約した文章を交換し，内容や書き方を互いに評価する．	要約した文章を訂正し，見直す．	4時間
第14回	**前半のまとめ** 前半に実施した内容を振り返る．	夏休みの学習計画を立てる．	4時間
第15回	**夏休みの振り返り** 夏休みの活動および印象に残っていることについて発表する．	前期に読んだ論文を復習する．	4時間
第16回	**グループ課題（測定の準備）** トレーニング効果もしくは相関関係のグループに分かれ，グループで参考文献をもとに測定を実施するための準備をする．	測定方法を理解し，測定ができる準備をする．	4時間
第17回	**グループ課題（測定①トレーニング効果および相関関係）** 文献で調べたトレーニング効果と相関関係の測定方法，回数，記録等に注意し，測定を実施する．	得られた結果をどのようにまとめるか，復習する．トレーニングを実施する．	4時間
第18回	**グループ課題（測定②トレーニング効果）** 一週間実施したトレーニング後の測定を実施する．	表やグラフを完成させる．	4時間
第19回	**卒業論文中間発表会出席に振替** 卒業論文中間発表会に出席し，質問をする．	興味があった発表について，質問や改善点を考える．	4時間
第20回	**グループ課題（結果のまとめ）** グループで，測定した結果を表やグラフにまとめる．相関関係とトレーニング効果の結果を分析する．	参考文献を検索し，熟読する．	4時間
第21回	**グループ課題（考察）** 結果をもとに，参考にした論文と照らし合わせながら考察する．	他の参考文献を検索し，考察にいかす．	4時間

第22回	**グループ課題（まとめ）** グループでミニ論文をまとめる．	ミニ論文を完成させ，発表の準備をする．	4時間
第23回	**グループ課題（発表）** グループで実践したミニ論文を発表し，互いに評価しあう．	良かった点と改善点を振り返る．	4時間
第24回	**研究テーマの選択** 卒業研究のテーマを決める．研究の背景や目的を理解する．	研究テーマを決め，背景や目的を理解する．	4時間
第25回	**文献検索** 研究背景と目的をまとめ，説明するために必要な先行研究を探す．	必要な先行研究をまとめ，研究テーマを発表する準備をする．	4時間
第26回	**研究テーマの発表** 研究背景と目的を踏まえて，研究テーマを発表する．	研究テーマに対して，具体的な研究対象や方法を考える．	4時間
第27回	**研究方法の検討** 先行研究を参考にし，具体的な研究対象や方法などを決定する．	研究計画書を作成する準備をする．	4時間
第28回	**研究計画書の作成** 研究のテーマ，背景と目的，方法と参考文献をまとめ，卒業研究の研究計画書を作成する．	研究計画書を作成する．	4時間

1-8-3

授業科目名	**スポーツ情報戦略演習（豊田）**				
担当教員名	豊田　則成				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「スポーツ心理学」や「スポーツメンタルサポート」をベースに、卒業論文作成へ向けての文献講読（国内外を問わず）、研究方法論の習得（質的研究法など）を中心に行い、実験の計画、フィールド調査の企画、アンケート用紙の作成、分析の見通しなど、研究活動を実際に行うための様々な手法を学ぶ。特に、質的心理学研究法についての見識を深め、スポーツフィールドに散在するスポーツデータの質的検討ができるようになるための基礎知識を深めていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	スポーツ心理学の範囲と効能	スポーツ心理学を基礎とした理論について理解を深めることが出来る
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツメンタルトレーニングの実践例	スポーツメンタルトレーニングの理論についての理解を深めることができる
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツカウンセリングの実践例	スポーツカウンセリングの理論についての理解を深めることができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)

本授業は、一部、Zoomを利用した遠隔授業として開講されるため、①G-Mail（@g.bss.ac.jp）、②Google Chrome（ブラウザ）、③Google Classroom、④Google Form、⑤Googleドキュメント（MS-Wordファイルを開くのに最適なアプリケーション）、⑥Google スプレッドシート（MS-Excelファイルを開くのに最適なアプリケーション）、⑦Googleスライド（MS-Power Pointファイルを開くのに最適なアプリケーション）、⑧Acrobat Reader（PDFを閲覧するのに最適なアプリケーション）、などが活用できるように、通信環境を整備に努めてもらいたい。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小レポート課題	25%	： 毎回の授業で課されるレポートを評価する。授業内容を踏まえた論述ができていれば５点とし、重大な誤りや不足があれば１点とする。
プレゼンテーション	25%	： 授業内容を踏まえた発表であれば５点とし、そこに独自の見解や具体例等が示され、分かりやすい内容であれば２点を加え、重大な誤りや不足があれば１点とする。
研究計画書	25%	： 授業内容を踏まえた発表であれば５点とし、そこに独自の見解や具体例等が示され、分かりやすい内容であれば２点を加え、重大な誤りや不足があれば１点とする。
最終レポート課題	25%	： ルーブリックを利用し、評価する。ルーブリックについては、予め授業内で説明を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。
授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、各授業での学修効果を向上させる上で、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時

場所： 副学長室

備考・注意事項： アポイントをとりたい場合は、toyoda-n@bss.ac.jp宛てに送信すること。
特に、E-Mailの「件名」には「学籍番号」と「氏名」を記入し、「本文」の一行目には「本授業名」を、二行目以降には「問合せ事項」を簡潔に記入すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツへのサイコロジカルアプローチ** 本授業のオリエンテーションとして位置づけられ、スポーツへのサイコロジカルアプローチについて学修する。	「授業：スポーツ心理学」について予習し、スポーツへのサイコロジカルアプローチについて、予習しておく。	4時間
第2回	**関連文献をどう読むのか(1)国内の研究報告** 国内研究雑誌の検索方法、研究動向について学修する。	授業の内容を踏まえ、研究報告の概観の仕方について、ノートにまとめておく。また、次回は国外研究の動向を知る上での手法を学ぶことから、図書館の利用方法などについて、予習しておく。	4時間
第3回	**関連文献をどう読むのか(2)国外の研究報告** 国外研究雑誌の検索方法、研究動向について学修する。	授業の内容を踏まえ、国外の研究動向について、ノートにまとめておく。また、心理学領域の先行研究を概観する手続きについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第4回	**実験をどう計画し、遂行するのか(1)心理実験で取り上げる研究テーマについて** 心理学実験法についての実例をあげて、研究の観点、実験とポイント、方法の透明性などについて学修する。	授業の内容を踏まえ、心理学実験法について、ノートにまとめておく。また、実験手続きについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第5回	**実験をどう計画し、遂行するのか(2)実際的な実験遂行の手続き** スポーツ心理学実験についての実例をあげて、理解を深める。	授業の内容を踏まえ、スポーツ心理学実験について、ノートにまとめておく。また、アンケート調査法について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第6回	**質問紙の作成と分析(1)アンケート作成のポイント** 質問紙調査法について学修する。	授業の内容を踏まえ、質問紙調査法について、ノートにまとめておく。また、アンケート結果のまとめ方について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第7回	**質問紙の作成と分析(2)アンケート結果の分析** 質問紙調査の結果のまとめ方について学修する。	授業の内容を踏まえ、質問紙調査の結果のまとめ方について、ノートにまとめておく。また、インタビュー調査法について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第8回	**人の語りから読み取れること(1)インタビュー法の実際** インタビュー調査法について学修する。	授業の内容を踏まえ、インタビュー調査法について、ノートにまとめておく。また、質的研究法について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第9回	**人の語りから読み取れること(2)質的研究法** インタビュー調査の結果のまとめ方について学修する。	授業の内容を踏まえ、質的研究法について、ノートにまとめておく。また、参与観察法について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第10回	**自らが参加し、観察・分析すること(1)参与観察法** 参与観察法について学修する。	授業の内容を踏まえ、参与観察法について、ノートにまとめておく。また、観察結果の可視化について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第11回	**自らが参加し、観察・分析すること(2)観察結果の可視化** 参与観察の結果のまとめ方について学修する。	授業の内容を踏まえ、監察結果の可視化について、ノートにまとめておく。また、行動観察の視点について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第12回	**身体の動きや行動が意味すること(1)行動観察の視点** 行動観察法について学修する。	授業の内容を踏まえ、行動観察の視点について、ノートにまとめておく。また、行動の意味について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第13回	**身体の動きや行動が意味すること(2)行動の意味についての検討** 行動観察の結果のまとめ方について学修する。	授業の内容を踏まえ、行動の意味について、ノートにまとめておく。また、研究計画の立案について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間

第14回	**研究構想(1)＜自らの興味を中心に＞研究計画の立案** 卒業研究の構想を立てる。	授業の内容を踏まえ、研究計画の立案について、ノートにまとめておく。また、研究方法論について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第15回	**研究構想(2)＜正しく研究するために＞研究方法の検討** 卒業研究の構想における研究方法論について理解を深める。	授業の内容を踏まえ、研究方法論について、ノートにまとめておく。また、研究倫理について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第16回	**研究実践の手引き：研究倫理について** 研究を実践する上での心構えについて学修する。	授業の内容を踏まえ、研究倫理について、ノートにまとめておく。また、研究の企画に向けて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第17回	**グループワーク(1)　研究の企画** 研究を企画する。	授業の内容を踏まえ、研究を企画した内容を振り返り、ノートにまとめておく。また、研究手法の選択において重要な事柄について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第18回	**グループワーク(2)　研究手法の選択** 研究手法を選択し、計画を立てる。	授業の内容を踏まえ、立案した研究計画について、ブラッシュアップしておく。また、研究調査法の選択について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第19回	**グループワーク(3)　調査法の実践** 研究調査を実践する。	授業の内容を踏まえ、実践した調査法を振り返って、ノートにまとめておく。また、量的データの分析法について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第20回	**グループワーク(4)　データ分析①量的分析** 実際に、データ分析の視点を学ぶ。	授業の内容を踏まえ、量的データの分析法について、ノートにまとめておく。また、質的データの分析法について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第21回	**グループワーク(5)　データ分析②質的分析** データ分析における課題や問題点を整理する。	授業の内容を踏まえ、質的データの分析法について、ノートにまとめておく。また、研究結果の表記の仕方について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第22回	**グループワーク(6)　分析結果の表記：研究成果の提示** 分析結果をまとめる。	授業の内容を踏まえ、研究成果の提示の仕方について、ノートにまとめておく。また、報告書や研究レポートの書き方について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第23回	**グループワーク(7)　報告書の作成：研究レポートの書き方** 研究成果報告書を作成する。	授業の内容を踏まえ、報告書や研究レポートの書き方について、ノートにまとめておく。また、プレゼンテーション資料の作成について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第24回	**グループワーク(8)　PPT資料の作成：プレゼンテーションの素材をつくる** 研究成果をプレゼンテーションするための資料作りを行う。	授業の内容を踏まえ、プレゼンテーション資料の作成について、ノートにまとめておく。また、口頭発表について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第25回	**グループワーク(9)　プレゼンテーション練習：口頭発表の要領をつくる** 研究成果をプレゼンテーションするシナリオを考案する。	授業の内容を踏まえ、口頭発表について、ノートにまとめておく。また、研究成果の還元について、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第26回	**グループワーク(10)　フィードバックの検討：研究成果の還元** 研究成果をスポーツフィールドにフィードバックする。	授業の内容を踏まえ、研究成果の還元について、ノートにまとめておく。また、ピアカンファについて、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第27回	**グループワーク(11)　ピアカンファレンス：質疑応答の練習** ゼミ生間で、研究成果についてのピアカンファを実施する。	授業の内容を踏まえ、ピアカンファについて、ノートにまとめておく。また、質疑応答を想定し、プレゼンテーションの内容を予め作成するために、関連図書を利用して、予習しておく。	4時間
第28回	**研究成果発表：プレゼンテーションと質疑応答** 研究成果発表会を行う。	授業の内容を踏まえ、プレゼンテーションから学んだ内容をノートにまとめておく。また、プレゼンテーションの準備をしておく。	4時間

1-8-3

授業科目名	スポーツ情報戦略演習（高橋）				
担当教員名	高橋　佳三				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、一年間を通して「各自が研究計画を立て、データを収集・分析し、考察を加えて論文を執筆する能力を養う」ことを目標とする。そのため前期では先行研究から各自が行いたい研究内容の問題点を抽出し、研究計画書を執筆する。そして２次元および３次元動作分析の手法を用いた実験とデータ分析を行う。後期には、前期に算出したデータを加工し、考察を行い、ミニ卒業論文を執筆する。これらの一連の内容を学修し、４年次の卒業論文執筆のための基礎的な能力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツバイオメカニクスに関する知識の習得とその応用	スポーツ技術について、スポーツバイオメカニクスの観点から分析できるようになる。
２．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツバイオメカニクスで用いられる実験・研究手法の習得	スポーツバイオメカニクスの実験・研究手法を用いた研究ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
研究計画書	20%	：先行研究のレビューが的確に行われ（50点），実験計画が詳細に記されているか（50点）を評価する
実験などへの参加度	30%	：自身の実験の際に主導的立場で実験を行っているか（50点），他の学生の実験に積極的に参加しているか（50点）を評価する
ミニ卒論	50%	：卒業論文の体裁に従って執筆されているか（30点），内容が論文として適切かどうか（40点），新たな発見と卒業論文につながる知見が得られたか（30点）を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツバイオメカニクス（深代千之，桜井伸二，平野裕一，阿江通良著，朝倉書店）
バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎（金子公宥，福永哲夫著，杏林書院）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　研究室（B306）

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**文献読解（1）：文献検索、読解の方法** 文献検索の方法、論文の読み方について理解する。	次回以降の授業で読む研究論文を検索し、印刷しておく。	4時間
第2回	**文献読解（2）：論文読解** バイオメカニクスの研究論文を読み、先行研究で明らかにされていること、されていないことを読み取り、課題を明らかにする。	授業内で読み終えなかった論文を読み、課題を明らかにしておく。	4時間
第3回	**文献読解（3）：レビュー作成** 先行研究のレビューの作成法について学び、実際に作成する。	先行研究のレビューを作成し、パワーポイントで発表資料を作成する。	4時間
第4回	**文献読解（4）：レビュー発表** レビューのプレゼンテーションをする。	プレゼンテーションの際質問を受けた内容についてさらに調査を進める。	4時間
第5回	**研究計画（1）：研究計画書の書き方** 研究計画書の書き方について説明する。そしてレビューを元に研究計画を立て、研究計画書を作成する。	研究計画を発表できるよう、パワーポイントで資料を作成する。	4時間
第6回	**研究計画（2）：研究計画の発表** 研究計画についてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの際質問を受けた内容について加筆・修正を加える。	4時間
第7回	**2次元データ分析（1）：2次元画像撮影** 実際に映像を撮影することで、2次元画像撮影の方法（固定法、パンニング法）を理解する。その際、カメラの設定内容についても理解を深める。	次週の授業に向けて、撮影した映像を変換しておく。	4時間
第8回	**2次元データ分析（2）：デジタイズ法の理解** デジタイズの方法を理解する。	次週の授業までにデジタイズを終わらせておく。	4時間
第9回	**2次元データ分析（3）：2次元実長換算、平滑化** 2次元の実長換算について、概念や計算方法を理解する。また、平滑化（スムージング）について概念と手法を理解する。	次週の授業までに実長換算と平滑化を終わらせ、問題があればデジタイズをやり直しておく。	4時間
第10回	**2次元データ分析（4）：速度算出** 微分法について理解し、2次元座標値を微分して速度を算出する。そして速度の意味（成分や合成など）について理解する。	速度算出を終わらせ、エクセルでグラフ化し、データに不具合があればデジタイズや実長換算をやり直しておく。	4時間
第11回	**2次元データ分析（5）：角度・角速度算出** ベクトル間の角度の算出方法について理解する。そして部分角度と関節角度を算出し、それぞれの違いと意味について理解する。また部分角度と関節角度を微分して角速度を算出する。	部分角度および角速度、関節角度および角速度を算出し、エクセルでグラフ化しておく。	4時間
第12回	**3次元データ分析（1）：3次元画像撮影** 3次元動作分析を行うために、カメラ2台以上で動作の撮影を行う。カメラの配置や同期の方法を理解し、3次元動作分析の撮影方法を習得する。	次週の授業に向けて、撮影した映像を変換しておく。	4時間
第13回	**3次元データ分析（2）：3次元のデジタイズ法の理解** カメラ2台以上でデジタイズを行う際の注意点など、デジタイズの方法を理解し、デジタイズを行う。	次週の授業までにデジタイズを終わらせておく.	4時間
第14回	**3次元データ分析（3）：3次元DLT法** キャリブレーションポールのデジタイズ方法、カメラ定数の算出方法、3次元DLT法について理解する。	次週の授業までにカメラ定数を算出し，DLTを終わらせておく.	4時間
第15回	**3次元データ分析（4）：3次元キネマティクス算出** 3次元速度、角度、角速度を算出し、データの意味を理解する。	次週の授業までにそれぞれのデータをエクセルでグラフ化しておく.	4時間
第16回	**地面反力および筋電図（1）：地面反力、筋電図の計測** 地面反力計と筋電図計の使用方法を理解し、データを計測する。そしてデータの意味を理解し、分析する。	次週のデータ処理の予習を行う。	4時間
第17回	**地面反力および筋電図（2）：地面反力データの処理** 地面反力と筋電図のデータの意味を理解し、画像データとの同期を行う。	次週の統計分析の予習を行う。	4時間
第18回	**統計処理** t検定、分散分析、相関係数など、基礎統計量について理解し、基礎統計を行う。	次週からの考察に向け、統計処理を行っておく。	4時間
第19回	**考察、論文執筆（1）：ストーリーづくり** データを様々な組み合わせで並べ替え、考察のストーリーを考える。	次週のプレゼンテーションに備え、ストーリーを考えスライドを作成する。	4時間
第20回	**考察、論文執筆（2）：ストーリー発表（1）** 考案したストーリーを発表する。受講者は、発表者に対してできるだけ多くの視点から質問を行う。	プレゼンテーションの際質問を受けた内容について加筆・修正を加える。	4時間
第21回	**考察、論文執筆（3）：ストーリー発表（2）考察執筆** 前回から練り直したストーリーについて発表を行い、さらに質問を受ける。考えがまとまれば、考察の執筆に入る。	考察の執筆を行う準備をする。	4時間

第22回	**考察、論文執筆（4）：執筆** 考察を執筆する。	プレゼンテーションのためのスライド作りを行う。	4時間
第23回	**考察、論文執筆（5）：発表1** 執筆した考察について、プレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの際質問を受けた内容について加筆・修正を加える。	4時間
第24回	**考察、論文執筆（6）：発表2** 練り直した考察について、プレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの際質問を受けた内容について加筆・修正を加える。	4時間
第25回	**論文執筆（1）** これまでの内容を踏まえ、ミニ卒論の執筆を行う。	次週までに書き上げられなかった分を執筆する。	4時間
第26回	**論文執筆（2）** 受講生同士で、執筆したミニ卒論をチェックし、内容について訂正を加え、ミニ卒論を完成させる。	指摘を受けた内容について修正を加える。	4時間
第27回	**まとめ（1）：発表** これまでの授業についてまとめ、発表する（前半）。	前半の発表者は発表内容を踏まえ卒業論文の構想を練る。後半発表者は発表準備を行う。	4時間
第28回	**まとめ（2）：発表** これまでの授業についてまとめ、発表する（後半）。	後半発表者は発表内容を踏まえ卒業論文の構想を練る。全学生は卒業論文の研究計画書を作成する。	4時間

1-8-3

授業科目名	**スポーツ情報戦略演習（山田）**				
担当教員名	山田　庸				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2006年より2011年までJリーグ徳島ヴォルティスにて，2012年より韓国Kリーグ江原FCにて，フィジカルコーチとしてフィジカルデータの分析実績がある．以上の実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

卒業研究に向けた文献収集、文献レビューの作成、プレゼンテーション、研究計画の作成，ミニ論文の作成を行う。毎週１つの研究論文および専門雑誌記事の抄録を作成し，プレゼンテーションする．自身の興味の深い研究キーワードについての研究背景への理解を深めたうえで，期末にミニ論文を計画，実践，発表し研究実践力を高める．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
１．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ情報に関する研究を収集理解する力	スポーツ情報に関する研究背景を理解できる
２．DP10.スポーツ学に関する実践力	研究論文を執筆するための研究方法を理解し，実践する力	研究論文を執筆するために研究方法を理解，実践できる。
３．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	これまで経験したスポーツ体験にもとづく実践知と文献研究によって獲得した経験知を結びつける力	自分の行うスポーツに関するコツなどの身体知に関連した文献を調査することができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内プレゼンテーション	70%	： 対象論文の選定，読解力，抄録の形式，抄録内容，発表時間，伝えるスキル，次回の方針
授業内課題	30%	： データ収集の精度，データセット作成精度，出力の妥当性

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、研究法の基礎**	興味のある研究テーマについて文献調査する	4時間

	本演習について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法についてガイダンスを行い、各回の内容を概観する。 さらに、研究ノートを配布し、ノートの使用方法、まとめ方を指導する。また、卒業研究の目次立てを解説し、文献研究から始まる研究の手順について解説する。		
第2回	**文献収集法** 図書課職員による文献収集ガイダンスを受講し，文献検索データベースCiniiを用いた文献収集方法を身に付ける．さらに，興味のあるキーワードから研究論文を収集する．	データベースを用いて研究論文を収集する	4時間
第3回	**文献収集①　代表的な文献の収集** 文献検索データベースを用いて，研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。今回は特に各領域やキーワードについて代表的な論文を提示し，その中から論文を選択する． 検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	文献を読み解き，集約する	4時間
第4回	**レジュメ作成①** 収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。代表的な論文であり，参考文献についても整理する． パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	授業内で完了していないレジュメの作成を行う	4時間
第5回	**発表①** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表で見つかった書式のミスを修正し，新しい観点を追記しておく	4時間
第6回	**文献収集②　サッカー医・科学研究** サッカー医・科学研究PDF版から研究のキーワードに即した研究を探索し，収集する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	授業内で検索した文献を熟読する	4時間
第7回	**レジュメ作成②** 収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。図表について，代表的なものを引用し資料に提示する． パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	授業内で完了していないレジュメの作成を行う	4時間
第8回	**発表②** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。1回目の内容を踏まえた発展性についても解説する． 各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表で見つかった書式のミスを修正し，新しい観点を追記しておく	4時間
第9回	**文献収集③　CiNiiによる和文検索** 文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。これまでの2回と異なるキーワードの文献を探索する． 検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	収集した文献を熟読する	4時間
第10回	**レジュメ作成③** 前回収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。書式等の体裁やフォントにも工夫し，読み手に伝わる工夫を実践する．パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	レジュメを完成させる	4時間
第11回	**発表③** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表で見つかった書式のミスを修正し，新しい観点を追記しておく	4時間
第12回	**文献収集④　JAIROによる和文検索** 文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。前回の文献から発展した内容について検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	収集した文献を熟読する	4時間
第13回	**レジュメ作成④** 前回収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	データを入力する	4時間
第14回	**発表④** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	発表練習を行う．	4時間
第15回	**研究テーマの選択** 前期の文献収集等を踏まえ、各学生の研究テーマ・キーワードを仮決定する。	卒業論文テーマを考える	4時間

第16回	**後期ガイダンス** 後期のゼミ活動について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法について予定と内容を確認する。自分の研究分野について、方向性を発表する。	研究の方向性を検討する	4時間
第17回	**卒論中間発表会①** スポーツ情報戦略コースの卒論中間発表会に参加する．ポスター発表形式なので，すべてのポスターを閲覧し，自由質問を合計5名以上に行う．報告書を作成し提出する．	興味深いテーマについて，意見をまとめる	4時間
第18回	**卒論中間発表会②** スポーツ情報戦略コースの卒論中間発表会に参加する．ポスター発表形式なので，すべてのポスターを閲覧し，自由質問を合計5名以上に行う．報告書を作成し提出する．	興味深いテーマについて，意見をまとめる	4時間
第19回	**文献収集⑤　卒論中間発表会の発表テーマと関連する文献の探索** 卒論中間発表会から発掘したキーワードをもとに，文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。前回の文献から発展した内容について検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	収集した文献を熟読する．	4時間
第20回	**レジュメ作成⑤　卒論中間発表会の発表テーマと関連する文献のまとめ** 前回収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。	レジュメを完成させる	4時間
第21回	**発表⑤　卒論中間発表会の発表テーマと関連する文献の探索** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	これまでの発表をまとめ文献レビューを作成する	4時間
第22回	**サッカー選手の体力** サッカー選手の体力領域と体力テストについて学習する．間欠的持久力のYOYOテスト，敏捷性領域のアローヘッド・アジリティ・テスト，スピード領域の5*30mテスト，パワー領域の垂直跳びについて，理論的背景と方法論について学習する．	測定を実施できるように，測定方法を復習する．	4時間
第23回	**サッカー選手の体力測定準備** サッカー部選手を対象とした体力テストを実施する．用具の準備，実施スケジュールの作成，測定配置図の作成，測定用紙の作成を行う．	体力測定後のフィードバックについて学習する	4時間
第24回	**文献収集⑥　卒論の核となる先行研究を探索する** 文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。前回の文献から発展した内容について検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。	収集した文献を熟読する．	4時間
第25回	**発表⑥　卒論の核となる先行研究のプレゼンテーション** それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。	これまでの発表をまとめ文献レビューを作成する	4時間
第26回	**データ収集，分析** ミニ卒論のためのデータを収集，データセットを作成し分析する．必要な実験を計画し，用具や被験者，スケジュールを準備し実行する．	データセットを作成，分析し結果をグラフで出力しておく	4時間
第27回	**ミニ卒論発表スライド，抄録の作成** それぞれの研究計画を作成する。グループでディスカッションする中で、まず研究の大まかな方向性を決める。タイトルの軸となるキーワードをそろえる。	抄録とスライドを完成させておく	4時間
第28回	**ミニ卒論発表⑦** 収集したデータに基づき，ミニ論文発表を行う．発表方式は，パワーポイントスライド形式で行う．発表は5分間，質疑応答3分間．それぞれ抄録を用意する．	来年度の卒業論計画を具体化する	4時間

1-8-3

授業科目名	**スポーツ情報戦略演習（岡部）**				
担当教員名	岡部　優真				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業論文作成へ向け、運動の力学や動作の分析方法を学ぶ。また、先行研究の調査を通じて研究に関する理解を深める。
具体的には卒業研究に必要な基礎知識や各種測定機器の使用方法、データ解析に関する知識と技能、研究デザインの立案方法について学ぶことで、卒業論文のテーマを明確にする。さらに、測定したデータを分かり易く提示する方法や効果的なプレゼンテーションの方法についても学習することで、卒業論文制作へ向けたビジョンを確立する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ動作の基礎知識を習得.	科学的知見に基づいてスポーツ動作を観察・評価できるようになる.
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツに関する各種測定機器の使用方法に関する知識と技能を習得．また，測定した各種データの加工方法する技能を習得.	測定に必要な機材と分析方法を理解し，適切な手段を選択できるようになる.
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	測定した各種データの加工方法する技能を習得して，加工したデータの"分かりやすい"提示・表現の知識と方法の習得.	データを分かり易く整理して説明するスキルを身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

全ての課題については，3つの到達目標に対して以下5項目の観点から5段階評価する。
5点：適切であり優れている、4点：適切である、3点：一部適切である、2点：不足している、1点：大きく不足している。
1）到達目標を達成しているか？
2）自身の意見・考えを反映しているか？
3）自身の経験に基づく具体例が示されているか？
4）自身の卒業論文への発展性があるか？
5）文章や資料の構成は適切であるか？

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内レポート	25%	：注意事項に示した4項目の合計点を平均して評価する。
プレゼンテーション	25%	：注意事項に示した4項目の合計点を平均して評価する。
研究計画書	25%	：注意事項に示した4項目の合計点を用いて評価する。 4）については，先行研究との関連性を評価に置き換えて評価する。
最終レポート課題	25%	：注意事項に示した4項目の合計点を用いて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）
動きの質的分析入門（ナップ）
陸上運動・競技の指導を考える基礎的研究（創文企画）
スポーツ・バイオメカニクス入門（杏林書院）
走る科学（大修館書店）
跳ぶ科学（大修館書店）
投げる科学（大修館書店）
マイネル・スポーツ運動学（大修館書店）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる．
授業内では，各種方法・理論の基礎的部分を学習する．したがって，学習した理論を習得するためには，授業外時間を利用した学習が不可欠となる．また，各種の実験や測定を主体的に計画して実施することを求める．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業終了後など

場所：　講義場所、B211研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス：スポーツ情報戦略とは** スポーツ情報戦略の役割と意義について説明するとともに，全体の授業計画や評価方法について概説する．	スポーツ情報戦略の”スポーツ”に対する役割を調査してレポートにまとめる．	4時間
第2回	**スポーツの技術と技能** スポーツにおける技術と技能について学習し，それぞれの持つ意味の違いを理解する．	陸上競技走高跳における「背面跳」が生まれた背景を調査しておく．	4時間
第3回	**運動の力学の理解** 運動を構成する「並進運動」と「回転運動」について学習する．	物理学的視点から見た運動とは，何を意味するのかについて調査しておく．	4時間
第4回	**スポーツ動作における速度と角度** スポーツ動作における速度と角度が何を意味するのかを考える．	自分自身のスポーツパフォーマンスを高めるために変化させるべき速度と角度についてレポートにまとめる．	4時間
第5回	**身体重心の計算方法** 身体重心が何を意味するのか，どのような手順によって求められるのかを，手計算することによって学習する．	身体重心とは何か，どのような時に変化するのかを調査しておく．	4時間
第6回	**ハイスピードカメラの使用方法** ハイスピードカメラの使用方法を学び，動作分析を行うための設定を確認する．	2次元動作分析と3次元動作分析の相違について調査して，それぞれに最低限必要なカメラの台数と配置方法について調査する．	4時間
第7回	**2次元座標値を用いた計算と分析の方法** 撮影した画像データをデジタイズすることで得られた2次元座標値の持つ意味を理解し，必要とする数値を算出する．	2次元動作分析の利点について調査する．	4時間
第8回	**3次元座標値を用いた計算と分析の方法** 撮影した画像データをデジタイズすることで得られた3次元座標値の持つ意味を理解し，必要とする数値を算出する．	3次元動作分析の利点について調査する．	4時間
第9回	**身体座標値を用いたスポーツ動作の分析** 身体座標値から算出された数値を用いて，スポーツ動作を分析・比較する方法を学習する．	「走る」「跳ぶ」「投げる」などの基本的運動に関する，“良い動き”と“悪い動き”について調査しておく．	4時間
第10回	**動作分析の実践：撮影とデジタイズ** 学習内容を振り返り，自分の分析したいスポーツ動作を撮影し，得られた画像データをデジタイズする．	デジタイズの概念と方法について調査しておく．	4時間
第11回	**動作分析の実践：身体座標値の分析** 学習内容を振り返り，デジタイズによって得られた身体座標値を分析する．	座標値を用いた速度や角度の計算方法について調査しておく．	4時間
第12回	**数値をグラフ化する方法** データから得られた数値をもとにグラフを作成する．その際，データの持つ意味を理解した上で，適切なグラフを選択する．	Excelにおける基本的なグラフ作成手順について調査しておく．	4時間
第13回	**プレゼンテーションの方法と注意点** 分かりやすいプレゼンテーションの方法について学習する．	”わかりやすい”プレゼンテーションのための，「文字サイズ」「配色」「フォント」を調査して，資料を制作する．	4時間
第14回	**動作分析の発表** 撮影した画像データから得られた身体座標値から算出したデータを分析し，その結果を発表する．	発表資料を作成して発表の準備を行う．	4時間
第15回	**文献の検索方法** 科学的に信頼のおける文献を検索する方法と文献資料を引用，参考する際の注意点について学習する．	興味のある研究に関するキーワードを考え，文献検索の準備を行う．	4時間

第16回	**文献研究の方法** 各自が興味のある論文を検索し，その要点をまとめる．	「緒言」「方法」「結果」「考察」の項目にはどのようなことが記述されているのかを調査する．	4時間
第17回	**文献研究の発表** 各自が興味を持ち，収集，要約した文献を要約したものを発表する．また，それぞれの発表に対する質疑応答を通して，より理解を深める．	興味のある研究領域について考え，その領域を取り扱うジャーナルを調査しておく．	4時間
第18回	**データの取り扱いと統計** 表計算ソフト「Excel（Microsoft）」を用いたデータ整理の方法，統計分析を行うための下準備について学習，実践する．	基本的なExcel関数「SUM」「IF」「MAX」「MIN」「LOOKUP」等の使い方を調査しておく．	4時間
第19回	**統計手法の理解** 卒業論文を作成するために必要となる基本的な統計技術について概説して理解を深める．	統計について予習と復習を行う．「回帰式」「T検定」「分散分析」のキーワードを調査して説明できるようにしておく．	4時間
第20回	**Excelを用いた統計分析** 表計算ソフト「Excel（Microsoft）」を用いた統計分析方法について学習する．	「標準偏差」「有意確立」「危険率」について調査しておく．	4時間
第21回	**SPSS Statisticsを用いた統計分析** 統計ソフト「SPSS Statistics（IBM）」を用いた統計分析方法について学習する．	「パラメトリック検定」，「ノンパラメトリック検定」について調査しておく．	4時間
第22回	**Rを用いた統計分析** 統計ソフト「R」を用いて統計分析を行う際の簡単なプログラミングについて学習する．	「クラスター分析」「ディメンションツリー」について調査しておく．	4時間
第23回	**統計分析手法の選択と実践** 提示されたサンプルデータを用いて，統計分析を行う．その際，学習した統計手法の中から適切な手法を選択し，実践する．また，得られた結果を発表する．	提示されたサンプルデータを整理し，統計分析を実施しやすいデータセットを作成しておく．	4時間
第24回	**図表の作成方法** 論文執筆，発表資料へ挿入できる，見やすく伝わりやすい図表の作成法について学ぶ．	論文へ図表を挿入する際のルールについて調査する．	4時間
第25回	**研究データの記述方法** 分析したデータを読み解き，論文へ記述する際の書き方，ルールについて学習する．	提示されたサンプルデータを分析して得られた結果をまとめておく．	4時間
第26回	**統計分析の発表** 提示されたサンプルデータを分析し，その結果を発表する．	発表資料を作成して発表の準備を行う．	4時間
第27回	**研究のデザインの方法** 仮説を立てる方法と仮説を検証する方法を理解して，実践できるようになる．	これまでの学習，実践，文献研究を振り返り，自分の興味のある研究をまとめておく．	4時間
第28回	**研究計画の発表，まとめと総評** 卒業研究において実施したい研究とその計画についてまとめ，発表する．これまでの実施内容を確認する．	これまでの学習内容を振り返り，レポート課題に取り組む．	4時間

1-2-3

授業科目名	野外スポーツ演習（中野）				
担当教員名	中野　友博				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習は、野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	野外スポーツに関する先行研究の概観	野外スポーツに関する学術的理解が得られる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習	研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究デザインを計画することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	研究デザインの実践	計画した研究デザインを実践することができる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・レポート	30%	：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表	40%	：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト	30%	：研究法についての知識の理解を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田中敏・山際勇一郎	・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法	・教育出版	・1989年

参考文献等

随時配布・紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は通年で2単位ずつ、4単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日３限

場所：　A404

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要説明および「研究」とは、** 授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。	卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。	4時間
第2回	**野外スポーツ関連研究の概観** 各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。	ワークシートを完成させる	4時間
第3回	**個人別課題発表** 各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。	発表練習を行う、あるいは発表が終わっていれば評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。	4時間
第4回	**研究とは？変数とは？** これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。	授業の復習を行い、理解を深める	4時間
第5回	**データ分析における基本知識の習得-尺度・検定** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。 データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。	尺度・検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。	4時間
第6回	**データの分析方法ーデータ入力、分析の実際、分析の種類** 実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。 多用な分析方法について学び、適した分析が用いられるよう学修する。	授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。	4時間
第7回	**結果のまとめ方ー結果の理解、結果の考察** 分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。 考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。 各自のまとめた結果、考察について発表し、理解を深める。	課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。	4時間
第8回	**研究方法①観察法、質問紙法、面接法、文献研究** 研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。 野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。 質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。 文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。	授業の復習、例題に取り組む。	4時間
第9回	**文献検索の方法** インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論 文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。	学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。	4時間
第10回	**論文構成** 例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。	構成を理解し、選んだ論文を読み進める。	4時間
第11回	**先行研究のまとめ** 各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。	各自課題に取り組む。	4時間
第12回	**信頼性・妥当性** 研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。	授業を復習し、例題に取り組む。	4時間
第13回	**研究デザイン、研究プロポーザル考案、作成** これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。 プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。	研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。	4時間
第14回	**個人発表**	プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。	4時間

各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。実際に研究を行う上で、何が意義なのか、何が問題なのか、よりよい研究を行うための視点などについて理解する。		

1-2-3

授業科目名	**野外スポーツ演習（黒澤毅）**				
担当教員名	黒澤　毅				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本演習は、野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	野外スポーツに関する先行研究の概観	野外スポーツに関する学術的理解を得ることができる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習	研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究デザインを計画することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	野外スポーツに関する調査・研究を実践する力	野外スポーツに関する実践的・学術的理解をもとに、研究課題を設定し、研究実践を行う力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・レポート	30%	：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表	40%	：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト	30%	：研究法についての知識の理解を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田中敏・山際勇一郎	・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法	・教育出版	・1989年

参考文献等

随時配布・紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は通年で2単位ずつ、4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日３限

場所：　A402

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要説明および「研究」とは** 授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。	卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。	4時間
第2回	**野外スポーツ関連研究の概観** 各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。	抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。	4時間
第3回	**個人別課題発表-前半** 各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。	発表練習を行う、あるいは発表が終わっていれば評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。	4時間
第4回	**個人別課題発表-後半** 前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。課題遂行と他の発表を聞き、理解することから、野外スポーツ関連研究の動向を理解する。	発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。	4時間
第5回	**研究とは？変数とは？** これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。	授業の復習を行い、理解を深める	4時間
第6回	**データ分析における基本知識の習得-尺度** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。	尺度について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。	4時間
第7回	**データ分析における基本知識の習得-検定** データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。	検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。	4時間
第8回	**データの分析方法ーデータ入力** 実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。	授業の復習を行い、データ入力を完成させる。	4時間
第9回	**データの分析方法ー分析の実際** 入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。	授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。	4時間
第10回	**データの分析方法-分析の種類** 多用な分析方法について学び、適した分析が用いられるよう学修する。	例題に取り組む。	4時間
第11回	**結果のまとめ方ー結果の理解** 分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。	課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。	4時間
第12回	**結果のまとめ方ー結果の考察** 考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。	各自の分析結果を考察と共にまとめる。	4時間
第13回	**結果のまとめ方ー結果と考察のまとめ** 各自のまとめた結果、考察について発表し、理解を深める。	課題の発表に対する評価を受け、ふりかえる。	4時間
第14回	**データ分析法のまとめ** データ分析における基本知識とデータ分析方法に関する理解を確認するための課題に取り組む。	課題を各自で完成させる。	4時間
第15回	**前期の学習のまとめ** 前回の課題を確認し、前期での学習の評価を行う。	各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。	4時間
第16回	**研究方法①観察法** 研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。	まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。	4時間
第17回	**研究方法②質問紙法** 野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。	授業の復習、例題に取り組む。	4時間
第18回	**研究方法③面接法** 質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。	インタビューデータを整理し、まとめる。	4時間
第19回	**研究方法④実験研究**	授業を復習し、例題に取り組む。	4時間

	実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。		
第20回	**研究方法⑤文献研究** 文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。	授業を復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。	4時間
第21回	**文献検索の方法** インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論 文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。	学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。	4時間
第22回	**論文構成** 例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。	構成を理解し、選んだ論文を読み進める。	4時間
第23回	**先行研究のまとめ①** 各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。	各自課題に取り組む。	4時間
第24回	**先行研究のまとめ②** ゼミ毎にて指導を受け、各自の文献レビューをまとめる。	レビュー結果から、仮説や課題を考える。	4時間
第25回	**信頼性・妥当性** 研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。	授業を復習し、例題に取り組む。	4時間
第26回	**研究デザイン** これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。	自分のテーマに即したデザインを考える。	4時間
第27回	**研究プロポーザル考案** プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。	テーマ設定のための文献検索・読み込みを行う。	4時間
第28回	**研究プロポーザル作成** フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。	研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。	4時間

1-2-3

授業科目名	野外スポーツ演習（林綾子）				
担当教員名	林　綾子				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	野外スポーツに関する先行研究の概観	野外スポーツに関する学術的理解が得られる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習	研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究デザインを計画することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	野外スポーツに関する調査・研究を実践する力の習得	野外スポーツに関する実践的・学術的理解をもとに、研究課題を設定し、研究実践を行う力をつける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・レポート	30%	：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表	40%	：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト	30%	：研究法についての知識の理解を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田中敏・山際勇一郎	・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法	・教育出版	・1989年

参考文献等

随時配布・紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は通年で2単位ずつ、4単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日３限

場所：　A402

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要説明および「研究」とは** 授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。	卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。	4時間
第2回	**野外スポーツ関連研究の概観** 各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。	抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。	4時間
第3回	**個人別課題発表** 各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。	発表練習を行う、あるいは発表が終わっていれば評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。	4時間
第4回	**研究とは？変数とは？** これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。	授業の復習を行い、理解を深める	4時間
第5回	**データ分析における基本知識の習得–尺度** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。	尺度について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。	4時間
第6回	**データ分析における基本知識の習得–検定** データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。	検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。	4時間
第7回	**データの分析方法－データ入力** 実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。	授業の復習を行い、データ入力を完成させる	4時間
第8回	**データの分析方法－分析の実際** 入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。	授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。	4時間
第9回	**データの分析方法–分析の種類** 多用な分析方法について学び、適した分析が用いられるよう学修する。	例題に取り組む。	4時間
第10回	**結果のまとめ方ー結果の理解** 分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。	課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。	4時間
第11回	**結果のまとめ方ー結果の考察** 考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。	各自の分析結果を考察と共にまとめる。	4時間
第12回	**結果のまとめ方ー結果の考察** 考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。	各自の分析結果を考察と共にまとめる。	4時間
第13回	**データ分析法のまとめ** データ分析における基本知識とデータ分析方法に関する理解を確認するための課題に取り組む。	課題を各自で完成させる。	4時間
第14回	**前期の学習のまとめ** 前回の課題を確認し、前期での学習の評価を行う。	各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。	4時間
第15回	**研究方法導入①観察法** 研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。	まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。	4時間
第16回	**研究方法②質問紙法** 野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。	授業の復習、例題に取り組む。	4時間
第17回	**研究方法③面接法** 質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。	インタビューデータを整理し、まとめる。	4時間
第18回	**研究方法④実験研究** 実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。	授業の復習し、例題に取り組む。	4時間
第19回	**研究方法⑤文献研究** 文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。	授業の復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。	4時間

第20回	**文献検索の方法** インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論 文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。	学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。	4時間
第21回	**論文構成** 例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。	構成を理解し、選んだ論文を読み進める。	4時間
第22回	**先行研究のまとめ** 各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。	各自課題に取り組む。レビュー結果から、仮説や課題を考える。	4時間
第23回	**信頼性・妥当性** 研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。	授業を復習し、例題に取り組む。	4時間
第24回	**研究デザイン** これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。	自分のテーマに即したデザインを考える。	4時間
第25回	**研究プロポーザル考案** プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。	テーマ設定のための文献検索・読み込みを行う。	4時間
第26回	**研究プロポーザル作成** フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。	研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。	4時間
第27回	**個人発表ー前半** 各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。	プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。	4時間
第28回	**個人発表ー後半** 前回に引き続き、プロポーザルの発表を行う。実際に研究を行う上で、何が意義なのか、何が問題なのか、よりよい研究を行うための視点などについて理解する。	プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。	4時間

1-2-3

授業科目名	野外スポーツ演習（橋本）				
担当教員名	橋本　和俊				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	野外スポーツに関する先行研究の概観	野外スポーツに関する学術的理解が得られる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習	研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究デザインを計画することができる。
3 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	野外スポーツに関する調査・研究を実践する力の習得	野外スポーツに関する実践的・学術的理解をもとに、研究課題を設定し、研究実践を行う力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題・レポート	30%	：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解度を評価する。
課題発表	40%	：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解度を評価する。
授業内小テスト	30%	：研究法についての知識の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田中敏・山際勇一郎	・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法	・教育出版	・1989年

参考文献等

随時配布・紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は通年で2単位ずつ、4単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日３限

場所：　A402

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要説明および「研究」とは** 授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。	卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。	4時間
第2回	**野外スポーツ関連研究の概観** 各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。	抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。	4時間
第3回	**個人別課題発表-前半** 各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。	発表練習を行う、あるいは発表が終わっていれば評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。	4時間
第4回	**個人別課題発表-後半** 前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。課題遂行と他の発表を聞き、理解することから、野外スポーツ関連研究の動向を理解する。	発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。	4時間
第5回	**研究とは？変数とは？** これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。	授業の復習を行い、理解を深める	4時間
第6回	**データ分析における基本知識の習得-尺度** データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。	尺度について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。	4時間
第7回	**データ分析における基本知識の習得-検定** データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。	検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。	4時間
第8回	**データの分析方法ーデータ入力** 実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。	授業の復習を行い、データ入力を完成させる。	4時間
第9回	**データの分析方法ー分析の実際** 入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。	授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。	4時間
第10回	**データの分析方法-分析の種類** 多用な分析方法について学び、適した分析が用いられるよう学修する。	例題に取り組む。	4時間
第11回	**結果のまとめ方ー結果の理解** 分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。	課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。	4時間
第12回	**結果のまとめ方ー結果の考察** 考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。	各自の分析結果を考察と共にまとめる。	4時間
第13回	**結果のまとめ方ー結果と考察のまとめ** 各自のまとめた結果、考察について発表し、理解を深める。	課題の発表に対する評価を受け、ふりかえる。	4時間
第14回	**データ分析法のまとめ** データ分析における基本知識とデータ分析方法に関する理解を確認するための課題に取り組む。	課題を各自で完成させる。	4時間
第15回	**前期の学習のまとめ** 前回の課題を確認し、前期での学習の評価を行う。	各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。	4時間
第16回	**研究方法①観察法** 研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。	まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。	4時間
第17回	**研究方法②質問紙法** 野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。	授業の復習、例題に取り組む。	4時間
第18回	**研究方法③面接法** 質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。	インタビューデータを整理し、まとめる。	4時間
第19回	**研究方法④実験研究**	授業の復習し、例題に取り組む。	4時間

	実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。		
第20回	**研究方法⑤文献研究** 文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。	授業の復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。	4時間
第21回	**文献検索の方法** インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論 文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。	学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。	4時間
第22回	**論文構成** 例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。	構成を理解し、選んだ論文を読み進める。	4時間
第23回	**先行研究のまとめ①** 各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。	各自課題に取り組む。	4時間
第24回	**先行研究のまとめ②** ゼミ毎にて指導を受け、各自の文献レビューをまとめる。	レビュー結果から、仮説や課題を考える。	4時間
第25回	**信頼性・妥当性** 研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。	授業を復習し、例題に取り組む。	4時間
第26回	**研究デザイン** これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。	自分のテーマに即したデザインを考える。	4時間
第27回	**研究プロポーザル考案** プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。	テーマ設定のための文献検索・読み込みを行う。	4時間
第28回	**研究プロポーザル作成** フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。	研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。	4時間

1-3-3

授業科目名	**地域スポーツ演習（秋武）**				
担当教員名	秋武　寛				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域のスポーツにかかわり、その運営・管理ができる立場の人材をはじめ、子どもを対象にした健康増進・余暇活動の充実に貢献できるような研究を行う。この授業科目は、子どもの運動能力の向上に向けた卒業論文作成に向けての知識を習得する。文献研究の方法、先行研究との関係、フィールド調査の企画、フィールド調査、データの整理、統計手法を用いた分析、プレゼンテーション能力（特に伝える力）等を学び、最終的に卒業論文に結び付けることとする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	卒業論文作成に向けて、フィールド調査の企画、フィールド調査、プレゼンテーション能力	先行研究との関係、フィールド調査の企画、フィールド調査、分析、研究論文の執筆する能力を身につける。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	文献研究の方法、先行研究との関係、考察	卒業論文作成に向けて、文献研究の方法、先行研究との関係、考察する力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	20%	： 各単元終了後に内容に沿ったレポートを提示し、その理解度を評価する。
卒業論文計画書発表	30%	： 作成した計画書を用いて、定期的に研究計画を発表し、その発表について評価する。
卒業論文計画書	50%	： 授業内容を踏まえ、定期的に卒業研究に必要な計画書を作成し、その内容について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

資料を適宜配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、卒業論文作成のスケジュールの発表** 演習全体の流れを説明すると同時に、受講者それぞれに本演習を選んだ理由、関心のある事柄等について発表してもらう。	演習全体の流れを把握すると同時に、自分自身の関心について再確認する。	4時間

第2回	**「論文」とは何か** 「論文」と「感想文」との違い、相手に納得してもらうための文章づくり等について概説する。	配布資料を参考に、論文全体の基本的な流れについて学ぶ。	4時間
第3回	**論文・レポート作成の基礎① - 文章表現** 論文・レポート作成時の基本的な文章表現方法について学ぶ	論文・レポートに共通する言葉遣いや表現方法を適切に理解する。	4時間
第4回	**論文・レポート作成の基礎② - 章立て・構成** 論文・レポートの構成について学ぶ	配布資料をしっかりと読み込み、全体の構成について理解する。	4時間
第5回	**文献講読① - レポート作成・発表準備** 課題図書を指定し、それに対するレポート作成・発表準備を行う。	レポート作成の手順、発表方法について理解をしておく。	4時間
第6回	**文献講読② - レポート発表準備** 課題図書をもとにして作成したレポートを発表準備を行う。	発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。	4時間
第7回	**文献講読③ - レポート発表** 課題図書をもとにして作成したレポートを発表する。	発表者は、発表するための準備を行う。発表者以外の受講生は、発表者の評価を行う。	4時間
第8回	**文献講読④ - レポート発表およびまとめ** 課題図書をもとにして作成したレポートを発表し、相互で振り返りを行う。	発表の準備、発表、まとめを復習する。	4時間
第9回	**資料検索の方法** 図書館データベースの使用方法、CiNiiによる論文検索の方法を学ぶ。	関心のあるテーマに関わる資料を数件探し出すこと。	4時間
第10回	**先行研究の検討① - 論文の構成** 配布した論文をもとに、研究手法（質的・量的手法）や調査対象者、全体の構成について学ぶ。	自分自身の関心のあるテーマに対して、どのような手法が合致するのかをしっかりと考える。	4時間
第11回	**先行研究の検討② - レポート作成** 第１０回の授業を踏まえて、各自先行研究を２件程度収集し、レポートの形でまとめる。	論文テーマのみで決めるのではなく、研究手法や対象者の違いについても留意しながら先行研究を収集する。	4時間
第12回	**先行研究の検討③ - レポート発表準備** 前回授業で収集した先行研究のレポートを発表できるように準備する。	レポート作成の手順、発表方法について理解をしておく。	4時間
第13回	**先行研究の検討④ - レポート発表** 前回授業で収集した先行研究のレポートを発表する。	発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。	4時間
第14回	**先行研究の検討⑤ - レポート発表およびまとめ** 前回授業で収集した先行研究のレポートを発表し、相互で振り返る。	発表の準備、発表、まとめを復習する。	4時間
第15回	**まとめ・振り返り** これまでの演習を踏まえて、大まかなテーマ設定・調査対象等についてまとめる。	自分自身が発表したレポート課題、先行研究レポートについて事前に振りかえりをしておくこと。	4時間
第16回	**論文のテーマ作成①** 各自収集した先行研究、その他資料を参照しながら論文のテーマを作成していく。	どのような障害をもっているのか、どのような種目に関わっているのか等、関心のあるテーマに対するイメージを具体化していく。	4時間
第17回	**論文のテーマ作成② - ディスカッション** 第１６回の授業を踏まえて、各自設定したテーマを選んだ理由や問題関心についてディスカッションを行う。	それぞれのテーマに対する問題関心を明確にする。	4時間
第18回	**研究手法の検討① - 質的研究について** 配布した資料をもとに、質的研究（インタビュー・参与観察等）の手法および調査対象者の設定について学ぶ。	自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。	4時間
第19回	**研究手法の検討② - 量的研究について** 配布した資料をもとに、量的研究（質問紙調査等）の手法および調査対象者の設定について学ぶ。	自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。	4時間
第20回	**研究手法の検討③ - 発表およびディスカッションのための準備** 自分自身が設定した研究テーマ、研究手法について発表およびディスカッションを行うための準備を行う。	発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。	4時間
第21回	**研究手法の検討④ - 発表およびディスカッション** 自分自身が設定した研究テーマ、研究手法について発表およびディスカッションを行う。	第20回と同様	4時間
第22回	**卒業論文計画書の作成① - テーマ設定**	自分自身の研究テーマを意識しながら、論文の構成について理解する。	4時間

	先行研究をもとに、論文の構成と各自のテーマに合致した形式を学ぶ。		
第23回	**卒業論文計画書の作成② - 仮説の設定** 各自が収集した先行研究、その他資料を参考に論文の仮説を設定する。	先行研究をすべて踏襲するのではなく、仮説の中に自分なりの視点を加味すること。	4時間
第24回	**卒業論文計画書の作成③** 第２２回・第２３回の作業を踏まえて、計画書を作成する。	研究目的に沿った手法を選択しているか、仮説に飛躍はないか等、全体の構成を考える。	4時間
第25回	**卒業論文計画書の作成④** 第２４回と同様	第24回と同様	4時間
第26回	**プレゼンテーションの方法および資料の作成** パワーポイントの基本的な操作方法および、プレゼンテーションの基本的な手法について学ぶ。卒業論文計画書の発表用資料を作成する。	見やすい資料の作成や、発表方法の基本的な技術を身につける。各自作成した計画書をもとに、資料を作成していく。	4時間
第27回	**卒業論文計画書の発表の準備** 各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行うための準備を行う。	発表後にディスカッションを行うため、事前に配布する発表資料を読み込んでおく。	4時間
第28回	**卒業論文計画書の発表およびまとめ** 各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行い、一年間のまとめを行う。	発表後にディスカッションを行うため、事前に配布する発表資料を読み込んでおく。	4時間

1-3-3

授業科目名	**地域スポーツ演習（佐藤馨）**				
担当教員名	佐藤　馨				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、卒業研究にむけ論文の書き方を基礎から学ぶため、論文の書式や形式について学習する。さらに具体的な研究手法についても習得する。また、これまで習得したスポーツに関する知識を用いて、各自、卒業研究になり得る研究テーマの探索を1年かけて行なう。卒業研究テーマについては、「健康」「地域」「スポーツ振興」「こども」「高齢者」「障害者」「女性」「生涯スポーツ」「福祉」等のキーワードに関連するものを探索する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能	スポーツに関する研究課題の探索	各単元終了後、その内容に沿ったレポート課題を達成する。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツに関する研究課題の専門知識習得	レポート課題に取り組むことにより、授業終了後に卒業研究に必要な知識および技術を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	50%	： 各単元終了後に内容に沿ったレポートを提示し、それを評価する。
卒業研究計画書	30%	： 授業の内容を踏まえ、卒業研究に必要な計画書を作成し、その内容について評価する。
卒業研究計画発表	20%	： 作成した卒業研究計画書を用いて、研究計画を発表し、その発表について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年『レポート・論文の書き方入門』　河野哲也著　慶応義塾大学出版会　2002年

履修上の注意・備考・メッセージ

【履修上の注意】
本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また毎回課される課題を授業中に発表したり、それを使って授業を展開する。
【メッセージ】
学生本人の講義に対する理解度を推し測り、それを評価します。学生には、指示された課題、レポート等を確実に提出することを希望する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　講義前後
場所：　講義室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域スポーツ演習：ガイダンスおよび本演習の概説** 卒業論文作成に必要な基礎知識を学び、また学習計画について説明する。	卒業研究に関する学習計画について熟読する	4時間
第2回	**文献および資料の集め方** 辞書、百科事典、Webでの下調べ方法について講義する。	与えられたキーワードについて下調べをする	4時間
第3回	**文献検索の方法①インターネットを活用した文献検索** 国立情報学研究所GeNii・CiNii検索、国立国会図書館OPAC検索、Web検索を利用した文献入手方法について説明する。	興味のあるキーワードを用いて文献を入手し、熟読する	4時間
第4回	**文献検索の方法②図書館を活用した文献検索** 図書館を利用した文献入手の方法について講義する。	図書館を活用して興味のあるキーワードをから文献を入手し、まとめる	4時間
第5回	**論文・レポートのルール①基本的な書式について** 論文・レポートの基本的な書式について講義する。	入手した文献を参考に基本的な書式について理解し、まとめる	4時間
第6回	**論文・レポートのルール②実際にレポートを作成する** 前回授業で収集した資料を用いてレポートを作成する。	収集した文献を熟読し、まとめる	4時間
第7回	**論文・レポートのルール②インターネットによる資料の利用方法について** インターネットを利用した資料の利用方法について。	インターネットによる資料を熟読し、まとめる	4時間
第8回	**論文・レポートのルール③引用・参考文献について** 引用文献、参考文献、注釈を理解し、盗用と引用・参考との違いについてに講義する。	前回授業でまとめた資料を参考に引用・参考文献についてまとめる	4時間
第9回	**レポート作成の方法①アンケート調査型レポートの作成方法** アンケート調査型レポート作成の手順について説明する。	データによる資料を収集する	4時間
第10回	**レポート作成の方法②アンケート調査型レポートの作成** アンケート調査型のレポートを収集したデータ資料を用いて作成する。	収集したデータ資料を用いてレポートを作成する	4時間
第11回	**レポート作成の方法③資料総括型レポートの作成方法** 資料総括型レポート作成の手順について説明する。	レポート作成に必要な資料を収集する	4時間
第12回	**レポート作成の方法④資料総括型レポートの作成** 資料総括型レポートを収集した資料を用いて作成する。	収集した資料を用いてレポートを作成する	4時間
第13回	**レポート作成の方法⑤二次データ型レポートの作成方法** 二次データ型レポート作成の手順について説明する。	二次データ資料を収集する	4時間
第14回	**レポート作成の方法⑥二次データ型レポートの作成** 二次データ型レポートを収集した資料を用いて作成する。	二次データ資料を用いてレポートを作成する	4時間
第15回	**レポート作成の方法⑦パワーポイントによるプレゼンテーションについて** パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法および資料作成を説明する。	プレゼンテーションに必要な基礎知識を理解する	4時間
第16回	**レポート作成の方法⑧アンケート調査型レポートのプレゼンテーション資料作成** 第10回授業で作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する。	第10回で作成したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する	4時間
第17回	**レポート作成の方法⑨アンケート調査型レポートのプレゼンテーション** 前回作成したパワーポイント資料を用いて実際にプレゼンテーションをする。	作成したプレゼンテーション資料を用いて発表準備をする	4時間
第18回	**レポート作成の方法⑩資料総括型レポートのプレゼンテーション資料作成** 第12回で作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する。	第12回で作成したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する	4時間
第19回	**レポート作成の方法⑪資料総括型レポートのプレゼンテーション** 前回作成したパワーポイント資料を用いて実際にプレゼンテーションをする。	作成したプレゼンテーション資料を用いて発表準備をする	4時間
第20回	**レポート作成の方法⑫二次データ型レポートのプレゼンテーション資料作成** 第14回で作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する。	第14回で作成したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する	4時間
第21回	**レポート作成の方法⑬二次データ型レポートのプレゼンテーション** 第20回で作成したパワーポイント資料を用いて実際にプレゼンテーションをする。	第20回で作成したパワーポイント資料を用いて発表準備をする	4時間
第22回	**卒業研究のテーマを見つける①卒業研究に関するキーワード探索と文献収集** 卒業研究のテーマに関連するキーワードから文献を検索・収集する。	卒業研究として使用するキーワードを用いて文献を収集し、精読する	4時間
第23回	**卒業研究のテーマを見つける②卒業研究に関する文献をまとめる** 卒業論文のテーマに関連する文献を熟読し、まとめる。	前回収集した文献を要約する	4時間
第24回	**卒業研究のテーマを見つける③文献の要約を発表し、議論する**	前回収集した文献を熟読し、まとめる	4時間

	第23回「卒業研究のテーマを見つける　卒業研究に関する文献をまとめる」卒業研究のテーマに関連する文献を熟読し、まとめ、議論する。		
第25回	**卒業論文のテーマを決める** 前回収集した文献を用いて卒業研究のテーマを絞り込む	収集した文献を用いて、研究テーマを絞り、課題をまとめる	4時間
第26回	**卒業研究の研究方法を決める** 研究の目的、研究対象、研究方法を決定する。	研究テーマにそった研究の目的、対象、方法を調べ、まとめる	4時間
第27回	**卒業論文のテーマと方法論のプレゼンテーション資料の作成** 研究テーマ、研究目的、研究対象、研究方法をプレゼンテーション用の資料にまとめる。	第26回授業で決まった内容に沿って、プレゼンテーション資料にまとめる	4時間
第28回	**卒業論文のテーマと方法論の発表** 第27回で作成した資料を用いて、調査研究についてプレゼンテーションを行なう。		時間

1-3-3

授業科目名	**地域スポーツ演習（中道）**				
担当教員名	中道　莉央				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

4年次の卒業論文作成に向けて、レポート作成や論文執筆の基本的な手法を学ぶ。具体的には、障がい者スポーツに関わる書籍や論文の講読、グループでのディスカッションや各種フィールドワークを通じて、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、研究計画を作成することを目標とする。すべての活動には主体的かつ共同的に取り組み、自分の問題意識を明確にしながら、関連領域における先行研究の成果と課題を文章や口頭で説明できるようにする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	障がい受容と障がい理解	いわゆる障がい者の障がい受容の段階と、いわゆる健常者の障がい理解（身体、知的、精神、発達）、さらにこれにかかる諸課題等について、先行研究をもとに理解する。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	障がいと障がい者スポーツを捉える概念	ＩＣＦやアダプテッド・スポーツの考え方をもとにしたスポーツや用具の工夫を事例をもとに理解する。
3 ．DP11.忠恕の心	ボランティアマインド	障がい者スポーツにおける現場での体験的活動を通して、多様な人々と協働し、共助しようとする態度を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・その他(以下に概要を記述)
　発表やディスカッションの後、個別または全体に向けてコメントします。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
先行研究に関するレポート	70%	：論文としての体裁を保ちながら、先行研究を適切に要約し、それに対する自分の意見を根拠をもとに主張できているかどうかを評価する。
卒業論文作成計画書（発表含む）	20%	：適切な形式に則り、論理性のある計画書が作成できているかどうか、またこれにもとづき、パワーポイントを有効的に使った発表を行い、質疑に対する適切な応答ができているかどうかを評価する。
体験的活動におけるレポート	10%	：障がい者スポーツ現場で体験的に学んだ事柄を具体的かつ論理的に述べられているかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じ、適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は4単位の授業であり、1回の授業に対して4時間程度の授業外学習（予習・復習）が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・本科目は座学だけではなく、さまざまな現場でのフィールドワークにも取り組むため、「現場から学ぶ」真摯な姿勢が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　いつでも

場所：　メールで

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスおよび卒業研究の全体像** 演習全体の流れを確認し、この授業を選んだきっかけや理由、関心のある事柄等について発表し合う。	事前に配布した自己紹介カードを作成の上、関心のある事柄について簡潔にまとめる。	4時間
第2回	**「論文」とは何か** 論文と感想文との違いなど、論文に求められる技能や完成までの流れを理解し、論文の全体像をつかむ。	論文作成の基本的な流れや求められる技能について整理する。	4時間
第3回	**資料検索の方法** 図書館データベースの使用方法、CiNiiによる論文検索の方法を学ぶ。	関心のあるテーマを整理しておき、検索した論文の重要箇所をまとめる。	4時間
第4回	**先行研究の要約** 先行研究の構造を理解し、要約の方法を学ぶ。	先行研究の構成を理解し、自分なりに要約する。	4時間
第5回	**先行研究の検討①（身体障がい者とスポーツ）** 身体障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（身体障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。	4時間
第6回	**先行研究の検討②（知的障がい者とスポーツ）** 知的障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（知的障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。	4時間
第7回	**先行研究の検討③（精神障がい者とスポーツ）** 精神障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（精神障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。	4時間
第8回	**先行研究の検討④（発達障がい者とスポーツ）** 発達障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（発達障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。	4時間
第9回	**障がい受容と障がい理解** いわゆる障がい者の障がい受容の段階と、いわゆる健常者の障がい理解の段階について、これらを捉える理論や先行研究から学ぶ。	障がい受容の段階については、先天性障がいと中途障がいとに分け、内容を整理する。障がい理解については、パラリンピック教育の事例を調べ、まとめる。	4時間
第10回	**先行研究の検討⑤（障がい受容）** 障がい受容に関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（障がい受容に関わる内容）を読み込む。	4時間
第11回	**先行研究の検討⑥（障がい理解）** 障がい理解や障がい理解教育に関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	事前に配布した発表者のレジュメ（障がい理解や障がい理解教育に関わる内容）を読み込む。	4時間
第12回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動①（特別支援学校）** 特別支援学校における障がい者スポーツに参画し、学校現場における障がい者スポーツ振興の現状と課題を学ぶ。	事前課題として特別支援学校におけるスポーツの取り組み状況を調べ、事後課題として気づきをまとめる。	4時間
第13回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動②（障がい者スポーツセンター）** 障がい者スポーツセンターにおける障がい者スポーツに参画し、地域における障がい者スポーツ振興の現状と課題を学ぶ。	事前課題として障がい者スポーツセンターにおけるスポーツの取り組み状況を調べ、事後課題として気づきをまとめる。	4時間
第14回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動①および②の振り返り（前期演習のまとめ）** 特別支援学校および障がい者スポーツセンターにおける体験的活動での気づきを振り返り、ディスカッションを得て、学びを構造化する。また、これまでの演習を踏まえて、自分が卒業論文で取り組みたい大まかなテーマ設定・調査対象等についてまとめる。	これまでの授業内容を振り返り、わかったこと、なお疑問に思うことを整理する。これを踏まえ、自分が卒業論文として取り組みたいテーマについてまとめておく。	4時間
第15回	**テーマの設定** 各自で収集した先行研究やその他資料を参考にしながら、卒業論文のテーマを決定する。	第1回～第14回までの内容を振り返っておく。卒業論文のテーマとして取り上げたい内容を説明できるように資料作成や発表準備を行う。	4時間

第16回	**研究手法の検討①（質的研究）** 質的研究(インタビュー・参与観察等)の手法および調査対象者の設定について学ぶ。	質的研究について自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。	4時間
第17回	**研究手法の検討②（量的研究）** 量的研究(質問紙調査等)の手法および調査対象者の設定について学ぶ。	量的研究について自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。	4時間
第18回	**先行研究の検討⑦（質的研究：インタビュー）** 障がい者スポーツに関する研究の中で、質的調査（インタビュー）に取り組んでいる先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	第16回「研究手法の検討①（質的研究）」の内容を理解しておく。	4時間
第19回	**先行研究の検討⑧（質的研究：参与観察）** 障がい者スポーツに関する研究の中で、質的調査（参与観察）に取り組んでいる先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	第16回「研究手法の検討①（質的研究）」の内容を理解しておく。	4時間
第20回	**先行研究の検討⑨（量的研究）** 障がい者スポーツに関する研究の中で、量的調査に取り組んでいる先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。	第17回「研究手法の検討②（量的研究）」の内容を理解しておく。	4時間
第21回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動③（特別支援学校）** 自分自身の研究テーマを意識しながら、特別支援学校における障がい者スポーツに参画し、特別支援学校からみえる障がい者スポーツの課題を理解する。また、先行研究などで言われている課題との共通点や差異点を考察する。	自分自身の研究テーマにおける問題意識を明確にし、気づきや疑問点をまとめておく。	4時間
第22回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動④（障がい者スポーツセンター）** 自分自身の研究テーマを意識しながら、障がい者スポーツセンターにおける障がい者スポーツに参画し、障がい者スポーツセンターからみえる障がい者スポーツの課題を理解する。また、先行研究などで言われている課題との共通点や差異点を考察する。	自分自身の研究テーマにおける問題意識を明確にし、気づきや疑問点をまとめておく。	4時間
第23回	**障がい者スポーツ現場での体験的活動③および④の振り返り** 障がい者スポーツ現場から捉えた障がい者スポーツの課題を整理したり、自分自身の問題意識を明確化したりして、最終的な卒業論文のテーマを決定する。	先行研究で言われている課題、現場から捉えた課題、自分自身がもつ問題意識を整理する。	4時間
第24回	**効果的なプレゼンテーションと資料の作成** パワーポイントの基本的な操作方法および、プレゼンテーションの基本的な手法について学び、これにもとづき資料を作成する。	見やすい資料の作成や発表方法の基本的なポイントをまとめておく。	4時間
第25回	**卒業論文計画書の発表①　身体障がいのスポーツに関わる研究** 各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書（身体障がいのスポーツに関わる内容）の発表を行う。	事前に配布される発表資料（身体障がいのスポーツに関わる研究）を読み込み、質問を考える。	4時間
第26回	**卒業論文計画書の発表②　知的障がいのスポーツに関わる研究** 各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書（知的障がいのスポーツに関わる内容）の発表を行う。	事前に配布される発表資料（知的障がいのスポーツに関わる研究）を読み込み、質問を考える。	4時間
第27回	**卒業論文計画書の発表③　精神障がいまたは発達障がいのスポーツに関わる研究** 各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書（精神障がいまたは発達障がいのスポーツに関わる内容）の発表を行う。	事前に配布される発表資料（精神障がいまたは発達障がいのスポーツに関わる研究）を読み込み、質問を考える。	4時間
第28回	**後期演習のまとめ** 本演習の総括を行い、4年次の卒業論文作成に向けた流れを確認し、計画表を作成する。	これまでの授業内容を振り返り、わかったこと、なお疑問に思うことを整理する。これを踏まえ、自分が卒業論文として取り組みたいテーマについてまとめておく。	4時間

1-3-3

授業科目名	**地域スポーツ演習（黒須）**				
担当教員名	黒須　朱莉				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究における基本的な知識と技術を習得し、卒業研究計画書（問題関心、先行研究の検討、研究の目的と課題、研究の方法）を完成させることを本演習の目的とする。そのために、まずはスポーツ文化に関する文献の輪読を行う。その際、文献講読の方法、レジュメの書き方、議論の方法などを学ぶ。次に、各自でブレーンストーミングを行い、個々の問題意識を明確にするとともに、関連する文献や先行研究を読み進めていく。その際、先行研究の収集方法や論文の読み方を学び、文献研究の基礎を固めていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツ文化に関する知識	スポーツ文化における多様な対象・テーマについて理解できる。
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	質的研究の研究方法	文献資料調査の基礎的方法について理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	80%	： 各自のスポーツ文化に関わるテーマを対象に文献調査を行い、その内容を踏まえてレポートを作成する。その内容（質および量）を評価する。
プレゼンテーション	20%	： 自身の問題意識について言語化し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。その内容に筋が通っているか、根拠が適切な形で示せているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、受講生の関心に応じて提示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
日頃からスポーツに関する事象についてアンテナを張り、自身の問題関心を育てること。
そして、「本気で取り組みたいテーマ」を根気強く探そう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業の教室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス（卒業論文作成の流れ）** 演習全体の流れを説明すると同時に、受講者が本演習を選んだ理由、関心のある事柄について発表する。	関心のある事象について、まずはインターネットを用いて調査し、その内容をまとめる。	4時間
第2回	**「論文」とは何か** 「論文」と「感想文」との違いについて理解する。	授業の復習と、配布資料（論文・レポート作成の基礎①）を読む。	4時間
第3回	**論文・レポート作成の基礎①文章表現** 論文・レポート作成時の基本的な文章表現方法について理解する。	授業の復習と、配布資料（論文・レポート作成の基礎②）を読む。	4時間
第4回	**論文・レポート作成の基礎②章立て・構成** 論文・レポート作成時の基本的な章立て・構成について理解する。	授業の復習と、指定された章を中心に課題文献を読む。	4時間
第5回	**文献講読①読み方の手法** 指定された課題文献をもとに、文献の読み方のテクニックを理解する。	授業で学んだ読み方を用いて、課題文献を再度読み、疑問点もまとめる。	4時間
第6回	**文献講読②議論の手法** 指定文献の内容と疑問点について発表するとともに、ディスカッションの方法について理解する。	授業の復習、課題文献の疑問点をレポートにまとめる。	4時間
第7回	**文献講読③議論の展開** 指定文献の内容と疑問点について発表するとともに、第6回の内容を踏まえてディスカッションを行う。	授業の復習、ディスカッションの内容の振り返りと、疑問点をレポートにまとめる。	4時間
第8回	**文献講読④議論の発展** 第7回のディスカッションで挙がった論点について、補足資料を用いて再度議論する。	関心のあるテーマについて、その理由を踏まえてまとめる。	4時間
第9回	**卒論の仮テーマ設定に向けたプレ発表** 卒論の仮テーマ設定に向けて、各自が関心のある事象について主観的な理由と客観的な理由の両者を踏まえて発表する。	発表時にあがったアドバイスや、他の受講生からのコメントをまとめる。	4時間
第10回	**先行研究の検討①論文検索** 資料検索の方法として、図書館データベースの使用方法やCINIIによる論文検索の方法を理解する。	テーマに関する文献及び先行研究一覧を完成させる。	4時間
第11回	**先行研究の検討②研究の基礎知識** 配布した論文をもとに、研究手法や調査対象、全体の構成について理解する。	授業の復習と、先行研究を２点程度取り上げて読んでくる。	4時間
第12回	**先行研究の検討③論文の読み方** 各自収集した先行研究をもとに、論文の読み方を理解する。	先行研究を２件程度取り上げ、レポートの形でまとめる。	4時間
第13回	**先行研究の検討④論文レビュー** 先行研究のレビューの方法を理解する。	レポートをもとにパワーポイント資料を作成する。	4時間
第14回	**まとめ・振り返り** これまでの演習を踏まえて、卒論の仮テーマを設定・調査対象等についてまとめる。	第14回までの内容をレポートとしてまとめ、発表できるように準備する。	4時間
第15回	**論文の本テーマ設定①文献資料検索** 仮テーマから本テーマの設定へ進むために、必要文献の検索方法、収集方法について理解する。	追加で必要だと考えられる必要文献や論文をまとめる。	4時間
第16回	**論文の本テーマ設定②質的研究概論** 仮テーマから本テーマの設定へ進むために、質的研究について概説する。	16回発表者は、追加で必要だと考えられる必要文献や論文をまとめる。	4時間
第17回	**論文の本テーマ設定③文献研究** 仮テーマから本テーマの設定へ進むために、文献資料調査の方法について概説する。	現時点でのテーマに必要な資料を調べ、出典をまとめてくる。	4時間
第18回	**論文の本テーマ設定④インタビュー調査** 仮テーマから本テーマの設定へ進むために、インタビュー調査の方法について概説する。	本テーマ設定に向けて、19回発表者は発表レジュメを作成する。	4時間
第19回	**論文の本テーマ設定⑤発表** 各自の本テーマと、その研究手法について発表を行う。	第19回の各自の発表内容に対するコメントをまとめてくる。	4時間
第20回	**論文の本テーマ設定⑥議論** 第19回の発表内容をもとに、各自が設定した研究テーマ、研究手法についてディスカッションを行う。	発表回のディスカッションの内容を踏まえて、各自本テーマに関する改善点をまとめる。	4時間

第21回	**卒業論文計画書の作成①計画書の基礎** 先行研究をもとに、論文の構成と各自のテーマに合致した形式を理解する。	授業内容を踏まえて、各自卒論計画書の下書きを執筆する。	4時間
第22回	**卒業論文計画書の作成②仮説の立て方** 各自が収集した先行研究、その他資料を参考に論文の仮説を設定する。	授業内容を踏まえて、卒論計画書の下書きを執筆、発表の準備を行う。	4時間
第23回	**卒業論文計画書の作成③発表** 各自が収集した先行研究、その他資料を参考に論文の仮説を設定し、計画書として発表する。	第23回の各自の発表に対するコメントをまとめてくる。	4時間
第24回	**卒業論文計画書の作成④議論** 第23回に発表を行った計画書の内容についてディスカッションする。	授業内容を踏まえて、卒論計画書の下書きを完成させる。	4時間
第25回	**プレゼンテーションの方法** パワーポイントの基本的な操作方法および、プレゼンテーションの基本的な手法について理解する。	授業の復習と参考にしたいプレゼンテーションの事例を調査する	4時間
第26回	**プレゼンテーション資料の作成** 卒業論文計画書の発表用資料のアウトラインを作成する。	発表の準備として、27回発表者はパワーポイントを作成する。	4時間
第27回	**卒業論文計画書仕上げ：発表と議論** 作成したパワーポイントのスライドをもとに修正した卒論計画書の発表を行い、質疑応答とディスカッションを行う。	第27回の発表内容に対するコメントをまとめてくる。	4時間
第28回	**卒業論文計画書仕上げ：総括と次年度へ向けての準備** 第27回の振り返りと、次年度に向けた資料収集や調査課題を具体化する。	次年度に向けて補足資料と論文収集を行う。	4時間

1-3-3

授業科目名	**地域スポーツ演習（村瀬）**				
担当教員名	村瀬　陽介				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、4年次に実施する卒業研究に向けて、レポート・論文の書き方を基礎から学ぶ。レポート・論文には一定の形式があり、論理的飛躍や書いている本人しか理解できない内容は避けなければならない。本講義では、形式に沿った論文執筆方法を習得する。また自身の研究テーマ探索および決定を行うため、文献資料の調査方法を解説し実践する。具体的な研究手法についても、それぞれが選択した研究テーマに沿った手法を実技形式で学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	情報収集	自身が選択したテーマに関する文献を見つけることができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	情報の整理	自身が選択したテーマに関する文献から得られた情報を整理することができる。
3 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	プレゼンテーション能力	自身が選択したテーマに関するプレゼンテーションができる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30%	： 授業内での積極的な発言を評価する。
レポート	35%	： 形式に沿っていること、論理的な主張ができていることを評価する。
発表	35%	： 形式に沿っていること、プレゼンテーション技術を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年
『レポート・論文の書き方入門』　河野哲也著　慶応義塾大学出版会　2002年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域スポーツ演習ガイダンスと論文作成の基礎知識** 本科目の学習計画について説明し、卒業論文作成に必要な基礎知識の概要を学ぶ。	シラバスを読み、授業の到達目標、評価方法を理解しておく	4時間
第2回	**研究における文献、資料について**	授業内において「キーワード」提示し、それについて下調べをする	4時間

	研究における文献、資料とは何か、また辞書、百科事典、インターネットを用いた文献検索方法の概要を説明する。		
第3回	**文献検索の方法（データベース・サービスの利用）** 学術情報検索用のデータベース・サービスCiNii等を用いた文献検索方法を説明する。	第2回「研究における文献、資料について」で提示された「キーワード」を用いて、CiNii等により興味のある文献を入手する。	4時間
第4回	**文献検索の方法（図書館の利用）** 図書館を利用した文献入手の方法を説明する。	第2回「研究における文献、資料について」で提示された「キーワード」を用いて、実際に図書館を利用して興味のある文献を入手する。	4時間
第5回	**レポート・論文の形式** レポート・論文の基本的な形式について概要を説明する。	授業内で配布された資料をよく読み、レポート・論文の形式についてポイントをまとめる。	4時間
第6回	**レポート・論文執筆のルール（概要の説明）** レポート・論文の基本的な書き方について概要を説明する。レポート・論文にふさわしい文言の選択、客観的な文章の書き方を練習する。	第2回～第4回で収集した文献について、講義中に練習した書き方を応用しミニレポートを作成する。	4時間
第7回	**レポート・論文執筆のルール（文献表記方法）** レポート・論文の基本的な引用文献、参考文献、注釈の基本的な表記方法について説明する。	第6回の課題で作成したミニレポートに参考文献を付け加える。	4時間
第8回	**レポート・論文中に用いる図表の作成方法** レポート・論文中に用いる図表の作成方法を説明する。	授業中に提示する練習用データを使用し、レポート・論文にふさわしい形式の図表を作成する。	4時間
第9回	**アンケート調査報告型のレポート作成（概要説明）** アンケート調査報告型のレポート作成方法について概要を説明する。	アンケート調査報告書を作成するための資料として、各自でアンケート調査資料を収集する。	4時間
第10回	**アンケート調査報告型のレポート作成（演習）** アンケート調査報告型のレポートを実際に作成する。	他の学生が授業中に作成したレポートを、授業中に提示する基準に沿って評価する。	4時間
第11回	**現地調査報告型のレポート作成方法（概要説明）** 現地調査報告型のレポート作成方法について概要を説明する。	現地調査報告書を作成するための資料として、各自で現地調査資料を収集しておく。	4時間
第12回	**現地調査報告型のレポート作成（演習）** 現地調査報告型のレポートを実際に作成する。	他の学生が授業中に作成したレポートを、授業中に提示する基準に沿って評価する。	4時間
第13回	**文献調査報告型のレポート作成方法（概要説明）** 文献調査報告型のレポート作成方法について概要を説明する。	文献調査報告書を作成するための資料として、各自で文献資料を収集しておく。	4時間
第14回	**文献調査報告型のレポート作成（演習）** 文献調査報告型のレポートを実際に作成する。	他の学生が授業中に作成したレポートを、授業中に提示する基準に沿って評価する。	4時間
第15回	**発表スライドについて（概要説明）** 調査・研究内容を発表するために使用するスライドについて、作成のポイントを解説する。	授業中に配布する資料をよく読み、スライド作成のポイントについて整理する。	4時間
第16回	**発表スライドの作成** 第9回～第14回で作成したレポートを用いて、スライド作成ソフトを用いて発表用スライドを作成する。	授業中に作成したスライドを、次回授業時までに完成させておく。	4時間
第17回	**スライドを用いた発表方法について** 作成したスライドの発表方法についてポイントを説明する。	授業での説明に従って、発表原稿の作成、発表練習を各自で行う。	4時間
第18回	**スライドを用いた発表** 第16回で作成したスライドを用いて発表をする。	自身の発表について反省点をまとめる	4時間
第19回	**スライドを用いた発表の聴講** 発表を聴講する時の注意点を説明し、他の学生の発表を聴講する。発表終了時には質問をする。	授業中に聴講した発表について内容、疑問点、全ての学生が行った質問をまとめる。	4時間
第20回	**研究テーマに関わるキーワードの選定** 研究分野に関わるキーワードのうち、興味関心のあるものを3つ選定する。	興味のある研究分野に関わる資料を各自持参する。	4時間
第21回	**キーワード１に関する資料の要約** キーワード1に関する資料を収集し要約を作成する。	キーワード1に関する要約について、次回授業時までに完成させておく。	4時間
第22回	**キーワード2に関する資料の要約** キーワード2に関する資料を収集し要約を作成する。	キーワード2に関する要約について、次回授業時までに完成させておく。	4時間
第23回	**キーワード3に関する資料の要約** キーワード3に関する資料を収集し要約を作成する。	キーワード3に関する要約について、次回授業時までに完成させておく。	4時間

第24回	**テーマの決定** 第20回で選定した３つのキーワードから一つを選定し研究テーマを決定する。	授業までに第21回～第23回で作成した要約を読み返す	4時間
第25回	**決定したテーマに沿った資料の収集** 第24回で決定した各自の研究テーマに関連した資料を収集する。	授業までに第2回～第4回の授業内容を十分復習しておく	4時間
第26回	**資料を基にした問題点の明確化** 第25回で収集した資料を基に、決定したテーマに関する問題点を明確化する。	第25回で収集した資料の内容を把握する	4時間
第27回	**研究手法の選定** 第26回でまとめた問題点について、第10回～第14回の授業内容を基にてその解決に相応しい研究手法を選定する。	授業までに第10回～第14回の授業内容を十分に復習する	4時間
第28回	**研究テーマおよび研究手法に関するスライドの作成** 第25回～第27回の内容をまとめ、スライド作成ソフトを用いて発表用スライドを作成する。	授業中に作成したスライドを、次回授業時までに完成させておく。	4時間

1-3-3

授業科目名	**地域スポーツ演習（入谷）**				
担当教員名	入谷　智子				
学年・コース等	3	開講時期	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、4年次の卒業研究の論文作成に関する基本的な知識と技術を習得し、卒業論文計画書の完成と発表を目的とする。そのための生活習慣と健康、予防に関する先行研究の文献検索を行い、文献的な知識を深め、具体的な研究手法について習得する。また研究課題を探求する上で必要な、一般的な知識や基本的な統計学についても学び知識を向上することを目標とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP5.新しい価値を創造する能力	生活習慣と健康・スポーツに関連する研究課題の探求	生活習慣に関連する諸課題について研究課題を探求し、自分の研究が検討できる 卒業研究に必要な知識と技術が習得できる
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	生活習慣・健康とスポーツに関連する先行研究や研究による知識の習得	生活習慣・健康とスポーツに関連する先行研究や研究により知識が習得できる

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内演習および課題	40%	： 論文作成にあたる基本的な技術の習得なための毎回の授業態度や知識習得。文献検索、レポート、一般知識の向上のための課題に対して評価する。
研究計画書の作成及び発表	50%	： 自分の研究に関して、積極的・自主的に学びを進めているか、適切な進め方ができているか、研究計画書の作成及び発表について評価する
論文検索状況	10%	： 論文検索を積極的に行い、自分の研究について学びを深めているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「今日から使える医療統計」　新谷歩著　医学書院
「看護研究をはじめるための統計と臨床疫学」「横川博英,藤林和俊　学研
「看護・医療系スタッフのための質問紙作成ワークブック」土屋雅子　診断と治療社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**演習の目標、計画等のガイダンス,** 演習の全体の流れと目標の確認。卒業研究論文の概要を説明し、現状の興味のある研究を共有する	卒業研究論文の概要および興味のある研究を調べる	4時間
第2回	**質的研究と量的研究** 研究とは何か、質的研究と量的研究の違いを学ぶ	地域スポーツ基礎演習の復習する	4時間
第3回	**研究デザインについて** 研究デザインについて学ぶ。どのデザインが卒業論文に適正かを知る。地域スポーツ基礎実習の復習など確認テストを行いながら知識を深める	研究デザインについて復習	4時間
第4回	**実験研究・介入研究** 先行研究を通して実験研究・介入研究による研究方法を学ぶ	実験研究・介入研究について復習する	4時間
第5回	**文献検討** 先行研究を通して文献検討による研究方法を学ぶ	文献検討についての復習する	4時間
第6回	**質的調査における面談方法** 質的研究の面談方法について、インタビューの体験を通じ深く学ぶ	面談方法について復習する	4時間
第7回	**質的調査におけるカテゴリー** 質的調査におけるインタビューのカテゴリーを考える	カテゴリーについて復習する	4時間
第8回	**課題、研究テーマの検討** 個別面談を通じ課題や研究テーマについて確認する自分の研究をPICOに表す	課題や研究について整理する	4時間
第9回	**文献検索の方法** 自分の興味関心があるキーワードにより文献検索を行い、先行研究の抽出方法を学ぶ	文献検索の方法を復習する	4時間
第10回	**文献検索した論文のまとめ** 抽出した論文を他者にわかるようにパワーポイントを作成し、発表の準備を行う	パワーポイントをまとめる	4時間
第11回	**文献検索発表会の実施** 文献検索し的た内容を一人5分で発表(質疑応答5分) する	発表練習	4時間
第12回	**4回生のプレ中間発表会参加** プレ中間発表会に参加し、卒業研究論文の発表方法について理解する	プレ中間発表会に関する課題レポート作成	4時間
第13回	**プレ中間発表会による学びの共有** 4回生のプレ中間発表会を聞き、自分の検討している卒業論文内容と方法の相違や学びについて共有し、自分の卒業研究論文を再検討する	文献検索、発表資料のまとめ	4時間
第14回	**運動と健康に関する先行研究による知識の習得** 運動と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、運動と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	運動と健康に関する先行研究検索	4時間
第15回	**喫煙と健康に関する先行研究による知識の習得** 喫煙と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、喫煙と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	喫煙と健康に関する先行研究検索	4時間
第16回	**飲酒と健康に関する先行研究による知識の習得** 飲酒と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、飲酒と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	飲酒と健康に関する先行研究検索	4時間
第17回	**感染症と健康に関する先行研究による知識の習得** 感染症と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、感染症と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	感染症と健康に関する先行研究検索	4時間
第18回	**食事と健康に関する先行研究による知識の習得** 食事と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、食事と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	食事と健康に関する先行研究検索	4時間
第19回	**睡眠と健康に関する先行研究による知識の習得** 睡眠と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、睡眠と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ	睡眠と健康に関する先行研究検索	4時間
第20回	**論文テーマの決定** 論文テーマの決定を行い、目的と方法を考える	論文テーマの発表ができるように準備する	4時間
第21回	**先行研究の論文検索** 論文テーマの決定を行い、テーマに沿った先行研究を検索しまとめる	先行研究の検索	4時間
第22回	**卒業研究計画書の作成** 先行研究の検索に基づき、目的や方法を検討し計画書を作成する	研究計画書をワードで作成する	4時間
第23回	**卒業研究計画書の発表資料の作成** 卒業研究計画書をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションの資料を作成する	パワーポイントの作成	4時間
第24回	**卒業研究計画書の見直し** 計画書の発表による指摘内容について再検討し、卒業研究計画書の見直しを行う	卒業研究の内容の見直し	4時間
第25回	**質問紙調査とは**	質問紙調査作成方法を復習する	4時間

	質問紙調査作成方法を学ぶ		
第26回	**質問紙調査の作成の実際** 質問紙調査をGooglefoamを使ってで作成する	質問紙調査をGooglefoamの作成	4時間
第27回	**論文検索による計画書の見直し** 論文に活用できる論文検索を行い、ワードにまとめる。 論文検索による計画書の見直しを行う。	論文検索を行い、計画書の修正を行う	4時間
第28回	**卒業研究論文の研究計画書の発表** 卒業研究論文の研究計画書をゼミ内で発表し、来年度の研究の基盤を確定する	発表の事前資料の作成	4時間

1-7-3

授業科目名	スポーツビジネス演習（石井）				
担当教員名	石井　智				
学年・コース等	4	開講時期	＊通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている				

授業概要

マネジメントの基礎知識および、スポーツマネジメントやマーケティング、スポンサーシップにおける応用知識をもとに社会課題の解決を目指した（卒業研究に向けての）研究課題を決定することを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	自らが考える社会課題を設定し、それを解決するために方策をスポーツ（自らのスポーツ学についての学びやクラブ体験などから）を軸に考察する力の獲得	スポーツにおける学びや経験が社会課題の解決に役立てることを実感し、社会に出てからも活躍できるという有能感を身に付けることができる
2 ．DP9.スポーツ学に関する優れた技能	問題意識は情報を収集し、分析することによって明確化されることから、スポーツ実施者や観戦者へのアンケート調査と分析の実施	統計の知識を修得するとともにSPSSを使いこなすレベルにまでスキルアップできる
3 ．DP5.新しい価値を創造する能力	社会課題を徹底的に分析し、その本質をつきとめ、それをスポーツで解決する仮説の設定とその検証を行う	スポーツをめぐる問題のみならず、社会課題の本質をつきとめ、それをスポーツで解決できるようなマネジメント能力をに身につけることができる。

学外連携学修

有り　（連携先：比良里山クラブ　三浦様　ブランチ大津京まちづくりスポット　馬場様）

授業方法

・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
卒業研究	90%	：①研究テーマの発表、②研究の目的および重要性の発表、③研究方法の発表。それぞれが、問題意識が明確であるかなど、卒業研究の質で評価される：90%
問題発見活動（文献渉猟含む）	10%	：①過去の卒業研究のレビュー、②一般の先行研究のレビュー。先行研究からどのような問題点を明確化するかなどで評価される

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツの組織文化と産業（横山勝彦、八木匡、松野光範編著　晃洋書房）2012年
スポーツ・マネジメント理論と実務（廣瀬一郎　東洋経済新報社）2009年
石井智（2006）　スポーツの価値を企業政策－ＣＳＲの視点から－」、同志社政策科学研究第8巻，135-147ページ

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
４年次の卒業論文に向けた準備を、１年間かけて計画的に行うとともに、情熱を注いで打ち込めるような研究テーマを自ら設定すること。
演習は、研究や実践に関する疑問について学生の皆さんが中心となって議論する場です。議論を活発にするために、毎回各自で発表する「ネタ」をしっかり準備頂く必要があります。演習前半に取り上げる各課題について、「これまで何がどこまで明らかにされてきたのか」、「今後は何を明らかにすべきか」という問いに答えられるようにしましょう。演習後半では皆さん自身が研究課題を決定し、３年生から段階的に卒業研究に取り組んでいきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび演習の概説** 4年次の卒業研究に向けた動機づけと演習の概要の説明。卒業論文は学生が社会で活躍するための設計図であることを意識させ、問題意識の向上とそれを解決するためのスキルを、研究を通じて獲得することを実感することができる。	配布資料をよく読み、演習の目標および流れについて理解する	4時間
第2回	**スポーツに対する社会の要請** 現代社会が抱える課題について文献、ネットを通じてリサーチし、、それを解決することが果たしてスポーツで可能であるかについて理解することができる。	事前に配布資料をよく読み、スポーツと社会課題についての各自の疑問についてまとめる	4時間
第3回	**現在のスポーツビジネスについての再評価** 現在のスポーツビジネスについての事例から成功の秘訣や失敗の本質について検討し、ビジネス自体、社会課題解決を目的とするものが多いという現状を理解することができる。	事前に配布資料をよく読み、スポーツビジネスについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第4回	**スポーツイベント（メガイベント）の光と影についての検討** これまでのメガスポーツイベントの評価を通じて、イベントの品質と顧客満足について学ぶことにいより、平昌オリンピック・パラリンピックの社会的評価を通してスポーツイベントの光と影について理解することができる。	事前に配布資料をよく読み、メガスポーツイベントについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第5回	**カスタマーエクイティ（バリュー、ブランド、リレーションシップエクイティ）** スポーツの消費者（顧客）の行動本質などカスタマーエクイティについて学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、顧客価値についての各自の疑問についてまとめてくること	4時間
第6回	**参画動機（する、観る、支える）** スポーツ消費者の購買動機因子について学ぶことができる。また、新たなマーケットとしてスポーツを支える人たちがどのような消費行動や、価値創造を行うのかについて研究を深めることができる。	事前に配布資料をよく読み、スポーツ消費者の動機についての各自の疑問についてまとめる	4時間
第7回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論１** スポーツ観戦者からスポーツファンに変容するメカニズムを検討することによって、観戦者とファンの階層性について理解を深めることができる。	事前に配布資料をよく読み、スポーツ観戦者の特性について各自の疑問についてまとめる	4時間
第8回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論２** スポーツにおける顧客ロイヤルティについて学ぶことができる。また、製品関与についても学びを深めることができる。	事前に配布資料をよく読み、顧客ロイヤルティについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第9回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論３** スポーツ企業は今後スポーツの何を売っていくのか、という課題について、単なる製品やサービスだけでなく、感動を共有するなどの経験価値をいかに創造して販売するのかなどを視点に、企業としての戦略や組織マネジメントについて学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、活性化した組織についての各自の考えをまとめる	4時間
第10回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論４** ブランド価値について学ぶことができる	事前に配布資料をよく読み、ブランド価値についての各自の疑問についてまとめてくること	4時間
第11回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論５** アスリートは自らの価値をどう高めていくのかという課題について、アスリートのブランド価値の本質と価値創造という視点から学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、アスリートの価値についての各自の疑問についてまとめる	4時間
第12回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論６** スポーツにおけるブランドコミュニティについて学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、ブランドコミュニティについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第13回	**スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論７** 企業の社会的責任（CSR）について学ぶことができる。	事前に配布資料をよく読み、CSRについての各自の疑問についてまとめる	4時間
第14回	**前期のまとめおよび総評** 前期のまとめとして（１）現代社会に生起する課題をグループごとにピックアップし、（２）なぜ起こるのか、（３）その課題を解決するためにスポーツは何ができるのか、について議論し（４）その解決策を考え、COC+のビジネスアイデアプランコンテストに出場し、他大学の学生の考えや、審査員などの社会人からの意見をいただくことによって、問題意識の向上、プレゼン作成スキルの向上を可能にすることができる。	発表の準備を行う	4時間
第15回	**後期の演習に関するオリエンテーションおよび演習の概説** 後期の演習の概要および卒業研究の意義を知ることができる。	配布資料をよく読み、演習の目標および流れについて理解しておくこと	4時間
第16回	**研究課題の選択：第一グループの発表** 各自のテーマについて、（１）研究の背景、（２）必要性、（３）重要性、（４）研究目的をまとめ、発表することによって、問題から解決までのストーリーのブラッシュアップ、プレゼンのスキルを強化することができる	第一グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる	4時間

第17回	**研究課題の選択：第二グループの発表** 各自のテーマについて、（1）研究の背景、（2）必要性、（3）重要性、（4）研究目的をまとめ、発表することによって、問題から解決までのストーリーのブラッシュアップ、プレゼンのスキルを強化することができる。	第二グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる	4時間
第18回	**研究課題の選択：第三グループの発表** 各自のテーマについて、（1）研究の背景、（2）必要性、（3）重要性、（4）研究目的をまとめ、発表することによって、問題から解決までのストーリーのブラッシュアップ、プレゼンのスキルを強化することができる。	第三グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる	4時間
第19回	**過去の卒業研究の検討：第一グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第一グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第20回	**過去の卒業研究の検討：第二グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第二グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第21回	**過去の卒業研究の検討：第三グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第三グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第22回	**先行研究（学術論文）の検討：第一グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第一グループは各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第23回	**先行研究（学術論文）の検討：第二グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第二グループは各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（4）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第24回	**先行研究（学術論文）の検討：第三グループのレビュー** 各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点についてまとめ、レビューすることによって卒業論文のテーマを絞ることができる。	第三グループは各自のテーマについて（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（5）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめる	4時間
第25回	**研究方法の検討：第一グループの発表** 研究方法について、（1）研究環境、（2）研究の種類、（3）測定尺度、（4）調査概要、（5）サンプリング方法をまとめ、発表することによって、卒業論文作成のイメージを明確化することができる。	第一グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく	4時間
第26回	**研究方法の検討：第二グループの発表** 研究方法について、（1）研究環境、（2）研究の種類、（3）測定尺度、（4）調査概要、（5）サンプリング方法をまとめ、発表できる。	第二グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく	4時間
第27回	**研究方法の検討：第三グループの発表** 研究方法について、（1）研究環境、（2）研究の種類、（3）測定尺度、（4）調査概要、（5）サンプリング方法をまとめ、発表できる。	第三グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく	4時間
第28回	**まとめ：卒業研究の作成（完成）** 卒業研究をまとめる（卒業論文を完成する）	議論の準備	4時間

1-7-3

授業科目名	**スポーツビジネス演習（城島）**				
担当教員名	城島　充				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全28回）				

授業概要

スポーツの魅力や問題点を伝えるジャーナリズムには、その時代のなかでそれぞれのスポーツシーンを切り取る視点が必要とされる。数多くのスポーツノンフィクション作品や新聞記事ををスクラップ帳にまとめ、熟読することでその視点を身につけたい。社会の変化とともに、ジャーナリズムの世界も多様化しており、それぞれのツールによる伝え方の違いも学ぶ。東京オリンピック・パラリンピックに関する動きも含め、そのときどきの話題をテーマに議論を深めていきたい。実践的な課題としては、BSSCジャーナルの取材、執筆、編集、校閲作業を通じて様々なテーマを呼び発表するまでのノウハウを学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識	ジャーナリズムの視点からみたスポーツの魅力の追求。	さまざまなスポーツシーンを独自の視点で切り取ることができる。
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツの魅力を文章や写真で表現するために必要な知識や技術の習得。	自らの視点でスポーツの魅力を切り取り、文章や写真で表現する力をつける。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
レポート提出　100%	： それぞれがスクラップした記事のなかから1つを選択し、その記事から何を感じたのか、レポートする。すべてのレポートをまとめて100点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文藝春秋スポーツグラフィック誌「Number」に発表されたスポーツノンフィクション作品。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび演習の概説** 授業のスケジュールや進め方、達成目標を確認し、評価方法などを説明する。Number誌の作品から気になった作品を一部選択する。	選択した作品を熟読する。	4時間
第2回	**スポーツノンフィクション入門** 前回の授業で選んだ作品についての批評会を行う。作者の視点がどこにあったのかを把握できているかどうかをチェックする。	他の人が選んだ作品も熟読する。	4時間
第3回	**スポーツノンフィクションの視点**	例にあげた作品を熟読する。	4時間

	実際にどんな視点でスポーツノンフィクション作品が紡がれてきたのか。日本のスポーツノンフィクションの金字塔的作品と呼ばれる山際淳二氏の「江夏の21球」をはじめ、いくつもの作品を例にあげながら、その多様性について学ぶ。		
第4回	**新聞ジャーナリズムの研究** 一般紙、スポーツ紙の記事について検証する。雑誌で発表されるノンフィクションとの違いを学ぶ。	図書館で一般紙とスポーツ紙の朝刊に目を通し、関心のあるスポーツニュースを見つけておく。	4時間
第5回	**フォトジャーナリズムの研究** スポーツの一瞬のシーンを切り取るフォトジャーナリズムについて研究する。一枚の写真が伝えるものはなにか。いくつかの作品を例にあげながら、その魅力と問題点について考察する。 。	図書館で新聞や雑誌のバックナンバーを調べ、印象に残った写真をコピーしておく。	4時間
第6回	**映像ドキュメンタリーの研究** スポーツをテーマにした映像ドキュメンタリーについて研究する。実際に発表された作品を検証しながら、活字ジャーナリズムとの違い、その魅力と問題点について考察する。	映像と活字ジャーナリズムの違いについて復習し、テレビが日々伝えるスポーツニュースから興味を持った映像を見つけておく。	4時間
第7回	**スポーツノンフィクションが完成するまで** 実際にどんな形でNumber誌の作品をできあがっていくのか。教員の作品をモデルに、企画の準備段階にやるべき作業や、締め切りを含む担当編集者とのやりとり、ゲラ検の内容などについて学ぶ。	作品が完成するまでのプロセスをしっかりと復習しておく。	4時間
第8回	**スポーツコラムを書く** 自らのスポーツ体験をモチーフにコラムを書く。テーマを絞ることを意識して1200字程度の作品を書き上げる。	自分が書いた作品を徹底的に推敲する。	4時間
第9回	**コラム批評会** 書き上げたコラムを全員が発表し、批評会を行う。	批評会で出た指摘を受け止め、作品を改稿する。	4時間
第10回	**写真でスポーツを表現する** 自分の身近なスポーツシーンをカメラで撮影する。	一枚の写真にどんな意図を込めたのか、しっかりと復習する。	4時間
第11回	**写真批評会** 撮影した写真を全員が発表し、批評会を行う。	批評会で出た指摘を受け止め、どんな写真を撮れば意図が伝わるのかを検証する。	4時間
第12回	**BSSCジャーナルの歴史** 過去に出版されてきたBSSCジャーナルを熟読し、記事の取り上げ方、編集スタイルの変化について学ぶ。	過去のジャーナルの記事を熟読し、自分ならどんな記事が企画できるのかを考える。	4時間
第13回	**BSSCジャーナル制作の企画会議** 自分たちならどんな紙面が作れるのか、意見を出し合う。全体のレイアウトを考え、一面トップに掲載するテーマについてしっかり議論する。	自分が編集長なら、どんな紙面をつくるのか。企画会議の内容をふまえて熟考する。	4時間
第14回	**BSSCジャーナルのデータ収集** 企画会議の結果にしたがって、記事を書くためのデータを収集し、取材対象者を絞っていく。	取材の基本について復習する。	4時間
第15回	**BSSCジャーナルの取材** サッカーや野球のリーグ戦など、紙面に掲載する対象を実際に取材する。	取材した内容を整理する。	4時間
第16回	**BSSCジャーナルの写真撮影** 取材対象のクラブや学生の活動風景や、インタビュー写真を撮影する。	撮影した写真を整理する。	4時間
第17回	**BSSCジャーナルの記事制作** 記事制作の準備から、執筆作業に入る。	視点を絞った記事が書けているか確認する。	4時間
第18回	**BSSCジャーナルのレイアウト** 書いた記事と撮影した写真を実際にレイアウトし、見出しを考える。	レイアウトを点検する。	4時間
第19回	**BSSCジャーナルの完成** 完成した紙面をしっかりと点検する。	できあがった紙面について見直し、反省点などをまとめる。	4時間
第20回	**テレビ局見学** テレビ局に足を運び、日々どんな形でスポーツニュースが報道されているのかを学ぶ	スポーツジャーナリズムにおけるテレビメディアの役割について復習する。	4時間
第21回	**インタビュー実習の準備** 第一線で活躍している人物をゲストスピーカーとして招き、合同インタビューを実施するための準備を行う。対象人物についてのデータ収集や取材のポイントを絞る作業をする。	どんな視点でその人物を切り取るのか、しっかりと確認しておく。	4時間
第22回	**インタビュー実習** 実際にゲストスピーカーへのインタビューを行う。	取材したゲストスピーカーの言葉を整理する。	4時間
第23回	**インタビュー実習作品の執筆**	テーマからそれずに作品が書けているか、確認しておく。	4時間

	教員が実際に取材したアスリートのテープお越しを参考に、インタビュー原稿を作成する。		
第24回	**インタビュー実習作品の批評会** 書き上げた作品を全員が発表し、批評会を行う。	批評会で出た指摘を受け止め、作品を改稿する。	4時間
第25回	**BSSCジャーナル卒業特集号の準備** ３月の学位授与式にあわせて卒業生に贈る新聞制作にとりかかる。	卒業特集にふさわしい企画、レイアウトを考え、インタビュー取材、写真撮影の準備を進めていく。	4時間
第26回	**ＢＳＳＣジャーナル卒業特集の制作** 役割分担し、それぞれの取材、写真撮影活動を進める。	テーマを確認しながら、それに沿った取材を続けていく。	4時間
第27回	**BSSCジャーナル卒業特集号のレイアウト、校閲作業** 記事を完成させ、写真とともにレイアウトし、見出しをつける。編集作業の仕上げとして誤字や脱字がないか、日本語のニュアンスがおかしくないか、すべての記事をチェックする。	出来上がったレイアウト、記事を再点検する。	4時間
第28回	**ＢＳＳＣジャーナル卒業特集号の総括、批評** 納得のいく新聞が作れたかどうか、それぞれが担当した記事を自己分析するとともに、他の記事についても気づいたことを発表しあう。	出来上がった紙面についての話し合いをまとめ、一年間の活動を総括する。	4時間

1-7-3

授業科目名	スポーツビジネス演習（山本）				
担当教員名	山本　達三				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究に必要な研究課題・研究目的・研究仮説に必要な，標本抽出，測定尺度，研究デザイン，研究方法，分析方法などを学んだ上で．興味のある研究課題の文献探索（英語論文中心）を繰り返し，研究課題を絞り込む．その後，研究計画書作成，調査票作成，予備調査依頼，予備調査実施，データ取り込み，統計解析をおこなう．これらのプロセスを通じて，スポーツマネジメント，スポーツマーケティングに関する知識および技能を実践する力を身につける，また，論文作成にあたっては，LaTeXなどの印刷組版処理システムを用い，SPSS,R,AMOSなどの各種統計プログラムに精通して，学内最優秀論文の獲得，学会発表での最優秀賞・優秀賞獲得を目指す．

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する和文英文研究論文の探索を通じて深い知識を獲得．	スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する論文精読を繰り返し行い，自ら研究計画をデザインできるようになる．
2 ．DP8.スポーツ学に関する深い知識	スポーツマネジメント，スポーツマーケティング，消費者行動，消費者心理学，統計学に関する深い知識の獲得と応用．	スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関するに関する研究仮説，研究計画，分析方法，結果の解釈などを独力でできるようになる．

学外連携学修

無し

授業方法

・実験、実技、実習
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

スポーツマネジメント，スポーツマーケティングに関する英文を中心とした先行研究を学びながら，当該研究に必要な一連の研究プロセスを習得することを目的とし，LaTeXなどの印刷組版処理システムを用い，SPSS,R,AMOSなどの各種統計プログラムに精通して，学内最優秀論文の獲得，学会発表での最優秀賞・優秀賞獲得を目指す．

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

LINEのグループを利用して，卒業論文の成果に対する各人へのコメントを共有して，指導内容が公平になるように配慮します．

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
先行研究の探索	25%	： 英文論文（30本以上），和文論文の先行研究の探索を行う．卒業研究内での先行研究のクオリティで総合的に評価する．
研究テーマ・研究目的・研究仮説・研究方法の設定	25%	： 研究テーマおよび研究目的，研究テーマ，研究仮説，研究方法の新規性・重要性・必要性などを示せているか総合的に評価する．
調査データの統計解析	25%	： 調査データの統計解析が正しい手順で，適切に実施されているか，結果を正しく表記できているかを評価する．
考察内容	25%	： 得られた統計結果を，先行研究と対比しながら正しく考察できているかを評価する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞，吉田政幸編著，2017），ミネルヴァ書房：京都．
LaTeX2ε　美文書作成入門（2017）
SPSSによる統計データ解析（2007）
EZRでやさしく学ぶ統計学(2019)
共分散構造分析［AMOS編］(2013)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3限

場所： 研究棟B311

備考・注意事項： 事前に下記のメールでアポイントを取ること
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**文献探索（1）** 英文文献，和文文献の先行研究の探索・精読．研究テーマの設定，研究目的探索(1)	英文文献，和文文献の先行研究の探索．読み込んだ文献は，LaTeXを使用してデータベース化しておく．	4時間
第2回	**文献探索（2）** 英文文献，和文文献の先行研究の探索・精読．研究テーマの設定，研究目的探索(2)	英文文献，和文文献の先行研究の探索．読み込んだ文献は，LaTeXを使用してデータベース化しておく．	4時間
第3回	**文献探索（3）** 英文文献，和文文献の先行研究の探索・精読．研究テーマの設定，研究目的探索(3)	英文文献，和文文献の先行研究の探索．読み込んだ文献は，LaTeXを使用してデータベース化しておく．	4時間
第4回	**文献探索（4）** 英文文献，和文文献の先行研究の探索・精読．研究テーマの設定，研究目的探索(4)	英文文献，和文文献の先行研究の探索．読み込んだ文献は，LaTeXを使用してデータベース化しておく．	4時間
第5回	**文献探索（5）** 英文文献，和文文献の先行研究の探索・精読．研究テーマの設定，研究目的探索(5)	英文文献，和文文献の先行研究の探索．読み込んだ文献は，LaTeXを使用してデータベース化しておく．	4時間
第6回	**研究計画の策定（1）** 英文文献，和文文献で得た研究知見に新規性を加えた研究背景，研究目的，研究の意義などをLaTeXでまとめる．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第7回	**研究計画の策定(2)** 英文文献，和文文献で得た研究知見に新規性を加えた研究背景，研究目的，研究の意義などをLaTeXでまとめる．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第8回	**研究方法の策定（1）** 英文文献，和文文献で得た研究知見に新規性を加えた研究仮説，変数の確定，分析方法を策定する．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第9回	**研究方法の策定（2）** 英文文献，和文文献で得た研究知見に新規性を加えた研究仮説，変数の確定，分析方法を策定する．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第10回	**調査票の作成（1）** 英語文献の質問項目を日本語化．仮説モデルにしたがい調査票を作成する．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第11回	**調査票の作成（2）** 英語文献の質問項目を日本語化．仮説モデルにしたがい調査票を作成する．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第12回	**調査実施準備（1）** 調査概要，調査項目，仮説モデル，予想される結果などをまとめ，調査対象団体と交渉する準備を進める．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第13回	**調査実施準備（2）** 調査概要，調査項目，仮説モデル，予想される結果などをまとめ，調査対象団体と交渉する準備を進める．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第14回	**調査実施** 調査を実施し，得られたデータを統計プログラムに読み込み，基礎解析を進める．	LaTeXを使用して文章化しておく．	4時間
第15回	**データ解析（1）** 各変数の信頼性分析，確認的因子分析(CFA)，探索的因子分析（EFA）などからの尺度の妥当性などを実施して，AVE，CRなどを算出していく．	分析結果をLaTeXで表化，GNUPLOTやパワーポイントを使用して図化していく．	4時間
第16回	**データ解析（2）** 研究仮説に基づく，各変数の検定を実施していく．正規性の検定→パラメトリック検定(t検定，分散分析)，ノンパラメトリック検定	分析結果をLaTeXで表化，GNUPLOTやパワーポイントを使用して図化していく．	4時間
第17回	**データ解析（3）** 研究仮説に基づく，各変数間の関係を分析していき，変数間の多重共線性を確認する．相関分析，偏相関分析，重回帰分析．	分析結果をLaTeXで表化，GNUPLOTやパワーポイントを使用して図化していく．	4時間
第18回	**データ解析（4）**	分析結果をLaTeXで表化，GNUPLOTやパワーポイントを使用して図化していく．	4時間

	データ解析（３）を発展させ，共分散構造モデリングを用いた因果関係の分析を行う．		
第19回	**データ解析（5）** データ解析（４）を発展させ，共分散構造モデリングを用いた因果関係の分析を行う．	分析結果をLaTeXで表化，GNUPLOTやパワーポイントを使用して図化していく．	4時間
第20回	**結果の文章化（１）** 分析結果の図表と先行研究を関連させながら，結果をLaTeXで記述していく．	1日2ページから4ページ程度のペースで文章化を進める．	4時間
第21回	**結果の文章化（２）** 分析結果の図表と先行研究を関連させながら，結果をLaTeXで記述していく．	1日2ページから4ページ程度のペースで文章化を進める．	4時間
第22回	**結果の文章化（３）** 分析結果の図表と先行研究を関連させながら，結果をLaTeXで記述していく．	1日2ページから4ページ程度のペースで文章化を進める．	4時間
第23回	**考察の文章化（１）** 先行研究と対比しながら，結果を考察していく．必要であれば，適宜再分析などを実施していく．	1日2ページ程度のペースで文章化を進める．	4時間
第24回	**考察の文章化（２）** 先行研究と対比しながら，結果を考察していく．必要であれば，適宜再分析などを実施していく．	1日2ページ程度のペースで文章化を進める．	4時間
第25回	**考察の文章化（３）** 先行研究と対比しながら，結果を考察していく．必要であれば，適宜再分析などを実施していく．	1日2ページ程度のペースで文章化を進める．	4時間
第26回	**考察の文章化（４）** 先行研究と対比しながら，結果を考察していく．必要であれば，適宜再分析などを実施していく．	1日2ページ程度のペースで文章化を進める．	4時間
第27回	**全体構成の調整（１）** 論文全体の構成を調整するとともに，校正を実施する．	文字の揺らぎ，記述のスタイルなどを確認していく．	4時間
第28回	**全体構成の調整（２）** 論文全体の構成を調整するとともに，校正を実施する．	文字の揺らぎ，記述のスタイルなどを確認していく．	4時間

1-7-3

授業科目名	スポーツビジネス演習（吉倉）				
担当教員名	吉倉　秀和				
学年・コース等	3	開講時期	＊	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この演習の一番の目的は、スポーツマネジメントおよびスポーツマーケティングにおける基礎ならびに応用知識の習得を念頭に、問題点を把握し、卒業研究に向けて研究課題を決定することである。具体的には、調査方法、文章表現、プレゼンテーションなどの基本的知識の理解とその実践について、演習を通じて習得することを授業のゴールとし、スポーツビジネス現場での実践機会も設けることで理論と実務のギャップについても認識し、卒業後の進路に向けた自身の現状把握も第二目標として設定する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識	スポーツビジネス研究領域に関する知識	学術論文や参考文献の購読を通じて、スポーツビジネスに関する専門用語や統計手法を理解できる。
2 ．DP10.スポーツ学に関する実践力	スポーツ産業の実践にて必要とされる社会人基礎力	スポーツ産業に必要とされるプレゼンテーション、コミュニケーション、ファシリテーション手法を獲得できる。

学外連携学修

無し

授業方法

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション 60%	：	①理論的な発表、②独自の見解が織り交ぜられているか、③発表に対する姿勢や準備
レポート 40%	：	①説明すべきテーマに対して簡潔に記されているか、②卒業研究に関するレビューに対して深い考察ができているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「スポーツマネジメント」原田宗彦・小笠原悦子編著，大修館書店
「スポーツマーケティング」原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高編，大修館書店
「スポーツファイナンス」武藤泰明著，大修館書店

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツビジネスを学ぶとは？** スポーツビジネス研究領域に関する学習方法について解説する。	自身が高めたい専門性について検討すること。	4時間

第2回	**スポーツビジネス界の現状** スポーツビジネス界の現状について、資料を踏まえながらディスカッションを行う。	配布資料をもとに自身が考察したことについてレポートすること。	4時間
第3回	**スポーツマネジメントの歴史** スポーツマネジメントの歴史について、DVDを見て、レポートを課す。	自身の考えや意見をレポートにまとめること。	4時間
第4回	**スポーツマネジメントの発展過程** スポーツビジネス界の現状について、資料を踏まえながらディスカッションを行う。	配布資料をもとに自身の見解ならびにディスカッションに関する意見をまとめること。	4時間
第5回	**スポーツチームのマネジメント** チームづくりに関するノウハウを講義を中心に解説する。	スポーツマネジメントについて、講義内容をもとに復習すること。	4時間
第6回	**スポーツリーグのマネジメント** リーグのガバナンスについて、SWOT分析をもとに解説する。	SWOT分析ならびにガバナンスに関する復習をすること。	4時間
第7回	**トップスポーツ選手のマネジメント** エージェントや代理人制度の観点からディスカッションを行う。	ディスカッションをもとに考えたことについてレポートとしてまとめること。	4時間
第8回	**スポーツ組織のマネジメント** スポーツ団体の在り方や組織形態について、解説を行う。	スポーツ団体が抱えている問題点とその解決策について検討すること。	4時間
第9回	**スポーツクラブのマネジメント** クラブチームの損益に関する留意点について解説する。	クラブチームの経営状況とその問題点について、レポートすること。	4時間
第10回	**スポーツ行政のマネジメント** クラブチームと行政のつながりについて、資料を基にディスカッションを行う。	行政の役割とクラブチームとの関わり方について、自身の考えをまとめること。	4時間
第11回	**スポーツビジネスにおける法と契約** 実際の契約書を用いて、各項目に関する解説を行う。	解説した内容について、配布資料を参考に復習すること。	4時間
第12回	**スポーツツーリズム** 観光型スポーツビジネスについて、DVDを見ながら、ディスカッションを行う。	スポーツツーリズムの現状とその問題点について復習すること。	4時間
第13回	**スポーツと地域イノベーション** スポーツによって、地域に変革をもたらす形成過程について、ディスカッションを行う。	ディスカッション内容をまとめ、自身の見解を明らかにすること。	4時間
第14回	**社会調査・データ分析について** 社会調査の基礎について学習し、調査をもとにしたデータ分析について理解する。	社会調査の基礎について、復習すること。	4時間
第15回	**研究課題の選択：発表と議論（スポーツマネジメント）** 各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。	他のプレゼンテーションを参考に、自身の研究テーマに深みを持たせられるように検討すること。	4時間
第16回	**研究課題の選択：発表と議論（スポーツマーケティング）** 各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。	幅広い知識の習得に向けた参考文献リストを作成すること。	4時間
第17回	**研究課題の選択：発表と議論（スポーツスポンサーシップ）** 各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。	他のプレゼンテーションに対するコメントについて検討すること。	4時間
第18回	**研究課題の選択：発表と議論（スポーツ施設マネジメント）** 各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。	自身のプレゼンテーションに関する改善点について再検討する。	4時間
第19回	**研究課題の選択：発表と議論（スポーツイベントマネジメント）** 各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。	自身の研究テーマについて、今後必要とするタスクについてリストアップをおこなう。	4時間
第20回	**文献研究：発表と議論（卒業研究要旨集）** 各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。	文献のリストアップならびに入手方法について確認すること。	4時間
第21回	**文献研究：発表と議論（学術論文雑誌）** 各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。	発表をもとに、再検索が必要とされる文献について検討すること。	4時間
第22回	**文献研究：発表と議論（各種官公庁資料）** 各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。	文献内において理解できなかった用語に対する再復習をおこなう。	4時間
第23回	**文献研究：発表と議論（スポーツ組織関連資料）** 各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。	他の発表をもとに、その改善点についてレポートすること。	4時間
第24回	**文献研究：発表と議論（新聞記事）** 各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。	自身の研究テーマにおけるキーワードについて、その理解と定義付けの検討をおこなう。	4時間

第25回	**研究方法の検討：発表と議論（定量的研究）** 各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。	適切な研究方法に関する復習をおこなうこと。	4時間
第26回	**研究方法の検討：発表と議論（定性的研究）** 各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。	各自の研究方法について、調査計画を立案すること。	4時間
第27回	**研究方法の検討：発表と議論（アンケート調査）** 各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。	発表を参考に、自身の調査計画について改善点を列挙すること。	4時間
第28回	**研究方法の検討：発表と議論（ヒアリング調査、フィールドワーク）** 各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。	最終的な調査計画を決定し、レポートとしてまとめること。	4時間